

江別市

ついでしかり

# 対雁2遺跡(4)

—石狩川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成13・14年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



遺跡遠景（新石狩大橋より） N→S



調査風景 S→N



地層断面・南北ライン (65-148-エ～68-148-エ) NE→SW



地層断面・東西ライン (67-144～67-145) NE→SW



石製品・土製品



クマと見られる土製品



クマと見られる土製品

## 例 言

- 1 本書は、石狩川改修工事に伴い財団法人北海道埋蔵文化財センターが江別市対雁2遺跡で実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。対雁2遺跡の調査報告書として4冊目となる。
- 2 本書は平成13・14年度の調査成果を収録し、発掘範囲の重複する平成11年度調査成果の一部も改めて検討の上再録している。11・13年度成果の一部は既刊の報告書に発表した。本書の内容を正式の報告とする。
- 3 調査は当財団第2調査部第5調査課(13年度、課長三浦正人)・同第4調査課(14年度、課長同)が担当した。同課の調査員三浦・鈴木 信・西脇対名夫・吉田裕吏洋・酒井秀治が調査業務を分担し、その指示のもと財団臨時職員が作業にあたった。
- 4 当財団が酪農学園大学環境システム学部の「地域実習」を受け入れたことに伴い平成13・14年9月に延べ10名の同学部生が、また平成14年7月に北海学園大学人文学部生1名が同学部の「ボランティア活動論」授業の実習として、それぞれ無償で発掘作業を補助した。
- 5 平成13・14年度の<sup>14</sup>C年代測定は株式会社地球科学研究所、古環境調査はパリノ・サーヴェイ株式会社に、また14年度測量業務の一部は株式会社シン技術コンサル、遺物実測図作成業務の一部は株式会社日立エンジニアリングに委託しておこなった。
- 6 本書の執筆及び図表・写真の構成は目次に示した分担で調査員がおこない、同一項目の執筆者が複数の場合は本文中に括弧で文責を示した。編集は西脇が担当した。
- 7 本文中では主に文献の編者を表記する際に以下のような省略形を用いた。

石建：北海道開発局石狩川開発建設部、財団道埋文：財団法人北海道埋蔵文化財センター、  
教委：教育委員会、埋文：埋蔵文化財センターまたは埋蔵文化財調査センター

- 8 調査の実施にあたり下記の諸機関・諸氏の御教示・御協力を頂いたことを記して感謝する。

石狩川開発建設部江別河川事務所、江別市建設部土木事務所、江別市教育委員会、  
独立行政法人北海道開発土木研究所、北海学園大学人文学部、北海道大学埋蔵文化財調査室、  
酪農学園大学環境システム学部

青木 誠、青野友哉、赤石慎三、秋山洋二、天野哲也、飯田 基、石井 淳、石川 朗、  
石川直章、石橋孝夫、石本省三、出穂雅実、伊藤兼平、稲垣和幸、乾 哲也、乾 芳宏、  
上野秀一、右代啓視、白杵 勲、卜部信臣、上屋真一、遠藤龍畝、大島直行、大谷敏三、  
大津 直、大沼忠春、大林千春、大矢義明、葛西智義、柏木大延、加藤邦雄、加藤博文、  
金盛典夫、兼平一志、川内谷 修、北澤 実、君 尹彦、木村英明、工藤研治、工藤 肇、  
工藤義衛、工藤雅樹、熊木哲朗、小林幸雄、小杉 康、今野公顕、斎野裕彦、榊原正文、  
坂本真弓、佐藤一志、佐藤和利、佐藤智雄、佐藤由紀男、佐藤嘉広、澤田 健、設楽博巳、  
柴田信一、島原弘征、鈴木琢也、杉浦重信、瀬川拓郎、関 信行、関 秀志、関矢新一郎、  
仙庭伸久、園部真幸、高倉 純、高瀬克範、高橋 理、高橋和樹、高橋信一、高橋正勝、  
高橋 護、高間和儀、武田 修、田才雅彦、田中和夫、田中哲郎、田中利一、田中 實、  
田村公一、田村俊之、丹治篤嘉、千葉英一、角田隆志、椿坂恭代、鶴丸俊明、寺崎康史、

友田哲弘、豊田宏良、豊田賢大、直井孝一、長崎潤一、長町章弘、成田滋彦、西 幸隆、野中一宏、野村 崇、野村祐一、羽賀憲二、長谷山隆博、林 謙作、平川善祥、深澤芳樹、福田正宏、藤井誠二、松田 功、松田淳子、松田 猛、松谷純一、三浦孝一、三浦武司、宮 宏明、宗像公司、森 淳、森 秀之、森岡健治、森田知忠、守屋豊人、安井幸雄、藪中剛司、山田悟郎、山田昌久、山本 巖、横須賀倫達、吉田玄一、渡辺眞志、渡部 学

報告書抄録

ふりがな	えべつし ついしかりにいせきかっこし							
書名	江別市 対雁2遺跡 (4)							
副書名	石狩川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	なし							
シリーズ名	財団法人北海道埋蔵文化センター調査報告書							
シリーズ番号	第193集							
編著者名	三浦正人・鈴木 信・西脇対名夫・吉田裕吏洋・酒井秀治							
編集機関	財団法人北海道埋蔵文化センター							
所在地	〒069-0832 江別市西野幌 685-1 電話(011)386-3231 Eメール mail@domaibun.or.jp							
発行機関	財団法人北海道埋蔵文化センター							
発行年月日	平成15年(西暦2003)年3月28日							
ふりがな 収録遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ついでしかり 対雁2遺跡	えべつし こうえいちよう 江別市工業町 ぼんち 28番地	01217	A-02-110	43度 07分 45秒 前後	141度 31分 04秒 前後	19990601~ 19990930 20010508~ 20011031 20020507~ 20021031	3,450 ㎡	河川改修に伴う記録保存
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主な遺物	特 記 事 項		
対雁2遺跡	遺物包含地	縄文時代 晩期後葉、 統縄文時代 前葉	土坑 焼土	135 792	土器 石器 動物形土製品	古自然堤防中に形成された 生活面245単位にわたる多層遺跡		

遺跡番号は北海道埋蔵文化財包蔵地周知資料登載番号、経緯度は世界測地系による。

# 目次

口絵

例言

報告書抄録

目次

I	調査の経緯	(三浦)	1
II	調査の方法		
1	調査範囲	(酒井)	7
2	土工	(酒井)	9
3	測量と記録	(酒井・吉田・西脇)	11
4	資料整理	(酒井・吉田・西脇)	13
5	保管	(酒井)	16
III	遺跡の環境	(西脇)	17
IV	遺構		
1	記載の方法	(酒井・西脇)	55
2	土坑	(酒井・鈴木・西脇・吉田)	57
3	焼土	(酒井)	90
4	集石・剥片集中・細円礫集中	(酒井)	137
V	遺物		
1	土器	(西脇)	167
2	石器等・石製品・土製品	(酒井)	261
3	焼成粘土塊	(西脇)	272
VI	自然科学的分析		
1	年代測定結果	(株式会社地球科学研究所・酒井)	297
2	対雁2遺跡の自然科学的分析	(バリノ・サーヴェイ株式会社・西脇)	300
	引用文献		313
	写真図版	(吉田)	図版 II-1~V-22

## 挿図目次

### I 調査の経緯

図 I-1 各年度の発掘範囲	4
----------------	---

### II 調査の方法

図 II-1 発掘区の設定 (1)	6
図 II-2 発掘区の設定 (2)	7
図 II-3 掘削範囲	10

### III 遺跡の環境

図 III-1 遺跡の位置	17
図 III-2 遺跡付近の地形	18
図 III-3 治水地形分類と遺跡の位置	20
図 III-4 地層断面図の変化	25
図 III-5 67 線 上地層断面	27・29
図 III-6 67・69 線 上地層断面	31・33・35・37
図 III-7 153 線 半上地層断面	39
図 III-8 156 線 半上地層断面	41
図 III-9 141 線・148 線 半上地層断面	43
図 III-10 重機坪掘坑地層断面	51

### IV 遺構

図 IV-1 土坑の位置	57
図 IV-2 土坑 (1)	59
図 IV-3 土坑 (2)	60
図 IV-4 土坑 (3)	63
図 IV-5 土坑 (4)	64
図 IV-6 土坑 (5)	67
図 IV-7 土坑 (6)	68
図 IV-8 土坑 (7)	71
図 IV-9 土坑 (8)	72
図 IV-10 土坑 (9)	75
図 IV-11 土坑 (10)	76
図 IV-12 土坑 (11)	79
図 IV-13 土坑 (12)	80
図 IV-14 土坑 (13)	83
図 IV-15 土坑 (14)	84
図 IV-16 土坑 (15)	87
図 IV-17 土坑 (16)	88
図 IV-18 焼土の分布	91
図 IV-19 焼土 (1)	92
図 IV-20 焼土 (2)	93
図 IV-21 焼土 (3)	94

図 IV-22 焼土 (4)	95
図 IV-23 焼土 (5)	96
図 IV-24 焼土 (6)	97
図 IV-25 焼土 (7)	98
図 IV-26 焼土 (8)	99
図 IV-27 焼土 (9)	100
図 IV-28 焼土 (10)	101
図 IV-29 焼土 (11)	102
図 IV-30 焼土 (12)	103
図 IV-31 焼土 (13)	104
図 IV-32 焼土 (14)	105
図 IV-33 焼土 (15)	106
図 IV-34 焼土 (16)	107
図 IV-35 焼土 (17)	108
図 IV-36 焼土 (18)	109
図 IV-37 焼土 (19)	110
図 IV-38 焼土 (20)	111
図 IV-39 焼土 (21)	112
図 IV-40 焼土 (22)	113
図 IV-41 焼土 (23)	114
図 IV-42 焼土 (24)	115
図 IV-43 焼土 (25)	116
図 IV-44 焼土 (26)	117
図 IV-45 焼土 (27)	118
図 IV-46 焼土 (28)	119
図 IV-47 焼土 (29)	120
図 IV-48 焼土 (30)	121
図 IV-49 焼土 (31)	122
図 IV-50 焼土 (32)	123
図 IV-51 焼土 (33)	124
図 IV-52 焼土 (34)	125
図 IV-53 焼土 (35)	126
図 IV-54 焼土 (36)	127
図 IV-55 焼土 (37)	128
図 IV-56 焼土 (38)	129
図 IV-57 焼土 (39)	130
図 IV-58 焼土 (40)	131
図 IV-59 焼土 (41)	132
図 IV-60 焼土 (42)	133
図 IV-61 焼土 (43)	134
図 IV-62 焼土 (44)	135
図 IV-63 焼土断面・集石	136

### V 遺物

図 V-1 縄文土器 (1)	169
図 V-2 縄文土器 (2)	170
図 V-3 縄文土器 (3)	171
図 V-4 縄文土器 (4)	172

図 V-5	縄文土器 (5)	173
図 V-6	縄文土器 (6)	174
図 V-7	縄文土器 (7)	175
図 V-8	縄文土器 (8)	176
図 V-9	縄文土器 (9)	177
図 V-10	縄文土器 (10)	178
図 V-11	縄文土器 (11)	179
図 V-12	縄文土器 (12)	180
図 V-13	縄文土器 (13)	181
図 V-14	縄文土器 (14)	182
図 V-15	縄文土器 (15)	183
図 V-16	縄文土器 (16)	184
図 V-17	縄文土器 (17)	185
図 V-18	縄文土器 (18)	186
図 V-19	縄文土器 (19)	187
図 V-20	縄文土器 (20)	188
図 V-21	縄文土器 (21)	189
図 V-22	縄文土器 (22)	190
図 V-23	縄文土器 (23)	191
図 V-24	縄文土器 (24)	192
図 V-25	縄文土器 (25)	193
図 V-26	縄文土器 (26)	194
図 V-27	縄文土器 (27)	195
図 V-28	縄文土器 (28)	196
図 V-29	縄文土器 (29)	197
図 V-30	縄文土器 (30)	198
図 V-31	縄文土器 (31)	199
図 V-32	縄文土器 (32)	200
図 V-33	縄文土器 (33)	201
図 V-34	縄文土器 (34)	202
図 V-35	縄文土器 (35)	203
図 V-36	縄文土器 (36)	204
図 V-37	縄文土器 (37)	205
図 V-38	縄文土器 (38)	206
図 V-39	縄文土器 (39)	207
図 V-40	縄文土器 (40)	208
図 V-41	縄文土器 (41)	209
図 V-42	縄文土器 (42)	210
図 V-43	縄文土器 (43)	211
図 V-44	縄文土器 (44)	212
図 V-45	縄文土器 (45)	213
図 V-46	縄文土器 (46)	214
図 V-47	縄文土器 (47)	215
図 V-48	縄文土器 (48)	216
図 V-49	縄文土器 (49)	217
図 V-50	縄文土器 (50)	218
図 V-51	縄文土器 (51)	219
図 V-52	縄文土器 (52)	220

図 V-53	縄文土器 (53)	221
図 V-54	縄文土器 (54)	222
図 V-55	縄文土器 (55)	223
図 V-56	縄文土器 (56)	224
図 V-57	縄文土器 (57)	225
図 V-58	縄文土器 (58)	226
図 V-59	縄文土器 (59)	227
図 V-60	縄文土器 (60)	228
図 V-61	縄文土器 (61)	229
図 V-62	縄文土器 (62)	230
図 V-63	縄文土器 (63)	231
図 V-64	縄文土器 (64)	232
図 V-65	縄文土器 (65)	233
図 V-66	縄文土器 (66)	234
図 V-67	縄文土器 (67)	235
図 V-68	縄文土器 (68)	236
図 V-69	縄文土器 (69)	237
図 V-70	縄文土器 (70)	238
図 V-71	縄文土器 (71)	239
図 V-72	縄文土器 (72)	240
図 V-73	縄文土器 (73)	241
図 V-74	縄文土器 (74)	242
図 V-75	縄文土器 (75)	243
図 V-76	縄文土器 (76)	244
図 V-77	縄文土器 (77)	245
図 V-78	縄文土器 (78)	246
図 V-79	縄文土器 (79)・続縄文土器 (1)	247
図 V-80	続縄文土器 (2)	248
図 V-81	土坑の石器等 (1)	262
図 V-82	土坑の石器等 (2)・集石の石器等 (1)	263
図 V-83	集石の石器等 (2)	264
図 V-84	焼土・包含層の石器等 (1)	265
図 V-85	焼土・包含層の石器等 (2)	267
図 V-86	焼土・包含層の石器等 (3)	268
図 V-87	焼土・包含層の石器等 (4)	270
図 V-88	焼土・包含層の石器等 (5)	271

## 表目次

### III 遺跡の環境

表 III-1	層面一覧 (67 線上)	44-47
表 III-2	層面一覧 (69 線上)	48・49
表 III-3	13・14 年度層面と 11・12 年度層名の対比	53



#### IV 遺構

表 IV-1 生活面一覧	138~142
表 IV-2 遺構一覧	143~155
表 IV-3 遺構土壌フローテーション成果一覧	156~165

#### V 遺物

表 V-1 遺物集計	273~278
表 V-2 掲載土器一覧	279~293
表 V-3 各類型土器の出土層位	294
表 V-4 掲載石器等一覧	295・296

#### VI 自然科学的分析

表 VI-1 年代測定試料一覧（地球科学研究所実施分）	297
表 VI-2 年代測定試料一覧（パリノ・サーヴェイ実施分）	300

### 写真図版目次

#### II 調査の方法

図版 II-1 遺跡遠景
図版 II-2 平成 11 年度の発掘
図版 II-3 平成 13 年度の発掘 (1)
図版 II-4 平成 13 年度の発掘 (2)
図版 II-5 平成 14 年度の発掘 (1)
図版 II-6 平成 14 年度の発掘 (2)

#### III 遺跡の環境

図版 III-1 地層断面 (1)
図版 III-2 地層断面 (2)

#### IV 遺構

図版 IV-1 土坑 (1)
図版 IV-2 土坑 (2)
図版 IV-3 土坑 (3)
図版 IV-4 土坑 (4)
図版 IV-5 土坑の遺物 (1)
図版 IV-6 土坑の遺物 (1)
図版 IV-7 土坑の遺物 (3)
図版 IV-8 土坑の遺物 (4)
図版 IV-9 焼土 (1)
図版 IV-10 焼土 (2)
図版 IV-11 焼土 (3)

図版 IV-12 焼土 (4)
図版 IV-13 焼土 (5)
図版 IV-14 焼土 (6)
図版 IV-15 焼土 (7)
図版 IV-16 集石
図版 IV-17 集石の遺物 (1)
図版 IV-18 集石の遺物 (2)

#### V 遺物

図版 V-1 遺物出土状況・平成 11 年度の発掘
図版 V-2 遺物出土状況・平成 13 年度の発掘 (1)
図版 V-3 遺物出土状況・平成 13 年度の発掘 (2)
図版 V-4 遺物出土状況・平成 14 年度の発掘
図版 V-5 縄文土器の個体 (1)
図版 V-6 縄文土器の個体 (2)
図版 V-7 縄文土器の個体 (3)
図版 V-8 縄文土器の個体 (4)
図版 V-9 縄文土器の個体 (5)
図版 V-10 縄文土器の個体 (6)
図版 V-11 縄文土器の個体 (7)
図版 V-12 縄文土器の個体 (8)
図版 V-13 縄文土器の個体 (9)
図版 V-14 縄文土器の個体 (10) ・続縄文土器
図版 V-15 土器の製作技術 (1)
図版 V-16 土器の製作技術 (2)
図版 V-17 土器の製作技術 (3)
図版 V-18 土器の製作技術 (4)
図版 V-19 焼土・包含層の石器 (1)
図版 V-20 焼土・包含層の石器 (2)
図版 V-21 包含層の石製品・土製品
図版 V-22 焼成粘土塊

## I 調査の経緯

### 1 調査要項

事業名	石狩川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査		
事業委託者	北海道開発局石狩川開発建設部		
事業受託者	財団法人北海道埋蔵文化財センター		
遺跡名	対雁2遺跡（北海道教育委員会登録番号：A-02-110）		
所在地	江別市工栄町28番地（石狩川河川敷緑地）		
調査期間	平成11年5月17日～平成12年3月24日（発掘6月1日～9月30日） 平成12年4月3日～平成13年3月30日（発掘5月8日～10月31日） 平成13年4月2日～平成14年3月29日（発掘5月7日～10月31日） 平成14年4月1日～平成15年3月31日（発掘5月7日～10月31日）		
調査面積	平成11年度 2,000m <sup>2</sup> （上層部およびトレンチ調査） 平成12年度 2,400m <sup>2</sup> 平成13年度 1,500m <sup>2</sup> （下層部未了） 平成14年度 3,450m <sup>2</sup> （平成13年度着手1,500m <sup>2</sup> の下層部を含む）		
調査体制	平成11年度		
	第2調査部長		鬼柳 彰
	同	第3調査課長	西田 茂（発掘担当者）
	同	同 主査	三浦 正人（発掘担当者）
	同	同 主任	鈴木 信（発掘担当者）
	同	同 文化財保護主事	吉田裕吏洋
	同	同 文化財保護主事	酒井 秀治
	平成12年度		
	第2調査部長		鬼柳 彰
	同	第3調査課長	西田 茂（発掘担当者）
	同	同 主査	三浦 正人
	同	同 主任	鈴木 信
	同	同 文化財保護主事	吉田裕吏洋（発掘担当者）
	同	同 文化財保護主事	酒井 秀治（発掘担当者）
	平成13年度		
	第2調査部長		大沼 忠春
	同	第5調査課長	三浦 正人

## 1 調査の経緯

第2調査部	第5調査課	主査	鈴木 信
同	同	主任	西脇対名夫（発掘担当者）
同	同	文化財保護主事	吉田裕吏洋（発掘担当者）
同	同	文化財保護主事	酒井 秀治（発掘担当者）
平成14年度			
第2調査部長			西田 茂
同	第4調査課長		三浦 正人
同	同	主査	鈴木 信
同	同	主任	西脇対名夫（発掘担当者）
同	同	文化財保護主事	吉田裕吏洋（発掘担当者）
同	同	文化財保護主事	酒井 秀治（発掘担当者）

## 2 調査に至る経緯

石狩川の治水事業は、明治時代における北海道への政策的移住民の生活が、雪解け水や大雨後の洪水によって壊滅的打撃を受けたことに端を発している。治水事業への早急な動きを決定付けたのは、移住民の増加が著しくなっていた1989（明治31）年9月の大洪水である。石狩川中下流域は空前の大出水に襲われ、石狩低地は海のようになったと云われている。同年、北海道庁に「北海道治水調査会」が設置され、その調査事業を引き継いだ技師岡崎文吉は、1909（明治42）年「石狩川治水計画調査報文」を北海道庁長官に提出。翌1910（明治43）年からの第一期拓殖計画の根幹事業として、石狩川治水事業が本格的に実施される運びとなった。

岡崎は石狩川下流域の洪水量を「対雁水測所」（現在の江別市石狩大橋地点）で測定したが、その江別市域においても築堤・護岸・掘削・浚渫などの改修工事が、長期的観点に沿って幾度かの計画改定を経ながら実施されてきた。1917（大正6）年策定の計画では、対雁と篠津の大曲流部が直線化されることとなり、篠津地区においては1923（大正12）年着工で1933（昭和8）年には通水に至った。だが残された対雁地区の直線化計画は、その後しばらく実現を見なかった。

対雁地区においてこの直線化工事が具体化したのは、1970（昭和45）年からで、市の工業団地造成とも関連している。住民の住居移転が始まり、開校90周年を経ていた対雁小学校が移転したのは1972年9月のことであった。さらに石狩川の堤防と道道石狩沼田線（現在の国道337号）が切り替わり、当初からの計画であった堤防予定地に土が盛られ「対雁築堤」が造設されていく。広くとられた河川敷の一部では1975年から河川環境整備事業の一環として「高水敷整備」工事が着工された。石狩川河川敷緑地の整備が行われ、1981年に野球場・サッカー場・自由広場等が完成した。

このような治水事業の進行するなか、1981（昭和56）年8月上旬、台風12・15号による二度の大雨で、石狩川の中下流域において大洪水が発生した。この洪水は「五六水害」と通称され、石狩川水系に流入した総雨量は約40億トンとされている。この水害によって石狩川本流の整備計画は改定され、+2.00mの堤防嵩上げが実施されることになった。この嵩上げは軟弱地盤における堤防の安全度を高めるために「丘陵堤」として施工された。普通より傾斜の緩やかな「丘陵堤」の構築には多量の良質な土砂を必要とするため、対雁地区の高水敷部分の土砂を築堤盛土材として採取し「中水敷」の運動公園として再整備することとなり、工事は1987年から89・90年と順次進行した。

1991（平成3）年12月、築堤盛土材の採取にあたって、工事施工の立場にあった石狩川開発建設

部江別河川事業所から北海道教育委員会に対し、江別市教育委員会を經由して埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。協議の範囲は旧豊平川よりも上流側左岸の14万 $\text{m}^2$ である。協議を受領した江別市教委は、協議範囲が18世紀以降の江別発祥の地としての対雁（津石狩）番屋跡や対雁駅跡に近く、さらに1876（明治9）年の樺太アイヌ強制移住地にも近接しており、江別の歴史にとって重要な地点であることを念頭に、1992（平成4）年4月から北海道教育委員会の依頼に基づく埋蔵文化財所在確認調査を実施した。

所在確認調査は3回にわけて行われ、重機を使用して80~40~20m方格での試掘穴掘削を進めた。3回目の1992年10月21日から10月31日までの試掘調査は河川敷3.7万 $\text{m}^2$ を対象とするもので、当初は20m方格の重機調査を行ったが、終盤に縄文土器片を発見、急遽調査を範囲確認調査に改め、10m方格での包蔵地確認を行った。その結果、土器232点・石器等63点や焼土が検出され遺跡の所在が明確になった。念頭にあった江戸・明治期の関係は既に石狩川改修工事や「高水敷」整備で失われていたものの縄文時代の包蔵地約2万 $\text{m}^2$ を確認し、対雁2遺跡として周知された。

道教委は同年12月、この包蔵地については現状保存が望ましいがやむをえない場合は記録保存を目的とした発掘調査が必要である旨、石狩川開発建設部に回答し、同建設部は石狩川治水の進展上工事計画の変更は不可能と判断、この対雁2遺跡の発掘調査を1999（平成11）年度、財団法人北海道埋蔵文化財センターに委託した。当財団はこの事業を受託し、調査面積2万 $\text{m}^2$ に対しての当該年度の調査計画を立案し、6月から9月までの調査に着手した。

### 3 調査の経過

#### (1) 平成11年度（図版II-2）

調査計画の立案にあたっては江別市教育委員会が実施した範囲確認調査の成果をもとに検討し、2万 $\text{m}^2$ 以上に及ぶこの遺跡をいかなる方法と工程で調査進行するのかを話し合った。試掘穴の柱状図や写真によると黒色土が見られない粘土と砂質土の堆積であり、平成11年度は6月から4ヶ月の調査期間で調査面積2,000 $\text{m}^2$ という条件であった。そのため当該年度は遺跡の範囲と遺物包含状態のより詳細な情報と土層の状況を把握することを目的とした試掘的な発掘をすることが、今後の見通しを立てることに益するとの判断を下した。

このような計画から調査は2.5m $\times$ 5mのトレンチの継続で進行し、東西方向の71・81線はほぼ連続、南北方向の142・150・158・166線は北から目的の地点まで延ばした（図I-1）。基本的には人力での掘削だが、20mごとに重機を併用した部分もある。遺構・遺物の検出層は粘土・シルト質土のために堅固で崩落しやすく、確認・検出作業は困難を極めた。トレンチ各所には噴砂もみられ極小規模の断層を形成し、焼土や土器の広がりや横断していることもある。各所に土坑や焼土の重複がみられ、最も多い個所では11枚の焼土の重複を確認した。また調査区南辺中央部では、公園造成時の客土を除去した段階で遺物が目立ち始めた部分を遺物の広がりやに注意して精査し、土器集中1~3を確認した。

出土土器の多くは縄文時代晩期後葉に属するもので、最上層部から出土する一部や西辺に続縄文時代初頭のものがみられた。また、琥珀・石炭円礫やクマとみられる土製品なども出土している。

調査結果からは、調査着手以前に想定していた内容よりも相当密度が濃く、西側に広がる様相も呈し規模の大きい遺跡であることが判明した。遺構・遺物の密集・散在の分布状況はある程度明らかになってきたが、検出密度が高い面で調査を停止し埋め戻したトレンチもあり、遺構・遺物が検出される範囲は面的にも深度的にも未確定となった。土層としては、平坦ながらも少しずつ波打って西側（旧

## I 調査の経緯

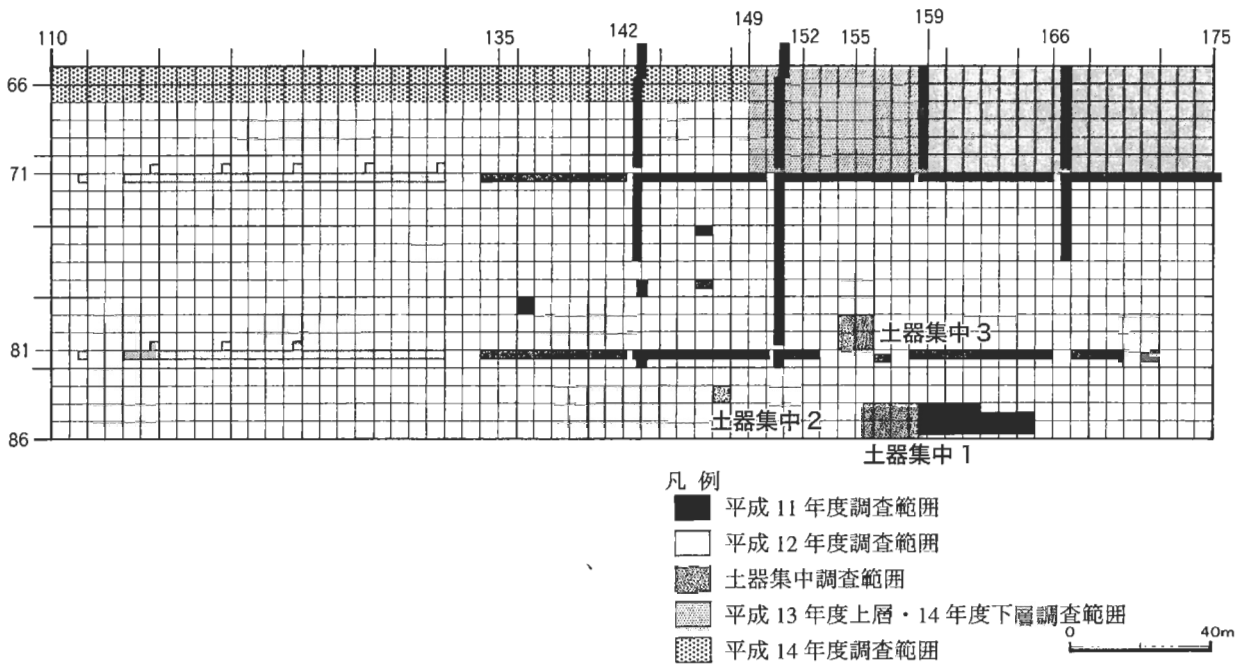


図 I-1 各年度の発掘範囲

豊平川方向)へ傾斜していくものと推察した。年度内に一旦記録類と出土遺物の整理を行い、平成12年3月に報告書として刊行した(財団道埋文編2000)。

報告書では、遺物包含層の深さが未確定であり、安全確保のため段階的な試掘が必要であること、包蔵地範囲も特に西側の限界について試掘を追加して再度判断する必要があること(同前書8頁)を指摘し、道教委文化課へも同内容の報告を提出した。

### (2) 平成12年度

前年の試掘的調査をもとにした遺跡の評価から、調査計画としては後年度の調査に継続すべく、深度的にも対応できるよう検討した。具体的には、比較的遺構・遺物の密度の薄い北東側から、南北30m(65~71線)、東西80m(159~175線)の昨年度トレンチに囲まれた2,400m<sup>2</sup>を対象とした(図I-1)。

調査は安全確保のため、人力作業部分では掘削壁の高さを1m以下に保ち進行した。166線より東側では予想通り遺構・遺物の密度が薄く、人力調査後に約1.5mずつ二段階に分けて重機掘削を行った。この段階ごとに人力で5x5mグリッドによる25%調査を行い、最深部では標高4m以下まで包蔵地の確認作業を続けた。西側では土坑・焼土・炭化物層・遺物の重複が顕著で、その相互の上下関係・同一面関係の把握と記録化、層序の認識に努め、遺物の包含をみなくなる標高7m以下まで作業した。出土遺物は縄文時代晩期中葉から後葉に属するものであった。また前年度の調査で確認し遺物点数の多さから作業を停止していた土器集中1と3の調査も併行し、この集中では前年度と合わせて約7万点の遺物を取り上げた。引き続き当年度着手範囲の記録類・出土品を整理し、年度末に報告書を刊行した(財団道埋文編2001)。また土器集中3遺物の本格的整理に着手した。

深部調査では遺物を確認することはできなかったが、標高4mほどの位置で自然木・クルミ殻などの年代測定資料を得た。AMS法による<sup>14</sup>C年代測定では、標高7m以上の縄文時代晩期の遺構・遺物層で2500年前、低位の自然遺物で2900年前と報告された(同前書VII章)。また、周辺部の探索で現石狩川の汀線付近から縄文時代中期~晩期・続縄文・擦文土器を採集した。石狩川改修で既に掘削した部分や周辺に、当該期の遺跡が存在していたことを示すものであろう。

なお、包蔵地の西側への広がりを確認するため、新たな試掘調査を求めていた件については、北海道教育委員会と協議し、調査予算内で重機によるトレンチと人力での掘削土精査を行うこととなった。10月に実施した試掘の結果、従来の発掘必要範囲西端から旧豊平川までの間のほぼ全域に土器・石器等・炭化物や焼土が分布することが判明した。この結果に基づき道教委は翌年1月、石狩川開発建設部に対して、西側110線までの概算12,500m<sup>2</sup>を要発掘範囲に取り込む旨を文書で通知した。同建設部からはこの部分についても現状保存困難であることが道教委に伝えられたと聞いている。したがって調査面積の全体は、当初の2万m<sup>2</sup>と合わせ約32,500m<sup>2</sup>となった（財団道埋文編2001の7頁）。

### (3) 平成13年度（図版II-3・4）

2ヶ年の調査から、今年度は昨年度に続き南北30m幅で71線以北を西側に掘り進めることを計画した。ただ遺構・遺物の密集部からの継続調査となり、やや深くに包含層が傾斜していく様相も予測されること、作業人工の一部を採取したままになっていた焼土等の土壌の一次整理に充てること等を考慮して東西を149線までの50m延長に限り、調査面積を1,500m<sup>2</sup>とした（図I-1）。

調査が進むにつれ遺構・遺物の密集部は、予想を越えて152線の東側付近まで徐々に密度を落としながら続く様相を呈してきた。土坑94基・焼土ほか約470ヶ所など多数の遺構が重層的に検出され、これに伴う縄文晩期後葉の遺物も層位に応じて細かい変遷を示すことが次第に明らかになった。遺物の取上げ回数=とらえられた生活面は2.5×2.5mの小グリッドごとの最多で14面を数え、155線以東の密集部での平均でも8.5面に達した。また包含層の下限も予想外に深く、当初積算の1.5倍を超える土量を出さなければ当年度分の調査は終了しない状況が見えてきた。そこで、次年度に向けた残存部の状況把握のため深掘りトレンチを掘削し、繰越し作業量を推算して10月初頭に道教委文化課に資料送付した。10月中旬には石狩川開発建設部江別河川事務所に説明報告し、一定の理解を得た。

12月、石狩川開発建設部用地課への実績報告を兼ねた打ち合わせでは、この遺跡は作業安全上からも上下二段階での調査が望ましい旨報告し、今年度分は1,500m<sup>2</sup>の上層部調査との認識を示した。同建設部側もこれを了解し、上層終了・下層については来年度の調査ということで一致した。また来年度については、遺跡全体の地層掌握を目的として、67線以北の要発掘範囲西端までを対象とした調査を実施したいとの要望を伝え、概ね了承を得た。

なお13年度は発掘が未完の状態となったので、可能な範囲の整理を進める一方で11~12年度に整理を行った「土器集中3」の報告を中心とする報告書を刊行した（財団道埋文編2002）。

### (4) 平成14年度（図版II-5・6）

前述した打ち合わせ等の経緯から、今年度の調査は、前年度下層部1,500m<sup>2</sup>と北側10m幅・西端まで195mの1,950m<sup>2</sup>、合計3,450m<sup>2</sup>を対象とした（図I-1）。東側の1,500m<sup>2</sup>は上層からの連続で何枚もの層がさらに西に傾斜していった。遺構・遺物も一部に集中を見せながら断続的に検出され、排土も約960m<sup>3</sup>にのぼった。手掘り調査の到達面は現地表から約1.5~2.5m深である。昨年度からの取上げ回数の通算は最大23面に達したが、遺物は縄文晩期後葉の範囲に収まるものであった。

新規着手の細長い西側部分ではまず25%調査を行ない遺構・遺物の濃淡を把握することとした。その結果をもとに、一定の土坑・焼土や遺物の検出があった148線付近や140~146線付近を中心に手掘り調査、遺構・遺物が希薄な部分は重機掘削を併用して調査した。現地表から約1.5m深を調査し、概ね140線以東で縄文時代前葉包含層が重層し、135線以西では同後葉の遺物が僅かに出土した。

さらに、手掘りで達した標高6.5~7mより深い下層部の遺物包含状況を探るために、今年度調査区

## I 調査の経緯

内に 20m おきに重機で 14 個の試掘穴をあけ（図 II-3）、掘り揚げ土を調査した結果、5ヶ所から遺物の出土をみた。出土層は遺物付着土等からみて標高 3~5m の層で、この包含層の存在を発見直後に道教委文化課に報告、現地での指導を仰いだところ、当面の調査には影響がないことから確認のみに留め、今後の工事計画の深度を見て取り扱いを決める旨の口頭での通知を得た。

整理作業では 13・14 年度調査の記録類・遺物の整理を実施したほか、11・12 年度に調査した「土器集中 1」の土器復元・実測を進めている。

## 4 本書の内容

前述のような状況から、本書では平成 13 年度と平成 14 年度調査の合計 3,450m<sup>2</sup> の範囲で検出した遺構と土器・石器等の遺物について報告する。

まず II 章で当遺跡の調査の工程を概説、調査方法と遺物や図面・写真などの記録類の取り扱いについて説明する。III 章では遺跡の位置・立地とその環境について触れる。IV 章が遺構の事実報告、V 章が遺物の報告である。VI 章では AMS 法による<sup>14</sup>C 年代測定と、土壌サンプルの分析による古環境復元についての結果を、分析者の原稿で報告する。

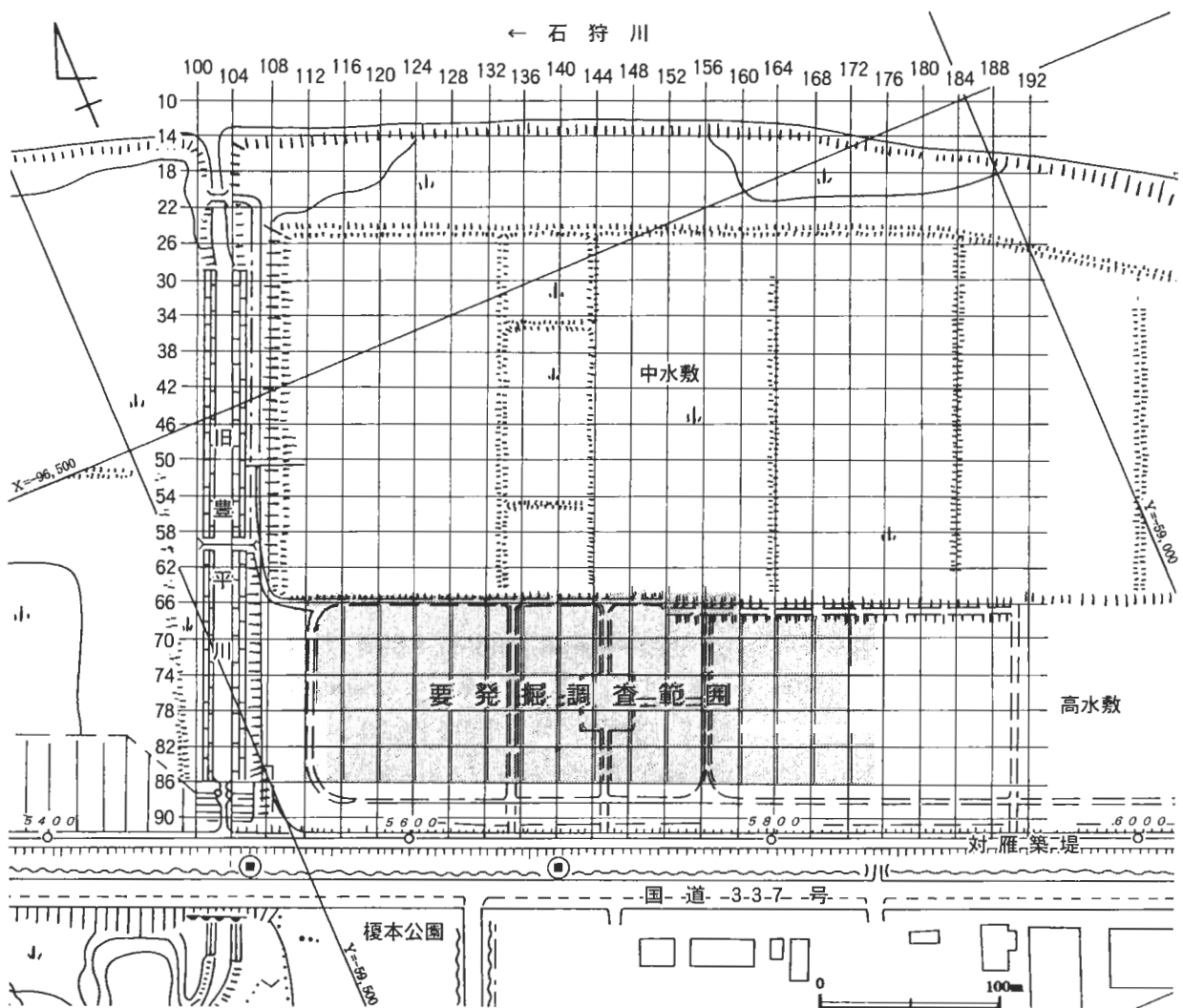


図 II-1 発掘区の設定 (1)

## II 調査の方法

### 1 調査範囲

#### (1) 発掘区の設定

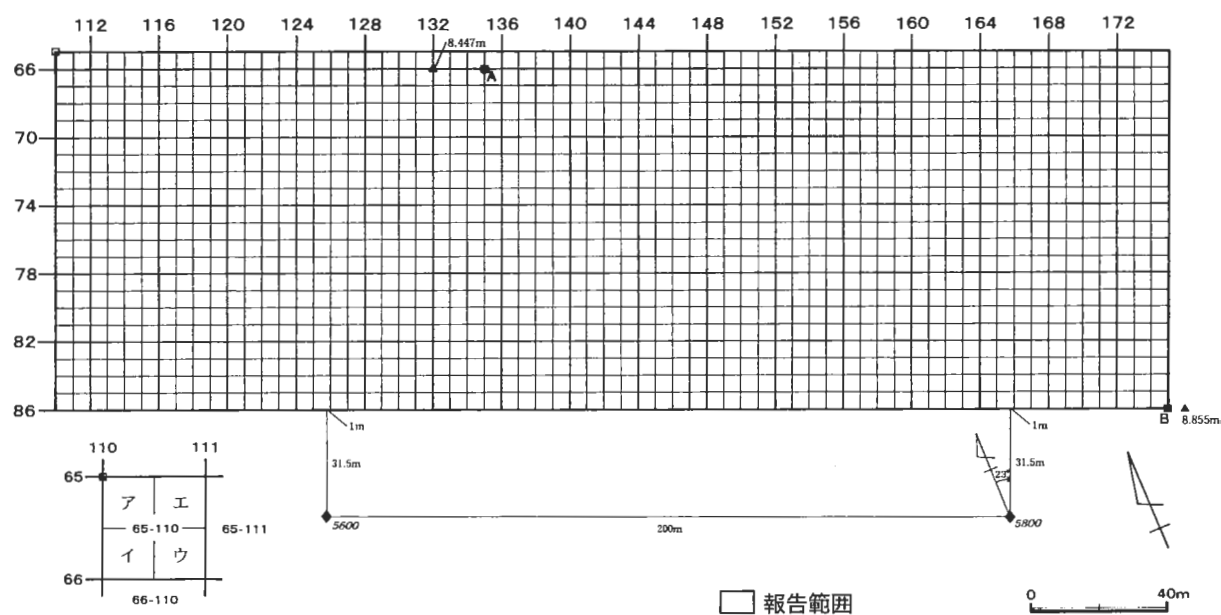
##### a 方格組みおよび経緯度と座標

発掘必要区域は人為的に整備された河川敷であり、石狩川築堤と平行に約100mの幅を有する高水敷に延長200mの範囲、約20,000m<sup>2</sup>とされていたので、発掘区の設定は以下に行った。

まず、この区域に築堤に平行・直交する5m間隔の方格を組み、それぞれの区画線に数字を与えた(図II-1)。将来的に全方向に調査範囲が拡大する可能性を考慮し、発掘必要区域の北辺を66線、南辺を86線、また西辺を135線、東辺を175線とした。なお、平成11・12年度の発掘調査および再試掘調査により要発掘調査範囲が北辺65線、南辺86線、西辺110線、東辺175線に拡大している(図II-2)。

5m発掘区(グリッド)の呼称は、方眼の北西角で交差する区画線を読む。発掘調査区域の北西角であれば65-110区となる。さらにこの5m方眼を2.5m四方に分割して、反時計回りに北西角からア・イ・ウ・エと呼ぶ小発掘区(小グリッド)を設置し、調査の便を図った(図II-2)。なお、平成13年度までは小グリッドをa・b・c・dとしていたが今年度より上記のように変更した。

平成11年度の調査着手に当たって、株式会社シン技術コンサルに委託して20m間隔の基準杭設置をおこなった。方眼設定の原点として石狩川左岸「対雁築堤」の基準線上のポイントを使用すること



図II-2 発掘区の設定(2)



## II 調査の方法

とし、点間 200m の SP5800・SP5600 を選定した。SP5800 から N23°E に 31.5m で調査範囲南辺、ここから南辺を 1m 東行した点を 86-166 の交点とした。同様に SP5600 から振り出した点を確認修正点（86-126 の交点）とした（図 II-2）。これを基本杭として 20m 方眼と範囲四隅に基準杭の打設を発注し、座標値と標高を得た。調査に必要な 5m 方格杭は、その都度自ら打設することとした。

上記方格の緯経度および平面直角座標（平面直角座標系第Ⅱ系）は、図 II-2 中の 2 点 A・B で

A 66-135：北緯 43 度 07 分 39.04498 秒、東経 141 度 31 分 14.22068 秒

X=-96,658.037m、Y=-59,338.484m

B 86-175：北緯 43 度 07 分 33.56540 秒、東経 141 度 31 分 20.69623 秒

X=-96,828.373m、Y=-59,193.614m

である。この緯度・経度、平面直角座標は「日本測地系」に基づいたものである（図 II-1・2）。

測量法とそれに伴う測量法施行令・平面直角座標系の改正が平成 14 年 4 月 1 日から施行され、従来の「日本測地系」に基づいた座標は「世界測地系」に基づいた「日本測地系 2000」の座標に変更された。これに伴い上記の 2 点は下記のとおりに変更となった。

A 66-135：北緯 43 度 07 分 47.83948 秒、東経 141 度 31 分 00.87826 秒

X=-96,394.6809m、Y=-59,644.8276m

B 86-175：北緯 43 度 07 分 42.36072 秒、東経 141 度 31 分 07.35343 秒

X=-96,565.0169m、Y=-59,499.9618m

### b 水準点

I 章で述べたとおり平成 12 年度の範囲確認調査の結果発掘必要範囲が西側へ拡大し、この範囲に発掘が及ぶこととなった 14 年度、新規範囲の基準杭打設が再びシン技術コンサルに委託されたのであるが、この際設置された基準杭の標高が 11 年設置杭から観測した結果よりほぼ 10cm 高くなるのが発掘開始後間もなく問題となった。これは言うまでもなく「2000 年度平均成果」による平成 14 年度の水準成果改訂を考慮した上での不一致である。11 年設置杭間の比高にほとんど変化がないことから凍上等の影響はほぼ無視できる模様であった。14 年度発掘の水準測量は、改訂以前（11 年当時）の公共水準成果を 14 年度の観測結果に代入したものをを用いてとりあえず実施した。

発掘終了後にまとまったシン技術コンサルによる再調査報告では、両年度の水準与点とした一等水準点 No.8551 と基準杭 86-176（距離約 4km）の比高は 2 次の測量の間に 0.098m 減少しており、水準点自体がこの間に下降したものの、詳しくは 11 年当時水準点の真の標高は公共水準成果より 0.035m 高く、14 年観測時のそれは 0.063m 低いものと結論された。この結論自体なお議論の余地があると思われるが、両年次の測量結果が整合しない以上、14 年度の観測値に 11 年当時の成果を代入した標高による現場での記録に意味がないことはほぼ明らかである。そのため、本書では 11 年度設置の

基準杭 86-176 の標高 8.855m

が真であり、なおかつ経年変化がないと仮定して、14 年度現地で記録した標高から 0.098m を減じた数値を報告している。この方法で実際上問題がない程度には 11 年度の記録と整合する模様である。

なお、上記の検証の過程で、平成 13 年度発掘のベンチマークとした 72-155 杭の標高が誤っていたことも判明した。13 年度に使用した同杭の標高 8.626m は、11 年度設置の基準杭 78-152 に 13 年 5 月当時記入されていた標高「8.651m」に由来するものであるが、78-152 杭の標高は 8.624m が正しい。そのため、本書では 13 年度に記録した標高から 0.027m を減じて平成 11 年の記録に整合させたが、昨年度の報告に掲載した地層断面図の標高（財団道埋文編 2002 の図 III-4~6）は誤ったままである。

78-152 杭への誤標高の記入は当財団職員の手で 11 または 12 年度に行われたと考えられ、この 2 年次にわたり同杭付近で調査された土器集中 3 の報告（同前書 III・IV 章）にも誤りが波及している可能性があるが、今のところ検証の手立てがない。

## (2) 今年度報告の調査範囲

平成 13 年度に上層部分、14 年度に下層部分の調査を行った北辺 65 線・南辺 71 線・東辺 159 線・西辺 149 線の 1,500m<sup>2</sup> と、北辺 65 線・南辺 67 線・東辺 149 線・西辺 110 線の 1,950m<sup>2</sup>、を合わせた 3,450m<sup>2</sup> が調査範囲である（図 II-2）。この範囲には平成 11 年度に行った 143・150・158 線半トレンチ調査部分を含み、トレンチ内遺構のすべて、および遺物の一部について報告済みであるが（財団道埋文編 2000）、本書で改めて他の遺構との層位的な関係等を記載し、遺物全体の報告をおこなう。

## 2 土工

### (1) 掘削

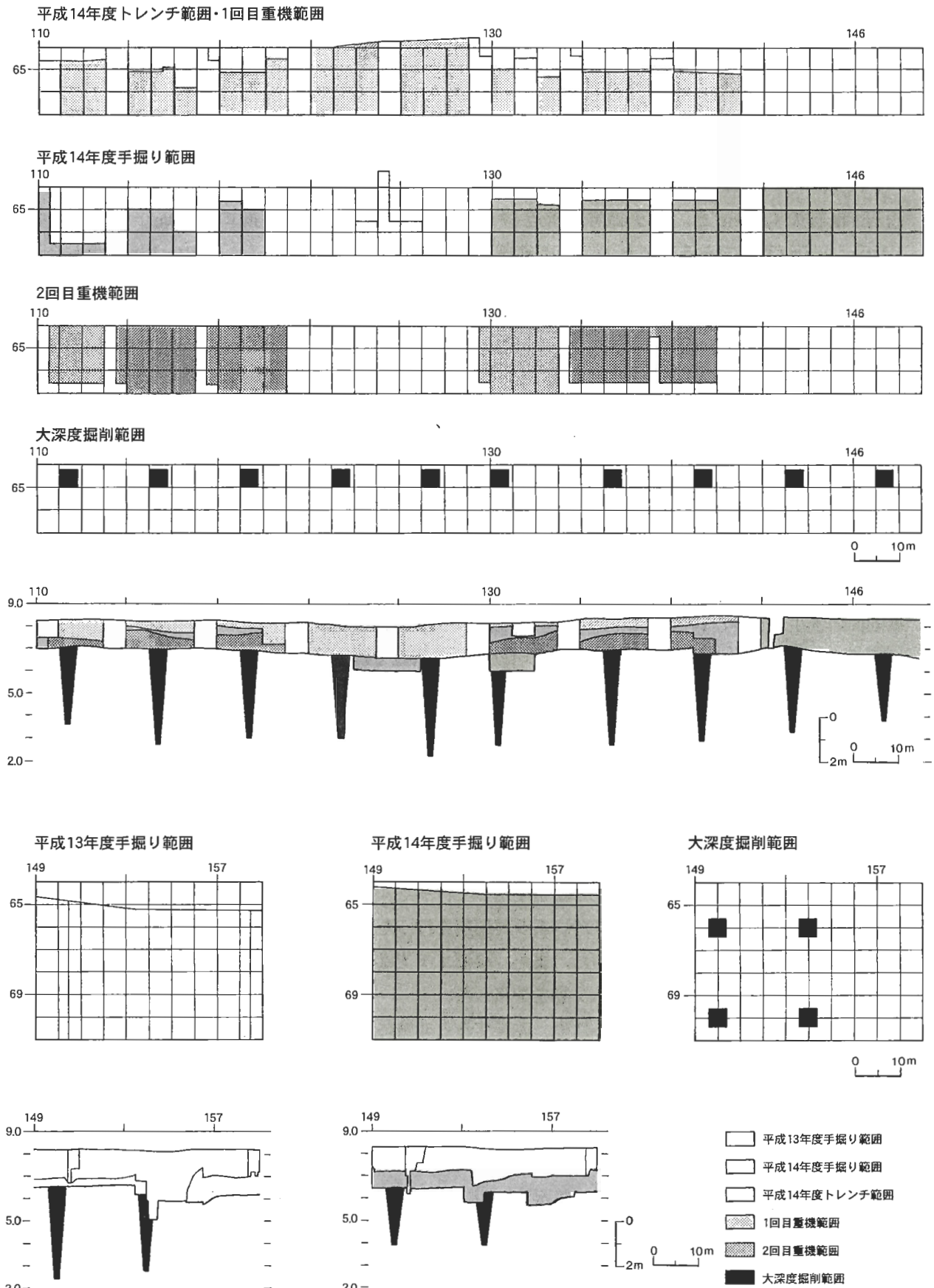
平成 13 年度は平成 11 年度のトレンチ調査により遺構・遺物の検出が予想されることから全面を手掘りによる調査を行った。土層観察のためのベルトを東西方向 67・69 線、南北方向 153・156 線半に設定した。土層が西側に向かって落ち込んでいくことが確認され、包含層がより深部へと続くことが予想されたので下層部分は次年度に継続調査を行うこととなった。そのため 13 年度調査終了時点で掘削面の養生を行い、14 年度に下層部分の手掘り調査を継続した。

平成 14 年度に新たに着手した遺跡西側の 1,950m<sup>2</sup> の調査では、まず 135 線以西に重機を用いて表土剥ぎを行った後、25% 調査を兼ねた南北方向トレンチを手掘りにより 9 本入れ、遺構・遺物の密度を判断した（図 II-3）。その結果、手掘り区域・手掘りと重機を併用する区域・重機による遺構確認区域に分けて調査を行った。また、大深度部分の遺構・遺物確認のため重機を用いて 4×4m、深さ 4~5m の深掘り坑を 14 ヶ所あけた（図 II-3、図版 II-6）。大深度坑では壁面の精査・掘り上げた土砂の確認を人力で行った。北側は法面状に削平されているため深部に行くに従い遺跡範囲が広がることとなった。遺構・遺物の検出が続いたため、遺跡範囲外である 64 線まで調査を行った部分がある（図 II-3）。

人力掘削作業は主に移植鍬・ねじり鎌を使用して行った。遺構・遺物の検出状況に応じて竹へらや竹串を使用して遺構・遺物を傷つけないように掘削を行った。精査・清掃の際には前記のほかにロボウキ、ブラシ、エアブラシ等を用いた。また、移植ゴテでは掘ることが困難な場所や遺構・遺物の見られない範囲ではスコップやツルハシ等を併用した。

遺跡の上層部分は粘質土層であるため、乾燥すると非常に固く、塊状となり移植鍬等で細かく掘削することが困難となる。そのため、適度にじょうろや噴霧器を用いて散水を行い、調査終了時にはブルーシートをかけるなど乾燥しないような配慮を行って調査を進めた（図版 II-4）。また、調査の進行により深度が深くなるため、壁面の保護には気を使った。上層部は粘土質で乾裂のため壁面が崩落する危険性がある。そのため、常にブルーシートをかけて乾燥を防ぎ（図版 II-5）、一方で砂の多い下層部の崩壊を防ぐため壁面の上下に排水溝を設けて雨水を避けた。さらに遺跡の下層部分では地層が西側に傾斜し、きつい体勢での作業を強いられると共に（図版 II-6）、水を含むと滑りやすく天候により危険をともなった。そのため、排土道や通路に歩み板や麻袋を敷いて事故の防止に努めた。

## II 調査の方法



図II-3 掘削範囲

## (2) 越冬養生

遺跡は冬季には土壌の凍結・融解に曝されるため、発掘終了時には特に未発掘部分との境界に生じた壁面の養生に留意した。71線・149線の壁面では大型土嚢をあてがって隙間に小土嚢を詰め、67線の110~149線間の壁面は土砂で覆って法面とした。これらの上からブルーシートをかけて雨水や雪を防ぎ、壁面の崩落や土砂の流出がおきないようにした。13年度は調査中の包含層や畦・トレンチが越冬する事態となり、上記の措置に加えてブルーシートをかけた上に土砂を盛る、断熱材または掘り起こして空隙を設けた緩衝層によって凍結・融解を緩和する、などの対策をとった。

## 3 測量と記録

## (1) 測量・図化

委託設置した基準杭をもとに5m方格の各交点に木杭を設置し、平面測量の基準とした。13年度は20秒目盛光学バーニヤのトランシットとガラスファイバー製巻尺を用いて打設したが、14年度は発掘範囲の高低差が大きくなったこともあり、光波測距機能のついた1秒単位デジタル表示のトランシットを用いた。平面測量はこの方格杭を基準として設けた簡易な水糸遣方からの手測りによった(図版IV-14)。

水準測量は自動レベルと5mm目盛のアルミスタフを用いて方格杭に基準杭を与点とする標高を入れ、方格杭と対象の比高を直接観測、または簡易な水糸遣方を作ってそれと対象の比高を手測りした。

測量の成果は基本的に20分の1スケールの図として記録し、1mm方眼のB3版セクションフィルムに鉛筆描きである。地層断面図、遺構等の平・断面図等を作成し、遺物出土状況等の詳細図を必要としたときは10分の1スケールとした。同一ないし隣接グリッド、あるいは同一取り上げ面に所在する遺構等は複数を一枚の図に描いた場合が多い。図面にはグリッド名・取上面・遺構名・日付・作成者等を記入した。

(酒井)

## (2) 野外撮影

## a 撮影方法

発掘現場での撮影は、4x5フィールドタイプカメラに6x7用スライド式アダプターを付けたものをメインとし、35mm一眼レフカメラを補助的に用いた。必要に応じて4x5サイズのフィルムも使用した。同一カットを同じ条件(シャッタースピード・露出)で2コマ撮影し、それをもって1セットとした。

ほぼ全ての遺構を撮影し、遺物の出土状況なども各グリッドの層位ごとに行なった。また、進行状況の確認となる定点撮影も定期的に行なった。撮影に際しては、各被写体の出土位置・深度など必要な情報を入れることを考慮した。ブレ・ボケなどを防止する為に全ての撮影は、三脚・レリーズを用いて行なった。

## b 撮影機材

各年度によって、撮影機材・フィルムは以下のように変化している。

平成11年度：Mamiya RZ67 PROII (T-MAX100・E100S)、Nikon F3 (E100S・GOLD100)

平成12年度：WISTA 45VX (T-MAX100・E100S)、Nikon F3 (E100S・GOLD100)

平成13年度：WISTA 45VX (T-MAX100・E100VS)

## II 調査の方法

平成 14 年度：WISTA 45VX (T-MAX100・E100VS)

遺跡が広範囲にわたることと、トレンチ調査や 25% 調査など被写体に高低差が生じる為に、平成 12 年度よりアオリが使えるフィールドタイプの 4x5 カメラにし、普段はこれに 6x7 用のスライド式フィルムアダプターを付け使用した。

また、フィルムの使用頻度や収納スペースの観点から、平成 13 年度からは 35mm 一眼レフカメラでの撮影をやめ、全てを 6x7 サイズ（必要に応じて 4x5 サイズ）で行なうこととした。スライド上映などで必要なカットは 35mm サイズに縮小デュープしている。

フィルムは、遺跡が全体にくすんだ土色で、焼土や土坑の覆土などの色変化が再現しにくいいため、発色性の強いものに替えた。

### c 撮影データ

現場での撮影データは、撮影者が野帳にその都度記入した。平成 13 年度からは、デジタルカメラで同一カットを撮影し、写真台帳のデジタル化を図った。(吉田)

### (3) 出土品の収集

#### a 掘り出し遺物

掘削作業中に掘り出された遺物は、同一層位、または同一遺構に属するものを一括して収集することを基本とした。ただし 3 年次、足掛け 4 年にわたる発掘の間に少なからず取り扱いの変更がある。

11 年度のトレンチ調査では同一遺構の遺物はグリッド（調査方格）に関係なくまとめて収集していたが、13 年度以降は遺構に属する遺物もいわゆる包含層の遺物と同様、小グリッドごとに収集・整理することとした。これは発掘年次を重ねるにつれ、遺構の大多数が焼土という平面的な構造であってその内外を判断することがそれほど有意なものと思われないこと、土坑の遺物も遺構と有機的関連をもつと思われる事例は稀であること、そして土坑自体の検出が必ずしも確実でないことなどが認識されたためである。13 年度以降は地区（小グリッド名）と層位所見、取り上げ日付の 3 者が基本的な収集情報となり、帰属遺構は層位所見の一種という扱いとなった。

11 年度のトレンチでは「II-1 層」から「III 層」に至る地層名（財団道埋文編 2000 の 40 頁）を層位情報として記録したが、やや広い範囲を発掘した 13 年度にはこの地層区分への対比が困難となり、III 章で述べるように結局はこの区分を放棄するに至った。同時に、遺物は細分された各地層の内部から出土するのではなく、むしろ各層の境界に散布し、焼土などととも旧地表に沿った一連の面を形成していることがほぼ明らかとなった。そこで 13 年度調査からは発掘中に認識される遺構・遺物の平面的な連なりを「取上面」と呼び、これを層位上の単位として取り上げをおこなった。取上面には小グリッドごとに通し番号をつけ、記録票を作成して取り上げ日付・遺物の出土標高の範囲・当該面の遺構などを記録した。しかしこの方針が徹底されたのは 13 年度の後半以降で、それ以前、特に遺構・遺物が希薄な地区では安易に 11 年度区分の地層名に託して収集したのもも多く、問題を残した。

収集情報ははじめ遺物を収めたポリ袋に記入したものがほぼ唯一で、一次整理に際してこれを台帳その他に転記していたのであるが、13 年度に取り上げ面記録票が作られ、これと袋経由の情報を対照するとグリッド名の誤りと思われるものが稀でないことがわかった。14 年度からは小グリッド名のアルファベットを五十音に変えて伝聞・転記の誤りを減らし、また取り上げ情報は水洗に耐える軟質セラミック製図工素材（商品名「彩玉ボード」）の荷札に記入して遺物とともに袋に入れ、台帳化

終了まで遺物に随伴するよう扱いを変えた。

なお遺構内の遺物に詳細に番号をつけて取り上げ、遺構図中に作成したドットマップもしくは出土状況図にその取り上げ番号や標高を記入したことがあるが、ごく少数の遺構に限られる。

#### b 土壌等

焼土の土壌に含まれる炭化物や集中して投棄された小剥片などは集中範囲の平面図を作成して標高を記入したうえ、土壌ごとポリ袋に採取し、その後の整理作業でフローテーションその他の方法により取り出している。グリッドによる分割はおこなわず、連続した集中範囲の土壌を一括している。

11年度トレンチでは例えば同一の焼土の中で特に骨片の多い部分のみ、あるいはベンガラ粒と思われるものの集まる部分のみ、というように現地で分別収集したことがあるが、整理の手数が増加するので13年度以降は遺構図に記録するにとどめた場合が大半である。

このほか数は少ないが、土坑底に収められた粘土塊などを周囲の土壌ごと石膏で固定して取り上げた事例がある。

(西脇)

## 4 資料整理

### (1) 図面等

原図には図面番号を赤の油性サインペンで記入し、遺構名などを記入したラベルを貼り付け、図面台帳の作成を行った。図面番号は平成13年度に「図400~608」、平成14年度に「図609~775」を与えた。原図は取り上げ面や遺構番号の確認、必要事項の記入、訂正などの作業を行った。訂正や変更があった場合はその個所が確認できるように原図に書き込んでいる。その後、原図から1mm方眼の方眼紙に鉛筆で2倍図版の版下図となることを考慮した素図を作成した。この素図を元に墨入れを行い報告書挿図の版下とした。

なお地層断面図など複雑な内容を表現する図面では、素図をスキャナーで取り込んだのちパソコン上で描画ソフト (Illustrator 9.0) により加工し、デジタルデータで多色刷挿図の版下を作成したことがある。

(酒井)

### (2) 出土品

#### a 掘り出し遺物

一次整理 掘り出された土器・石器等は、野外作業と平行して現地で水洗・乾燥・遺物台帳の作成・遺物カードの添付・注記作業を行った。水洗はボンドブラシや歯ブラシなどを使用して遺物に付着した土を洗い落とした。乾燥は遺物を新聞紙等をひいた乾燥かごに入れて、屋外もしくは遺物乾燥小屋の室内で行った。室内では除湿機などを用いて乾燥を促した。土器片のうち固結の弱いものは乾燥後にアクリル樹脂溶液 (パラロイド B72 の7~15% アセトン溶液) に浸して硬化させた場合がある

水洗・乾燥の終了した遺物は収集の単位ごとに遺物名と点数を決定したうえで遺物番号を与え、遺物台帳に登録した。土器の点数は平成11年度には数えられる限りの破片数としていたが、13年度以降は直径3cmの円を切り抜いた厚紙製のゲージを用い、平面に置いたときこれをくぐる小片は点数に入れられないこととした。土製品および石器等の点数は数え得る限りの数とすることで扱いの変更はないが、土壌ごと採取した小剥片の密集を篩を用いて洗い出した場合、2mm目の篩に残るものを数えることで、プラスチック製のザルに入れて水洗する通常の掘り出し遺物と同程度の大きさのもののみ

## II 調査の方法

を集計対象とした。

遺物台帳は年度ごとに、土器・土製品と石器等とに分けて作成している。平成11・13年度分についてはB5判の様式を印刷して手作業で記入し、11年度は内容の重複しない遺構遺物台帳と包含層遺物台帳の2者を、また13年度はグリッド別に全遺物を登録した台帳を作成した。平成14年度はパソコン上で表ソフト(Excel 2000)によりグリッド別の台帳を作成している。台帳には出土グリッドまたは遺構のほか遺物番号・取り上げ日・層位(取り上げ面等)・遺物名・分類・材質(石器等に限り)・点数その他を記入した。台帳登録の終わった遺物は台帳と同一の内容を記入した遺物カードとともに遺物番号ごとにチャック付ポリ袋に納めた。遺物カードは土器等と石器等で色を分け、土器は朱鷺色、石器等は白茶色とした。

土器の注記は11年度には微細なものを除く大多数の土器片に行った。13年度以降はゲージをくぐらない破片に注記し、台帳上の点数と注記片数とを一致させた。注記できなかった土器片は遺物番号ごとにポリ袋に納め、注記済みのものと同封した。土製品・石器等は主にカードを同封した袋から取り出す必要のあるものに限って注記した。注記内容は遺跡名の略号「T2」、出土グリッドまたは遺構、遺物番号で、11年度には層位も記入した。(酒井)

二次整理 一次整理の終了した遺物を埋蔵文化財センターに搬入し、分類・材質の確認、接合、復元、図化、撮影などを行った。採用した分類の体系、図化・撮影対象の選択等についてはV章で述べる。

実測図は1mm目方眼紙に原寸大で作成し、剥片石器・土製品・石製品は原図のまま、土器・礫石器は3分の2に縮小した第二原図に墨入れを行い版下図とした。なお平成14年度には日立エンジニアリング株式会社に委託して復元した土器の一部のレーザー三次元計測を行い、そのデータから作成した正射投影画像に写図工がリタッチを加えたものを原図とした場合がある。

遺物の整理と平行して遺物台帳の修正を進め、その完了後平成11年トレンチのうち本年度報告の範囲と13年度の遺物についてもパソコンに入力した。また地層断面図・遺構図の整理に平行して現場で記録したグリッドごとの取り上げ面を相互に対比し、同一の生活面に属する遺構・遺物を確定する作業を進めた。帰属する生活面を特定できた遺物はパソコン上の遺物台帳にその情報を入力したうえで集計作業を行って遺物集計表を作成した。

整理終了後、接合した土器を新たな整理番号別に収納したほかは原則として各遺物を遺物カードを同封したチャック付ポリ袋に戻し、報告書に掲載した遺物は図番号順、それ以外は遺物名・分類ごとに遺物番号順に整頓し、プラスチックコンテナに収納した。報告書掲載石器には報告書名・図番号・図版番号を記したカードをも同封した。(酒井)

### b 土壌

現場で採取した炭化物や骨片に富む土壌のうち、前項で触れたように小剥片の集中など洗い出して掘り出し遺物の整理に加えたものもあるが、その大部分は平成13年度から発掘事務所協の屋外に専用の装置(いわゆるPROJECT SEEDS MODEL TYPE-1、椿坂1989b・上屋1990)を設置してフローテーション(浮遊選別)処理し、掘り出し遺物とは別の系列で整理を進めている。

土壌の乾燥は主に強風の日を避けて屋外でおこない、適宜攪拌したり直射日光に曝した場合がある。土壌重量が概ね採取時の8割未満になった時点で搬入した水道水を用いて処理し、浮遊物は2.00mmおよび0.425mm、残渣は1.41mm目の篩(椿坂1989a)により回収した。回収物は火気と化石燃料由来の汚染を忌むのでオイルヒーター等で暖房した屋内で風乾させ、その後埋蔵文化財センターの室内で適宜ルーペ・実体顕微鏡等を用いながら土壌から遺物を選別した。

本書で報告する調査範囲の土壌はすべて14年度までに一次処理を終え遺物の選別に入っているが、選別された自然遺物の同定は未着手である。本書ではIV章で処理した土壌と選別された遺物の量について記載し、またV章で選別された土製品の一部を紹介し、土壌の採取された遺構の性格を判断する材料としたにとどまる。なお14年度の整理でフローテーション残渣からかなり大きな土器片が選別され、接合・図化された事例が見られたので、やむを得ず注記ゲージより大きな土器片のすべてを台帳登録して注記し接合を試みたが、本来掘り出して回収されるべきものであり今後このような事態を避けたいと考えている。

なおフローテーションで回収した炭化物の一部を年代測定に供しており、その結果を本書VI章に収録している。(西脇)

### (3) 写真

#### a スタジオ撮影

**撮影方法** 光量の安定性、色再現の忠実性などの理由からストロボを用いて撮影を行っている。

土器片や石器などは、トヨ無影撮影台を使用し俯瞰撮影を行った。その際、遺物は発砲スチロールや脱脂粘土などで傾きを調整した。

平成14年度からは、石器の撮影においても立面撮影を行った。俯瞰撮影や遺物実測図では表現出来ない情報(立体感・質感・加工痕や使用痕の強弱など)を写し込むことが可能となった。逆に俯瞰撮影での表現が有効な遺物に関しては、従来通りの俯瞰無影撮影を行った。

復元土器は、撮影台に白い背景紙を垂らして立面撮りを行なった。集合写真など、撮影台に遺物が乗り切らない時は、背景紙を床に直に垂らしての撮影となった。

平成14年度からは、背景紙からデコラ板(無反射で蛍光塗料を使用していないもの)に替えた。これにより背景が以前より白く抜けやすく、ポジフィルムで特に感じられた紙の繊維感がなくなった。

復元土器の撮影においては、特に立体感を表現することに留意して行なった。また、実測図では表現出来ない質感を出すようなライティングを心掛けた。

立面撮影全般に、普段我々がものを見る時の自然な角度内での撮影を心掛け、写真を見る者に不自然感を与えない構図を目指した。

現場での撮影と同様に、同じ条件(ライティング・シャッタースピード・露出)で2コマ撮影し、それをもって1セットとした。

**撮影機材** ストロボ機材は、3200W/Sのジェネレーター(コメットCA3200)を2~3台、発光部(CA32H)を2~6灯、ディフューザーは、ライトバンク・アンブレラを使用した。集合写真など撮影が広範囲にわたる時は、天井吊り下げの大型ライトバンクを用いた。

カメラは、WISTA45VXに6x7用スライド式アダプターを付けて用い、フィルムはブローニーサイズのT-MAX100とE100Sを使用した。必要に応じて同フィルムの4x5サイズも使用した。

#### b 現像

**フィルム現像** カラーリバーサルフィルム・カラーネガフィルムは外注している。モノクロフィルムに関しては、自動現像機(ILFORD ILFOLAB FP40)での自家処理となっている。

この機械は、ブローニーサイズまでのロールフィルムに対応していて、35mmの場合パトローネからフィルムの先端を出し、そこにリーダーを貼り付け機械に流し込む。ブローニーの場合は、ダークボックスの中でフィルムを巻き取り、専用のマガジンに先端を出した状態で入れ、同様に流し込む。



## II 調査の方法

同時に2本の現像ができ、約15分ほどで乾燥まで仕上げる。フィルムはパトローネやマガジンに入っているため、全暗黒にしなくても処理できる。また、ほぼ一定の現像がなされるため品質も安定する。

ペーパー現像 モノクロ写真の焼き付けも自動現像機（ILFORD ILFOLAB MG2950）での自家処理となっている。写真図版用の焼き付けや密着焼きを行なっている。

この機械は、印画紙を露光した後流し込むと、約1分で乾燥まで仕上げ出てくる。これもほぼ一定の条件での現像となるため、露光時間の増減による仕上がりの予想がしやすい。

### c 保管・管理

写真台帳 写真台帳はパソコンに入力しデジタルデータ化して管理している。平成13年度からは、現場で同一カットをデジタルカメラでも撮影し、その画像を貼り付けた台帳を作成している。前年度までのものは、フィルムスキャンで画像を取り込み貼り付けている。

平成14年度からは、文字データファイルに画像データを貼り付けていたのから、画像データを別フォルダーにJPEG形式で保存したものと、文字データファイルの画像領域をリンクさせる形式に移行した。これによりデータ量の圧縮と作業スピードの高速化が図られた。

写真台帳をデジタルデータ化し管理することにより、写真の検索が瞬時に行なえる。また、画像を画面上で見ることが出来るため、不必要にオリジナルのフィルムに触れる機会が減少し、フィルムの劣化・破損などを防ぐことが出来る。

フィルム アルバムは、コスモスプリントファイルを用いている。フィルムには1コマずつ番号をつけ、フィルム種類ごとの連番で管理している。

フィルムに触れる時は必ず手袋を着用し、油分からの変色・劣化やカビの発生を防いでいる。また、同一条件で撮影した2コマのうち1コマはオリジナルフィルムとして使用しないようにしている。使用頻度や貸し出し依頼の多いカットに関しては、デュープを作成し対応している。

アルバムは全ての調査・整理作業が終了した後、定温・定湿に保たれた特別収蔵庫に保管される。

フォトCD カラーフィルムの劣化・退色に対応すべく、報告書に使用したカットについては、フォトCDに焼き付けている。フォトCDは外注しており、主にブローニサイズのカラーリバーサルフィルムからの焼き付けとなっている。

E6処理されたリバーサルフィルムの耐久性について確実なデータがない今、フォトCDに焼き付けて、色情報をデジタルデータとして保存するのが最良と思われる。 (吉田)

## 5 保管

今回の報告に関する図面等・写真・出土遺物は2003年3月現在、道立北海道埋蔵文化財センターで保管している。図面等は全てA2版図面ファイルに調査年度・北埋調報番号・遺跡名をつけて収納している。写真アルバムは全ての調査・整理作業が終了した後、定温・定湿に保たれた特別収蔵庫に保管される。出土遺物に関しては、復元された土器は調査年度・北埋調報番号・遺跡名・遺構名・図番号を記したラベルを貼り展示収蔵庫に保管されている。復元に至らなかった土器片や石器等・フローテーション成果等はコンテナに収納する。コンテナには調査年度・北埋調報番号・遺跡名・遺物名・分類・収納番号を記したラベルを貼り、掲載されたものは展示収蔵庫、未掲載のものは収蔵庫に保管されている。また、報告書掲載遺物については前記のほか遺構名・図番号などを記入したラベルを貼り、今後の活用に向けた。

### III 遺跡の環境

#### 1 位置

##### (1) 所在

対雁2遺跡は北海道島中央部の西寄り、日本海に近い平野の中に、島内最大の河川である石狩川に面して所在する（図III-1、図版II-1）。

遺跡所在地の地籍は江別市工栄町28番地である。この町名と地番は土地区画整理にともなう換地の結果1978（昭和53）年に登記されたもので、それ以前この土地は対雁という行政町名の中にあつた。1992（平成4）年に埋蔵文化財包蔵地として周知される際に旧地名を尊重して名称が決定され、同じ町名を冠する「対雁遺跡」との混同を避けるために「2」という連番がつけられた。

土地区画整理は工栄町という工業団地の造成にともなうものであったが、この事業はさらに1970（昭和45）年以降本格化した石狩川の大規模な改修に連動していた。石狩川の南岸にあつた対雁の集落は立ち退いて河川敷地が設定され、その外縁に築堤が建設された。河道の拡幅と直線化のため集



図III-1 遺跡の位置

図 III-2 遺跡付近の地形



落の跡地は大きく切り取られ、新たに石狩川左岸の高水敷となった旧集落南側の地下に、さらに後年の改修事業にともなってこの遺跡が発見されたのである。この間の変遷については、昨年度の報告書に収録した航空写真（財団道埋文編 2002 の図版 III-1-6）を参照していただければ明瞭である。

明治年間に対雁の地に集落が形成されたのは、札幌を流れる豊平川がここで石狩川に合流し、開拓の進む北海道内陸と札幌とをつなぐ水運の要衝をなしたことによるところが大きい。1954（昭和 29）年に本格的な水路切替がおこなわれるまで豊平川は遺跡のすぐ北西側で石狩川に注いでおり、その河道は今も世田豊平川という名称で残っている。したがって旧豊平川と石狩川の合流点に臨んで遺跡が所在すると言って誤りではないのだが、少々ややこしいことに、200 年ほど前までは江戸時代の記録に「ツイシカリ川」という名称で現れる小さな川の川尻がここにあったに過ぎず、19 世紀初頭頃の洪水を境に豊平川がそのツイシカリ川の河道に流れ込むようになったことがわかっている。

「ツイシカリ」は言うまでもなくアイヌ語地名であって、語頭のツは「もとの」「もうひとつの」といった意味をもつアイヌ語 *tu* であろうとみられている（榊原 1998）。「もとのイシカリ」という地名の意味するところは、しかしいまひとつ明らかでない。この問題を含め、遺跡の人文的な環境についてはすでに刊行した報告書で再三紹介してきたところであるので、参照いただければ幸いである（財団道埋文編 2000・2001・2002）。

## (2) 地形

対雁 2 遺跡は石狩川下流域に発達した沖積低地の中にあり、周囲は人為的な治水がなければ石狩川やその支流の洪水が及ぶ氾濫原である。しかし石狩川水位の観測が始まった 1879（明治 12）年から築堤建設の進む 1970 年代までの約 100 年間に、対雁の旧集落のあった地点が実際に冠水したことは一度もなかったらしい（財団道埋文編 2002 の 17 頁）。氾濫原中にありながらも事実上の離水域であるという点に、遺跡付近の地形的な特徴が見られる。

現代の改変が進む以前の地形を窺う目的で 1966・71（昭和 41・46）年撮影の航空写真から平成 11 年度に作製した地形図を図 III-2 に再掲した。遺跡は石狩川と世田豊平川の合流点付近から湾曲しながら南西方向へ伸びる微高地の地下に発見されたこと、この微高地がさらに石狩川へ向かって扇状に張り出し、遺跡から約 400m 先で侵蝕崖となって終わっていることが知られる。

石狩川開発建設部の治水地形分類（石建編 1979a,b）ではこれを自然堤防としている（図 III-3）。旧豊平川河道に沿って形成されたその形状、後述するその地質からみても説得的な分類である。ただ上述のとおり、この地形が近年になって発達した可能性は小さい。微高地の頂部は標高 9m を超える高さで延長約 2km にわたって続いているが、近代の対雁水測所の観測では高水位の記録は 8m を少し上回る程度であり（例えば財団道埋文編 2000 の表 II-1）、19 世紀後半以降に微高地部分の堆積量が侵蝕を上回った可能性はまずない。また 19 世紀初頭の豊平川の流入以前には、そもそも自然堤防を発達させるだけの営力がツイシカリ川になかったとみられる。結局この微高地については、近世以降のそれとはやや異なる環境下で形成された古地形とみなす必要があるように思われる。

次節以降で述べるとおり、当財団の発掘調査そのものによって、前 1 千年紀の後半を中心とする 1,000 年ほどの間に、この場所で標高 8m 以上まで頻繁に水成層が形成され、またその堆積の間を縫って焚火などの人間活動がおこなわれたことが明らかになった。水域と陸域とが目まぐるしく交替するさまは、まさに形成中の自然堤防の状況を示しているとみてよいであろう。現代の河川敷整備で微高地の頂部が 50cm から 1m も削られた模様であるのですべてがこの時期の所産であるとは言い切れないとしても、自然堤防の発達の時期が判明した一例としてよいのではないかと思われる。

III 遺跡の環境

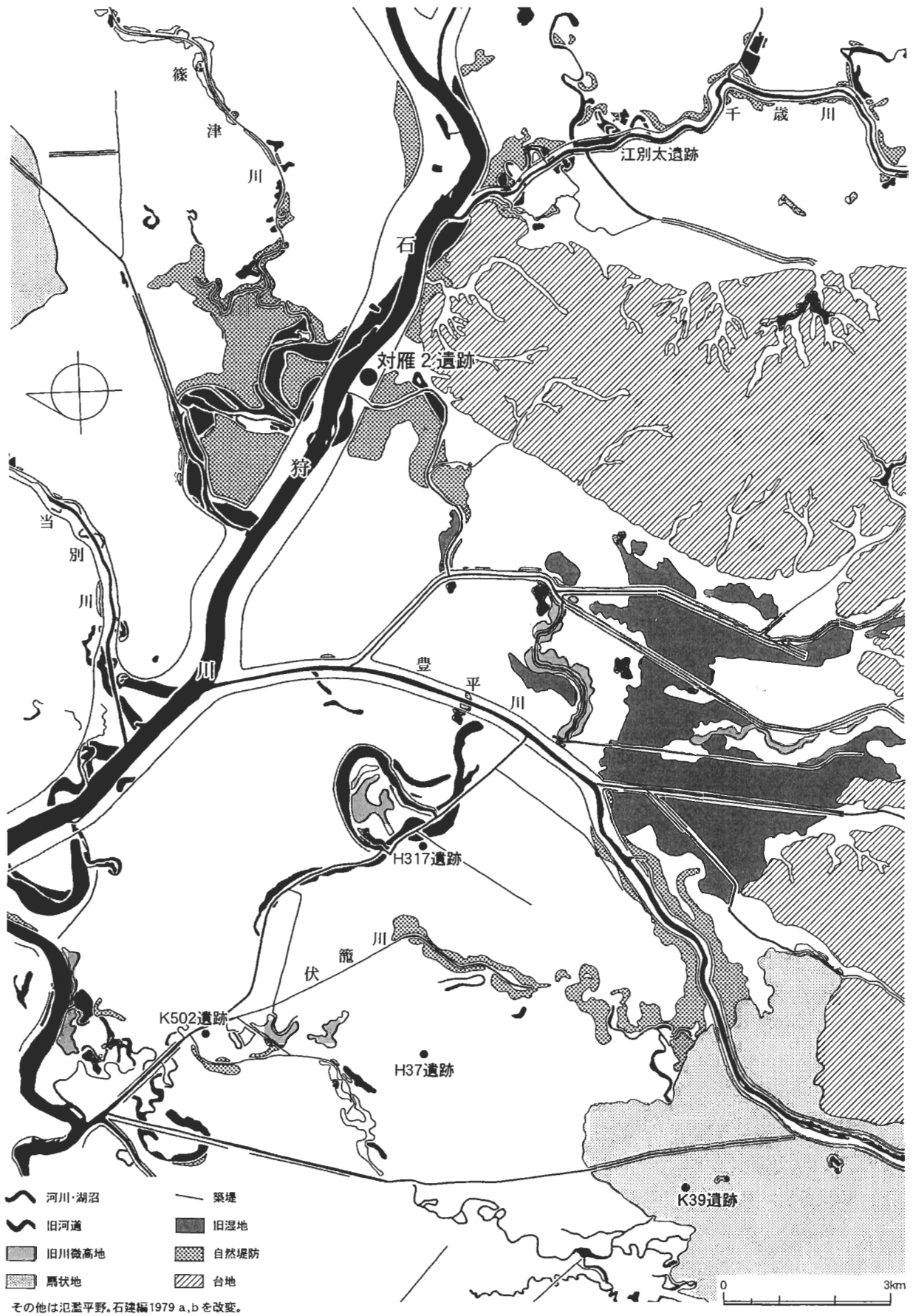


図 III-3 治水地形分類と遺跡の位置

豊平川が扇状地の発達した中流域から下流の沖積低地へと流れ出る付近に新たな堆積物が形成されやすく、河道が不安定になりがちであるのは近世に始まったことではないであろう。18世紀以前にも、豊平川が19~20世紀のものに近い流路をとった時期が何度かあったと思われる。伏籠川以西の扇状地は遅くとも縄文時代半ばより前に形成を終えたとみられており（大丸1989の597頁）、遺跡形成の当時豊平川下流が東側に大きく振れる条件が整いつつあったらしい。そして札幌市西南部の広大な山地を集水域とする豊平川本流の流入が、対雁付近に自然堤防の発達をうながすことは想像できる。しかしそれだけでは、同じ条件が実現した19世紀以降の豊平川下流で大規模洪水が頻発していない事実を説明できない。

可能な説明の一つは、遺跡の形成された時期の海水準が高かったため、石狩川河口から流路延長で30数kmと海岸に近いこの付近でも堆積基準面の上昇を招いたとみることであろう。あるいは、相対的に同じことであるが、当時から現在までの間に海水準の低下と河川の下刻が進み、自然堤防のある地形面が段丘化したとみてもよい。これらの場合、付近の低地全体にわたって当時の水位が現在より高かった痕跡が認められるはずである。しかしより海岸に近い沖積低地に位置し、年代上対雁2遺跡と重複する部分のある札幌市のH37遺跡（同市埋文編1996・1998）では標高5m前後を掘り込み面とする竪穴住居跡が発見され、やはり同時期の同市H317遺跡（同前編1995）では標高3m以下の旧地表で河道に沿って生活痕跡が見られた。H37遺跡と対雁2遺跡とは12kmほど、H317遺跡とは8kmほど離れているに過ぎないので、甚だしく不等な沈降を仮定するのでない限り、当時の堆積面が19世紀以降より特に高かったと考えることは困難であろう。H37・H317遺跡の花粉化石を検討した山田悟郎は縄文時代初頭の地層で針葉樹花粉の出現率が高く冷涼な気候が示唆されることを述べており（山田1998）、高海水準はむしろ擦文時代に想定されることを指摘している（同1995）。また対雁2遺跡よりも上流の氾濫原に所在する江別市江別太遺跡では、旧千歳川の河道中に標高-1m前後まで打ち込まれた縄文時代中頃の杭が複数発見されているが（同市教委編1979）、これは付近の現千歳川水面（標高2m弱）よりもかなり深く、やはり当時の水位がそれほど高くはなかったことを示唆している。

結局今のところ、対雁付近の自然堤防の成因はやや特殊なものであろうという漠然とした指摘ができるに過ぎないが、この自然堤防の延長のように見えるものはさらに近代の石狩川本流を越えて、篠津川下流にまで連なっている（図III-3）。規模・勾配の小さい篠津川が多量の堆積物をもたらしたことは考えにくいので、これを石狩川による再堆積をこうむっているにせよ相当部分が古豊平川由来の堆積物で構成された地形と考えざるをえず、そしてそれが同じ古豊平川の形成した伏籠川沿いの自然堤防とならんで、石狩川下流の沖積低地の中で砂丘を除けばもっともまとまった微高地を形成していることが注目される。この地形が遺跡そのものを内包しているだけに、その発達の過程を今後さらに究明する必要があると考えている。

## 2 地層

### (1) 既往の地層区分

対雁2遺跡の地層の最上部は外見上概ね無構造、壁状の粘土質のシルトで構成されるが、深度が増すにつれ堆積物の粒度の幅が増して砂を含むようになり、堆積構造の肉眼的観察が容易になる。現地表からの深さが約1mを超えると北東方向の走行、北西方向の傾斜が顕著に認められる（図版III-1）。土色は標準土色帳（小山・竹原1967）との比較で概ね色相10YRから2.5Yの範囲、粘土・シルト主体の部分では明度4~6で彩度1~3、砂質の部分では明度2~5で彩度1~2を呈することが多い（口絵1）。

### III 遺跡の環境

平成11年度の発掘ではこの走行・傾斜の明瞭な部分をIII層、その上位にあるものをII層、これらを覆って現地表を構成する近現代の人為層をI層とする大区分が設けられ、II層はさらに最大で10単位に細分された。12年度の発掘でもこれが踏襲され、「II層までは(略)水平に近い堆積状況をしている。III層は西方向に向けて落ち込んでいく土層を示している。II層とIII層の層界は不整合面となっている。」(財団道埋文編2001の53頁)との概括がおこなわれた。しかしこの2年次の記載の間にはいくらか矛盾がある。

12年度の概括を文字通りに受け取れば「不整合面」は傾斜不整合の関係であり、上位の「II層」は「III層」の傾斜と無関係に水平に成層していると解されるが、11年度発掘では「II-2-上層(略)西側に向かって落ち込んでいく」「II-2-中層(略)調査区の西端付近で急激に落ち込んでいく」「II-2-下層(略)西側では落ち込んで確認できなかった」(同前編2000の40頁)との記述から、細分されたII層の各部層が傾斜していたことが明らかであるから、12年度報告に言う「水平に近い」の意味が曖昧になると同時に、傾斜した部層間の層境界はII・III層間の「不整合面」とどれほど違うのかという疑問が生じる。実際、12年度の地層断面図には「II-2-中」「II-2-下」間に不整合としか考えられない線が描かれ、「II-2-下」の部層は明らかに傾斜した堆積を見せている(同前編2001の図III-2-2)。

このように地層記述の一貫性に疑問が生じるのは、おそらく11・12年度の分層が基本的に文化層区分であり、しかもそれが不徹底であったためである。例えば「II-1層(略)粘土層」が場所によっては「砂層(略)により4層に分かれ」(同前編2000の40頁)たり、「II-2-中1層」が「II-2-上層に近い土質を示」(同前編2001の54頁)したりするように、地層を構成する堆積物の如何は本質的に地層の区分を左右していない。むしろ一貫していたのは「炭化物や遺物、焼土から」(同前編2000の40頁)「焼土や遺物・炭化物などの検出状況から」(同前編2001の54頁)分層する立場であったとみられる。文化財調査である以上文化層区分をおこなうこと自体は正当であるが、文化層のないところでは「分層できない」(同前書54頁)のが当然である。問題は、この当然の禁欲が実行されたのは「II-2-中層」の再細分についてだけで、その他の大部分で文化層区分が別の観点からおこなわれた区分と合成された点にある。たとえば「II-2-中(2)層」の焼土F-41は、同層とその上位のII-2-中(1)層との境界に存在するが、「III層」の焼土F-31はIII層の中に存在する(同前編2000の図III-3・5)。この違いは堆積物の境界に形成された旧地表の生活面をその核心とする文化層と、地質的な層相で設定した自然層とを漠然と等価に扱っていることを意味するのであるが、それをそのようには認識できず、ただIII層の細分がまだ不十分である結果とのみ受け止めていたのである。

このような状態で迎えた13年度の発掘を下層に進めるにつれ、遺構・遺物の連続的な出土によって追跡される「II層」中の旧地表面が北西へ傾斜しており、したがって「II層」の層厚が北西へ向かって急激に増加することが明らかになった。このためI章で述べたとおり予定の作業量では発掘を完了できず、深部の発掘を14年度へ繰り越す結果となったのであるが、同時に11年度発掘のトレンチ断面(同前書の図III-5)で「III層」と判断したものの一部を「II層」に改めざるを得ないことが明らかになり、ひいてはこれまで「III層」として扱ってきたものの全般について、「II層」との区分が正当かどうかという疑問が浮上することになった。「西方向に向けて落ち込んでいく」のは「III層」だけではないことが確実に、「粘質土と砂の互層」(財団道埋文編2001の53頁)であることも「III層」の特徴というより深部の堆積物の特徴であることが明らかになったからである。

残る分層の根拠は不整合の存在であるが、これもすでに述べたように「II層」と「III層」の境界面だけの特徴ではないうえに、粒度の幅の小さい浅部の堆積物の中で不整合を認識することはそれほど容易でないという問題がある。例えば12年度の67線地層断面図において161線の少し西、69線

断面で 160 線の少し西で、層厚の大きな変化がないにもかかわらず「II-2-中」層の細別が突然不明になること（同前書の図 III-2-1・2）は、そこに不整合が存在したのではないかという疑いを抱かせる。果たしてそうであれば、その東西の「II-2-中層」はすでに別の地層なのであるが、そうした問題が検討されていないのは、遺構・遺物の集中部分で旧地表と思われるものが平坦であったという文化層区分の知見が、留保をつけずに遺構・遺物の希薄な区域へも敷衍されたことを意味するように思われる。

再検討の不可能な問題を蒸し返すのは不毛だが、12 年度発掘の「不整合面」は、上から順に水平に設定してきた文化層区分と、それを諦めて堆積物に従って引いた自然層区分との境界であって、より水平に成層する地層と傾斜する地層との境界がそこに実在したわけではないのではないかと、という疑問を払拭することは難しい。少なくとも 13 年度発掘以降、遺跡の地層中に特別に注目すべき一連の境界面を見出すことができないので、本書では近現代の人為層である I 層と、その下位にある II 層とを区別するにとどめ、「III 層」という区分は用いないことにした。

## (2) 層面の認定

上記のような分層上の問題が表面化した 13 年度発掘の後半以降、遺構・遺物の新旧を正しく把握するためにどのように地層を認識し、記録すべきかが再考された。遺跡の地層全体を一貫して記述するためには遺構・遺物の有無に直接左右されない、堆積学的方法での体系化が必要であることは明らかであり、まず堆積の構造を明らかにし、その後に遺構や遺物によって把握される生活面ないし文化層がその構造とどのような関係にあるかを記録すべきものと思われた。すでに報告してきたとおり、当遺跡の遺構・遺物は地中に全く不規則に存在するのではなく、一定の面をなして出土する傾向がある。これが概ね旧地表面であること、そこに生活の痕跡が残された後で堆積が進み、新たな地表面を形成することによって遺構・遺物の累重が起こるらしいこと、上下の生活面を隔てる堆積物は例外なく遺物に乏しく、従って人為的に盛られたものではないことなどは見当がついていたので、この間歇的な自然堆積の休止を地層断面上で特定し、それぞれの休止に対応する遺構・遺物を明らかにすることを目標に地層の観察を再開した。

13 年度の報告で述べたように（財団道埋文編 2002 の 21・22 頁）、自然の営力による堆積が休止するということは、つまり風や水流が甚だしく弱まることによってそれまで浮遊していた細かく軽い粒子までが地表や水底に沈積することであると考えられる。具体的には、当遺跡の堆積物の中で細粒な成分である粘土・シルトの粒子のみが集まったものが一連の地層として観察されれば、その上面を堆積の休止面とみなすことができるであろう。この考え方に沿って検討したところ、果たして地層断面には、浅部ではほぼ水平だが深部に向かって北西の傾斜を強め北東に走行を持つ粘土・シルト層が多数認められ、その主要なものの上面を図化して記録した（同前書の図 III-4-6）。この知見から、13 年度の報告書では従来「II-1 層」「II-2-上層」と呼ばれた肉眼的構造に乏しい堆積物はおそらく相当多数の、それも場所によって層序の異なる休止面を含み単一の「地層」とはみなしがたいこと、「II-2-中層」以下についても平成 11 年度の 158 線半トレンチでの分層と 12 年度のそれとは完全には整合しない可能性があることなどを述べた（同前書 27・30 頁）。

このような経緯の後に着手した 14 年度の地層記述では前年度の立場を踏襲しようとしたが、実際にはさらに観点の修正を迫られることになった。その直接の契機は新規に発掘した 110~149 線間の東西 195m に及ぶ 67 線地層断面の検討である。この断面には細粒堆積物の成層がほとんど無数に見られ、そのすべてを記録することは現実的でないと思われた。同時に、休止面より概して急な傾斜で折れ線状に斜め上方にのびる侵蝕面の存在が断面の所々で注意された。



### III 遺跡の環境

侵蝕面には固有の堆積物がともなわないのでその存在に気付くまでに多少の経験が必要であったが、緩やかな曲線を描く休止面の細粒層が侵蝕によって突然断ち切れ、侵蝕面の上位側には別の単位の休止面や下位側とは様相の異なるラミナが形成されて明らかな不整合をなしているの、ある程度検討を加えれば認定は困難ではない。このような侵蝕面が堆積の断絶を意味していることは間違いなく、その上下を別の単位の堆積物として扱うことができる。そこで149線以西の67線地層断面ではこの侵蝕面をできるだけ漏れなく記録し、さらにその侵蝕面より下位側にある休止面のうち最も上位のものも図化することを原則とした。この2種の面を認定することで最低限の地層区分を果たすこととしたのである。14年度に掘り下げを加えた13年度着手範囲の地層断面を上記のような観点で見直してみると、やはり149線以西と同様な侵蝕面が見られた。その一部は明らかに13年中に掘削した浅部へ続き、堆積の休止面を破壊していたと思われる。13年度、および149線以西で図化の方針を定める以前に作製した14年度の断面図にはこの侵蝕がほとんど記録されておらず、休止面の認定が正確でなかったことは間違いない。

思うに、よほど切り立ったものでない限り、侵蝕面はその断面上の姿のまま地表あるいは水底に露呈しているわけではなく、侵蝕され崩落した土砂にその上端近くまで覆われているのが普通であろう。侵蝕の上端には当然ながら堆積の休止で形成された旧地表があり、そこにある粘土やシルトは、急激な侵蝕がおさまると同時に侵蝕面を覆った崩落土砂の斜面を覆って再堆積を始める。これも一種の休止面には違いないから、地層断面で眺めた時にはある箇所では休止面の細粒堆積物が不明瞭になり、そこを境に傾斜が変化するが、休止面そのものは続いているように見える。ここで下手側の細粒堆積物のやや下位にある侵蝕面を認識できなければこれを一連の休止面と考えがちであり、13年度と14年度前半の断面図にはこのような誤認がかなり含まれていると思われる。

侵蝕面の上部が細粒で粒度の幅も小さい堆積物中にある場合、その正確な上限を肉眼で確認することは困難である。しかし常にそうであるというわけでもなく、侵蝕面の先端とその下位側最上位にある休止面とが一致し、その直上を一連の堆積物が覆っていると見える場合がしばしばある。この堆積物の下面が別の不整合に連なっていればこの一致は新しい侵蝕による偶然ということになるが、今のところその実例と思われるものは観察していない。つまりこれは先ほど想定したような、侵蝕面とその先端にある休止面との関係であるように思われる。考えてみれば、砂を主体とする深部の堆積物の上面が、次単位の堆積までほとんど侵蝕を蒙らずに初生的な形状を保つというのにはありそうもないことである。むしろ、浅部の堆積面と深部の侵蝕面という二種の面が常に一つの単位をなして旧地表を形成しているからこそ、それを基底として形成される堆積物の傾斜が常に浅部で弱く深部では強くなるのだ、と表現したほうが当たっているかもしれない。

このように、堆積の休止にともなって必然的に二種の面が生じ、そのセットが堆積の境界面を構成するのではないかというのが、比較的深部まで発掘を進めた14年度の経験から帰納される内容である。それは単に、上記のような関係では侵蝕面と休止面との時間差を直接に示すものがなく、性格の異なる二者をまとめて単一の面として扱うことに実際上の問題がないということではない。侵蝕は地層の中ではなく地表または水底に発生するという前提から、ある侵蝕面の上限が堆積面と一致していれば、その堆積面は間違いなく堆積の休止面であり、たとえその上に新しい地層が整合に堆積しているように見えてもそこに旧地表として無堆積のまま経過した時間が想定できる点が重要である。言い換えれば、その上面が休止面と見える細粒の堆積物も、そのみでは単に碎屑物を運ぶ営力が非常に小さくなったことを示すに過ぎず、侵蝕面との接点を確認されてはじめて堆積が休止し、時間的空白を生じたことを確実に推論できるということである。

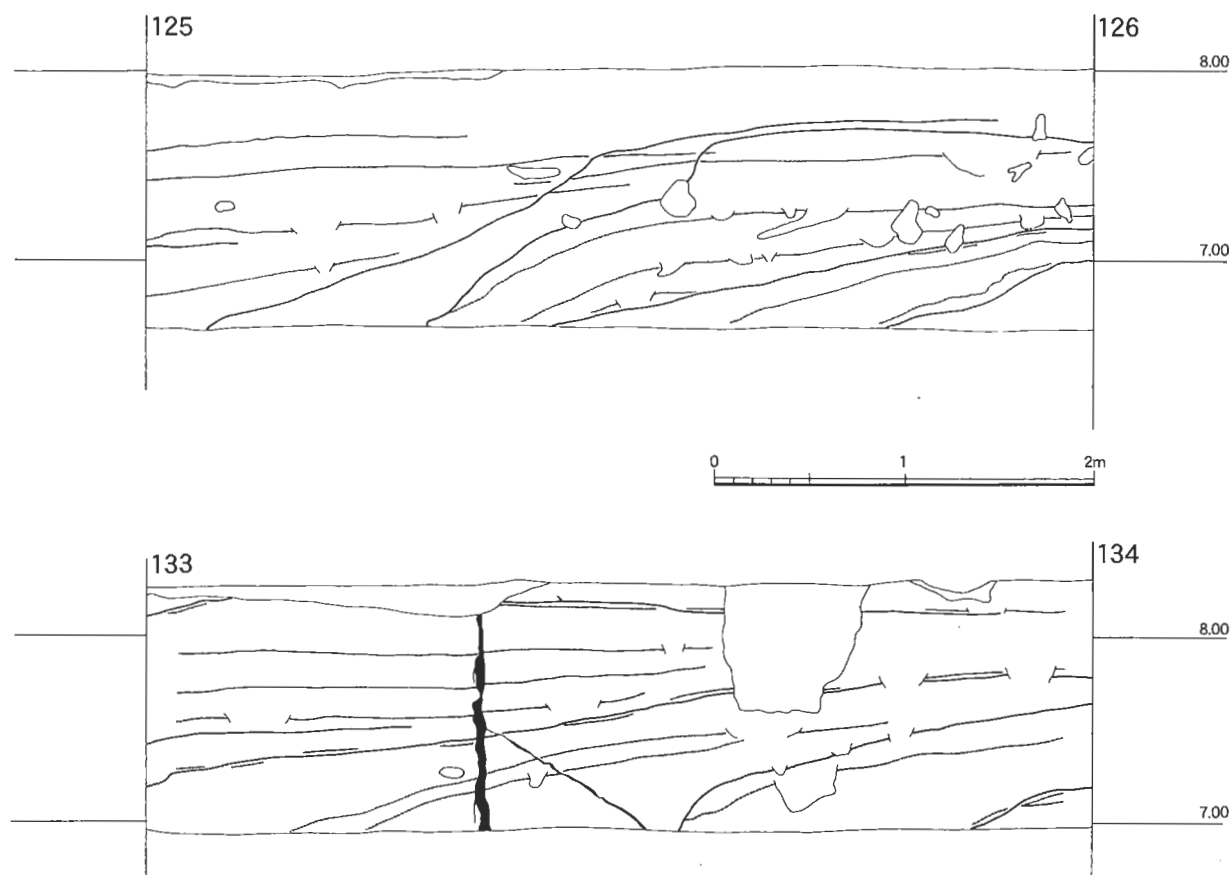


図 III-4 地層断面図の変化

したがって、もし一貫してこのような二部構成の層面で地層を区分することができれば、堆積構造の中に年代差、つまり時間的な空白を見出そうとする遺跡の発掘調査にとって望ましいと言えるだろう。とは言えこうした理解に達したのは14年度発掘の終盤であり、現地での記録はそれぞれの時点での認識を反映した不統一なものとなった。図 III-4 は14年度に同じ箇所が発掘の初期と末期に作成した断面図の比較である。新旧の断面図に共通する層面はむしろ少ない。目につく細粒層を特に選択せず描いた旧図（淡線）は、層面の数は多いが侵蝕面の多くを見逃しており、不整合に気付かず安易に層面を連続させる傾向にあること、侵蝕面と休止面の境界にある傾斜の変化を記録している場合も、侵蝕面そのものを辿らずその上下にある堆積面に注意を奪われていることなどが見て取れる。

### (3) 堆積の状況

以上のような経緯のもと、2年次にわたって作製した地層断面図に編集を加えて図 III-5-9 に示した。土色に着色した範囲がⅡ層である。暗い土色で表示したのは平成13年度発掘の前半までに作図した範囲を示し、中程度の暗さは13年度後半、明るい土色は14年度に図化した範囲を示す。橙色・紅色は遺構断面、稲妻状の墨塗りは噴砂脈、細い墨線は株痕ほか自然の攪乱である。淡い灰色はⅠ層、濃い灰色は試掘および発掘調査にともなう攪乱で、30mおきにⅠ層が落ち込んでいるのは河川敷公園整備の際の暗渠工である。図 III-5・7 に見るように、正確には同じ位置に断面を設定できていないことが噴砂脈のずれに明瞭に表れているが、すでに対照の不可能な2年次の層面を無理に整合させる意味はないと思われるので、Ⅱ章で述べた水準の補正を加えたのみで機械的に接合した。両年次の図が

### III 遺跡の環境

重複する箇所では14年度のを優先した。場所にもよるが14年度の図が13年度に比較して西方向へずれているという印象を与えるものとなっている。これはおそらく14年度の調査方格が新規の測量にもとづくことと関連するとともに、13年の図化後に断面に沿って排水溝が掘られた箇所ではこれを避けて10cmほど北側に断面を設定せざるを得なかったことなどの影響もあると思われる。

赤および紫の線は侵蝕面である。面下の堆積物と明らかな不整合をなす場合は赤、侵蝕が細粒の堆積物の上面で止まって準整合に近い状態となる部分を紫で示した。13年度の断面図では侵蝕面をほとんど見落としているが、図の注記や写真から想定される侵蝕面の位置を赤破線で記入してある。また青線は侵蝕面の上端に連なる堆積の休止面で、粘土またはシルトからなる薄い堆積物の上面である。同一線上断面の中で侵蝕面との連続が確認できなくても、交差する他の断面に追跡してそのことが確認できる場合には青線としてある。しかし14年度図化部分以外では侵蝕面の観察が不十分であるためにほとんど特定できない。また先に述べた準整合の関係では、面下に見られる細粒堆積物が侵蝕面と等時的なものでないことは侵蝕がそこからさらに上位に達していることで判断されるのであるが、地層の走行方向の断面でのみ観察した場合にはこの判断は不可能である。図III-8にはこのような面がいくつか現れており、一応紫線で示しておいたが本来青線とするべきものが含まれる可能性がある。

緑線も細粒の堆積物の上面で、堆積休止面と思われるが侵蝕面との等時性を確認できないものである。新しい侵蝕面が先行する侵蝕面を完全に破壊してしまうこともあると考えられるので、たとえ侵蝕面との接点が観察できなくても実際には無堆積面であるという可能性が残る。特にその面に遺構が形成されていれば一旦旧地表として露呈したことはほぼ間違いない。しかし遺構がないという場合、これまでの発掘範囲内にはないからと言って同じ面の全体にないとも判断できないので、ここでは遺構の有無によって色分けすることはしなかった。なお67・69線上に位置し、層面との関係が明確な遺構は表III-1・2に記入してある。

以上3種の面に上位のものから通し番号を与えて命名した。番号は67線上断面・69線上断面のそれぞれについて与え、頭に67-または69-をつけることで区別する。侵蝕面とそれに連なる休止面には同じ番号を与え、番号の後に前者はa、後者はbを付した。これら確実な無堆積を示す層面は、想定上のものを含むとは言え延長245mの67線上で145面に達した。69線上では編集時に追加した3面を除いても149~159線の範囲に71面を観察しており、67線上の同じ範囲で58面を命名したのは過大でないと思われる。次に侵蝕面への連続が確認されない休止面は、その直上位にある無堆積面と同じ番号を与え、小数点以下にさらに通し番号を付けて次の無堆積面までの同種の面を命名した。たとえば67-35a面と67-36a面の間にあるこの種の面2枚は上から67-35.1面、67-35.2面と呼ばれる(図III-5a)。以上を合わせて、命名した面数は67線上で275面、69線で155面あり、各面の所見を表III-1・2に記載した。なお67・69線上の面の一部は153線半・156線半の地層断面によって対比することができ、その関係も表III-1・2に示してある。

青色の線、つまりほぼ確実な無堆積面の下に見られる細粒層は概して薄く、厚さ3cmを超えるものは少ない。これがそれ以下のより粗粒な堆積物を覆う状況はマッドドレイプと表現してよさそうである。土坑の覆土など人為的な堆積物中にはマッドドレイプを攪乱した結果と思われる粘土質シルトの塊を見る場合が多い。一方緑線で示した不確実な休止面では、青線と同様なマッドドレイプを伴うものがある一方、表III-1・2に記入したように面下に複数の細粒層が細かい級化を繰り返す場合や、やはり複数の細粒層が複合した結果か10cm近い厚さをもつ粘土・シルトを伴う場合もあって一様でない。細粒層の細かい反復や肥厚はおそらくそれが堆積の休止期間に侵蝕面上にやや時間をかけて形成された再堆積物であることを示唆していよう。これら再堆積物らしき細粒層は灰色に還元されてい

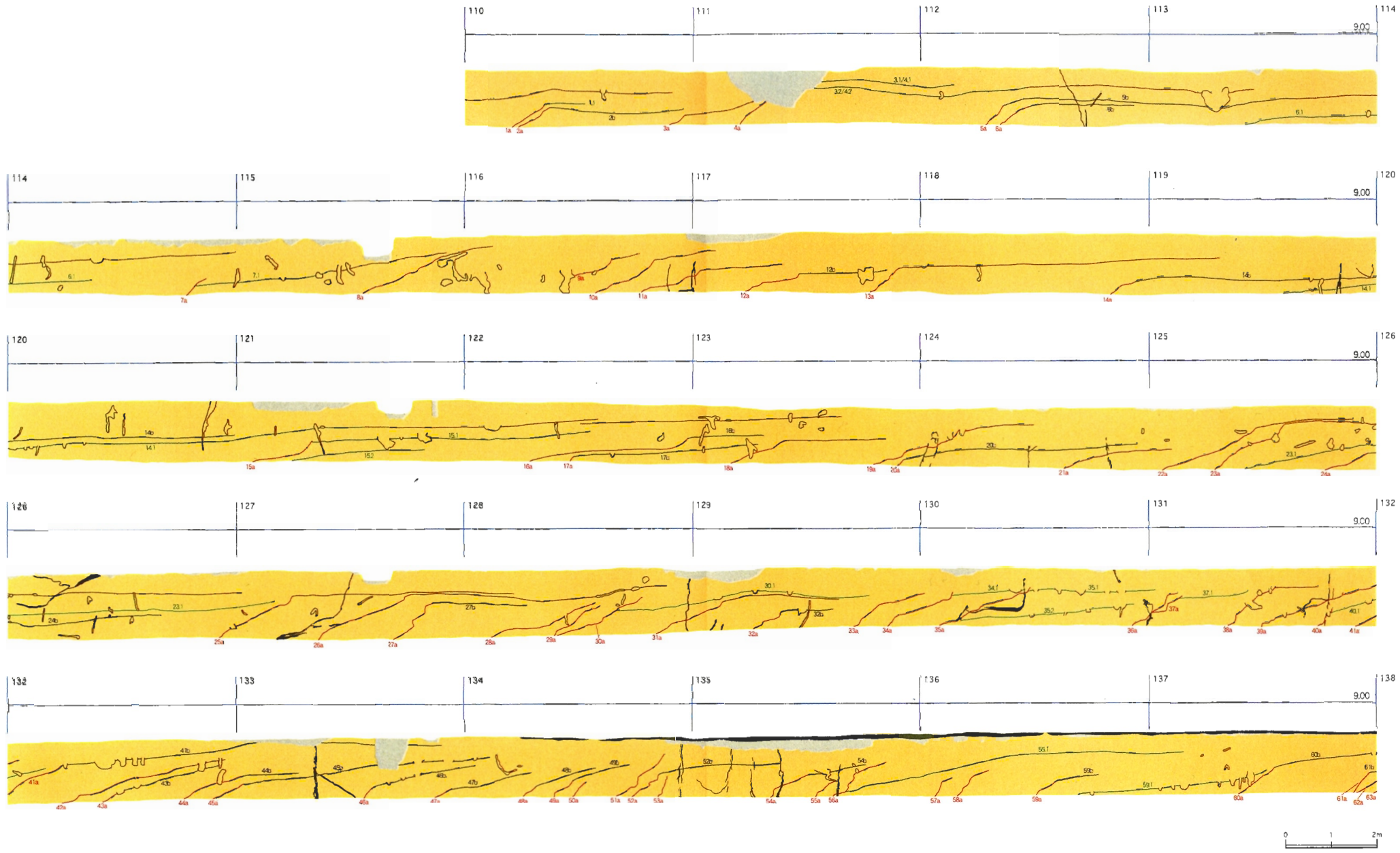


圖 III-5a 67 線上地層剖面 (1)

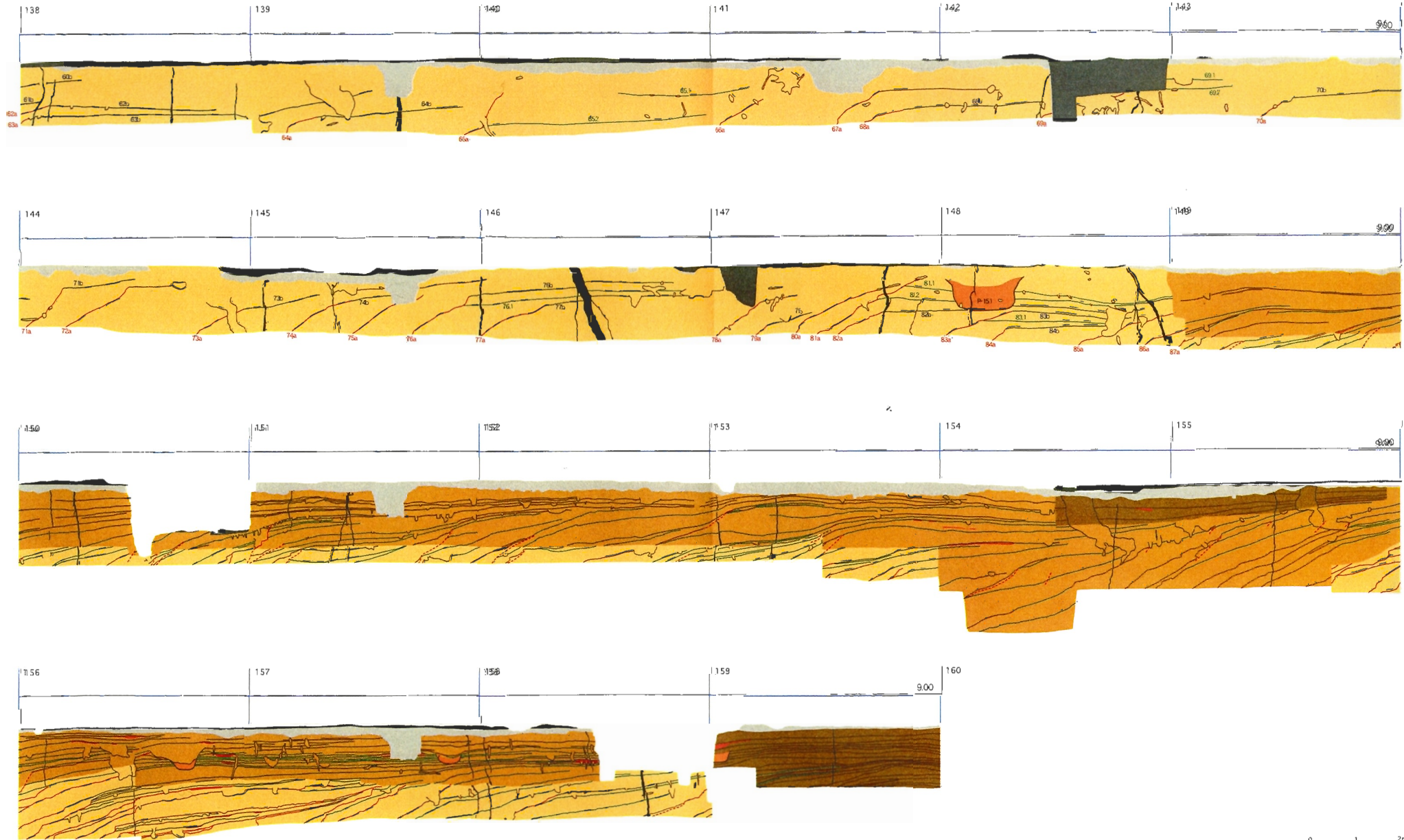


图 III-5b 67 線上地層断面 (2)

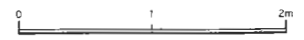
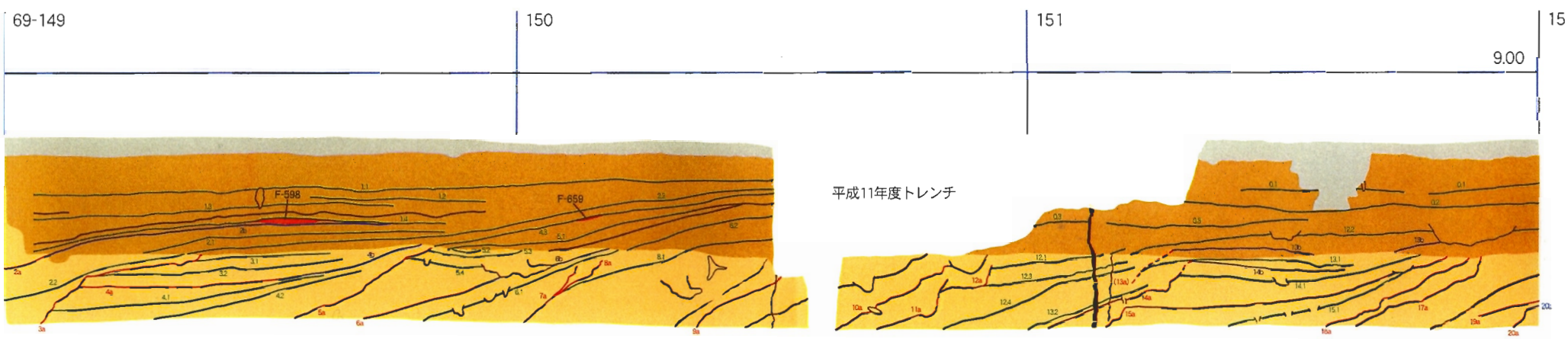
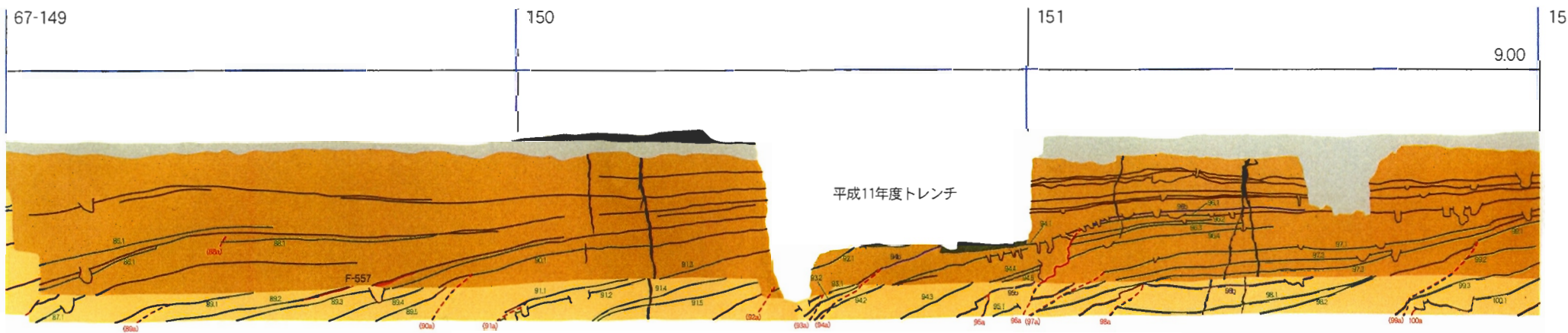


図 III-6a 67・69 線上地層断面 (1)

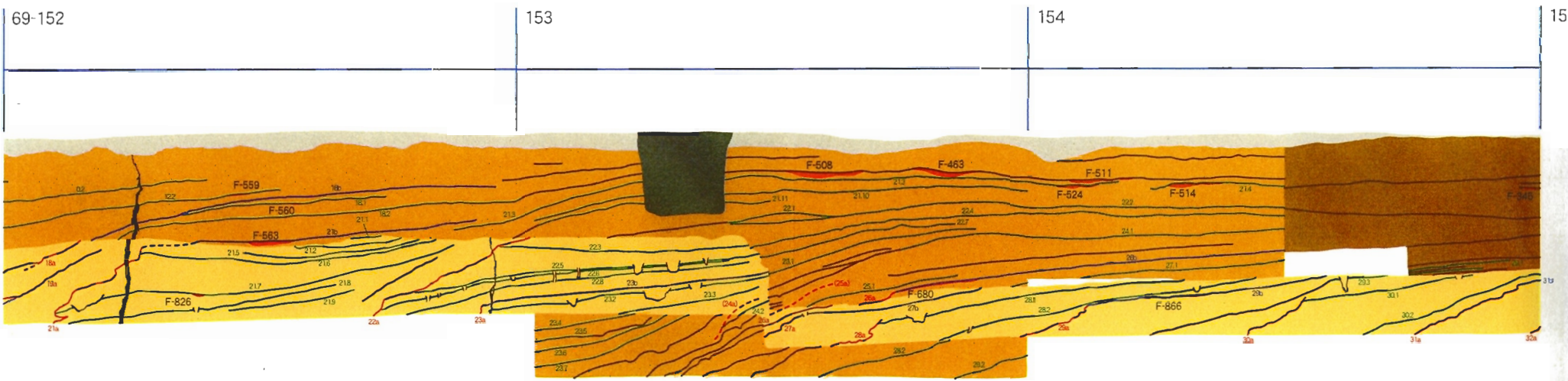
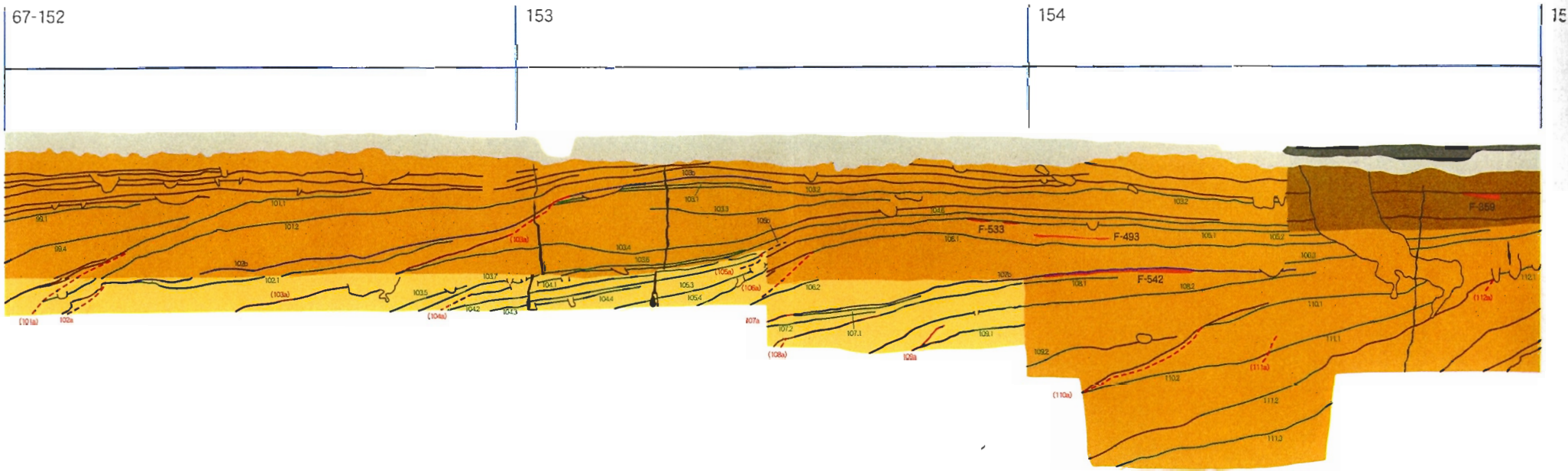


图 III-6b 67·69 線上地層断面 (2)

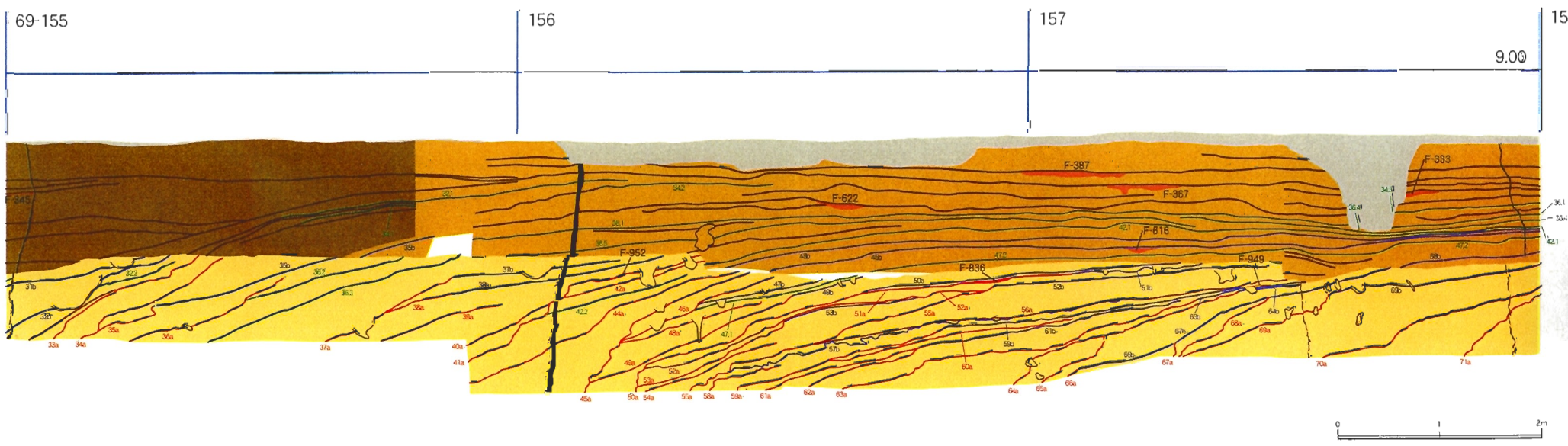
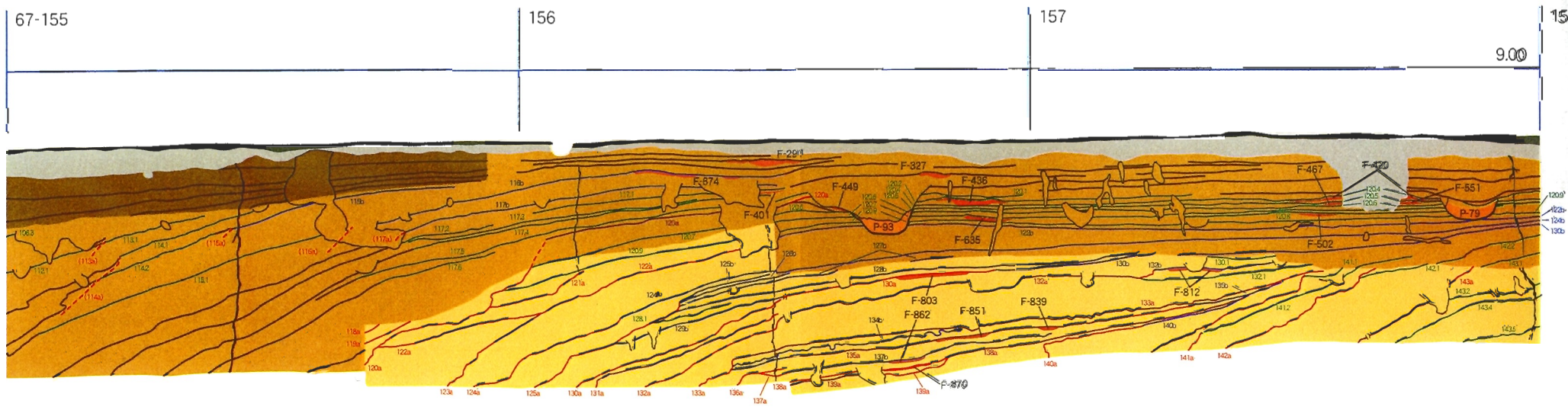


图 III-6c 67·69 綫上地層断面 (3)



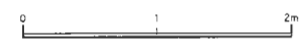
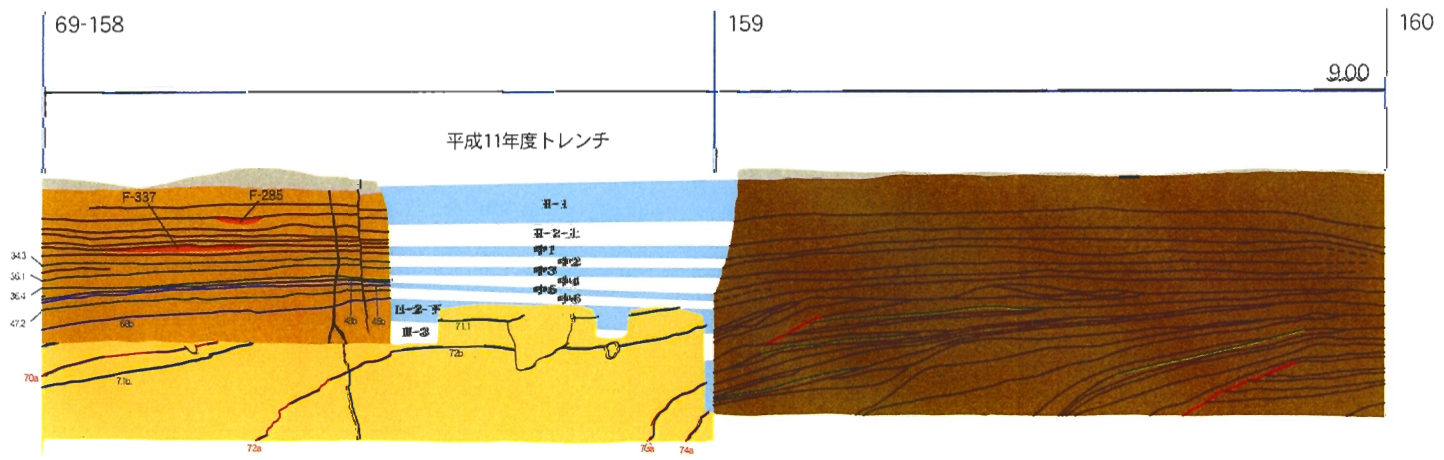
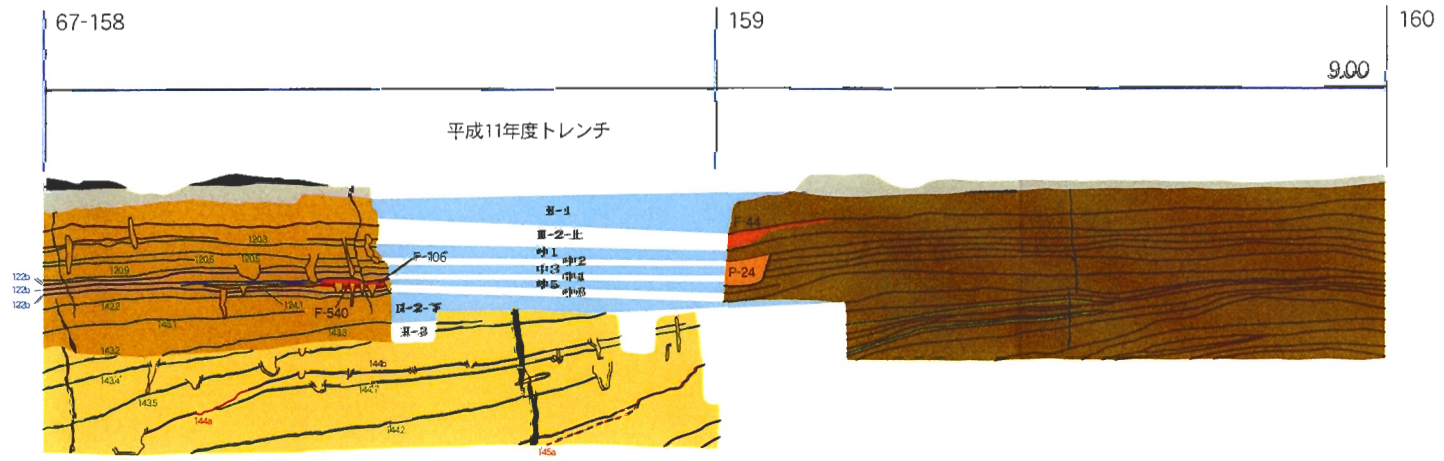


図 III-6d 67・69線上地層断面 (4)

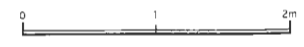
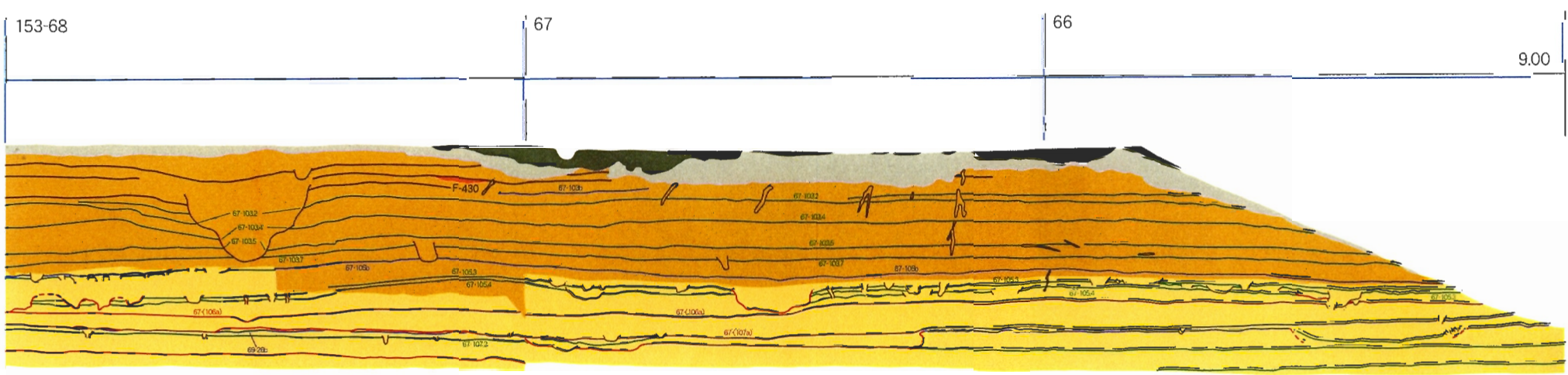
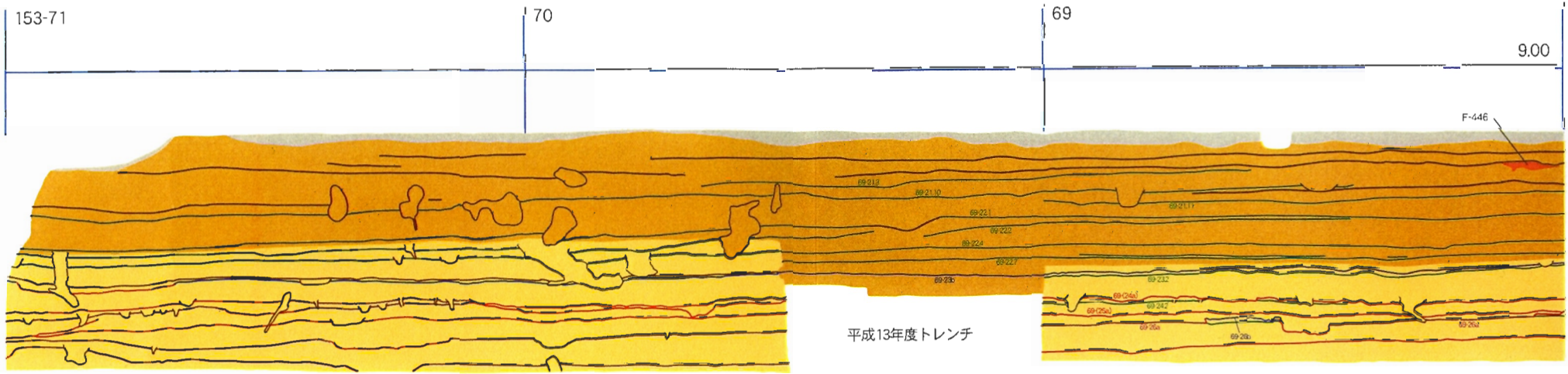


図 III-7 153 線半上地層断面

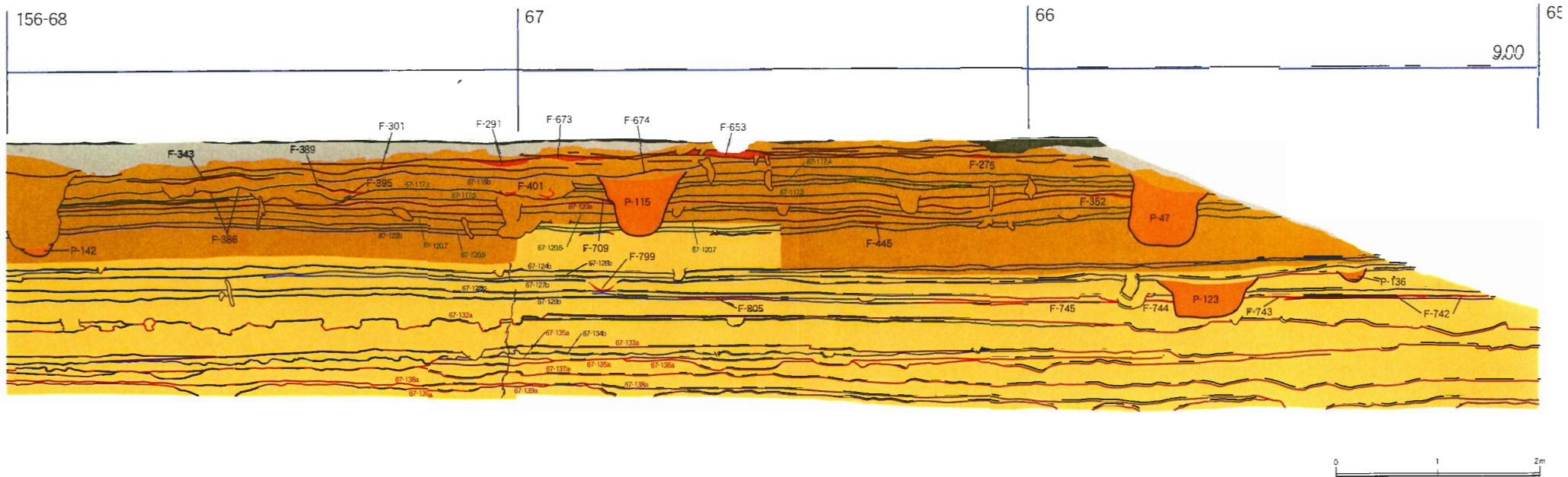
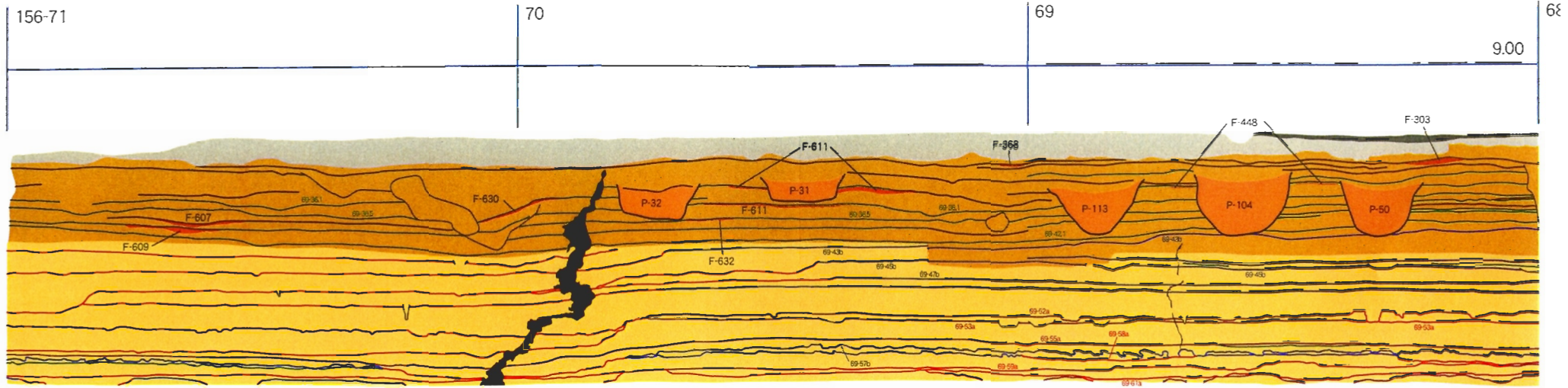


图 III-8 156 线半上地層断面

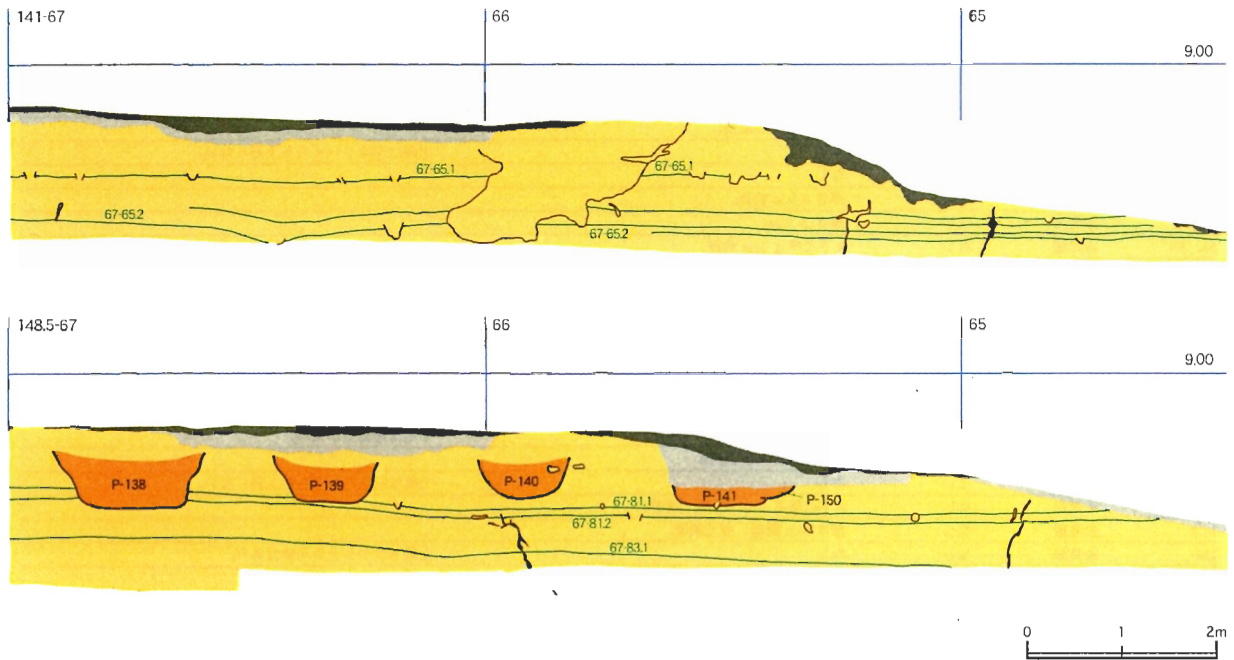


図 III-9 141 線・148 線半上地層断面

る場合が多く、含まれていた有機物が酸素の乏しい地中ないし水中で分解されたことを考えさせるのに対し、無堆積面下のそれは黄褐色ないし黄橙色を呈し、より酸化的な環境を示唆することが多い。今後はこのような類型化を進めて再堆積面と初生的な堆積面との区別を徹底し、堆積構造の理解を整頓する必要があると思われる。

なお茶色の線は肉眼で上下に比較して細粒の堆積物を確認できなかった面と、そのような休止を示唆する層の有無について記録のない面とをまとめた。堆積物の粒度や色調の不連続な変化、遺構・遺物の面的出土、植物の根痕を含む土壌化痕跡など様々な根拠で認定した面を一括している。その傾斜・走行の傾向は上記の3種の面と合致し、かなりの程度まで地層の構造を反映していると思われるが、層序の体系に正確に位置づけることは困難で、名称は与えていない。

以上図表の説明が長くなったが、地層断面を通観して、遺跡の地層が調査方格に概ね平行・直交する走行と傾斜を示すことが明らかであるとともに、その形成が場所により一様には進行していないことが窺われる。67線上では128区、134区、147区、151区、155~157区など、69線上では151~152区、155~157区などに狭い間隔で侵蝕面が出現し、堆積の北西方向への付加が停滞したことがわかる。また156線半断面では69~70区に侵蝕面の累積があり、やはりそれ以北に比べて堆積の進行が遅れたことを示す。おそらくこのような平面的な停滞の結果、同一地点に反復して同程度の厚さの堆積物が形成され、一方では生活面の累重を明瞭にする結果をもたらしているが、他方このように跛行的な地層形成のため地点間で遺構・遺物の帰属する旧地表面を対比する作業は単純でなく、原則として無堆積面そのものを連続的に検出していくことによってしか確定できないことが理解されよう。

また、侵蝕面の認識によって堆積構造の理解に変更をきたしたとは言え、少なくとも侵蝕を受けていない範囲では各単位の堆積物が傾斜の方向に沿って著しい厚さと粒度の変化を示し、ごく僅かな位置の違いで碎屑物を運んだ流れの速度に大きな差があったとみられること、したがってこの流れは風でなく水流であり、その速さの変化方向に直交する流れの軸をもっていたであろうことについては、昨年度の報告での推論（財団道埋文編2002の30頁）を変更する必要がないようである。推定される

### III 遺跡の環境

表 III-1 層面一覧 (67 線上)

名称	69 線上の名称	断面上の遺構	面下の細粒堆積物	所見
1a	未発掘	なし	なし	もう少し上位に達する可能性あり。
1.1	未発掘	なし	厚さ 0.5cm 前後。	
2a, 2b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1cm 弱。	
3a	未発掘	なし	なし	上限は図よりいくらかも上昇しない。
4a	未発掘	なし	なし	
3.1/4.1	未発掘	なし	厚さ 0.5cm 前後。	
3.2/4.2	未発掘	なし	厚さ 2-3cm。	
5a, 5b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	
6a, 6b	未発掘	なし	b 下に厚さ 0.5-5cm。複数単位複合するか。	
6.1	未発掘	なし	厚さ 2cm 前後、還元顕著。	
7a	未発掘	なし	なし	さらに上位に達する可能性あり。
7.1	未発掘	なし	厚さ 3-4cm、左端は還元やや顕著。	
8a	未発掘	なし	なし	上限は確認しがたい。
9a	未発掘	なし	なし	さらに上位に達する可能性あり。
10a	未発掘	なし	なし	上限は確認しがたい。
11a	未発掘	なし	なし	上限は確認しがたい。
12a, 12b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	
13a	未発掘	なし	なし	上限は図よりいくらかも上昇しない。
14a, 14b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1-2cm、還元顕著。	
14.1	未発掘	なし	厚さ 3cm 前後、還元顕著。	
15a	未発掘	なし	なし	上限もう少し上の可能性あり。
15.1	未発掘	なし	厚さ 2cm 前後。	
15.2	未発掘	なし	厚さ 1-2cm。	
16a, 16b	未発掘	なし	b 下に厚さ 2cm 前後。	
17a, 17b	未発掘	なし	b 下に厚さ 3-5cm。	
18a	未発掘	なし	なし	上限は確認しがたい。
19a	未発掘	なし	なし	上限は確認しがたい。
20a, 20b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	
21a	未発掘	なし	なし	
22a	未発掘	なし	なし	上限はほぼこれでよいと思われる。
23a	未発掘	なし	なし	上限はほぼこれでよいと思われる。
23.1	未発掘	なし	厚さ 3-10cm、左下へ厚い。還元顕著。	
24a, 24b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	面下 5-30cm のシルト質細粒砂層に球状なトラフ状クロスラミナ。
25a	未発掘	なし	なし	上限はほぼこれでよいと思われる。
26a	未発掘	なし	なし	上限はほぼこれでよいと思われる。面下 5-20cm の細粒砂層にトラフ状クロスラミナ。
27a, 27b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	
28a	未発掘	なし	なし	
29a	未発掘	なし	なし	
30a	未発掘	なし	なし	上限は確認しがたい。
30.1	未発掘	なし	厚さ 1-10cm、還元顕著。	129 線を過ぎた付近から右手は別の堆積面か。
31a	未発掘	なし	なし	32a 面との中央付近、厚さ 30cm ほどの細粒砂層にトラフ状クロスラミナ。
32a, 32b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
33a	未発掘	なし	なし	
34a	未発掘	なし	なし	上限は確認しがたい。
34.1	未発掘	なし	厚さ 3cm 前後、還元顕著。	
35a	未発掘	なし	なし	上限は確認しがたい。
35.1	未発掘	なし	厚さ 2cm 前後、還元やや顕著。	
35.2	未発掘	なし	厚さ 2-6cm、還元顕著。	
36a	未発掘	なし	なし	上限はほぼこれでよいと思われる。
37a	未発掘	なし	なし	上限はほぼこれでよいと思われる。
37.1	未発掘	なし	厚さ 1-2cm。	
38a	未発掘	なし	なし	上限は図よりいくらかも上昇しない。
39a	未発掘	なし	なし	
40a	未発掘	なし	なし	上限は確認しがたい。
40.1	未発掘	なし	左下へ厚く 5cm に達し、還元顕著。	
41a, 41b	未発掘	なし	b 下に厚さ 2cm 前後。	133 線付近から右手は別の堆積面か。
42a	未発掘	なし	なし	
43a, 43b	未発掘	なし	b 下に左下へ厚く 4cm に達する。	
44a, 44b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	
45a, 45b	未発掘	なし	b 下に左下へ厚く 4cm に達し、還元顕著。	
46a, 46b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1cm 弱。	
47a, 47b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
48a, 48b	未発掘	なし	b 下に厚さ 2-4cm、還元やや顕著。	
49a, 49b	未発掘	なし	b 下に厚さ 2cm 前後。	
50a	未発掘	なし	なし	上限はほぼこれでよいと思われる。
51a	未発掘	なし	なし	上限は確認しがたい。
52a, 52b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
53a	未発掘	なし	なし	上限はほぼこれでよいと思われる。
54a, 54b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	
55a	未発掘	なし	なし	上限は確認しがたい。

表 III-1 続き

名称	69 線上の名称	断面上の遺構	面下の細粒堆積物	所見
56a	未発掘	なし	なし	上限もう少し上の可能性あり。
56.1	未発掘	なし	厚さ 1cm 前後、還元やや顕著。少し下位に厚さ 2-3cm の細粒堆積物があり、右上へ向かって次第に区別困難となる。	136 線半付近から右は別の堆積面か。
57a	未発掘	なし	なし	
58a	未発掘	なし	なし	
59a、59b	未発掘	なし	b 下に厚さ 0.5cm 前後。	
59.1	未発掘	なし	厚さ 5-10cm、還元顕著。	
60a、60b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	
61a、61b	未発掘	なし	h 下に厚さ 1cm 前後。	
62a、62b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1-2cm、還元やや顕著。	
63a、63b	未発掘	なし	b 下に厚さ 2-3cm、還元顕著。	
64a、64b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
65a	未発掘	なし	なし	上限は確認しがたい。
65.1	未発掘	なし	厚さ 0.5-2cm、還元顕著。上下に還元顕著な厚さ 1cm 未満の細粒層複数あり。	
65.2	未発掘	F-947 141 線上断面に F-913・919	厚さ 0.5-1cm。	焼土の形成面であるので図化したと同様の細粒層は上下に数枚あり、この面が特に顕著であるわけではない。
66a	未発掘	なし	なし	上限もう少し上の可能性あり。
67a	未発掘	なし	なし	
68a、68b	未発掘	なし	b 下に厚さ 0.5-1cm。	
69a	未発掘	なし	なし	11 年度トレンチのため一連の面かどうか不明。
69.1	未発掘	なし	厚さ 0.5-1cm。	69 面より上位である可能性もある。
69.2	未発掘	なし	厚さ 0.5cm。	
70a、70b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
71a、71b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
72a	未発掘	なし	なし	上限は確認しがたい。
73a、73b	未発掘	なし	b 下に厚さ 0.5-2cm。	
74a、74b	未発掘	なし	b 下に厚さ 0.5-1cm。	
75a	未発掘	なし	なし	上限はほぼこれでよいと思われる。
76a、76b	未発掘	なし	b 下に厚さ 0.5-1cm。	
76.1	未発掘	なし	厚さ 1cm 前後。	
77a、77b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	
78a	未発掘	なし	なし	上限はほぼこれでよいと思われる。
79a、79b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	
80a	未発掘	なし	なし	
81a	未発掘	なし	なし	
81.1	未発掘	なし	厚さ 1cm 前後。	
81.2	未発掘	なし	厚さ 1-2cm。	
82a、82b	未発掘	なし	b 下に認めるが複数単位複合するようで厚さ明確でない。	
83a、83b	未発掘	なし	b 下に厚さ 2cm 前後、還元やや顕著。	84a 面との間に曖昧なトラフ状クロスラミナのある細粒砂層が見られる。
83.1	未発掘	なし	厚さ 2-3cm。	
84a、84b	未発掘	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
85a	未発掘	なし	なし	
85.1	対応なし	なし	厚さ 2cm 前後。	
86a	未発掘	なし	なし	
86.1	対応なし	なし	厚さ 0.5-2cm。	
87a	未発掘	なし	なし	
87.1	対応なし	なし	厚さ 3cm 前後。	
(88a)	対応なし	なし	なし	想定上の侵蝕面。
88.1	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
(89a)	対応なし	なし	なし	想定上の侵蝕面。
89.1	対応なし	なし	厚さ 2cm 前後、還元顕著。	
89.2	対応なし	F-557	厚さ 1-2cm。	
89.3	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
89.4	対応なし	なし	厚さ 2cm 前後、還元やや顕著。	
89.5	対応なし	なし	厚さ 1-2cm、左下へ向かって還元顕著。	
(90a)	対応なし	なし	なし	想定上の侵蝕面。(91a)との間にトラフ状クロスラミナのある細-中粒砂層。
90.1	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
(91a)	対応なし	なし	なし	想定上の侵蝕面。
91.1	対応なし	なし	厚さ 1-2cm、還元やや顕著。	
91.2	対応なし	なし	厚さ 5cm、還元顕著。複数単位が複合している可能性あり。	
91.3	対応なし	なし	厚さ 2cm 前後。	91.2 面と同一かもしれない。
91.4	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
91.5	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
(92a)	対応なし	なし	なし	想定上の侵蝕面。
92.1	対応なし	なし	左下に厚く 4cm に達する。還元顕著。	
(93a)	対応なし	なし	なし	想定上の侵蝕面。
93.1	対応なし	なし	厚さ 2-3cm。	
93.2	対応なし	なし	厚さ 2-3cm、還元やや顕著。	
(94a)、94b	対応なし	なし	b 下に厚さ 3cm 前後。	(94a)の存在はほぼ確実だが層は想定。
94.1	対応なし	なし	厚さ 5cm に達し還元顕著。	

### III 遺跡の環境

表 III-1 続き

名称	69 線上の名称	断面上の遺構	面下の細粒堆積物	所見
94.2	対応なし	なし	厚さ 8cm に達し還元顕著。	
94.3	対応なし	なし	厚さ 2-3cm。	
94.4	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
94.5	対応なし	なし	厚さ 2cm 前後。	
95a、95b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1-2cm、還元顕著。	
95.1	対応なし	なし	厚さ 2-3cm、還元やや顕著。	
96a、96b	対応なし	なし	b 下に厚さ 0.5cm 前後。	
96.1	対応なし	なし	厚さ 0.5-1cm。	
96.2	対応なし	なし	厚さ 0.5-1cm。	
96.3	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
96.4	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
(97a)	対応なし	なし		想定上の侵蝕面。
97.1	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
97.2	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
97.3	対応なし	なし	厚さ 0.5-2cm。	
98a、98b	対応なし	なし	b 下に厚さ 2-3cm、2 単位複合するらしく下半還元顕著。	98a の存在は確実だが線は想定。
98.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後、還元やや顕著。	
98.2	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
(99a)	対応なし	なし		侵蝕面の存在はほぼ確実だが線は想定。
99.1	対応なし	なし	厚さ 0.5-1cm。	
99.2	対応なし	なし	厚さ 1cm 未満、還元やや顕著。	
99.3	対応なし	なし	厚さ 3cm。	
99.4	対応なし	なし	厚さ 0.5cm 前後。	
100a	対応なし	なし	なし	
100.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
(101a)	対応なし	なし		想定上の侵蝕面。
101.1	対応なし	なし	厚さ 3-7cm。	
101.2	対応なし	なし	厚さ 1-3cm。	
102a、102b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	102a の存在は確実だが線は想定。
102.1	対応なし	F-755	厚さ 0.5-2cm。	
(103a)、103b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	(103a)は想定上の侵蝕面。
103.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 未満。	
103.2	21.11	なし	厚さ 2-4cm。	103.3 との間にトラフ状クロスラミナの発達する細-中粒砂層あり。
103.3	22.1	なし	厚さ 2cm 前後。	103.4 との間にトラフ状クロスラミナの発達する細-中粒砂層あり。
103.4	22.4	なし	厚さ 2cm 前後。	
103.5	対応なし	なし	厚さ 2cm 前後、左下へ向かって還元顕著。	
103.6	22.7	なし	厚さ 2cm 前後、還元顕著。	
103.7	対応なし	なし	厚さ 1-3cm、左下へ向かって還元顕著。	
(104a)	対応なし	なし		侵蝕面の存在はほぼ確実だが線は想定。
104.1	対応なし	なし	厚さ 2-3cm、還元顕著。	
104.2	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
104.3	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
104.4	対応なし	なし	厚さ 1-2cm、還元やや顕著。	
104.5	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
(105a)、105b	23a、23b	なし	b 下に厚さ 3-4cm。	(105a)の存在はほぼ確実だが線は想定。
105.1	対応なし	F-533	厚さ 1cm 未満。	105b と同一か。
105.2	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
105.3	対応なし	なし	厚さ 2cm 前後、還元やや顕著。	
105.4	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
(106a)	対応なし	なし		侵蝕面の存在はほぼ確実だが線は想定。
106.1	対応なし	なし	厚さ 1-3cm。	
106.2	対応なし	なし	厚さ 1cm 未満。	
106.3	対応なし	なし	厚さ 1cm 未満。	
107a、107b	(25a)	F-542	b 下に 1-2cm。	
107.1	対応なし	なし	厚さ 2-4cm、還元顕著。	
107.2	対応なし	なし	厚さ 3-5cm、還元顕著。	
(108a)	対応なし	なし		侵蝕面の存在はほぼ確実だが線は想定。
108.1	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
108.2	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
109a	対応なし	なし	なし	
109.1	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
109.2	対応なし	なし	左下に厚く 4cm に達する。還元顕著。	
(110a)	対応なし	なし		侵蝕面の存在はほぼ確実だが線は想定。
110.1	対応なし	なし	厚さ 2cm 前後。	
110.2	対応なし	なし	厚さ 1-5cm、左下に厚い。	(111a)との間にトラフ状クロスラミナのある細-中粒砂層あり。
(111a)	対応なし	なし		侵蝕面の存在はほぼ確実だが線は想定。
111.1	対応なし	なし	厚さ 3cm 前後。	
111.2	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
111.3	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。直下と同様の細粒層 2、3 枚あり複合した状態で還元やや顕著。	
(112a)	対応なし	なし		想定上の侵蝕面。

表 III-1 続き

名称	69 線上の名称	断面上の遺構	面下の細粒堆積物	所見
112.1	対応なし	なし	厚さ 1~2cm。	
(113a)	対応なし	なし		侵蝕面の存在はほぼ確実だが線は想定。
113.1	対応なし	なし	厚さ 1~3cm。	
(114a)	対応なし	なし		想定上の侵蝕面。
114.1	対応なし	なし	厚さ 2cm 未満。	
114.2	対応なし	なし	厚さ 1~5cm。	
(115a), 115b	対応なし	なし	b 下に厚さ 3cm 未満。	(115a)の存在はほぼ確実だが線は想定。
115.1	対応なし	なし	厚さ 2~4cm。	
(116a), 116b	対応なし	F-674	b 下に厚さ 2cm 未満。	(116a)の存在はほぼ確実だが線は想定。
(117a), 117b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1~4cm。	(117a)の存在はほぼ確実だが線は想定。
117.1	対応なし	なし	厚さ 1~3cm。	
117.2	対応なし	なし	厚さ 2~4cm。2 単位に分かれるか。	
117.3	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
117.4	36.1	156 線半断面に F-401	厚さ 2cm 前後。	
117.5	36.5	なし	厚さ 1~2cm。	
117.6	対応なし	なし	厚さ 1~3cm。	
118a	対応なし	なし	なし	
119a	対応なし	なし	なし	
120a	対応なし	156 線半断面に F-352	なし	破線部分に不整合が存在することは確実。
120.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 未満。	
120.2	対応なし	F-436	厚さ 1cm 前後。	
120.3	対応なし	なし	厚さ 1cm 未満。	
120.4	対応なし	F-420 P-79 掘込み面	厚さ 1cm 前後。	
120.5	対応なし	F-467・551	厚さ 1cm 未満。	
120.6	対応なし	なし	厚さ 0.5~1cm。	
120.7	対応なし	F-635	厚さ 1cm 未満。	
120.8	対応なし	F-502	厚さ 1cm 未満。	
120.9	42.1	なし	厚さ 1cm 未満。	
121a	対応なし	なし	なし	
122a, 122b	43b	なし	b 下に厚さ 1cm 未満。	123a 面との間にトラフ状クロスラミナのあるシルト質細粒砂層あり。
123a	対応なし	なし	なし	124 面との間のシルト質細粒砂層に曖昧なトラフ状クロスラミナが見られる。
124a, 124b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1~2cm。	
124.1	対応なし	F-106	厚さ 1cm 前後。	
125a, 125b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1cm 未満。	
126b	45a, 45b	なし	厚さ 2cm 前後。	156 線半断面で侵蝕面に接続する。
127b	対応なし	156 線半断面に P-123・136	厚さ 1~3cm、2 単位以上複合している可能性あり。	156 線半断面で侵蝕面に接続する。
128b	47b	なし	厚さ 1~4cm、左下に向かって薄く還元顕著。	156 線半断面で侵蝕面に接続する。
128.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後、還元顕著。	
129b	対応なし	なし	厚さ 1cm 未満。	156 線半断面で侵蝕面に接続する。
130a, 130b	対応なし	F-803	b 下に厚さ 1~2cm。	
131a	対応なし	なし	なし	
132a, 132b	52a, 52b	F-812	b 下に厚さ 1cm 前後。	133a との間のシルト質細粒砂層にトラフ状クロスラミナ。
132.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
133a	55a	なし	なし	
134b	57b	なし	厚さ 2~6cm、還元顕著。	面下の細粒層は形成後に攪乱され大きく波打つ。156 線半断面で侵蝕面に接続。
135a, 135b	58a	F-839・851	b 下に厚さ 1cm 未満、還元顕著。	
136a	対応なし	なし	なし	
137a, 137b	対応なし	F-862	b 下に厚さ 1cm 前後、漂白顕著。	
138a	61a, 61b	F-870	なし	
139a	対応なし	なし	なし	
140a, 140b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1~2cm、漂白顕著。	
141a	対応なし	なし	なし	
141.1	対応なし	なし	厚さ 1~3cm。	
141.2	対応なし	なし	厚さ 2~3cm。	
142a	対応なし	なし	なし	
142.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 未満。	142.2 との間に不整合存在するか。
142.2	対応なし	なし	厚さ 1~2cm。	
143a	対応なし	なし	なし	
143.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
143.2	対応なし	なし	厚さ 1~2cm。	143.3 と同一か。
143.3	対応なし	なし	厚さ 2cm 前後。	143.2 と同一か。
143.4	対応なし	なし	厚さ 1~2cm。	143.5 との間のシルト質細粒砂層にトラフ状クロスラミナ。
143.5	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
144a, 144b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1~2cm。	
144.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後らしいがそれ以下の堆積物との境界不明瞭。	
144.2	対応なし	なし	厚さ 1~2cm らしいがそれ以下の堆積物との境界不明瞭。	
145a	対応なし	なし	なし	



III 遺跡の環境

表 III-2 層面一覧 (69 線上)

名称	67 線上の名称	断面上の遺構	面下の細粒堆積物	所見
1.1	対応なし	なし	あり、還元やや顕著。	
1.2	対応なし	なし	あり	
1.3	対応なし	なし	あり、還元やや顕著。2 単位が複合するか。	
1.4	対応なし	F-598	あり、還元やや顕著。	
2a、2b	対応なし	なし	b 下に厚さ 2cm 前後、還元やや顕著。	
2.1	対応なし	なし	あり	
2.2	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後、左下に向かって還元やや顕著。	
3a	対応なし	なし	なし	
3.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
3.2	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
4a、4b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
4.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後、漂白顕著。	4.2 面との間に曖昧なトラフ状クロスラミナのある細-中粒砂層あり。
4.2	対応なし	なし	厚さ 1cm 未済。	
4.3	対応なし	F-659	あり	
5a	対応なし	なし	なし	6a 面との間に曖昧なトラフ状クロスラミナの細-中粒砂層。
5.1	対応なし	なし	厚さ 2-3cm、左下へ向かって還元やや顕著。	
5.2	対応なし	なし	厚さ 1-2cm、還元やや顕著。	
5.3	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
5.4	対応なし	なし	厚さ 1cm 未済。	6a 面との間に曖昧なトラフ状クロスラミナの細-中粒砂層。
6a、6b	対応なし	なし	b 下に厚さ 2cm 前後。	
6.1	対応なし	なし	厚さ 2-6cm、左下へ厚く還元顕著。	
6.2	対応なし	なし	あり、還元やや顕著。	6.1 面と同一か。
7a	対応なし	なし	なし	
8a	対応なし	なし	なし	
8.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	9a 面との間中央部に厚さ 50cm 前後で細-中粒砂層あり、トラフ状クロスラミナが顕著。
9a	対応なし	なし	なし	
0.1	対応なし	なし	あり	10a よりほぼ確実に上位だが正確な位置づけは困難。
10a	対応なし	なし	なし	
0.2	対応なし	なし	厚さ 2cm 前後。	おそらく 9a より下位、11a より上位だが不確実。
0.3	対応なし	なし	あり	同上。
11a	対応なし	なし	なし	
12a	対応なし	なし	なし	
12.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
12.2	対応なし	F-559	厚さ 3cm 前後。	
12.3	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
12.4	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
(13a)、13b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	侵蝕面の存在はほぼ確実だが線は想定。
13.1	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
14a、14b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
14.1	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
15a	対応なし	なし	なし	
15.1	対応なし	なし	厚さ 1-2cm、左下へ向かって還元顕著。	
16a	対応なし	なし	なし	
17a	対応なし	なし	なし	
18a、18b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
18.1	対応なし	F-560	あり	
18.2	対応なし	なし	あり	
19a	対応なし	なし	なし	
20a、20b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1-3cm。	
21a、21b	対応なし	F-563	b 下にあり。	21b が侵蝕面に連なることはほぼ確実だが線は想定。
21.1	対応なし	なし	あり	
21.2	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
21.3	対応なし	F-524	厚さ 1cm 前後。	
21.4	対応なし	F-514	厚さ 1cm 前後。	
21.5	対応なし	なし	厚さ 3cm 前後。	
21.6	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
21.7	対応なし	F-826	厚さ 1-2cm、左下へ向かって還元顕著。	
21.8	対応なし	なし	厚さ 1-2cm、左下へ向かって還元顕著。	
21.9	対応なし	なし	厚さ 1cm 未済。	
21.10	対応なし	なし	厚さ 3cm 前後。	
21.11	103.2	なし	厚さ 1cm 前後。	
22a	対応なし	なし	なし	
22.1	103.4	なし	厚さ 1cm 未済。	
22.2	対応なし	なし	厚さ 1cm 未済。	
22.3	対応なし	なし	厚さ 2cm 前後。	
22.4	103.5	なし	厚さ 1-2cm。	
22.5	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
22.6	対応なし	なし	厚さ 4-6cm、還元顕著。	
22.7	103.7	なし	厚さ 2-3cm。	
22.8	対応なし	なし	厚さ 3-5cm、還元顕著。	
23a、23b	(105a)、105b	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
23.1	対応なし	なし	あり	23b または 23.2 と同一か。
23.2	対応なし	なし	厚さ 6-10cm、左下に向かって還元顕著。複数単位複合か。	
23.3	対応なし	なし	厚さ 1-2cm、還元顕著。	
23.4	対応なし	なし	あり	
23.5	対応なし	なし	あり	
23.6	対応なし	なし	あり	
23.7	対応なし	なし	あり	
(24a)	対応なし	なし		想定上の侵蝕面。

表 III-2 続き

名称	67 線上の名称	断面上の遺構	面下の細粒堆積物	所見
24.1	対応なし	なし	あり	
24.2	対応なし	なし	厚さ 2cm 前後。	
(25a)	107a、107b	なし		想定上の侵蝕面。
25.1	対応なし	なし	あり	
26a、26b	対応なし	F-680	b 下に厚さ 1-2cm。	
27a、27b	対応なし	なし		
27.1	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
28a	対応なし	なし	なし	
28.1	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	28.2 面との間にトラフ状クロスラミナのある中粒砂層。
28.2	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
29a、29b	対応なし	F-866	b 下に厚さ 1cm 未満。	
29.1	対応なし	なし	あり	29b と同一か。
29.2	対応なし	なし	あり	
29.3	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
30a	対応なし	なし	なし	
30.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 未満、還元や顕著。	30.2 との間に侵蝕面が存在する可能性あり。
30.2	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
31a、31b	対応なし	なし	b 下に厚さ 2cm 前後。	
32a、32b	対応なし	なし	b 下に厚さ 2-3cm。	
32.1	対応なし	なし	あり	
32.2	対応なし	なし	厚さ 2-3cm。	
33a	対応なし	なし	なし	
34a	対応なし	なし	なし	
34.1	対応なし	なし	あり	
34.2	対応なし	なし	あり	
34.3	対応なし	なし	あり	
35a、35b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	
36a	対応なし	なし	なし	
36.1	117.4	156 線半断面に F-611	あり	
36.2	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
36.3	対応なし	なし	厚さ 1-2cm。	
36.4	対応なし	なし	厚さ 1cm 未満。	
36.5	117.5	156 線半断面に F-632	厚さ 1cm 前後。	
37a、37b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	37a 面の直上に厚さ 30cm 前後の細粒砂層あり、曖昧なトラフ状クロスラミナ見られる。
38a、38b	対応なし	なし	b 下に厚さ 2cm 前後、左下に還元顕著。	
39a	対応なし	なし	なし	
40a	対応なし	F-952	なし	
41a	対応なし	なし	なし	
42a	対応なし	なし	なし	
42.1	120.9	なし	厚さ 1-2cm。	
42.2	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。	
43b	122a、122b	なし	厚さ 1-2cm。	67 線・156 線半断面で侵蝕面に接続。
44a	対応なし	なし	なし	
45b	126b	F-616	厚さ 2-3cm。	156 線半断面で侵蝕面に接続。
46a	対応なし	なし	なし	
47b	128b	なし	厚さ 0.5-1cm。	156 線半断面で侵蝕面に接続。
47.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後、還元顕著。	
47.2	対応なし	なし	あり	47b または 47.1 と同一か。
48a	対応なし	なし	なし	
49a、49b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
50a、50b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	
51a、51b	対応なし	F-836	b 下に厚さ 1cm 前後。	
52a、52b	132a、132b	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。その下にほぼ接して厚さ 0.5cm 前後の細粒層があり、両者の間が生活面となるらしい。	52b と 56b の間にトラフ状クロスラミナの顕著な細粒砂層が見られる。
53a、53b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
54a	対応なし	なし	なし	
55a	133a	なし	なし	
56a	対応なし	なし	なし	
57b	134b	なし	厚さ 3cm 前後、還元顕著。形成後の水流で激しく波打つ。	156 線半断面で侵蝕面に接続。
58a	135a、135b	なし	なし	156 線半断面で堆積面に接続。
59a、59b	対応なし	なし	b 下に厚さ 0.5-1cm、還元顕著。	
60a	対応なし	なし	なし	
61a、61b	138a	なし	b 下に厚さ 1-2cm。	
62a	対応なし	なし	なし	
63a、63b	対応なし	なし	b 下に厚さ 0.5-1cm。	
64a、64b	対応なし	なし	b 下に厚さ 0.5mm。	
65a	対応なし	なし	なし	
66a、66b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	
67a、67b	対応なし	なし	b 下に厚さ 3-4cm、複数単位含むか。	
68a、68b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1cm 未満。	
69a、69b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1cm 前後。	
70a	対応なし	なし	なし	
71a、71b	対応なし	なし	b 下に厚さ 1cm 未満。直下の細粒層一二枚と複合して厚さ 4-5cm に見える。	
71.1	対応なし	なし	厚さ 1cm 前後。直下の細粒層と複合し 2cm 前後に見える。	71b または 70a 面に接続する可能性あり。
72a、72b	対応なし	なし	b 下に厚さ 2cm 前後。	
73a	対応なし	なし	なし	
74a	対応なし	なし	なし	

### III 遺跡の環境

流れの方向に直交する 67・69 線上断面で砂質の堆積が厚い部分にしばしばトラフ状のクロスラミナが観察される（表 III-1・2）こともこの推論を裏付ける。そして少なくとも現在の石狩川河道とは全く異なる方向をもつこの水流を、古豊平川のものともみなすことが自然であると思われる。

67 線上断面において、II 層上面の標高が最も低くなる 125 線付近から西では侵蝕面の出現が概して疎らになる。侵蝕面相互が水平方向に 5m 以上も隔たる箇所が見られるようになり、先に注意した堆積の停滞部とは対照的な様相を示している。1 断面のみの観察で結論するのは尚早であろうが、水成の堆積物に現れたこのような変化は、石狩川との合流点付近における古豊平川の河況の変化と無関係であるとは考えにくい。14 年度の発掘では 130 線付近から西で遺構・遺物がかかり稀であったことと考えあわせれば、今後は遺跡の盛衰と河川環境の変化との関係を究明する視点からの調査も必要となるものと予想される。

#### (4) 深部の堆積

以上のように堆積構造の理解がある程度進んだ結果、遺跡形成当時の地表面が侵蝕面に沿って下方へ、すなわち渇水期における古豊平川の水面までは続いていただろうと考えられるようになったので、II 章でも触れたように人力掘削の終了面からさらに重機による坪掘りをおこない、遺構・遺物の有無を確認することを試みた（図版 II-6）。地形の項で述べたように当時の平常の水位が現在より目だって高かった可能性は小さく、したがって遺跡付近の現石狩川水面に相当する標高 2m 以下まで掘り下げることが必要であるとも考えられたが、深部は崩れやすい砂礫であって危険が伴い、地下水の影響も懸念されたので、ひとまず目下の河川改修計画で切土が見込まれる標高 4m 前後までの状況の確認を目標とした。試掘坑の位置は図 II-3 に示すとおりであり、このうち 3 箇所の南西側壁面の図を反転して掲載した（図 III-10）。これは崩壊を防ぐため傾斜をつけた試掘坑の壁面に現れた層面を 64・66 線に平行な垂直面に投影したもので、このような垂直断面が実在するというわけではない。

断面の上部では侵蝕面・堆積面とも例外なく北西方向に傾斜しており、これらは浅部に現れる侵蝕面やそれを覆う再堆積面に連なるものとして理解できる。しかし深度が増すにつれ傾斜の弱い層面が現れ、標高 4m 前後から下ではほぼ水平に近く、薄い礫層を伴う侵蝕面（64-130 坑・64-139 坑）を見ることができる（図版 III-2）。これらは斜面の崩壊、つまり主に堆積物に働く重力の作用によって理解される上位の層面とは異なり、堆積物を水平方向に押し流す水流の作用で生じたものと考えられる。ほぼ同じ高さに規模の大きいトラフ状のクロスラミナと思われるもの（66-154 坑）が見られることもこの見方を支持するであろう。これらの侵蝕面を基底として堆積する礫混じりの砂層は増水時の流路内に形成されたものとみてよいと思われる。水流の衰えあるいは静止にともなってこの砂層はシルト質の堆積物に覆われるが（64-130 坑・64-139 坑）、この堆積面もそのままでは保存されず、旧地表から連なる侵蝕に切り込まれる場合がある（64-139 坑・66-154 坑）。したがってこれらのほぼ水平な地層は、渇水時には水面上に現れる洲の堆積物であると考えるのが妥当であろう。

すでに地形の項で、遺跡が古豊平川の自然堤防とみられる地形の中に形成されていることを述べた。とは言えその微高地の平面形からみて、遺跡は想定される古豊平川の凸岸側にあり、通常自然堤防の発達するとされる凹岸にはない。13 年度の報告でも、顕著な側方付加を示すこの微高地の地層が、自然堤防よりむしろ流路の凸岸側に発達するポイントバー（蛇行洲）のそれに類似することを疑問として挙げた（財団道埋文編 2002 の 30 頁）。今年度の試掘の結果からみると、遺跡の地層の深部には確かに流路内で形成された洲の構造がみられるものの、この洲は主に河岸斜面上方からの堆積物供給によって次第に北西方向へ移動していると考えられる。これは河川の蛇行そのものによって生成

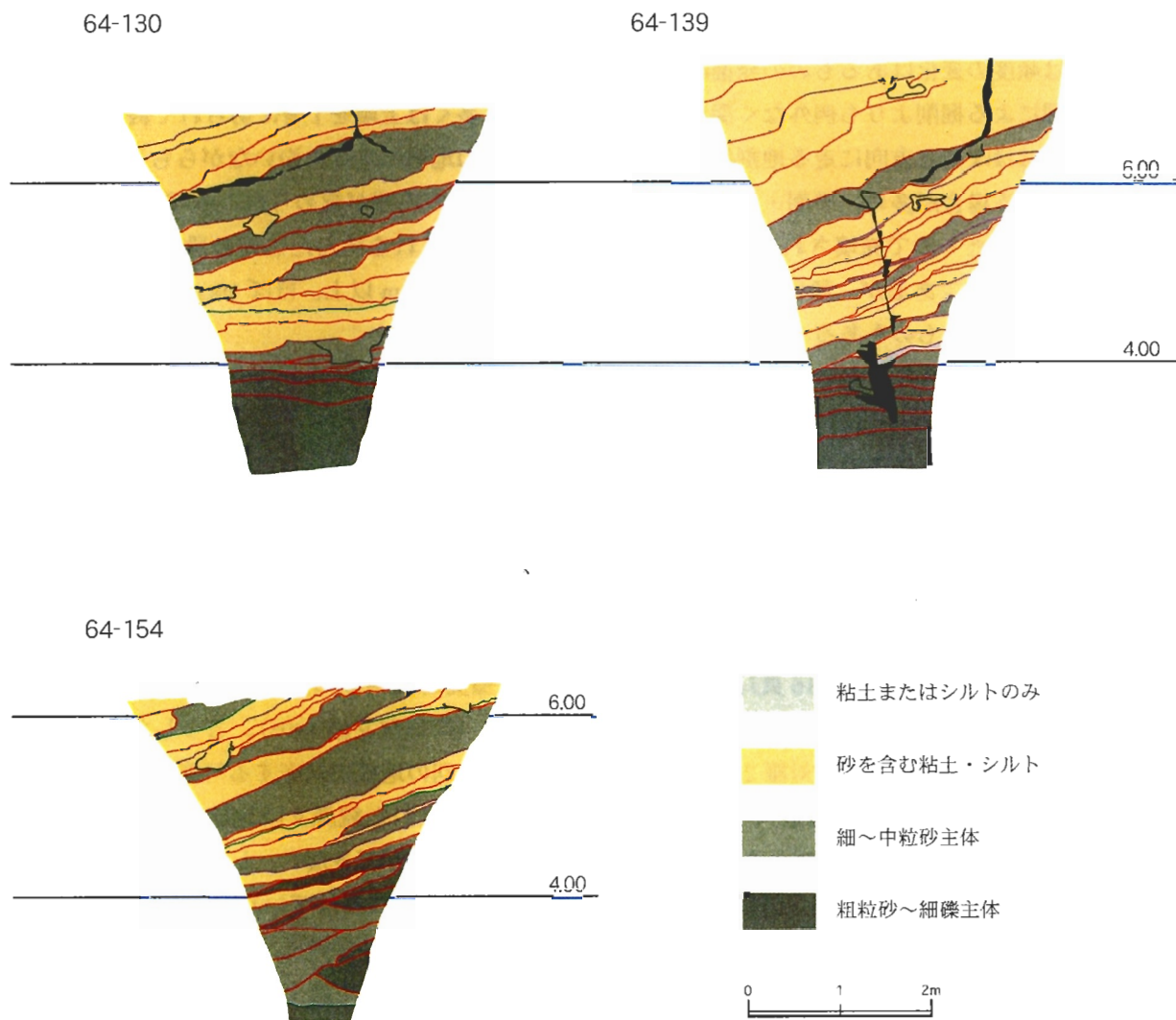


図 III-10 重機坪掘坑地層断面

する典型的なポイントバーとは性格の異なる堆積の機構である。

渾水時の水面からおそらく 6m 以上も上の河岸にまで土砂を運び上げた洪水こそがこの地形の発達の主因であり、蛇行はむしろその結果であったということになる。その意味で、この遺跡の位置する地形を自然堤防と表現するのがやはり正しいようである。もっとも、自然堤防は流路外の地形であるという定義に立ち戻れば、古豊平川に向かって降っていく斜面は流路内ということになるであろうから、多くの侵蝕面と再堆積層からなるこの部分は自然堤防の一部とは言いがたい。侵蝕面の上端、すなわち流路の外縁よりも外側の、洪水時の溢流による堆積面を保っている部分が問題なく自然堤防と呼びうる地形であり、そしてこれまでの知見では、遺物はともかく遺構のほとんどはこの狭義の自然堤防の部分に残っているとみることができる。

#### (5) 噴砂・土壌凍結

すでに述べたように、図 III-5-9 に現れる稲妻状の墨塗りはほとんどが地震時の液状化現象によって生じた噴砂脈である。例外は 67・69 線上の 158 線半付近に見られる I 層を切る亀裂で、これは平

### III 遺跡の環境

成 11 年度の発掘以後にトレンチの壁に沿って生じたずれ落ちである。

噴砂脈は頻度の変化はあるものの発掘範囲の全域に認められる。断面で観察すると、重機坪掘りを含めて発掘による掘削よりも例外なく深い位置から連なり、多くは上端を I 層に切られて終わっている。平面ではほぼ南北方向に走る地割れとして観察され、概ね地層の走行に沿いながらもそれよりも西方向に振れる場合が多い。平面・断面とも分岐・収斂と端部の尖滅が認められ、中~極粗粒砂を主体に細礫を交えたもので充填されている。割れ目の幅、およびこれを挟んだ層面の段差は 3cm を超えない場合が大半であるが、稀には伸張方向に直角に測って幅 10cm 以上、ほぼ 10cm に達する高低差をもたらしているものもある（図 III-5a および図版 III-1、146 区）。

149 線以西では II 層の最上部で急激に上方へ向かって放散するように見える噴砂脈が認められ（図 III-5a、126 区）、地震当時の地表がこの直上にあったことを示すものかとも考えたが、断面の検討によれば倒木痕など土壌密度の低い部分で拡散したもののようである。噴砂丘と思われるものも一切確認できず、概して遺跡の形成時期よりは新しいものが多いと判断される。

札幌市北東部の沖積低地の遺跡群でも従来多くの噴砂脈が確認されており、新旧少なくとも 2 回の地震に関係するものとみなされている（同市埋文編 1998 の 20 頁）。新しい噴砂は同市 K502 遺跡で 1739 年降下の樽前 a 降下軽石（曾谷・佐藤 1980）とみられる火山灰層を切っていることが報告され（同市埋文編 1999 第 3 分冊の 16 頁）、同市 H317 遺跡では擦文時代中頃の第 5 号竪穴住居跡の床面のすぐ上に古い噴砂に由来するとみられる砂層が発見された（同市埋文編 1995）。こうした事例と地理的に近く地質的にも類似する対雁 2 遺跡の噴砂は、これら 2 回の地震に対応する可能性が高い。

一方、札幌市 K39 遺跡の北海道大学構内における発掘で検出された続縄文時代前半頃の噴砂（伏島・平川 1996 の 15 頁）に対応するものは今のところ確認することができない。しかしすでに述べたように、本遺跡では縄文・続縄文時代当時の堆積物の上面が完全には残っていない可能性が高いので、観察された噴砂脈の一部がそこまで遡る可能性も保留しておく必要がある。

噴砂以外の後生的な構造として、土壌凍結の痕跡が観察された。II 層の最上部のほとんど砂を含まない部分では、焼土遺構の焼け土が概ね径 2cm 以下の塊状となって間に焼けていない土が入り込み、焼け面の範囲が曖昧になる現象が普通に経験された。これは土壌の凍結と融解による攪乱と考えられる。砂を挟む下部の地層ではこの攪乱は顕著でなく、砂が凍上を抑制しているとみなされる。こうした凍結痕跡はおそらく遺跡形成時から累積したものであるが、遺構が少なく単調な地層断面をもつ 153 線以西で観察すると現地表に平行して I 層の下面から 40cm 前後の厚さで凍結・融解の結果と思われる土壌の塊状化を見ることができる。現代の河川敷造成後にも凍結・融解による遺跡浅部の攪乱が進行しているものとみなされ、おそらく植生の状況にも影響されるところがあるのであろう。

#### (6) 地層区分の対比

この章の最後に、11・12 年度の報告で記述された地層区分と 13・14 年度のそれとの対比について述べる。この問題については昨年度の報告書でも簡単に触れたが（財団道埋文編 2002 の 30~31 頁）、その際に試みた断面図の合成（同前書の図 III-4・5）には II 章 2 節で述べたとおり標高の誤りが含まれていたため、それを修正して新たに 67・69 線上における地層断面の合成をおこない（図 III-7）、これにもとづいて本書の層面と 11・12 年度地層との対応関係を想定し、表 III-3 に一覧として示した。

要点としては、11・12 年度に「II-1 層」「II-2-上層」として報告したものは前項までに述べた層序の体系に正確に位置づけることが困難であるが、「II-2-中層」とその細別、「II-2-下層」「II-3 層」はほ

表 III-3 13・14年度層面と11・12年度層名の対比

	13・14年度	11年度	12年度	備考
	120.3面	「II-2-中(1)層」上面		
	120.5面	「II-2-中(2)層」上面		
	120.9面	「II-2-中(3)層」上面		120.9面は11年度「II-2-中(3)層」上面を介して69-36.1面に対比されるが、13・14年度の所見では69-42.1面相当であり、整合しない。
67線上での対比	122b面	「II-2-中(4)層」上面		122b面は11年度「II-2-中(4)層」上面を介して69-36.4面かそのやや上に対比されるが、13・14年度の所見では69-43b面相当であり、整合しない。
	124b面	「II-2-中(5)層」上面		
	124.1面かそのやや下	「II-2-中(6)層」上面		
	130b面または142.2面	「II-2-下層」上面		
	143.3面かそのやや上	「II-3層」上面		
	143.5面付近		「II-2-下層」上面	
	144b面のやや上		「II-3層」上面	
	144.2面付近		「III層」上面	
	34.3面より上	「II-2-中(2)層」上面		
	36.1面	「II-2-中(3)層」上面		36.1面は11年度「II-2-中(3)層」上面を介して67-120.9面に対比されるが、13・14年度の所見では67-117.4面相当であり、整合しない。
	36.4面かそのやや上	「II-2-中(4)層」上面		
69線上での対比	43b面か45b面	「II-2-中(5)層」上面		43b面は11年度「II-2-中(5)層」上面を介して67-124b面に対比されるが、13・14年度の所見では67-122b面相当であり、整合しない。
	47.2面かそのやや下	「II-2-中(6)層」上面		
	66b面	「II-2-下層」上面	「II-2-中3層」付近か	
	71.1面	「II-3層」上面	「II-2-中5層」上面	
	72b面		「II-2-下層」上面	
	73a面付近		「III層」上面	

ば本書の層面との関係を判断することができ、各「層」が北西側への程度伸張するかも推定が可能である。「II-2-中層」は侵蝕されない旧地表を挟む安定した堆積物としてはほぼ156線までの範囲でしか分布せず、「II-2-上層」もおそらく156線を大きく北西側へ超えて広がることはないと思われる。

問題は、11年度の158線半トレンチ北西壁の断面図に記録された「層」の一部が12年度の67・69線上地層断面に現れる同名の「層」と整合しないようにみえる点にある。12年の「II-2-下層」「II-2-中6層」は11年の「II-3層」「II-2-下層」よりそれぞれ下位にあるように思われ、また12年の「II-2-中4層」「同5層」は11年の「II-2-下層」または「II-3層」に対比される可能性が高い。こうした不整合は地層の上部になるほど目立たなくなるが、69線上では「II-2-上層」と「同中層」の境界さえ11年と12年の間でよく一致するようには見えない。

12年度の「層」の命名は、11・12両年度の発掘範囲にまたがる遺構を根拠におこなわれており、少なくとも11年度トレンチの南東壁面における層区分と12年度のそれは一致するはずである。したがって11年のトレンチ内で同一「層」の遺構とされたものは、実際には異なる層準のものを含んでいたのではないかという疑問が生じる。遺構を島状に残しながら掘り下げた11年度の調査(図版II-2)では狭いトレンチ内とは言ってもそうした誤認が起こりえたとみるべきであろうか。次章以下では11・13・14の3年次にわたる調査を統合して同一生活面の遺構・遺物と思われるものをまとめながら報告しているが、11年トレンチ内のもの、特に遺物の層序については調査ときに認定された同一「層」の関係を修正する手段がなかった。

以上やや迂遠な説明となったが、既往の地層区分を維持することが実際上困難であり、混乱を避けるために本書で別体系の層序を採用せざるを得ない事情を理解していただけるものと思う。

## IV 遺構

### 1 記載の方法

#### (1) 取上面

II・III章でも述べたとおり現地調査の段階では地層の正確な把握が困難であったため、同一発掘区内の掘り下げで遺構・遺物が面的にまとまって検出されるたびにこれを「取上面」と称し、それを実務上の層位として遺構の記録と遺物収集を行った。取上面には小発掘区ごとに通し番号をつけ、○囲み数字で命名している。その設定のつど取上面記録票に13年度は代表的な遺物の標高とその取上面に帰属する遺構を、また14年度は加えて東西方向の隣接小発掘区における取上面の対応関係を記入した。

本章では必要に応じて現地調査の記録からそのまま転載した取上面を用いながら記載を進める。特に土坑はかなり削平してから検出した場合が多く、検出面を地層や後述する「生活面」に対比する作業にあまり意味が認められないので、主に取上面によってその層位を記述した。現地での記録もれ等の事情により遺構の検出面が取上面の間や上に位置する場合には○○間・○上という記載を行った。

#### (2) 生活面

二次整理作業の中で、発掘区ごとに設定した取上面の対応関係を吟味し、遺構の共有関係や遺物の標高から一連の取上面とみなされるものをまとめて「生活面」を設定した。これはつまり遺構・遺物に基づいて認定した単一旧地表面であるが、地層断面の検討によって認定しIII章で記載した層面とは必ずしも一致しない。層面の間に多数の生活面が存在することもあれば、全く存在しないこともある。また、断面上の遺構から生活面と層面との一致が判明する場合もある。表IV-1に生活面を構成する小発掘区ごとの取上面と、生活面と層面との対応関係を記載している。

生活面の編成にあたっては複数の小発掘区にまたがる焼土・炭化物等と現場における小発掘区間の同一取上面の情報を重視した。焼土・炭化物等が上下に重なる場合は原則として各々を別の生活面とした。遺物のみ検出した取上面が重なっている場合は1つの生活面としてまとめた場合がある。また、小発掘区間の同一面の情報が無い場合においては遺構・遺物の検出標高や層面を目安として生活面の広がりをつまえている。こうした室内での判断に際しては層面をまたがないこと、各小発掘区の間で取上面の順序に矛盾が起きないことを前提とした。

生活面には上位のものから通し番号をつけ、1~245面を設定した。できる限り広範囲に同一生活面を追求することに努めたが、基本的に層面と同様の走向・傾斜を有することから一般に東へ向かうほど上下の生活面が接近し、対応を確定できなくなることが多かった。そのため南北方向には概ね発掘範囲全体にわたって認定できるが、東西方向では小発掘区で2~6区間ほどの広がりとして捉えられた生活面が多い。

#### IV 遺構

遺跡の形成された年代を測定するために平成13年度にF-598(生活面111)・463(生活面137)・622(生活面191)・425(生活面195)・527(生活面213)、14年度にF-756(生活面1)・736(生活面21)から検出された炭化物を用いて放射性炭素年代測定を行い1740±40~2560±30yBPの年代を得た(VI章)。また、11年度に行った測定でF-50(生活面132)・58(生活面189)・120(生活面211)から2470±60~2560±60yBPの年代を得ており(財団道埋文編2000)、13・14年度発掘区内において生活面1~213の範囲では1740±40~2560±60yBPの年代幅があることがわかった。

平面的な遺構である焼土・集石・剥片集中・細円礫集中は記録された取上面への帰属が確実であるので生活面の決定にも問題はなく、同一生活面ごとに編成して図を掲載した。

##### (3) 図の表現・縮尺等

土坑の図は40分の1で掲載している。遺物の出土状況は必要に応じて20分の1図としたところもある。土坑出土土器の8分の1実測図を添えた場合がある。焼土等は80分の1図を掲載している。焼土断面図は特徴的なものを選び40分の1で示した。集石は20分の1で図示している。

平面図の表現は、太実線内が焼土で、濃網は現地性の焼土(焼け範囲)、薄網は廃棄焼土である。細実線内網掛けは薄いものから濃いものへ順に粘土・ベンガラ検出範囲・剥片集中を表す。粗い砂目は細円礫集中、細かい砂目は噴砂である。炭化物が密集する範囲は長破線・疎らに散布する範囲は短破線・微細骨片の範囲は点線で表現している。焼土内では焼成の進み具合により太実線→1点破線→2点破線として状況を表した。また、集石・剥片集中で範囲の示せないものは集石が▲、剥片集中が▼で位置を示している。(酒井)

##### (4) フローテーション成果

遺構土壌のフローテーション成果を表IV-3に掲載している。現地で採取した土壌は年度ごとに通し番号をつけ、これを単位としてII章で記載の要領により処理した。調査の手順に応じて同一遺構・層位の土壌が複数の処理番号に分かれた場合があるが、表ではそれらを合算して示した。

試料の量を示す意味で処理前土壌の風乾重量を記したが、13年度に土壌の一部の計量に使った体重計が狂っていることが処理後に判明した。この場合風乾土壌重量を括弧に入れて示している。また処理後の選別対象の量を示す意味で浮遊物・残渣の重量を示した。浮遊物のうち0.425mm目篩の遺物は草の根等を除去するのが困難であるので、粒の粗い2.0mm目篩の浮遊物から混入物を除いた重量のみ記入しているが、土壌重量と比較して炭化物の多寡を窺うことができる。炭化物から選別された種子の種同定・定量等は未実施であり、後年度に報告する予定である。

炭化物・骨・土器・石器等の重量は0.1g単位デジタル表示の電子天秤で量った。また土器の点数はII章で述べたように径3cmを超えるもののみ数えた。0.0gと表示しているのは微量ながらも選別されたことを示し、選別されなかった場合は「なし」と記入している。土器の点数欄が「0」となっているのは径3cm未満の土器片のみ選別されたことを意味する。石器類の重量は石材の別、打製石器・磨製石器の別等を問わない総量で、黒曜石の重量はその内数である。これらの数値は残渣重量と比較して炭化物以外の微細遺物の多少を窺うことができる。骨の種・部位等の同定も未実施であり、次年度以降に報告の見込みである。

土製品は主に不定形の焼成粘土塊(図版V-22)である。土器片・焼けた高師小僧等との区別に努力したが細かいものでは困難であり、土器との区別に迷うものは土器片として扱った。ベンガラとしたのは赤みの強い鉱物質の粒であるが、真正のベンガラであるかどうか検討したわけではない。また



明らかに石炭と考えられる粒子が選別される場合があったが、その性質からして炭化物との区別が徹底できたわけではない。石狩川の河成層には石炭の砂礫が少量含まれていて当然であるが、I層との接点をもつ遺構から選別されており、近現代の混入物である可能性も排除できない。同様に、F-709から鉛のような概観を呈する非鉄金属の塊が1点選別されているが、この遺構は地層検討用の畦にかかっており、I層の断面から落下した可能性が否定できない。以上は一応表示したものの、いずれもその有無と量に問題のある微細遺物である。 (西脇)

## 2 土坑

### (1) 概要

平成11・13・14年度に検出されたものを合わせると、135基が確認されている。調査は11年度がP-1・3~8、13年度がP-26~120、14年度がP-121~152を行っている。土坑は覆土と包含層の土色・土質が似通っているものが多く検出は困難であった。そのため、土坑は焼土・炭化物との切り合い、遺物の出土状況、周囲との乾き方の差などから検出作業を行った。このような状況により、土坑の上面部分は調査中に気付かず削平してしまったものが多いと考えられる。

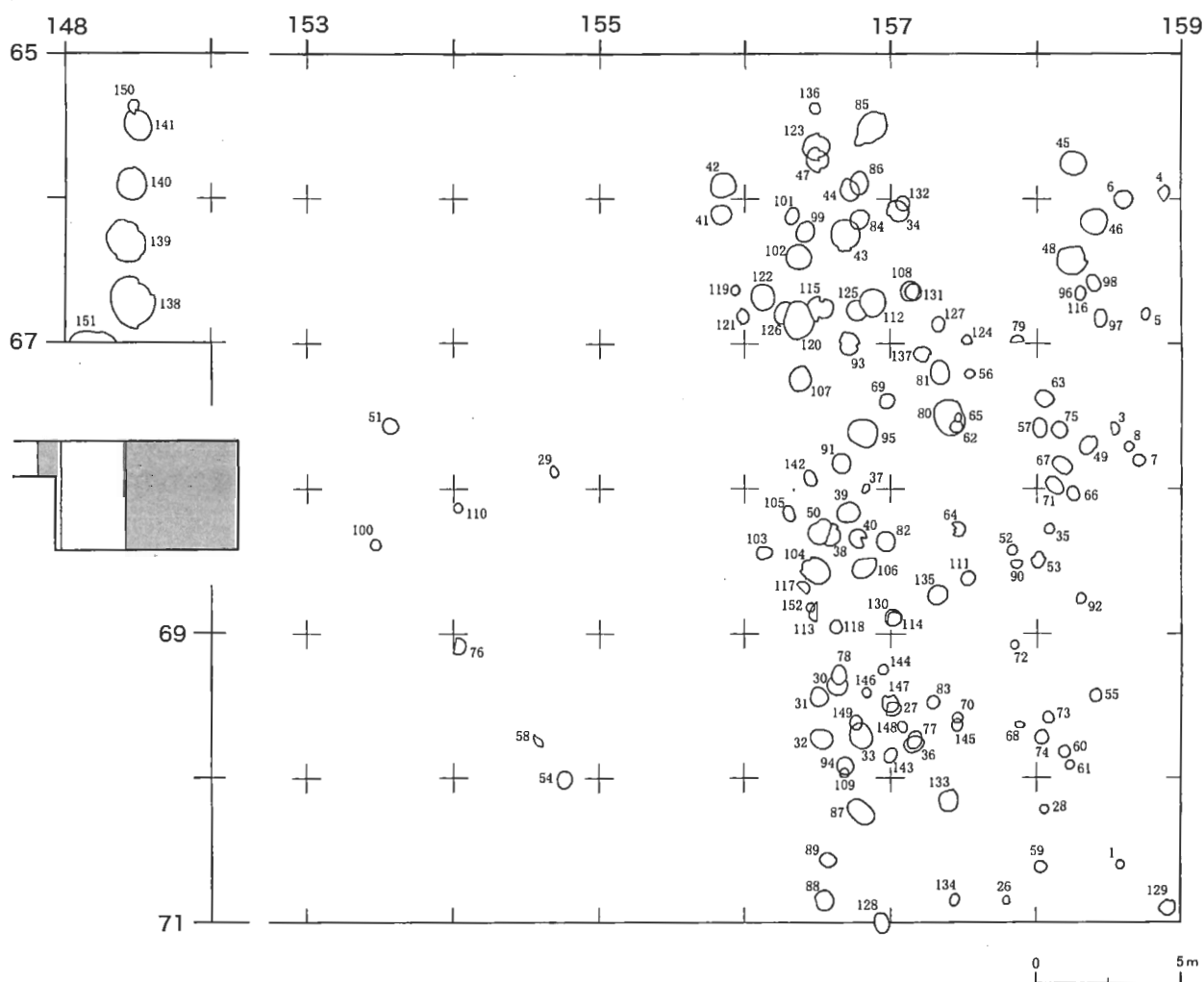


図 IV-1 土坑の位置

#### IV 遺構

今報告範囲で土坑が集中して検出される範囲は 156~158 線付近と 148 線の 2ヶ所である。まばらではあるが、153~155 線からも検出されている (図 IV-1)。周囲から検出される遺物などから考えると土坑の構築時期は 153~158 線の 129 基が縄文晩期中~後葉、148 線の 6 基が続縄文初頭頃にあたると思われる。

土坑の規模・平面形は構築面が確認できないものが多いので検出面で確認したものだが、長径 0.5m 以下の小型のものが 44 基、長径 0.5~1m の中型のものが 71 基、長径 1m 以上の大型のものが 11 基、削平・未調査等により不明なものが 9 基である。148 線の範囲に分布する土坑は P-150 を除きすべて大型のもので未調査部分のある P-151 も大型に分類されるものである。平面形は楕円形に分類されるもの 40 基、円形に分類されるもの 86 基、削平・未調査等により不明なもの 9 基である。

今回検出された土坑の性格としては土壌墓の可能性を考えられるものがあったが、明確に墓と確認されるものは無かった。土坑内からは P-28・35・96 等のように土器片が出土するもの、P-30・49・56・67 のように礫・礫石器が出土するもの、P-92・95・118・146・152 のように灰白色粘土が検出されるものがある。覆土については一部の土坑でフローテーションを行い、骨片・ベンガラ・炭化物・土器片・石器等が検出されている (表 IV-3)。

以下、各土坑についての説明に入る。位置・規模については表 IV-2 を参照されたい。 (酒井)

##### (2) 153 線~158 線

P - 1 図 IV-2・図版 IV-1。70-158-ウ区を調査中に炭化物の混入する円形のプランを確認した。半裁して堀方を確認した。円形で平坦な底面をしている。構築面は不明であるが、検出面よりは上位であると考えられる。

P - 3 図 IV-2。67-158-ウ区を調査中に F-108 (生活面 194) を検出し、それを切る掘り込みを検出した。また、土器片が掘り込み内にあることが確認された。158 線のメインセクションにかかっていたことから壁面を精査したところ確認面から約 0.2m 上位から構築されていることが確認された。土坑西側は壁面の崩落により確認することができなかった。

P - 4 図 IV-2。65-158-ウ区を調査中に F-89 (生活面 194) を切る掘り込みとして検出した。土坑北側は調査中に削平してしまい、西側は確認トレンチにより範囲がわからなくなってしまった。

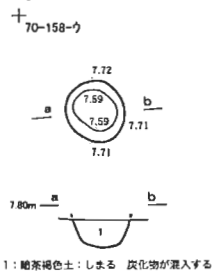
P - 5 図 IV-2。66-158-ウ区を調査中に F-103 (生活面 193) を切る掘り込みとして検出した。南北方向に細長い楕円形で平坦な坑底面をしている。焼土周囲にある小ピットと同様のものである可能性がある。

P - 6 図 IV-2。65-158-ウ区・66-158-エ区を調査中に周囲との土質の異なる円形のプランを確認した。ほぼ円形の平坦な坑底部をしている。遺構西側は噴砂による断層により 5cm ほど落ち込んでいる。本来の構築面は不明であるが、上位に位置する F-62 (生活面 193) を切っていないためさほど深くはならないと考えられる。

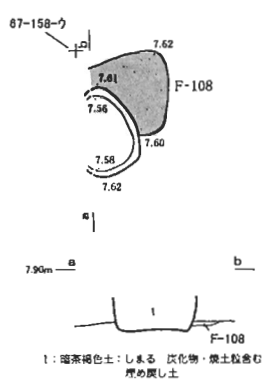
P - 7 図 IV-2。67-158-ウ区を調査中に F-116 (生活面 211) を切る掘り込みとして検出した。円形ですり鉢状の坑底面をしている。覆土は焼土粒・炭化物が混入する流れ込みと見られる。F-116 に土器を設置するために掘られた小ピットと同様のものである可能性がある。

P - 8 図 IV-2。67-158-ウ区を調査中に F-116 (生活面 211) を切る掘り込みとして検出した。円形で平坦な坑底面をしている。覆土は焼土粒・炭化物が混入するが埋め戻しか流れ込みかは判断できなかった。掘り込み面は F-116 よりも上位と考えられるが、上位に位置する F-75 (生活面 194) を切っていないためさほど深くはならないと考えられる。

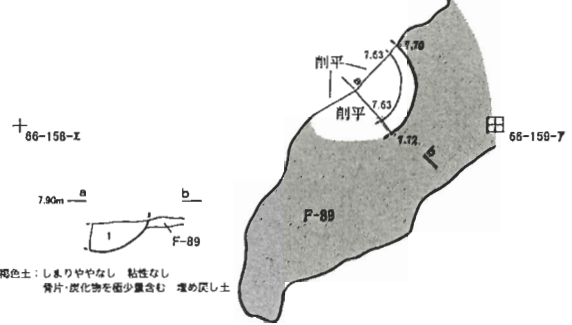
P-1



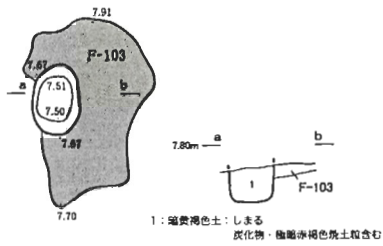
P-3



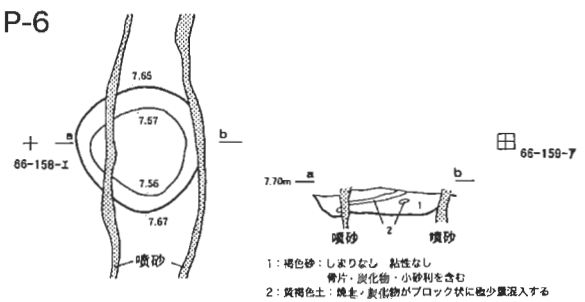
P-4



P-5



P-6



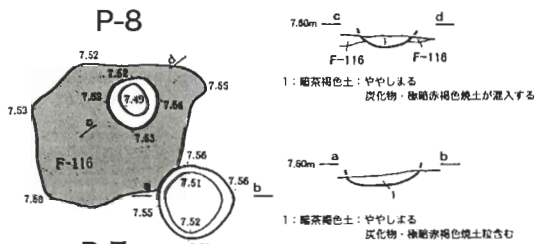
67-158-エ

67-159-7

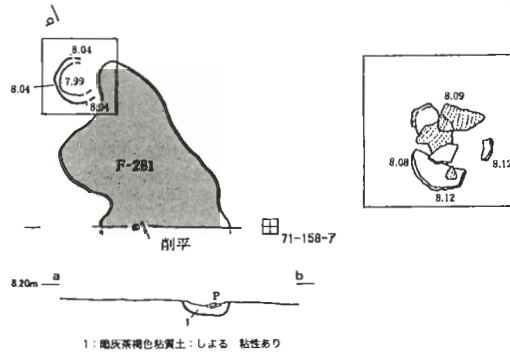
67-158-ウ

67-159-イ

P-8



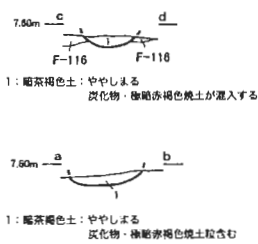
P-26



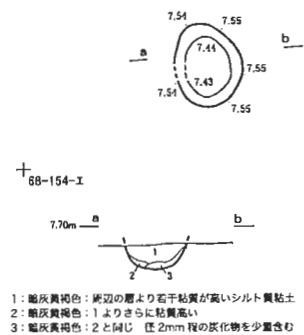
P-7

P-28

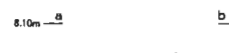
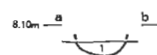
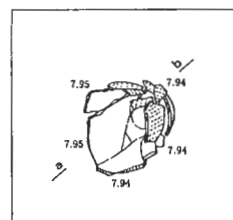
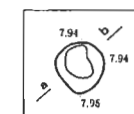
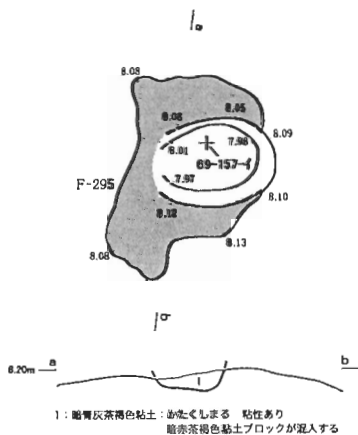
70-158-7



P-29



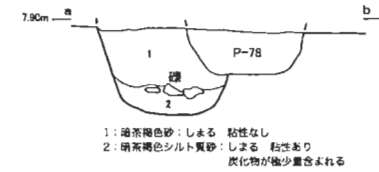
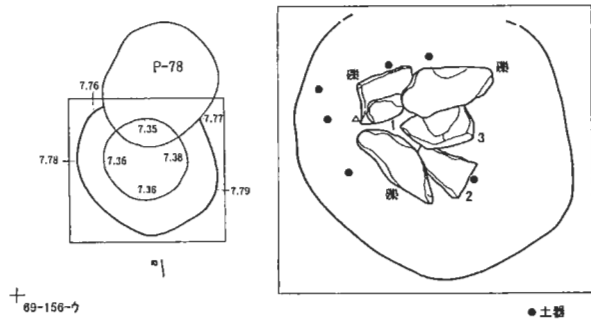
P-27



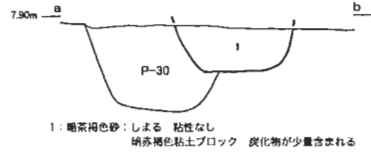
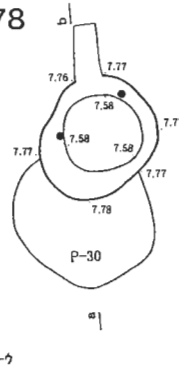
図IV-2 土坑 (1)

IV 遺構

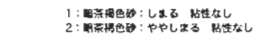
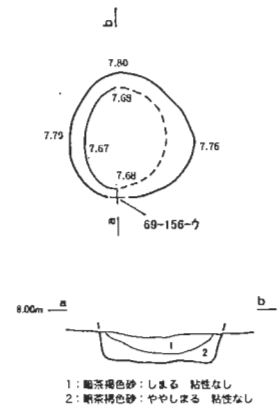
P-30 69-156-ウ



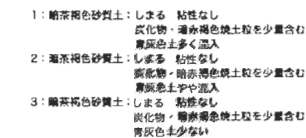
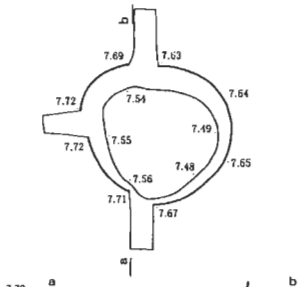
P-78 69-156-ウ



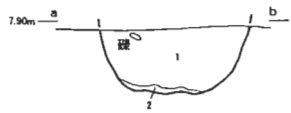
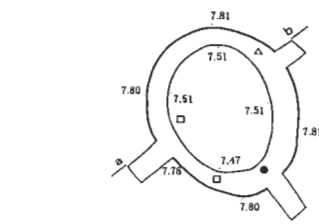
P-31 69-156-ウ



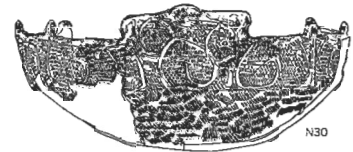
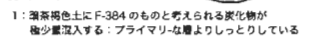
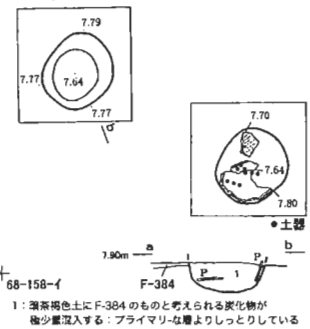
P-32 69-156-ウ



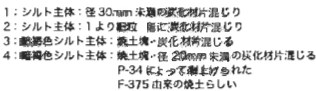
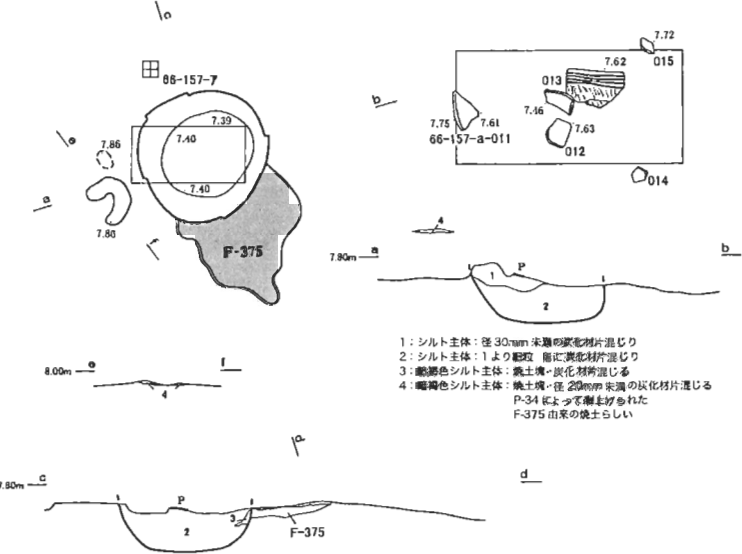
P-33 69-156-ウ



P-35 69-157-イ



P-34 69-157-イ



P-36 69-157-イ

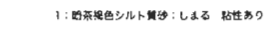
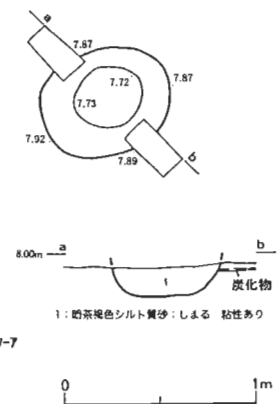


図 IV-3 土坑 (2)

P - 2 6 図 IV-2・図版 IV-1。70-157-ウ区②面を調査中に F-281（生活面 129）を切る掘り込みとして検出した。壁面に沿って落ち込んだと見られる土器片（整理番号 13-461 ほか）が検出されている。土坑東側は遺構確認トレンチにより削平してしまった。

P - 2 7 図 IV-2。F-295（生活面 150）を切る掘り込みとして検出した。東西方向に長い楕円形をしている。覆土には焼土ブロックが混入しており埋め戻されたものと考えられる。掘り込み面は不明であるが、土層観察からこの面よりは上位から掘り込まれたものと思われる。

P - 2 8 図 IV-2・図版 IV-1。70-158-ア区⑤面を調査中に 1 個体の土器片（個体番号 N2）がまともな状態で検出された。土坑壁面に沿うように土器片が出土している。土器の出土状況から見て、掘り込み面はこの面よりやや上位であると考えられる。人為的な掘り込みかどうかは断定できない。（酒井）

P - 2 9 図 IV-2。67-154-ウ区④面調査中に土器が刺さった状態で検出された。土坑の可能性を考慮して断面観察を行なった。覆土は包含層に比べ粘質があり締まりはない。壁面・床面には炭化物が貼り付いており、覆土との境は明瞭であった。土器の検出状況から、掘り込み面は検出面よりやや上位と推測される。  
（吉田）

P - 3 0 図 IV-3・図版 IV-1。69-156-ウ区⑦面・エ区⑦面を調査中に P-31・32・33・78 とともに F-379（生活面 191）を切る掘り込みとして検出した。当初 P-78 とともに 1 つの土坑と考えられたが、トレンチを入れて確認したところ P-30 が P-78 に切られている 2 つの土坑であることが確認された。検出状況から見て掘り込み面は F-379 よりも上位であると考えられるが攪乱のため不明である。ほぼ円形で平坦な坑底面を有する。坑底面やや上の土坑中央部付近から加工痕のある礫 3 点（P-30-1~3）・礫 2 点が集まった状態で出土している。P-30-3 は P-33 出土の礫片（P-33-1）と接合する。覆土は埋め戻されたものと考えられる。遺物の出土状況から見て、土壙墓の可能性を考えられる。

P - 3 1 図 IV-3。69-156-ウ区⑦面・エ区⑦面を調査中に P-30・32・33・78 とともに F-379（生活面 191）を切る掘り込みとして検出し、半裁して調査を行った。坑底面はほぼ円形で平坦と思われるが東側は掘り過ぎにより確認できなかった。覆土の堆積状況から見て掘り込み面は F-379 よりも上位であると考えられる。

P - 3 2 図 IV-3。69-156-ウ区⑦面・エ区⑦面を調査中に P-30・31・33・78 とともに F-379（生活面 191）を切る掘り込みを検出した。トレンチを入れて調査を行い不整形で平坦な坑底面を検出した。平面形は南北方向にやや長い楕円形をしている。覆土の状況から掘り込み面は F-379 よりもやや上位であると考えられる。

P - 3 3 図 IV-3。69-156-ウ・エ区⑦面を調査中に P-30・31・32・78 とともに F-379（生活面 191）を切る掘り込みとして検出した。トレンチを入れて調査を行い楕円形で平坦な坑底面を検出した。平面形は南北方向にやや長い楕円形である。検出状況から掘り込み面は F-379 よりも上位であると考えられる。出土した礫片（P-33-1）は P-30 出土の礫と接合することから同時期のものと考えられる。覆土は埋め戻されたものと考えられる。  
（酒井）

P - 3 4 図 IV-3・図版 IV-2。F-375（生活面 191）を切る掘り込みとして 66-157-ア区⑤面で検出したが、坑壁に沿って落ち込んだものとみられる土器片（66-157-a-011、整理番号 13-22）によって判断すると掘り込みは同区③面かそれ以上から始まるらしい。ほぼ円形の平坦な底面をもち、細かい分層の困難な覆土が覆っている。

遺構の西側に接して 66-156-エ区⑥面に小規模な廃棄焼土層が記録されている。これが P-34 によって掘り上げられた F-375 由来のものであり、遺構の形成面を示すのであるとすると、土坑の本来の深さはほぼ 0.5m であったことになる。  
（西脇）

#### IV 遺構

P - 3 5 図 IV-3・図版 IV-1。68-158-ア⑦面調査中、F-384（生活面 189）由来の炭化物を切って暗茶褐色の円形のプランを確認した。また、壁面に沿うように土器片（個体番号 N30）も検出している。覆土には F-384 のものと考えられる焼土粒・炭化物粒を含む。遺物の出土状況・F-384 との関係から掘り込み面は検出面より上位と推測される。（吉田）

P - 3 6 図 IV-3。69-157-イ⑤面の調査中に炭化物の広がる範囲を検出し、これをほぼ円形状に切る掘り込みとして確認した。トレンチを入れて壁面の確認を行った。底面はほぼ円形で平坦である。この遺構の構築面はもう少し上面であったと思われる。（酒井）

P - 3 7 図 IV-4・図版 IV-1。68-156-エ区⑤面ほかの調査中、やや大きな土器片（67-156-c-015・68-156-d-012、整理番号 13-187）が立った状態で検出されたことから、これらを横断するように断ち割りを加え、小規模な落ち込みの壁に沿って土器片が立っていることを確認した。2つの土器片は同一個体であるが、67-156-c-015 はその天地がほぼ垂直方向であるのに対して、68-156-d-012 は破片の天地方向が水平に近い。人為的な掘り込みであるかどうかは断定困難であった。

P - 3 8 図 IV-4・図版 IV-2。P-39・40 とともに 68-156-d 区⑤面で F-448（生活面 188）を切る掘り込みとして検出した。真上に形成された焼土 F-302・303（生活面 128）は同区②面にあり、掘り込み面はそれより高くなることはないであろう。

半截して調査中に雨水が流れ込み坑壁の一部と地層断面上部が崩壊した。半截の残り部分を調査中に別の土坑（P-50）と切り合っていることに気付いたが、すでに地層の観察が不可能で問題を残した。概ね円形の平坦な坑底を有し、細分の困難な覆土で埋まっている。一応は P-50 の項で述べるとおり P-38 のほうが古いものと考えられる。わずかに出土した土器片は覆土の上部で P-50 の中央へ向かって傾斜した状態で発見されているので、むしろ P-50 に属するものと見たほうがよいかもしれない。

P - 3 9 図 IV-4・図版 IV-2。P-38・40 とともに F-448（ただし焼き火面本体ではなく、その周囲の炭化物層。生活面 188）を切る掘り込みとして検出した。四分して調査したが、断ち割っていないので坑底部は多少掘り足りなかった可能性があり、P-38 などに比べて底が小さく丸い実測図となっている点に疑問がないでもない。覆土は二三の単位に区分できそうであるがそれらの境界は不明瞭で、比較的急速な埋没を示唆する。

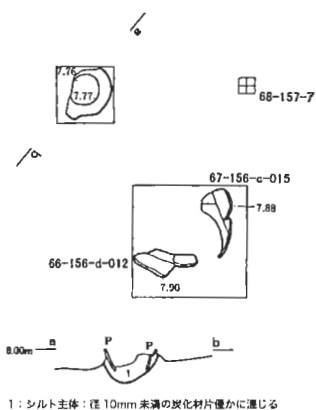
当区④面の焼土 F-330（生活面 131）はこの土坑の真上に位置し、ちょうど P-39 の掘り方におさまるように形成されている。埋まりきらない P-39 の窪みを利用して火が焚かれた可能性があり、あわせて掘り込み面の位置を示唆するものがある。

P - 4 0 図 IV-4・図版 IV-2。P-38 と同様、半截して調査中に雨水が流れ込み坑壁の一部が崩壊した。やはり四分して掘ったが断ち割りは加えておらず、掘り方形状については P-39 同様の問題がある。この遺構の上位には 68-156-エ区④面に焼き火面をもつ焼土 F-331（生活面 131）があり、P-40 の掘り込み面がそれより高くないことを示している。

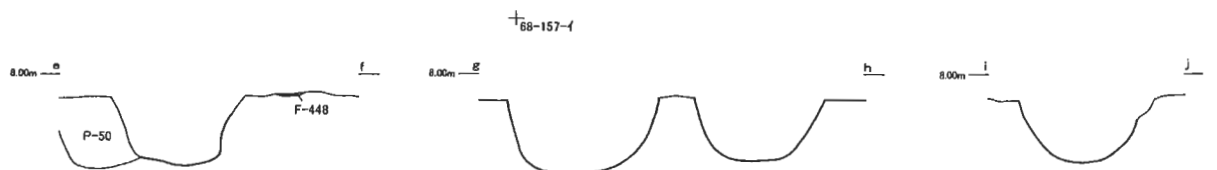
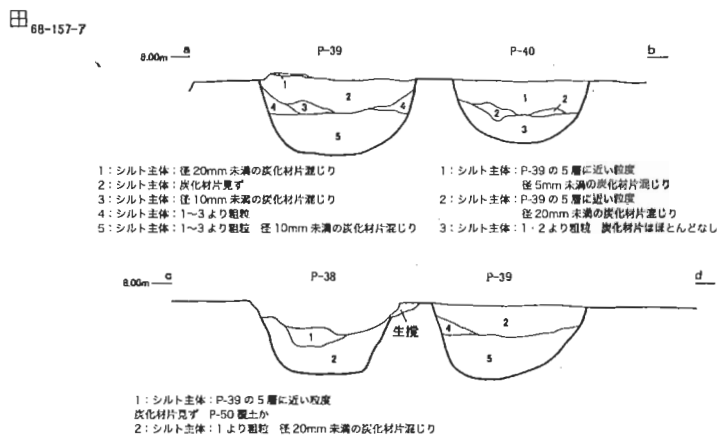
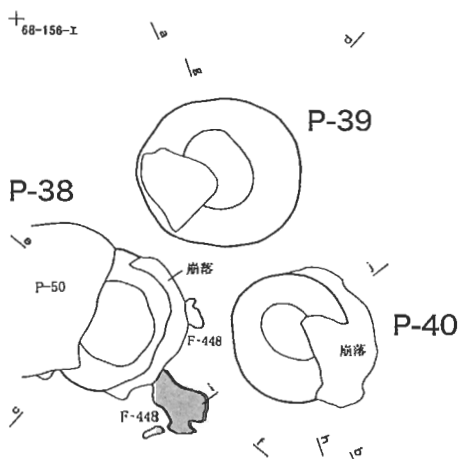
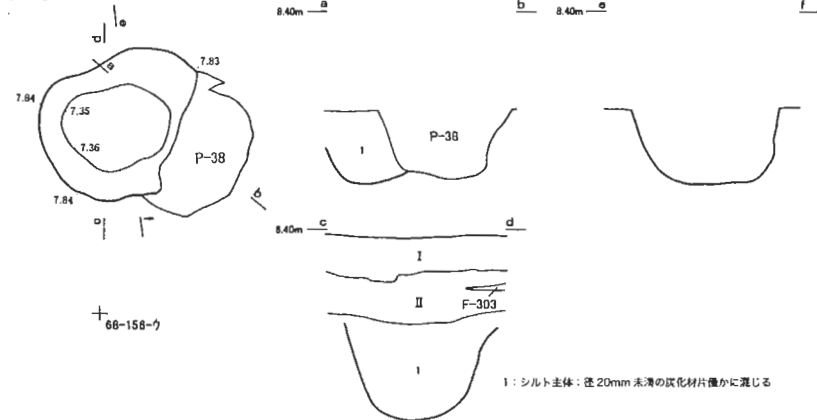
P - 4 1 図 IV-4・図版 IV-2。66-155-エ区③面の少し下位で P-42 と並んで検出したが、掘り込み面はもう少し高いと推察される。小トレンチを入れて掘り方を確認して図化した。平面不整形の丸底、最下部にマッドドレイプ塊を含む人為層らしいものが見られたが、埋め戻しがおこなわれたかどうか明確でない。

P - 4 2 図 IV-4・図版 IV-2。P-41 とほぼ同一深、65-155-ウ区①面の少し下で検出した。底面は東西に長い楕円形で P-41 より少し深く、坑口の開きもより大きい。P-41 より多少深い位置に掘り込み面があったかもしれない。覆土上部の薄いシルト・砂互層（cd 断面 7、8 層）から下は壁面の崩壊ないし埋め戻しで比較的急速に埋まったように思われる。

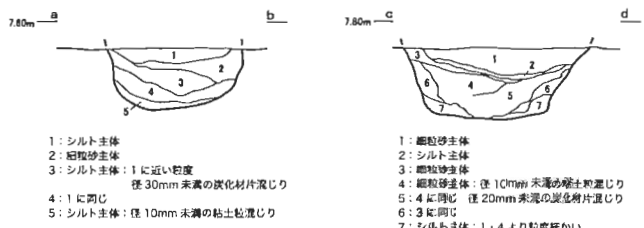
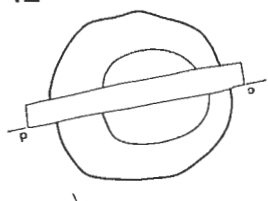
P-37



P-50



P-42



P-41

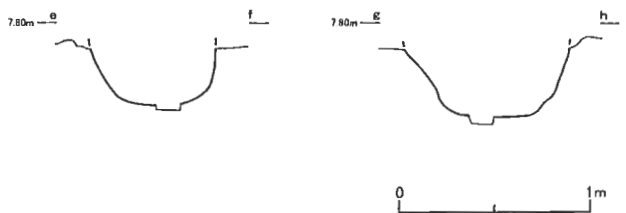
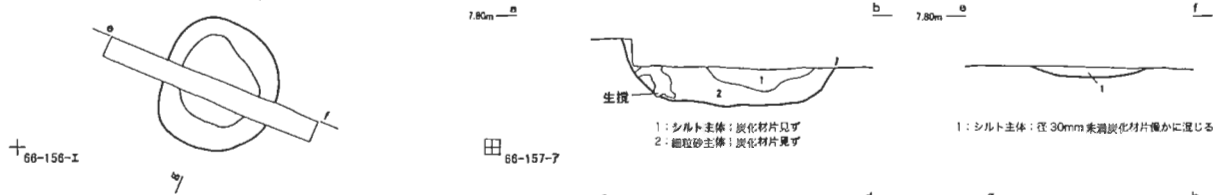


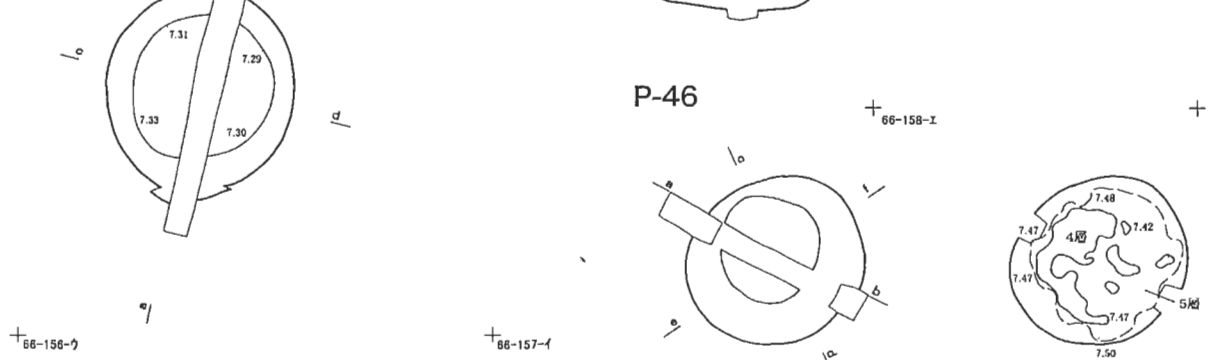
図 IV-4 土坑 (3)

IV 遺構

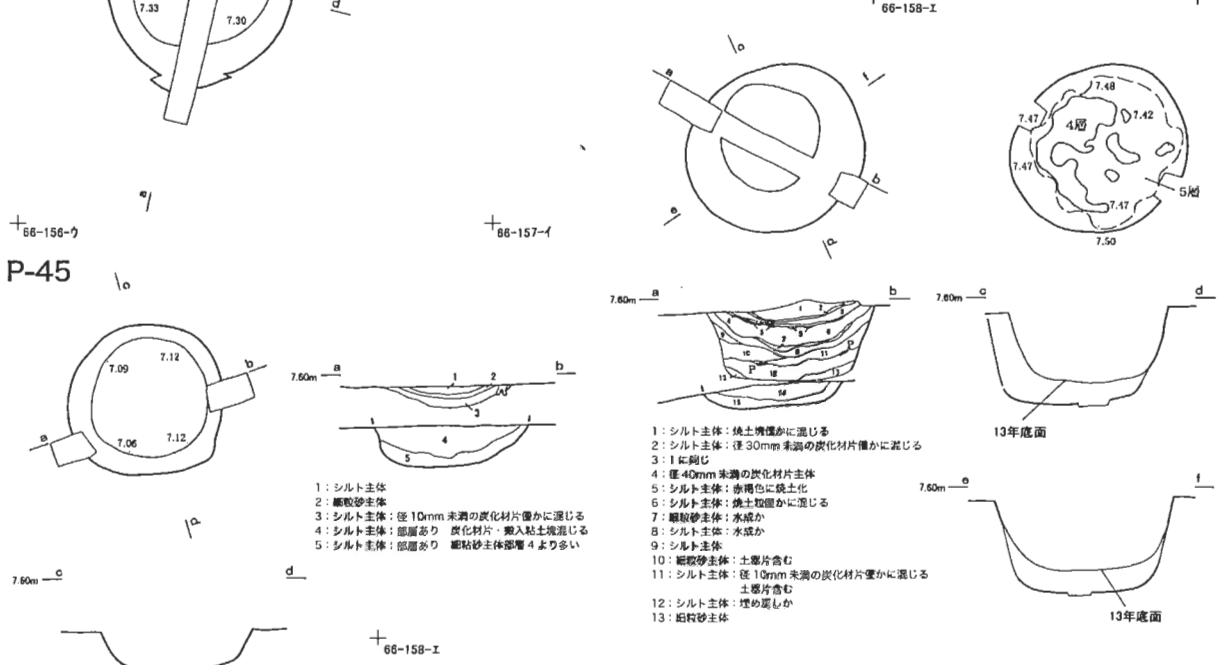
P-44



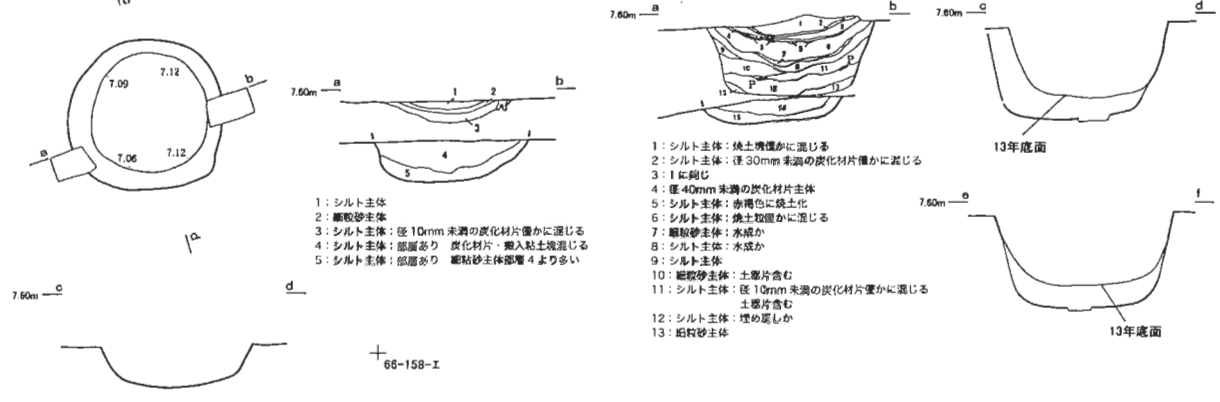
P-43



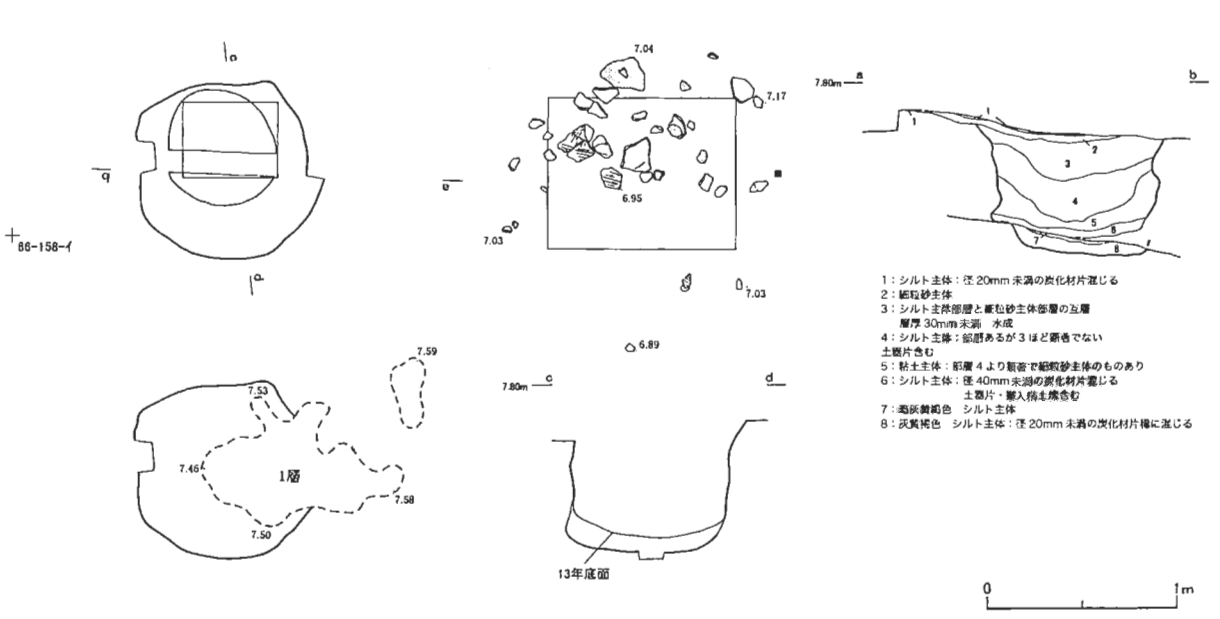
P-46



P-45



P-48



図IV-5 土坑(4)



P - 4 3 図 IV-5. P-44 と並んで 66-156-d 区⑩面で確認した。土の乾き方が周囲の砂主体の地層より遅いことから遺構であると気付いた時点ではすでに相当削平してしまっていた。隣接する焼土 F-373 (生活面 191) 周囲に掘り残した範囲では底面からほぼ 35cm の立ち上がりが確認され、掘り込み面はさらに上位であったと推定される。円形の平坦な底面を有し、当遺跡の晩期土坑としては大きい部類である。

P - 4 4 図 IV-5. P-43 と同じく土の乾き方によって 65-156-ウ区⑦面付近で検出し、小トレンチで断ち割って確認した。この時点ですでにほとんど掘り飛ばしてしまっており、わずかに坑底が残っていたに過ぎない。

P - 4 5 図 IV-5. 65-158-イ区⑥面で検出し、小トレンチを入れたうえで P-43 のように坑底のみを残す遺構とみて一旦調査を終えたのであるが、さらに約 30cm 掘り下げた時点でほとんど同じ位置に丸い掘り込みの輪郭が現れた。断ち割りが不足していたことに気付き、同じ位置にトレンチを復元して確認しなおしたところ、ほぼ円形で丸みがある真の坑底が当初の認識より約 30cm 下にあることが判明した。その後の他の土坑での経験から言って、はじめに調査した薄く淘汰のよい層群 (ab 断面 1~3 層) は比較的坑口に近い位置に形成された水成堆積物であると考えられ、掘り込み面は当初の検出面からそれほど離れていないものと思われる。

P - 4 6 図 IV-5. 66-158-ア区⑧面標高 7.55m 付近で掘り込みの覆土が同心円状に確認され、小トレンチによる断ち割りをを行った。覆土上部に炭化材片が敷き詰められたように出土する面があり (ab 断面 4 層)、その直下は斑状に焼土化していた (同 5 層)。この焼土・炭化物層は土坑外の焼土遺構とは連続せず、この位置に中心をもつものである。土坑が埋まり切る前の浅い窪みの中で火が焚かれたとみてよいであろう。

一旦調査を終え周囲の掘り下げをおこなったが、平成 14 年度に遺構下を掘削したところ再び掘り込みの輪郭が確認され、測点を復元して調査・実測した結果ほぼ確実に P-46 の掘り残しと判断された。13 年度の調査では土坑北西側の掘り方を把握できなかったことが明らかであり、多少南北に長い不整円形で平坦な真の坑底が 15cm 近く下位で確認された。

P - 4 7 図 IV-6. 65-156-ウ区④面で焼土 F-352 (生活面 181) を調査した際、その一部が攪乱されていることに気付いたのであるが、その攪乱が整った掘り方をなすことを認めたのはさらに 30cm 近く掘り下げた同区⑦面であった。幸い遺構の半ばが地層記録用の畦にかかっていたのでその断面を精査したところ、坑壁は F-352 よりさらに 30cm 近く上まで立ち上がっていることが知られた。不整な円形の丸底、ほぼ 80cm の深さを有する。覆土は幾つかの単位に分け得るがその境界は曖昧で、崩壊または埋め戻しにより比較的急速に埋没したように見受けられる。

P - 4 8 図 IV-5・図版 IV-3. ほぼ掘り込み面で検出できた土坑の一つである。66-158-ア区⑧面に炭化材片の散布する範囲が認められ (ab 断面 1 層)、これを半截するように方形の断ち割りを設けて約 10cm 掘り下げたところ、炭化材混じり層から少しずれた位置で土坑の輪郭が見出された。同じ断面に沿ってさらに小トレンチを入れて掘り方を確認した。覆土の上部は比較的淘汰のよいシルトと細粒砂の互層 (ab 断面 3 層) で水成層と考えられる。底近くに炭化材片混じりの薄い粘土質シルト層 (同 6 層) があり、この中に土器片や搬入粘土塊などの遺物が含まれているのが目立った。

この層を除くと汚れない砂質シルト層に達したのでこれを坑底とみなして一旦調査を終えたが、14 年度になって遺構下を掘削したところ再び丸い掘り込みの輪郭が認められ、測点を復元して調査・実測した結果 P-48 の掘り残しと考えざるを得なくなった。当初底面と考えた砂質シルト層は坑壁の下部が崩壊して形成されたものとみられ、真の坑底は約 10cm 下位にあって他の土坑と同様に丸み

#### IV 遺構

を帯びて壁へと移行することが知られた。北側の壁の位置も13年度調査では正確に把握できていなかった可能性が高い。(西脇)

P - 4 9 図IV-6・図版IV-3。67-158-イ区⑦面調査時に礫が立った状態で検出された。土坑の可能性を考慮し断面観察を行なった。その結果、この土坑より下位のF-282(生活面131)を切っており、覆土にもこの焼土由来の焼土粒・炭化物粒・骨片などを含んでいた。包含層に比べ、粘質があり壁面・床面ともに締まっていたのでその差は明瞭であった。床面は円形を呈し壁面へとほぼ垂直に立ち上がる。覆土の堆積状況から人為的埋め戻しが行なわれたと推測される。遺物の出土状況、断面観察から掘り込み面は検出面と同一と考えられる。(吉田)

P - 5 0 図IV-4。P-38の調査中にこれと切り合う土坑の存在に気付いた。その時点ですでに切り合い部分を掘り終えていたのでP-38との先後は不明確であるが、両者の上位に形成された焼土F-302・303(生活面128)はP-50の中心へ向かって傾いている。2つの焼土の形成時点ではP-50が浅い窪みとして残る一方、P-38の痕跡は地表に残っていなかったものらしい。この点P-50のほうが新しいとみるのが妥当のようである。断ち割りを施さずに調査した68-156-エ区内での所見ではP-50の底は確認面から約40cm下と思われたが(ab、ef断面)、その後156線半の地層断面を精査すると底面はさらに10cmほど下位にあることが知られた(cd断面)。また同じ断面で見ると掘り込み面は68-156-ア区内で⑤ないし⑥面にあったらしい。(西脇)

P - 5 1 図IV-6。67-153-ウ区②面調査時に暗茶褐色の円形のプランを確認した。覆土は粘質があり、明らかに検出面より上位のものが均一に堆積する。床面から壁面へは緩やかに立ち上がりボウル状を呈する。覆土の状況から掘り込み面は検出面のやや上位と推測される。

P - 5 2 図IV-6。68-157-エ区⑦面調査時に、炭化物粒・土器片を含み周辺よりやや鈍い土色の円形のプランを確認した。形状は床面から壁面へと緩やかに立ち上がるボウル状を呈した土坑である。掘り込み面は覆土に上層に存在していた炭化物を含むことから、検出面よりさらに上位であると考えられる。

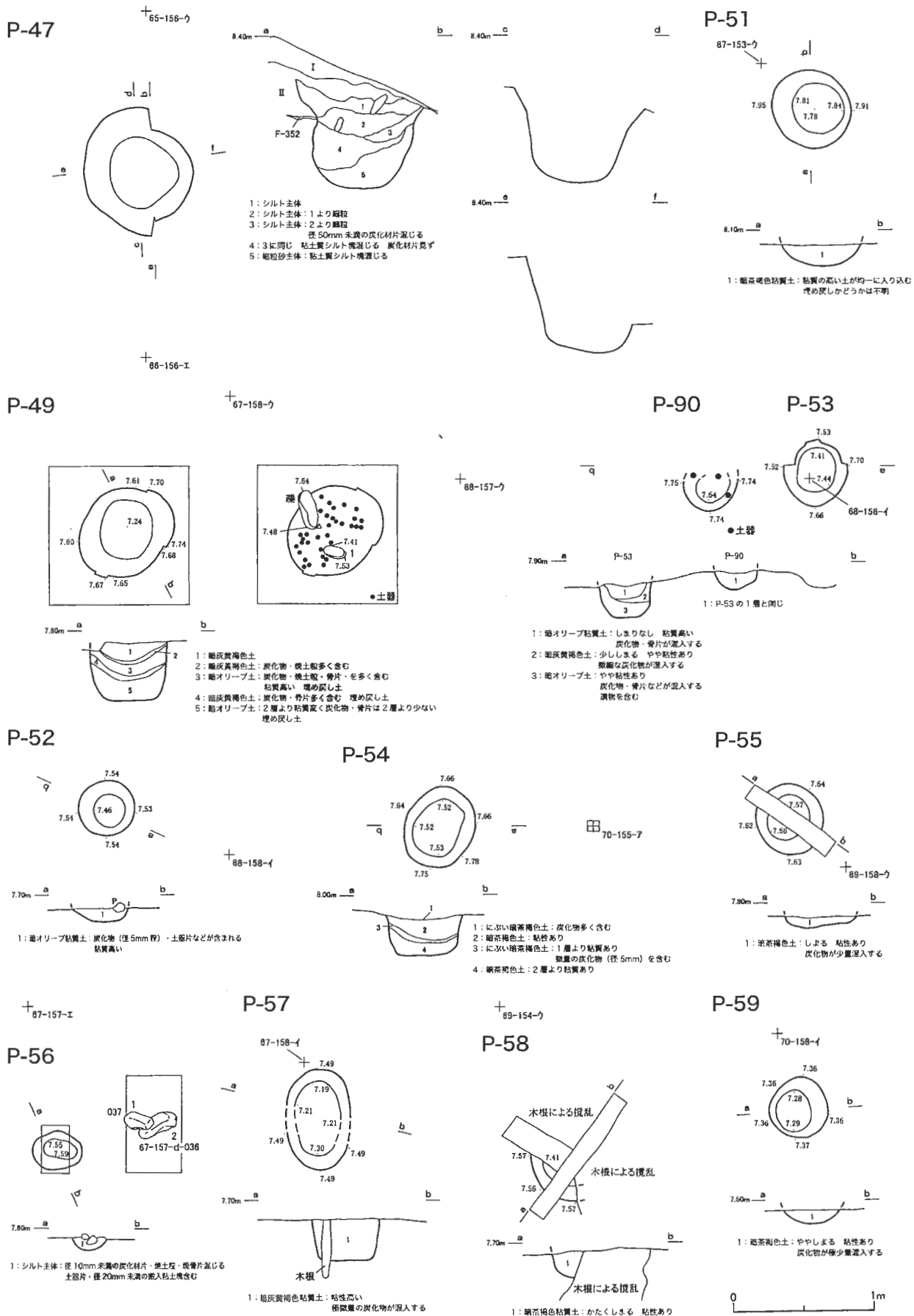
P - 5 3 図IV-6。68-157-ウ区⑦面・エ区④面調査時に炭化物粒・骨片を含む円形のプランを確認した。覆土は粘質があり堆積状況から自然崩落したことが窺える。床面から壁面へは緩やかにその後ほぼ垂直に立ち上がる。157線地層観察用ベルトから、掘り込み面と検出面は同一であることが確認された。

P - 5 4 図IV-6。69-154-ウ区⑤面・70-154-エ区④面調査時に炭化物を多く含む層の落ち込みを確認した。土坑の可能性を考慮して土層観察を行なった。覆土は検出面より上位の土で構成されており粘質もある。床面・壁面ともに明確である。掘り込み面は確認面の炭化物を含む層が切られていないことと断面観察からこの層の直下であると考えられる。(吉田)

P - 5 5 図IV-6。69-158-ア区⑪面の調査中にF-471に伴う炭化物が円弧状に切れているのが確認された。そのため、周囲を精査したところほぼ円形の掘り込みを検出したことからトレンチを入れて土坑であることを確認した。底面は円形でほぼ平坦である。掘り込み面は確認できなかった。(酒井)

P - 5 6 図IV-6・図版IV-3。67-157-ア区⑤面で2点の礫石器(P-56-1・2)が重なって検出され、周囲に炭化材片や焼土粒を含む覆土が認められたので半截して調査した。P-62などに似た小さな土坑で楕円形の底面をもつ。(西脇)

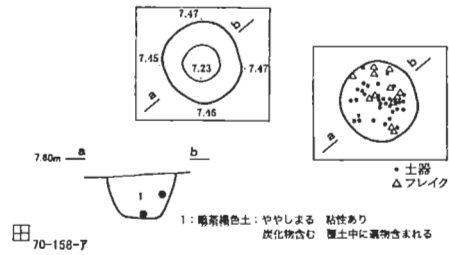
P - 5 7 図IV-6。67-158-イ区⑪面・67-157-ウ区⑦面調査時に、周辺に比べやや砂質の高い円形のプランを確認した。覆土にはごく微量の炭化物を含み均一に堆積していた。平面は北東-南西に長軸をもつ長楕円形を呈し、底面は平坦で垂直ぎみに壁が立ち上がる。(吉田)



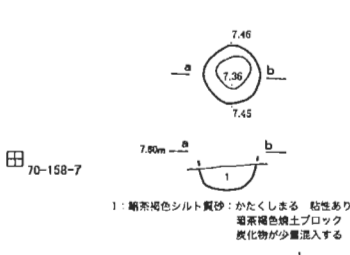
図IV-6 土坑(5)

IV 遺構

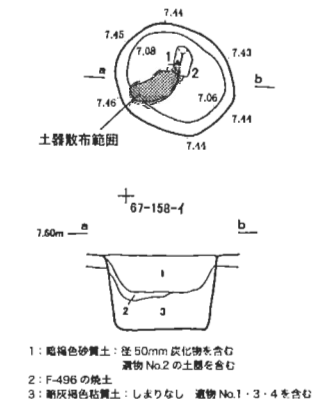
P-60



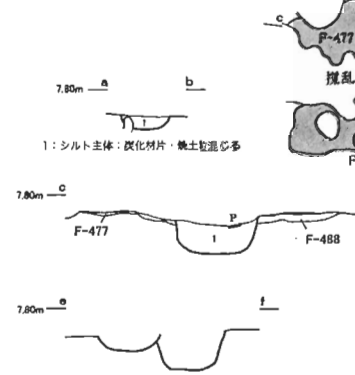
P-61



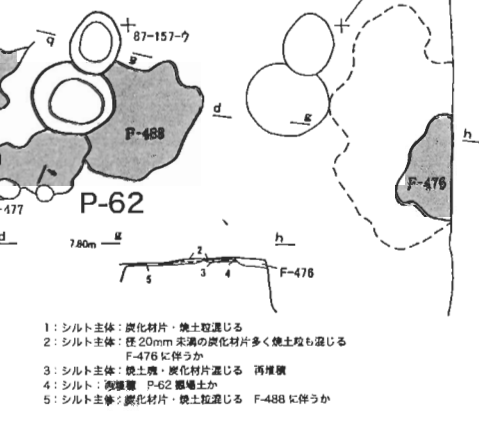
P-63



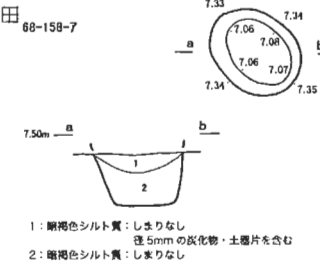
67-157-4



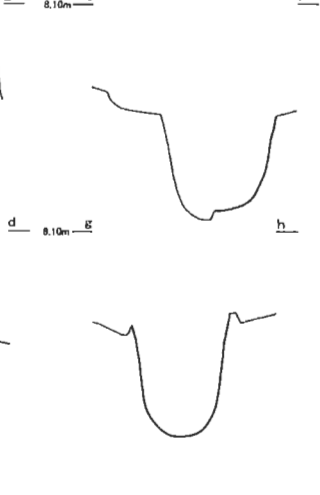
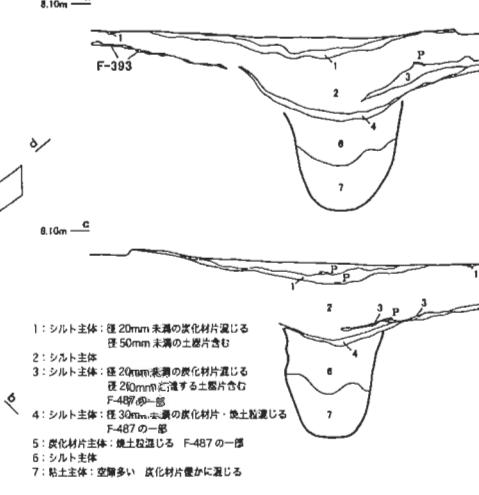
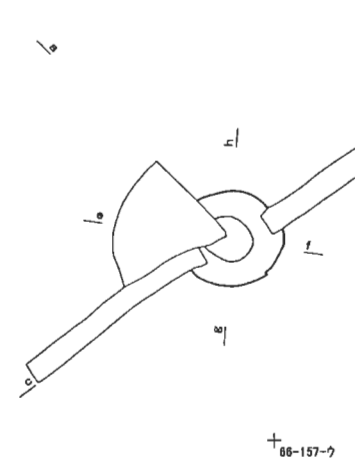
P-65



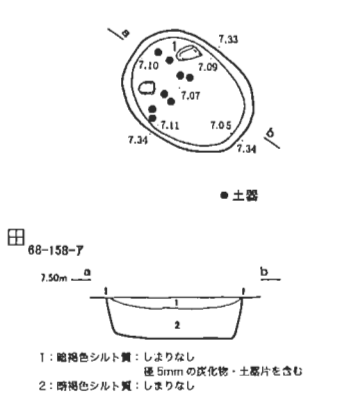
P-66



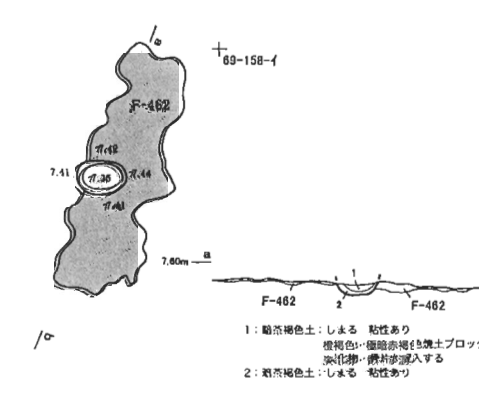
P-64



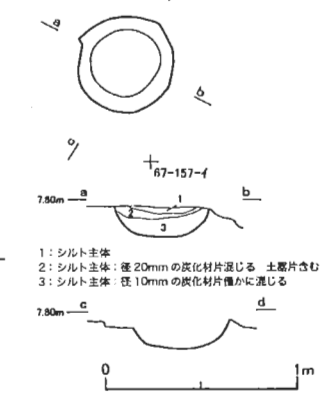
P-67



P-68



P-69



図IV-7 土坑(6)

P - 5 8 図 IV-6。69-154-ウ区⑤面の調査中に周囲とは異なる土質の円形の範囲を確認した。トレンチを入れて確認したところ木根による攪乱を受けていることがわかった。攪乱により底面の形状は不明である。

P - 5 9 図 IV-6。70-158-イ区⑫面を調査中に周囲の包含層とは異なる土質の円形の範囲が検出された。半裁して調査を行い、丸底状の底部から立ち上がる壁面を確認した。掘り込み面は確認できなかった。

P - 6 0 図 IV-7。69-158-イ区⑫面を調査中に P-61 とともに周囲の包含層とは異なる土質の円形の範囲が検出されたので半裁して調査を行った。上位の層ではこの範囲を確認できなかったことからほぼこの面が構築面であると考えられる。円形で丸底状の底部である。

P - 6 1 図 IV-7。69-158-イ区⑫面を調査中に P-60 とともに周囲の包含層とは異なる土質の円形の範囲が検出されたので半裁して調査を行った。上位の層ではこの範囲を確認できなかったことからほぼこの面が構築面であると考えられる。覆土中から多くの遺物が出土しているが、埋め戻された際に混入したものと思われる。円形で平坦な底面である。 (酒井)

P - 6 2 図 IV-7。P-56 を確認したのとほぼ同一面、隣接の 67-157-イ区⑤面で複数の焼土とそれを覆う薄い炭化物層が検出された。炭化物の散布を取り除くと、そこに F-476・477・488(生活面 195) の 3 基の焼土と、これらと切り合う 2 基の小土坑が発見された。土坑の掘り方は炭化物層の上からは明確な形で認められず、従って 2 つの土坑は焼土群と形成面を共有するとみて問題ない。F-478 (生活面 126)、およびこれを覆う F-477 を切り、P-65 に切られる。gh 断面では F-476 があるいは P-62 の掘り上げ土かと思われる炭化材片・焼土粒混じりの再堆積層を覆っているのが見られた。 (西脇)

P - 6 3 図 IV-7・図版 IV-3。F-496 (生活面 211) の焼成面の縁が検出できたことにより掘り込み面が検出できた。1 層に含まれていた土器が土坑中央に滑り込むように堆積していたこと、土坑埋土の 2 層の上面にある F-496 の焼成面断面が 3 層上面に沿って屈曲していることから土坑埋土が陥没し、その空隙が 20cm 以上あったと考えられる。3 層上部からは礫が 2 個出土した。小児の墓と考えてもよさそうである。 (鈴木)

P - 6 4 図 IV-7。68-157-ア区③面で炭化材片混じりの地層 (ab、cd 断面 1 層) が環状に分布するのを認め、その環の内部から土器片がややまとまって出土したことから遺構の存在を予期して小トレンチによる断ち割りをおこなった。その結果同区④面に炭化材片の濃密に散布する面があつて盃状に落ち込んでおり (ab、cd 断面 3~5 層)、掘り込みがあるとすればその下であることが判明した。

炭化物面は焼土 F-393・487 (生活面 188) に連なるものであったのでこの 2 つの焼土の調査後さらに断ち割りを加えて、炭化物層の流れ込んだ窪みの中央に土坑を確認し、小トレンチ沿いに四分して調査した。径の割に深く、他に例のない形状の掘り方である。

その後の調査で P-64 の下位に倒木痕があることが確認された。68-157-ア・エ区の大半に及ぶ窪みはむしろこの倒木の形成したものとみたほうがよいようで、P-64 はその窪みの中に掘り込まれたと考えられる。形状が特殊で覆土下部に空隙が多いなど人為的なものかどうか疑わせる点もあるが、覆土と遺構外の地層との不整合は明瞭であり、倒木痕の一部とは考えられない。

P - 6 5 図 IV-7。検出の状況は P-62 の項に述べたとおりである。P-65 は P-62・F-478 を切り、P-62 に切られる F-477 よりも新しいが、F-476 との新旧は不明である。 (西脇)

P - 6 6 図 IV-7・図版 IV-3。掘り込み面の特定はできなかった。1 層の底面が検出面から緩やかに落ち込み楕円状を呈していることから掘り込み面は直近の 68-158-ア区⑪面と考えられる。

P - 6 7 図 IV-7。掘り込み面の特定はできなかった。1 層の底面が検出面から緩やかに落ち込み

#### IV 遺構

播鉢状を呈することから掘り込み面は直近の 67-158-ア区⑪面と考えられる。2層が坑壁崩落による堆積ではないことから開口時間が短いと考えられる。またたたき石片1点(P-67-1)・礫1点が坑底から出土したこと、P-63のように坑壁が垂直であることから墓を想定してもよさそうである。(鈴木)

P - 6 8 図 IV-7。69-157-ウ区⑪面の調査中に F-462 を検出し、それを楕円形に切る範囲を検出した。覆土には F-462(生活面 218) のものと思われる焼土・炭化物が流れ込んでいる。楕円形で平坦な底面である。焼土周囲に造られる土器を据えるための小ピットと同様のものかもしれない。(酒井)

P - 6 9 図 IV-7。67-156-エ区⑦面直下で炭化材片混じりの覆土(ab断面2層)が環状に認められた。規模が小さくトレンチを入れるのがためらわれたことから、半截するように方形の断ち割りを設けて少し掘り下げ、輪郭を把握しようとしたがかえって不明瞭となる模様であったので、それ以下は通常の半截調査をおこなった。周囲の地層と覆土の差が小さく、断ち割りも徹底しなかったため特に坑底については正確に把握できたか懸念が残る。(西脇)

P - 7 0 図 IV-8。69-157-イ区⑪面の調査中に周囲の包含層とは異なる土質のほぼ円形の落ち込みを検出したことから半截して調査を行った。平成13年度に底面だと考えられた面は平成14年度の調査で掘り足りなかったことが確認された。そのため再調査を行い、播鉢状の底面を確認した。

P - 7 1 図 IV-8・図版 IV-3。掘り込み面の特定はできなかった。1層の底面が検出面から緩やかに落ち込み播鉢状を呈していること、67-158-イ区⑫が焼成面である F-490(生活面 218)の炭化物散在面から掘り込んでいることから、掘り込み面は 67-158-イ区⑫面と考えられる。

P - 7 2 図 IV-8。69-157-エ区⑫面を調査中、円形の落ち込みを確認した。半截したところ円形で播鉢状の底面が確認された。掘り込み面を確認することはできなかった。

P - 7 3 図 IV-8。69-158-イ区⑬面を調査中、土質の異なる円形の落ち込みと土器が立った状態で検出されたことから半截して調査を行った。円形で平坦な底面を確認した。上面に位置する F-462(生活面 218)を切っていないことから掘り込み面はこの面からそれほど変わらないものと考えられる。

P - 7 4 図 IV-8。69-158-イ区⑬面を調査中、土質の異なる円形の落ち込みを確認したことからトレンチを入れて調査を行った。楕円形で平坦な底面を確認した。上面に位置する F-462(生活面 218)を切っていないことから掘り込み面はこの面からそれほど変わらないものと考えられる。(酒井)

P - 7 5 図 IV-8。掘り込み面の特定はできなかった。1層の底面が検出面から緩やかに落ち込み播鉢状を呈していることから掘り込み面は直近の 67-158-イ区⑭面と考えられる。(鈴木)

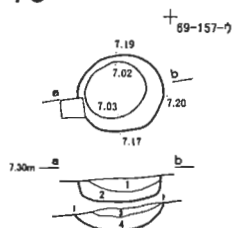
P - 7 6 図 IV-8。69-154-ア区⑧面で同心円状の落ち込み堆積を検出した。69-153 区内は13年度の調査で気付かずに破壊している。覆土下部に遺構北東側にやや偏って炭化材片の散布が認められ、その上に水成と思われる白っぽい粘土がちの堆積物が形成される。少なくともこの粘質土から上は自然に埋積したものであろう。(西脇)

P - 7 7 図 IV-8。69-157-イ区⑯面で周囲の包含層とは異なる焼土粒・炭化物を含んだ楕円形の落ち込みを検出したため、半截して調査を行った。ほぼ円形の平坦な底面である。壁面に F-512(同区⑦面、生活面 137)が確認でき、覆土に含まれる焼土粒・炭化物はこの焼土のものと考えられる。

P - 7 8 図 IV-3。69-156-ウ区⑦面・エ区⑦面を調査中に P-30・31・32・33 とともに F-379 を切る掘り込みとして検出した。当初 P-30 とともに1つの土坑と考えられたが、トレンチを入れて確認したところ P-78 が P-30 を切る2つの土坑であることが確認された。円形で平坦な坑底面を有し、平面形はほぼ円形と考えられる。切り合い・検出状況から掘り込み面は P-30・F-379 より上位であると考えられる。(酒井)

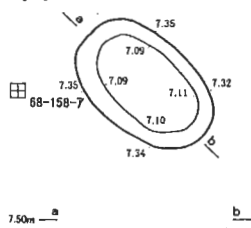
P - 7 9 図 IV-8。67 線上の地層断面図作成中に発見した時点でほぼ半分が失われていた。焼土

P-70



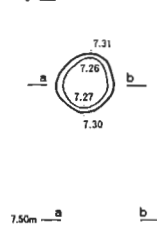
- 1: 暗茶褐色粘質土: しまる 粘性あり 暗灰色土混入する
- 2: 暗茶褐色土: しまる 粘性あり  
1層より粒子が細く暗灰色土少ない
- 3: 暗灰茶褐色粘質シルト: 層砂混入する
- 4: 暗灰茶褐色粘質シルト: 炭化材料 (径20mm未満)・土塊片含む

P-71



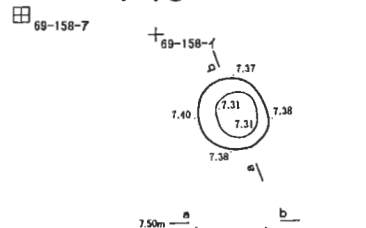
- 1: 暗褐色粘質土: 径5mmの炭化物・土層・石層を多く含む
- 2: 暗灰褐色粘土: しまりよくない

P-72



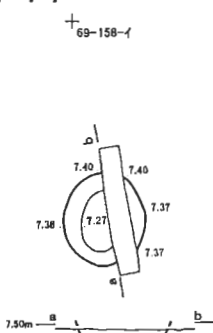
- 1: 暗茶褐色土: しまる 粘性あり

P-73



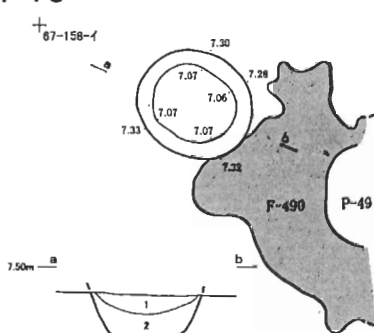
- 1: やや細かい暗茶褐色シルト質砂: しまる 粘性なし 炭化物・遺物が混入する

P-74



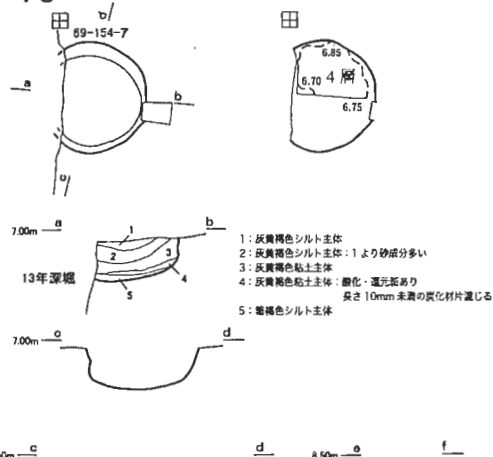
- 1: 暗灰茶褐色シルト質砂: しまる 粘性ややあり 炭化物が少量混入する

P-75



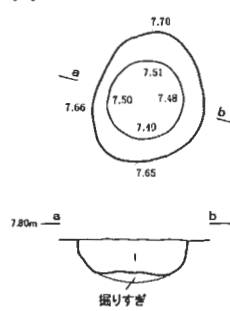
- 1: 暗褐色粘質土: 径5mmの炭化物・土層を含む
- 2: 暗灰褐色粘土: しまりよくない

P-76



- 1: 灰褐色シルト主体
- 2: 灰褐色シルト主体: 1より砂成分多い
- 3: 灰褐色粘土主体
- 4: 灰褐色粘土主体: 酸化・還元証あり 長さ10mm未満の炭化材料混じる
- 5: 暗褐色シルト主体

P-77

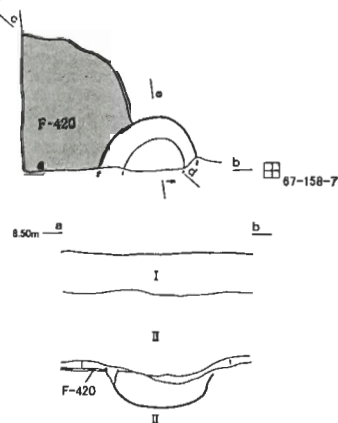


掘りすぎ

70-157-7

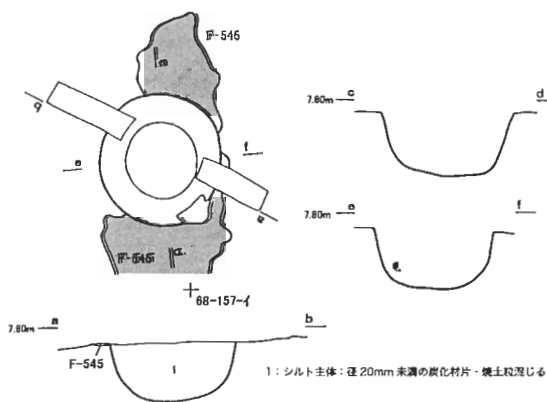
- 1: 暗茶褐色シルト質砂: ややしまる 粘性なし 炭化物・暗茶褐色焼土ブロック (径2~10mm)を含む

P-79



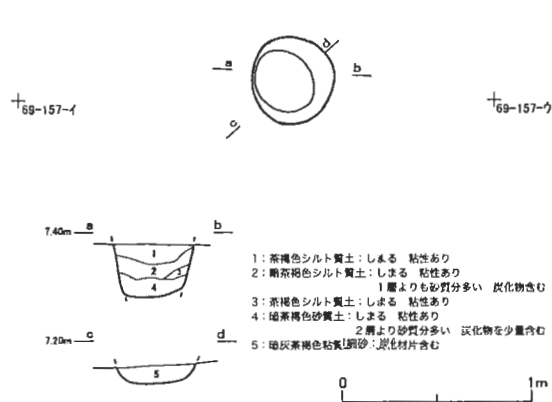
- 1: シルト主体: 上面に径20mmの炭化材料散布
- 2: シルト主体: 径10mm未満の炭化材料混じる 土塊片多く含む
- 3: シルト主体: 径10mm未満の炭化材料僅かに混じる 土塊片見ず
- 4: シルト主体: 炭化材料・人工遺物見ず

P-82



- 1: シルト主体: 径20mm未満の炭化材料・焼土混じる

P-83



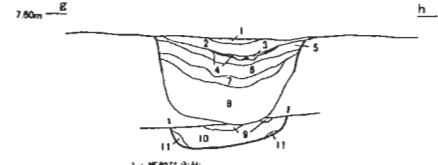
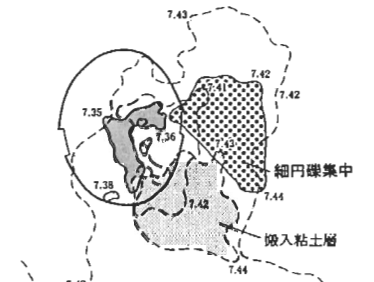
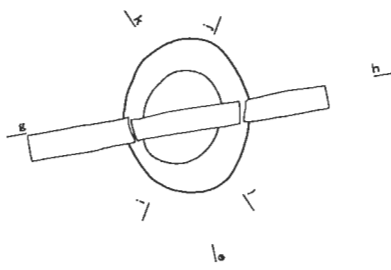
- 1: 茶褐色シルト質土: しまる 粘性あり
- 2: 暗茶褐色シルト質土: しまる 粘性あり
- 3: 茶褐色シルト質土: しまる 粘性あり
- 4: 暗茶褐色砂質土: しまる 粘性あり
- 5: 暗灰茶褐色粘質細砂: 炭化材料含む

図 IV-8 土坑 (7)

IV 遺構

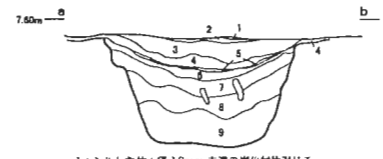
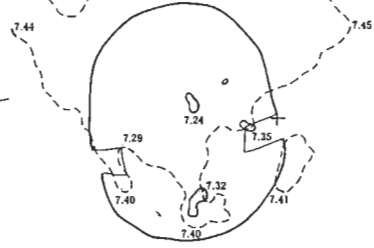
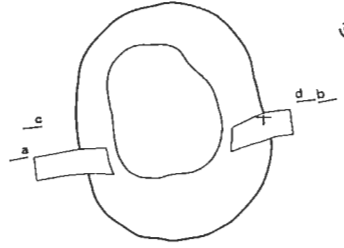
P-81

67-157-I

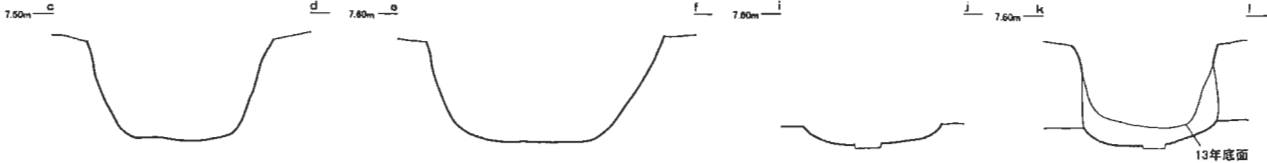


- 1: 細粒砂主体
- 2: シルト主体: 径 5mm 未満の炭化材料・焼土粒混じる
- 3: 炭化材料主体: 径 40mm 未満 上部に土器片散布
- 4: シルト: 焼土化
- 5: シルト主体
- 6: 中粒砂主体
- 7: シルト主体: 径 20mm 未満の炭化材料層の上に混じる
- 8: シルト主体: 径 10mm 未満の炭化材料層の上に混じる
- 9: シルト主体: 径 5mm 未満の炭化材料層の上に混じる
- 10: シルト主体: 粘土質シルト層多く混じる
- 11: 9と同じ

P-80



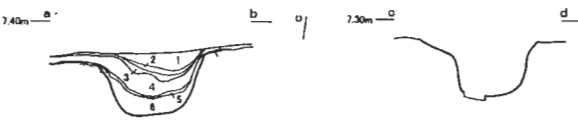
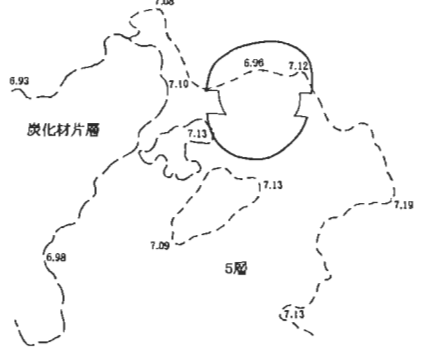
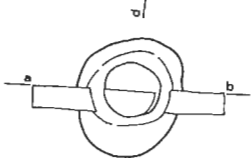
- 1: シルト主体: 径 10mm 未満の炭化材料混じる
- 2: シルト: 炭化材料混す
- 3: シルト主体
- 4: シルト主体: 径 5mm 未満の炭化材料・焼土粒混じる
- 5: シルト主体: 径 40mm 未満の炭化材料多く混じる  
下部部分的に焼土化 上部に土器片散布
- 6: シルト主体
- 7: 細粒砂主体
- 8: シルト主体: 径 20mm 未満の炭化材料層の上に混じる  
少量の土器片含む
- 9: 細粒砂主体



68-158-I

66-157-7

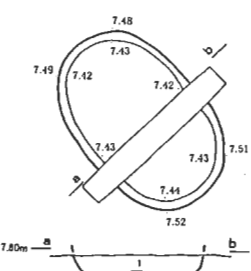
P-84



- 1: 細粒砂主体
- 2: 細粒砂主体: 上面に厚さ 10mm の粘土質シルト層
- 3: 細粒砂主体: 径 10mm 未満の炭化材料混じる  
F-587 の一部
- 4: 細粒砂主体
- 5: 細粒砂主体: 径 20mm 未満の炭化材料混じる 磁石礫片含む
- 6: 細粒砂主体

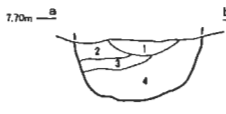
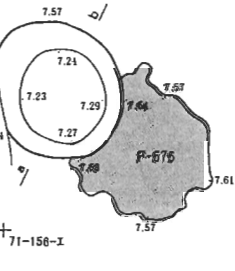
P-87

70-157-7



- 1: 暗茶褐色砂質土: しまる 粘性あり

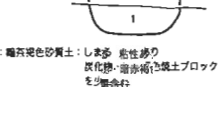
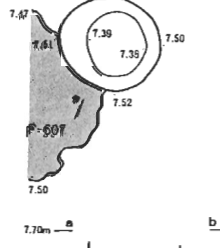
P-88



- 1: 暗茶褐色砂質土: しまる 粘性あり  
暗赤褐色焼土ブロック少量含む
- 2: 暗茶褐色砂: しまる 粘性ややあり  
暗赤褐色焼土ブロック少量含む  
層の厚さ薄い
- 3: 暗茶褐色砂質土: しまる 粘性あり  
暗赤褐色焼土ブロック少量含む
- 4: 暗茶褐色砂: しまる 粘性ややあり  
暗赤褐色焼土ブロック少量含む  
2層とはばり異なる

P-89

70-158-7



- 1: 暗茶褐色砂質土: しまる 粘性あり  
炭化層・暗赤褐色焼土ブロック (径 5~10mm)  
を少量含む

図 IV-9 土坑 (8)



F-420 (生活面 189) を切るが、形成面は 66-157-ウ区③面でこの焼土とほぼ同一と考えられる。P-96~98 などに似て、比較的小型で浅い土坑とみられる。

P - 8 0 図 IV-9。67-157-ア・イ区⑦面で落ち込みに堆積した地層が同心円状に 2ヶ所確認され、P-80 および 81 と命名して断ち割りをおこなった。P-80 で断面の上部に炭化材片のやや濃密に散布する面が認められ(ab 断面 5 層)、その後これが坑外へ続いて P-81 内まで連なっている(gh 断面 11 層)ことが知られた。従ってこの面を土坑形成直後の地表とみなしてよく、かつ 2つの遺構は非常に近接した時期のものであることが判明した。しかも土坑内では炭化材面の直下が部分的に焼土化している(gh 断面 4 層)。従って炭化材は二次的に土坑の窪みに流入したものではなく、2つの窪みを中心に火が、それもほとんど同時に焚かれて生じたものと考えられる。

南北に長い不整形の底面をもつ。炭化材面より下の、狭義の覆土とみるべき部分からは目立った遺物が出土していない。P-80 は当遺跡の土坑としては規模の大きいものなので墓穴である可能性なども考慮してやや慎重に調査したが、坑底には全く遺物がなく、特殊な堆積物も見られなかった。

P - 8 1 図 IV-9。検出の状況は P-80 の項で述べた。P-81 では炭化材面付近の様相がやや複雑で、まず坑口の南側、径 50cm ほどの範囲に円磨の進んだ細礫が炭化材片よりやや上位に散布しているのが見られた。またそれより下位の坑口南東側にはやはり径 50cm ほどの範囲にわずか 5mm ほどの厚さで搬入品と思われる白色の砂混じり粘土の層が観察された。これと炭化材片の面の上下関係は微妙であるが、少なくとも材片散布の中心部をなす炭化物の密集部分(gh 断面の 3 層)では、その上に密接して粘土層が存在するように見受けられた。炭化材面より下位でほとんど遺物が出土していないことは P-80 と同様である。

平成 14 年度に遺構下を掘削したところ再び丸い掘り込みの輪郭が認められ、測点を復元して調査・実測した結果 P-81 の掘り残しと考えざるを得なくなった。北東-南西方向に長い真の坑底は P-80 とほぼ同じかそれを上回る深さにあることが判明したが、やはり底面付近では遺物皆無であった。

P - 8 2 図 IV-8。68-156-エ区⑧面ほかで焼土 F-545・546 (生活面 195) を切る掘り込みとして検出した。小トレンチを入れて壁面を確認したのち半截して断面を図化した。円形の平坦な底面を持つ。覆土は一様であり、坑口部に特徴的な中窪みの堆積が見られなかった点から言えば、掘り込み面はおそらくもっと上位にあったであろう。(西脇)

P - 8 3 図 IV-8。69-157-イ区⑩面の調査中に周囲の包含層とは異なる土質のほぼ円形の落ち込みを検出したことから半截して調査を行った。平成 13 年度に底面だと考えられた面は平成 14 年度の調査で掘り足りなかったことが確認された。再調査を行い、円形で平坦な底面を確認した。(酒井)

P - 8 4 図 IV-9。66-156-エ区⑫面で P-85・86 と並んで同心円状に堆積する覆土を認めて検出したのであるが、精査の結果 P-86 より下位(⑬面)に掘り込み面をもつことが明らかになった。小トレンチを入れた結果、土坑の掘り込み面を覆って炭化材片と軽石の礫片が目立つ薄い層(ab 断面の 5 層)が堆積しており、この上に間層を隔てて焼土 F-587 (同 3 層、生活面 212) が形成されている。同じ F-587 は後述するように P-86 の掘り込み面を直接覆っているので、P-84 は P-86 より下層の遺構と判断される。材片・軽石の散布面より下位の狭義の覆土(ab 断面の 6 層)が薄く、遺構の窪みが掘り込み面より上位にまで強く反映されているために P-86 等と同じ深度で遺構の所在が認められたものである。なお炭化材は遺構外に散布の中心をもつようで、P-46・80・81 などのように土坑上で形成されたものではないらしい。

P - 8 5 図 IV-10。65-156-ウ区⑨面ほかで同心円状に堆積する覆土を認め、断ち割りで上部壁面を確認してから半截調査した。覆土の上部に炭化材片混じりの層(ab 断面 7 層)に覆われた現地性

#### IV 遺構

の焼土（同8層）があり、この土坑でも遺構上の窪みで火が焚かれたものと考えられる。他の土坑での経験から言えば遺構上での焚き火はほぼ埋積が終わった段階で行われているので、それより上位の覆土（ab断面1~5層）は掘り方と直接関係しない新しい攪乱の中に堆積したものである可能性もある。この部分がそれ以下の堆積を不整合に覆っているように見えること、およびこの部分で坑壁の傾斜が変わり、検出面での平面形が目だって不整となっていることはこの推測を裏付けるようである。従って、遺構の掘り込み面は攪乱のため詳しく確認できないとみなすのが妥当かもしれない。

平成13年度に一旦調査を終えたが、14年度に土坑周囲を掘り下げたところ地層断面と直交する方向に掘り足りない部分があることがわかり、再度壁面の検出をおこなった結果、遺構の約4分の3周にわたって坑壁下部に立ち上がりのやや急な部分があることが判明した。この部分は概ね構築当初の壁面のまま遺存している可能性がある。

P - 8 6 図IV-10。65-156-ウ区⑨面で焼土F-586（生活面212）を切り、F-587（生活面212）に覆われる掘り込みの輪郭を検出し、小トレンチで断ち割って半截断面図を作成した。F-587の断面でも地層を検討した結果、焼土を覆う炭化材片層だけでなく焼土化そのものが土坑の上面に及んでいることを確認したのでF-587より古いことは明らかである。比較的浅く小型、かつ概ね南北方向に長手の土坑である。（西脇）

P - 8 7 図IV-9。70-156-エ区⑧面を調査中に楕円形の土質の異なる範囲を確認した。そこでトレンチを入れたところ壁面の立ち上がりが確認された。掘り込み面は確認できなかった。

P - 8 8 図IV-9。70-156-ウ区⑤面を調査中にF-576（生活面196）を検出しこれを円弧状に切る部分が確認された。周囲を精査したところ土質の異なる円形の範囲を確認し、半截して調査を行った。覆土にはF-576に由来すると考えられる焼土粒が含まれている。

P - 8 9 図IV-9。70-156-ウ区⑤面を調査中に土質の異なる円形の範囲を確認し、半截して調査を行った。P-89に切られるF-607（生活面196）が同時に検出されたが、壁面にF-607が確認されることから同一面ではない。円形で平坦な底面である。掘り込み面は確認できなかった。（酒井）

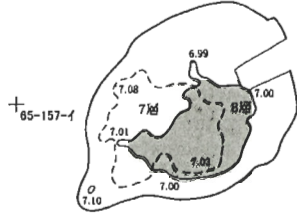
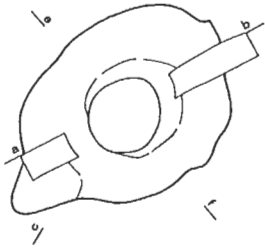
P - 9 0 図IV-6。68-157-ウ区⑦面・エ区④面の調査時に炭化物・骨片を含む円形のプランを確認する。覆土は粘質があり均一に堆積する。床面から壁面に緩やかに立ち上がるボウル状を呈する。157線地層観察用ベルトから、掘り込み面と検出面は同一であることが確認された。（吉田）

P - 9 1 図IV-10。67-156-ウ区⑨面で径50cmほどの範囲に炭化材片が散布しているのに気付き、土坑の存在を予期して小トレンチを入れたところ壁の立ち上がりが確認された。検出面における材片はやや希薄であり、焼土も確認されなかったので二次的に遺構の窪みに流入した炭化物と考えられる。その後、同区⑦面で記録した炭化材片の散布範囲のうち、不整形に散布が抜けている箇所がこの土坑の真上にあたることに気付いた（図）。この炭化材面が掘り方を覆っているのか、それとも土坑に切られているのかもはや確認できないが、掘り込み面がその付近にあったことが窺われる。（西脇）

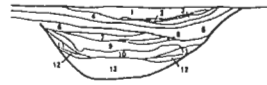
P - 9 2 図IV-10。68-158-イ区⑧面調査時、F-615（生活面214）を切る暗茶褐色の円形のプランを確認する。粘質のある覆土が均一に堆積し、焼土粒や炭化物などの混入は認められない。覆土の堆積状況から検出面のさらに上位から掘り込まれており埋め戻された可能性が高い。（吉田）

P - 9 3 図IV-10。67-156-エ区⑦面で地層観察用の畦際に焼土F-449（生活面189）を検出し、その一端が落ち込みの中に潜り込んで行くように見受けられた。畦に沿って小トレンチを入れて断面を検討した結果、焼土は土坑に切られ、さらに土坑に重複して形成された株痕があってその中に上位から土壌が落ち込んでいることがわかった。その後66-156-ウ区を調査したところ遺構北東側ではほぼ同区④面付近まで坑壁の立ち上がりを認めることができた。南北に長い楕円形の底面を有する。（西脇）

P-85

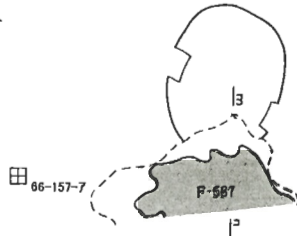
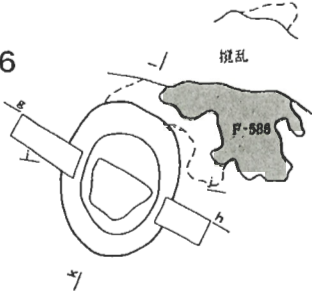


7.40m-a



- 1: シルト主体
- 2: シルト主体: 径20mm未満の炭化材片多く混じる
- 3: 1と同じ
- 4: 粗粒砂主体
- 5: 細粒砂主体: 4より粗粒
- 6: 中粒砂主体: 上面に厚さ5mmのシルト層
- 7: シルト主体: 径20mm未満の炭化材片・焼土粒混じる
- 8: シルト主体: 焼土化
- 9: シルト主体: 径20mm未満の炭化材片僅かに混じる
- 10: シルト主体
- 11: 5と同じ
- 12: 10と同じ
- 13: 粗粒砂主体

P-86



7.40m-b



- 1: シルト主体: 径10mm未満の炭化材片僅かに混じる
- 2: シルト主体: 1より粗粒 炭化材片は1に同じ
- 3: 1と同じ 炭化材片見ず
- 4: シルト主体: 2より粗粒
- 5: 3と同じ

7.40m-c

d 7.40m-e

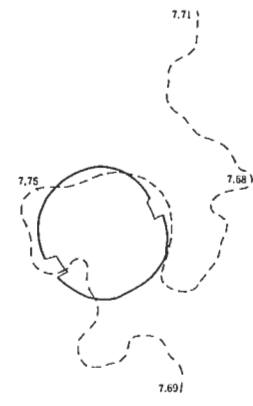
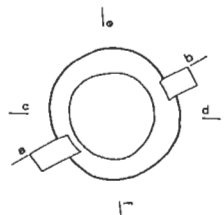
7.40m

f 7.40m-i

j 7.40m-k

+ 67-156-g

P-91



P-92

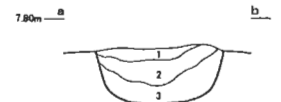


7.70m-a

b

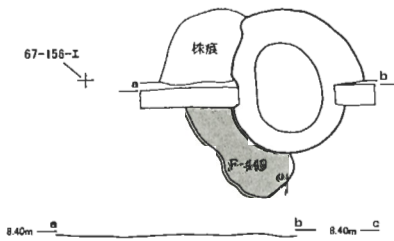
- 1: 暗茶褐色土: しよらなし 粘質高い

+ 68-158-h



+ 69-158-i

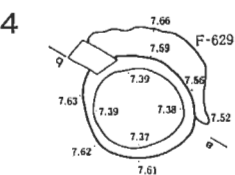
P-93



8.40m-a

b 8.40m-c

P-94



- 1: 黄茶褐色砂質土: しよる 粘性なし 炭化物・暗赤褐色焼土粒(径1~3mm)を小塊含む
- 2: 暗茶褐色土: しよる 粘性あり 炭化物含む 1層に比べて粘性高く砂質分少ない

- 1: シルト主体
- 2: 細~中粒砂主体: 径10mm未満の炭化材片・焼土粒混じる (F-449由来)
- 3: 粗粒砂主体: 径10mm未満の炭化材片僅かに混じる 土層片含む

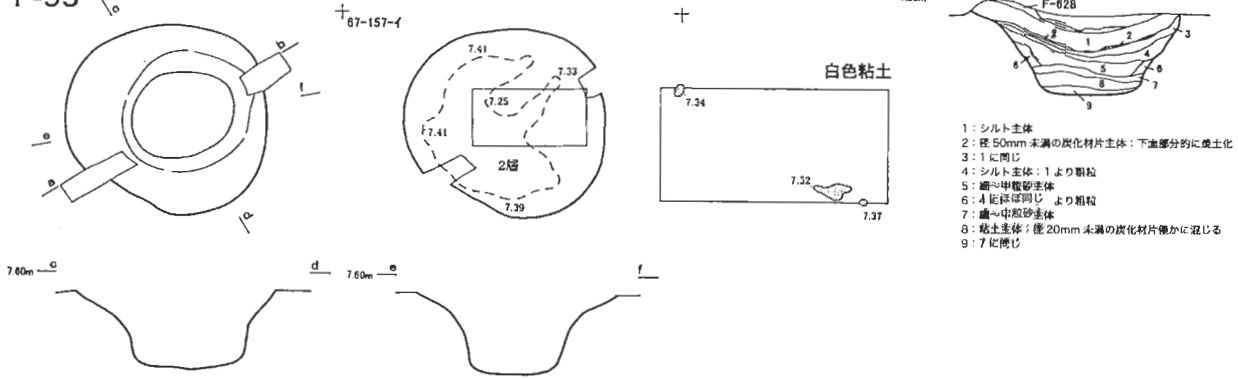
+ 70-158-j



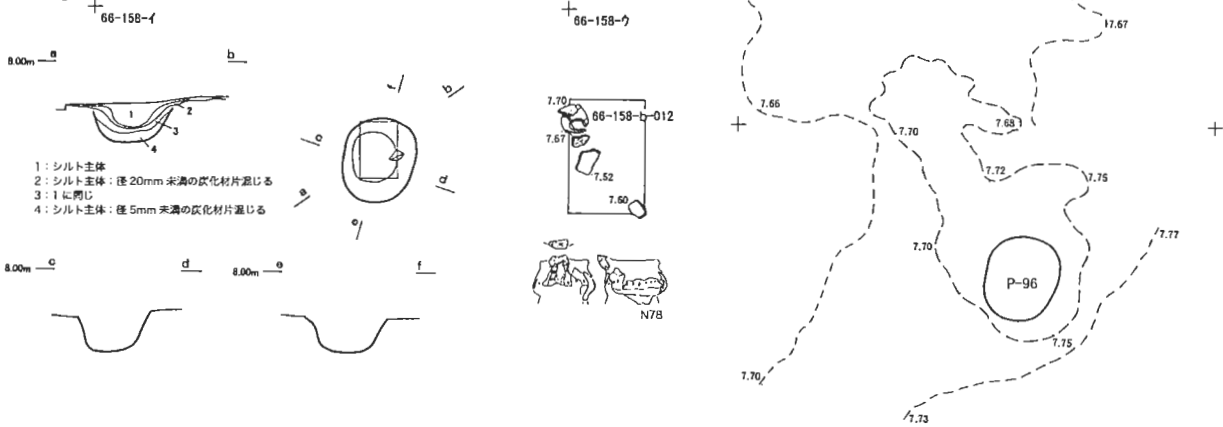
図IV-10 土坑(9)

IV 遺構

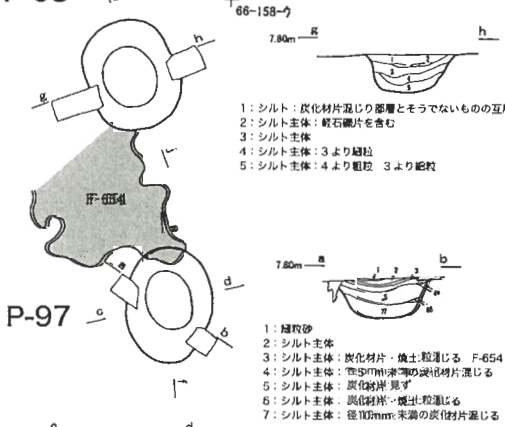
P-95



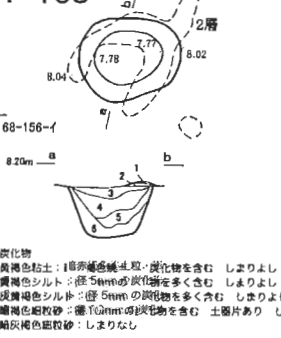
P-96



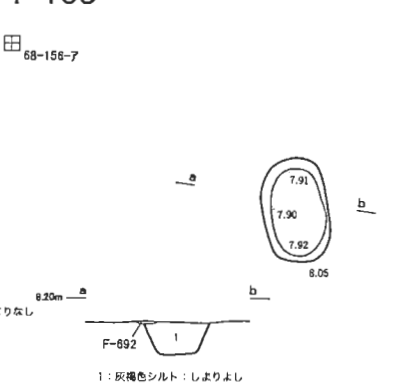
P-98



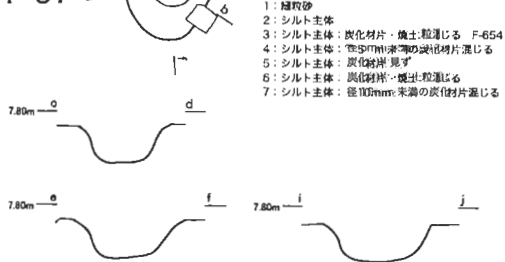
P-103



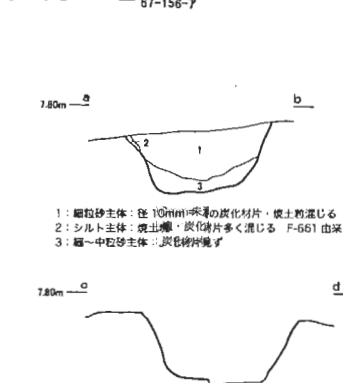
P-105



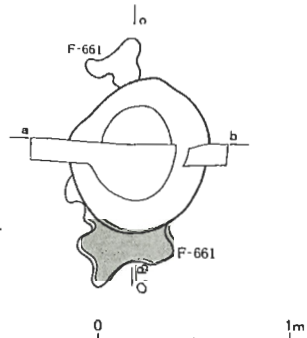
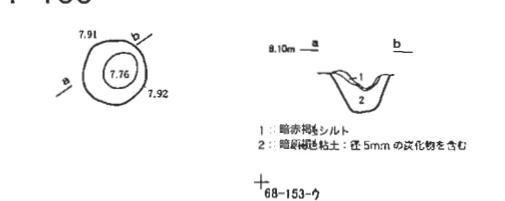
P-97



P-107



P-100



図IV-11 土坑 (10)

P - 9 4 図 IV-10。69-156-ウ区⑧面を調査中に F-629（生活面 196）を検出し、それを円弧状に切る土質の異なる円形の範囲を確認した。そこでトレンチを入れたところ壁面の立ち上がりを確認した。円形で平坦な底面である。掘り込み面は確認できなかった。（酒井）

P - 9 5 図 IV-11。67-156-ウ区⑩面で焼土 F-628（生活面 199）を検出し、その一部が落ち込みの中に潜っているように見受けられたので小トレンチによる確認をおこなったところ、焼土は土坑上の窪みに沿って落ち込んでいること、またその下位に間層を隔てて炭化材片の薄い層があり、その下面が弱く焼土化している（ab 断面 2 層）ことが判明した。従ってこの土坑でも遺構上の窪みで焚き火がおこなわれたことが窺われると同時に、F-628 はこの土坑とは一応別の遺構として扱ってよいと思われた。窪み内の焚き火面のすぐ上に搬入粘土塊ほか少量の遺物があったが、材片層より下の真正の覆土からは目立った遺物の出土はなかった。底面は東西に長い楕円形。壁の上部が朝顔状に開いていて、焚き火面以下の覆土は主に坑口部の崩壊で形成された可能性がある。

P - 9 6 図 IV-11。66-158-イ区⑥面で炭化材片の散布する範囲が認められ、その中央の材片の濃密な部分の中に楕円形に散布が抜ける箇所が見られた。土坑とみなして半截し、炭化材面はこの土坑を覆って遺構中に落ち込んでいる（ab 断面 2 層）ことを確認した。坑口から 25cm ほど下でやや大型の礫が坑底の一部に現れ、これより深くは掘り込んでいないものと判断した。坑口の北端部で壺形の袖珍土器（66-158-b-012、个体番号 N78）1 個体が出土したのが注意された。

後述するようにこの土坑の真下で同じような規模の土坑 P-116 が検出されている。断ち割って確認していないので同一の遺構ではないかという疑いを払拭できないが、P-98・F-654（生活面 194）を断ち割った小トレンチの断面にそれぞれ P-116 の壁面らしいものが現れていてそれが当区の⑧面付近でとどまっていることを根拠に、一応 2 つの土坑が重複したものと考えておきたい。

P - 9 7 図 IV-11・図版 IV-4。66-158-イ区⑦面で焼土 F-654（生活面 194）を検出し、その調査中に焼土を切る P-98 と焼土に覆われる P-97 を検出した。P-97 は F-654 を除去した直後に輪郭が認められ、断ち割って壁面を確認した。覆土上部には F-654 から流れ込んだとみられる炭化材片・焼土粒混じりの層（ab 断面の 3 層）が見られる。

P - 9 8 図 IV-11。やはり F-654（生活面 194）の除去直後に輪郭を認め、小トレンチを入れて壁面を確認し半截した。P-97 のような F-654 由来の覆土は見られず、また坑外北東側の⑦面に P-98 の掘り上げ土かと思われる希薄な焼土の堆積があってこれは F-654 を動かした結果とみなしうることから、この土坑は F-654 および P-97 より新しいものと判断した。しかし 3 者の形成面はほぼ同一であり、時間差は大きくないと考えられる。なお小トレンチの断面に後述する P-116 らしい落ち込みが現れていたが、図化の時点では自然の攪乱とみなしていた。

P - 9 9 図 IV-12。P-99・101・102 はいずれも 66-156-ア区⑥面付近で径 50cm 前後の炭化材片散布域によってほとんど同時に落ち込みの所在に気付いた。これら材片散布域の標高は P-99 が P-101・102 のそれよりも僅かに高く、従ってより上層のものとの可能性があるともみて最初に調査に着手したが、もとより遺構内の堆積であればその標高は決定的なものではない。

小トレンチで断ち割ったところ株痕に落ち込んだ土壌とみられるものが検出面から坑底の一部まで及んでいた（ab 断面 1・6 層）。従ってこの遺構自体、株痕に向かって周囲の地層が崩壊して形成された見かけの土坑であるとの疑いも生じる。径の割に深く、他の土坑とはやや形状が異なることも疑問である。ただ当初検出した材片の散布（ab 断面 2 層）は株痕に先行して存在し、何らかの落ち込みに流れ込んだものと考えうるので、ここでは土坑として報告しておく。（西脇）

P - 1 0 0 図 IV-11。1 層が土坑中央に滑り込むように堆積していたことから掘り込み面（68-153-

#### IV 遺構

ア区③面)が検出できた。土坑埋土が陥没し、その空隙が10cm位はあったと考えられる。土坑容積が小さいことからヒトを埋葬したとは考えにくい。(鈴木)

P-101 図IV-12。検出についてはP-99の項に記した。断面を確認したところ、坑底から壁にかけて一部に株痕らしい攪乱が認められたが、平面図にはその範囲を記録するのを怠った。周囲の地層とは不整合な落ち込みであることは事実ながら、P-99と同様な問題をかかえ遺構と断言しかねる面がある。

P-102 図IV-12。P-99の項で述べたように炭化材片の散布によって土坑の存在を予想した。断ち割りの結果、材片は土坑上の窪みに流入したものであることが明らかとなった。遺物はほぼ皆無である。地層断面からみて掘り込み面は66-156-a区⑤面かそれ以上であろう。P-102の上位に形成された焼土F-653(生活面124)の焼き火面がP-102の中心部へ向かって傾いていることを重視すれば、掘り込み面は同区③面付近にあったとも考えられる。(西脇)

P-103 図IV-11。土坑周縁を取り巻くように焼土粒を含む粘土・炭化物が堆積していたので掘り込み面(68-156-ア区③面)が検出できた。5・6層は坑口部の崩落によるものであり、陥没を示していない。(鈴木)

P-104 図IV-12・図版IV-4。メインセクション用ベルトで残されていた68-156-ウ区⑤面を調査中にF-448(生活面188)とこれを円弧状に切る範囲を確認した。156線メインセクションに沿って半裁して調査を行った。156線メインセクションで確認したところ掘り込み面は検出面で問題ないようである。播鉢状の底面である。(酒井)

P-105 図IV-11。F-692(生活面128)の焼成面の縁が検出できたことにより掘り込み面(68-156-ア区③面)が検出できた。1層が土坑に充填されて土坑埋土は陥没みられない。(鈴木)

P-106 図IV-12。メインセクション用ベルトで残されていた68-156-ウ区⑤面を調査中にF-448(生活面188)とこれを円弧状に切る範囲を確認した。また、西側はF-545(68-156-ウ区⑦面、生活面195)を円弧状に切ることで確認した。北側は土坑に気付かず削平してしまった。掘り込み面は確認できなかった。(酒井)

P-107 図IV-11。67-156-ア区⑦面で焼土F-661(生活面189)と、これを切る落ち込みの輪郭を検出した。地層の傾斜に沿って小トレンチを入れて断ち割り、掘り方を確認した。坑底は掘り過ぎた部分があるが、概ね南北方向に長い楕円形であったとみられる。断面の地層は比較的一様であるので坑口に近い部分は掘り飛ばしたものとみなされ、同区⑤面で検出された焼土F-395・685(生活面135)周囲の炭化材片がP-107の上位を避けるように分布していることからみて、掘り込み面はその付近か、あるいはさらに上であった可能性がある。

P-108 図IV-12。66-157-イ区④面で炭化材片の散布する径50cmほどの範囲を認め、小トレンチを入れて下位に土坑のあることを確認した。掘り込み面は検出面よりも上と考えられるが、この土坑の上位に位置する焼土等はなく、判断材料を欠く。(西脇)

P-109 図IV-12。1層の堆積範囲より掘り込み面(69-156-ウ区⑬面)が特定できた。1層の灰白色粘土で2層を覆っていた。P-110・117と同じ構造である。粘土の量からそれ自体を貯蔵したわけではなく別な用途があるはずである。

P-110 図IV-12。1層の堆積範囲より掘り込み面(68-154-ア区⑥面)が特定できた。1層の灰白色粘土で2層を覆っていた。P-109・117と同じ構造である。粘土の量からそれ自体を貯蔵したわけではなく別な用途があるはずである。(鈴木)

P-111 図IV-12。68-157-ウ区⑧面で周囲とは異なる土質の円形の範囲を確認した。半裁して調

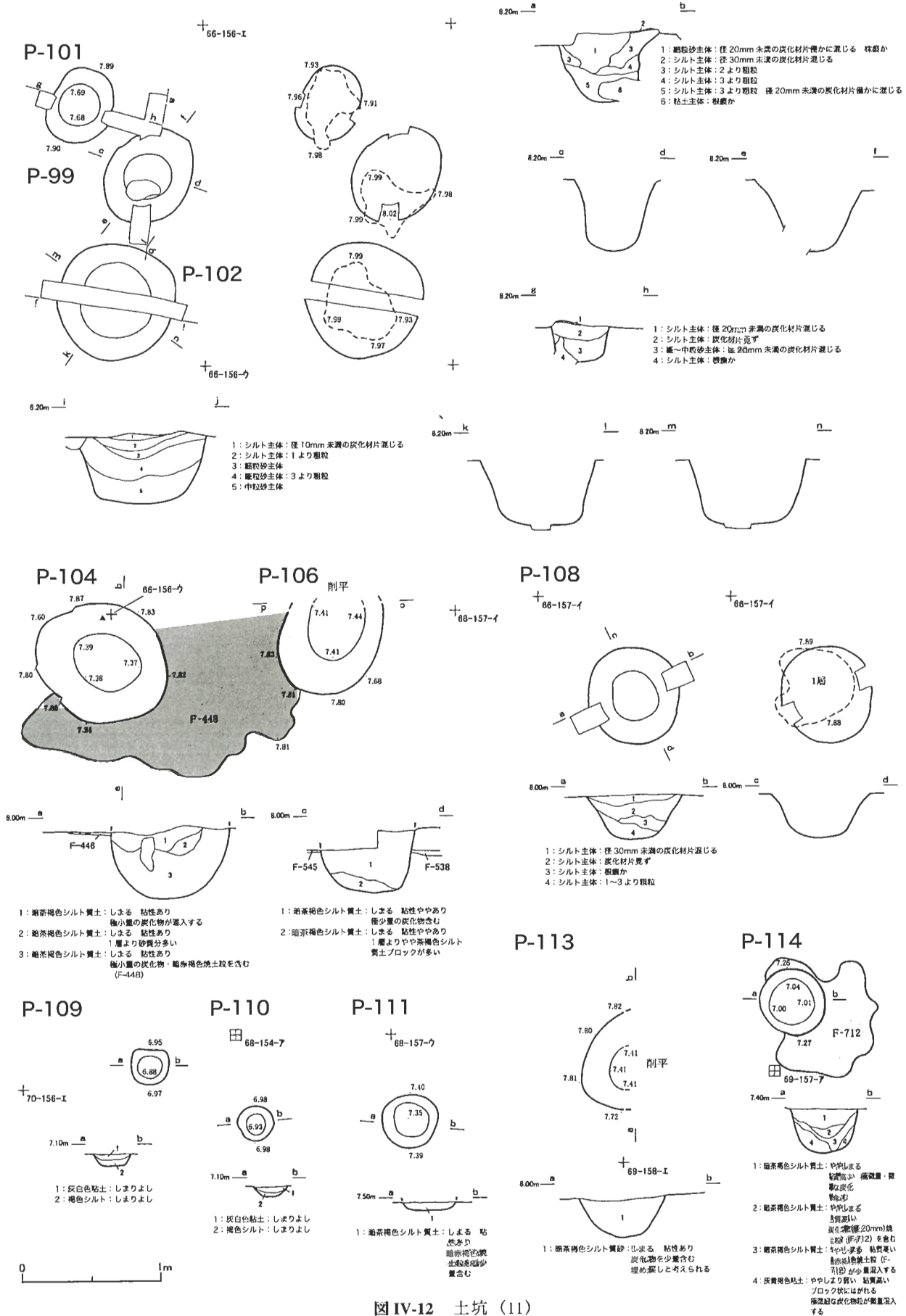
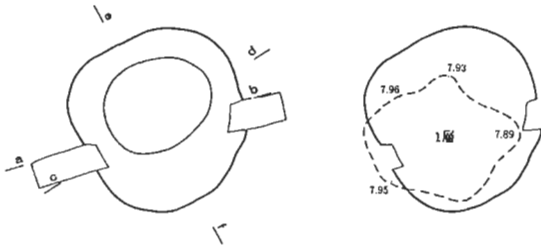


図 IV-12 土坑 (11)

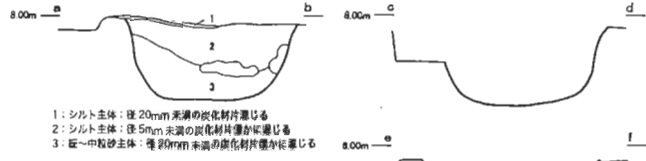
IV 遺構

P-112

+ 66-157-f



+



- 1: シルト主体: 径 20mm 未満の炭化材料片混じる
- 2: シルト主体: 径 5mm 未満の炭化材料片混じる
- 3: 層~中粒砂主体: 径 10mm 未満の炭化材料片混じる

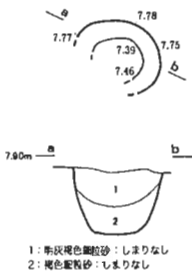
P-116

+ 66-158-f

田 67-157-7

P-117

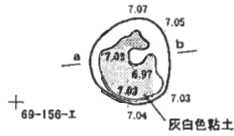
+ 68-158-g



- 1: 赤灰色粘砂: しまりなし
- 2: 褐色粘砂: しまりなし

P-118

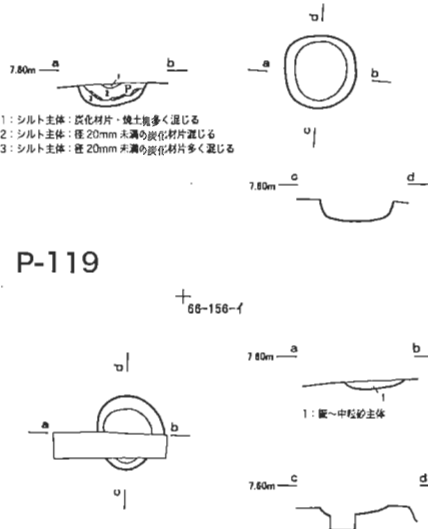
+ 69-156-I



- 1: 暗茶褐色シルト質砂: しまる 粘性あり  
シルト質粘土層 (径 3~5mm) 含む  
炭化物、灰白色粘土粒を少量含む
- 2: 灰白色粘土: しまる 粘性非常に高い

P-119

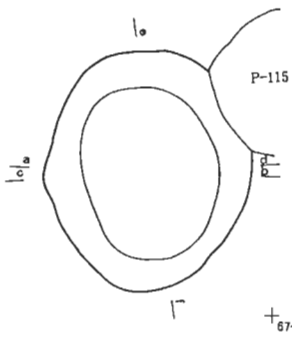
+ 66-156-f



- 1: 層~中粒砂主体

P-120

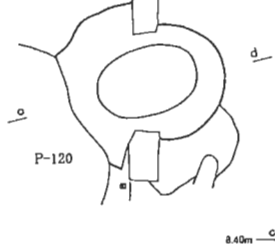
田 67-156-7



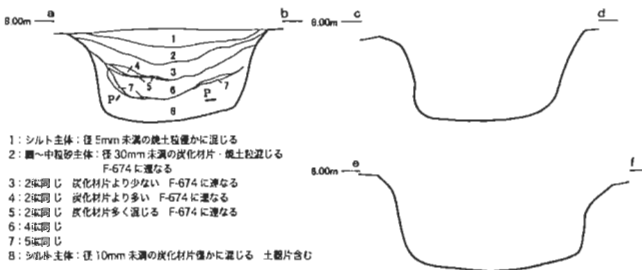
+ 67-156-I

P-115

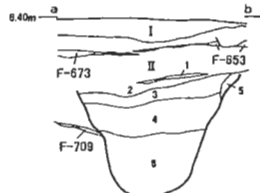
+ 67-156-I



8.40m



- 1: シルト主体: 径 5mm 未満の炭土粒混じりに混じる
- 2: 層~中粒砂主体: 径 30mm 未満の炭化材料片・炭土粒混じる F-674 に連なる
- 3: 2層同じ 炭化材料片より少ない F-674 に連なる
- 4: 2層同じ 炭化材料片が多い F-674 に連なる
- 5: 2層同じ 炭化材料片多く混じる F-674 に連なる
- 6: 4層同じ
- 7: 5層同じ
- 8: 5層主体: 径 10mm 未満の炭化材料片混じりに混じる 土層片含む



- 1: シルト主体: 径 20mm 未満の炭化材料片混じる F-674 に連なる
- 2: シルト主体: 径 5mm 未満の炭化材料片混じる P-120 層土か
- 3: 層~中粒砂主体
- 4: 2層同じ 径 10mm 未満の炭化材料片混じりに混じる
- 5: シルト主体: 径 20mm 未満の炭化材料片・炭土粒多く混じる F-709 由来か
- 6: 2層同じ 径 20mm 未満の炭化材料片・炭土粒混じる



図 IV-13 土坑 (12)



査を行ったところ皿状の底面をもつ土坑であることがわかった。上面は削平してしまい、わずかに坑底付近が確認できたものと考えられる。(酒井)

P - 1 1 2 図 IV-13。66-156-ウ区⑤面で周囲の旧地表とは逆の傾斜を示す炭化材片の散布範囲が見られた。土坑の伏在を予想して小トレンチで断ち割り、壁面を確認した。断面の観察では材片散布面の直下に掘り込み面があり、ほぼ完全に土坑が埋まった段階で炭化物が散布したものとみなされた。覆土には細かい部層を認めたいが、人為的な埋め戻しを示唆する特徴があるわけでもない。(西脇)

P - 1 1 3 図 IV-12。156 線メインセクションで播鉢状の底面をもつ落ち込みを確認した。東側は調査によって削平してしまった。そのため 156 線メインセクション用ベルト調査時に 68-156-イ区⑥面で掘り込み面を確認し、土坑の残存部分を検出した。(酒井)

P - 1 1 4 図 IV-12。68-156-ウ区⑪面・68-157-イ区⑪面、F-712 (生活面 219) 調査時に、この焼土を切る暗茶褐色のプランを確認する。覆土には焼土粒・炭化物が含まれており粘質もある。堆積状況から自然崩落と考えられ、土層観察からこの焼土検出面と同一かやや上位から掘り込まれたものと推測される。(吉田)

P - 1 1 5 図 IV-13。66-156-ウ区⑥面で焼土 F-709 (生活面 180) を切る掘り込みの存在に気付いた。地層観察用の畦に沿って小トレンチを入れ、156 線半以東を掘り上げて断面を精査したところ、坑口は 66-156-イ区⑤面付近にあって土坑上に炭化材片の散布(素図 a-b 断面の 1 層)が見られることが分かった。その後畦内に残った部分をほとんど横から掘るようにして調査したが、その過程で西側の壁面上部は別の落ち込みと切り合っており、炭化材片はむしろこのもう一つの落ち込みを覆うようにして分布することに気付いた。材片の広がり方から判断して P-115 はこの別土坑 (P-120) に切られていることが確かである。材片の散布は後に P-120 に重複して形成された焼土 F-674 (生活面 130) に連なるものと判明した。やや長手の土坑であって長軸はほぼ東西方向にあり、掘り込みは深い。

P - 1 1 6 図 IV-13。66-158-イ区⑪面直下に同心円状に遺構覆土が認められ、半截して断面を調査した。坑底を覆う炭化材片混じりの薄い層の上面からややまとまった量の土器片が出土した (66-158-b-023、整理番号 13-66)。

すでに述べたとおりこの土坑は P-96 の真下に位置し、平面形と規模もこれに似通っている。P-96 の調査にあたって断ち割りをおこなっていないので、両者は同一の遺構ではないかという疑いを拭いきれないが、P-98 を断ち割った小トレンチの壁面に現れた P-116 と思われる落ち込みが当区の⑧面付近を掘り込み面としていること、F-654 (生活面 194) の断面でも同様の所見があることを根拠に、別遺構として報告しておく。(西脇)

P - 1 1 7 図 IV-13。68-156-イ区④面の調査時に灰黄褐色土の落ち込みを確認した。この西側約半分は包含層調査により消失していたため、その部分の土層観察も踏まえ土坑であることを確認した。覆土にはこの土坑より上位で検出した F-448 (生活面 188) 由来と考えられる焼土粒も含まれていることから、この焼土より上位からの掘り込みと考えられる。(吉田)

P - 1 1 8 図 IV-13・図版 IV-4。68-156-ウ区⑫面で周囲の土質とは異なる円形の範囲を確認した。半截して調査したところ 2 層の灰白色粘土を検出した。灰白色粘土を取り上げたため底面に関しては不明である。(酒井)

P - 1 1 9 図 IV-13。66-155-イ区⑨面で円形の輪郭に気付き、小トレンチで断ち割って調査したがわずかに坑底を残すのみであった。出土遺物もない。

P - 1 2 0 図 IV-13。66-156-イ区⑤面で焼土 F-674 (生活面 130) の範囲を追求中に、同区南東隅で焼土とその周囲の炭化材片層が欠落することに気付いた。小規模な断ち割りを入れて断面を検討し

#### IV 遺構

(gh 断面)、この部分に落ち込みが存在して焼土がその中に潜っていることがわかったが、当遺跡の土坑としては例のない規模のものであるので一旦は倒木痕であろうと判断した。その後 F-674 の調査を済ませ、さらに数 cm 掘り下げた段階になって整った楕円形の輪郭からこれが遺構であり、すでに P-115 との切り合いを確認していた落ち込みと一連のものであることを認めた。当初確認した F-674 の欠落範囲は検出された遺構の輪郭とよく対応しており、この土坑の掘り込み面が F-674 形成面付近にあったことは確実である。

すでに輪郭が明瞭となったので半截して覆土を吟味すると、途中炭化材片の集中する面が 2 枚認められ、そのいずれもおそらく坑外の F-674 に連なっていたものとみなされた。この材片集中の下に焼土化は見られなかったため、上部が朝顔状に開く坑壁の形状と合わせて考えると、土坑の開墾後まもなくその縁で火が焚かれ、その後掘り方の上部が崩壊して土坑が埋まるにつれて大きく 2 回にわたって坑内に材片が流れ込んだものと思われる。なお掘り込み面における材片の散布が土坑のほぼ全周に及んでいることを重視すると、穴を覆うように置かれた木材、つまり蓋ないし屋根のようなものが燃えたという可能性も考慮するべきであろう。

P-80 などに比べて隔絶した大きさというわけでもないが、今のところ当遺跡の縄文晩期地層中で最も大きな平面を有する長手の土坑で、長軸はほぼ南北方向にある。材片集中より下位の、埋積初期の覆土からは径 5cm 未満の土器片がいくらか出土したが、意図的に置かれた遺物や特殊な堆積物などはまったく認められなかった。

P - 1 2 1 図 IV-14。66-156-イ区⑥面の少し下で落ち込みの輪郭に気付き、156 線沿いの断面を検討して人為的な掘り込みであることを確認した。13 年度の掘り下げで 66-155 区内はほぼ失われ、辛うじて残った底面は概ね南北方向に長軸をおく楕円形を呈する。自然堆積とみて差し支えない覆土で埋まっている。坑口部に特徴的な薄いシルトと砂の互層が認められないことから、本来の掘り込み面はもっと上にあったとみてよさそうである。

P - 1 2 2 図 IV-14。P-121 とほぼ同時に隣接する不整形の落ち込みに気付き、小トレンチで断ち割って確認した。底面は概ね南北方向に長い楕円形の平面を呈する。F-674 (生活面 130) の下位にあり、P-120 より古いものであることは確実である。したがって多少傾斜した面に掘り込まれたことがほぼ確実で、土坑長軸は地表の傾斜に大体直交しているとみてよい。覆土上部に水成とみられるシルト質の薄層があり、この部分から上位は自然に流入したものとみて差し支えないであろう。それ以下の砂質の覆土には稀に土器片が含まれるが、人為的な埋め戻しであるかどうかは明らかでない。

P - 1 2 3 図 IV-14・図版 IV-4。65-156-ウ区⑩面の少し下で半円形に落ち込む薄いシルト層に気付き、小トレンチで断ち割って土坑であることを確認した。その後 156 線半の地層断面で検討した結果、P-84、P-136 と同一面からの掘り込みであることが明らかである。かなり平坦な楕円形の底面をもち、その長軸は概ね南北方向、すなわち掘り込み面の傾斜に大体直交する方向にある。坑壁の上部が朝顔状に開き、覆土下部は坑口の崩落で形成された可能性が考えられる。覆土中の薄いシルト層以上は自然の水成堆積であろう。なお掘り込み面の斜面下手には廃棄焼土と思われる F-898 (生活面 217) がある。P-123 は下層の焼土 F-744 (生活面 223) を切るため、F-898 (生活面 217) がこの土坑の掘り揚げ土である可能性もなくはない。

P - 1 2 4 図 IV-14。66-156-ウ区⑥面で記録したが、同⑤面ですで見えていた。河川敷緑地の暗渠の真下にあったので暗渠設置の際の攪乱と誤認して削平してしまい、67 線の地層断面図にも記録されていない。小規模な土坑の底面を残すのみであった。

P - 1 2 5 図 IV-14。66-156-ウ区⑫面で炭化材片と焼土塊を含む覆土の輪郭を確認した。坑口東側

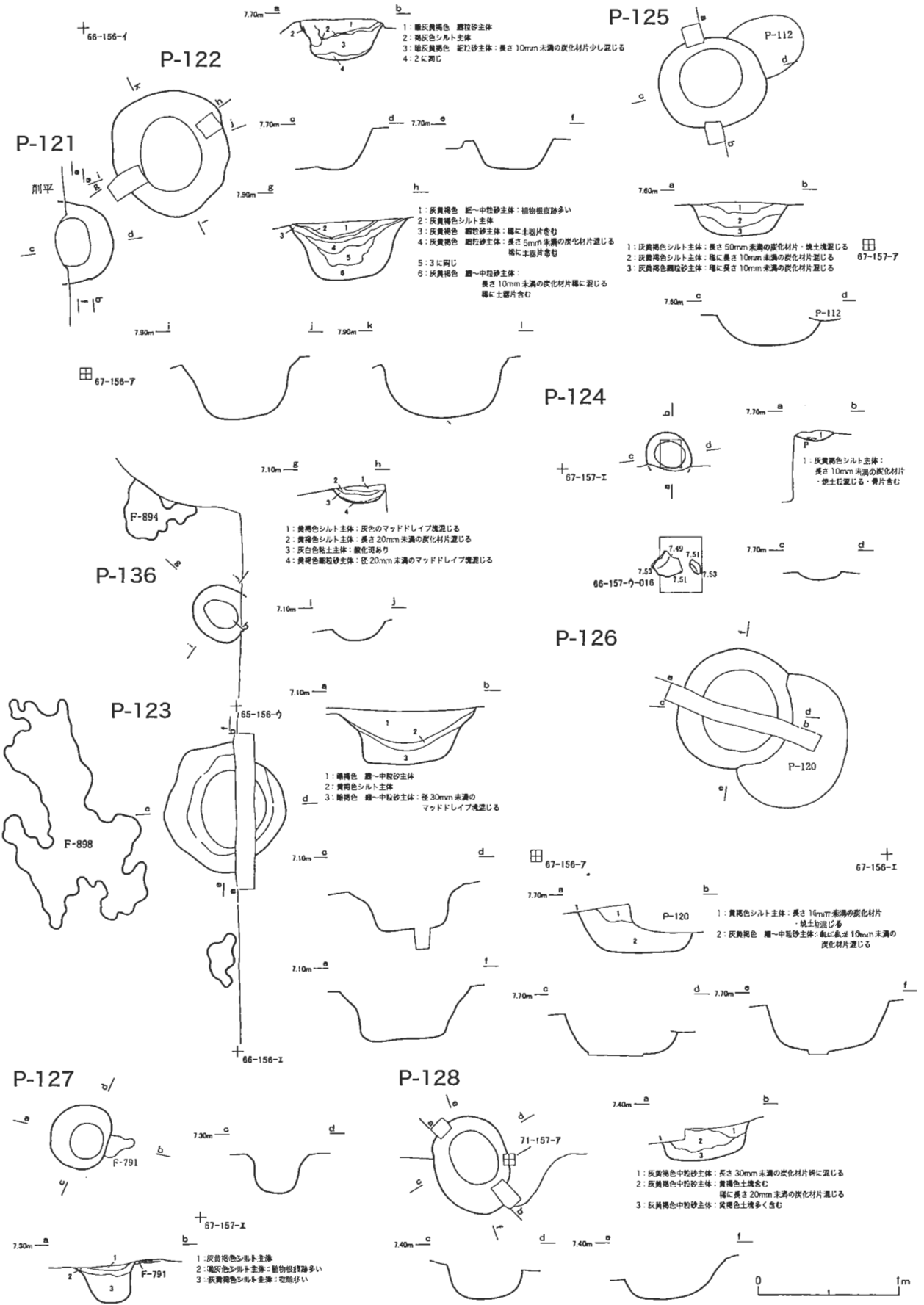
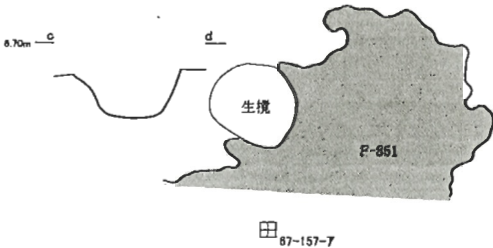
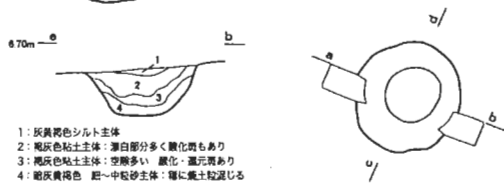
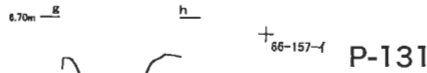
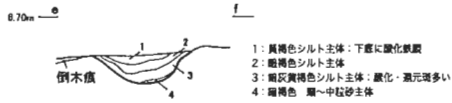
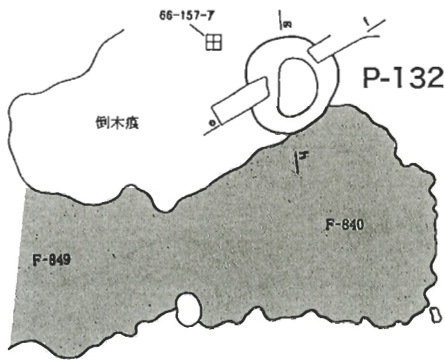
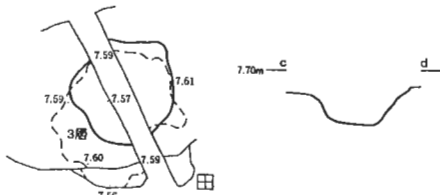
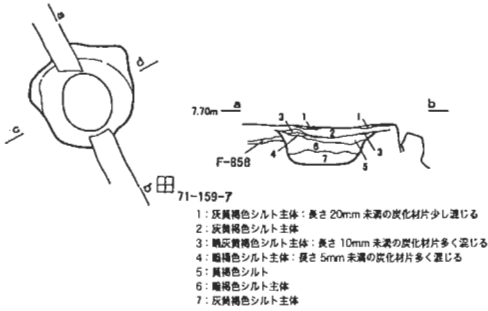


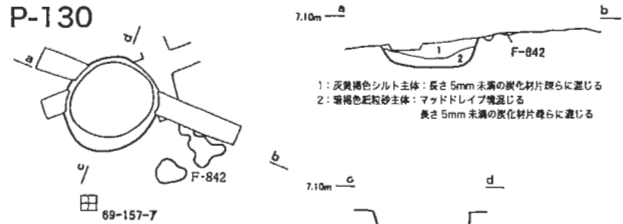
図 IV-14 土坑 (13)

IV 遺構

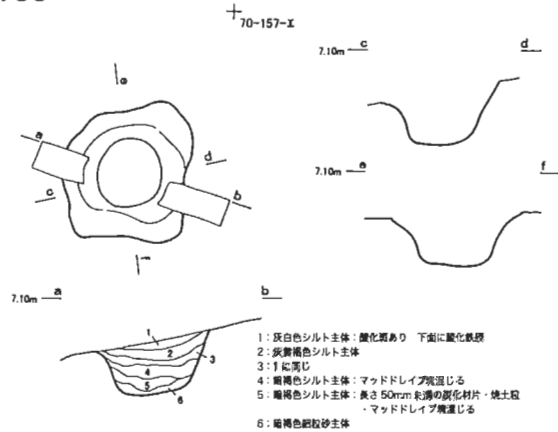
P-129



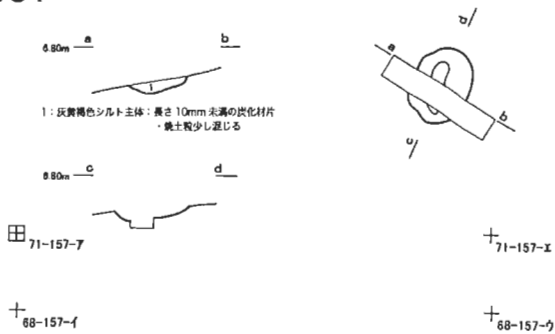
P-130



P-133



P-134



P-135

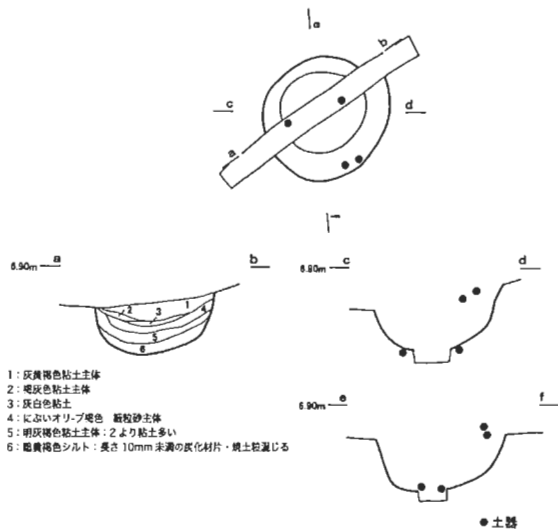


図 IV-15 土坑 (14)

を P-112 に切られている。底面は概ね円形で多少東西方向に長い。覆土は二三の単位に分け得るがその境界は曖昧で出入りがあり、人為的な埋め戻しらしく思われる。坑壁上部が開く傾向が弱い点からみて本来の掘り込み面はより上位にあったらしい。

P - 1 2 6 図 IV-14。66-156-イ区⑧面の直下で円形の輪郭を認め、小トレンチで断ち割って確認した。ほぼ円形、多少南北に長い平坦な底面をもつ。この遺跡の晩期土坑のうちでは規模の大きい部類に属するが目立った出土遺物はない。坑壁上部が全く開かず掘り込み面はもっと上位にあったとみて可であろう。F-674（生活面 130）の下位にあり、P-120 に切られる。

P - 1 2 7 図 IV-14。66-157-イ区⑬面で検出、同じ面の焼土 F-791（生活面 223）を切っている。平面規模の小さい割に深く、坑口近くまで空隙の多いシルト質の覆土で満たされている点で類例を見ない。断ち割っていないので掘方の認定にも多少問題が残り、樹木の株などの痕跡である可能性も少なくはない。

P - 1 2 8 図 IV-14。70-156-ウ区⑧面で半円形の輪郭を認め、71 線以南に拡張して完掘した。北半は遺構の下部を残すのみ、南半も坑口部は 11 年度調査時に削平されていた。底面は南北方向に長い楕円形で、やはり恐らく旧地形の傾斜方向に直交して長軸がある。南側の坑壁は他よりも目立って傾きが緩い。覆土は境界の曖昧な二三の単位に分け得るが、埋め戻しまたは壁の崩落で比較的急激に埋まった印象を与える。

P - 1 2 9 図 IV-15。70-158-ウ⑫面で検出した炭化材片の散布域中に乱れが認められたので、下位に遺構があることを予想して小規模な断ち割りを入れたところ、やや下位に再び炭化材片の集中（ab 断面 3・4 層）が現れ、それが⑬面の焼土 F-858（生活面 211）を切る落ち込み内に存在することが知られた。坑口部に焼土または炭化物集中の形成される他の土坑と同様なものと考えて調査したが掘り方はあまり整っておらず、規模の小さい割に底面の傾きが目につく。

11 年度調査で土壌試料の採取用に残した狭い畦部分での検出であるため周囲の状況が明らかでなく、倒木痕等の一部を誤認した可能性も少なくはない。その場合坑口の炭化物とみたものは攪乱で持ち上がった F-858 の一部ということになるかも知れない。

P - 1 3 0 図 IV-15。68-157-イ区⑬面を調査中、そこだけ乾裂の生じる範囲が円形に認められ、小トレンチを入れて正しくこの範囲が土坑であることを確認した。P-114 の真下に位置するが、その底面と P-130 の間には⑫面の F-821・836（生活面 223）が介在するので同一の遺構である可能性は否定される。同一面で隣接する F-842（生活面 224）周囲の炭化物散布はこの土坑に切られている。

いびつな円形ないし楕円形の平坦な底面をもち、壁はほとんど開かず立ち上がる。掘り込み面が⑫面にあった可能性も皆無ではないが、F-821・836（生活面 223）の断ち割りではまったく気付かれていない。やはり⑬面から掘り込まれた浅い土坑で、壁が崩れる前に埋め戻されたとみるべきものようである。

P - 1 3 1 図 IV-15。66-157-ア区⑫面で同心円状に落ち込む覆土を検出した。同一面の焼土 F-840（生活面 233）を切る。小規模で掘り方もあまり整っていない。覆土の大半は水成層と考えられ、埋め戻されることなく埋没したとみられる。

P - 1 3 2 図 IV-15。66-157-イ区⑯面で検出、P-131・137 と同一面の掘り込みで規模・覆土の様相とも似ている。ほぼ円形の小さな底面を有し、開口状態のまま自然の埋積に任されたとみられる。

P - 1 3 3 図 IV-15。70-157-ア区⑰面で不整形の落ち込みを認め、断ち割ってほぼ円形の土坑の坑口が崩れたものであることを確認した。覆土の最下部（ab 断面 6 層）はこの崩落で生じたものかと思われる。覆土上部（3 層以上）は水成層であろう。

#### IV 遺構

P - 1 3 4 図 IV-15。70-157-イ区⑯面で炭化物と焼土粒を含む覆土の輪郭を認めて調査したが、小規模・不整形の掘方で、覆土が人為層らしいことを除けばあまり遺構らしいところはない。土坑であるとすれば 13・14 年度調査を通じて最も下層で確認されたものとなる。

P - 1 3 5 図 IV-15。68-157-イ区⑮面ですでに落ち込みが確認されていたが、掘り込みは同区⑯面からの形成とみられ、P-131・132・137 と概ね同一面の土坑とみなされる。平面ほぼ円形で丸底、覆土は最下部を除いて水成堆積物らしい。底面付近で土器片が 2 点出土したが、特別の意義はなさそうである。

P - 1 3 6 図 IV-14。156 線半の地層断面を検討中に P-84・123 の掘り込み面に当たるマッドドレイプが小さな落ち込みに向かって崩れ落ちていることに気づき、65-156-ア区内を同じ面 (①面) まで掘り下げた結果、この落ち込みが比較的整った楕円形の掘り込みであることを確認した。小規模なものであるが、覆土に水成の粘土層 (gh 断面 6 層) を生じていることから、ある程度の期間にわたり穴として開口していた可能性が高い。

P - 1 3 7 図 IV-16。67-157-ア区⑭面で不整な楕円形の落ち込みを検出して断ち割った。覆土の大半は株または根の痕跡と思われる粘土質の灰白色土で占められているが、精査するとその下に平坦な底面をもつ掘方が確認できた。埋没中の土坑の上に樹木が生育したものらしく、その攪乱は底面より下位に達している。P-131、132 と同一面の遺構である。

P - 1 4 2 図 IV-16。67-156-イ区⑪面で輪郭を確認して調査したが底部付近を残すのみであった。楕円形の底面は他の多数例と同じく南北方向に長い。156 線半の地層断面に見られるように、この土坑の真上にはかなり上位から倒木痕らしい攪乱が入り込んでいたため確認が遅れ、どの程度の深度から遺構の壁面が残っていたかは不明になってしまった。

P - 1 4 3 図 IV-16。69-156-ウ区⑯面、69-157-イ区⑭面の調査で炭化材片混じり層が落ち込む輪郭を検出した。掘り込み面はもう少し上位かもしれない。平坦な底面は多少南北に長い円形で、覆土の下半はマッドドレイプ塊の混じる人為層である。

P - 1 4 4 図 IV-16。69-156-エ区⑭面の検出中に発見され、この面に属する遺構とみてよいようである。底面の径 20cm ほどの小さな土坑で、最上部を除いて人為層と思われるもので埋まっている。

P - 1 4 5 図 IV-16。69-157-イ区⑮面を切る土坑として確認したもので、それより上位からの掘り込みである。ほぼ円形の土坑で下部はマッドドレイプ塊、上部は炭化材片の混じる人為層で埋まっており、覆土上部にはかなりの土器片や剥片が含まれていた。

P - 1 4 6 図 IV-16・図版 IV-4。69-156-エ区⑮面で焼土 F-935 (生活面 225) の焼き火面直下に発見された小さな土坑である。覆土下部から板状の白色粘土塊がまとまって出土し、大きいものは長径が 12cm ほどあった。厚さはどれも 1cm 未満である。

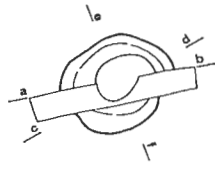
P - 1 4 7 図 IV-16。69-156-エ区⑰面ほかで確認された円形の土坑で、ほぼ構築面で検出できたものとみている。底面付近にはマッドドレイプ塊や炭化材片を含む人為層がみられるが、その上には粘土質の水成層 (ab 断面 3 層) があり、開口状態で暫く放置された可能性を示している。

P - 1 4 8 図 IV-16。P-147 より多少下位で確認しているが、同一面の遺構と考えて差し支えない。概ね円形、丸底で底面は想定される旧地表に平行した傾きを見せる。覆土の様相は P-147 とよく似ている。

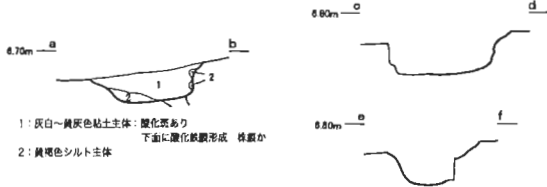
P - 1 4 9 図 IV-16。P-148 より多少深い位置で確認したものである。多少南北に長い底面はやはり旧地表に平行して傾き、覆土の構成も P-147・148 に似ている。これら 2 つの土坑と同じ面から掘り込まれた可能性がある。

P-137

67-157-7

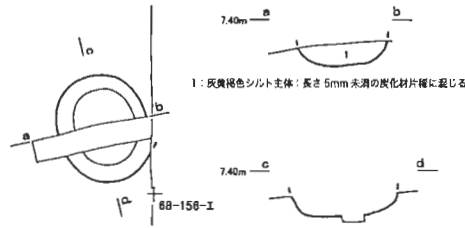


67-157-I



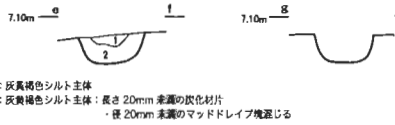
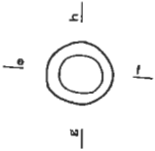
- 1: 灰白~黄灰色粘土主体: 鹽化蒸あり  
下面に鹽化鉄膜形成 殊異か
- 2: 黄褐色シルト主体

P-142



- 1: 灰黄褐色シルト主体: 長さ5mm未満の炭化材片に起因

P-144

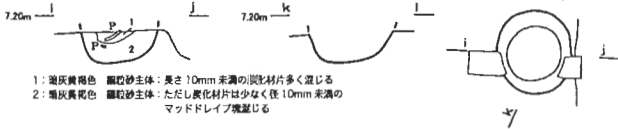


- 1: 灰黄褐色シルト主体
- 2: 灰黄褐色シルト主体: 長さ20mm未満の炭化材片  
・径20mm未満のマッドレイブ塊混じる

69-157-f

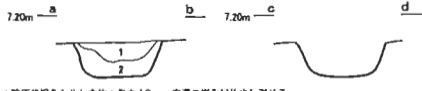
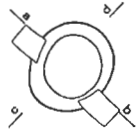
69-157-g

P-145



- 1: 暗灰黄褐色 細砂主体: 長さ10mm未満の炭化材片多く混じる
- 2: 暗灰黄褐色 細砂主体: ただし炭化材片は少なく径10mm未満のマッドレイブ塊混じる

P-143

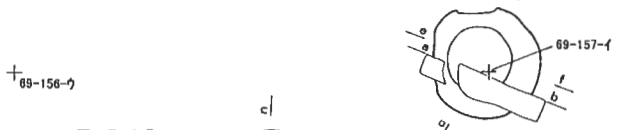


- 1: 暗灰黄褐色シルト主体: 長さ10mm未満の炭化材片少し混じる
- 2: 暗灰黄褐色シルト主体: 径20mm未満のマッドレイブ塊混じる

70-157-7

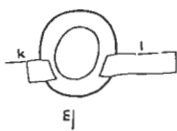
70-157-I

P-147

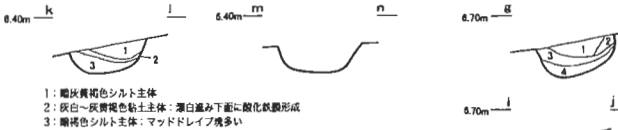


69-156-g

P-149

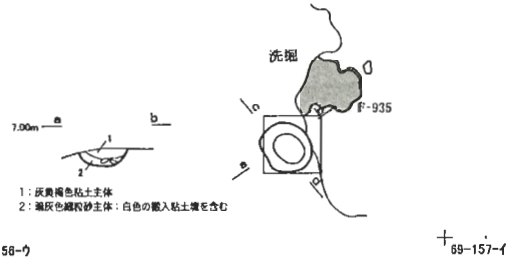


P-148



- 1: 暗灰黄褐色シルト主体
- 2: 灰白~灰黄褐色粘土主体: 薄白蒸み下面に鹽化鉄膜形成
- 3: 暗褐色シルト主体: マッドレイブ塊多い  
長さ10mm未満の炭化材少し混じる

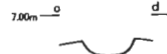
P-146



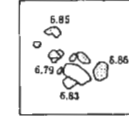
- 1: 灰黄褐色粘土主体
- 2: 暗灰色細粒砂主体: 白色の輸入粘土層を含む

69-158-g

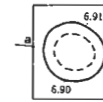
69-157-I



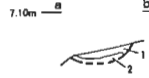
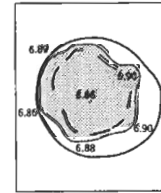
白色粘土



P-152



白色粘土



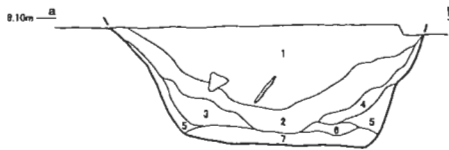
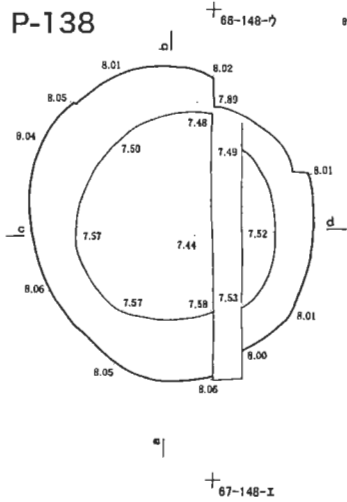
- 1: 灰黄褐色シルト主体: 長さ10mm未満の炭化材片混じる  
土層片を含む
- 2: 灰白色粘土: 蟹状の粘土塊を混じらせたもの

69-156-I

図 IV-16 土坑 (15)

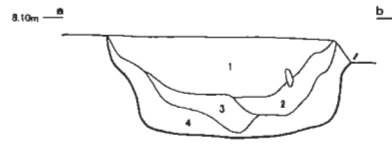
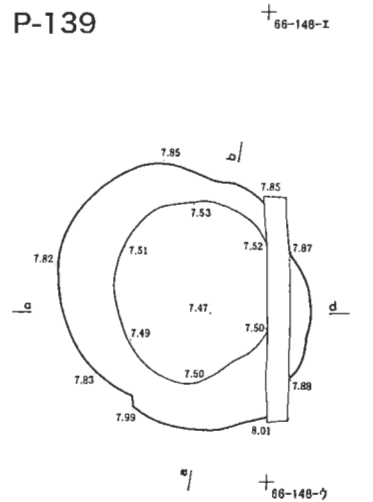
IV 遺構

P-138



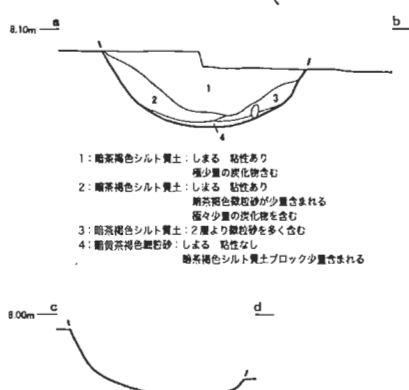
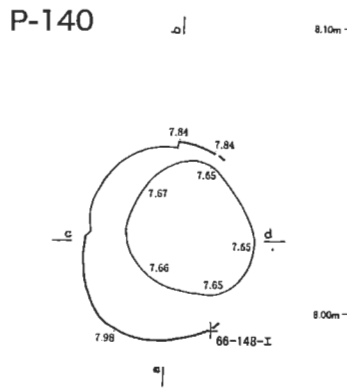
- 1: 暗茶褐色シルト質土: かくしまる 粘性あり 炭化物を少量含む
- 2: 暗茶褐色シルト質土: しまる 粘性あり 暗茶褐色微粒砂がブロック状に混入する 炭化物を微量含む
- 3: 暗茶褐色微粒砂: しよる 粘性なし 暗茶褐色シルト質土ブロックが少量混入する
- 4: 暗茶褐色微粒砂: しよる 粘性なし 暗茶褐色シルト質土ブロックが多く混入する
- 5: 暗茶褐色微粒砂: しよる 粘性なし 暗茶褐色シルト質土ブロックが少量混入する
- 6: 暗茶褐色シルト質土: ややしまる 粘性あり 2層より暗茶褐色微粒砂がやや多い
- 7: 暗茶褐色シルト質土: しまる 粘性あり 暗茶褐色微粒砂が少量混入する

P-139



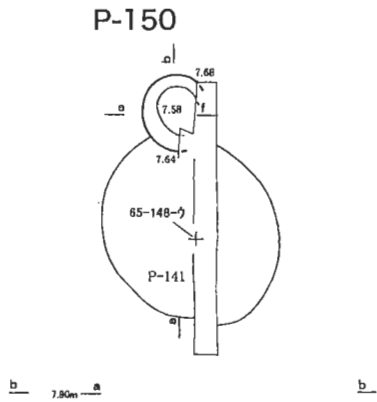
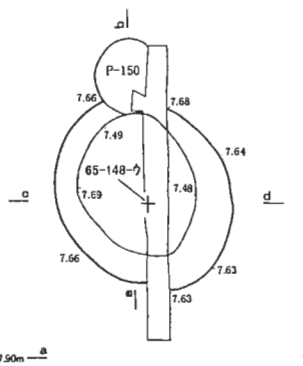
- 1: 暗茶褐色シルト質粘土: しよる 層間に比べ粘質高いシルト砂を含む
- 2: にぶい暗オレンジシルト質粘土+微粒砂: ややしまる 粘土と砂が均等に混ざる
- 3: にぶい暗オレンジ微粒砂: しよるはやや粗くぼろぼろしている 暗茶褐色粘土 (5~10mm) がブロック状に点在する
- 4: にぶい暗オレンジ微粒砂: ややしまる 暗茶褐色粘土 (5~10mm) がブロック状に点在する 3層より砂を多く含む

P-140



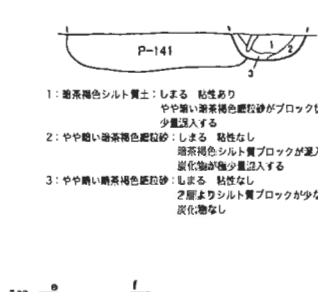
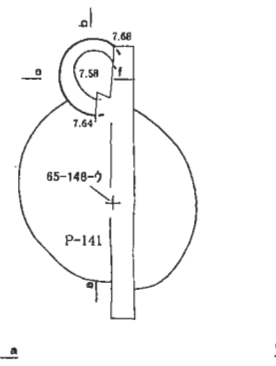
- 1: 暗茶褐色シルト質土: しよる 粘性あり 炭化物を少量含む
- 2: 暗茶褐色シルト質土: しよる 粘性あり 暗茶褐色微粒砂が少量含まれる 炭化物を少量含む
- 3: 暗茶褐色シルト質土: 2層より微粒砂を多く含む
- 4: 暗茶褐色微粒砂: しよる 粘性なし 暗茶褐色シルト質土ブロック少量含まれる

P-141



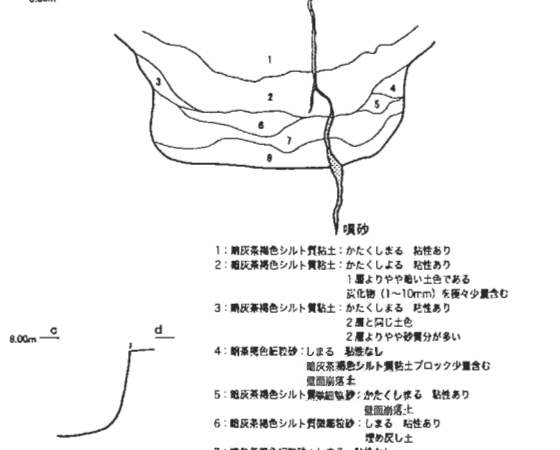
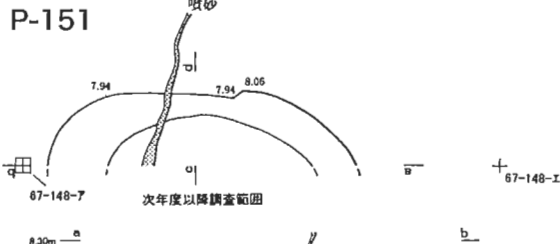
- 1: 暗茶褐色シルト質土: しよる 粘性あり 暗茶褐色微粒砂が少量混入する 炭化物が少量含まれる (1~3mm)
- 2: 暗茶褐色シルト質土: しよる 粘性ややあり 暗茶褐色微粒砂が少量混入する 炭化物 (2~20mm) が少量含まれる
- 3: 暗茶褐色シルト質土: しよる 粘性あり 暗茶褐色微粒砂が1層より多く含まれる
- 4: 暗茶褐色シルト質土: しよる 粘性あり 暗茶褐色微粒砂が少量混入する
- 5: 暗茶褐色微粒砂: しよる 粘性なし 暗茶褐色シルト質土ブロック少量含まれる

P-150



- 1: 暗茶褐色シルト質土: しよる 粘性あり ややし暗茶褐色微粒砂がブロック状に少量混入する
- 2: ややし暗茶褐色微粒砂: しよる 粘性なし 暗茶褐色シルト質土ブロックが混入する 炭化物が少量混入する
- 3: ややし暗茶褐色微粒砂: しよる 粘性なし 2層よりシルト質土ブロックが少ない 炭化物なし

P-151



- 1: 暗茶褐色シルト質粘土: かくしまる 粘性あり
- 2: 暗茶褐色シルト質粘土: かくしまる 粘性あり 1層よりやや粘い土である 炭化物 (1~10mm) を微量含む
- 3: 暗茶褐色シルト質粘土: かくしまる 粘性あり 2層と同じ土色 2層よりやや砂質が多い
- 4: 暗茶褐色微粒砂: しよる 粘性なし 暗茶褐色シルト質土ブロック少量含む 炭化物混入
- 5: 暗茶褐色シルト質微粒砂: かくしまる 粘性あり 炭化物混入
- 6: 暗茶褐色シルト質微粒砂: しよる 粘性あり 埋め戻し土
- 7: 暗茶褐色微粒砂: しよる 粘性なし 暗茶褐色シルト質土ブロック少量含む 埋め戻し土
- 8: 暗茶褐色微粒砂: ややしまる 粘性ややあり 暗茶褐色シルト質土ブロック多量含む 埋め戻し土

図IV-17 土坑 (16)



P - 1 5 2 図 IV-16・図版 IV-4。68-156-イ区⑤面の炭化物散布を除去中に輪郭が見出されたもので、この面の遺構と考えられる。旧地表の傾斜方向にやや長い円形平面の浅い土坑で、底面に掘り込みより一回り小さい盤状の白色粘土塊が納められていた。厚さは 2cm ほどありそうである。底面ごと切り取って粘土塊を取り上げたので、坑底の詳細は不明である。(西脇)

(3) 148 線

P - 1 3 8 図 IV-17・図版 II-6。66-148-ウ区②面を調査中に土質の異なる円弧状の範囲を確認した。148 線セクションにかかっていたためこれに沿ってトレンチを入れて壁面の立ち上がりを確認した。円形で平坦な底面を有する。セクションベルト部分の 66-148-イ区の②面で土坑の残存部の検出を行った。148 線セクションで土層断面を確認したところ 1~5 層は自然堆積によるものであろうと思われる。この堆積状況から見て土坑の掘り込み面は検出面からさほど変わらない位置であったと考えられる。直径約 1.7m、深さ約 0.6m と対雁 2 遺跡の中でもかなり大型の部類に入るものである。P-139・140・151 とほぼ同面から掘り込まれたと思われる。

P - 1 3 9 図 IV-17・図版 II-6。66-148-エ区②面を調査中に土質の異なる円弧状の輪郭を確認した。148 線セクションにかかっていたためこれに沿ってトレンチを入れて壁面の立ち上がりを確認した。セクションベルト部分の 66-148-イ区の②面で土坑の残存部を検出し、円形の範囲を確認したことから、半裁して調査を行った。円形で平坦な底面を有する。土坑は自然に埋没したものと考えられる。土坑の堆積状況から見て土坑の掘り込み面は検出面(66-148-イ区②面)からさほど変わらない位置であったと考えられる。長径約 1.7m、深さ約 0.5m と対雁 2 遺跡の中でもかなり大型の部類に入る。P-138・140・151 とほぼ同面から掘り込まれたと思われる。

P - 1 4 0 図 IV-17・図版 II-6。65-148-ウ区①面を調査中に土質の異なる円弧状の輪郭を確認した。148 線セクションにかかっていたためこれを精査したところ土坑の断面を確認した。65-148-ウ区では上面を削平してしまい、わずかな底面を検出したのみである。セクションベルト部分の 65-148-イ区②面で土坑の残存部を検出し、円形の範囲を確認したことから、半裁して調査を行った。楕円状の底部を有する。土坑は自然に埋没したものと考えられる。土坑の堆積状況から土坑の掘り込み面は検出面(65-148-イ区②面)からさほど変わらない位置であったと考えられる。P-138・139・151 とほぼ同面から掘り込まれたと思われる。

P - 1 4 1 図 IV-17。65-148-ウ・エ区①面を調査中土質の異なる円弧状の輪郭を確認した。148 線セクションにかかっていたためこれに沿ってトレンチを入れて壁面の立ち上がりを確認した。また、P-150 に切られていることも確認した。南北方向に楕円形で平坦な底面を有する。土坑の上面は河川敷公園の周回道路により削平されており、掘り込み面の確認はできなかった。

P - 1 5 0 図 IV-17。65-148-ウ・エ区①面を調査中に土質の異なる円弧状の輪郭(P-141)を確認した。148 線セクションにかかっていたためこれに沿ってトレンチを入れたところ、断面に P-141 を切る土坑を確認した。南北方向に楕円形で平坦な底面を有する。土坑東側はトレンチにより削平してしまい範囲は不明である。土坑の上面は河川敷緑地の周回道路により削平されており、掘り込み面の確認はできなかった。

P - 1 5 1 図 IV-17。66-148-イ区②面を調査中に土質の異なる円弧状の輪郭を確認した。67 線以南は次年度以降の発掘区のため、調査を行っていない。67 線セクションにかかっていたことからこれをセクションとして半裁を行った。規模が大きく底面を確認できなかったため、断面によって底面を確認した。平坦な底面をしているようである。断面の 6~8 層は埋め戻されたと考えられるが、1~5

#### IV 遺構

層は自然埋没によるものと思われる。この堆積状況から見て掘り込み面は 66-148-イ区②面と見てよいと考えられる。P-138・139・140 とほぼ同面から掘り込まれたと思われる。(酒井)

### 3 焼土

焼土は平成 11 年度 89 ケ所、13 年度 462 ケ所、14 年度 246 ケ所の合計 797 ケ所が検出されている。焼土の検出される範囲は 140 線より東側に多く分布し、これより西側にはまばらに分布する。特に 153 線以東から増えはじめ、156 線以東では濃密な分布を示す(図 IV-18)。焼土は半裁して焼成の状況を確認している。現地で焼成されたものと廃棄されたと考えられるものに分類される。現地で焼成されたものは 624 ケ所、廃棄されたと考えられるものは 167 ケ所、不明なもの 6 ケ所である。焼土の近辺に直径 10~20cm、深さ 2~5cm ほどの円形の小ピットが付属するものがある。この小ピットのある焼土を 31 ケ所確認している。1 ケ所の焼土につき小ピットが 1~8 基確認されている。この小ピットは土器を据え付けるためのものではないかと考えられる。焼土の形成される場所としては平坦面や斜面を利用するもののほかに、土坑(P-46・80・81・85・95)の埋没途中の浅い窪みや、F-570・948 等のように自然の落ち込んだ窪みを利用して、その中で焼土が形成されるものが見受けられている。特に F-570 では細円礫を窪みの中に入れてその上面を利用している。

焼土に関しては生活面ごとに図示している。焼土とそれに伴う炭化物の広がる範囲から同一時期における生活面の広がりを確認できるからである。焼土の形成される場所は生活面 114 のように同一時期と考えられる面でも平坦な場所のほかに東西方向 5m の距離で約 1m 西側へ落ち込む斜面を使用することもあることが確認できる。また、焼土の分布を生活面で見てみると生活面 123~240 の範囲で焼土の形成される数が多いようである。

焼土上面の土壌を採取し、フローテーションにより内容物の収集を行った。フローテーションからは微細骨片・ベンガラ・炭化物・土器片・石器等・フレイクチップなどが検出されている(表 IV-3)。表 IV-2 では各焼土におけるフローテーションの実施の有無について○×で記した。特に微細骨片・ベンガラを検出したものについては◎を記した。その結果、現場で確認されたものを含め、白色の微細骨片が検出された焼土 365 ケ所、ベンガラが検出された焼土 46 ケ所が確認された。F-717 ではベンガラの集中、F-88・427・459 では炭化クルミの集中が検出されている。微細骨片の検出された焼土は生活面 110 以降の古い生活面に多い傾向(690 ケ所中 347 ケ所)が見られ、生活面 110 以前の新しい生活面では検出される割合が少ない(107 ケ所中 18 ケ所)ようである。

遺跡の形成年代を知るために焼土にかかわる炭化物を用いて放射性炭素年代測定を行っている。今年度報告にかかわる部分においては平成 11 年度に F-50(生活面 132)・58(生活面 189)・120(生活面 211)、13 年度に F-598(生活面 111)・463(生活面 137)・622(生活面 191)・425(生活面 195)・527(生活面 213)、14 年度に F-756(生活面 1)・734(生活面 9)・736(生活面 21)・886(生活面 64)・892(生活面 87) から検出された炭化物を用いて測定を行っている。なお、14 年度にパリノサーヴェイ株式会社に測定依頼した F-756(生活面 1)・734(生活面 9)・736(生活面 21)・886(生活面 64)・892(生活面 87) の年代は年度内に成果を得ているが本書には未収録である。11 年度報告分および今年度報告分(VI 章)に掲載された測定結果から、これらの焼土には  $1740 \pm 40 \sim 2470 \pm 40$ yBP の年代が得られている。(酒井)

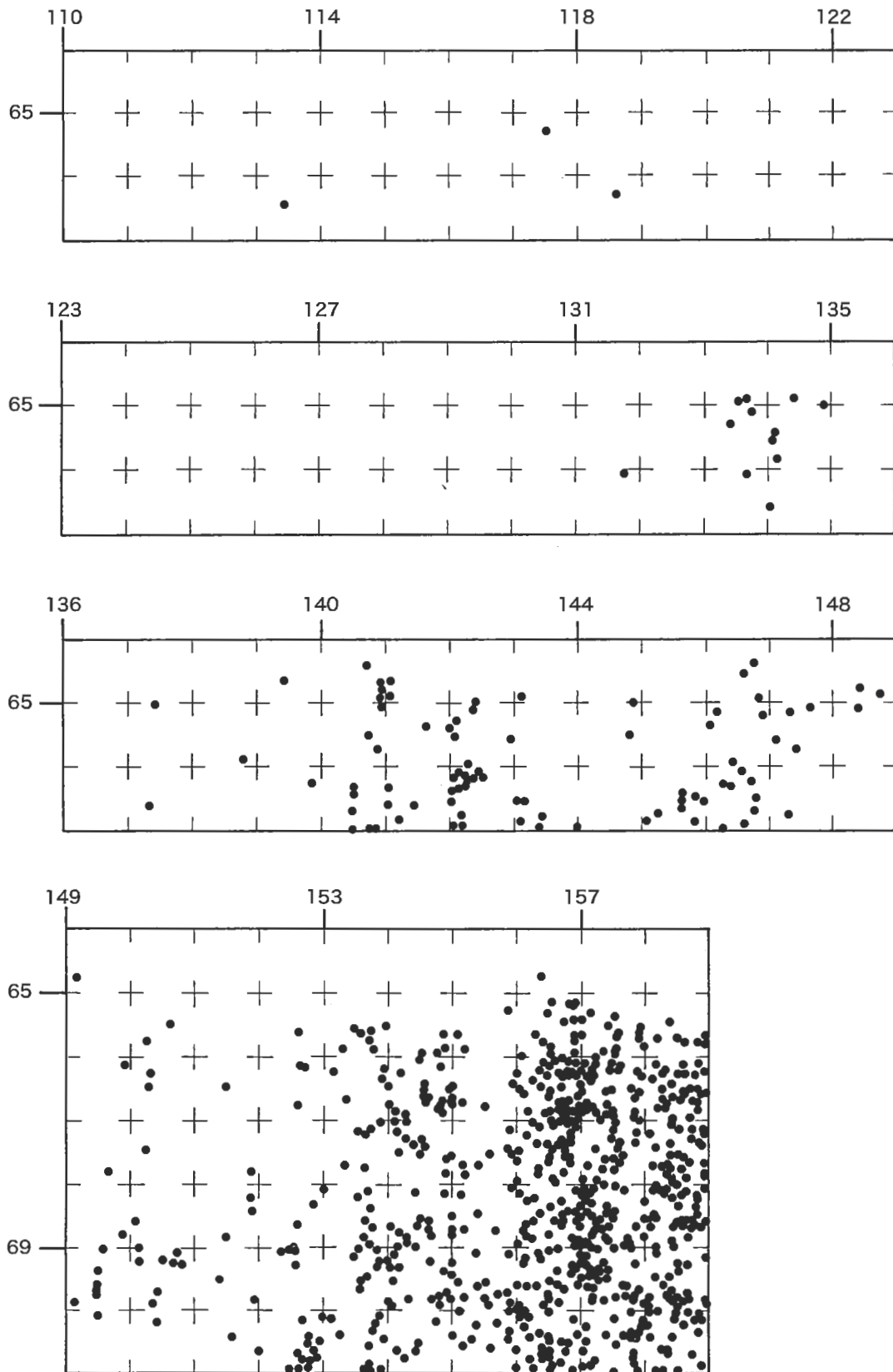
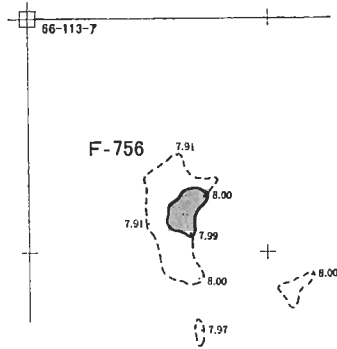


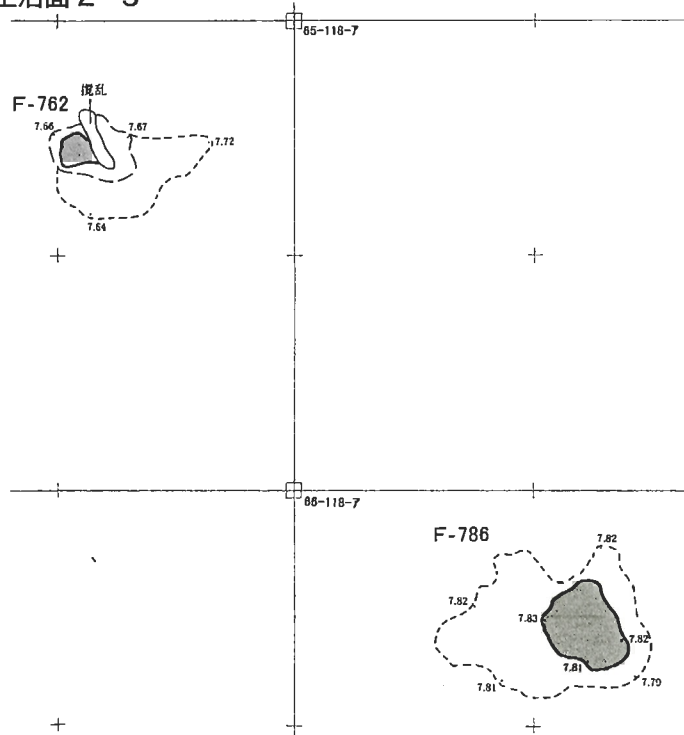
図 IV-18 焼土の分布

IV 遺構

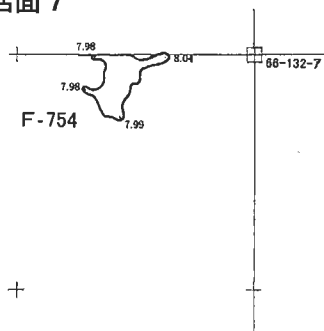
生活面 1



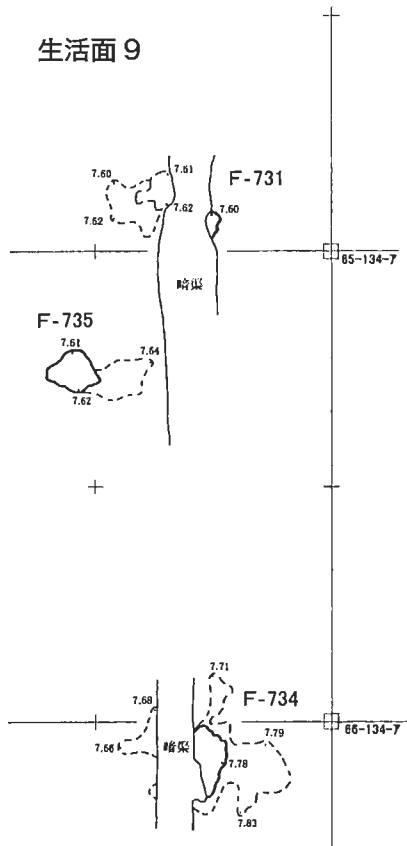
生活面 2・3



生活面 7



生活面 9



生活面 10~12

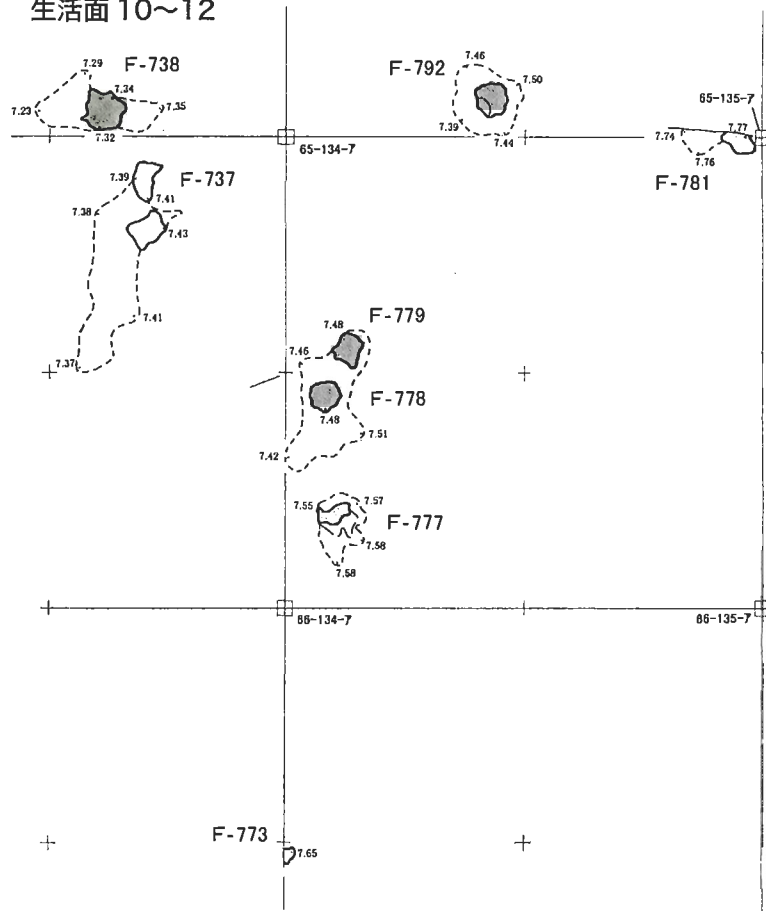


图 IV-19 烧土 (1)

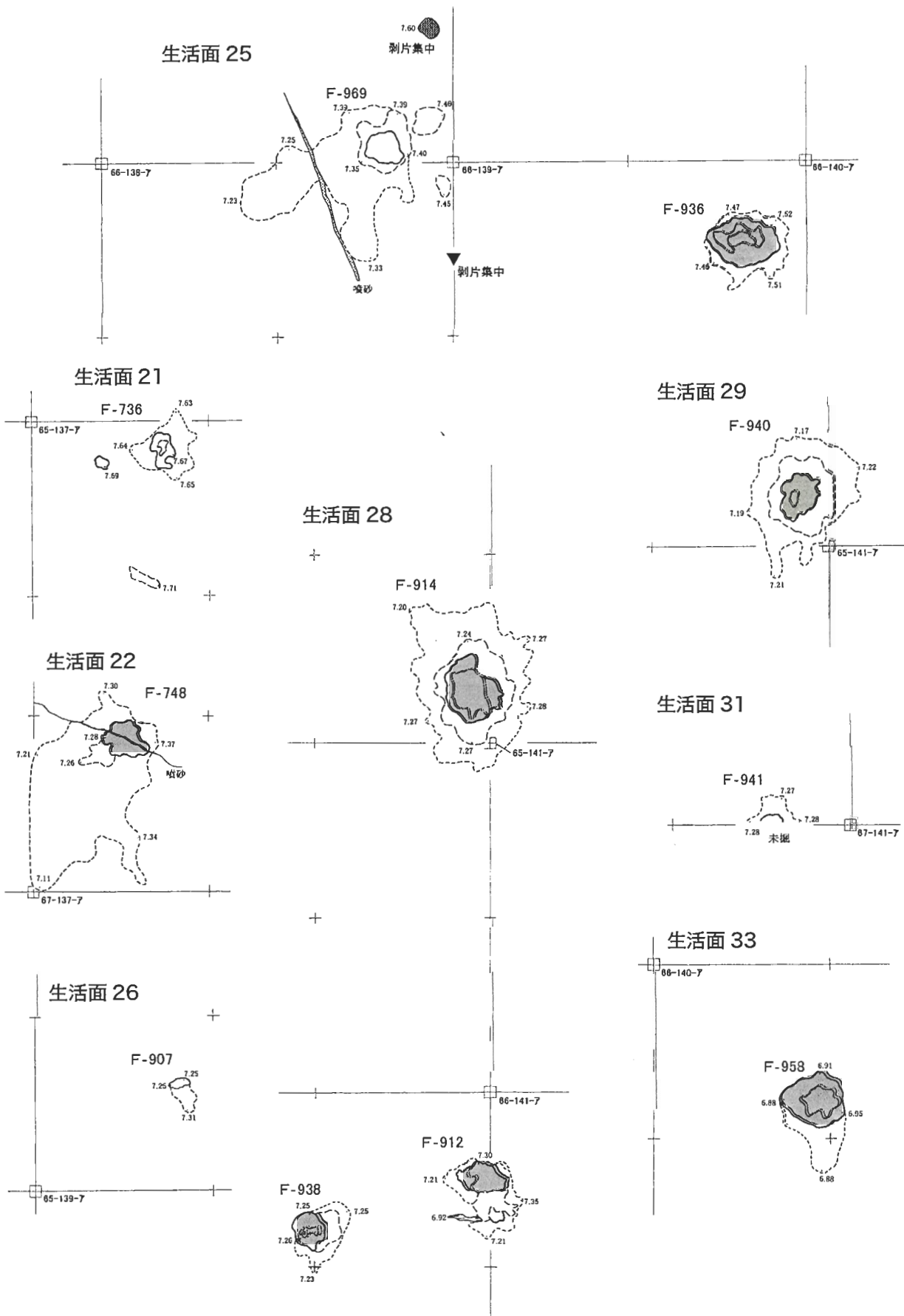
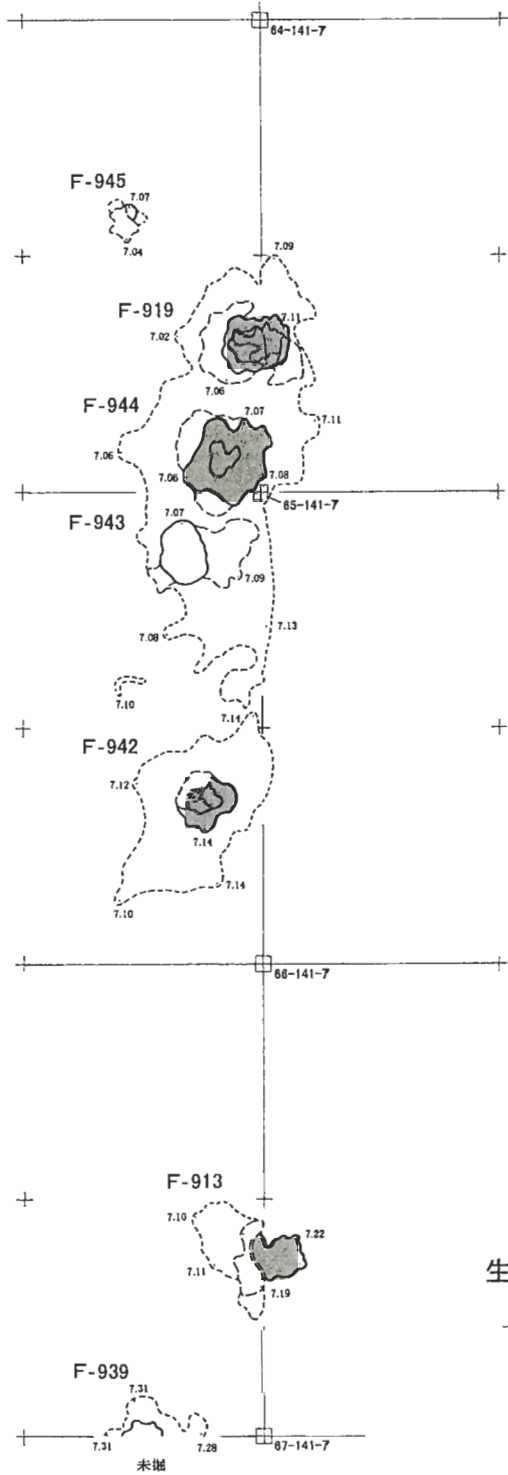


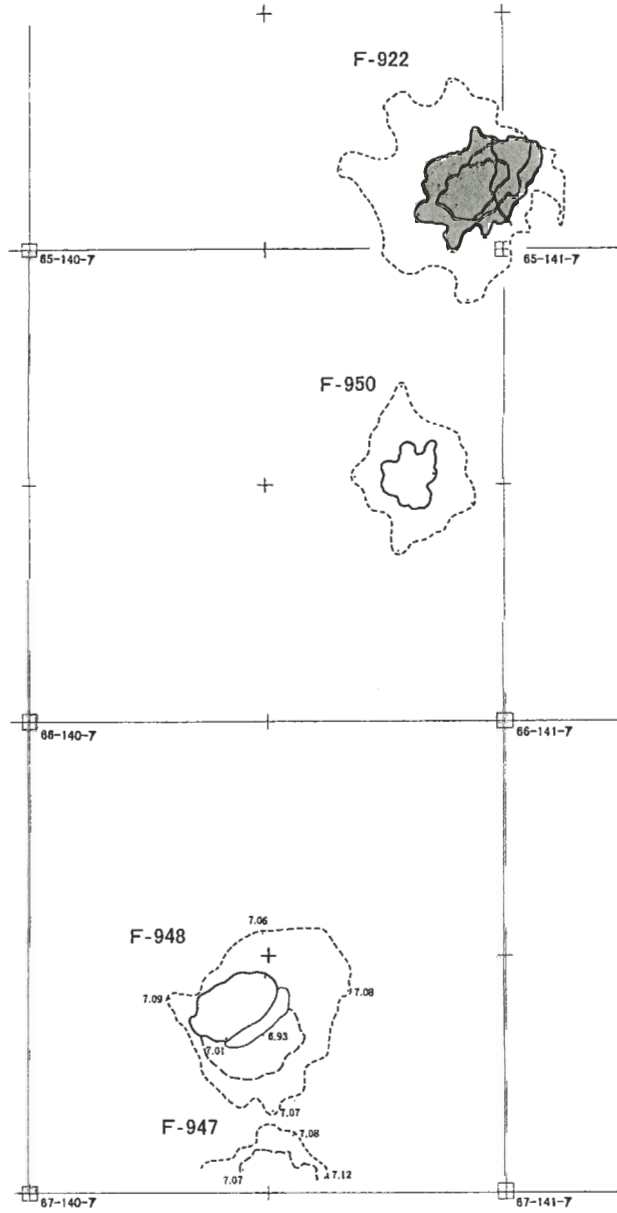
图 IV-20 烧土 (2)

IV 遺構

生活面 30



生活面 32



生活面 34

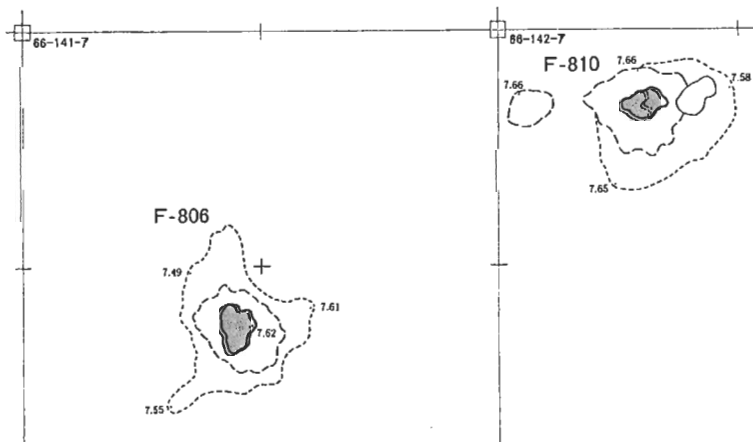
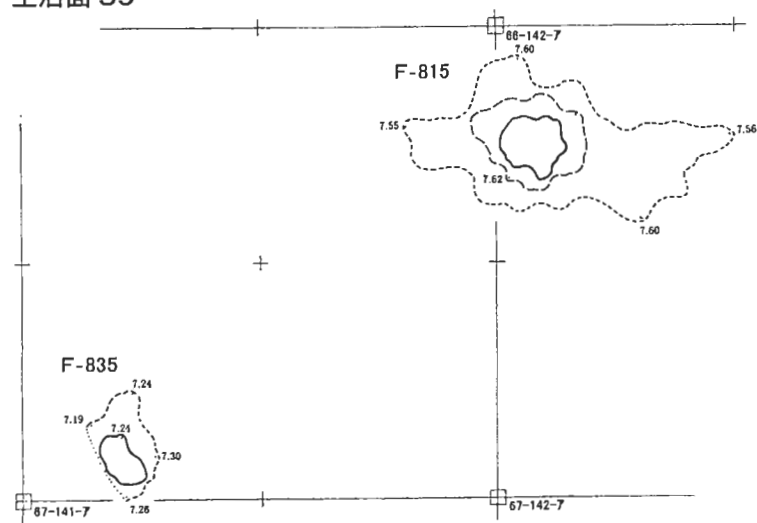
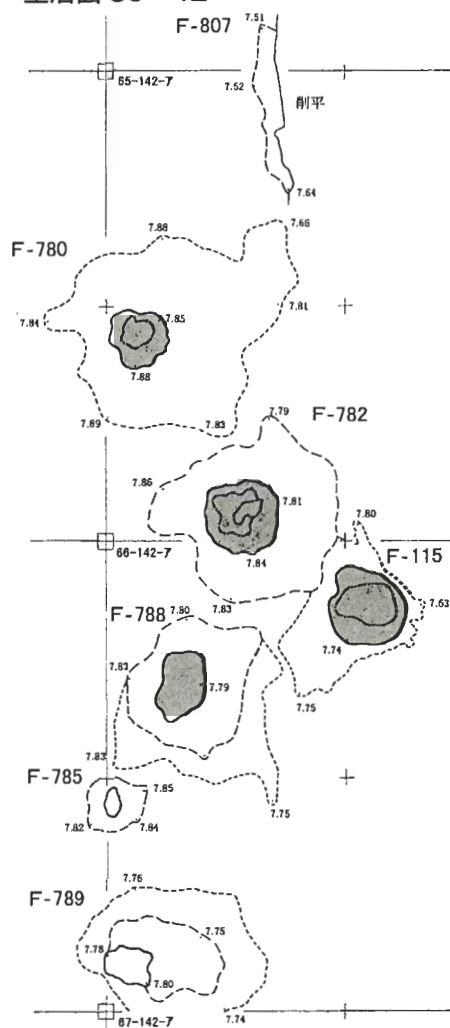


図 IV-21 焼土 (3)

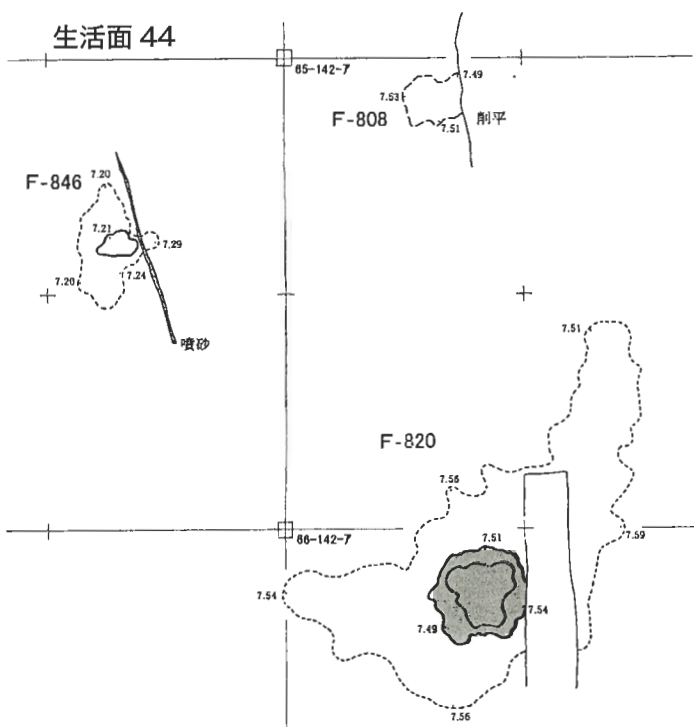
生活面 35



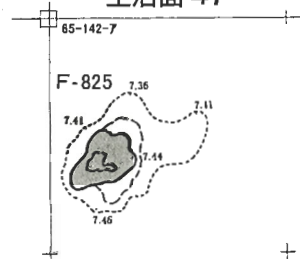
生活面 39~42



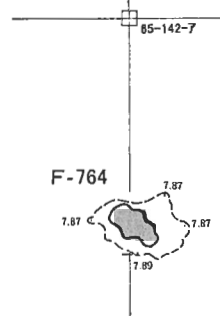
生活面 44



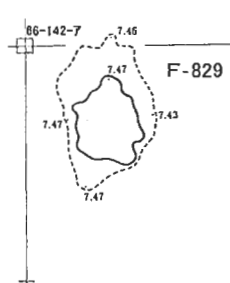
生活面 47



生活面 38



生活面 45



生活面 46

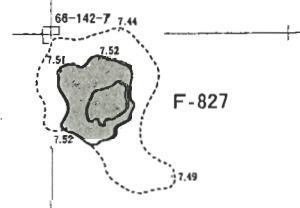
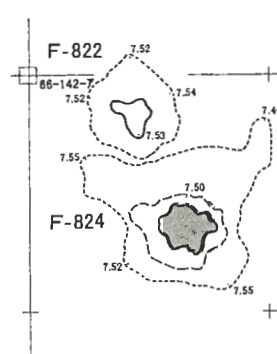
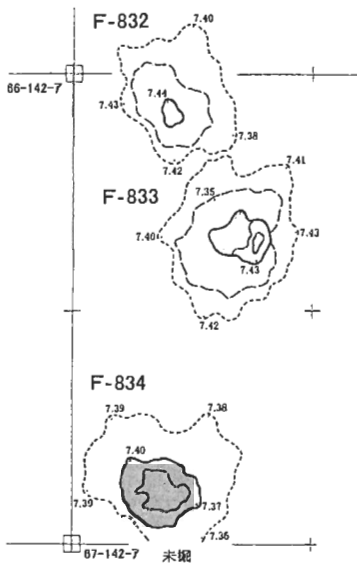


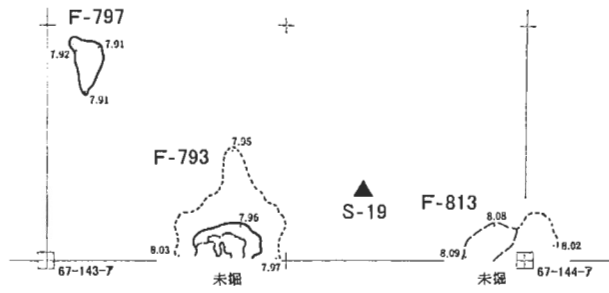
图 IV-22 烧土 (4)

IV 遺構

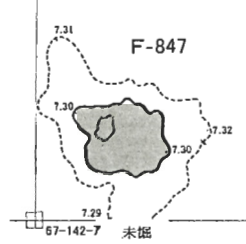
生活面 48



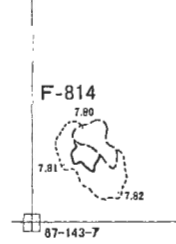
生活面 52



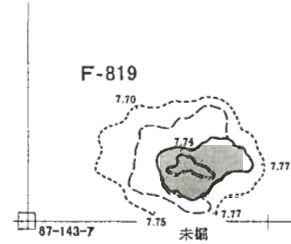
生活面 50



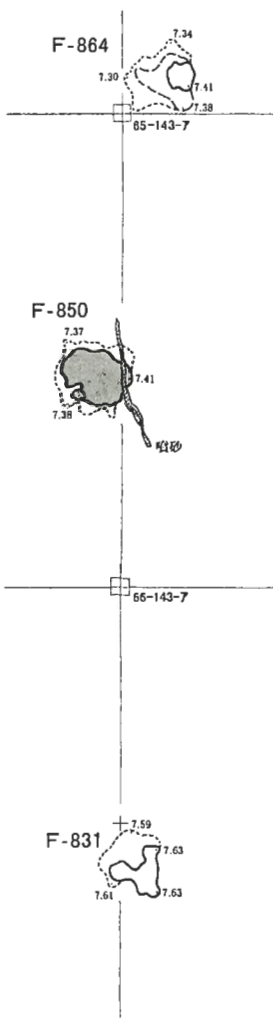
生活面 53



生活面 54



生活面 55~59



生活面 64~73

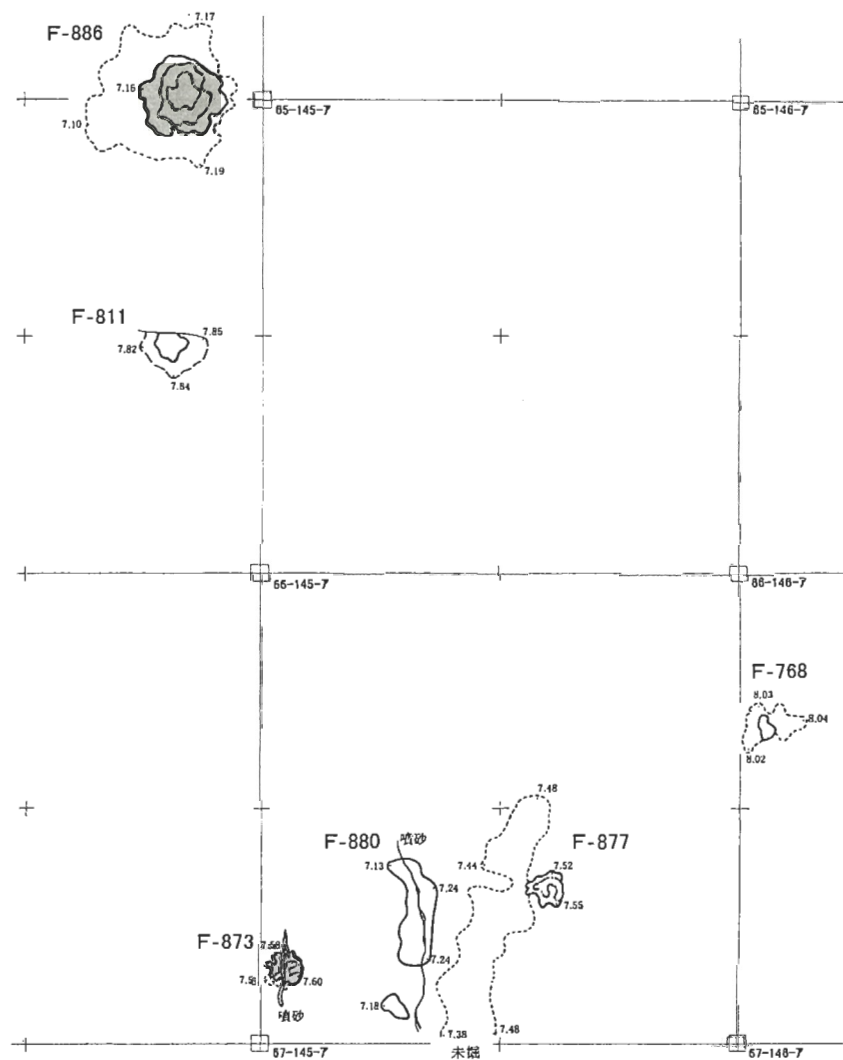


図 IV-23 焼土 (5)



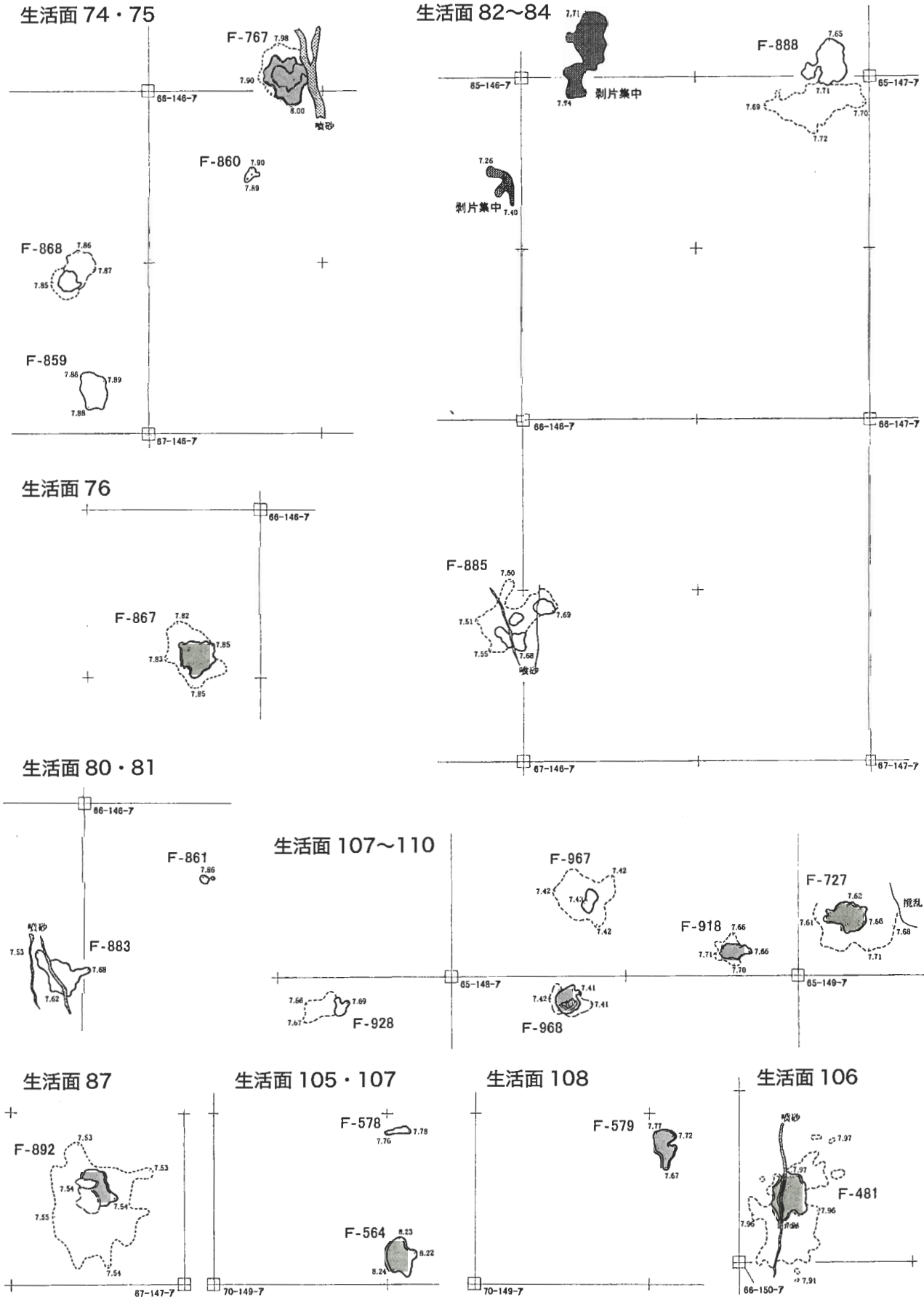
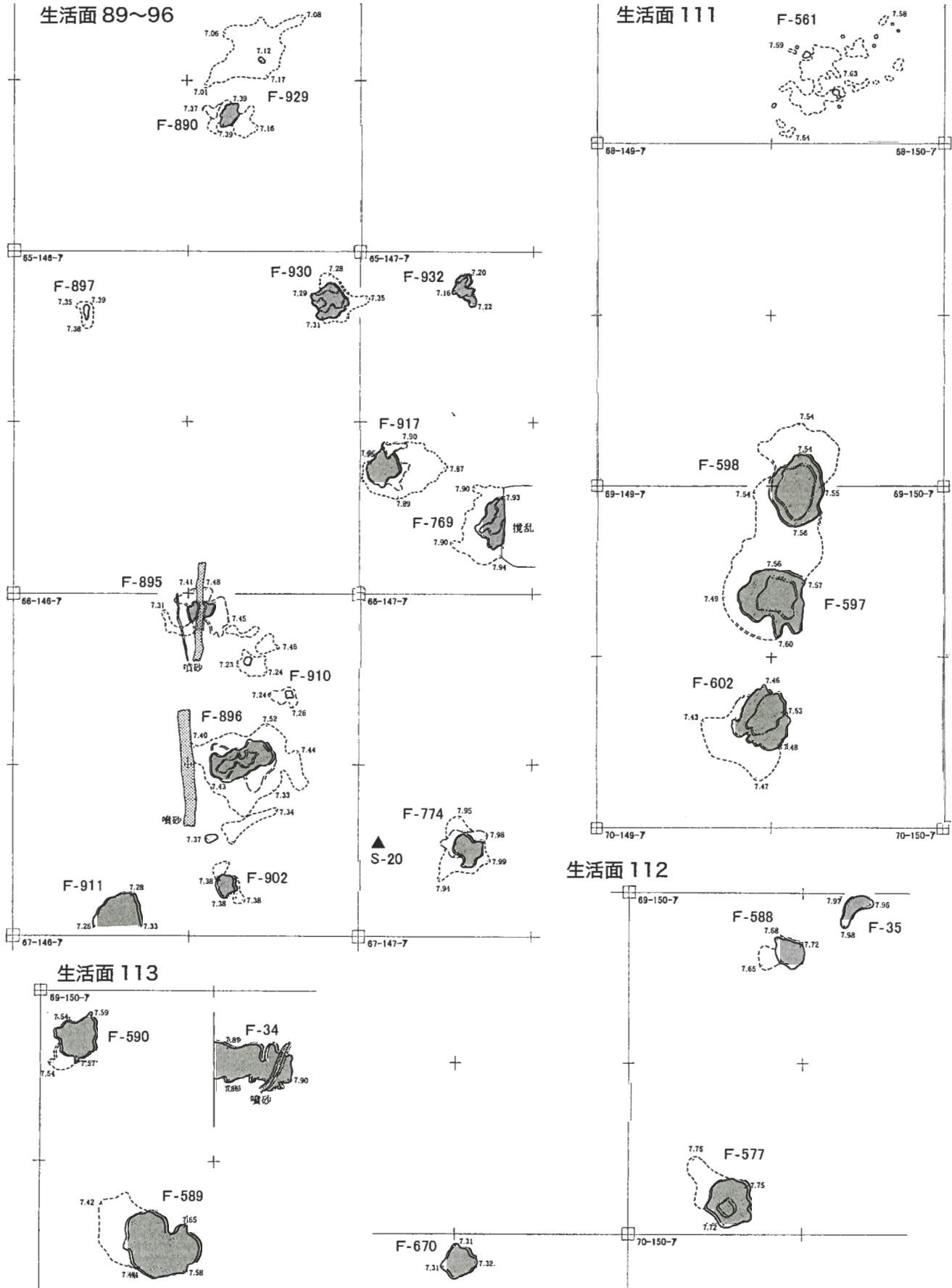


图 IV-24 烧土 (6)

IV 遺構



図IV-25 焼土 (7)

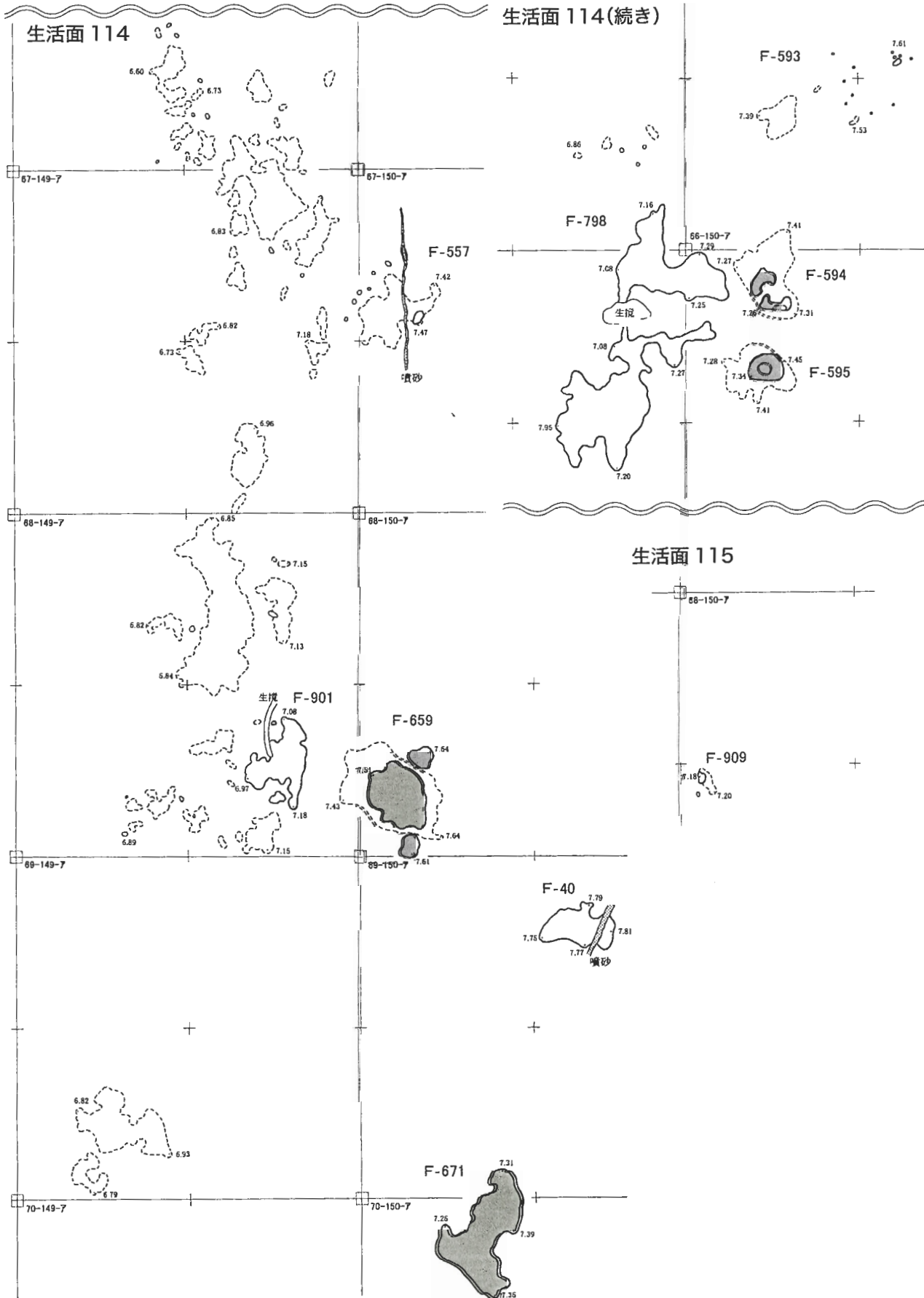
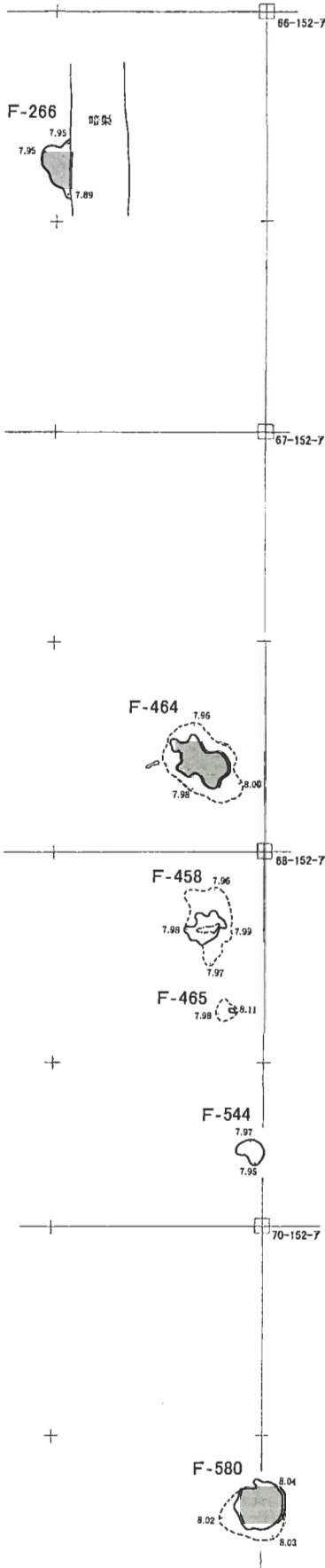


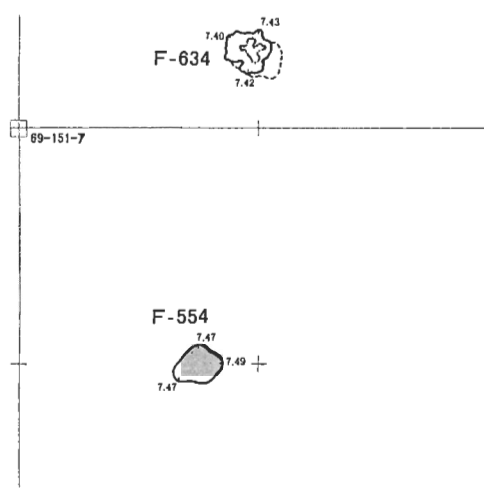
図 IV-26 焼土 (8)

IV 遺構

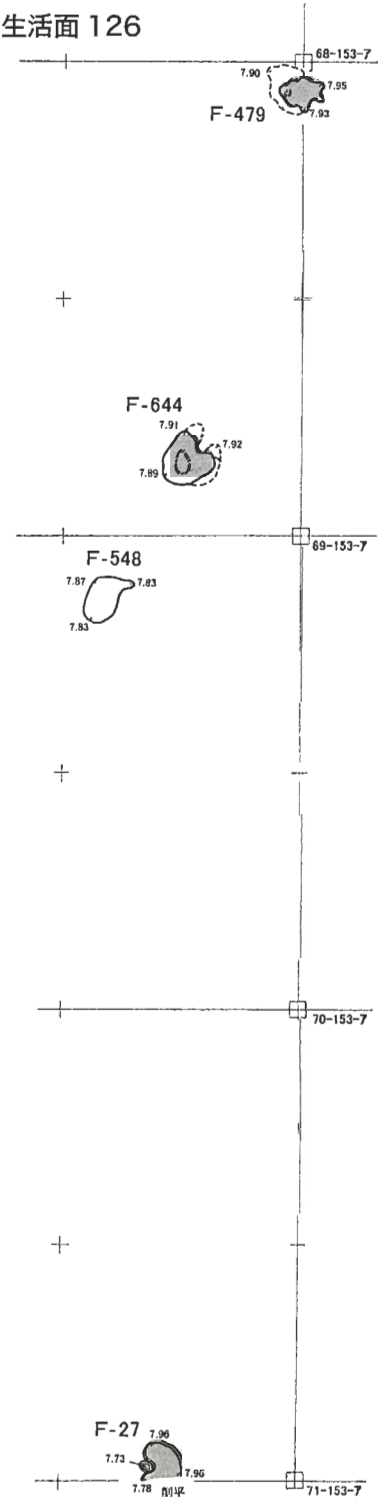
生活面 116



生活面 117



生活面 126



生活面 119



生活面 121・122

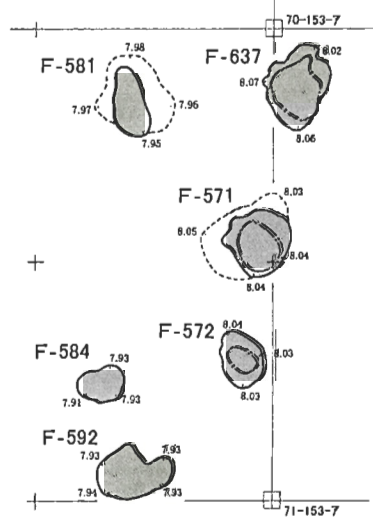


図 IV-27 焼土 (9)

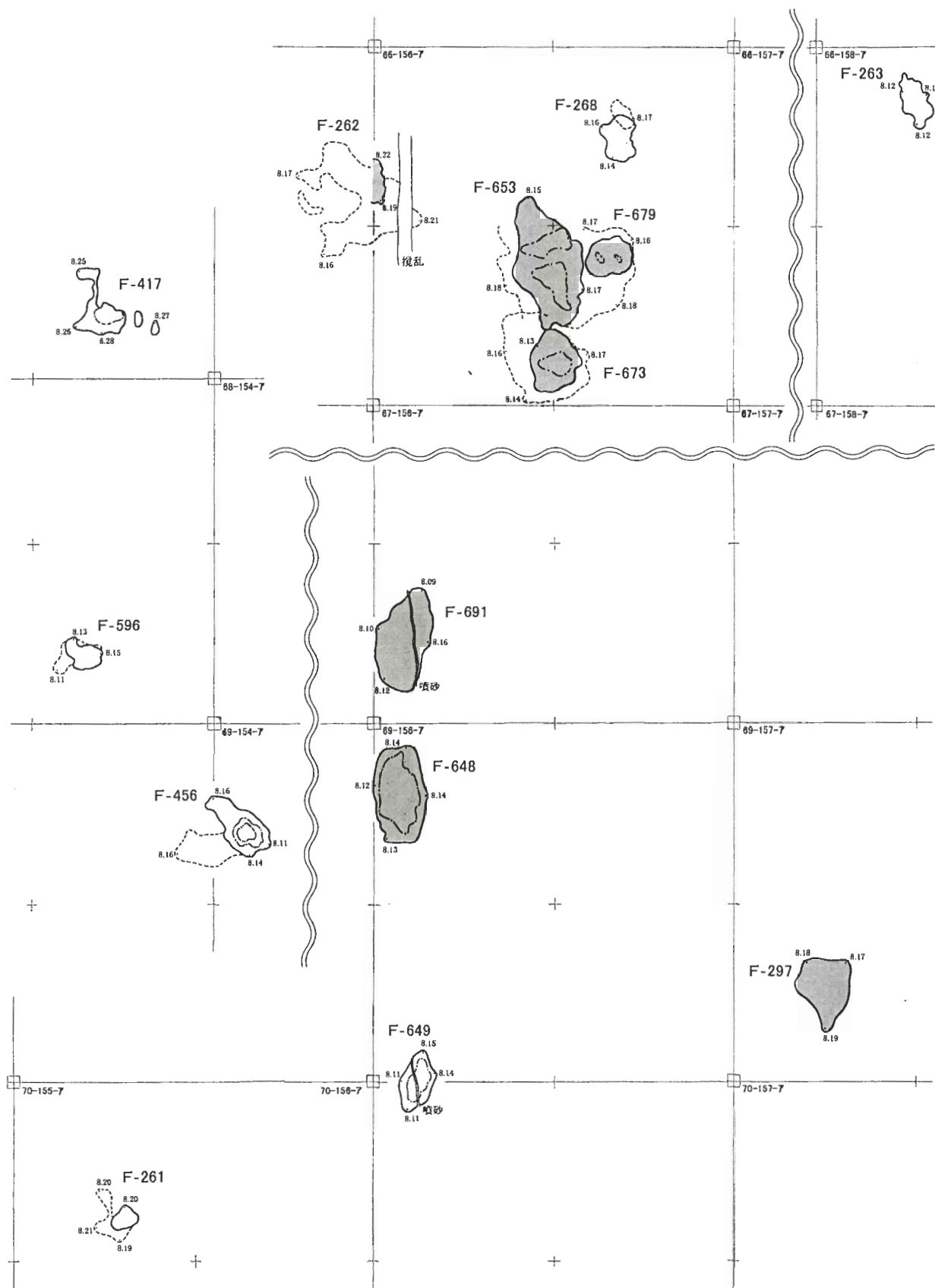
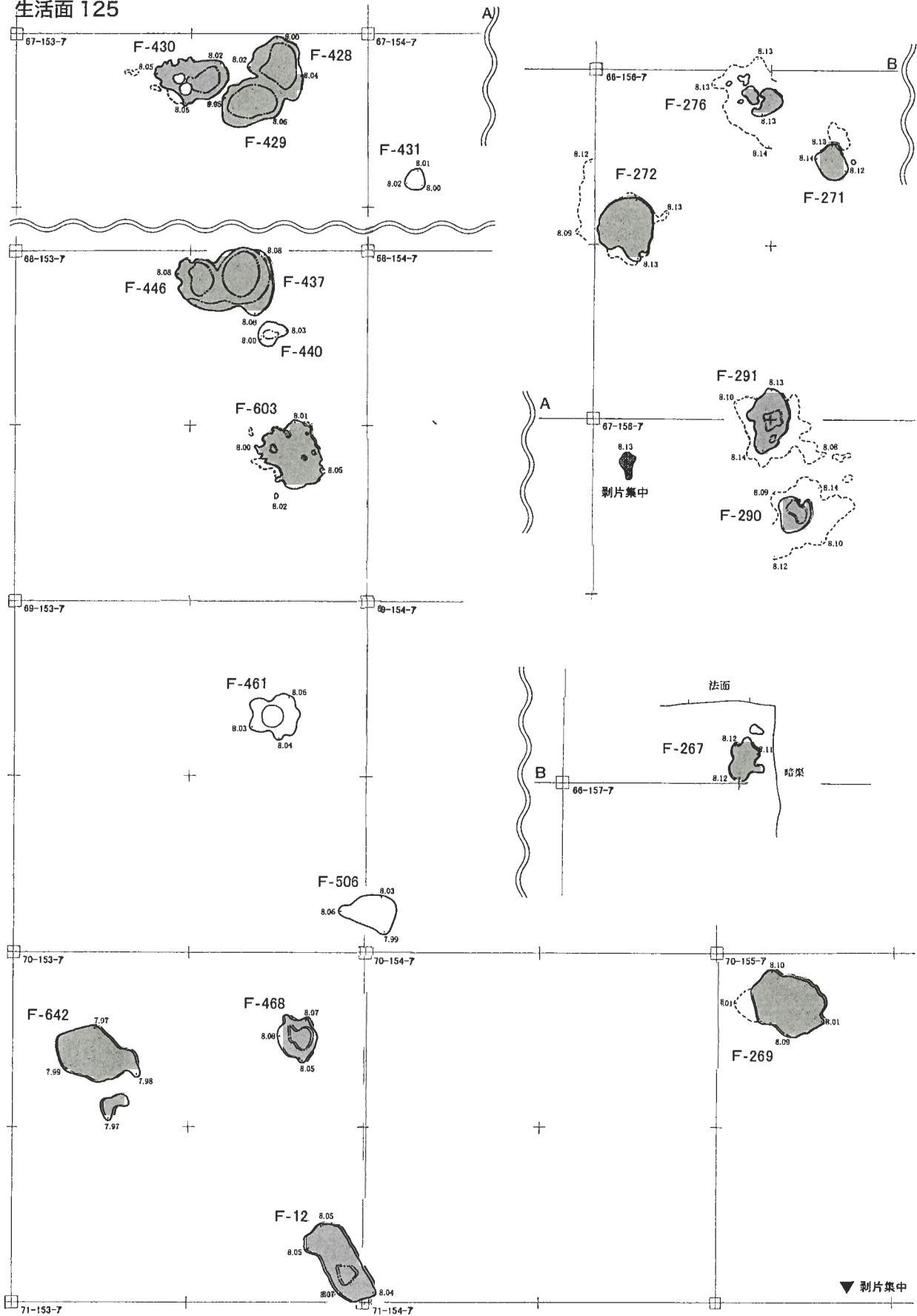


図 IV-28 焼土 (10)

IV 遺構

生活面 125



図IV-29 焼土 (11)

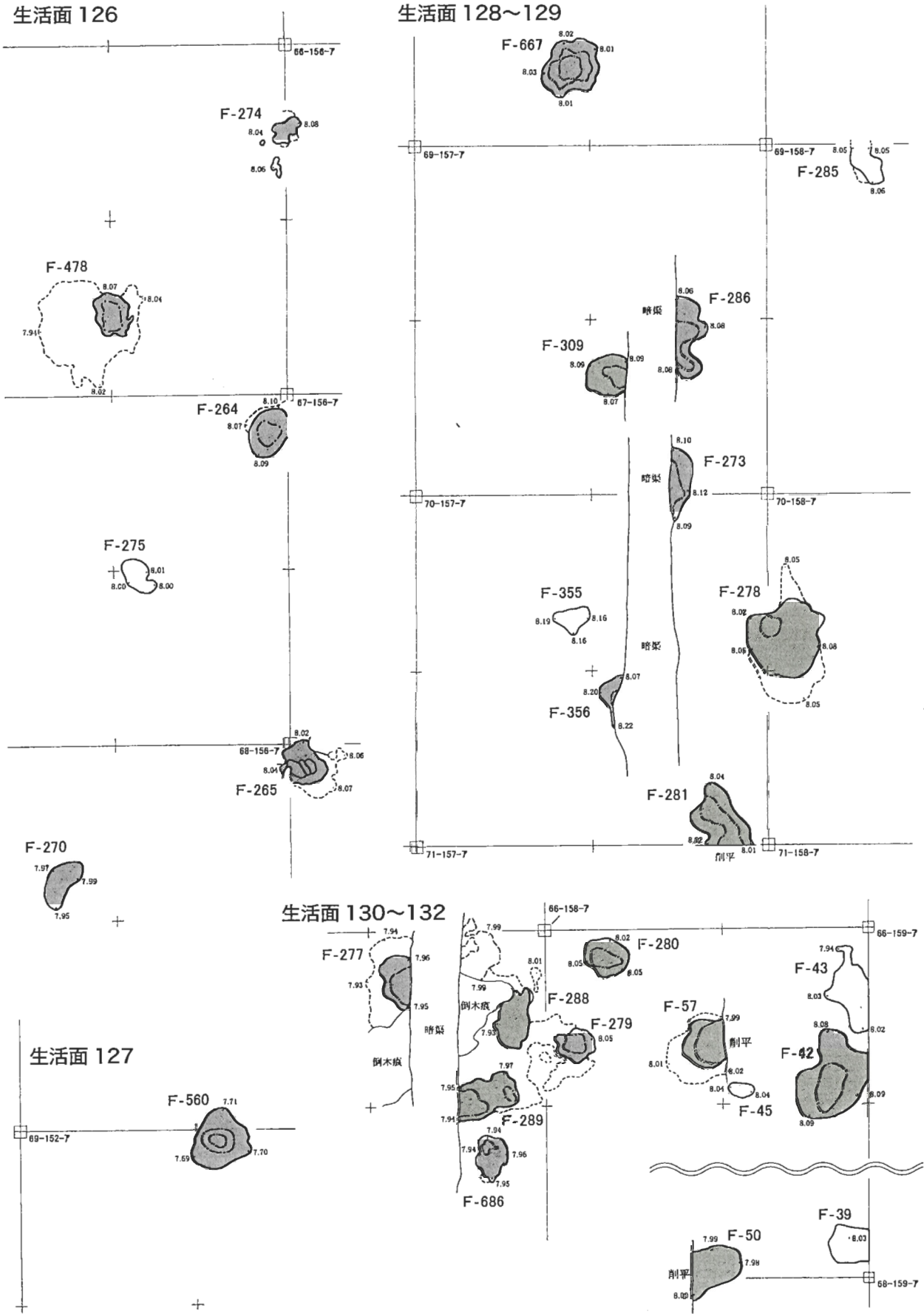


図 IV-30 焼土 (12)

IV 遺構

生活面 128~129

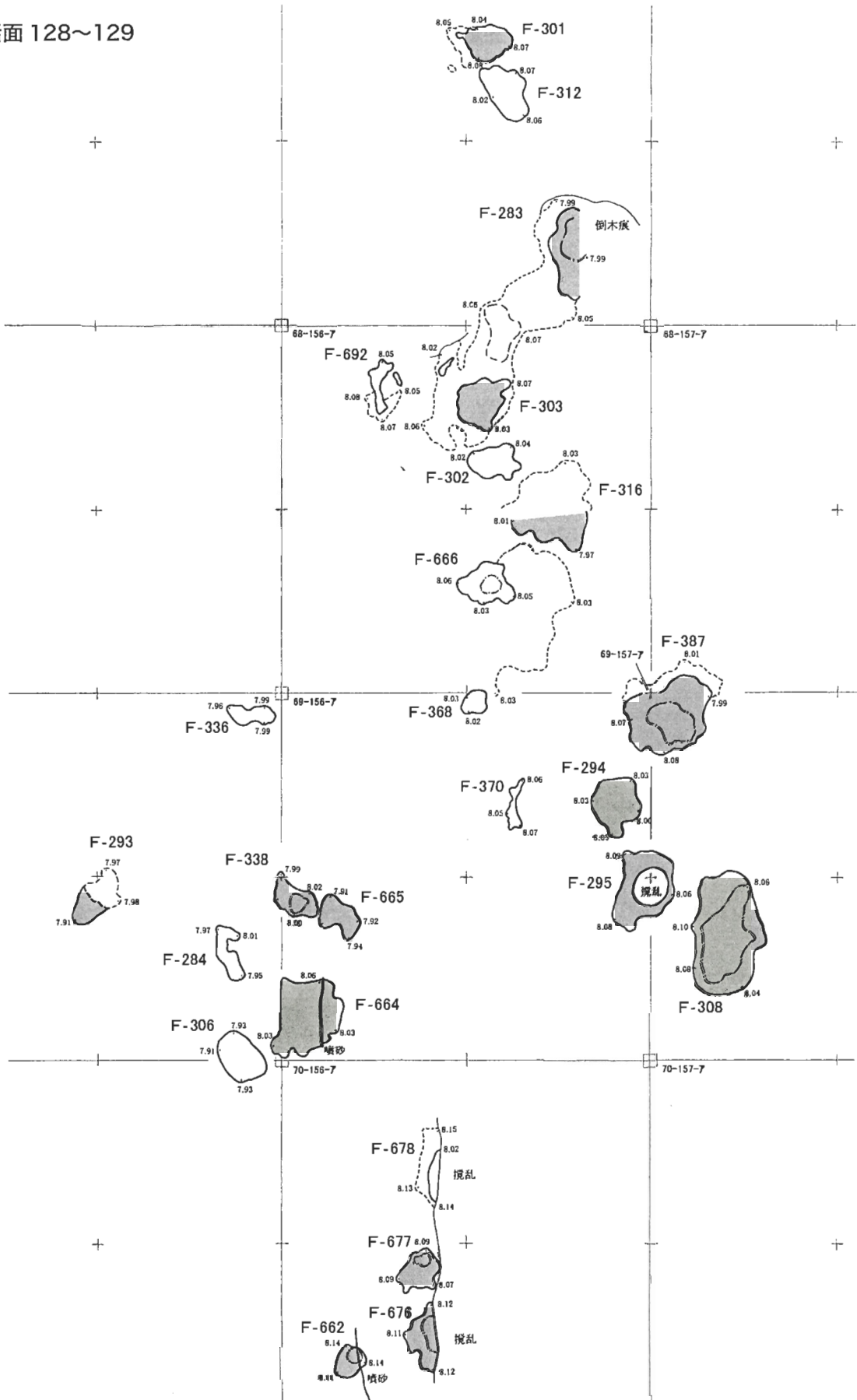


图 IV-31 烧土 (13)



生活面 130~132

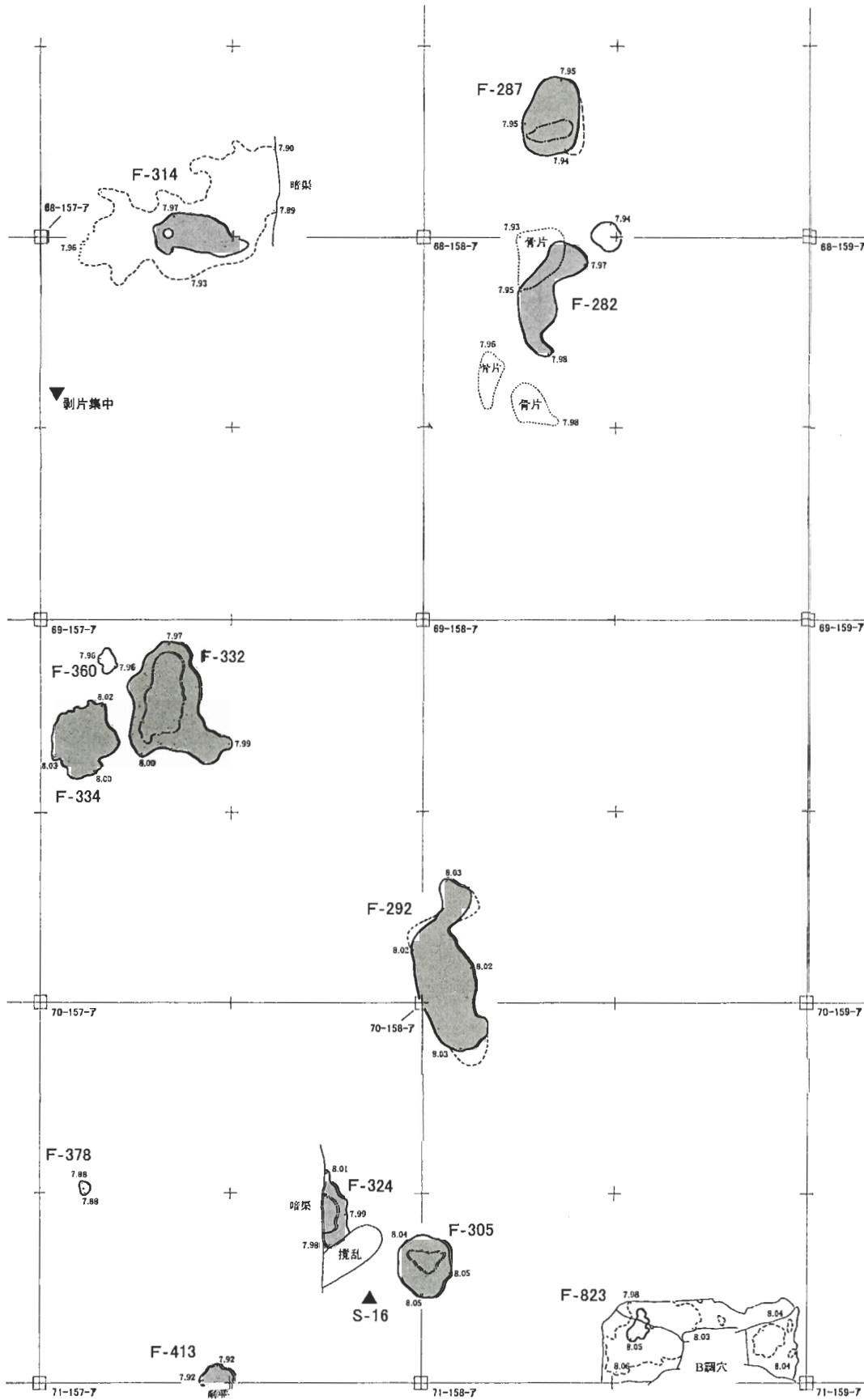
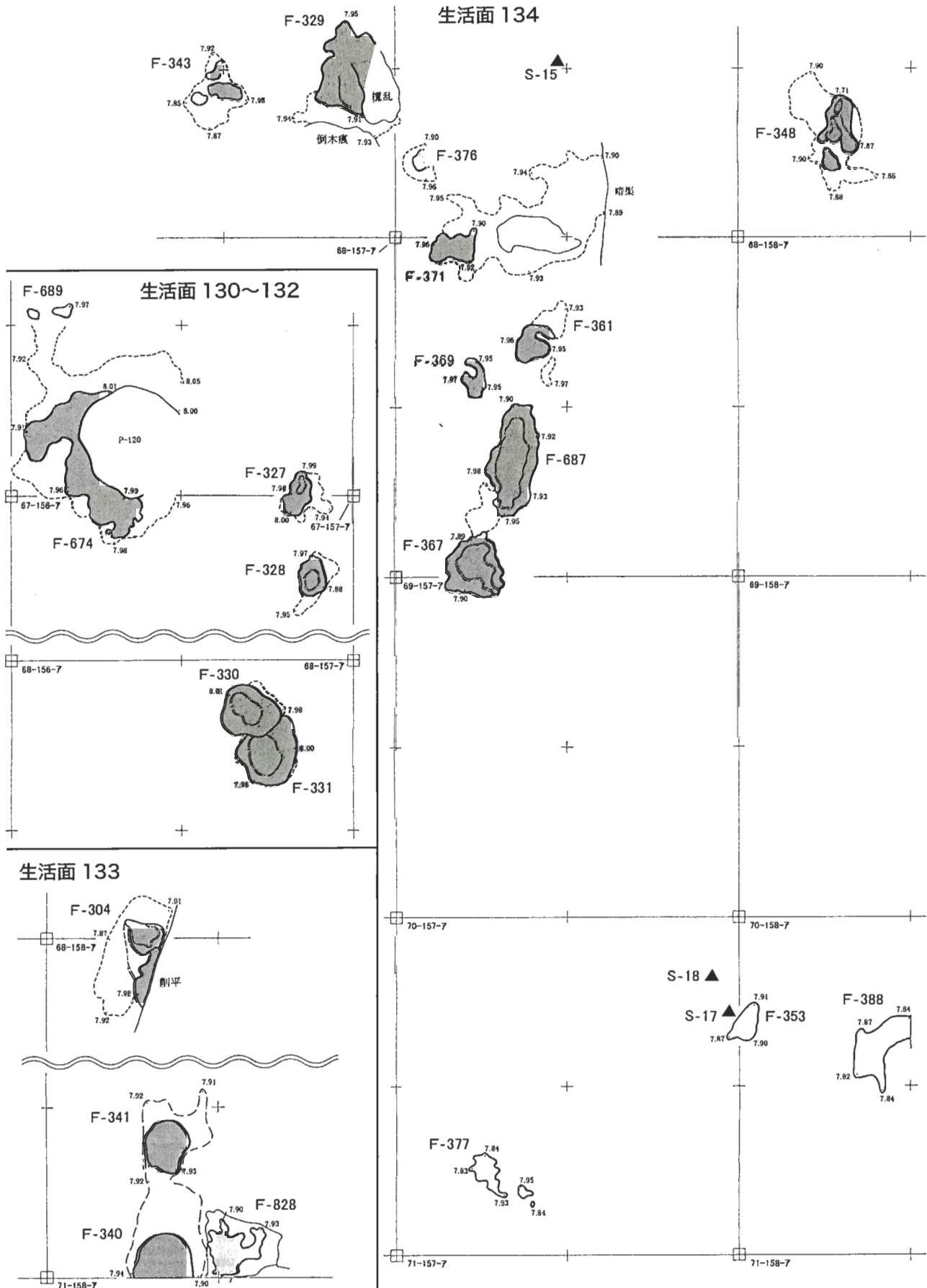
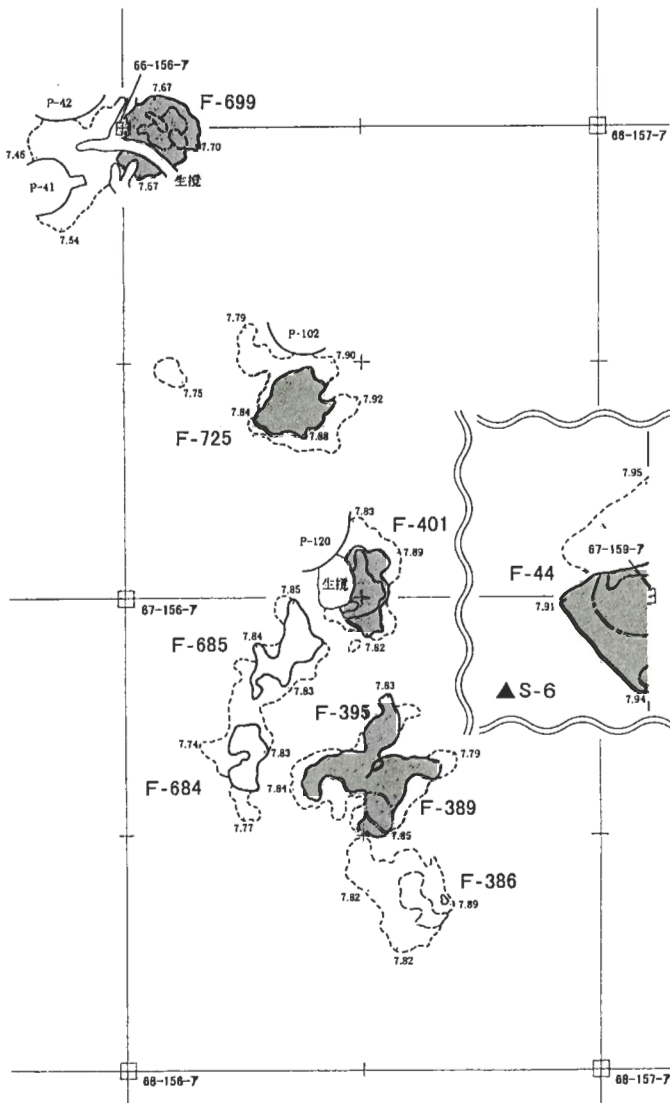


図 IV-32 焼土 (14)

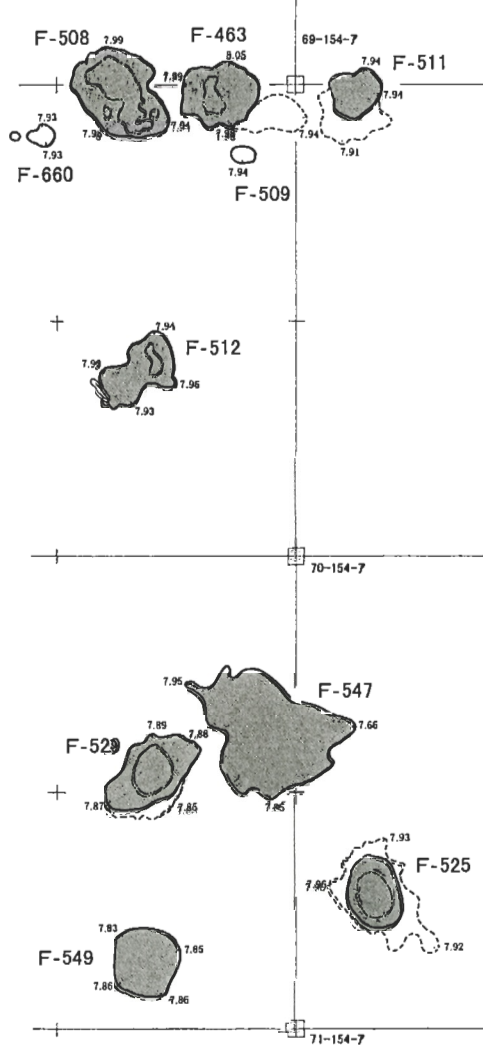


図IV-33 焼土 (15)

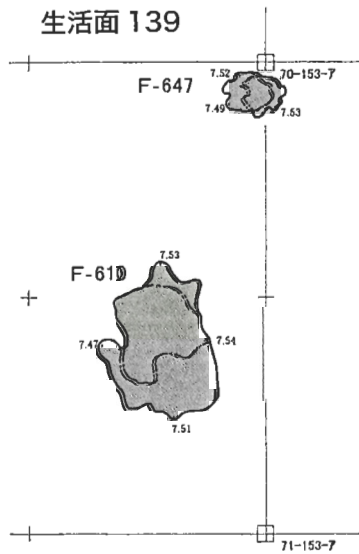
生活面 135



生活面 137



生活面 139



生活面 140

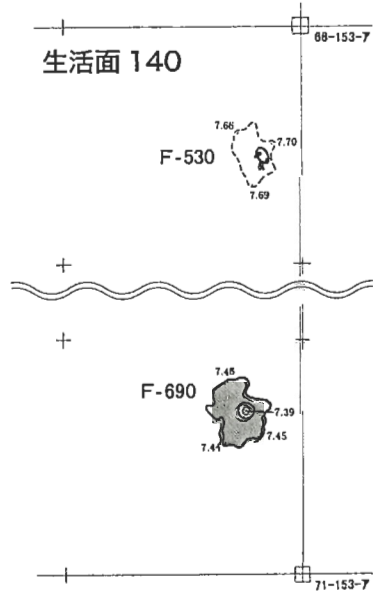
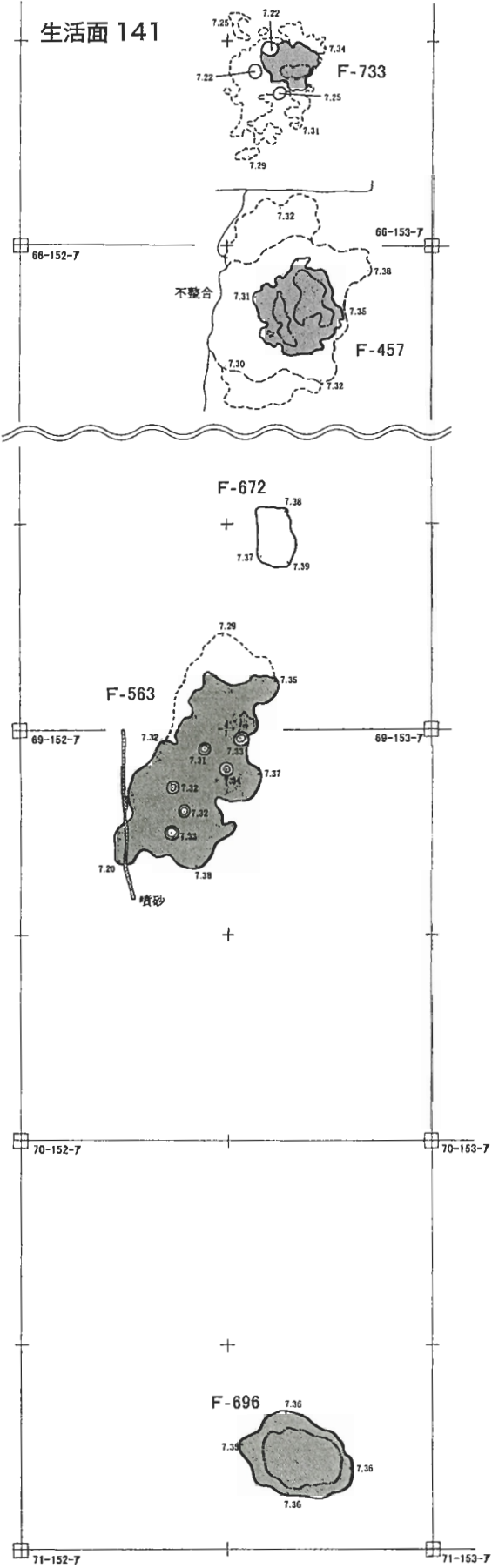


図 IV-34 焼土 (16)

IV 遺構

生活面 141



生活面 142

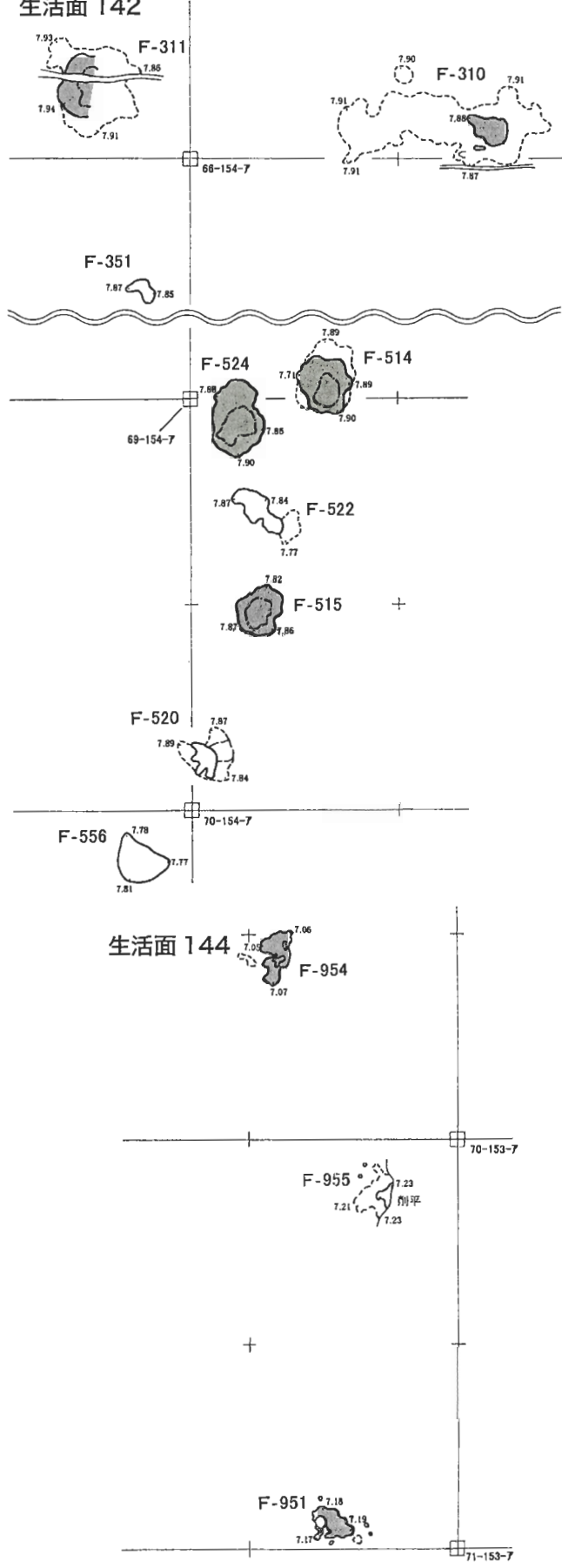
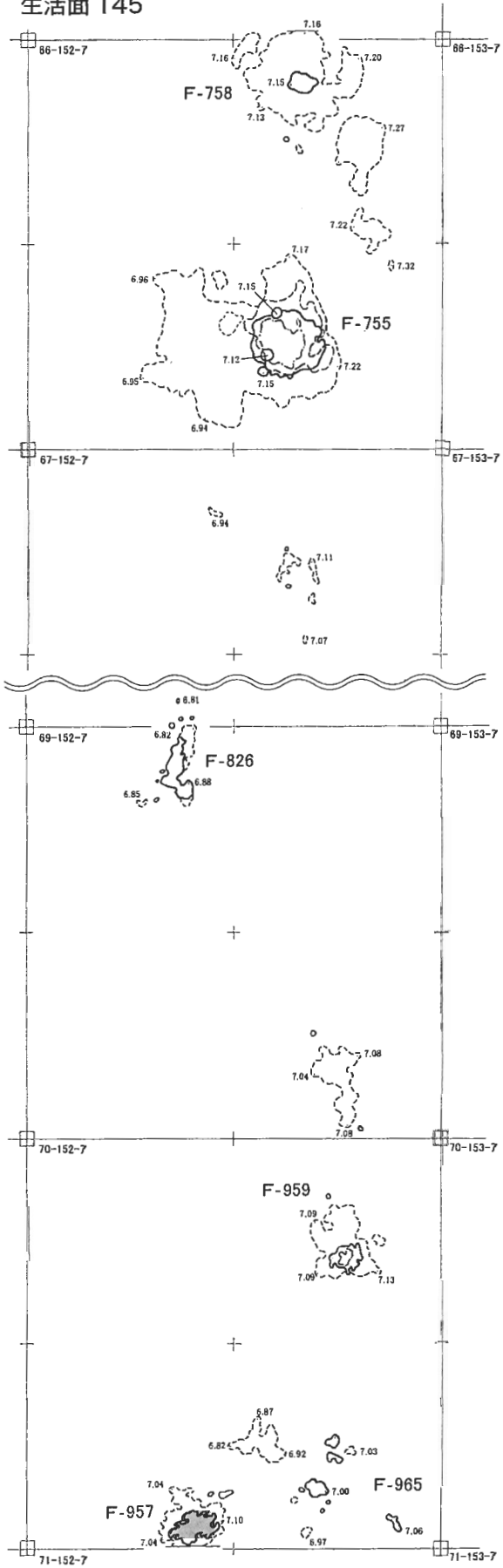


図 IV-35 焼土 (17)

生活面 145



生活面 150

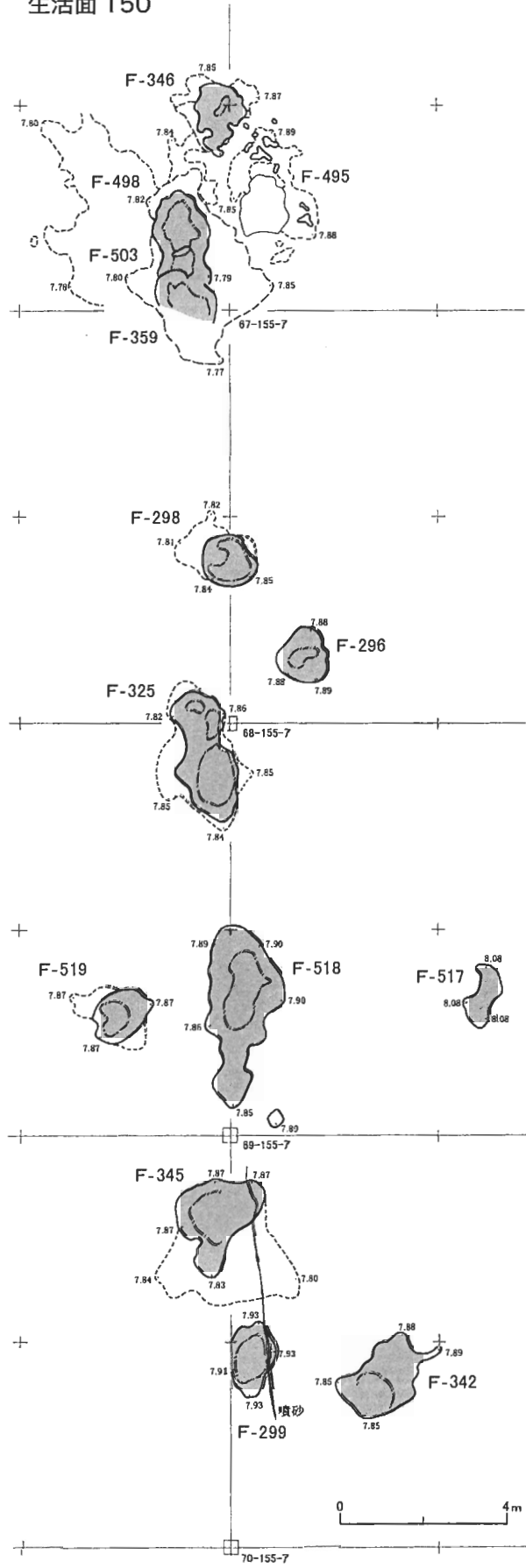
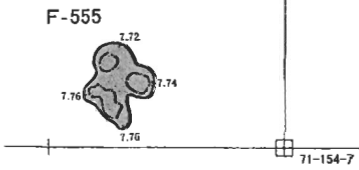


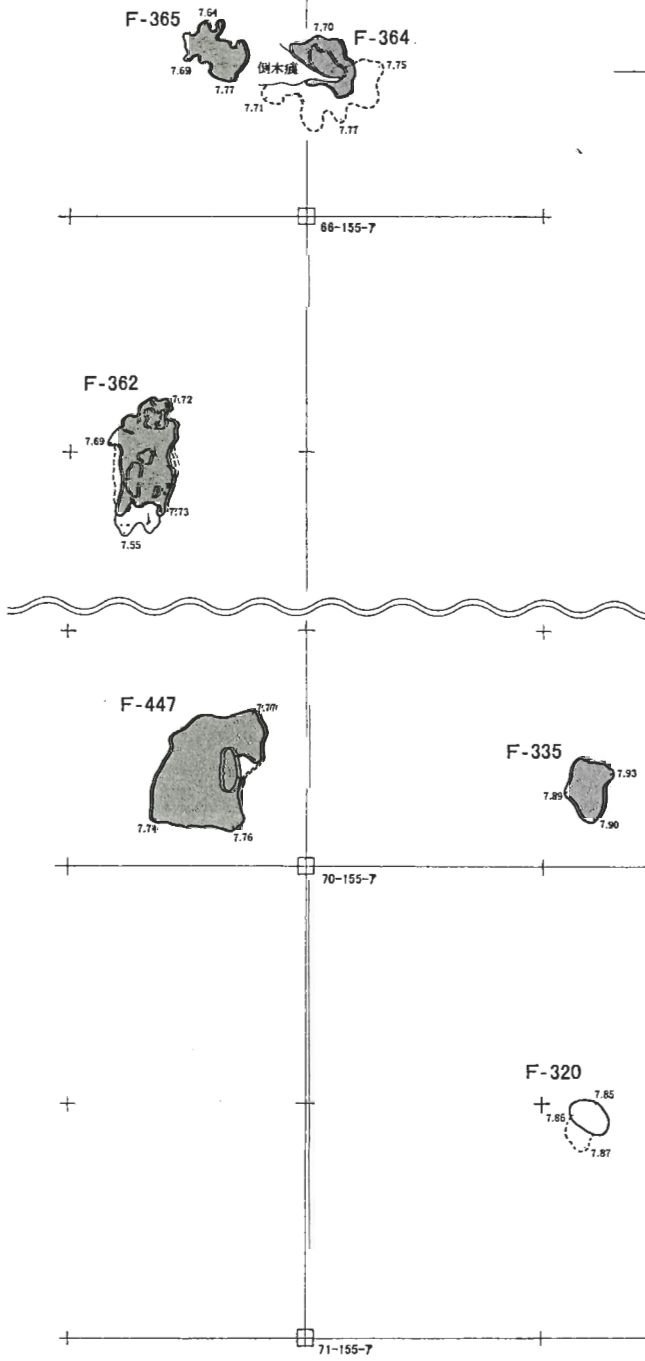
図 IV-36 焼土 (18)

IV 遺構

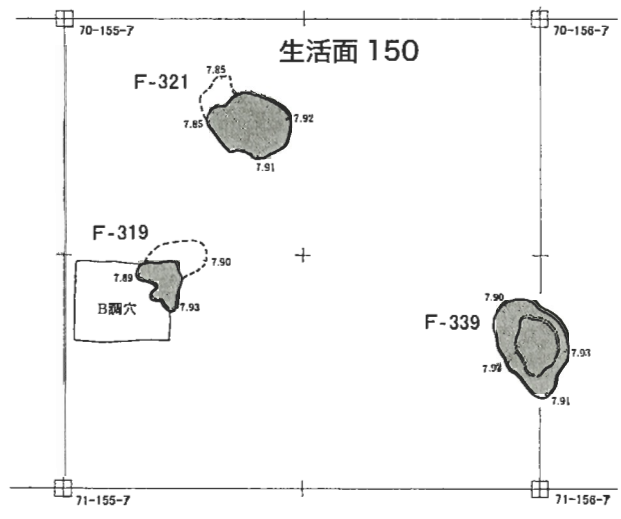
生活面 147



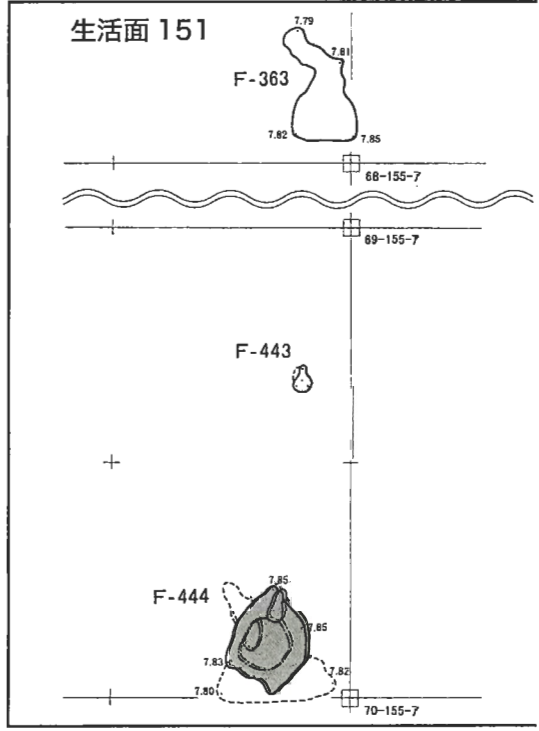
生活面 152・153



生活面 150

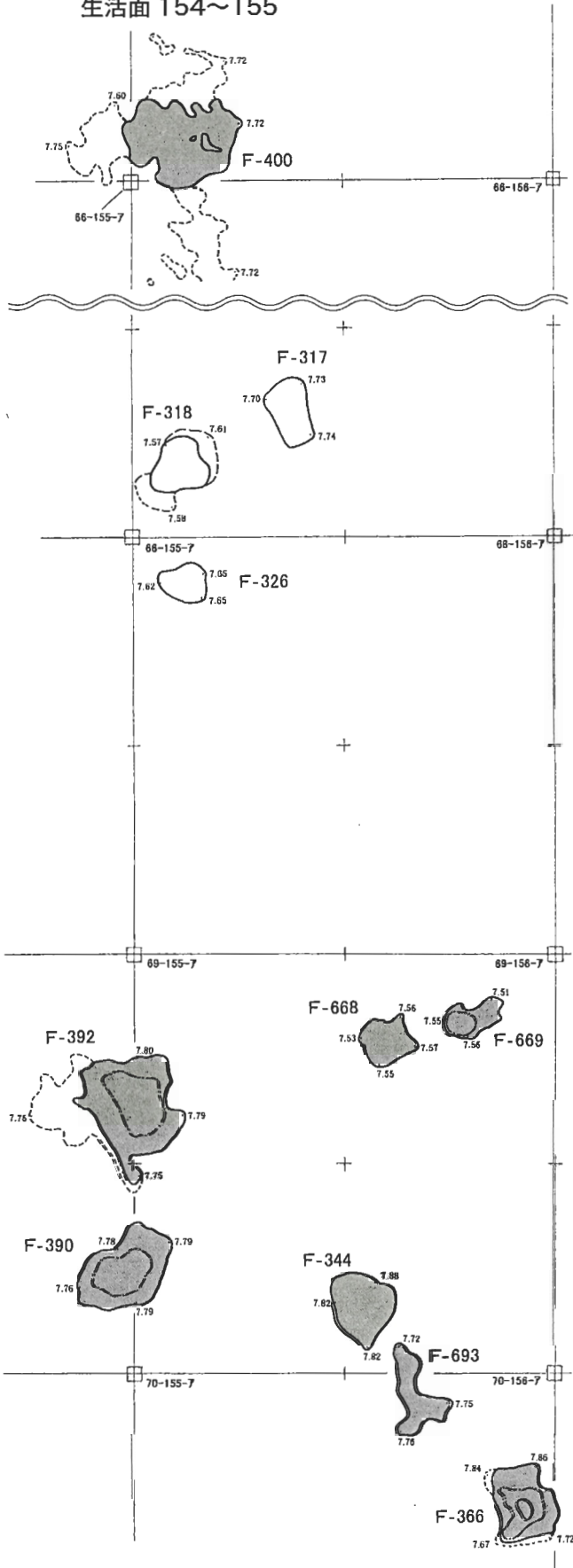


生活面 151

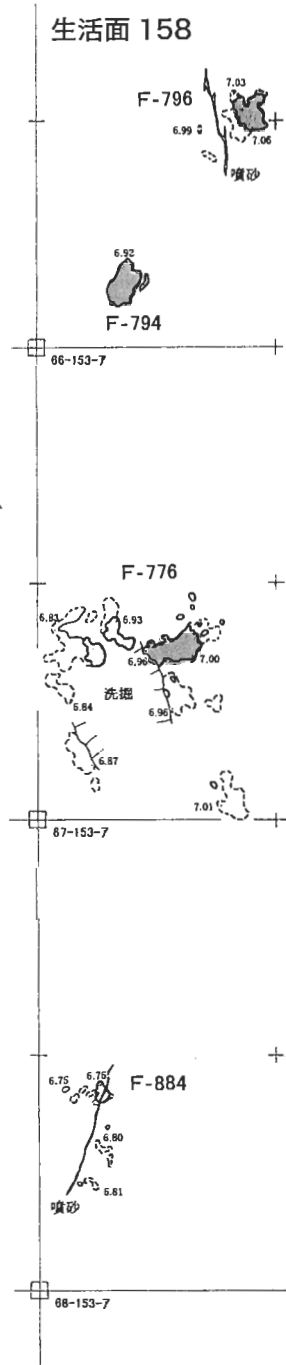


図IV-37 焼土 (19)

生活面 154~155



生活面 158



3 烧土

生活面 159

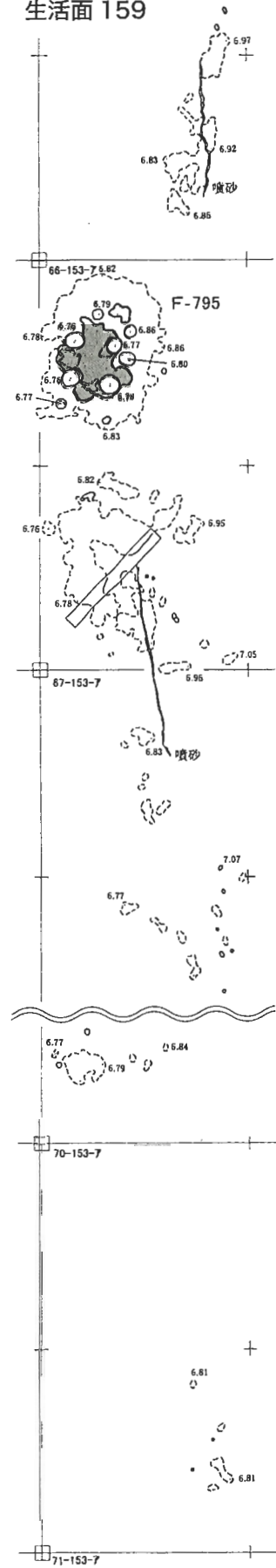


图 IV-38 烧土 (20)

IV 遺構

生活面 160

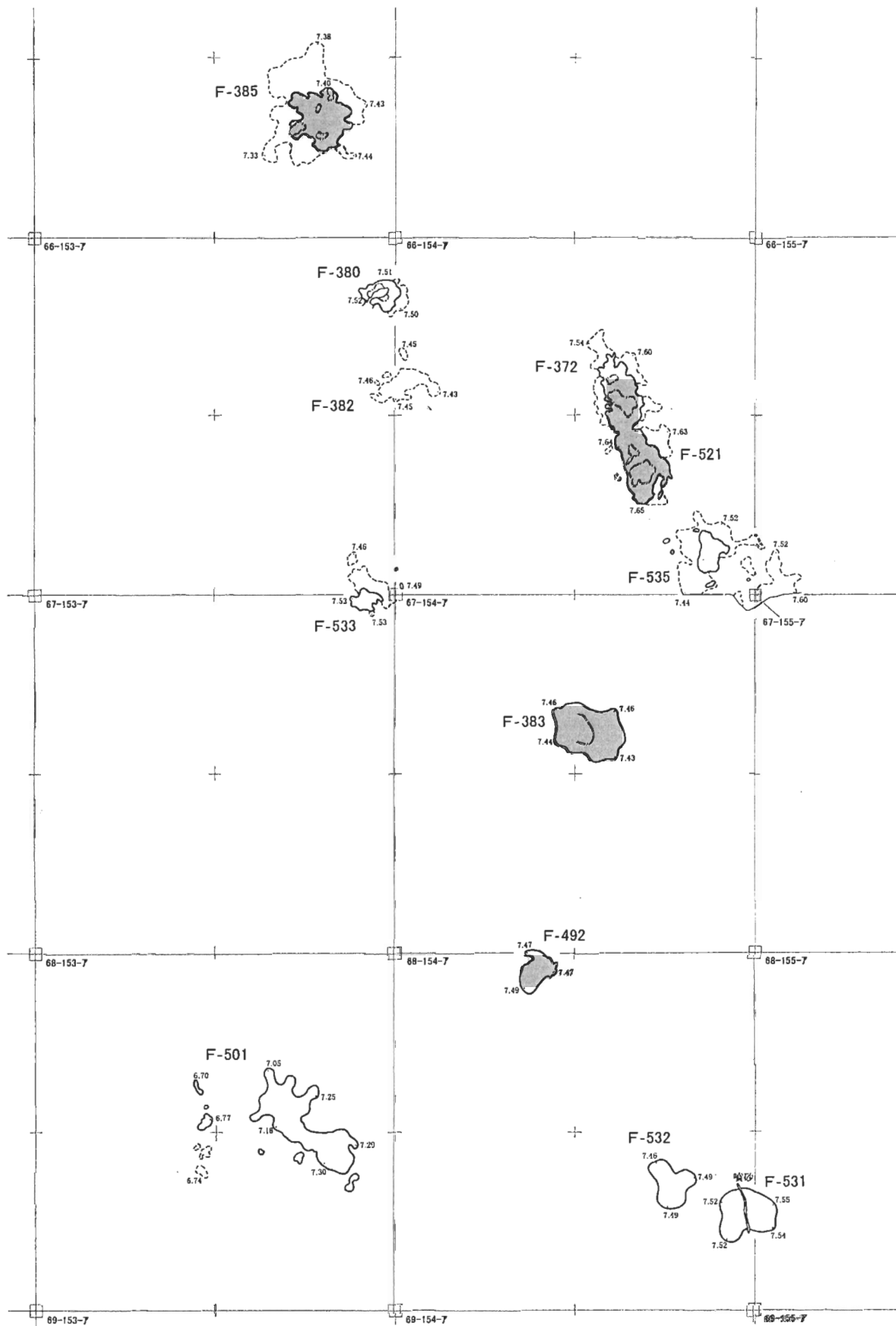


图 IV-39 烧土 (21)



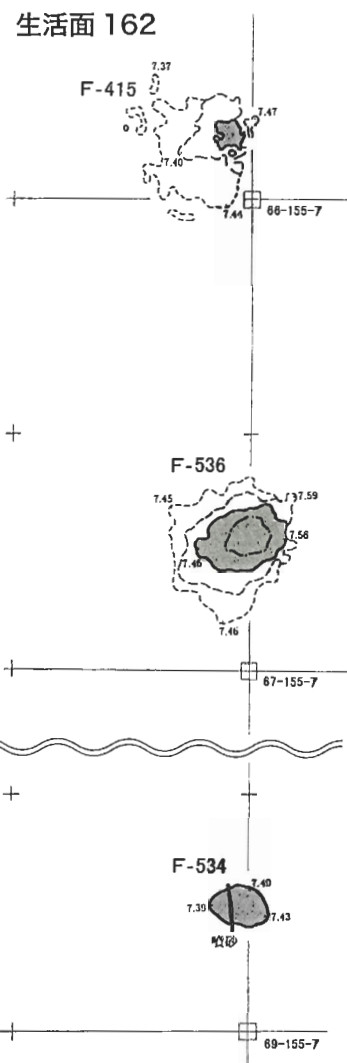
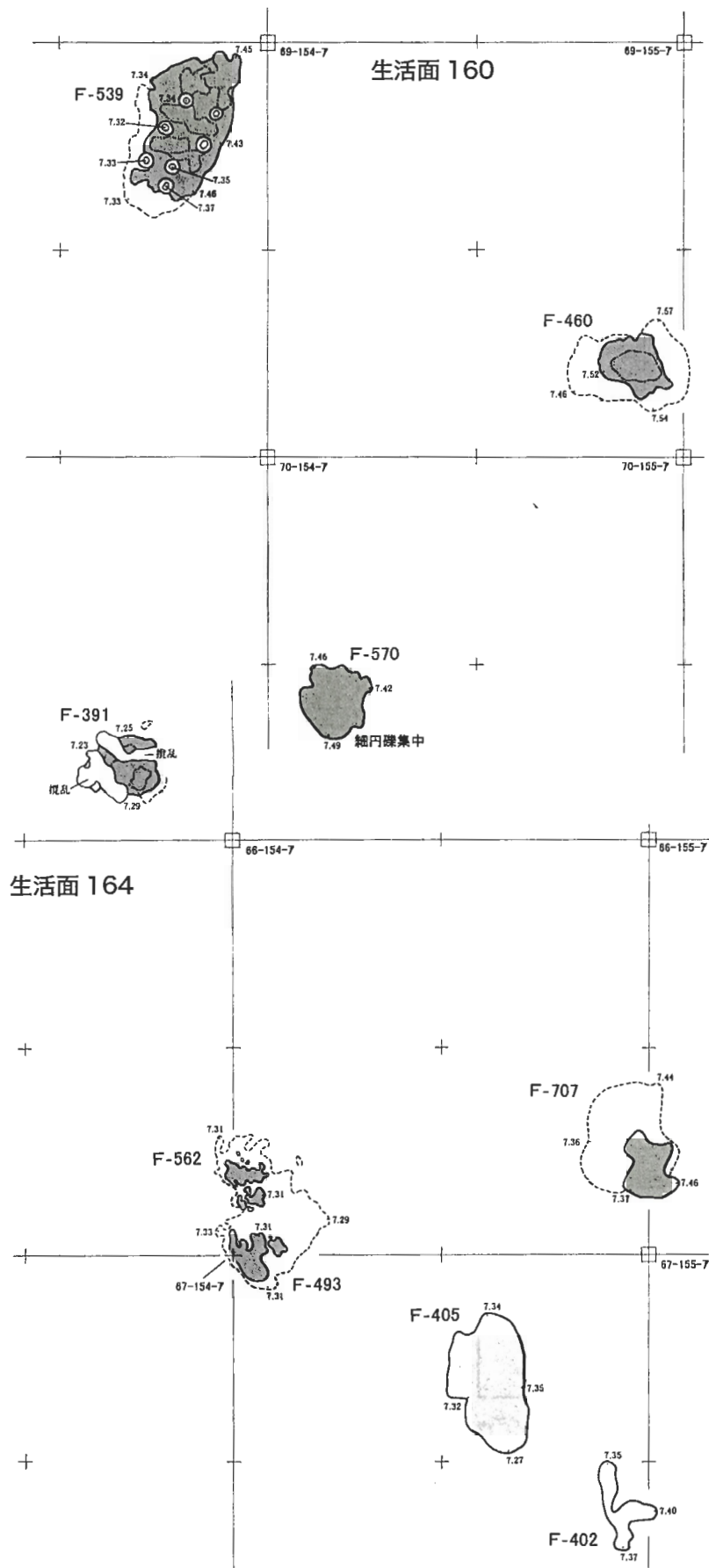
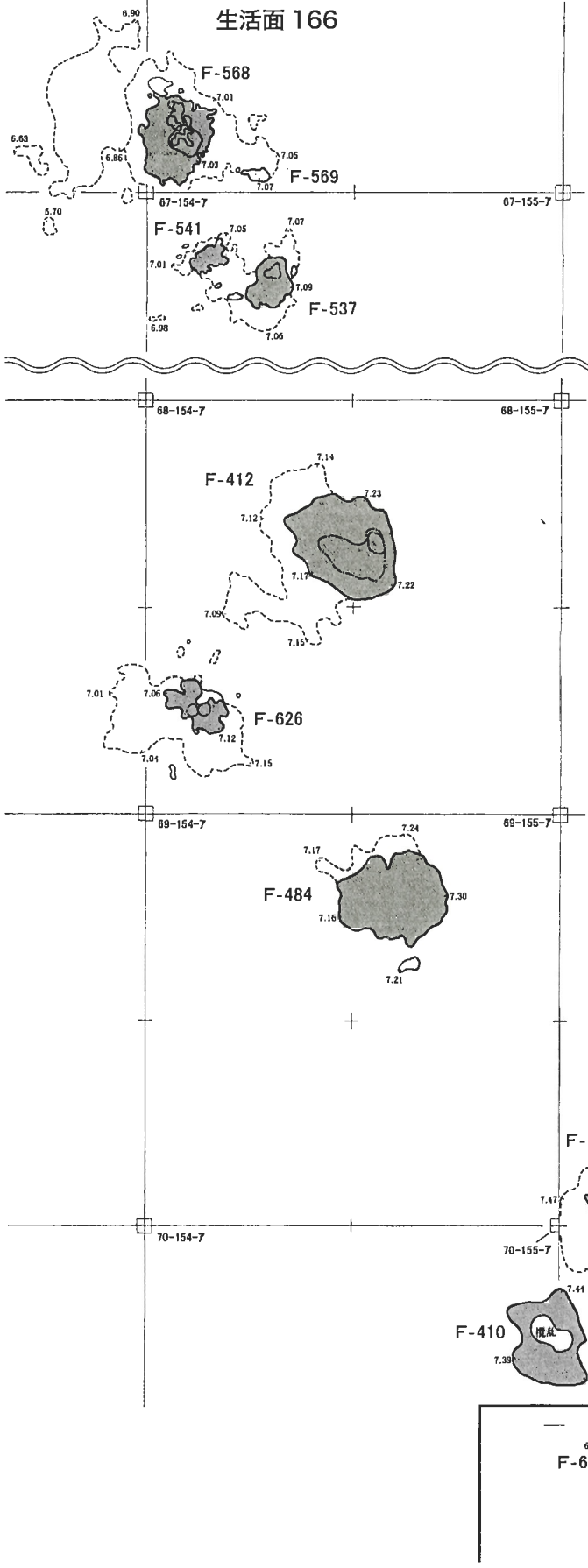


図 IV-40 焼土 (22)

IV 遺構

生活面 166



生活面 167

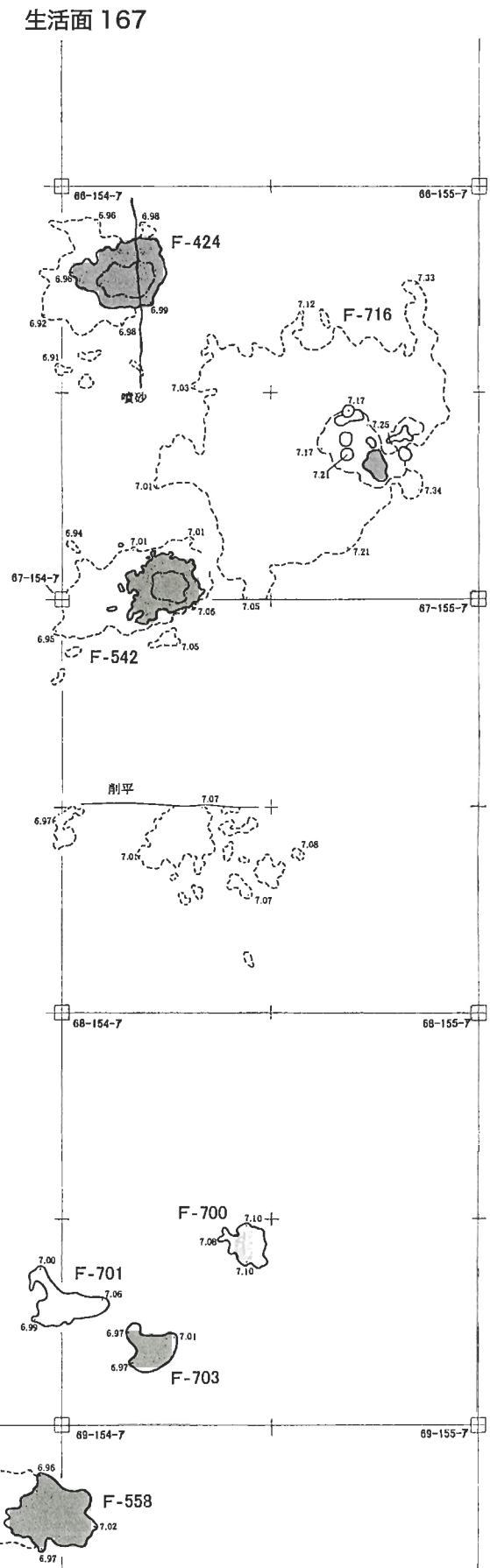


図 IV-41 焼土 (23)

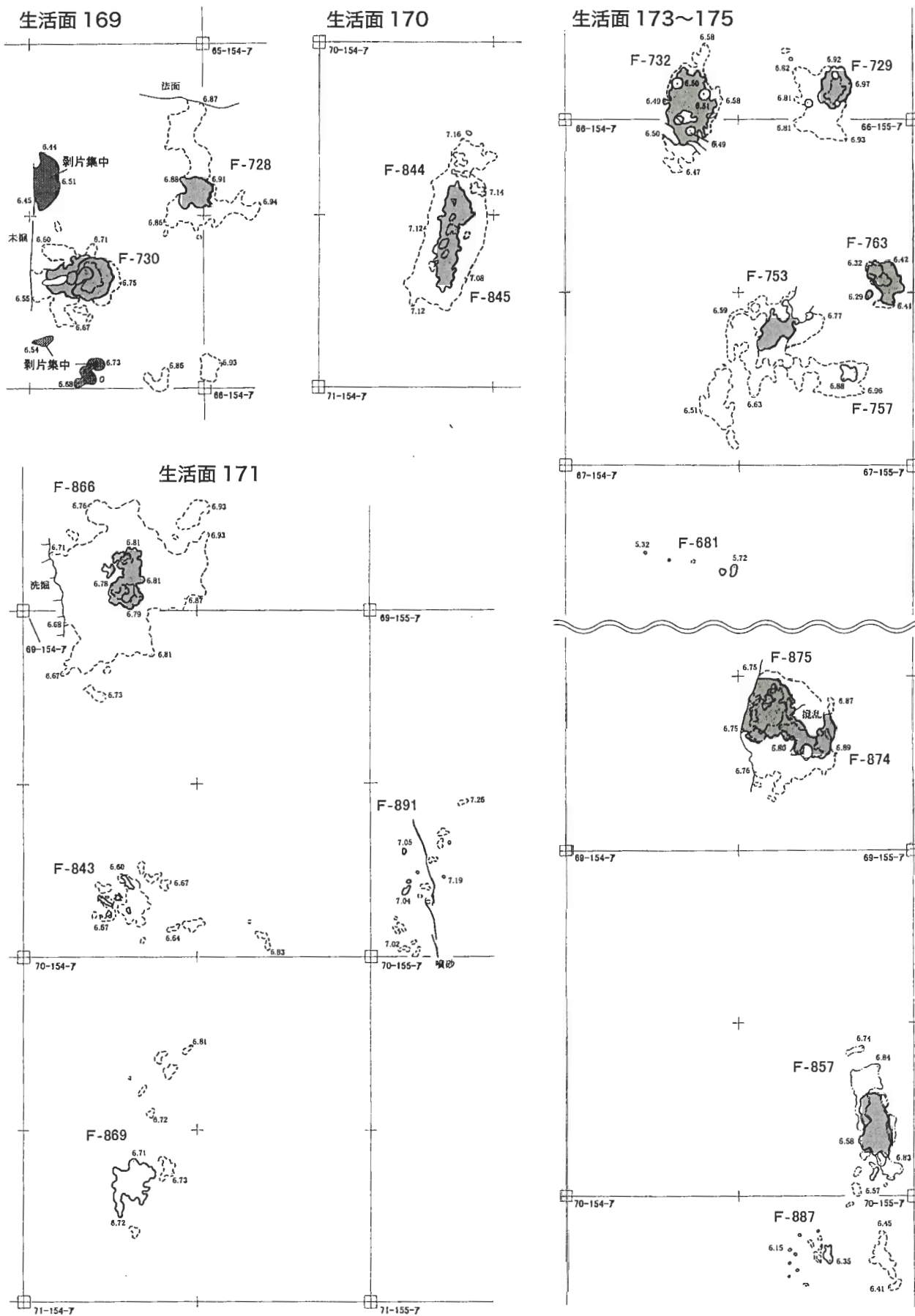


図 IV-42 焼土 (24)

IV 遺構

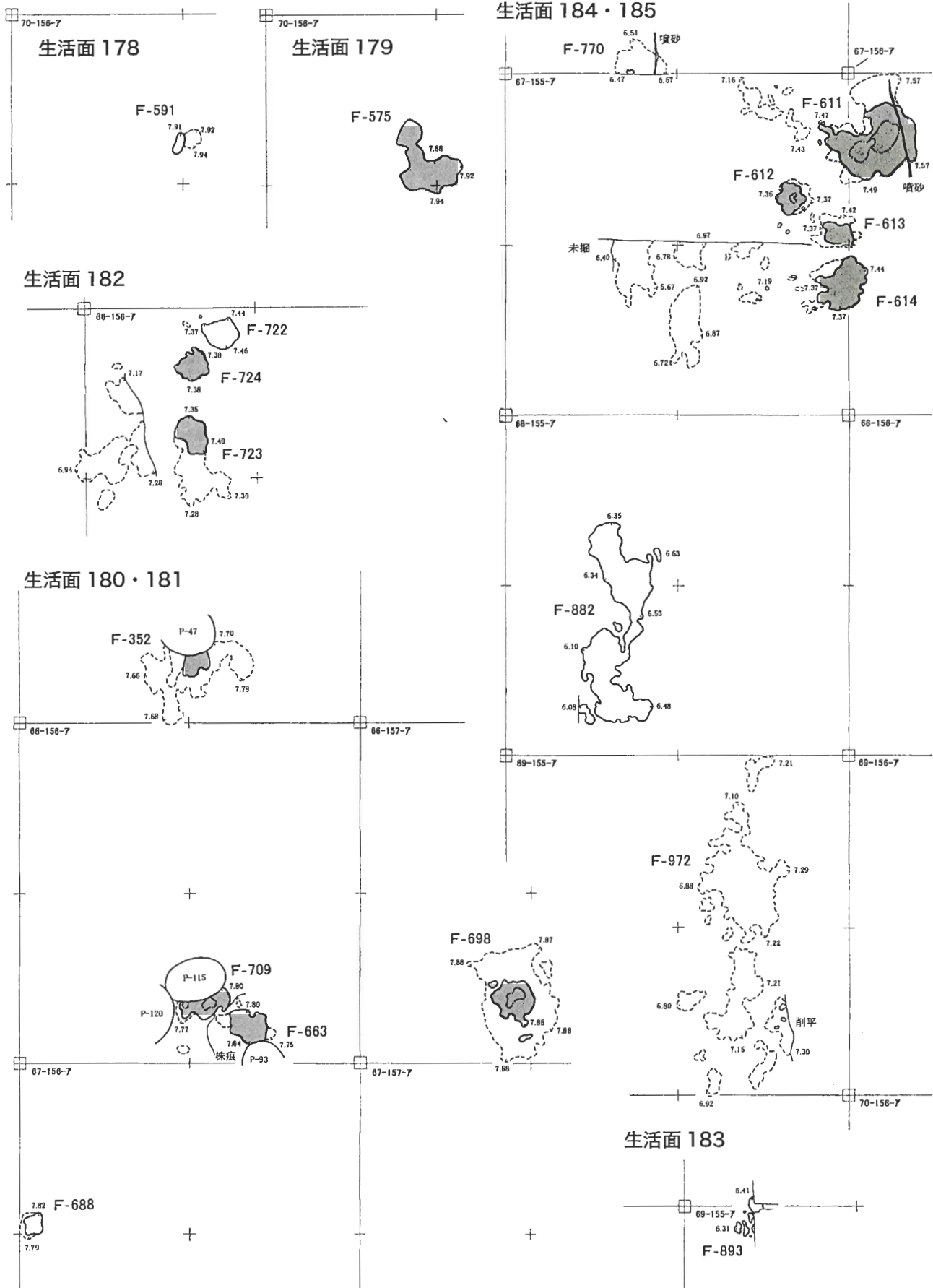


图 IV-43 烧土 (25)

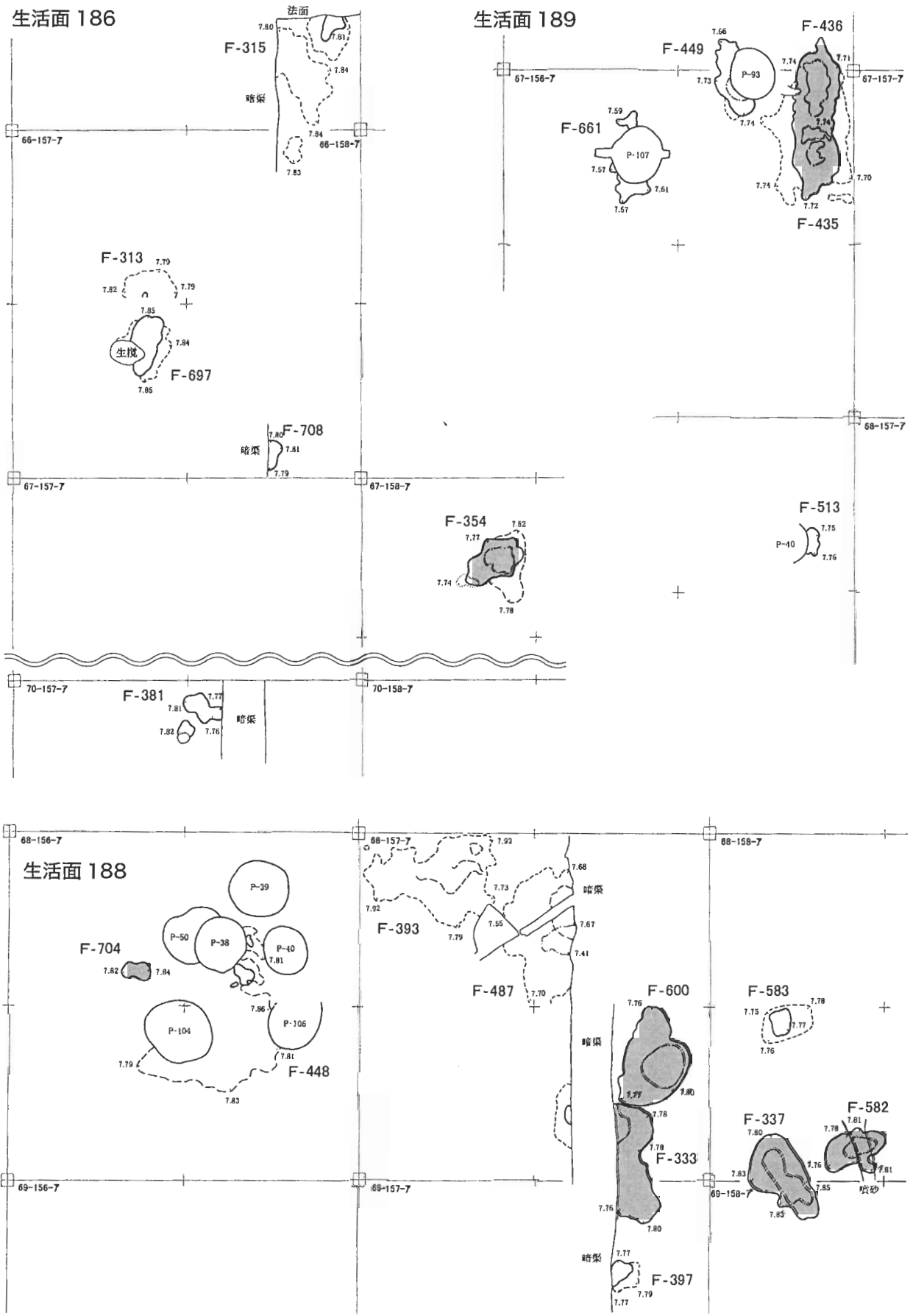
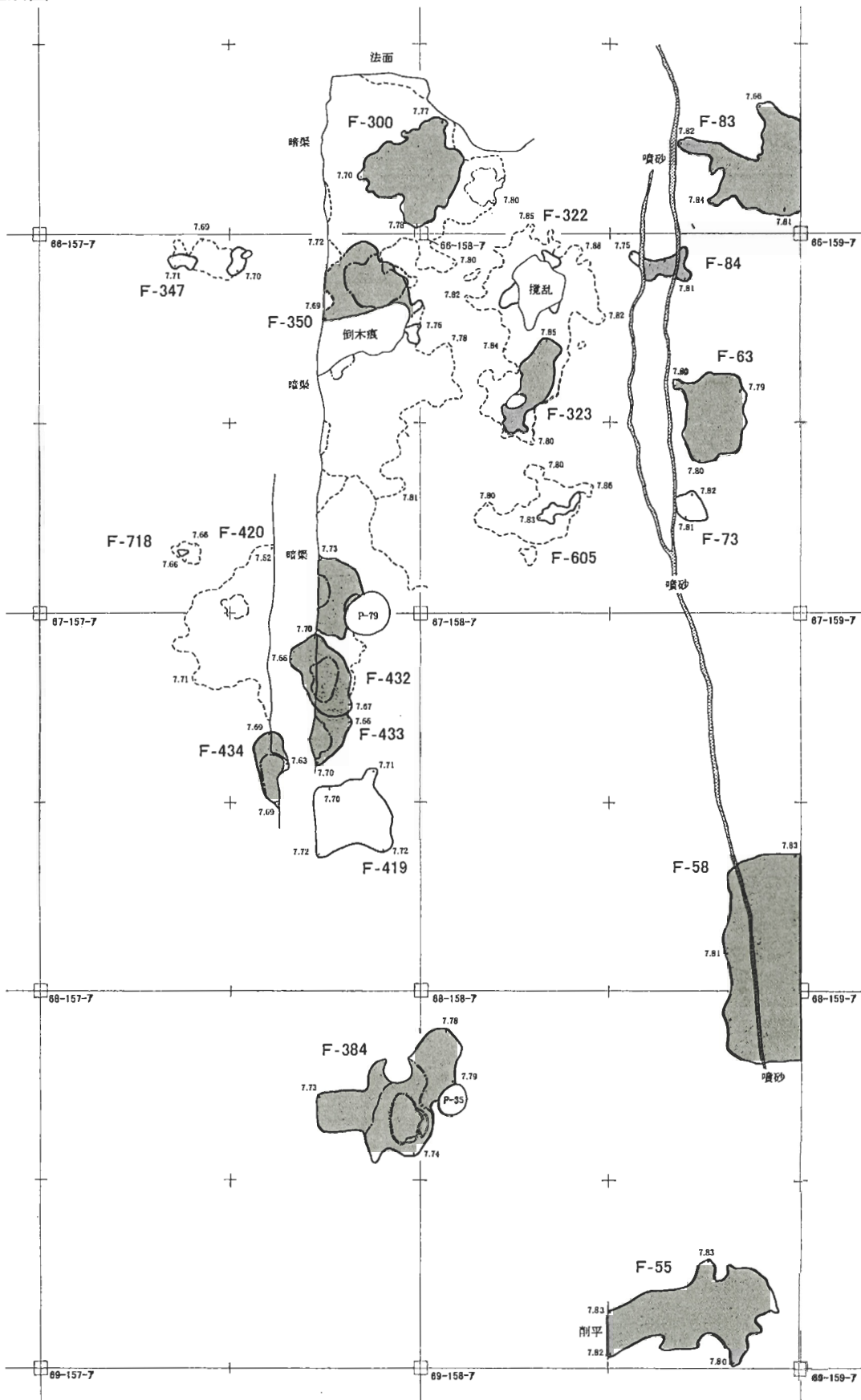


図 IV-44 焼土 (26)



図IV-45 焼土 (27)

生活面 190~192

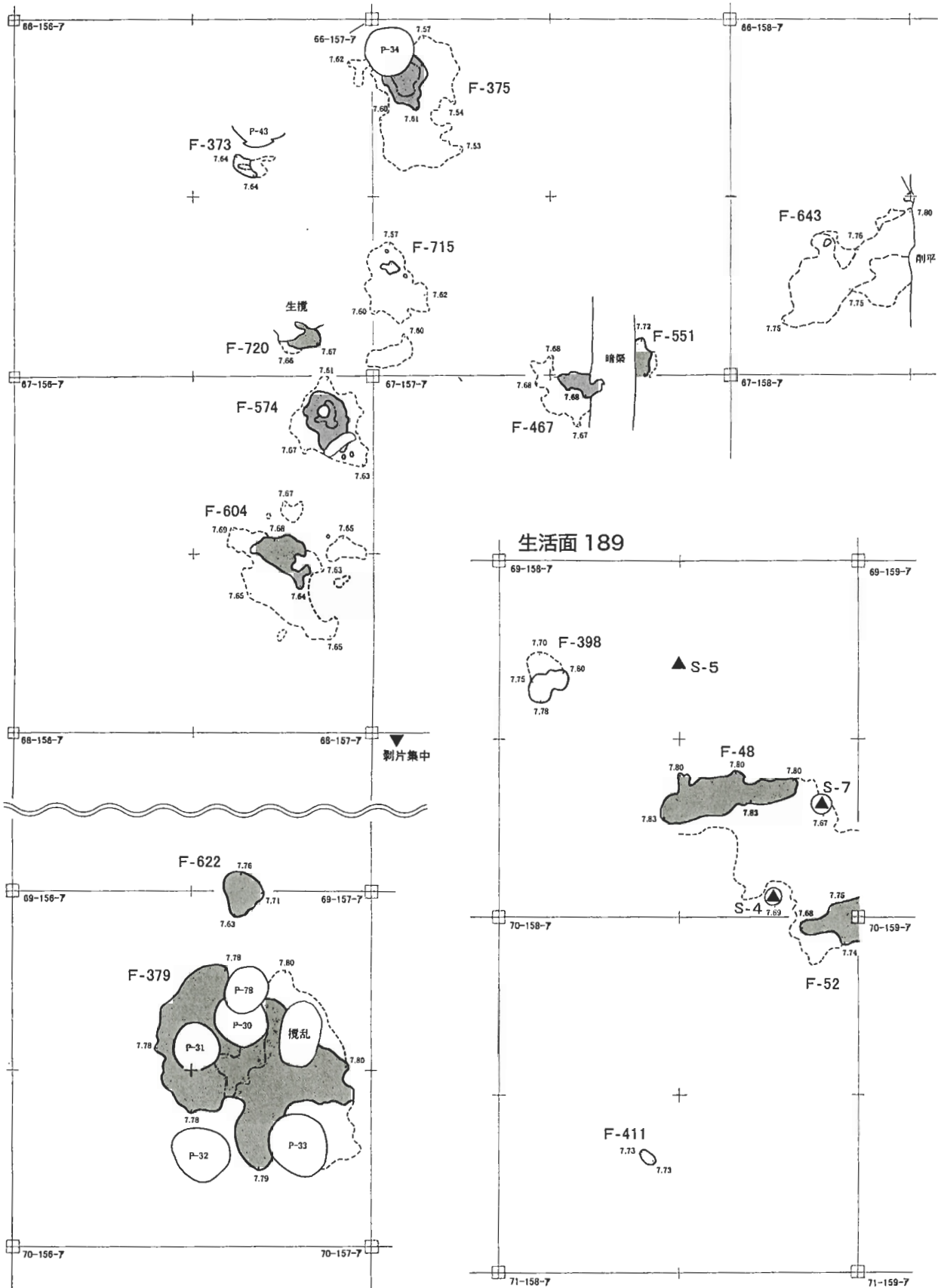
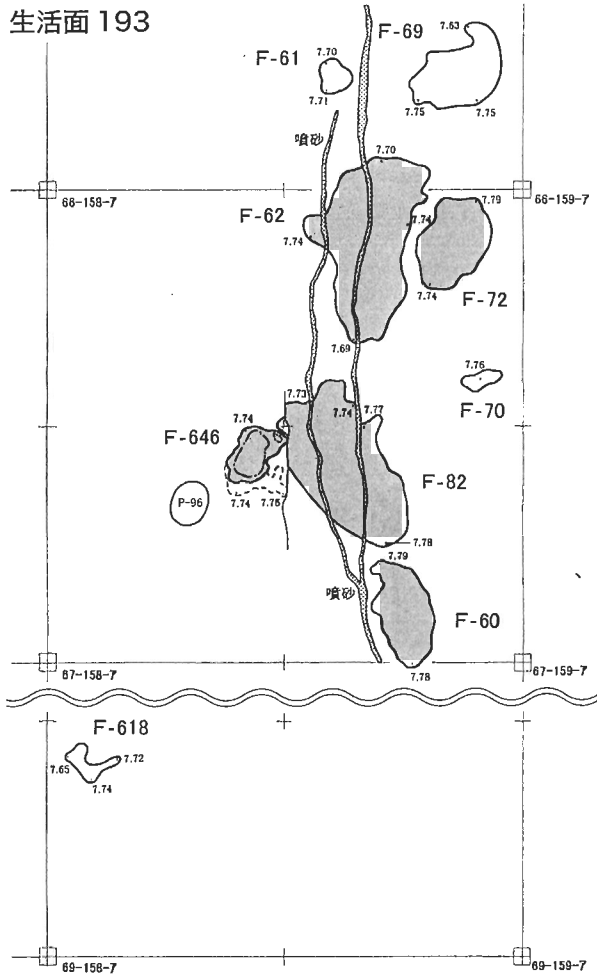


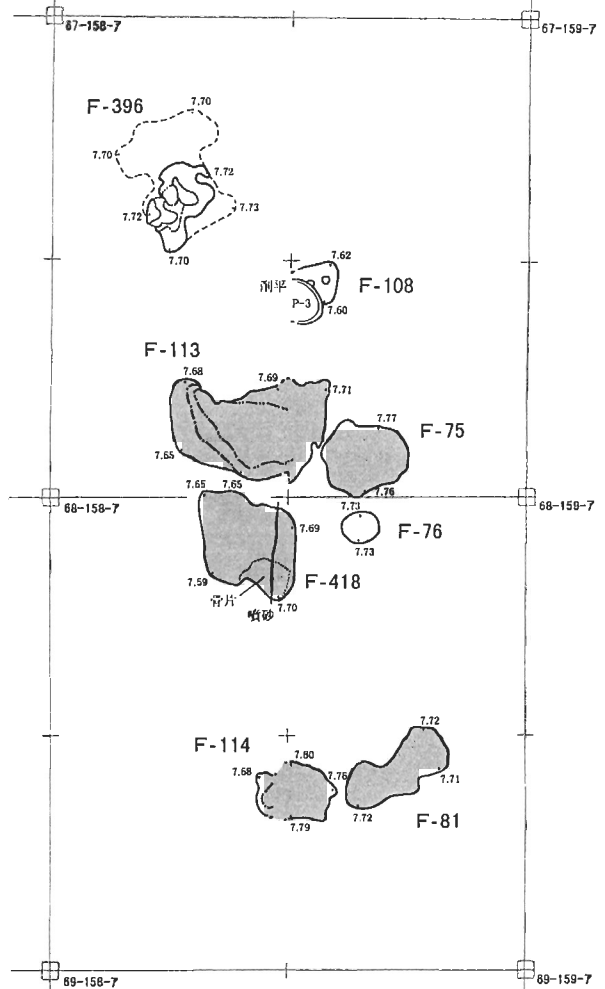
図 IV-46 焼土 (28)

IV 遺構

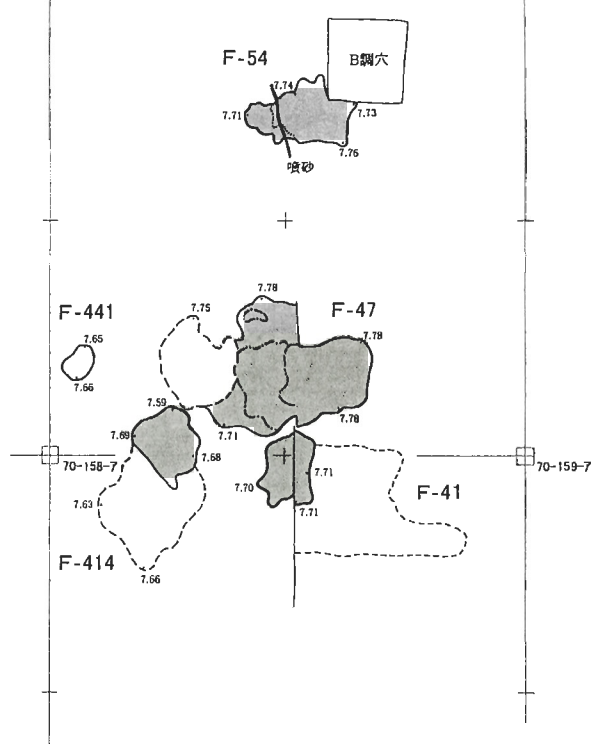
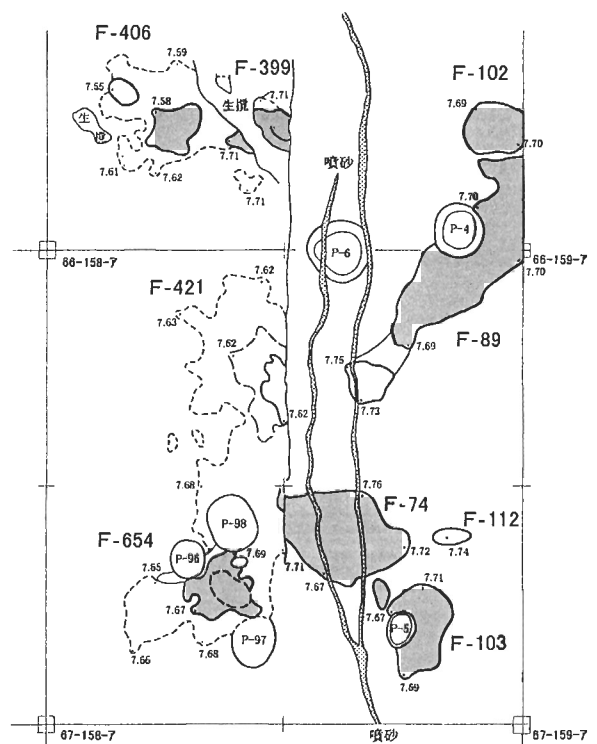
生活面 193



生活面 194



生活面 194(続き)



図IV-47 焼土 (29)



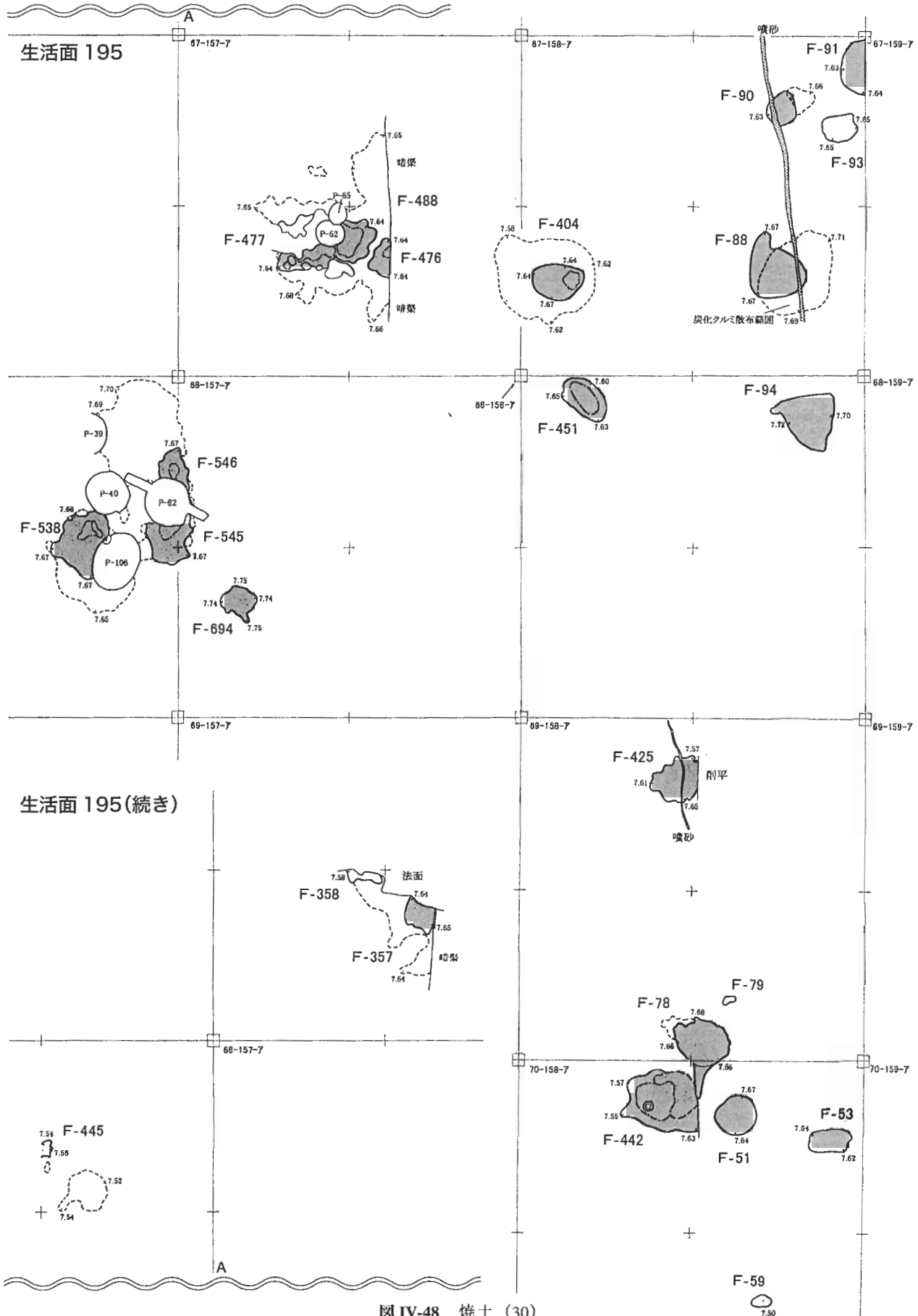
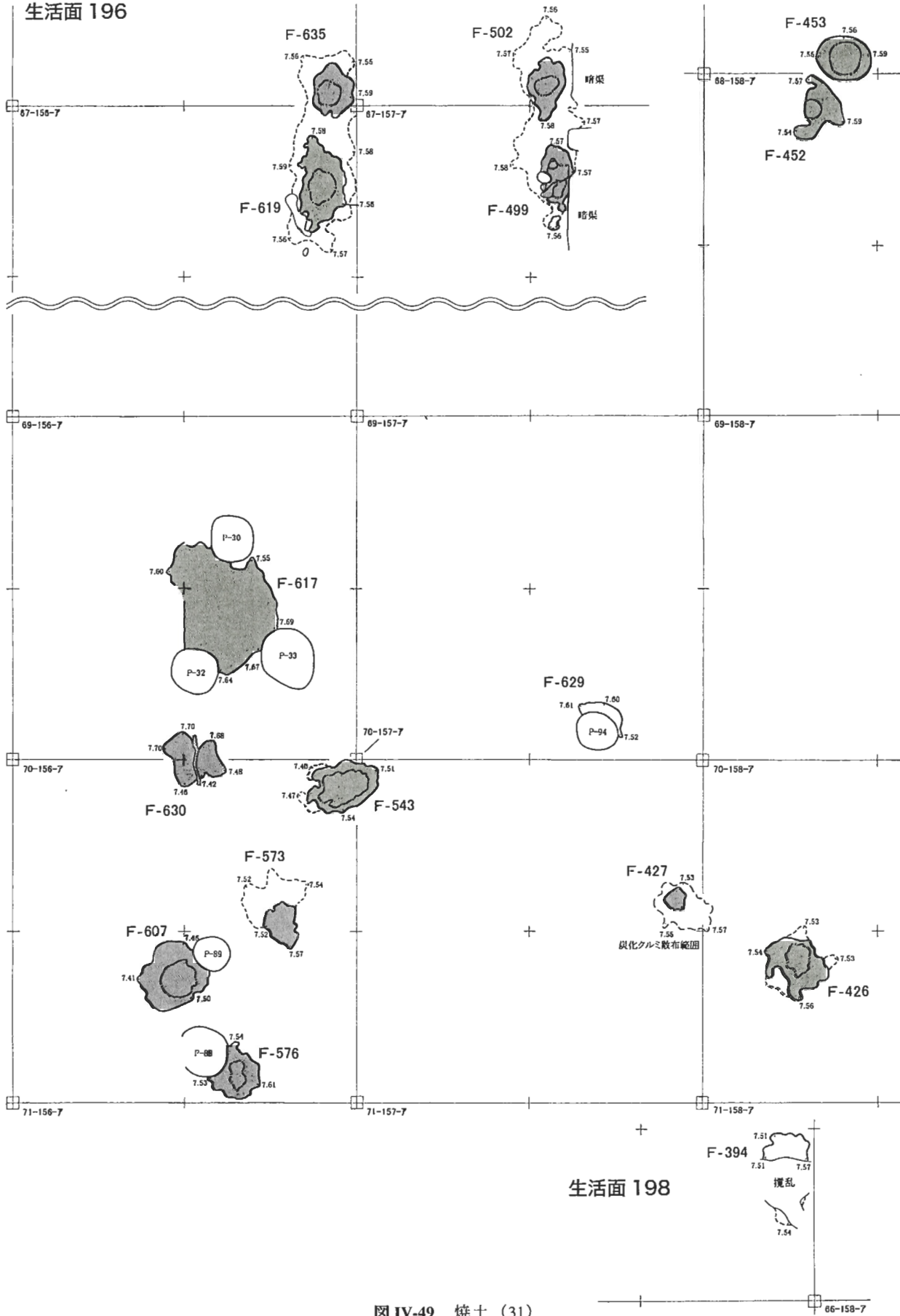


図 IV-48 焼土 (30)

IV 遺構

生活面 196



図IV-49 焼土 (31)

生活面 199~201

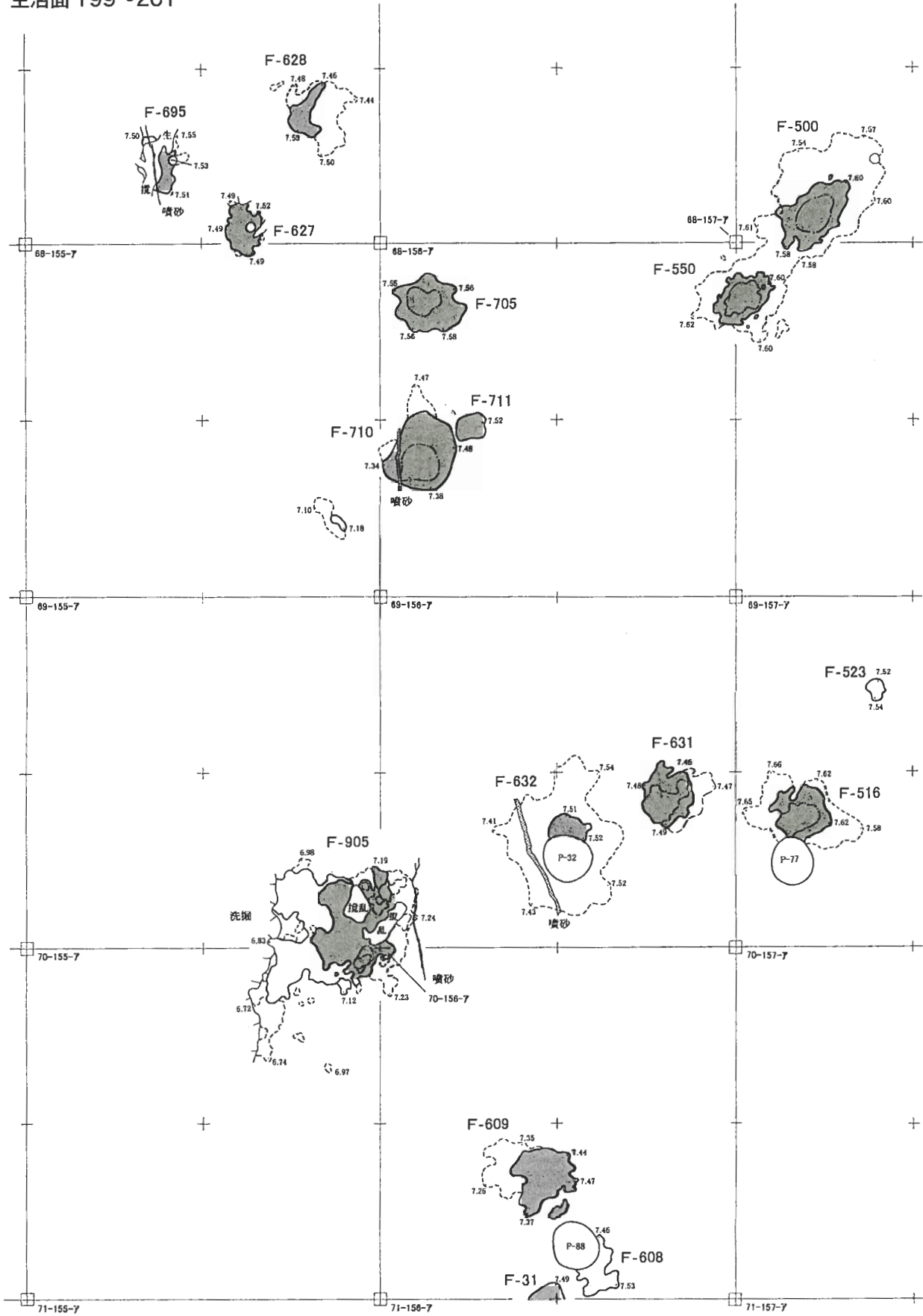
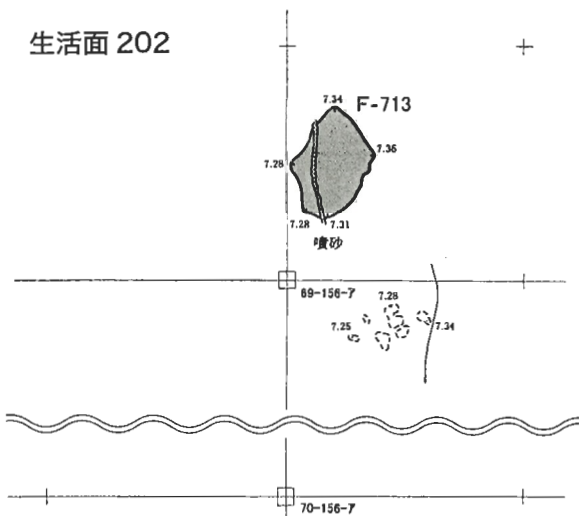


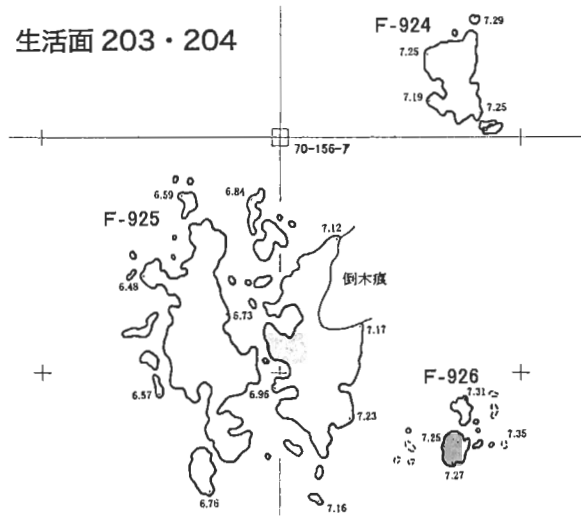
図 IV-50 焼土 (32)

IV 遺構

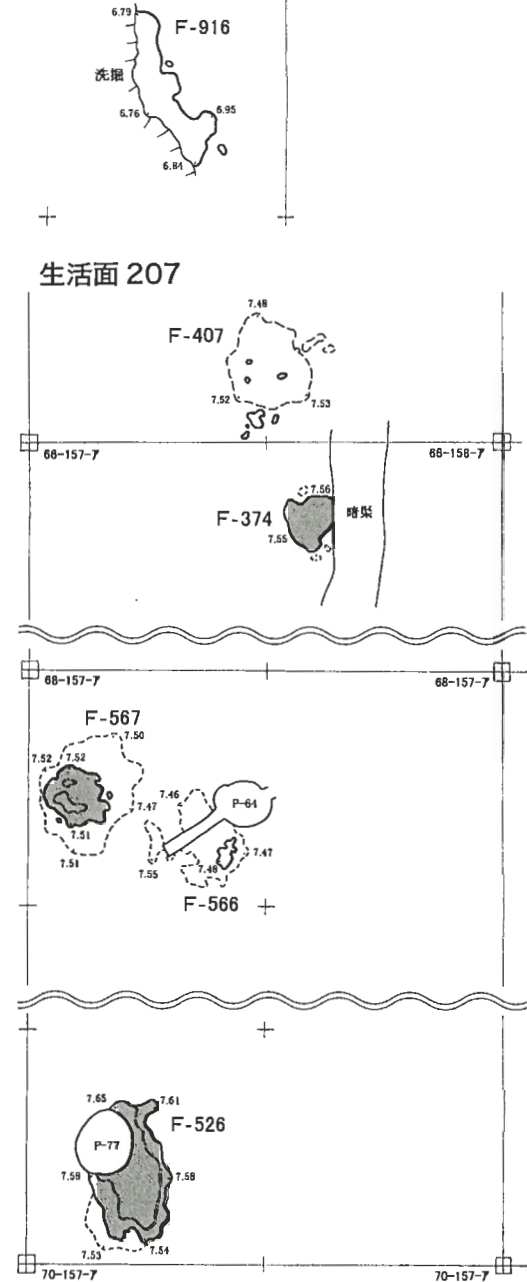
生活面 202



生活面 203・204



生活面 207



生活面 205・206

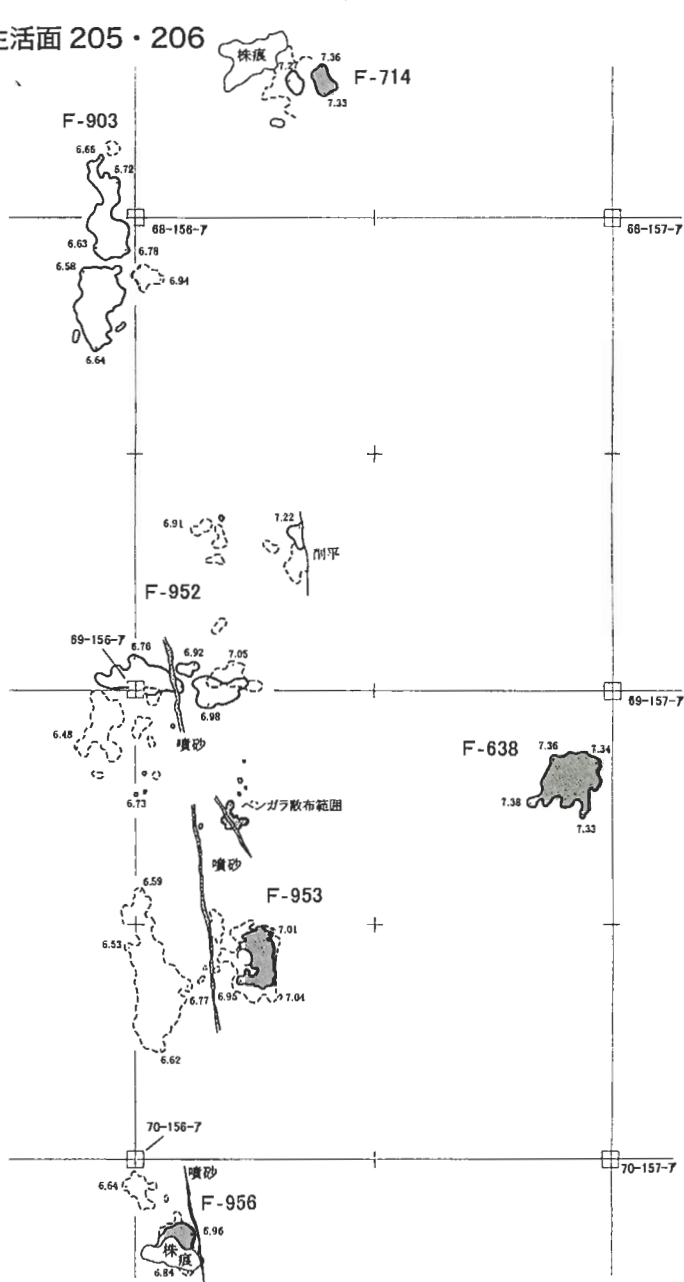


図 IV-51 焼土 (33)

生活面 208~210

生活面 211

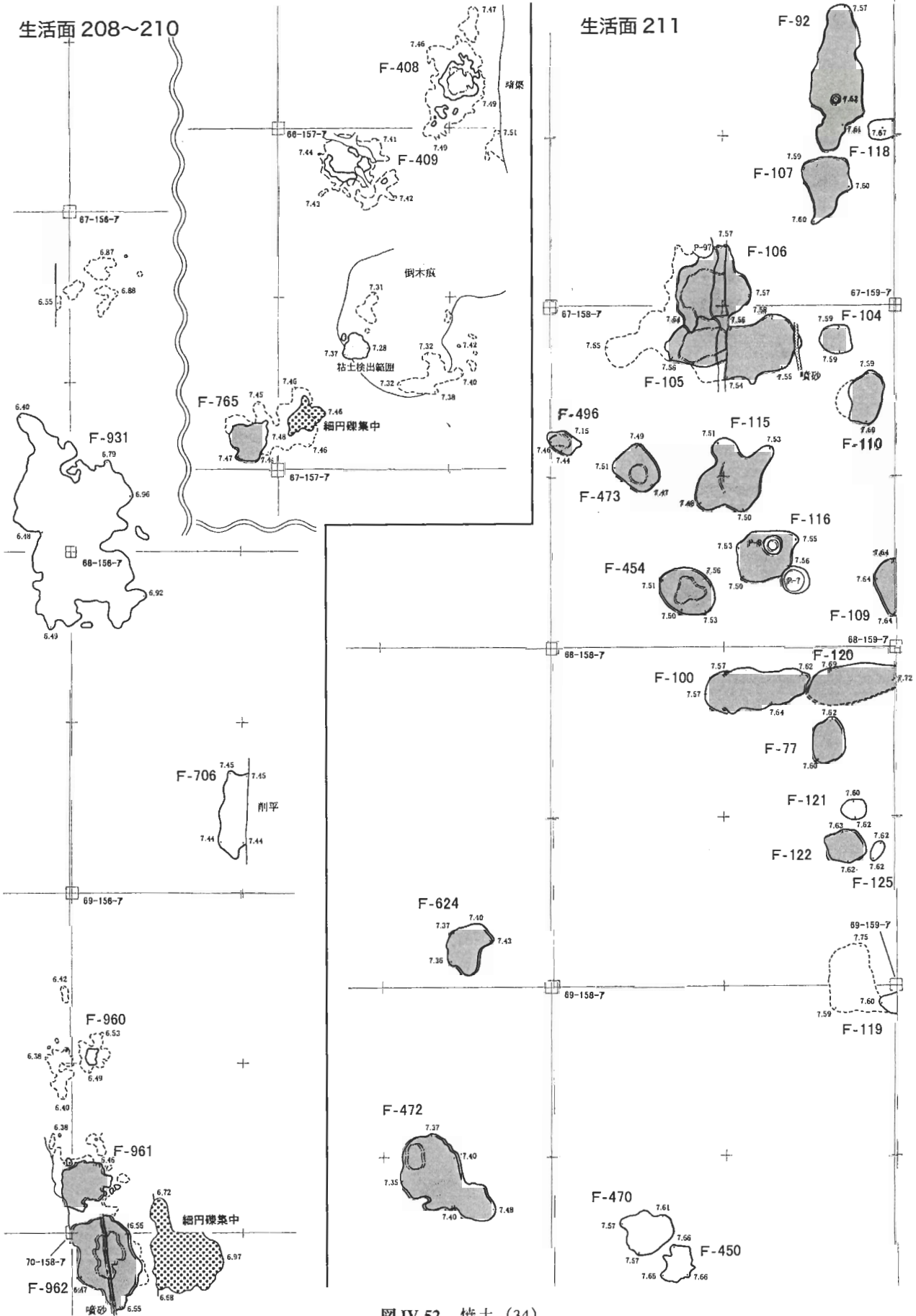


図 IV-52 焼土 (34)

IV 遺構

生活面 212・213

生活面 211

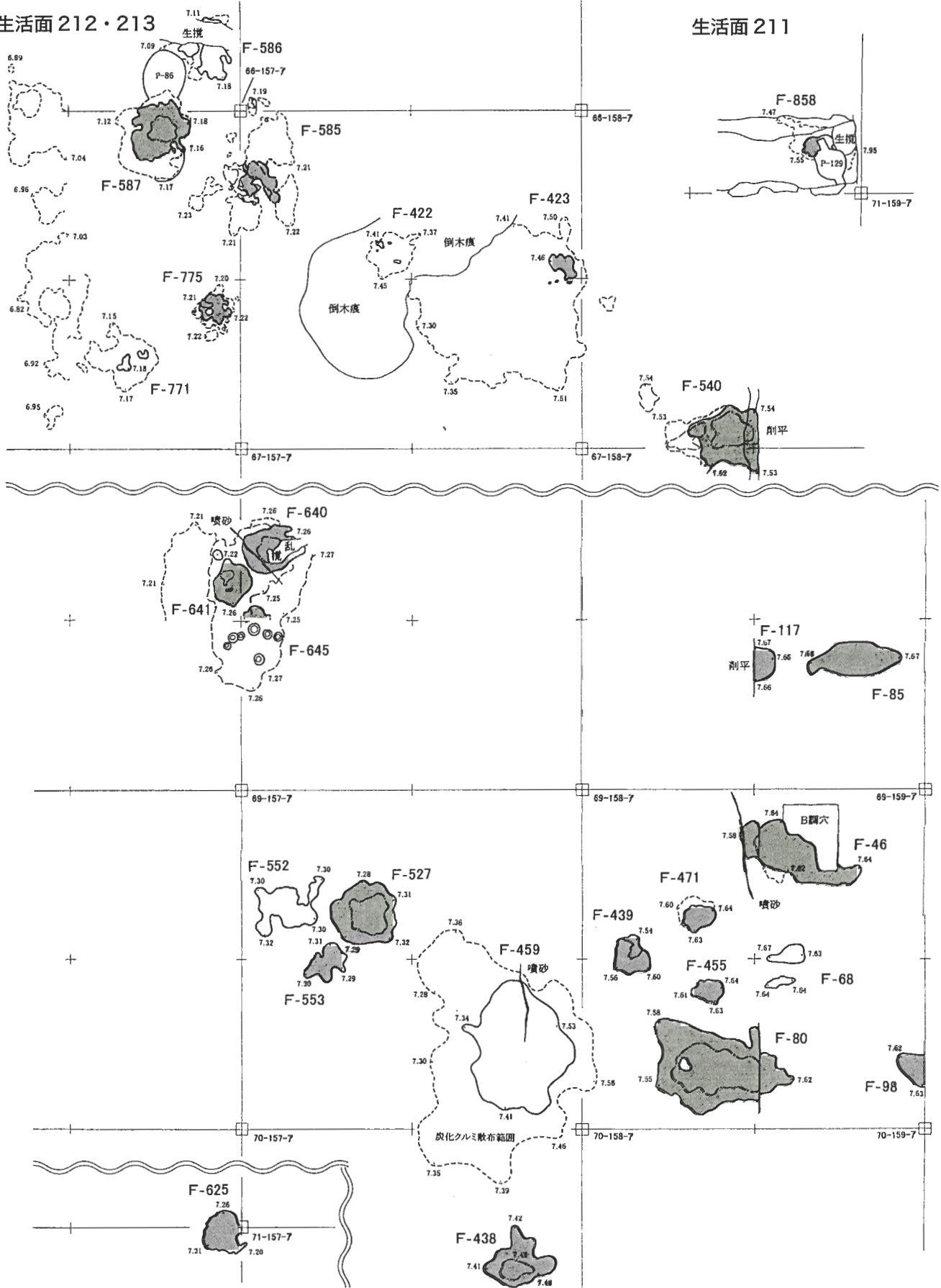


図 IV-53 焼土 (35)

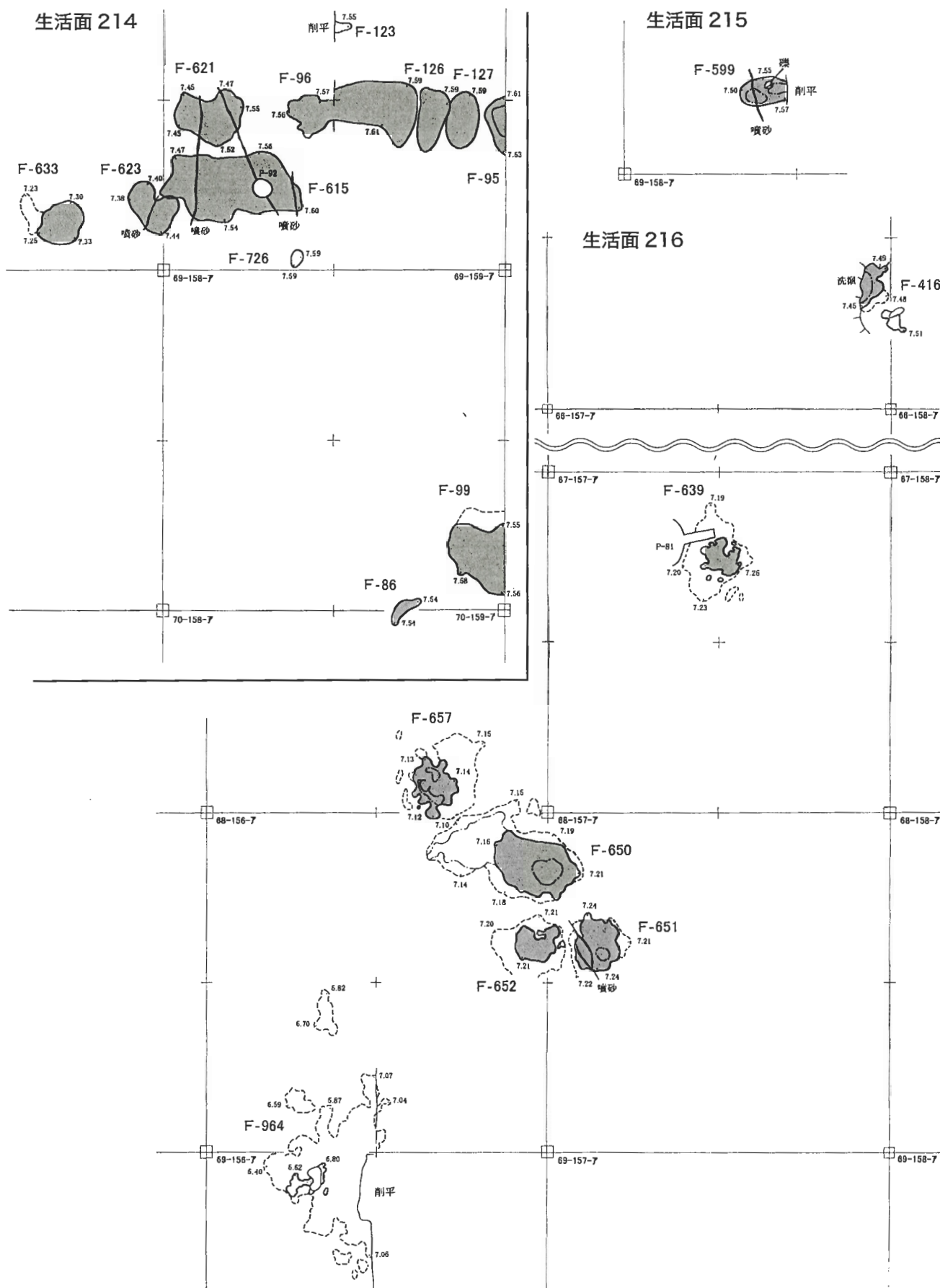
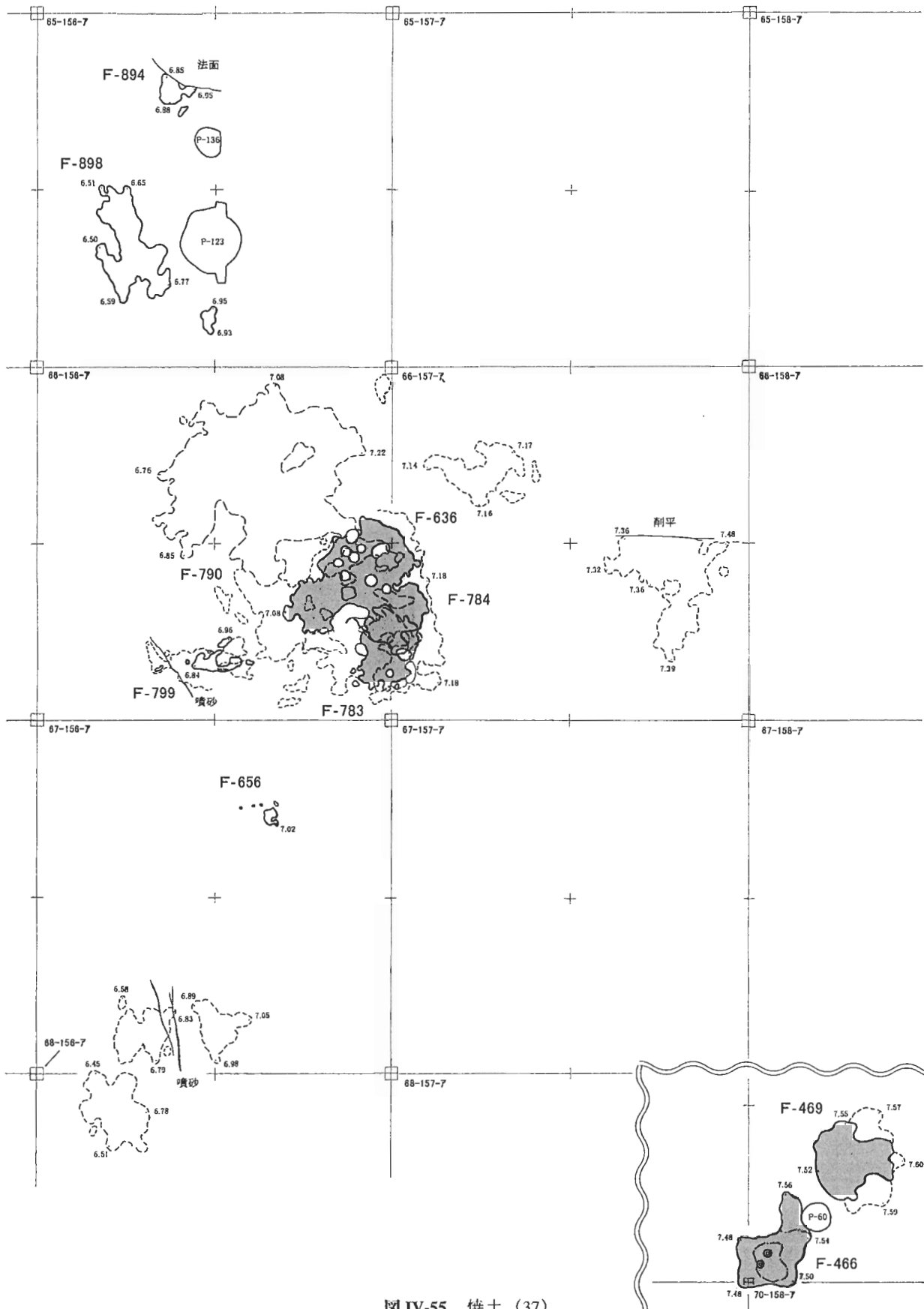


图 IV-54 烧土 (36)

IV 遺構

生活面 217



図IV-55 焼土 (37)



生活面 218・219

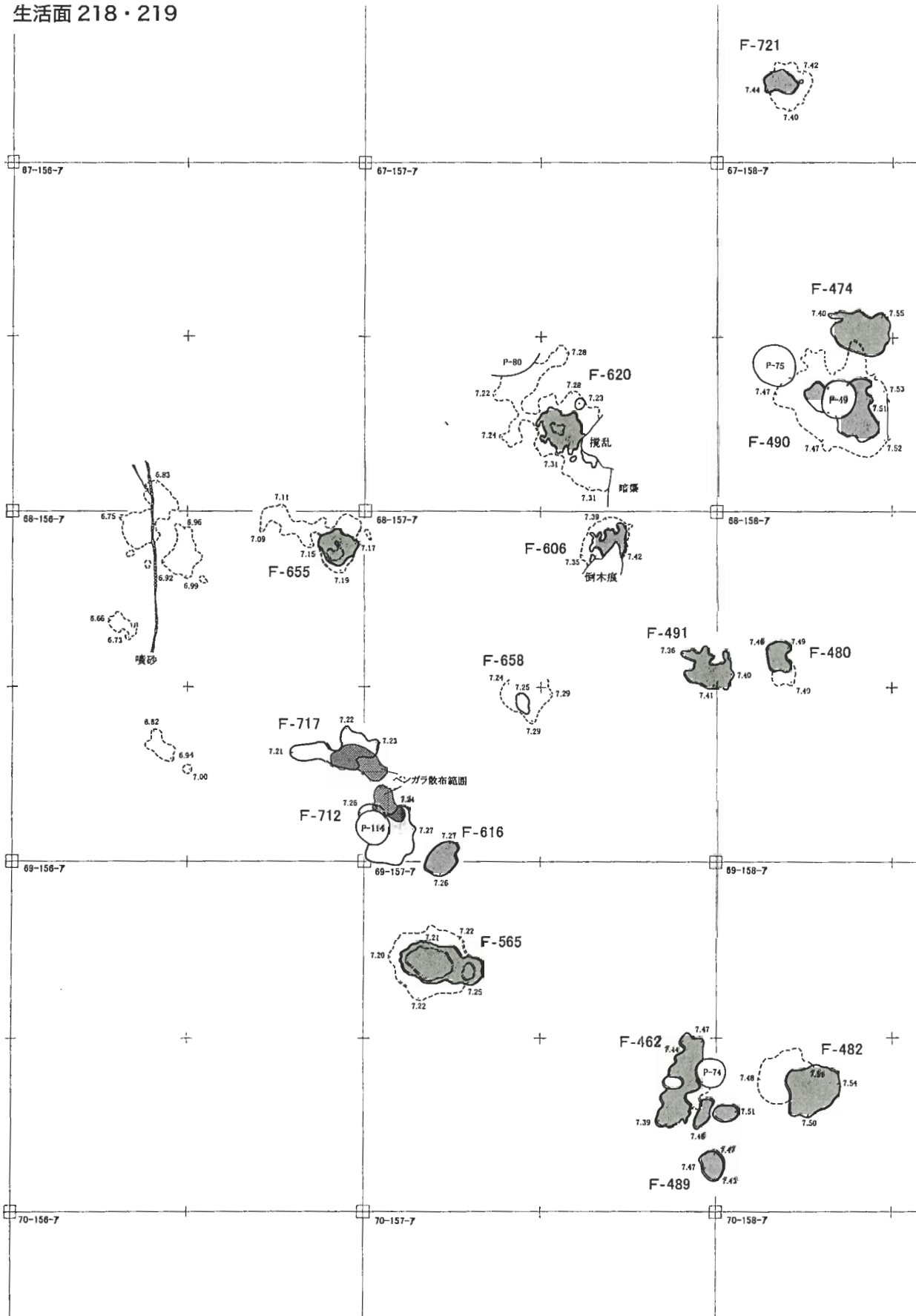
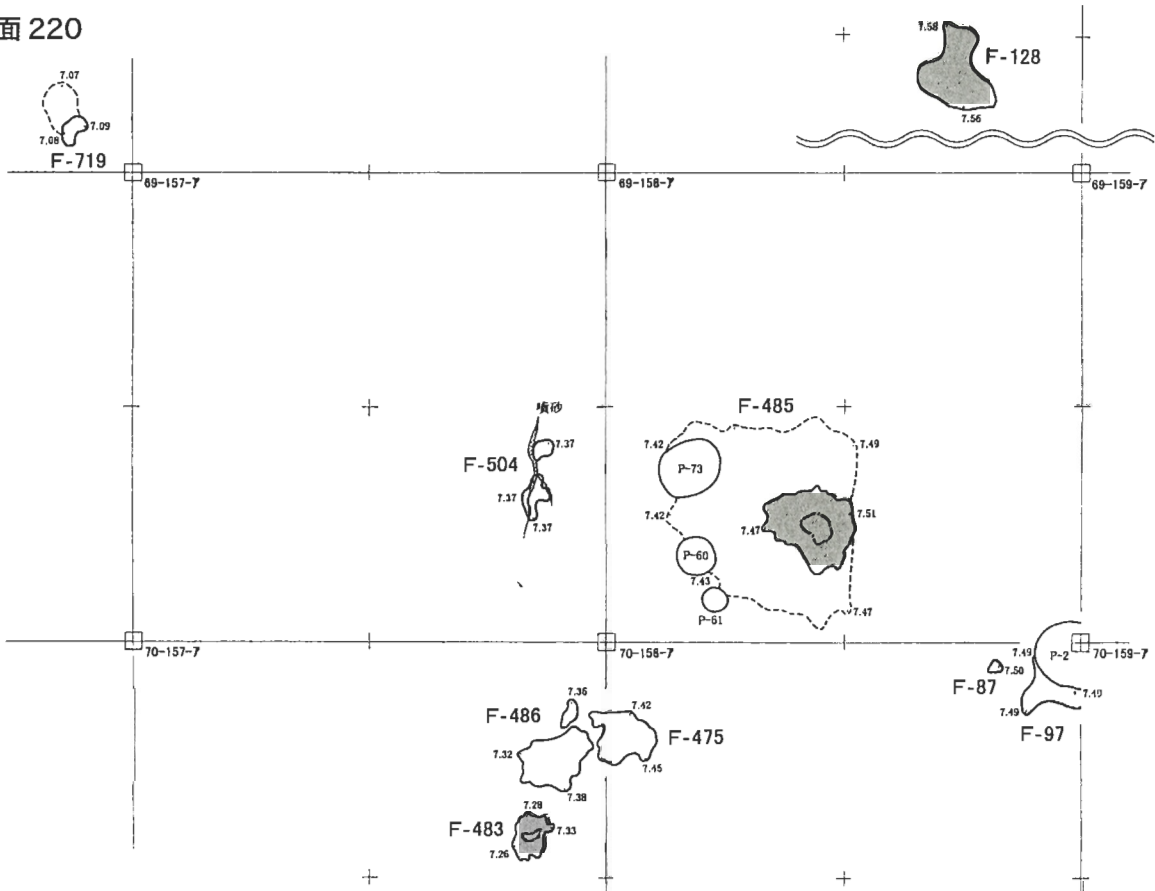


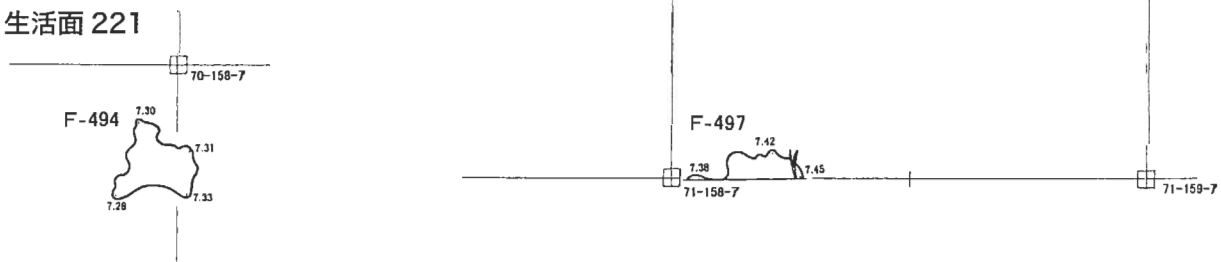
図 IV-56 焼土 (38)

IV 遺構

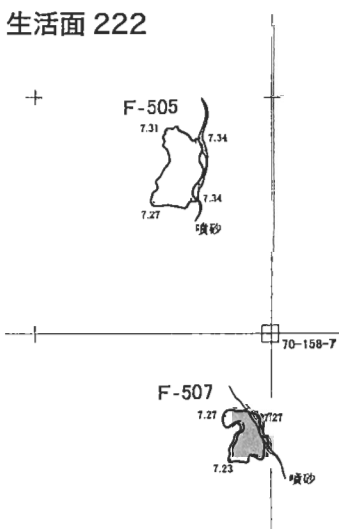
生活面 220



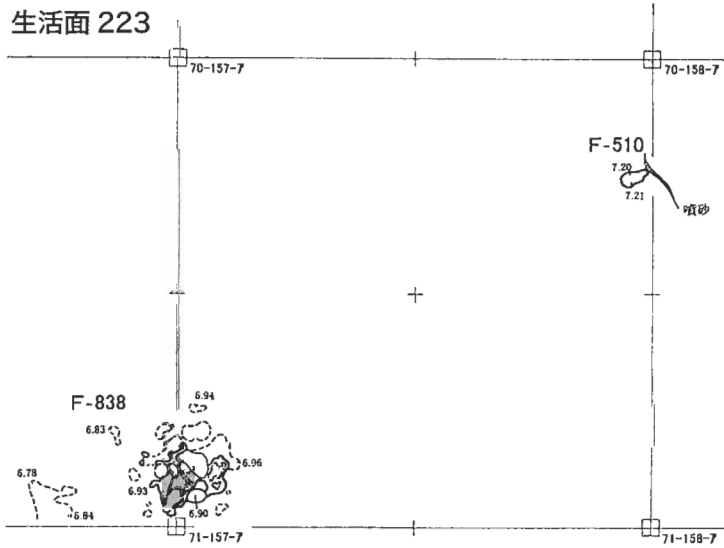
生活面 221



生活面 222



生活面 223



図IV-57 焼土 (39)

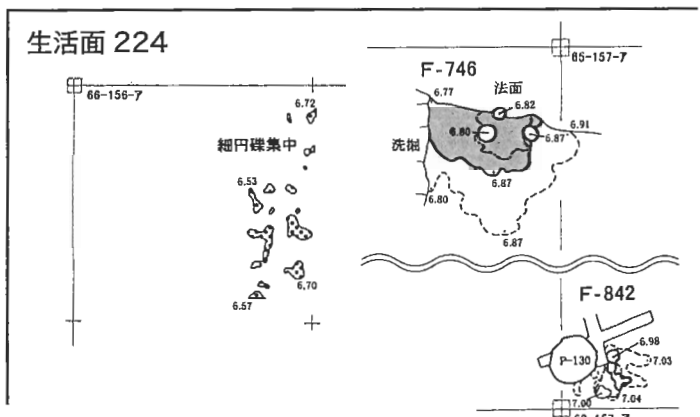
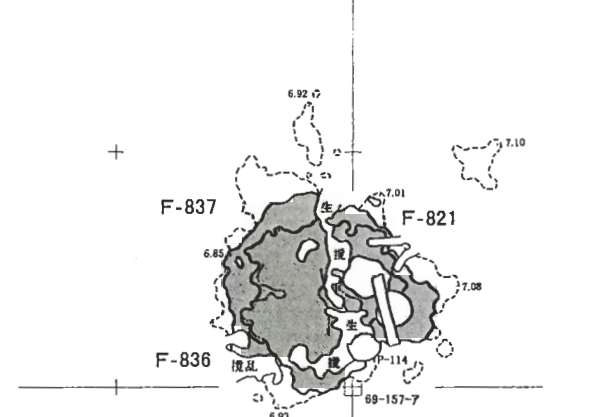
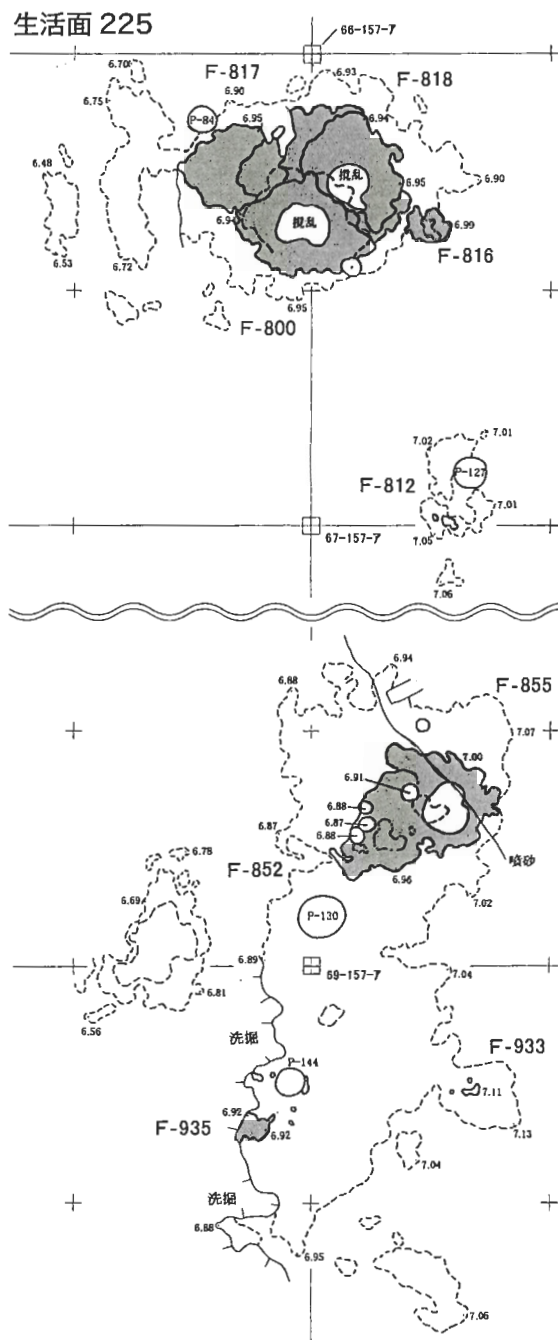
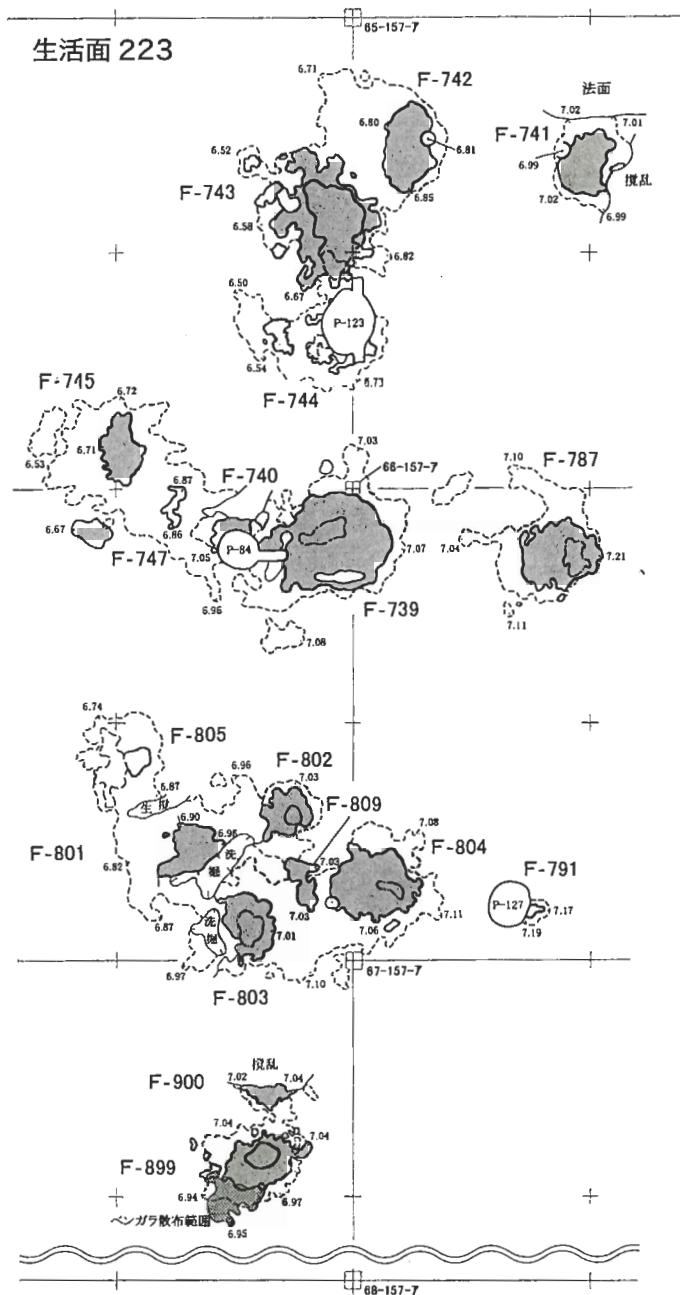


図 IV-58 焼土 (40)

IV 遺構

生活面 227~232

生活面 226

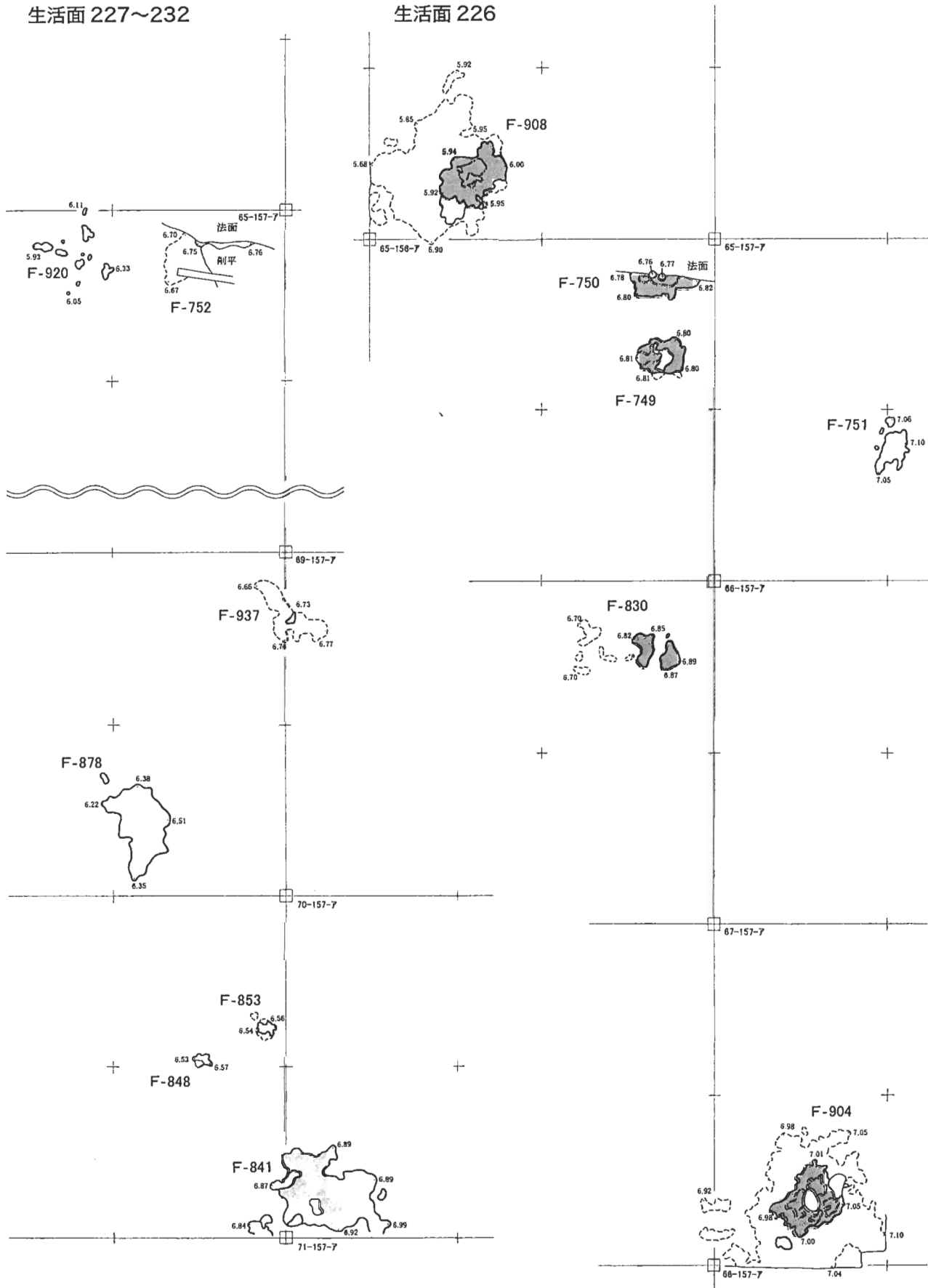
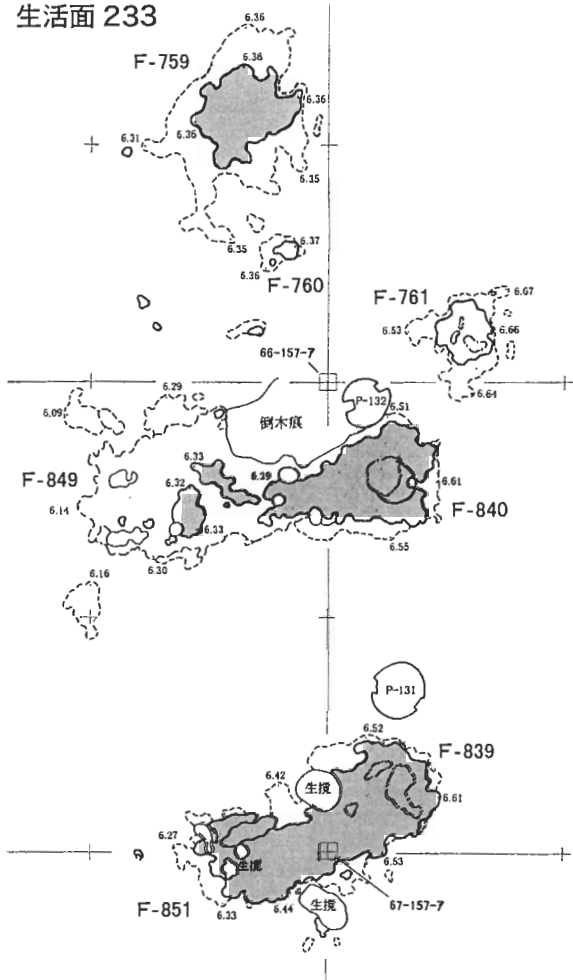
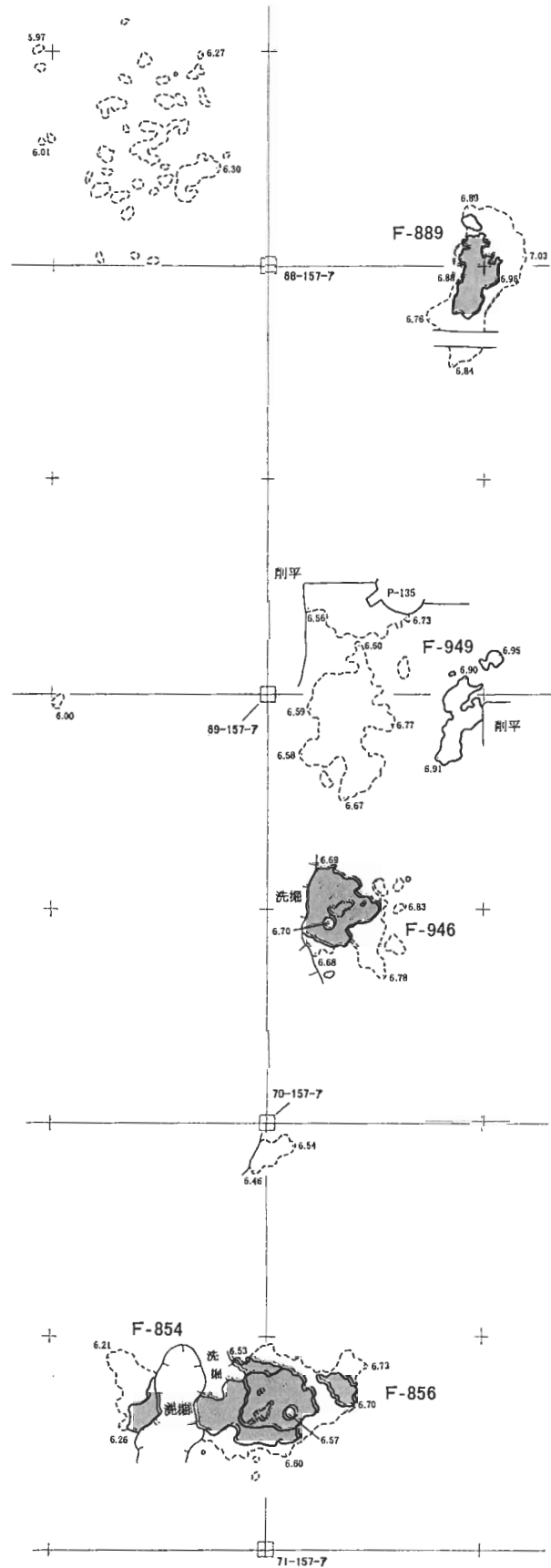


図 IV-59 焼土 (41)

生活面 233



生活面 234



生活面 234(続き)

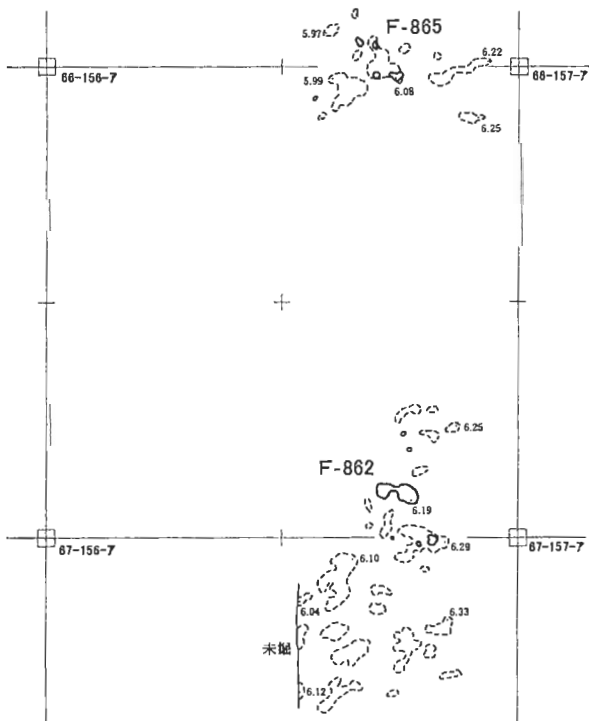
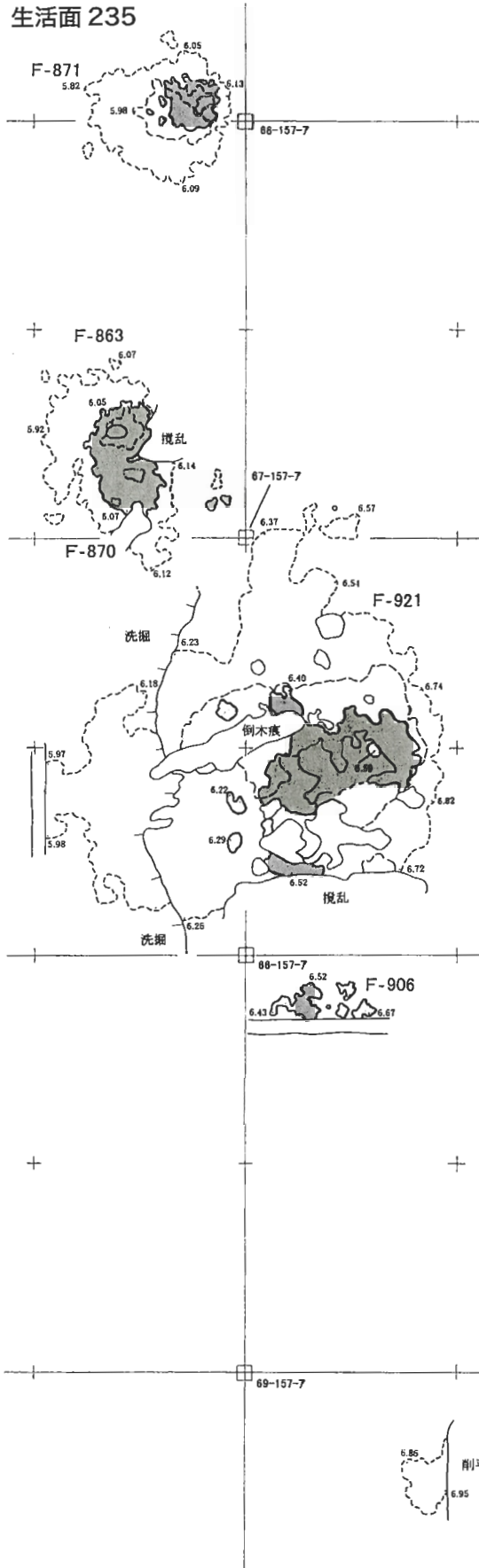


图 IV-60 焼土 (42)

IV 遺構

生活面 235



生活面 237・238

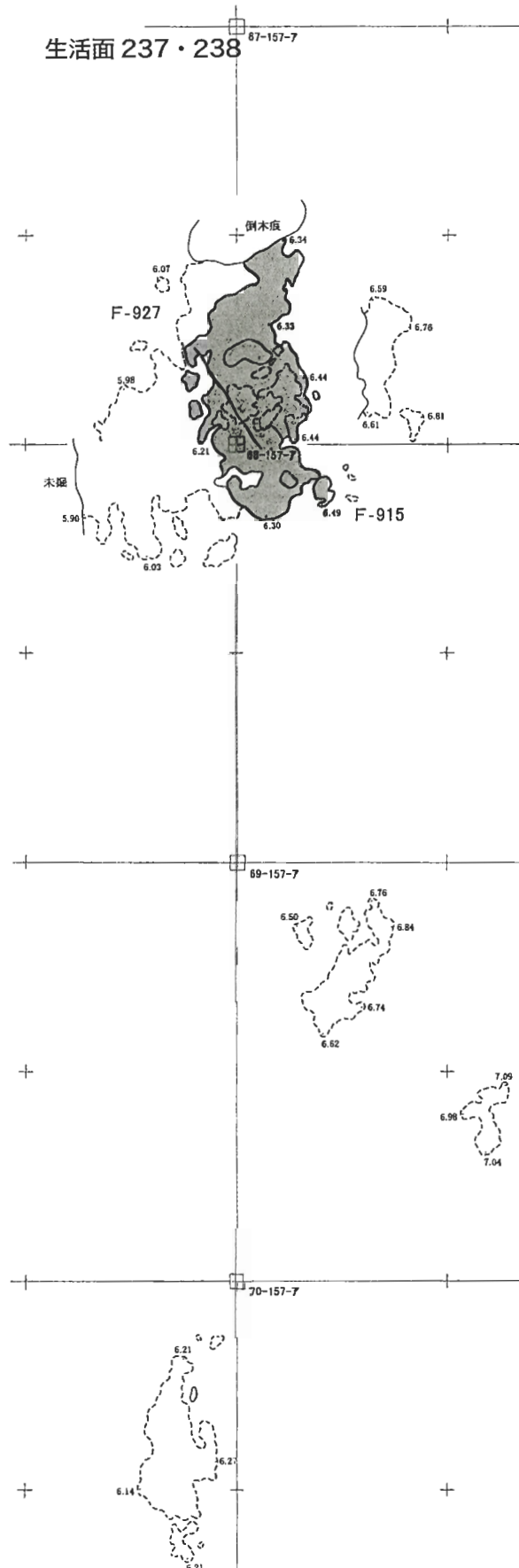
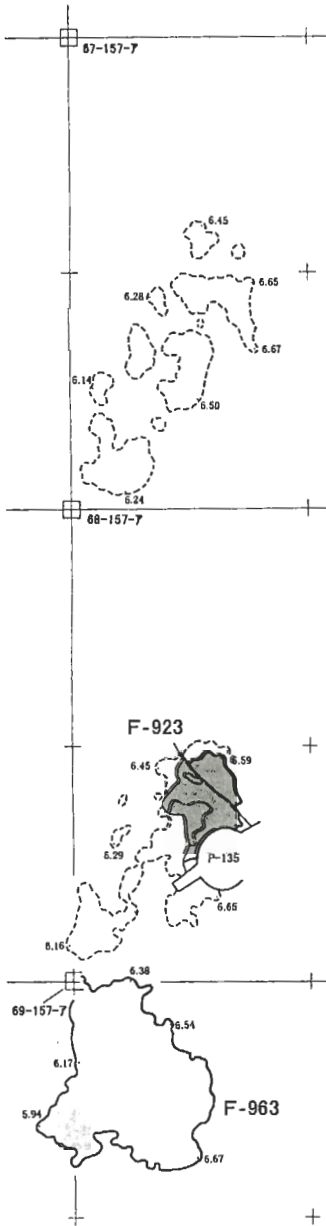
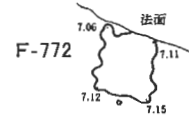
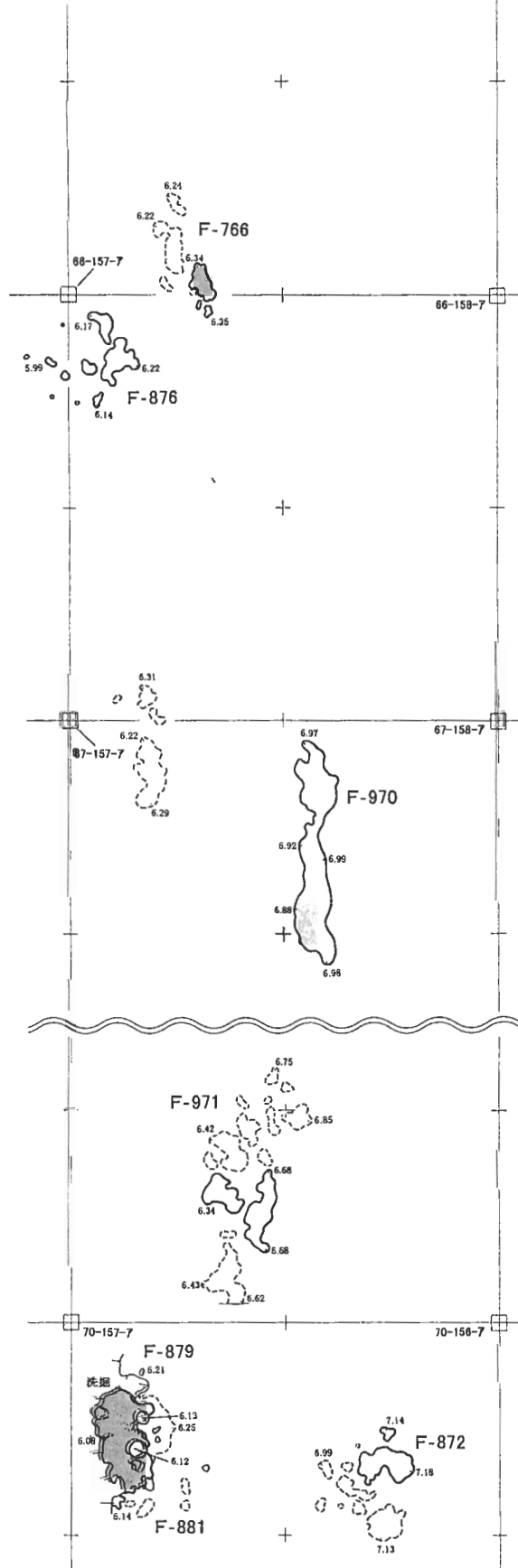


图 IV-61 烧土 (43)

生活面 239



生活面 241~245



生活面 240

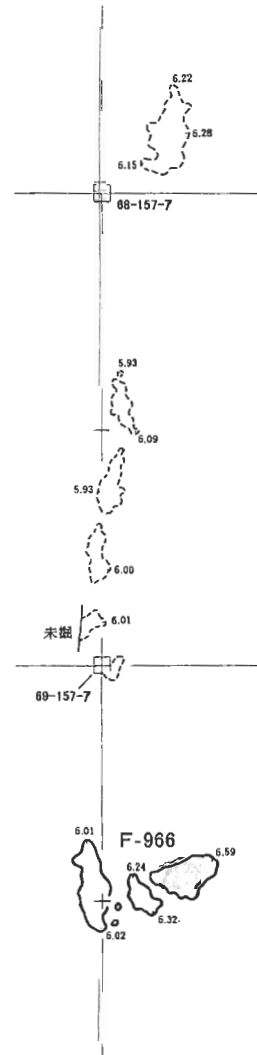


図 IV-62 焼土 (44)

IV 遺構

F-922 (生活面 32)



- 1: 黄褐色シルト: 明褐色焼土ブロック多く含む・骨片少量含む
  - 2: 暗褐色赤褐色焼土: 炭化物多く含む・黄褐色焼土ブロック・骨片少量含む
  - 3: 黄褐色シルト: 暗褐色焼土ブロック・炭化物・骨片含む
  - 4: 暗褐色焼土
  - 5: 暗赤褐色焼土
- 炭化物  
現地で焼成されたもの

F-308 (生活面 128)



- 1: 灰褐色シルト質粘土: 炭化物・焼土粒・骨片含む
  - 2: 暗褐色焼土
  - 3: 暗赤褐色焼土
- 礫石器  
現地で焼成された焼土

F-795 (生活面 159)



- 1: 黄褐色シルト主体: 炭化材料ほとんど混じらず
  - 2: 黄褐色シルト主体: 炭さ 2cm 未満の炭化材料混じる
  - 3: 黄褐色シルト主体: 炭さ 3cm 未満の炭化材料・焼土塊混じる・骨片含む・小ピット
  - 4: 黄褐色シルト主体: 炭さ 1cm 未満の炭化材料・焼土塊混じる・小ピット
  - 5: 炭化材料の塊
  - 6: 暗褐色焼土
  - 7: 暗赤褐色シルト主体
- 現地で焼成された焼土、小ピット 8 層ある。

F-539 (生活面 160)



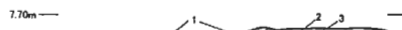
- 1: 暗赤褐色シルト: 焼土ブロック・炭化物混じる、小ピット
  - 2: 暗赤褐色シルト: 焼土ブロック・炭化物・骨片混じる、小ピット
  - 3: 暗赤褐色シルト: 炭化物混じる、小ピット
  - 4: 暗赤褐色シルト: 焼土ブロック・炭化物混じる、小ピット
  - 5: 暗褐色焼土: 骨片少量混じる
  - 6: 暗褐色焼土: 骨片少量混じる
  - 7: 暗褐色焼土
  - 8: 暗赤褐色焼土
  - 9: 暗赤褐色焼土
  - 10: 暗赤褐色焼土
  - 11: 暗褐色焼土
- 現地で焼成されたもの、小ピット 7 層ある。

F-570 (生活面 160)



- 1: 明赤褐色焼砂
  - 2: 暗赤褐色焼砂
  - 3: 暗赤褐色シルト
- 現地で焼成されたもの、自然の落ち込み面に腐植層を入れて焼土を形成した

F-453 (生活面 196)



- 1: 暗赤褐色シルト: 炭化物・微量の焼土粒含む灰層
  - 2: 明褐色焼土: 骨片多く含む
  - 3: 明褐色焼土
  - 4: 赤褐色焼土
- 現地で焼成された焼土

F-92 (生活面 211)



- 1: 明褐色焼土: 骨片含む
  - 2: 暗赤褐色焼土
  - 3: 暗赤褐色焼土
  - 4: 暗赤褐色土: 焼土粒・骨片・炭化物含む、小ピット
- 現地で焼成されたもの、小ピット 1 層ある。

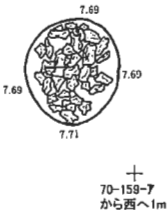
F-818 (生活面 225)



- 1: 暗褐色シルト主体: 炭さ 2cm 未満の炭化材料・焼土塊混じる・骨片含む
  - 2: 暗褐色シルト主体: 炭さ 2cm 未満の炭化材料・焼土塊混じる
  - 3: 暗褐色シルト主体: 骨片含む
  - 4: 赤褐色焼土: 炭化物・炭化物混じる
- 現地で焼成された焼土



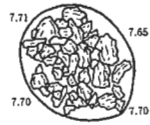
S-4



S-5



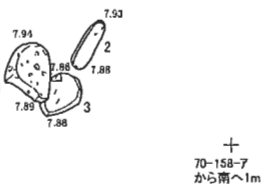
S-7



S-16



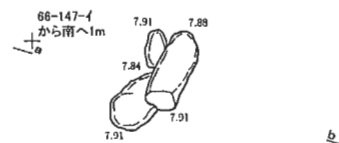
S-18



S-19



S-20



S-17



67-143-エ



図IV-63 焼土断面・集石



#### 4 集石・剥片集中・細円礫集中

集石は平成11年度に4基、13年度に4基、14年度に2基の計10基を検出している。拳大から人頭大の礫・礫石器が2~5個集まっているもの7基、軽石が多量に集中しているもの2基、黒曜石の原石・フレイクが集まっているもの1基が検出されている。軽石が集中していた範囲が掘り込みになる可能性があるが土坑とは見なさなかった。遺跡内の包含層からは自然礫は検出されないため礫は持ち込まれたものであると考えられる。剥片集中は10ヶ所確認されている。黒曜石のフレイクチップが集まっているものが8ヶ所と玉髓のフレイクチップが集まっているものが2ヶ所であった。細円礫集中は5ヶ所で確認されている。直径2~10mmほどの円礫が集まっていたものである。F-570（生活面160）では自然の落ち込みにつめられ、焼けていた。検出された細円礫は遺跡内の包含層からは出土しないため、他の場所から持ち込まれたものと考えられる。剥片集中・細円礫集中については焼土とともにその位置を記している。

S - 4 図IV-64。69-158-ウ区（生活面189）を調査中、F-52と同一面で軽石が多量に集中しているのを検出した。直径0.2m程の範囲に152点の軽石が集中していた。浅い掘り込みを確認した。S-7と同様の構造である。

S - 5 図IV-64。69-158-エ区（生活面189）を調査中に158線のセクション面にかかる形で検出された。F-54の直上にあたる面である。掘り込みなどは確認できなかった。たたき石1点（S-5-1）・台石1点（S-5-2）・礫2点が出土している。

S - 6 図IV-34。67-158-エ区（生活面135）を調査中に黒曜石の原石・フレイク等が集まって検出された。掘り込みなどは確認できなかった。石鏃片2点・スクレイパー片1点・原石2点・フレイク48点が出土している。

S - 7 図IV-64。69-158-ウ区（生活面189）を調査中、F-48と同一面で軽石が多量に集中しているのを検出した。直径0.2m程の範囲に124点の軽石が集中していた。浅い掘り込みを確認した。S-4と同様の構造である。

S - 1 5 図IV-33・図版IV-16。67-158-ア区⑤面（生活面134）を調査中にたたき石3点（S-15-1-3）・台石1点（S-15-4）が集まっているのが確認された。調査途中の雨による壁面崩落の影響で現位置から移動してしまった。

S - 1 6 図IV-64・図版IV-16。70-157-ウ区④面（生活面131）を調査中にたたき石3点（S-16-1-3）が集まっているのが確認された。周囲に掘り込みなどは確認されなかった。

S - 1 7 図IV-64・図版IV-16。70-157-エ区⑤面（生活面134）を調査中にS-18と隣接してたたき石2点（S-17-1・2）・礫1点が集まっているのが確認された。周囲に掘り込みなどは確認されなかった。

S - 1 8 図IV-64・図版IV-16。70-157-エ区⑤面（生活面134）を調査中にS-17と隣接して砥石1点（S-18-1）・たたき石1点（S-18-2）・台石1点（S-18-3）が集まっているのが確認された。周囲に掘り込みなどは確認されなかった。

S - 1 9 図IV-64・図版IV-16。66-143-ウ区①面（生活面52）を調査中に礫2点が集まっているのが確認された。周囲に掘り込みなどは確認されなかった。

S - 2 0 図IV-64・図版IV-16。66-147-イ区③面（生活面96）を調査中に礫3点が集まっているのが確認された。周囲に掘り込みなどは確認されなかった。 (酒井)

IV 遺構

表IV-1 生活面一覽

生活面	発掘区・取上面	層面 (67 線上)	層面 (69 線上)	H11 対応	生活面	発掘区・取上面	層面 (67 線上)	層面 (69 線上)	H11 対応
1	66-113-ア①①ウ①	3.2/4.2 上	未発掘		55	66-142-ウ①/66-143-イ④	69.2・70 間	未発掘	
2	65-17-ア①ウ①	12 上	未発掘		56	65-142-ウ③④/65-143-ア①ウ③	69.2・70 間	未発掘	
3	66-118-ア①ウ①	13 上	未発掘		57	64-143-イ①	69.2・70 間	未発掘	
4	64-129-イ①/65-129-ア①	30.1	未発掘		58	65-142-ウ④	69.2・70 間	未発掘	
5	66-130-イ①	34.1	未発掘		59	64-143-イ③	69.2・70 間	未発掘	
6	65-131-ウ①ウ①	38 上	未発掘		60	66-143-イ②	70・71 間	未発掘	
7	66-131-エ①	39 上	未発掘		61	65-144-ア①	70・71 間	未発掘	
8	66-133-ウ①	41	未発掘		62	66-143-ウ③④⑤	71・72 間	未発掘	
9	64-133-ウ① 65-133-ア①ウ①ウ① 66-133-エ①	45	未発掘		63	66-144-ウ①ウ①	71・72 間	未発掘	
10	65-134-イ① 64-133-イ①ウ②/64-134-イ①ウ①	46・47 間	未発掘		64	64-144-ウ② 65-144-エ① 66-144-ア①ウ②/66-145-ア①ウ①	72・73 間	未発掘	
11	65-133-エ②/65-134-ア①ウ①ウ① 66-134-イ②	46・47 間	未発掘		65	64-144-ウ③ウ①	72・73 間	未発掘	
12	66-133-ウ②/66-134-イ①	46・47 間	未発掘		66	64-145-イ① 65-145-ウ① 66-145-イ②ウ①ウ①/66-146-ア①	73 上	未発掘	
13	66-134-エ①	48・49 間	未発掘		67	66-145-イ③	73 直上	未発掘	
14	66-134-ウ①	50・51 間	未発掘		68	65-145-②	73	未発掘	
15	65-135-イ①	52 上	未発掘		69	66-145-ウ②エ②	73・74 間	未発掘	
16	66-135-ウ①	56a・ 56.1 間	未発掘		70	66-145-イ④	73・74 間	未発掘	
17	66-136-イ①	56 上	未発掘		71	65-145-イ①	74・75 間	未発掘	
18	66-136-ウ①	56.1	未発掘		72	65-145-イ②ウ③ 66-145-ウ⑤	74・75 間	未発掘	
19	65-136-ウ① 66-136-ウ②	56.1・57 間	未発掘		73	66-145-イ④ウ④⑤	74・75 間	未発掘	
20	66-135-ウ②	56.1・57 間	未発掘		74	65-145-イ⑤ 66-145-イ⑥	74・75 間	未発掘	
21	64-137-イ① 65-137-ア②	59.1・59.2 間	未発掘		75	65-146-イ①	75・76 間	未発掘	
22	66-136-ウ③/66-137-ア①ウ①	59.1・59.2 間	未発掘		76	66-146-ア②	75・76 間	未発掘	
23	65-137-ア①ウ①/65-138-ア①	59・60 間	未発掘		77	66-145-ウ④ 66-145-エ④	75・76 間	未発掘	
24	66-137-エ①/66-138-イ①	60 上	未発掘		78	64-145-ウ① 65-145-エ① 66-145-エ⑥	75・76 間	未発掘	
25	65-138-イ①ウ①/65-139-イ① 66-138-ア②ウ①ウ①/66-139-ア①ウ①ウ①	63	未発掘		79	65-145-エ②	75・76 間	未発掘	
26	64-139-イ① 65-139-イ②	64・65a 間	未発掘		80	66-146-ウ②	76b・76.1 間	未発掘	
27	64-139-ア①	64・65a 間	未発掘		81	65-146-ウ① 66-146-ア④ウ①③④	76b・76.1 間	未発掘	
28	64-140-ウ①/64-141-イ① 65-140-エ①より上/65-141-ア① 66-140-ア①ウ①より上/ウ①ウ① (0) /66-141-ア①	65.1・ 65.2 間	未発掘		82	66-145-ウ④/66-147-イ④	76b・76.1 間	未発掘	
29	64-140-ウ②/64-141-イ② 65-140-エ①	65.1・65.2 間	未発掘		83	64-146-イ①ウ① 65-146-ア①エ① 66-145-ウ③エ③/66-146-ア④ウ③	76b・76.1 間	未発掘	
30	64-140-ウ③ウ①/64-141-イ③ 65-140-ウ①ウ②/65-141-ア②ウ① 66-140-ウ②/66-141-イ (0)	65.1・65.2 間	未発掘		84	66-146-ウ⑤/66-147-イ⑤	76.1	未発掘	
31	66-140-ウ③	65.1・65.2 間	未発掘		85	66-147-ア①	77・78 間	未発掘	
32	64-140-ウ④/64-141-イ④ 65-140-ウ②エ③/65-141-ア③ 66-140-ア①ウ②ウ①/ウ④ウ①	65.2	未発掘		86	66-146-ウ⑥エ②	77・78 間	未発掘	
33	66-139-ウ①/66-140-ア②ウ②ウ②ウ②	65.2・66 間	未発掘		87	66-146-イ⑥	77・78 間	未発掘	
34	66-141-ア②ウ①/ウ③/66-142-ア④	66・67 間	未発掘		88	65-146-イ②ウ①② 66-146-ア④ウ①ウ②ウ③	77・78 間	未発掘	
35	66-141-イ②ウ①/66-142-ア⑤	66・67 間	未発掘		89	64-146-イ②ウ② 66-146-イ③ウ③エ④/66-147-イ⑦	77・78 間	未発掘	
36	66-141-イ③	66・67 間	未発掘		90	64-146-イ③ウ④④ウ④ 65-146-ア②エ②/65-147-ア①	77・78 間	未発掘	
37	66-141-イ④	66・67 間	未発掘		91	65-146-ウ②/65-147-ア②ウ④ 66-146-エ⑤	77・78 間	未発掘	
38	65-141-エ (0) /65-142-ア①ウ①より上	67 上	未発掘		92	64-146-ア①ウ① 66-146-ア③	77・78 間	未発掘	
39	65-141-ウ①ウ①/65-142-ア②ウ①	67 上	未発掘		93	65-147-イ① 66-147-イ①	78 上	未発掘	
40	65-142-イ①②間ウ①より上 66-141-ウ①ウ①②間/66-142-ア②ウ①ウ①	67 直上	未発掘		94	66-147-イ②	78 上	未発掘	
41	66-141-ウ②/66-142-イ②	67 直上	未発掘		95	66-147-ア④	78・79 間	未発掘	
42	64-142-イ① 65-142-ア③ 66-142-ア③	67・68 間	未発掘		96	66-147-ア⑤	78・79 間	未発掘	
43	65-141-ウ②/65-142-イ②	67・68 間	未発掘		97	66-147-ア⑥	78・79 間	未発掘	
44	65-141-ウ③エ②/65-142-ア④ウ① 66-141-エ①②間/66-142-ア⑤ウ③エ②	67・68 間	未発掘		98	65-147-イ② 66-147-イ③	78・79 間	未発掘	
45	65-142-イ⑤ 66-142-ア⑥	67・68 間	未発掘		99	66-147-ア④	78・79 間	未発掘	
46	65-142-イ④④ウ②/65-143-イ② 66-142-ア⑦ウ④エ③	68 直上	未発掘		100	66-147-ア⑤	78・79 間	未発掘	
47	65-142-ア⑧ウ④⑤間 66-141-エ①②間/66-142-ア⑧ウ⑤	68	未発掘		101	66-147-ア⑥	78・79 間	未発掘	
48	65-142-イ⑥ 66-142-ア⑨イ⑥	68・69a 間	未発掘		102	66-147-ウ③	80・81 間	未発掘	
49	66-142-イ⑦	68・69a 間	未発掘		103	66-147-ウ①	80 上	未発掘	
50	66-142-イ⑧	68・69a 間	未発掘		104	65-147-ウ① 66-147-ウ②	80 上	未発掘	
51	66-141-エ②/66-142-ア⑩	68・69a 間	未発掘		105	65-148-イ① 66-148-イ②ウ① 67-150-ア① 69-149-イ①より上 1/ウ①ウ①/69-150-イ① 70-149-エ①	81.1 上	1.1 上	
52	66-143-ア①ウ①/66-144-イ①	69 上	未発掘						
53	65-143-イ①ウ① 66-143-イ②ウ③エ①	69.1・69.2 間	未発掘						
54	66-143-イ③ウ④	69.2	未発掘						

表 IV-1 続き

生活面	発掘区・取上面	層面 (67 線土)	層面 (69 線土)	H11 対応層	生活面	発掘区・取上面	層面 (67 線土)	層面 (69 線土)	H11 対応層		
106	65-148-イ②ウ①⑥65-150-イ① 66-148-イ②ウ②エ①⑥66-149-イ② ア①より上 67-150-ア②	81.1 上	-		127	68-152-ウ② 69-152-ア②エ⑤	-	18.1			
107	64-148-ウ① 65-147-エ①⑥5-148-ア①エ① 69-149-イ①より上ウ②エ②69-150-ア①	81.1 上	1.1 上		128	65-156-ウ① 66-156-イ④ウ③エ④・66-157-イ① 67-156-ア②ウ③エ②③④67-158-ア① 68-156-ア②イ②ウ③エ②68-157-イ①ウ② ①68-158-イ① 69-155-イ①ウ③エ③69-156-ア③イ③④ ウ②エ②69-157-ア②イ②ウ②エ②69-158- ア③イ③ 70-155-エ④70-156-ア⑤⑥⑦⑧⑨⑩ ア①イ①ウ①エ①70-158-ア①イ①ウ① ②	81.1・81.2 間	1.1・1.2 間	II-1		
108	64-149-イ① 65-147-イ③エ② 69-149-ウ②③間	81.1・81.2 間	1.1・1.2 間		129	70-157-ア②イ②ウ②エ②	-	18.2 上	II-1		
109	64-148-イ① 65-147-ウ②65-148-ア②	81・82 間	-		130	65-156-イ②⑥65-157-ウ①より上 2 66-156-ア⑤イ⑤⑥66-157-ア①イ②ウ①多少上 /エ①多少上66-158-ア①②間イ② 67-156-ア③④⑤67-158-ア② 68-156-ア④イ③ウ③エ③68-157-ア①ウ② 68-158-ア②イ② 69-156-ウ③エ③69-157-ア③イ③ウ③エ③ 69-158-ア④イ④ 70-157-ア③イ③ウ③エ③70-158-ア③イ③ ウ③	81・82 間	-	116b 上	18.2 上	II-1
110	64-147-ウ①エ①②	82・83 間	-		131	65-156-ウ② 66-155-エ③66-156-ア⑥ウ④エ⑤ 67-156-ウ④エ④67-158-イ①② 68-156-エ④68-158-ア③④ 69-157-ア①イ④ウ④エ④ 70-157-ア④イ④ウ④エ④70-158-ウ④	82・83 間	-	116b 上	18.2 上	II-1
111	64-149-イ② 66-149-ア① 67-149-ウ② 68-149-ア①イ①ウ①⑥68-150-イ① 69-149-ア①イ①ウ①エ③	85.1 上	1.4		132	66-157-イ③エ①66-158-ア②エ①より上 67-157-イ③67-158-ア③イ③④ 68-157-ア②間エ②上68-158-ア⑤ 69-158-ア⑤イ⑤	85.1 上	1.4	120.4 上	18.2 上	II-1
112	67-150-ア③イ① 69-149-エ④69-150-ア②イ②エ①かなり上 70-149-ア①エ②	88.1・89.2 間	1.1・2.2 間		133	66-158-ア③ 67-157-ウ①67-158-ア④イ⑤ 68-157-エ④68-158-ア⑥イ③ 69-158-イ⑥ 70-158-ア④イ④⑤ウ⑤	88.1・89.2 間	1.1・2.2 間	120.4 上	18.2 上	II-1
113	69-150-ア③イ③	88.1・89.2 間	2.2・4.3 間		134	67-156-ア④イ③ウ③エ⑤67-157-ア①イ① ②間67-158-ア⑤イ⑥ 68-157-ア②イ③ウ③エ②下68-158-イ④ 69-156-ウ④エ④69-157-ア⑤イ⑤ウ⑤69- 158-イ⑦ 70-157-イ⑤ウ⑤エ⑤70-158-ア⑤イ⑥ウ⑥	88.1・89.2 間	2.2・4.3 間	116b 上	18.2 上	II-1
114	64-149-エ① 65-149-ウ①65-150-ア①イ②ウ①エ① 66-149-イ①ウ①エ①66-150-ア① 67-149-ウ①エ①67-150-ア④イ② 68-149-ア②イ①ウ②③④⑤68-150-イ②③ 69-149-イ②69-150-イ④ 70-149-ア①イ②70-150-ア①	89.2・89.3 間	4.3・5.1 間		135	66-157-ウ④65-156-イ③④間 67-156-ア⑤イ④⑤ウ④エ④ 67-156-ア⑤イ④⑤ウ④エ④	89.2・89.3 間	4.3・5.1 間	115b 上	-	II-1
115	64-149-エ②64-150-ア①② 68-150-イ④ 70-150-イ①	91.1・91.4 間	6.1・8.1 間		136	65-156-イ③ウ③ 66-156-エ⑥	-	-	116b 上	-	II-2-上
116	66-151-ア①ウ①エ①66-152-イ①② 67-151-ア①ウ①② 68-151-ア①イ①より上①②68-152-ア① 69-151-ウ①69-152-イ① 70-151-ア①イ①ウ①エ①70-152-ア①	-	0.1 上		137	66-153-イ③ 67-151-エ①67-152-ウ②67-153-イ②ウ③ 68-152-ア②エ②68-153-ウ③エ②68-154-ア ②イ③ウ③ 69-151-エ②69-153-ア②イ②ウ②エ③69- 154-ア②エ② 70-152-イ③④ウ④70-153-ア③イ③ウ③エ ②70-154-ア②イ③エ①	-	0.1 上	96.1・ 101.2 間	18.2	II-2-上
117	68-151-イ③ウ③⑥68-152-イ④ウ④②間 69-151-ア①イ①エ①69-152-ア①エ④ 70-152-ア①イ①②	-	0.2・12.2 間		138	70-151-ウ②70-152-ア②イ⑤	-	18a・19a 間	116b 上	18.2 上	II-1
118	69-150-エ①②	- 間	12.3・12.4		139	66-152-イ③エ① 67-152-ウ③ 68-152-イ① 69-154-ア④ 70-152-ウ③エ③間70-153-ア⑤70-154-イ④	- 間	12.3・12.4	101.2・ 102b 間	18・21 間	II-2-上
119	69-151-ウ② 70-151-ア③ウ①エ②③	- 間	13.1・14b 間		140	66-152-ア① 67-152-ウ④エ① 68-152-イ②エ②③間 69-152-ウ② 70-152-ウ⑥	- 間	13.1・14b 間	101.2・ 102b 間	18・21 間	II-2-上
120	65-151-ウ① 68-151-イ①ウ①②	98.1・98.2 間	15.1・16a 間		141	65-152-ア①イ①④ウ①エ① 66-152-ア②③イ④ウ①(イ)エ② 68-152-イ③ウ③エ③ 69-152-ア③エ⑥ 70-152-ウ⑦	98.1・98.2 間	15.1・16a 間	101.2・ 102b 間	21b	II-2-上
121	69-152-エ① 70-152-ウ①エ①70-153-ア①	- 間	18b 上		142	65-153-イ①ウ①かなり上65-154-イ①はるか上 ウ① 66-153-ア①イ④エ①より上1/66-154-ア①イ ①エ① 67-153-ウ④67-154-ア③イ③ウ② 68-153-ア②⑥68-154-ア③イ④ 69-153-ウ③69-154-ア③イ③ 70-153-ア④イ③エ③	- 間	18b 上	101.2・ 102b 間	21.3・21.4 間	II-2-上
122	69-152-エ② 70-151-イ②70-152-ウ②エ②	- 間	18b 上		144	67-152-ウ⑤ 68-152-ア④イ⑤エ⑤ 69-152-イ③ウ③エ⑦⑧間 70-152-ウ⑥エ③	- 間	18b 上	102b・ 102.1 間	21.6・21.7 間	II-2-上
123	66-153-イ①ウ①⑥66-155-ウ①エ①66-156-ア ①②イ①エ①66-158-ア①イ① 67-153-ア①ウ①エ①67-154-ア①イ①ウ① 67-156-ウ① 68-153-ウ①68-154-イ①ウ①68-158-ア① 69-153-ア①イ①エ①69-154-ア①イ①⑥69- 155-ウ①(イ)エ①⑦69-157-イ①69-158-ア①イ ① 70-154-ア①イ①ウ①70-155-ア①ウ①エ①70- 158-ウ①	103.2 上	18b・18.2 間								
124	66-156-ア③イ②ウ①エ② 67-156-ア①イ①エ① 68-155-エ①②68-156-ア①イ①ウ①エ①68- 157-イ① 69-156-ア①イ①ウ①エ①69-157-ア①ウ① エ①69-158-ア②イ② 70-156-ア①イ①ウ①エ①	116b 上	18b・18.2 間								
125	65-156-イ①65-157-イ①より上1/ウ①上 1 66-153-イ②ウ②66-155-エ②66-156-ア④イ③ /ウ②エ③ 67-153-ア②イ①ウ②エ②67-154-ア②イ②/ エ①67-155-ウ①67-156-ア①②間ウ②エ② 68-153-ア①イ①ウ②エ①68-154-ア①イ① 69-153-ウ①エ②69-154-イ②69-155-ウ②エ ②69-156-ア②イ② 70-153-ア②イ①ウ①エ①70-154-イ②70- 155-ア②ウ②エ②70-156-ア②③イ②ウ②	103.2 上	18b・18.2 間								
126	66-155-イ①より上ウ②エ②③間66-156-ア④ ⑤間 67-152-ア①ウ①67-155-ア①ウ②③エ①67- 156-ア②イ② 68-152-ウ①エ①68-153-ア②⑥68-155-ア①イ① ①ウ①エ①68-156-ア② 69-152-ウ①エ③69-155-ア① 70-152-ウ③	103.2 上	18b・18.2 間								

IV 遺構

表IV-1 続き

生活面	発掘区・取上面	層面 (67 線上)	層面 (69 線上)	H11 対応層	生活面	発掘区・取上面	層面 (67 線上)	層面 (69 線上)	H11 対応層
145	64-152-ウ① 65-152-ウ②工② 66-152-イ⑤ウ②ウ③ 67-152-ウ⑥工③ 68-152-イ⑥ 69-152-ア④ウ④ 70-152-ア③ウ②工④	102.1・103 間	21.7	II-2-上	161	66-155-イ④ 67-155-ア③イ⑤ 68-155-ア③イ④	-	23.1・24.1 間	II-2-上
	162				65-154-ウ②⑥65-155-イ①②間 66-154-ア②上ウ④工③66-155-イ⑤ 68-154-ウ⑦68-155-イ④下 69-154-ウ⑥ 70-154-エ⑤	105.2・ 106.1 間			
146	67-152-ウ⑦工④ 68-152-ウ④⑤ 69-152-エ⑧ 70-152-ウ⑧	102.1・103 間	21.9	II-2-上	163	66-154-ウ④⑤間66-155-イ⑥	105.2・ 106.1 間	-	II-2-上
	164				65-153-ウ①②間下/65-154-イ②ウ③65-155-ア① 66-153-ウ②③間下/工①66-154-ア②イ③ウ④ 66-155-イ⑦ 67-153-ア③67-154-ア④下/ウ④工④⑤間下 67-155-ア③イ④ 68-155-ア③ 69-155-ア⑦ 70-153-エ④70-155-イ⑤	106.1	24.1・25.1 間	II-2-上	
147	65-153-イ②ウ①65-154-イ① 66-153-イ⑤ 67-153-イ③ 68-153-ア③イ② 69-153-ア③イ③69-154-イ④ 70-153-イ④ウ③70-154-ア③イ⑤	103.2 上	21.10・ 21.11 間	II-2-上	148	70-153-イ⑤70-154-ア③イ⑤	-	21.11・ 22.1 間	II-2-上
	149				66-154-ウ①66-155-ア②イ①ウ③ 67-155-ア③イ①②ウ④工②③ 68-155-エ④ 69-155-エ④	103.2 上	21.4 上	II-2-上	
148	66-154-ウ②工①②間66-155-ア①上イ② 67-154-ウ③工②67-155-イ③ 68-154-ウ③工①68-155-ア②イ②ウ⑦ 69-154-ウ①工②69-155-ア②イ②ウ④ 70-155-ア③イ①ウ③70-156-イ③	103.2 上	21.4 上	II-2-上	165	66-154-ア③ 67-153-ウ③工③67-154-イ④ 68-154-ウ⑧ 69-154-イ⑤ウ⑦工⑦ 70-153-エ⑥70-154-ア⑤ウ⑤	106.1・ 107b 間	24.1・25.1 間	II-2-上
	166				66-153-ウ③66-154-イ④直上 67-153-エ③上67-154-ア⑤上ウ⑤ 68-153-ウ④68-154-ア④イ⑤ウ③工④⑦ 69-154-ア⑥工⑧69-155-イ⑦ 70-154-エ⑦70-155-ア⑥イ④	106.1・ 107b 間	25.1・26b 間	II-2-上	
149	66-155-ウ④ 67-154-ウ④67-155-ア②イ③④間工④ 68-154-ウ④工②68-155-ア③ 69-154-ウ②工③69-155-ウ⑤ 70-154-ウ②工②70-155-ア④	103.2 上	22.2 上	II-2-上	167	65-154-イ③ウ④ 66-153-ウ③工①②間66-154-ア④イ④ウ⑦ ⑧工④66-155-ア② 67-153-ウ⑥工④下67-154-ア⑤下/イ⑤ウ⑥工⑥ 68-153-ウ④下68-154-イ⑦68-155-ア①イ⑤ 69-153-エ⑥69-154-ア⑦イ⑤ウ⑥工⑥ 70-154-ウ⑥工⑦	107b	26b	II-2-上
	168				66-155-ウ⑤ 67-154-ウ⑤67-155-ア④ウ⑥工⑥ 68-154-エ③ 69-154-ア④ウ③69-155-ウ⑥	103.2 上	22.2 上	II-2-上	
150	66-154-ウ②工①②間66-155-ア①上イ② 67-154-ウ③工②67-155-イ③ 68-154-ウ③工①68-155-ア②イ②ウ⑦ 69-154-ウ①工②69-155-ア②イ②ウ④ 70-155-ア③イ①ウ③70-156-イ③	103.2 上	21.4 上	II-2-上	169	65-153-ウ②工①②65-154-ア①イ④ 67-154-ア③イ⑥工⑦ 68-153-ウ⑤68-154-ア⑤⑥工⑤⑧ 69-154-ア③イ⑦ 70-154-エ⑤	108.1・ 108.2 間	27.1・28.1 間	II-2-上
	170				69-154-イ⑥ウ⑧ 70-154-ア⑥⑦⑧イ⑦⑧ウ⑦工⑧⑩	-	28.1・28.2 間	II-2-上	
151	66-155-ウ④ 67-154-ウ④67-155-ア②イ③④間工④ 68-154-ウ④工②68-155-ア③ 69-154-ウ②工③69-155-ウ⑤ 70-154-ウ②工②70-155-ア④	103.2 上	22.2 上	II-2-上	171	68-154-イ⑧ウ⑩ 69-153-ウ④69-154-ア③イ③ウ③69-155-イ⑧⑨ウ⑧ 70-153-エ⑥70-154-ア③イ③ウ③⑩⑪	-	29b・29.2 間	II-2-上
	172				67-154-ウ⑦工⑤	-	29.2・30.1 間	II-2-上	
152	66-155-ウ⑤ 67-154-ウ⑤67-155-ア④ウ⑥工⑥ 68-154-エ③ 69-154-ア④ウ③69-155-ウ⑥	103.2 上	22.2 上	II-2-上	173	65-154-イ⑤ウ⑥ 66-154-ア⑤イ⑥ウ⑥工⑥ 67-154-イ⑦ウ⑧ 68-154-ウ②工② 69-154-ウ⑩	108.1・ 108.2 間	29.3・30.1 間	II-2-上
	174				65-154-エ①②③ 66-154-ウ④工④⑤ 67-154-ア⑦より下/ウ④工④67-155-イ④ 68-154-ウ⑥工⑥ 69-154-ウ⑧ 70-154-エ⑩	110.1・ 111.1 間	30.1・30.2 間	II-2-上	
153	65-154-ウ①②間上/65-155-イ①より上1 66-154-ウ③工②66-155-ウ⑥ 67-154-ウ⑧67-155-ア④ウ⑧ 68-155-ア④工⑤ 69-155-エ⑥⑦ 70-154-ウ③工③70-155-ア④イ②ウ④工⑤ 70-156-ア⑥イ⑥	103.2 上	22.2 上	II-2-上	175	65-155-イ② 66-154-ウ⑥工⑥ 67-155-ア⑩⑪ 70-155-ア⑦⑧イ⑥	111.1・ 115.1 間	30.2・31b 間	II-2-上
	176				65-155-ウ① 67-155-ア③④ウ⑦工⑧ 68-155-エ⑦	116b 上	32.1・35b 間	II-2-上	
154	65-154-ウ①②間下/65-155-イ①より上2 66-154-エ②③66-155-ア⑦イ③ウ⑦ 67-155-イ④⑤ 68-155-ア⑤イ③ 69-154-ウ⑥工④69-155-ア③イ③④ウ⑦工⑦ 70-155-エ⑧	104.5 上	22.2 上	II-2-上	177	65-155-ウ②③ 66-155-エ⑥66-156-ア⑦イ⑦ 67-155-ウ⑥⑧⑩⑪工⑦⑨ 68-155-エ⑧⑨ 69-155-ウ⑥⑩ 70-155-ウ⑦	117b・ 117.1 間	32.1・35b 間	II-2-上
	178				70-156-ア⑥⑦間中/工②	-	34.2・36.1 間	II-2-上	
155	65-155-イ① 67-155-ア⑦イ⑩ 68-155-ア⑧ウ③工⑧ 69-155-ア④⑤ウ⑧ 70-155-ア⑤イ③④ウ⑤⑥工⑦⑧70-156-ア⑥⑦ ⑦間上	104.5 上	22.2 上	II-2-上	179	70-156-ア⑥⑦間下/イ⑥⑦間ウ⑥工②③間	-	34.2・36.1 間	II-2-上
	180				66-156-イ⑧ウ⑧ 67-156-ア④⑤間イ③④間 68-156-ウ④ 69-156-ウ⑤⑥工⑤⑥ 70-156-工③	117b・ 117.1 間	34.2・36.1 間	II-2-上	
156	67-155-ア⑧イ⑦⑧ 68-155-ア⑦⑧ 69-155-ア⑧イ⑥	104.5 上	22.2 上	II-2-上	180	65-153-ア②イ④ 66-152-エ④66-153-ア③イ⑦ 67-153-ア④⑤イ⑤ 68-153-ア⑦イ④ 69-153-イ④⑤ 70-153-イ⑥	104.2・ 104.3 間	22.8・23.2 間	II-2-上
	181				65-153-ウ①②間上/工① 66-153-ウ②③間上/工①より上2/66-154-ア①② 間イ②ウ③④間/工②③間66-155-イ③④間 67-153-エ②③間/67-154-ア④上イ③④間工④ ⑤間/67-155-ア⑦ 68-153-ア⑧イ⑤ウ③④間/工③④68-154-ア③④ 間イ⑤ウ⑥工④⑤68-155-イ④ 69-153-エ④69-154-ア⑤ウ⑤工⑤69-155- イ⑤ 70-154-イ⑥⑦間/ウ④工④	105.1	23.1・24.1 間	II-2-上	
157	68-153-ア⑥	-	22.3・22.5 間	II-2-上	182	66-156-イ⑧⑨ウ⑧ 67-156-ア④⑤間イ③④間 68-156-ウ④ 69-156-ウ⑤⑥工⑤⑥ 70-156-工③	117b・ 117.1 間	34.2・36.1 間	II-2-上
	68-153-ア⑥	-	22.3・22.5 間	II-2-上	183	66-156-イ⑧⑨ウ⑧ 67-156-ア④⑤間イ③④間 68-156-ウ④ 69-156-ウ⑤⑥工⑤⑥ 70-156-工③	117b・ 117.1 間	34.2・36.1 間	II-2-上
158	65-153-ア②イ④ 66-152-エ④66-153-ア③イ⑦ 67-153-ア④⑤イ⑤ 68-153-ア⑦イ④ 69-153-イ④⑤ 70-153-イ⑥	104.2・ 104.3 間	22.8・23.2 間	II-2-上	184	66-156-イ⑧⑨ウ⑧ 67-156-ア④⑤間イ③④間 68-156-ウ④ 69-156-ウ⑤⑥工⑤⑥ 70-156-工③	117b・ 117.1 間	34.2・36.1 間	II-2-上
	185				65-153-ウ①②間上/工① 66-153-ウ②③間上/工①より上2/66-154-ア①② 間イ②ウ③④間/工②③間66-155-イ③④間 67-153-エ②③間/67-154-ア④上イ③④間工④ ⑤間/67-155-ア⑦ 68-153-ア⑧イ⑤ウ③④間/工③④68-154-ア③④ 間イ⑤ウ⑥工④⑤68-155-イ④ 69-153-エ④69-154-ア⑤ウ⑤工⑤69-155- イ⑤ 70-154-イ⑥⑦間/ウ④工④	105.1	23.1・24.1 間	II-2-上	



IV 遺構

表IV-1 続き

生活面	発掘区・取上面	層面 (67線以上)	層面 (69線以上)	H11 対応層	生活面	発掘区・取上面	層面 (67線以上)	層面 (69線以上)	H11 対応層
218	65-158-イ⑦/65-157-ウ⑤ 66-158-イ⑥ 67-156-ア④イ⑤ウ⑥/67-158-ア④イ⑤⑥ 68-156-ア④イ⑤ウ⑥/68-157-ア④イ⑤⑥間/工⑦ 68-158-ア④イ⑤ 69-157-ウ⑥/工⑦/69-158-ア④イ⑤⑥間 70-158-イ⑥	122b・126b 間	43b・45b 間	II-2-中5	234	65-156-ウ⑥/65-157-ア④イ⑤⑦ 66-156-イ⑥ウ⑦/工⑧/66-157-ア④イ⑤⑦ 67-156-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧/67-157-ア④イ⑤⑦ ⑨間 68-156-ウ⑥/工⑧/68-157-ア④イ⑤ウ⑥/工⑨ 69-156-ウ⑥/工⑧/69-157-ア④イ⑤⑦ 70-156-ウ⑥/工⑧/70-157-ア④イ⑤	137b	61b・63a 間	II-2-中6
219	67-157-イ⑥ウ⑦ 68-156-ウ⑥/68-157-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧ 69-157-ア④イ⑤	126b	45b	II-2-中5	235	64-156-ウ⑦ 65-156-ウ⑦/65-157-イ⑥上/ウ⑦ 66-156-ウ⑥/工⑧/66-157-ア④イ⑤ 67-156-ウ⑥/工⑧/67-157-ア④イ⑤ウ⑥/工⑨ 68-156-ウ⑥/工⑧/68-157-ア④イ⑤ウ⑥ 69-156-ウ⑥/69-157-ア④イ⑤ 70-156-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧/70-157-ア④イ⑤	138b	61b・63a 間	II-2-中6
220	68-156-ウ⑥ 69-156-ウ⑥/69-157-イ⑥ウ⑦/69-158-イ⑥ 70-156-ウ⑥/工⑧/70-157-ウ⑥/工⑨/70-158-ア④イ⑤	-	47.2・68b 間	II-2-中6	236	70-157-ア④イ⑤⑦/工⑧/工⑨	-	61b・63a 間	II-2-中6
221	68-156-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧/68-157-ア④ 69-156-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧ 70-156-ウ⑥/工⑧/70-157-ア④イ⑤上/70-158-ア④	-	47.2・50b 間	II-2-中6	237	65-157-イ⑥中/ウ⑦ 66-156-ウ⑥ 67-156-ウ⑥/工⑧・67-157-ア④イ⑤/工⑨ 68-156-ウ⑥/工⑧/68-157-ア④イ⑤ 69-156-ウ⑥/工⑧/69-157-ア④イ⑤ 70-156-ウ⑥/工⑧	138a・ 141.2 間	61b・63b 間	II-2-中6
222	68-158-ア④ 69-157-ウ⑥ 70-156-工⑧/70-157-ア④イ⑤ウ⑥/工⑨下	-	47.2・68b 間	II-2-中6	238	65-157-イ⑥下/ウ⑦ 66-157-ア④イ⑤ 67-156-ウ⑥/工⑧/67-157-ア④イ⑤ 68-156-ウ⑥/工⑧/68-157-ア④イ⑤ 69-156-ウ⑥/69-157-ア④イ⑤ 70-156-ウ⑥/工⑧	138a・ 141.2 間	61b・63b 間	II-2-中6
223	64-156-イ⑥ 65-156-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧/65-157-ア④イ⑤ ウ⑥/工⑧ 66-156-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧/66-157-ア④イ⑤ ウ⑥/工⑧ 67-156-ウ⑥/工⑧/67-157-ア④ 68-156-ウ⑥/工⑧/68-157-ア④イ⑤ 69-156-ウ⑥/工⑧/69-157-ア④イ⑤ 70-156-ウ⑥/工⑧/70-157-ア④イ⑤ウ⑥/工⑨	130a	47.2・68b 間	II-2-中6	239	66-157-ア④イ⑤ 67-156-ウ⑥/工⑧/67-157-ア④イ⑤ウ⑥ ⑦/工⑧ 68-156-ウ⑥/工⑧/68-157-ア④イ⑤ 69-156-工⑧/69-157-ア④イ⑤ 70-156-ウ⑥/工⑧	138a・ 141.2 間	61b・63b 間	II-2-中6
224	65-156 ア④イ⑤ウ⑥/工⑧/65-157-ア④イ⑤ウ⑦ /工④ 66-156-ア④ 68-156-ウ⑥/工⑧/68-157-ア④イ⑤	130b・ 132.1 間	50b・53b 間	II-2-中6	240	67-157-イ⑥ 68-156-ウ⑥/工⑧/68-157-ア④イ⑤ ⑥ 69-156-ウ⑥/工⑧/69-157-ア④イ⑤	138a・ 141.2 間	63a・67b 間	II-2-中6
225	64-156-イ⑥ 65-156-ア④イ⑤ 66-156-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧/66-157-ア④イ⑤ ウ⑦/工⑧ 67-156-イ⑥ウ⑦/工⑧/67-157-ア④イ⑤ 68-156-イ⑥ウ⑦/工⑧/68-157-ア④イ⑤ 69-156-イ⑥ウ⑦/工⑧/69-157-ア④イ⑤ 70-156-工⑧	130b・ 132.1 間	50b・53b 間	II-2-中6	241	66-157-ウ⑥/工⑧ 67-157-ウ⑥/工⑧ 68-157-イ⑥ 69-157-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧ 70-157-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧⑨	141.2・ 142.1 間	67b・69b 間	II-2-中6
226	64-156-イ⑥ 65-156-ア④⑤間/ウ⑥/工④/65-157-ア④イ⑤ ウ⑥ 66-156-工⑧/66-157-イ⑥ウ⑦/工⑧ 67-156-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧/67-157-ア④イ⑤ 68-156-イ⑥ 69-156-イ⑥ 70-156-ア④イ⑤	132a・134b 間	52b・57b 間	II-2-中6	242	65-156-ウ⑥/65-157-ア④イ⑤/工⑧ 66-156-ウ⑥/工⑧/66-157-ア④イ⑤ /工⑧ 67-157-ア④イ⑤	141.2・ 142.1 間	-	II-2-中6
227	67-156-イ⑥ 68-156-ア④イ⑤ 69-156-イ⑥ 70-156-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧/70-157-ア④イ⑤	132a・134b 間	52b・57b 間	II-2-中6	243	66-157-ウ⑥/工⑧ 67-157-ア④イ⑤	141.2・ 142.1 間	-	II-2-中6
228	65-156-ウ⑥/工⑧/65-157-ア④イ⑤ウ⑥/工⑨ 66-156-工⑧	132b・134b 間	52b・57b 間	II-2-中6	244	66-157-工⑧/66-158-ア④イ⑤	143.1・ 143.3 間	-	II-2-下
229	68-156-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧ 69-156-イ⑥ 70-156-イ⑥	-	52b・57b 間	II-2-中6	245	65-158-ア④② 66-158-ア④② 69-158-ア④	143.1・ 143.3 間	68b・70a 間	II-2-下
230	64-156-イ⑥ 65-156-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧ 66-156-ア④イ⑤ 67-156-ウ⑥/工⑧ 68-156-ウ⑥/工⑧/68-157-ア④イ⑤ 69-156-ウ⑥/工⑧/69-157-ア④イ⑤ 70-156-工⑧/70-157-ア④イ⑤	132b・134b 間	52b・57b 間	II-2-中6					
231	65-156-イ⑥ 66-156-ア④ 67-156-工⑧/67-157-イ⑥	132b・134b 間	52b・57b 間	II-2-中6					
232	70-156-ウ⑥/工⑧/70-157-ア④イ⑤	-	55a・58a 間	II-2-中6					
233	65-156-ウ⑥/工⑧/65-157-イ⑥ウ⑦/工⑨ 66-156-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧/66-157-ア④イ⑤ ウ⑥/工⑧ 67-156-工⑧/67-157-ア④	135b	-	II-2-中6					
234	65-156-ウ⑥/65-157-ア④イ⑤⑦ 66-156-イ⑥ウ⑦/工⑧/66-157-ア④イ⑤⑦ 67-156-ア④イ⑤ウ⑥/工⑧/67-157-ア④イ⑤ ⑨間 68-156-ウ⑥/工⑧/68-157-ア④イ⑤ウ⑥/工⑨ 69-156-ウ⑥/工⑧/69-157-ア④イ⑤⑦ 70-156-ウ⑥/工⑧/70-157-ア④イ⑤	137b	61b・63a 間	II-2-中6					

表IV-2 遺構一覧

土坑							
図番号	遺構名	位置	上端(長さ×幅)/下端(長さ×幅)/深さ m	長軸方向	形状	図版番号	備考
図IV-2	P-1	70-158-ウ	0.34×0.32/0.22×0.24/0.14		ほぼ円形	図版IV-1	
図IV-2	P-3	67-158-イ/ウ	(0.46)×(0.32)/(0.40)×(0.36)/(0.18)	N-8° -W	楕円形		
図IV-2	P-4	65-158-ウ/66-158-エ	-x/-x-/ (0.17)		不明		
図IV-2	P-5	66-158-ウ	0.38×0.26/0.24×0.18/0.17	N-27° -E	楕円形		
図IV-2	P-6	65-158-ウ/66-158-エ	0.66× (0.66) /0.46×0.50/0.12		ほぼ円形		
図IV-2	P-7	67-158-ウ	0.40×0.38/0.30×0.32/0.06		ほぼ円形		
図IV-2	P-8	67-158-ウ	0.28×0.26/0.16×0.16/0.04		ほぼ円形		
図IV-2	P-26	70-157-ウ	0.24× (0.12) /0.17× (0.10) /0.06		円形?	図版IV-1	F-281を切る
図IV-2	P-27	69-156-ウ/エ/69-157-ア/イ	(0.56) ×0.46/ (0.48) ×0.34/0.13	不明	楕円形		F-295を切る
図IV-2	P-28	70-158-ア	0.26×0.26/0.16×0.14/0.07		ほぼ円形	図版IV-1	
図IV-2	P-29	67-154-ウ	0.46×0.36/0.31×0.24/0.14	N-9° -E	楕円形		
図IV-3	P-30	69-156-エ	0.76×0.70/0.44×0.42/0.46		ほぼ円形	図版IV-1	F-379・617を切る/P-78に切られる
図IV-3	P-31	69-156-ア/エ	0.66×0.58/0.54×-0.12		ほぼ円形		F-379を切る
図IV-3	P-32	69-156-イ/ウ	0.82×0.72/0.62×0.58/0.25		ほぼ円形		F-617・632を切る
図IV-3	P-33	69-156-ウ	0.92×0.80/0.68×0.54/0.35	N-5° -W	楕円形		F-379・617を切る
図IV-3	P-34	66-156-エ/66-157-ア	0.70×0.70/0.50×0.44/0.26		円形	図版IV-2	F-375を切る
図IV-3	P-35	68-158-ア	0.40× (0.38) /0.28×0.24/0.15		ほぼ円形	図版IV-1	F-384を切る
図IV-3	P-36	69-157-イ	0.70×0.56/0.36×0.34/0.21	N-87° -W	楕円形		
図IV-4	P-37	67-156-ウ/68-156-エ	0.30×0.22/0.16×0.16/0.15		不整形円形?	図版IV-1	
図IV-4	P-38	68-156-エ	0.74× (0.40) /0.44× (0.34) /0.30		不明	図版IV-2	P-50に切られる/P-448を切る
図IV-4	P-39	68-156-エ	0.85×0.79/0.36×0.42/0.40		ほぼ円形	図版IV-2	
図IV-4	P-40	68-156-エ	0.68×0.64/0.35×0.24/0.35		ほぼ円形	図版IV-2	F-513・538を切る
図IV-4	P-41	66-155-エ	0.72×0.70/0.38×0.42/0.30		ほぼ円形	図版IV-2	F-699の炭化物を切る
図IV-4	P-42	65-155-ウ	0.92×0.88/0.58×0.48/0.34		ほぼ円形	図版IV-2	F-699の炭化物を切る
図IV-5	P-43	66-156-エ	0.68×0.60/0.40×0.42/0.06		ほぼ円形		
図IV-6	P-44	65-156-ウ	1.12×0.99/0.78×0.74/0.36		円形		
図IV-5	P-45	65-158-イ	0.80×0.80/0.62×0.62/0.23		円形		
図IV-5	P-46	66-158-ア	0.94×0.85/0.52×0.48/0.50		円形		
図IV-6	P-47	65-156-イ/ウ	0.92× (0.79) /0.52×0.50/0.64		円形?		F-352を切る
図IV-5	P-48	66-158-ア/イ	0.96×0.92/0.56×0.60/0.72		円形?	図版IV-3	
図IV-6	P-49	67-158-イ	0.74× (0.60) /0.44×0.40/0.50		ほぼ円形	図版IV-3	F-490を切る
図IV-4	P-50	68-156-ア/エ	0.90× (0.78) /0.52×0.49/0.49		不明		F-448を切る/P-38を切る
図IV-6	P-51	67-153-ウ	0.58×0.54/0.38×0.36/0.16		ほぼ円形		
図IV-6	P-52	68-157-エ	0.40×0.40/0.24×0.24/0.08		円形		
図IV-6	P-53	68-157-ウ/エ/68-158-ア/イ	(0.48) × (0.46) /0.32×0.28/ (0.22)	N-26° -E	楕円形?		
図IV-6	P-54	69-154-ウ/70-154-エ	0.59×0.50/0.42×0.32/0.33	N-42° -E	楕円形		
図IV-6	P-55	69-158-ア	0.52×0.48/0.34×0.28/0.06		ほぼ円形		
図IV-6	P-56	67-157-エ	0.34×0.28/0.24×0.12/0.10	N-57° -W	楕円形	図版IV-3	
図IV-6	P-57	67-157-ウ/67-158-イ	0.72×0.46/0.44×0.32/0.28	N-21° -E	長楕円形		
図IV-6	P-58	69-154-ウ	-x/-x-/ (0.17)		不明		
図IV-6	P-59	70-157-ウ/70-158-イ	0.44×0.42/0.30×0.26/0.09		ほぼ円形		
図IV-7	P-60	69-158-イ	0.43×0.42/0.20×0.20/0.23		ほぼ円形		
図IV-7	P-61	69-158-イ	0.31×0.29/0.18×0.18/0.09		ほぼ円形		
図IV-7	P-62	67-157-イ	0.44× (0.37) /0.26×0.24/0.22	N-36° -E	楕円形		F-477・488を切る/P-65に切られる
図IV-7	P-63	67-157-イ/67-158-ア	0.65×0.54/0.55×0.42/0.40	N-42° -W	楕円形	図版IV-3	
図IV-7	P-64	68-157-ア/エ	0.62×0.52/0.25×0.22/0.66		円形?		
図IV-7	P-65	67-157-ア/イ	0.34×0.26/0.22×0.16/0.09		円形		P-62・F-488を切る
図IV-7	P-66	67-158-イ/68-158-ア	0.52×0.40/0.40×0.26/0.29	N-26° -W	楕円形		
図IV-7	P-67	67-158-イ	0.72×0.64/0.55×0.48/0.29	N-29° -W	楕円形	図版IV-3	
図IV-7	P-68	69-157-ウ	0.26×0.18/0.20×0.14/0.05	N-66° -E	楕円形		F-462を切る
図IV-7	P-69	67-156-エ/67-157-ア	0.50×0.50/0.36×0.34/0.16		円形		
図IV-8	P-70	69-157-ア	0.44×0.40/0.32×0.30/0.15		ほぼ円形		
図IV-8	P-71	67-158-イ/68-158-ア	0.81×0.64/0.52×0.35/0.24	N-24° -W	長楕円形	図版IV-3	
図IV-8	P-72	68-157-エ	0.32×0.32/0.28×0.24/0.04		ほぼ円形		
図IV-8	P-73	69-158-イ	0.38×0.36/0.24×0.22/0.07		ほぼ円形		
図IV-8	P-74	69-157-ウ/69-158-イ	0.50×0.44/ (0.32) × (0.18) /0.10		ほぼ円形		
図IV-8	P-75	67-158-イ	0.62×0.44/0.55×0.38/0.27	N-28° -W	楕円形		
図IV-8	P-76	69-153-エ/69-154-ア⑧	0.60× (0.44) /0.48× (0.41) /0.22		円形		
図IV-8	P-77	69-157-イ	0.81×0.58/0.42×0.40/0.17	N-45° -E	不整形楕円形		F-516・526を切る
図IV-3	P-78	69-156-エ	0.66×0.58/0.42×0.44/0.46	N-72° -E	楕円形		P-30・F-379を切る
図IV-8	P-79	66-157-ウ/67-157-エ	(0.56) × (0.28) / (0.30) × (0.16) / (0.18)		不明		F-420を切る
図IV-9	P-80	67-157-ア/イ/ウ	1.24×1.00/0.70×0.58/0.56	N-10° -E	楕円形		
図IV-9	P-81	67-157-ア	0.82×0.66/0.48×0.40/0.54	N-20° -E	楕円形		付近に細円環集中
図IV-8	P-82	68-156-エ/68-157-ア	0.68×0.66/0.40×0.38/0.34		円形		F-545・546を切る
図IV-8	P-83	69-157-ア/イ	0.47×0.44/0.36×0.30/0.31		ほぼ円形		
図IV-9	P-84	66-156-エ	0.64×0.56/0.28×0.30/0.34		ほぼ円形		
図IV-10	P-85	65-156-ウ/エ	1.42×0.94/0.41×0.38/0.38		不整形		
図IV-10	P-86	65-156-ウ	0.84×0.62/0.44×0.40/0.28	N-29° -E	楕円形		
図IV-9	P-87	70-156-エ	1.04×0.66/0.94×0.56/0.07	N-16° -W	楕円形		
図IV-9	P-88	70-156-イ/ウ	0.76× (0.68) /0.50×0.46/0.29	N-10° -W	楕円形		F-576・608を切る
図IV-9	P-89	70-156-ウ	0.54×0.48/0.32×0.34/0.23		ほぼ円形		F-607を切る
図IV-6	P-90	68-157-ウ/エ	-x (0.36) /-x (0.22) / (0.14)		不明		
図IV-10	P-91	67-156-ウ	0.70×0.65/0.48×0.44/0.32		円形		
図IV-10	P-92	68-158-イ	0.29×0.26/0.22×0.22/0.07		ほぼ円形		F-615を切る

IV 遺構

表 IV-2 続き

図番号	遺構名	位置	上端(長さ×幅)/下端(長さ×幅)/深さ m	長軸方向	形状	図版番号	備考
図 IV-10	P-93	66-156-ウ/67-156-エ	(0.76) × (0.70) / 0.48×0.34/0.16		不明		F-449 を切る
図 IV-10	P-94	69-156-ウ	0.64×0.54/0.46×0.44/0.21		ほぼ円形		F-629 を切る
図 IV-11	P-95	67-156-ウ	1.10×1.06/0.56×0.46/0.52		円形?		
図 IV-11	P-96	66-158-イ	0.46×0.36/0.28×0.24/0.23	N-39° -E	楕円形		
図 IV-11	P-97	66-158-イ	0.62×0.46/0.32×0.25/0.20	N-23° -E	楕円形	図版 IV-4	
図 IV-11	P-98	66-158-イ	0.58×0.48/0.32×0.28/0.18	N-3° -E	楕円形		
図 IV-12	P-99	66-156-ア	0.76×0.60/0.34×0.34/0.52	N-61° -E	楕円形		
図 IV-11	P-100	68-153-ア	0.34×0.20/0.34×0.16/0.17		円形		
図 IV-12	P-101	66-156-ア	0.56×0.45/0.30×0.30/0.20	N-43° -E	楕円形		
図 IV-12	P-102	66-156-ア	0.86×0.86/0.56×0.52/0.48		円形		
図 IV-11	P-103	68-156-ア	0.54×0.36/0.44×0.28/0.25	N-81° -W	楕円形		
図 IV-12	P-104	68-156-アイ/ウ/エ	1.02×0.88/0.52×0.40/0.46	N-38° -W	楕円形	図版 IV-4	F-448 を切る
図 IV-11	P-105	68-156-ア	0.54×0.46/0.34×0.26/0.15	N-15° -W	長楕円形		
図 IV-12	P-106	68-156-ウ/エ	-×0.72--×0.40/0.42	N-42° -E	楕円形		F-448・538・545 を切る
図 IV-11	P-107	67-156-ア	0.84×0.64/ (0.50) × (0.38) /0.38		円形?		
図 IV-12	P-108	66-157-イ	0.72×0.68/0.36×0.34/0.32		円形		
図 IV-12	P-109	69-156-ウ	0.30×0.18/0.30×0.18/0.09		円形		
図 IV-12	P-110	68-154-ア	0.26×0.16/0.26×0.14/0.05		円形		
図 IV-12	P-111	68-157-イ/ウ	0.40×0.40/0.25×0.25/0.05		円形		
図 IV-13	P-112	66-156-ウ	0.98×0.94/0.52×0.56/0.44		不整形		
図 IV-12	P-113	68-156-イ/ウ	-×-/-×-/- (0.40)	不明	楕円形?		
図 IV-12	P-114	68-156-ウ/68-157-イ	0.50×0.46/0.34×0.32/0.25		ほぼ円形		F-712 を切る
図 IV-13	P-115	66-156-イ/ウ	0.82×0.82/0.54×0.36/0.64		楕円形?		F-709 を切る
図 IV-13	P-116	66-158-イ	0.38×0.38/0.32×0.27/0.12		円形		
図 IV-13	P-117	68-156-イ	0.48×-0.28×-0.39		ほぼ円形?		
図 IV-13	P-118	68-156-ウ	0.45×0.42/-×-0.08		ほぼ円形	図版 IV-4	
図 IV-13	P-119	66-155-ウ	0.36×0.36/0.28×0.24/0.05		円形		
図 IV-13	P-120	66-156-イ	1.28×1.10/0.92×0.72/0.48	N-21° -E	楕円形		
図 IV-14	P-121	66-155-ウ/66-156-イ⑩	0.60× (0.41) /0.34× (0.25) /0.30		不明		
図 IV-14	P-122	66-156-イ	0.92×0.82/0.54×0.44/0.46	N-20° -E	楕円形		
図 IV-14	P-123	65-156-イ⑧/ウ⑨直下	0.94×0.87/0.56×0.46/0.40		ほぼ円形	図版 IV-4	F-744 を切る
図 IV-14	P-124	66-157-ウ⑥/67-167-エ	(0.34) × (0.28) /0.22×0.19/0.06		ほぼ円形		
図 IV-14	P-125	66-156-ウ⑩	0.76×0.66/0.44×0.42/0.24		ほぼ円形		P-112 に切られる
図 IV-14	P-126	66-156-イ⑧直下	0.86× (0.82) /0.30×0.54/0.30		円形		P-120 に切られる
図 IV-14	P-127	66-157-イ⑨	0.46×0.42/0.26×0.24/0.30		ほぼ円形		F-791 を切る/F-812 の炭化物を切る
図 IV-14	P-128	70-156-ウ⑦/71-156-エ	0.74×0.54/0.40×0.32/0.28	N-4° -E	楕円形		
図 IV-15	P-129	70-158-ウ⑫	0.56×0.54/0.32×0.26/0.2		不整形		F-858 を切る
図 IV-15	P-130	68-156-ウ⑤/68-157-イ⑬	0.52×0.46/0.42×0.40/0.16		ほぼ円形		F-852 の炭化物を切る
図 IV-15	P-131	66-157-イ⑭	0.60×0.56/0.30×0.28/0.28		円形		
図 IV-15	P-132	65-157-イ⑩/66-157-ア⑮	0.51×0.49/0.32×0.20/0.18		ほぼ円形		
図 IV-15	P-133	70-157-ア⑯	0.86×0.75/0.36×0.34/0.35		不整形		
図 IV-15	P-134	70-157-イ⑭少し下	0.32×0.31/0.26×0.08/0.08	N-47° -E	楕円形		
図 IV-15	P-135	68-157-イ⑮	0.71× (0.64) /0.46×0.44/0.34		円形		F-923 を切る/イ⑮の炭化物を切る
図 IV-14	P-136	65-156-ア①/エ	(0.40) × (0.38) /0.25×0.18/0.14		円形?		
図 IV-16	P-137	67-157-ア⑰	0.62× (0.52) /0.32×0.22/0.22		円形?		
図 IV-17	P-138	66-148-イ⑱/ウ⑲	1.70×1.50/1.08×1.06/0.62		ほぼ円形	図版 II-6	
図 IV-17	P-139	66-148-ア⑱/エ	(1.50) × (1.26) /0.90×0.92/0.54	N-14° -W	楕円形	図版 II-6	
図 IV-17	P-140	65-148-イ⑲/ウ⑲/66-148-ア	1.08×-0.68×0.68/0.40		ほぼ円形	図版 II-6	
図 IV-17	P-141	65-148-ア⑲/イ/ウ/エ⑲	1.08×0.90/0.78×0.60/0.20	N-1° -E	楕円形		P-150 に切られる
図 IV-16	P-142	67-156-イ⑲	0.57×0.46/0.40×0.32/0.12	N-11° -E	楕円形		
図 IV-16	P-143	69-156-ウ⑳/69-157-イ㉑	0.49×0.42/0.32×0.31/0.20		円形		
図 IV-16	P-144	69-156-エ㉒	0.25×0.22/0.21×0.20/0.16		円形		F-935 を切る
図 IV-16	P-145	69-157-イ㉓	0.44×0.40/0.29×0.29/0.16		円形		
図 IV-16	P-146	69-156-エ㉔	0.28×0.25/0.16×0.14/0.08		ほぼ円形	図版 IV-4	
図 IV-16	P-147	69-156-ウ㉕/エ㉕/69-157-ア㉖/イ㉖	0.62×0.60/0.35×0.35/0.33		ほぼ円形		
図 IV-16	P-148	69-157-イ㉗	0.44×0.40/0.24×0.26/0.20		ほぼ円形		
図 IV-16	P-149	69-156-ウ㉘	0.46×0.41/0.28×0.23/0.18		ほぼ円形		
図 IV-17	P-150	65-148-ア⑲/エ⑲	-×-/-×-/-0.13		不明		P-141 を切る
図 IV-17	P-151	66-148-イ⑲/67-148-ア	-×-/-×-/- (-)		不明		67-148-ア未調査
図 IV-16	P-152	68-156-イ㉙	0.34×0.32/ (0.20) × (0.20) / (0.12)		ほぼ円形	図版 IV-4	

焼土

図番号	遺構名	生活面	位置	分類	現地確認内容物	70-デーション	備考
図 IV-29	F-12	125	70-153-ウ①/70-154-イ②	現地		○	
図 IV-37	F-23	153	70-155-ウ④/70-156-イ⑤	現地		○	
図 IV-27	F-27	126	70-152-ウ③/71-152-エ	現地	×		小ビット1基
図 IV-33	F-31	201	70-156-イ⑦下/ウ⑧	現地		◎	
図 IV-25	F-34	113	69-150-ア/エ	現地		◎	
図 IV-25	F-35	112	69-150-エ①かなり上	廃棄		◎	
図 IV-30	F-39	132	67-158-ウ	廃棄		○	
図 IV-26	F-40	114	69-150-エ	廃棄	×		
図 IV-30	F-41	194	69-158-イ⑩/ウ⑩/70-158-ア⑪/エ	現地	骨片	◎	
図 IV-30	F-42	132	66-158-ウ/エ	現地	骨片	○	
図 IV-30	F-43	132	66-158-エ	廃棄		○	赤彩土器片
図 IV-34	F-44	135	66-158-ウ	現地	骨片・クルミ	◎	



表 IV-2 続き

図番号	遺構名	生活面	位置	分類	現地確認内容物	フロテーション	備考
図 IV-30	F-45	132	66-158-エ	廃棄		○	
図 IV-36	F-46	213	69-158-ア㊸エ	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-47	194	69-158-イ㊸ウ	現地	骨片・ベンガラ	●	
図 IV-29	F-48	189	69-158-イ㊸ウ	現地		●	
図 IV-30	F-50	132	67-158-ウ	現地	骨片・クルミ	○	14C 年代測定 (H11)
図 IV-31	F-51	195	70-158-エ	現地	骨片	●	
図 IV-29	F-52	189	69-158-ウ/70-158-エ	現地	骨片	○	
図 IV-31	F-53	195	70-158-エ	現地	骨片	○	
図 IV-30	F-54	194	69-158-ア㊸エ	現地	骨片	●	
図 IV-28	F-55	189	68-158-ウ	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-57	132	66-158-ア㊸エ㊸より上	現地	骨片	●	
図 IV-28	F-58	189	67-158-ウ/68-158-エ	現地	骨片・炭化クルミ	●	14C 年代測定 (H11)
図 IV-31	F-59	195	70-158-ウ	現地	骨片	x	
図 IV-30	F-60	193	66-158-ウ/67-158-エ	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-61	193	65-158-ウ	廃棄		x	
図 IV-30	F-62	193	65-158-ウ/66-158-エ	現地	魚骨片	●	
図 IV-28	F-63	189	66-158-ウ/エ	現地	魚骨片	●	
図 IV-36	F-68	213	69-158-ウ/エ	廃棄		●	
図 IV-30	F-69	193	65-158-ウ	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-70	193	66-158-エ	現地	炭化クルミ	●	
図 IV-30	F-72	193	66-158-エ	現地	骨片	●	
図 IV-28	F-73	189	66-158-ウ	廃棄		○	
図 IV-30	F-74	194	66-158-ア㊸イ㊸ウ	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-75	194	67-158-ウ	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-76	194	68-158-エ	現地	骨片	●	
図 IV-35	F-77	211	68-158-エ	現地	骨片	●	
図 IV-31	F-78	195	69-158-イ㊸ウ	現地	骨片・炭化クルミ	●	
図 IV-31	F-79	195	69-158-ウ	現地		○	
図 IV-36	F-80	213	69-158-イ㊸ウ	現地	骨片	●	小ビット1基
図 IV-30	F-81	194	68-158-ウ/エ	現地	骨片	x	
図 IV-30	F-82	193	66-158-ア㊸イ㊸ウ/エ	現地		●	
図 IV-28	F-83	189	65-158-ウ	現地	骨片	●	
図 IV-28	F-84	189	66-158-エ	現地		●	
図 IV-36	F-85	213	68-158-ウ	現地	骨片	●	
図 IV-37	F-86	214	69-158-ウ/70-158-エ	現地	骨片	○	
図 IV-57	F-87	220	70-158-エ	現地	骨片	○	
図 IV-31	F-88	195	67-158-ウ	現地		●	
図 IV-30	F-89	194	65-158-ウ/66-158-エ	現地	魚骨片	●	
図 IV-31	F-90	195	67-158-エ	現地		○	
図 IV-31	F-91	195	67-158-エ	現地	骨片	●	
図 IV-35	F-92	211	66-158-ウ/エ	現地	骨片	●	小ビット1基
図 IV-31	F-93	195	67-158-エ	廃棄	炭化クルミ	●	
図 IV-31	F-94	195	68-158-エ	現地	骨片	●	
図 IV-37	F-95	214	68-158-ウ/エ	現地	骨片	●	
図 IV-37	F-96	214	68-158-ア㊸イ㊸ウ/エ	現地	骨片	●	
図 IV-57	F-97	220	70-158-エ	廃棄	骨片	●	P-2 に切られる
図 IV-36	F-98	213	69-158-ウ	現地		●	
図 IV-37	F-99	214	69-158-ウ	現地	骨片	●	
図 IV-35	F-100	211	68-158-ア㊸エ	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-102	194	65-158-ウ	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-103	194	66-158-ウ	現地		●	
図 IV-35	F-104	211	67-158-エ	現地	炭化クルミ	●	
図 IV-35	F-105	211	67-158-ア㊸エ	現地	骨片・炭化クルミ	●	
図 IV-35	F-106	211	66-158-イ㊸ウ/67-158-ア㊸エ	現地	炭化クルミ	●	P-97 に切られている
図 IV-35	F-107	211	66-158-ウ	現地		●	
図 IV-30	F-108	194	67-158-ウ	現地		●	小ビット2基
図 IV-35	F-109	211	67-158-ウ	現地	骨片	●	
図 IV-35	F-110	211	67-158-エ	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-111	193	66-158-ウ	廃棄		○	
図 IV-30	F-112	194	66-158-ウ	廃棄		x	
図 IV-30	F-113	194	67-158-イ㊸ウ	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-114	194	68-158-イ㊸ウ	現地	骨片	●	
図 IV-22	F-115	211	67-158-ア㊸イ㊸	現地		●	
図 IV-35	F-116	211	67-158-ウ	現地	骨片	●	
図 IV-36	F-117	213	68-158-ウ	現地	骨片	●	
図 IV-35	F-118	211	66-158-ウ/エ/66-159-ア/イ	現地		○	
図 IV-35	F-119	211	68-158-ウ/69-158-エ/69-159-ア	廃棄		○	
図 IV-35	F-120	211	68-158-エ/68-159-ア	現地	骨片・炭化クルミ	●	クマと見られる土製品・14C 年代測定 (H11)
図 IV-35	F-121	211	68-158-ウ/エ	廃棄		●	
図 IV-35	F-122	211	68-158-ウ	現地		●	
図 IV-37	F-123	214	68-158-ア/エ	廃棄		●	
図 IV-35	F-125	211	68-158-ウ	廃棄		●	
図 IV-37	F-126	214	68-158-ウ/エ	現地	骨片	●	
図 IV-37	F-127	214	68-158-ウ/エ	現地	骨片	●	
図 IV-37	F-128	215	68-158-ウ/エ	現地	骨片	●	

IV 遺構

表 IV-2 続き

図番号	遺構名	生活面	位置	分類	現地確認内容物	70-デーション	備考
図 IV-22	F-155	40	65-142-イ①②間/ウ①より上/66-142-ア②/エ①	現地	魚骨片	○	
図 IV-28	F-261	123	70-155-ア①	廃棄		○	
図 IV-28	F-262	123	66-155-ウ①/エ①/66-156-ア②/イ①	現地		○	
図 IV-28	F-263	123	66-158-ア①	現地		○	
図 IV-30	F-264	126	67-155-エ①/67-156-ア②	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-265	126	67-156-イ②/68-155-エ③/68-156-ア②	現地		○	
図 IV-27	F-266	116	66-151-ア①/エ①	現地		○	
図 IV-29	F-267	125	65-157-イ①/かなり上/ウ①より上1	廃棄		○	
図 IV-28	F-268	124	66-156-エ②	現地		○	
図 IV-29	F-269	125	70-155-エ②	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-270	126	68-155-ア①	現地		○	
図 IV-29	F-271	125	66-156-エ③	現地		●	
図 IV-29	F-272	125	66-155-エ②/66-156-ア④/イ③	現地	骨片	●	割片石器
図 IV-30	F-273	128	69-157-ウ②/70-157-エ①	現地		●	
図 IV-30	F-274	126	66-155-エ②③間/66-156-ア④⑤間	現地		○	
図 IV-30	F-275	126	67-155-ウ②/エ①	廃棄		○	
図 IV-29	F-276	125	65-156-イ①/66-156-ア④/エ③	現地		●	
図 IV-30	F-277	130	65-157-ウ①より上2/66-157-ア①/ウ①多少上/エ①多少上/66-158-ア①②間	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-278	128	70-157-ウ①/エ①/70-158-ア②/イ②	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-279	130	65-157-ウ①より上2/66-157-ア①/ウ①多少上/エ①多少上/66-158-ア①②間	現地		○	
図 IV-30	F-280	130	66-158-ア①②間	現地		○	
図 IV-30	F-281	129	70-157-ウ②	現地		●	P-26 に切られる
図 IV-32	F-282	131	67-158-イ②/68-158-ア④	現地		●	
図 IV-31	F-283	128	67-156-ウ③	現地	骨片	●	
図 IV-31	F-284	128	69-155-ウ③	廃棄		○	
図 IV-30	F-285	128	68-158-イ①/69-158-ア③	廃棄		○	
図 IV-30	F-286	128	69-157-ウ②/エ②	現地	骨片	●	
図 IV-25	F-287	113	67-158-イ④	現地		●	
図 IV-30	F-288	130	65-157-ウ①より上2/66-157-ア①/ウ①多少上/エ①多少上/66-158-ア①②間	現地		●	
図 IV-30	F-289	130	65-157-ウ①より上2/66-157-ア①/ウ①多少上/エ①多少上/66-158-ア①②間	現地		●	
図 IV-29	F-290	125	67-156-エ②	現地		○	
図 IV-29	F-291	125	67-156-ア①②間/エ②/66-156-イ③/ウ②	現地		●	
図 IV-32	F-292	130	69-158-イ④/69-157-ウ③/70-158-ア③	現地	骨片	●	
図 IV-31	F-293	128	69-155-イ①/ウ③/エ③	現地		○	
図 IV-31	F-294	128	69-156-エ②	現地		○	
図 IV-31	F-295	128	69-156-ウ②/エ②/69-157-ア②/イ②	現地		●	P-27 に切られる
図 IV-36	F-296	150	67-155-イ③	現地		●	
図 IV-28	F-297	123	69-157-イ①	現地		●	
図 IV-36	F-298	150	67-154-ウ③/エ②/67-155-イ③	現地	骨片	●	
図 IV-36	F-299	150	69-155-ア②/イ②	現地	骨片	●	
図 IV-28	F-300	189	65-157-ウ①/65-158-イ③/66-157-エ③/66-158-ア⑤	現地		●	
図 IV-31	F-301	128	67-156-ア③/エ②③間	現地		○	
図 IV-31	F-302	128	68-156-エ②	現地		○	
図 IV-31	F-303	128	67-156-ウ③/68-156-ア③/エ②	現地	骨片	●	土器片・割片
図 IV-33	F-304	133	67-158-イ⑤/68-158-ア⑤	現地	骨片	●	
図 IV-32	F-305	130	70-157-ウ③/70-158-イ③	現地		○	
図 IV-31	F-306	128	69-155-ウ③/70-155-エ④	廃棄	クルミ	○	
	F-307	欠番					
図 IV-31	F-308	128	69-157-ア②/イ②	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-309	128	69-157-イ②/ウ②	現地		○	
図 IV-35	F-310	142	65-154-イ①/はるか上/ウ①/66-154-ア①/エ①	現地		○	
図 IV-35	F-311	142	65-153-ウ①/かなり上	現地	骨片	●	
図 IV-31	F-312	128	67-156-エ③	廃棄	骨片	x	
図 IV-27	F-313	186	66-157-ア②③間	不明		x	
図 IV-32	F-314	132	67-157-ウ①/68-157-ア①②間/エ②上	現地		○	
図 IV-27	F-315	186	65-157-ウ①より上3/66-157-エ②	現地	骨片	●	
図 IV-31	F-316	128	68-156-ウ②/エ②	現地	骨片	●	
図 IV-38	F-317	154	67-155-イ④	廃棄		○	
図 IV-38	F-318	155	67-155-イ⑥	廃棄	骨片	●	
図 IV-37	F-319	150	70-158-ア⑥/イ①	現地		○	
図 IV-37	F-320	153	70-155-ウ④/エ⑤	廃棄		○	
図 IV-37	F-321	150	70-155-ア③	現地	骨片	●	
図 IV-28	F-322	189	65-158-イ③/66-158-ア⑤	現地		○	
図 IV-28	F-323	189	66-158-ア⑤/イ④	現地		●	
図 IV-32	F-324	130	70-157-ウ③/エ③	現地	骨片	○	
図 IV-36	F-325	150	67-154-ウ③/68-154-エ①/68-155-ア②	現地	骨片	●	灰?を2ヶ所サンプル採取
図 IV-38	F-326	155	68-155-ア⑥	廃棄		○	
図 IV-33	F-327	131	66-156-ウ④/67-156-エ④	現地		○	
図 IV-33	F-328	131	67-156-エ④	現地		○	
図 IV-33	F-329	134	67-156-ウ⑤/エ⑤/67-157-イ①②間	現地	骨片	●	
図 IV-33	F-330	131	68-156-エ④	現地	骨片	●	割片
図 IV-33	F-331	131	68-156-エ④	現地	骨片	●	
図 IV-32	F-332	130	69-157-ア③	現地	骨片	●	
図 IV-27	F-333	188	68-157-ウ⑥/69-157-エ⑤	現地	骨片	○	
図 IV-32	F-334	130	69-157-ア③	現地		○	

表 IV-2 続き

図番号	遺構名	生活面	位置	分類	現地確認内容物	フローテーション	備考
図 IV-37	F-335	152	69-155-ウ⑥	現地		○	
図 IV-31	F-336	128	69-155-エ③	廃棄		○	
図 IV-27	F-337	188	68-158-イ⑤/69-158-ア⑥	現地	骨片	●	
図 IV-31	F-338	128	69-155-ウ③/エ③/69-156-ア④/イ④	現地		○	
図 IV-37	F-339	150	70-155-ウ③/70-156-イ③	現地	骨片	●	
図 IV-33	F-340	133	70-158-ア④/イ④/71-158-ア	現地	骨片・クルミ	●	
図 IV-33	F-341	133	70-158-ア④/イ④/71-158-ア	現地	骨片・クルミ	●	
図 IV-36	F-342	150	69-155-ア②/イ②/ウ④	現地		●	
図 IV-33	F-343	134	67-156-ア④/イ④/ウ⑤/エ⑤	現地		●	
図 IV-38	F-344	154	69-155-イ③/ウ⑦	現地		○	
図 IV-36	F-345	150	69-154-エ②/69-155-ア②	現地		○	
図 IV-36	F-346	150	66-154-ウ②/エ①/66-155-ア①より上/イ②	現地		○	
図 IV-28	F-347	189	66-157-ア④/エ③	現地		○	
図 IV-33	F-348	134	67-158-イ⑥	現地	骨片	●	
	F-349	欠番					
図 IV-28	F-350	189	66-157-ウ③/エ③/66-158-ア⑤	現地	骨片	○	
図 IV-35	F-351	142	66-153-エ①より上 1	廃棄		×	
図 IV-26	F-352	181	65-156-イ③④/ウ④	現地		○	P-47 に切られる
図 IV-33	F-353	134	70-157-エ⑤/70-158-ア⑤	廃棄	骨片	●	
図 IV-27	F-354	186	67-158-ア⑤	現地	骨片	●	
図 IV-30	F-355	128	70-157-ア①	廃棄		○	
図 IV-30	F-356	128	70-157-ウ①	現地	骨片	●	
図 IV-31	F-357	195	65-157-ウ②	現地	骨片	●	
図 IV-31	F-358	195	65-157-イ③/ウ②	現地	骨片	●	
図 IV-36	F-359	150	66-154-ウ②/66-155-イ②/67-154-エ②	現地	骨片	●	
図 IV-32	F-360	131	69-157-ア④	廃棄		○	
図 IV-33	F-361	134	68-157-ア②/エ②下	現地		○	
図 IV-37	F-362	153	66-154-ウ③/エ②	現地		●	
図 IV-37	F-363	151	67-154-ウ④/67-155-イ③④/間	廃棄		○	
図 IV-37	F-364	153	65-154-ウ①②/間上/65-155-イ①より上 1	現地	骨片	○	
図 IV-37	F-365	153	65-154-ウ①②/間上	現地	骨片	●	
図 IV-38	F-366	155	70-155-エ③/70-156-ア④⑦/間上	現地	焼骨片	●	
図 IV-33	F-367	134	68-157-イ③/69-157-ア⑤	現地		●	
図 IV-31	F-368	128	69-156-ア④/エ②	廃棄		○	
図 IV-33	F-369	134	68-157-ア②	現地		○	
図 IV-31	F-370	128	69-156-エ②	現地		×	
図 IV-33	F-371	134	67-157-イ①②/間/68-157-ア②	廃棄?		×	
図 IV-22	F-372	160	66-154-ウ③④/間/エ③/間	現地		○	
図 IV-29	F-373	191	66-156-エ③	現地		○	
図 IV-34	F-374	207	66-157-エ④	現地		○	
図 IV-29	F-375	191	66-156-エ③/66-157-ア⑤	現地	クルミ	○	P-34 に切られる
図 IV-33	F-376	134	67-157-イ①②/間	現地	骨片	×	
図 IV-33	F-377	134	70-157-イ⑤	廃棄		○	
図 IV-32	F-378	131	70-157-ア④/イ④	廃棄		○	
図 IV-29	F-379	191	69-156-ア②③/間/イ②③/間/ウ⑦/エ⑦	現地		●	P-30・31・33・78 に切られる
図 IV-22	F-380	160	66-153-エ①より上 2/66-154-ア①②/間	現地		○	
図 IV-27	F-381	186	70-157-ア⑤/エ⑧	廃棄		○	
図 IV-22	F-382	160	66-153-エ①より上 2/66-154-ア①②/間	現地		○	
図 IV-22	F-383	160	67-154-ア④上/エ④⑤/間	現地		○	
図 IV-28	F-384	189	68-157-エ④/68-158-ア⑦	現地	骨片	●	P-35 に切られる
図 IV-22	F-385	160	65-153-ウ①②/間上/エ (0)	現地		○	
図 IV-34	F-386	135	67-156-イ④/ウ⑥	現地		●	
図 IV-31	F-387	128	68-156-ウ②/68-157-イ②/69-156-エ②/69-157-ア②	現地	骨片	●	
図 IV-33	F-388	134	70-158-ア⑤/イ⑥	廃棄	骨片	●	
図 IV-34	F-389	135	67-156-ア⑤/ウ⑥/エ⑧	現地		×	
図 IV-38	F-390	154	69-154-ウ④/69-155-イ③	現地	骨片	●	
図 IV-23	F-391	164	65-153-ウ①②/間下	現地		○	
図 IV-38	F-392	154	69-154-ウ④/エ④/69-155-ア③/イ③	現地		○	
図 IV-27	F-393	188	68-157-ア④	現地		×	
図 IV-32	F-394	198	65-157-ウ③	不明	骨片	●	
図 IV-34	F-395	135	67-156-ア⑤/エ⑧	現地		●	
図 IV-30	F-396	194	67-158-ア⑦	現地	骨片	●	
図 IV-27	F-397	188	69-157-エ⑤	廃棄		○	
図 IV-29	F-398	189	69-158-ア⑦	廃棄	骨片	●	
図 IV-30	F-399	194	65-158-イ⑤/フ/ウ	環埴	骨片	○	
図 IV-38	F-400	154	65-154-ウ①②/間下/65-155-イ①より上 2/66-154-エ②③/間/66-155-ア①	現地		●	
図 IV-34	F-401	135	66-156-イ⑥/ウ⑥/67-156-ア⑤/エ⑧	現地		●	
図 IV-23	F-402	164	67-154-ウ⑦/67-155-イ⑥	廃棄		○	
図 IV-24	F-403	166	69-155-イ⑦/70-155-ア⑥	現地		○	
図 IV-31	F-404	195	67-157-ウ⑤/67-158-イ⑧	現地	骨片	●	
図 IV-23	F-405	164	67-154-エ④⑤/間	廃棄		●	
図 IV-30	F-406	194	65-158-イ⑤	現地?	骨片	●	
図 IV-34	F-407	207	65-157-イ③④/間上/ウ③④/間上	現地		○	
図 IV-35	F-408	208	65-157-イ③④/間下/ウ③④/間下/66-157-ア⑤⑥/間	現地	骨片	○	
図 IV-35	F-409	209	66-157-ア⑥	現地		○	

IV 遺構

表IV-2 続き

図番号	遺構名	生活面	位置	分類	現地確認内容物	フロッテーション	備考
図IV-24	F-410	166	70-154-エ⑧70-155-ア⑧	現地		○	
図IV-29	F-411	189	70-158-イ⑦	廃棄		○	
図IV-24	F-412	166	68-154-ア④イ④ウ⑦	現地		●	
図IV-32	F-413	131	70-157-イ④ウ④	現地	骨片	○	
図IV-30	F-414	194	69-158-イ⑧70-158-ア⑦	現地	骨片	●	
図IV-23	F-415	162	65-154-ウ②65-155-イ①②間66-154-エ③	現地		○	
図IV-37	F-416	216	65-157-ウ④⑤間65-158-イ⑧⑦間	現地	骨片	●	
図IV-28	F-417	123	67-153-ウ①	現地		●	
図IV-30	F-418	194	67-158-イ⑧68-158-ア⑧ウ⑧	現地	骨片	●	
図IV-28	F-419	189	67-157-ウ④ウ④	廃棄		●	
図IV-28	F-420	189	66-157-イ⑧ウ③67-157-ア④ウ④	現地	骨片	●	P-79 に切られる
図IV-30	F-421	194	66-158-ア⑦イ⑦ウ⑧	廃棄	骨片	x	
図IV-36	F-422	213	66-157-ア⑧⑦間上/エ⑦	現地		○	
図IV-36	F-423	212	66-157-ウ⑧ウ⑧66-158-ア⑧イ⑧	現地		●	
図IV-24	F-424	167	66-153-エ①②間66-154-ア④	現地		○	
図IV-31	F-425	195	69-158-ア⑧ウ⑧	現地		●	噴砂による段差あり・14C年代測定(H13)
図IV-32	F-426	196	70-158-ア⑧イ⑧	現地	骨片	●	
図IV-32	F-427	196	70-157-エ⑧70-158-ア⑧	現地	炭化クルミ	○	
図IV-29	F-428	125	67-153-エ②	現地		○	
図IV-29	F-429	125	67-153-エ②	現地	骨片	●	
図IV-29	F-430	125	67-153-ア②ウ②	現地	骨片	○	
図IV-29	F-431	125	67-154-ア②	廃棄		x	
図IV-28	F-432	189	66-157-ウ③67-157-ア④ウ④	現地	骨片	○	
図IV-28	F-433	189	66-157-ウ③67-157-ア④ウ④	現地		●	
図IV-28	F-434	189	67-157-ウ④ウ④	現地	骨片	●	
図IV-27	F-435	189	66-156-ウ⑧67-156-エ⑦	現地	骨片	●	
図IV-27	F-436	189	66-156-ウ⑧67-156-エ⑦	現地	骨片	●	
図IV-29	F-437	125	67-153-ウ①68-153-ア①ウ①	現地	骨片	●	
図IV-36	F-438	213	70-157-エ⑧	現地	骨片	○	
図IV-36	F-439	213	69-158-ア⑧イ⑧	現地		○	
図IV-29	F-440	125	68-153-エ①	現地		x	
図IV-30	F-441	194	69-158-イ⑧	現地		●	
図IV-31	F-442	195	70-158-ア⑧ウ⑧	現地	骨片・炭化クルミ	●	小ビット1基
図IV-37	F-443	151	69-154-エ③	廃棄		x	
図IV-37	F-444	151	69-154-ウ②70-154-エ②	現地	骨片	○	
図IV-31	F-445	195	66-156-エ⑧	現地		x	
図IV-29	F-446	125	67-153-ウ①68-153-ア①ウ①	現地		○	
図IV-37	F-447	152	69-154-ウ③	現地		○	
図IV-27	F-448	188	68-156-ア⑤イ④④ウ⑤ウ⑤	現地		●	P-38・50・104・106 に切られる
図IV-27	F-449	189	66-156-ウ⑧67-156-エ⑦	現地	骨片	●	P-93 に切られる
図IV-35	F-450	211	69-158-イ⑧直上	廃棄	骨片	○	
図IV-31	F-451	195	68-158-ア⑧	現地	骨片	●	
図IV-32	F-452	196	68-158-ア⑧	現地	骨片	○	
図IV-32	F-453	196	67-158-イ⑧68-158-ア⑧	現地	骨片	●	
図IV-35	F-454	211	67-158-イ⑧	現地	焼魚骨片	●	
図IV-36	F-455	213	69-158-イ⑧	現地		○	
図IV-28	F-456	123	69-153-エ①69-154-ア①	現地		●	
図IV-35	F-457	141	65-152-ウ①66-152-ア②ウ②	現地	骨片	●	
図IV-27	F-458	116	68-151-エ①	現地		○	剥片
図IV-36	F-459	213	69-157-ウ⑤ウ⑤69-158-イ⑧70-157-エ⑧	廃棄	炭化クルミ	●	炭化クルミ集中
図IV-23	F-460	160	69-154-ウ⑤69-155-イ⑤	現地	骨片	●	
図IV-29	F-461	125	69-153-エ②	廃棄		x	
図IV-36	F-462	218	69-157-ウ⑧⑧間/エ⑧69-158-イ⑧⑧間	現地		●	P-68 に切られる
図IV-34	F-463	137	68-153-ウ③69-153-エ③69-154-ア②	現地		●	14C年代測定(H13)
図IV-27	F-464	116	67-151-ウ①	現地		○	
図IV-27	F-465	116	68-151-エ①より上	現地		x	
図IV-38	F-466	217	69-157-ウ②69-158-イ⑧70-157-エ⑧70-158-ア⑧	現地	骨片	●	小ビット2基
図IV-29	F-467	191	66-157-イ⑦ウ④67-157-ア④⑤間/エ④④間	現地		○	
図IV-29	F-468	125	70-153-エ①	現地		○	
図IV-38	F-469	217	69-158-イ⑧	現地	骨片	●	
図IV-35	F-470	211	69-158-イ⑧直上	廃棄		○	
図IV-36	F-471	213	69-158-ア⑧	現地		x	
図IV-35	F-472	211	69-157-ウ⑧ウ⑧	現地	骨片・炭化クルミ	●	
図IV-35	F-473	211	67-158-ア⑧イ⑧	現地	焼骨片	●	
図IV-56	F-474	218	67-158-ア⑧イ⑧	現地	焼骨片	○	
図IV-57	F-475	220	70-157-エ⑧70-158-ア⑧	廃棄		○	
図IV-31	F-476	195	67-157-ア⑤イ⑤ウ⑤ウ⑤	現地	骨片	○	
図IV-31	F-477	195	67-157-ア⑤イ⑤ウ⑤ウ⑤	現地		○	P-62 に切られる
図IV-30	F-478	126	66-155-イ①より上/ウ②	現地	骨片	●	
図IV-27	F-479	126	68-152-エ①68-153-ア②	現地		○	
図IV-56	F-480	218	68-158-ア⑧	現地		○	
図IV-24	F-481	106	65-150-イ①66-150-ア①より上	現地		○	
図IV-56	F-482	218	69-158-イ⑧⑧間	現地	骨片	○	
図IV-57	F-483	220	70-157-エ⑧	現地	炭化クルミ	○	
図IV-24	F-484	166	69-154-ア⑧ウ⑧	現地		○	

表 IV-2 続き

図番号	遺構名	生活面	位置	分類	現地確認内容物	フローテーション	備考
図 IV-57	F-485	220	69-158-イ⑨ウ	現地	骨片	●	P-60・61・73 に切られる
図 IV-57	F-486	220	70-157-エ②	廃棄		×	
図 IV-27	F-487	188	68-157-ア④イ③	廃棄	骨片	●	
図 IV-31	F-488	195	67-157-ア⑤イ⑤ウ⑥イ④	現地	骨片	●	P-62・65 に切られる
図 IV-56	F-489	218	69-157-ウ②③間/69-158-イ②③間	現地		○	
図 IV-56	F-490	218	67-158-イ②	現地	クルミ・焼骨片	●	P-49 に切られる
図 IV-56	F-491	218	68-157-エ⑥/68-158-ア②	現地		○	
図 IV-22	F-492	160	67-154-イ③④間/68-154-ア③④間	現地		○	
図 IV-23	F-493	164	66-153-ウ②③間下/66-154-イ③④/67-153-エ③④/67-154-ア④下	現地		○	
図 IV-57	F-494	221	70-157-エ③上/70-158-ア②	廃棄		×	
図 IV-36	F-495	150	66-155-イ②	現地		×	
図 IV-35	F-496	211	67-157-エ⑦/67-158-ア①	現地		●	
図 IV-57	F-497	220	70-158-イ③④/71-158-ア	廃棄		●	
図 IV-36	F-498	150	66-154-ウ②③/66-155-イ②③/67-154-エ②	現地	骨片	●	
図 IV-32	F-499	196	66-157-イ⑦⑧間/ウ⑤⑥/67-157-ア⑥⑦⑧⑤	現地	骨片	●	
図 IV-33	F-500	200	67-157-イ⑧⑨/68-156-エ⑧⑨/68-157-ア⑧	現地	骨片	●	
図 IV-22	F-501	160	68-153-ア⑥イ⑤ウ③④間/エ③	廃棄		○	
図 IV-32	F-502	196	66-157-イ⑦⑧間/ウ⑤⑥/67-157-ア⑥⑦⑧⑤	現地	骨片	●	
図 IV-36	F-503	150	66-154-ウ②③/66-155-イ②③/67-154-エ②	現地	骨片	●	
図 IV-57	F-504	220	69-157-ウ③	廃棄		×	
図 IV-57	F-505	222	69-157-ウ④	廃棄		○	
図 IV-29	F-506	125	69-153-ウ①②/69-154-イ②	廃棄		×	
図 IV-57	F-507	222	70-157-エ③下	現地(?)		○	
図 IV-34	F-508	137	68-153-ウ③④/69-153-エ③	現地		○	
図 IV-34	F-509	137	69-153-エ②	廃棄		×	
図 IV-57	F-510	223	70-157-エ④	廃棄(?)		●	
図 IV-34	F-511	137	68-154-イ③④/69-154-ア②	現地		○	
図 IV-34	F-512	137	69-153-ウ②	現地(?)		○	
図 IV-27	F-513	189	68-156-エ④	現地		×	P-40 に切られる
図 IV-35	F-514	142	68-154-イ④⑤/69-154-ア③	現地		○	
図 IV-35	F-515	142	69-154-ア③イ③	現地	骨片	○	
図 IV-33	F-516	199	69-157-ア⑦イ⑦	現地	骨片	●	P-77 に切られる
図 IV-36	F-517	150	68-155-ウ②	現地		○	
図 IV-36	F-518	150	68-154-ウ③④⑤⑥/68-155-ア②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	現地	焼骨片	●	
図 IV-36	F-519	150	68-154-ウ③	現地	焼魚骨片	●	
図 IV-35	F-520	142	69-153-ウ③④/69-154-イ③	廃棄		○	
図 IV-22	F-521	160	66-154-ウ③④⑤間	現地		●	
図 IV-35	F-522	142	69-154-ア③	廃棄		○	
図 IV-33	F-523	199	69-157-ア⑦	廃棄		○	
図 IV-35	F-524	142	68-154-イ④⑤/69-154-ア③	現地	骨片	●	
図 IV-34	F-525	137	70-154-イ③	現地	焼骨片	●	
図 IV-34	F-526	207	69-157-イ⑧	現地	骨片	●	P-77 に切られる
図 IV-36	F-527	213	69-157-ア⑨	現地	骨片	●	14C 年代測定 (H13)
	F-528		欠番				
図 IV-34	F-529	137	70-153-ウ②③④⑤	現地	焼骨片	○	
図 IV-34	F-530	140	68-152-エ②③④間	現地		○	
図 IV-22	F-531	160	68-154-ウ③④⑤⑥/68-155-イ④⑤上	廃棄		×	
図 IV-22	F-532	160	68-154-ウ⑥	廃棄		×	
図 IV-22	F-533	160	66-153-ウ②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	現地		○	
図 IV-23	F-534	162	68-154-ウ⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	現地		×	
図 IV-22	F-535	160	66-154-ウ③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	現地		○	
図 IV-23	F-536	162	66-154-ウ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	現地	骨片	●	
図 IV-24	F-537	166	67-154-ア⑤上	現地		○	
図 IV-31	F-538	195	68-156-ウ⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	現地		○	P-40・106 に切られる
図 IV-23	F-539	160	69-153-エ④	現地	骨片	●	小ピット7基
図 IV-36	F-540	212	66-158-イ⑧⑨/67-158-ア①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	現地	骨片	●	
図 IV-24	F-541	166	67-154-ア⑤上	現地		○	
図 IV-24	F-542	167	66-154-イ④⑤/67-153-エ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	現地	骨片	●	
図 IV-32	F-543	196	70-156-エ⑤⑥/70-157-ア⑧⑨	現地		●	
図 IV-27	F-544	116	69-151-ウ①②/69-152-イ①	廃棄		×	
図 IV-31	F-545	195	68-156-ウ⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	現地	骨片	●	P-82・106 に切られる
図 IV-31	F-546	195	68-156-エ⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	現地	骨片	●	P-82 に切られる
図 IV-34	F-547	137	70-153-ウ②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	現地		○	
図 IV-27	F-548	126	69-152-エ③	廃棄		×	
図 IV-34	F-549	137	70-153-ウ②	現地		×	
図 IV-33	F-550	200	67-157-イ⑧⑨/68-156-エ⑧⑨/68-157-ア⑧	現地	骨片	●	
図 IV-29	F-551	191	66-157-ウ④	現地		○	
図 IV-36	F-552	213	69-157-ア⑨	廃棄		○	
図 IV-36	F-553	213	69-157-ア⑨イ⑨	現地		○	
図 IV-27	F-554	117	69-151-ア①イ①	現地		×	
図 IV-37	F-555	147	70-153-ウ③	現地		×	
図 IV-35	F-556	142	70-153-エ③	廃棄		×	
図 IV-26	F-557	114	66-149-ウ①②/67-149-ウ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	現地		○	
図 IV-24	F-558	167	69-153-エ⑤⑥/69-154-ア⑦⑧	現地		○	
図 IV-27	F-559	117	68-152-イ⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	現地		×	

IV 遺構

表IV-2 続き

図番号	遺構名	生活面	位置	分類	現地確認内容物	フロア・デーション	備考
図 IV-30	F-560	127	68-152-ウ②/69-152-ア②/エ⑤	現地		×	
図 IV-25	F-561	111	67-149-ウ①	現地		○	シカ産列?あり
図 IV-23	F-562	164	66-153-ウ②③/66-154-イ③/67-153-エ③/67-154-ア④下	現地		○	
図 IV-35	F-563	141	68-152-イ③/ウ③/69-152-ア③/エ⑤	現地	骨片	●	小ビット6基
図 IV-24	F-564	105	69-149-イ①より上/ウ①	現地(?)		○	
図 IV-56	F-565	219	69-157-ア①	現地		●	
図 IV-34	F-566	207	68-157-ア①	現地		○	
図 IV-34	F-567	207	68-157-ア①	現地	骨片	●	
図 IV-24	F-568	166	66-153-ウ③/66-154-イ④直上/67-153-エ④上	現地		○	
図 IV-24	F-569	166	66-154-イ④直上	現地		×	
図 IV-23	F-570	160	70-154-イ⑥/ウ⑥	現地		●	細円礫集中
図 IV-27	F-571	121	70-152-ウ①/エ①/70-153-ア①	現地	骨片	●	
図 IV-27	F-572	121	70-152-ウ①	現地		○	
図 IV-32	F-573	196	70-156-ウ⑤/エ⑤	現地		○	
図 IV-29	F-574	190	67-156-エ③	現地		●	小ビット1基
図 IV-26	F-575	179	70-156-ア⑥/ウ⑥/イ⑥/ウ⑥/エ⑥/ア⑥	現地		●	
図 IV-32	F-576	196	70-156-ウ⑤	現地	骨片	○	P-88 に切られる
図 IV-25	F-577	112	69-150-イ②	現地		○	
図 IV-24	F-578	107	69-149-イ①より上/ウ②	廃棄		○	
図 IV-24	F-579	108	69-149-ウ②	廃棄		●	
図 IV-27	F-580	116	70-151-ウ①①/70-152-イ①	現地		×	
図 IV-27	F-581	122	70-152-エ②	現地		×	
図 IV-27	F-582	188	68-158-イ⑤	現地	骨片	●	積砂による段差あり
図 IV-27	F-583	188	68-158-イ⑤	現地		○	
図 IV-27	F-584	122	70-152-ウ②	現地		○	
図 IV-36	F-585	212	65-157-イ④/66-156-エ③/66-157-ア③/ウ③	現地		●	
図 IV-36	F-586	212	65-156-ウ④	現地		○	糸片石器
図 IV-36	F-587	212	65-156-ウ④/66-156-エ③	現地	骨片	○	
図 IV-25	F-588	112	69-150-ア②/エ①/かなり上	廃棄		○	
図 IV-25	F-589	113	69-150-イ③	廃棄		●	
図 IV-25	F-590	113	69-150-ア③	廃棄		●	
図 IV-26	F-591	178	70-156-ア⑥/ウ⑥/エ⑥	現地		○	
図 IV-27	F-592	122	70-152-ウ②	現地		○	
図 IV-26	F-593	114	65-150-ア①/イ①/ウ①/エ①	現地		●	
図 IV-26	F-594	114	65-150-イ②/66-150-ア①	現地		●	
図 IV-26	F-595	114	66-150-ア②	現地		×	
図 IV-28	F-596	123	68-153-ウ①	現地		○	
図 IV-25	F-597	111	68-149-イ①/ウ①/69-149-ア①/エ③/ウ③	現地	骨片	●	
図 IV-25	F-598	111	68-149-イ①/ウ①/69-149-ア①/エ③/ウ③	現地	骨片	●	14C年代測定 (H13)
図 IV-37	F-599	215	68-158-イ⑤	現地	骨片	×	積砂による段差あり
図 IV-27	F-600	188	68-157-ウ⑥	現地	骨片	●	
F-601 欠番							
図 IV-25	F-602	111	69-149-イ①/ウ③	現地	骨片	●	
図 IV-29	F-603	125	68-153-ウ②/エ①	現地		○	
図 IV-29	F-604	190	67-156-ウ⑤/エ⑤	現地		×	
図 IV-28	F-605	189	66-158-イ④	現地		○	
図 IV-56	F-606	218	68-157-エ③	現地		○	
図 IV-32	F-607	196	70-156-イ⑦/上ウ⑤	現地	骨片	●	P-89 に切られる
図 IV-33	F-608	201	70-156-ウ⑥	廃棄		○	P-88 に切られる
図 IV-33	F-609	201	70-156-イ⑦/下ウ⑥	現地		●	
図 IV-34	F-610	139	70-152-ウ⑤/エ③/ウ③	現地		○	
図 IV-26	F-611	184	67-155-エ③/67-156-ア⑤/ウ⑤	現地		●	
図 IV-26	F-612	185	67-155-エ③	現地		○	
図 IV-26	F-613	185	67-155-ウ②/エ③/67-156-ア⑤/イ⑥	現地		○	
図 IV-26	F-614	185	67-155-ウ②/67-156-イ⑥	現地		○	
図 IV-37	F-615	214	68-157-ウ①/68-158-イ⑤	現地	骨片	●	P-92 に切られる・積砂による段差あり
図 IV-56	F-616	219	69-157-ア①/68-157-イ①	現地		○	
図 IV-32	F-617	196	69-156-ア⑤/イ⑤/ウ⑤/エ⑤	現地	骨片	●	P-30・32・33 に切られる
図 IV-30	F-618	193	68-158-イ⑤	廃棄		×	
図 IV-32	F-619	196	67-156-エ③	現地	骨片	●	
図 IV-56	F-620	219	67-157-イ⑥/ウ⑥	現地		○	小ビット1基
図 IV-37	F-621	214	68-158-ア①/イ⑥	現地	骨片	●	積砂による段差あり
図 IV-29	F-622	191	69-156-エ⑦/68-156-ウ⑥	現地		○	14C年代測定 (H13)
図 IV-37	F-623	214	68-157-ウ①/68-158-イ⑥	現地		×	
図 IV-35	F-624	211	68-157-ウ⑥	現地		×	
図 IV-36	F-625	213	70-156-ウ⑥/70-156-エ⑦/1-157-ア	現地		○	
図 IV-24	F-626	166	68-153-ウ④/68-154-イ⑤	現地		○	
図 IV-33	F-627	199	67-156-ウ④/68-156-エ⑤	現地		○	小ビット1基
図 IV-33	F-628	199	67-156-ウ④	現地	骨片	●	
図 IV-32	F-629	196	69-156-ウ⑥	廃棄		●	P-94 に切られる
図 IV-32	F-630	196	69-156-イ⑤/ウ⑤/70-156-ア⑦/エ⑤	現地		○	
図 IV-33	F-631	201	69-156-ウ⑥/エ⑥	現地		○	
図 IV-33	F-632	199	69-156-ア⑥/ウ⑥/イ⑥/ウ⑥/エ⑥	現地		●	P-32 に切られる
図 IV-37	F-633	214	68-157-ウ①	現地		●	
図 IV-27	F-634	117	68-151-イ①/ウ①	現地	炭化クルミ	○	

表 IV-2 続き

図番号	遺構名	生活面	位置	分類	現地確認内容物	フローテーション	備考
図 IV-32	F-635	196	66-156-ウ⑩/67-156-工⑩/67-157-ア⑩	現地	骨片	○	
図 IV-38	F-636	217	66-156-ウ⑩/工⑩/66-157-ア⑩/イ⑩/ウ⑩	現地		○	小ビット 8 基
図 IV-27	F-637	121	70-152-工①/70-153-ア①	現地		○	
図 IV-34	F-638	206	69-156-工①	現地		×	
図 IV-37	F-639	216	67-157-ア⑩/工⑩	現地		○	
図 IV-36	F-640	213	68-156-工⑩/68-157-ア⑩	現地	骨片	○	
図 IV-36	F-641	213	68-156-工⑩/68-157-ア⑩	現地		○	
図 IV-29	F-642	125	70-153-ア②	現地	骨片	○	
図 IV-29	F-643	192	66-158-イ⑤	廃棄		×	
図 IV-27	F-644	126	68-152-ウ①	現地	炭化クルミ	○	
図 IV-36	F-645	213	68-156-ウ⑩/工⑩/68-157-ア⑩/イ⑩	現地	骨片	○	小ビット 7 基
図 IV-30	F-646	193	66-158-ア⑩/イ⑩/ウ⑩	現地	骨片	○	
図 IV-34	F-647	139	70-152-工②/③/④/70-153-ア⑤	現地		○	
図 IV-28	F-648	124	69-156-ア①	現地	焼魚骨片	○	
図 IV-28	F-649	124	69-156-イ①/70-156-ア①	現地	焼魚骨片	○	
図 IV-37	F-650	216	67-156-ウ⑩/68-156-工⑩/68-157-ア⑩	現地		○	
図 IV-37	F-651	216	68-157-ア⑩	現地		○	
図 IV-37	F-652	216	68-156-工⑩/68-157-ア⑩	現地		○	
図 IV-28	F-653	124	66-156-ア③/イ③/ウ③/エ③	現地	骨片	○	土器片
図 IV-30	F-654	194	66-158-イ⑦	現地		○	
図 IV-56	F-655	218	67-156-ウ⑩/68-156-工⑩/⑬/68-157-ア⑩/⑭/⑮	現地		○	
図 IV-38	F-656	217	67-156-工⑩	現地		×	
図 IV-37	F-657	216	67-156-ウ⑩/68-156-工⑩	現地		○	
図 IV-56	F-658	219	68-157-ア⑩/イ⑩/ウ⑩/エ⑩	廃棄		×	
図 IV-26	F-659	114	68-149-ウ②/68-150-イ②	現地	骨片	○	
図 IV-34	F-660	137	69-153-ア②	現地		○	
図 IV-27	F-661	189	67-156-ア⑦	現地(?)		×	P-107 に切られる
図 IV-31	F-662	128	70-156-イ⑤/⑥/⑦	現地		○	
図 IV-26	F-663	180	66-156-ウ⑥	現地		×	
図 IV-31	F-664	128	69-155-ウ③/69-156-イ④	現地	焼骨片	○	
図 IV-31	F-665	128	69-156-イ④	現地		○	
図 IV-31	F-666	128	68-156-イ②/ウ②	現地	骨片	○	
図 IV-30	F-667	128	68-157-イ②	現地	骨片	○	
図 IV-38	F-668	154	69-155-工⑥	現地	炭化クルミ	○	
図 IV-38	F-669	154	69-155-工⑥	現地		○	
図 IV-25	F-670	112	70-149-ア①/工②	廃棄		○	
図 IV-26	F-671	114	69-150-イ④/70-150-ア①	現地		○	
図 IV-35	F-672	141	68-152-ウ③/工④	廃棄		○	
図 IV-28	F-673	124	66-156-イ②/ウ①	現地	骨片	○	剥片
図 IV-33	F-674	130	66-156-ア⑤/イ⑤/67-156-ア③/④/⑤	現地		○	
図 IV-37	F-675	153	70-156-イ⑥	廃棄		○	
図 IV-31	F-676	128	70-156-イ⑤/⑥/⑦	現地		○	
図 IV-31	F-677	128	70-156-イ⑤/⑥/⑦	現地		○	
図 IV-31	F-678	128	70-156-イ⑤/⑥/⑦	現地		○	
図 IV-28	F-679	124	66-156-ウ①	現地	骨片	○	
図 IV-24	F-680	167	68-153-ウ④/69-153-工⑤	廃棄		○	
図 IV-25	F-681	174	67-154-ア⑦より下	廃棄		○	
図 IV-37	F-682	153	70-156-イ⑥	現地	焼骨片	○	
図 IV-37	F-683	153	70-156-ア⑥	現地		○	
図 IV-34	F-684	135	66-156-イ⑥/67-156-ア⑤	廃棄		○	
図 IV-34	F-685	135	66-156-イ⑥/67-156-ア⑤	廃棄		○	
図 IV-30	F-686	130	66-157-ウ①/多少上	現地		○	
図 IV-33	F-687	134	68-157-ア②/イ③	現地	骨片	○	
図 IV-26	F-688	180	67-156-ア③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨	現地		○	
図 IV-33	F-689	130	66-156-ア⑤	廃棄		×	
図 IV-34	F-690	140	70-152-ウ⑥	現地		○	小ビット 1 基
図 IV-28	F-691	124	68-156-イ①	現地	骨片	○	噴砂による段差あり
図 IV-31	F-692	128	68-156-ア②	現地		○	
図 IV-38	F-693	154	69-155-ウ⑦/70-155-工⑥	現地		×	
図 IV-31	F-694	195	68-157-イ⑤	現地		○	
図 IV-33	F-695	200	67-156-イ⑥	現地		○	小ビット 1 基
図 IV-35	F-696	141	70-152-ウ⑦	現地	骨片	○	
図 IV-27	F-697	186	66-157-イ④/⑤/⑥	現地		○	
図 IV-26	F-698	181	66-157-イ④/ウ①	現地		○	
図 IV-34	F-699	135	65-155-ウ④/65-156-イ④/⑤/⑥/66-155-工④/66-156-ア⑥/⑦/⑧	現地	クルミ	○	炭化物を P-41・42 に切られる
図 IV-24	F-700	167	68-154-イ⑦	廃棄		○	
図 IV-24	F-701	167	68-153-ウ④/68-154-イ⑦	焼棄		○	
図 IV-23	F-702	163	66-154-ウ④/⑤/⑥/66-155-イ⑥	廃棄		×	
図 IV-24	F-703	167	68-154-イ⑦	現地		○	
図 IV-27	F-704	188	68-156-ア⑦	現地		○	
図 IV-33	F-705	201	68-156-ア⑦	現地	焼骨片	○	
図 IV-35	F-706	208	68-157-イ⑥/ウ④/⑤/⑥	廃棄		○	
図 IV-23	F-707	164	66-154-ウ⑥/66-155-イ⑦	現地		○	
図 IV-27	F-708	186	66-157-ウ②	現地		×	
図 IV-26	F-709	180	66-156-イ⑥/ウ⑥	現地		○	P-115 に切られる

IV 遺構

表 IV-2 続き

図番号	遺構名	生活面	位置	分類	現地確認内容物	フローテーション	備考
図 IV-33	F-710	201	68-156-ア⑦イ⑧	現地	焼骨片	●	
図 IV-33	F-711	201	68-156-ア⑦イ⑧	現地		○	
図 IV-56	F-712	219	68-156-ウ⑩⑪68-157-イ⑫⑬69-157-ア⑭	廃棄	骨片	○	P-114 に切られる
図 IV-34	F-713	202	68-156-イ⑧⑨間	現地		●	
図 IV-34	F-714	206	67-156-イ⑩	現地		×	
図 IV-29	F-715	191	66-156-ウ⑭66-157-イ⑰	現地		×	
図 IV-24	F-716	167	66-154-ア⑱イ⑲ウ⑳エ㉑	現地		○	小ビット 3 基
図 IV-56	F-717	219	68-156-ウ⑩⑪68-157-イ⑫	廃棄		●	ベンガラ集中範囲あり
図 IV-28	F-718	189	66-157-イ⑱	現地	骨片	×	
図 IV-57	F-719	220	68-156-ウ⑭	現地		×	
図 IV-29	F-720	190	66-156-ウ⑭⑮間	現地		×	
図 IV-56	F-721	218	66-158-イ⑲	現地		○	
図 IV-26	F-722	182	66-156-ア⑱	廃棄		○	
図 IV-26	F-723	182	66-155-エ⑳66-156-ア㉑イ㉒	現地		×	
図 IV-26	F-724	182	66-156-ア⑱	現地		●	
図 IV-34	F-725	135	66-156-ア⑱⑲間/イ⑳	現地		●	
図 IV-37	F-726	214	68-158-イ㉓	廃棄		×	
図 IV-24	F-727	108	64-149-イ①	現地		○	
図 IV-25	F-728	169	65-153-ウ㉔エ㉕65-154-ア㉖イ㉗	現地		○	
図 IV-25	F-729	173	65-154-ウ㉘66-154-エ㉙	現地		○	小ビット 1 基
図 IV-25	F-730	169	65-153-ウ㉔	現地	骨片	●	
図 IV-19	F-731	9	64-133-ウ①	現地		○	略染により削平
図 IV-25	F-732	173	65-154-イ㉖66-154-ア㉗	現地		○	小ビット 4 基
図 IV-35	F-733	141	65-152-イ㉘ (a) ハウ①エ①	現地		●	小ビット 3 基・骨片
図 IV-19	F-734	9	65-133-ウ①66-133-エ①	廃棄		○	14C 年代測定 (H14)
図 IV-19	F-735	9	65-133-ア①エ①	廃棄		○	
図 IV-20	F-736	21	64-137-イ①65-137-ア②	現地		○	14C 年代測定 (H14)
図 IV-19	F-737	11	65-133-エ②	廃棄		○	
図 IV-19	F-738	11	64-133-イ①ウ②	現地		○	
図 IV-58	F-739	223	65-156-イ㉚ウ㉛65-157-イ㉜66-156-ア㉝エ㉞66-157-ア㉟	現地		●	P-84 に切られる
図 IV-58	F-740	223	65-156-イ㉚ウ㉛65-157-イ㉜66-156-ア㉝エ㉞66-157-ア㉟	現地		○	P-84 に切られる
図 IV-58	F-741	223	65-156-エ㉞65-157-ア㉟	現地		○	
図 IV-58	F-742	223	65-156-ア㉟イ㉚ウ㉛エ㉞	現地		○	
図 IV-58	F-743	223	65-156-ア㉟イ㉚ウ㉛エ㉞	現地		○	
図 IV-58	F-744	223	65-156-ア㉟イ㉚ウ㉛エ㉞	現地		○	P-123 に切られる
図 IV-58	F-745	223	65-156-イ㉚ウ㉛65-157-イ㉜66-156-ア㉝エ㉞66-157-ア㉟	現地		○	
図 IV-58	F-746	224	65-156-エ㉞65-157-ア㉟	現地	骨片	●	小ビット 3 基
図 IV-58	F-747	223	65-156-イ㉚ウ㉛65-157-イ㉜66-156-ア㉝エ㉞66-157-ア㉟	現地		○	
図 IV-20	F-748	22	66-136-ウ㉔66-137-ア㉕イ①	現地		○	
図 IV-59	F-749	226	65-156-エ④	現地	骨片	●	
図 IV-59	F-750	226	65-156-エ④	現地		●	小ビット 2 基
図 IV-59	F-751	226	65-157-イ㉚ウ㉛	廃棄		×	
図 IV-59	F-752	228	65-156-エ⑤	現地	骨片	×	
図 IV-25	F-753	173	66-154-イ㉚ウ㉛	現地		○	
図 IV-19	F-754	7	65-131-ウ㉔66-131-エ①	廃棄		○	
図 IV-36	F-755	145	66-152-イ㉚ウ㉛	現地	骨片	●	小ビット 3 基
図 IV-19	F-756	1	66-113-ア①イ①ウ①	現地		○	14C 年代測定 (H14)
図 IV-25	F-757	173	66-154-イ㉚ウ㉛	現地		○	
図 IV-36	F-758	145	65-152-ウ㉔66-152-エ③	現地		○	
図 IV-60	F-759	233	65-156-ウ㉔エ㉕	現地		○	
図 IV-60	F-760	233	65-156-ウ㉔	現地		×	
図 IV-60	F-761	233	65-157-イ㉚66-157-ア㉟	現地		○	
図 IV-19	F-762	2	65-117-ア①エ①	現地		○	
図 IV-25	F-763	175	66-154-ウ㉔エ㉕	現地		●	
図 IV-22	F-764	38	65-141-エ㉞65-142-ア㉟イ㉚より上	現地		○	
図 IV-35	F-765	209	66-156-ウ㉔66-157-イ㉜	現地	骨片	○	
図 IV-62	F-766	242	65-157-イ㉚66-157-ア㉟	現地		○	
図 IV-24	F-767	74	65-146-イ①66-146-ア②	現地		○	
図 IV-23	F-768	66	66-146-ア①	廃棄		●	
図 IV-25	F-769	96	65-147-イ②	現地		○	土器片・obs フレイク
図 IV-26	F-770	184	66-155-イ㉚	現地		×	
図 IV-36	F-771	212	66-156-ウ㉔	現地		○	
図 IV-62	F-772	245	65-158-ア②	廃棄		×	
図 IV-19	F-773	12	66-133-ウ㉔66-134-イ①	廃棄		×	
図 IV-25	F-774	96	66-147-イ③	廃棄		○	
図 IV-36	F-775	212	66-156-ウ㉔	現地		○	
図 IV-38	F-776	158	66-153-イ⑥	現地		○	
図 IV-19	F-777	10	65-134-イ①	現地		○	
図 IV-19	F-778	11	65-134-ア①イ②	現地		○	
図 IV-19	F-779	11	65-134-ア①イ②	現地		○	
図 IV-22	F-780	39	65-141-ウ㉔イ㉚エ㉞65-142-ア㉟イ㉚	現地		○	
図 IV-19	F-781	11	64-134-ウ㉔65-134-エ①	現地		○	
図 IV-22	F-782	39	65-142-イ㉚エ㉞66-142-ア①	現地		○	
図 IV-38	F-783	217	66-156-ウ㉔エ㉕66-157-ア㉟イ㉚ウ㉛	現地		●	
図 IV-38	F-784	217	66-156-ウ㉔エ㉕66-157-ア㉟イ㉚ウ㉛	現地		●	



表 IV-2 続き

図番号	遺構名	生活面	位置	分類	現地確認内容物	フロッテーション	備考
図 IV-22	F-785	40	66-141-ウ①エ①②間/66-142-ア②イ①	廃棄		○	
図 IV-19	F-786	3	66-118-ア①イ①	現地		○	
図 IV-58	F-787	223	65-157-イ⑧/66-157-ア⑧イ⑧	現地		○	
図 IV-22	F-788	40	66-142-ア②イ①	現地		○	
図 IV-22	F-789	41	66-141-ウ②/66-142-イ②	廃棄		○	
図 IV-38	F-790	217	66-156-ウ⑧エ⑧/66-157-ア⑧イ⑧ウ⑧	現地		●	
図 IV-58	F-791	223	66-157-イ⑧	現地		×	P-127 に切られる
図 IV-19	F-792	11	64-134-イ①	掘削		○	
図 IV-23	F-793	52	66-143-イ①/67-143-ア	現地		○	67-143-ア未調査
図 IV-38	F-794	158	65-153-イ③	現地		○	
図 IV-38	F-795	159	66-152-エ④/66-153-ア③	現地	骨片	●	小ピット 8 基
図 IV-38	F-796	158	65-153-ア①イ③	現地		○	
図 IV-23	F-797	52	66-143-イ①	現地		○	
図 IV-26	F-798	114	65-149-ウ①/66-149-イ①ウ①エ①/66-150-ア①	廃棄		×	
図 IV-38	F-799	217	66-156-イ⑧直下/ウ⑧直下	現地		×	
図 IV-58	F-800	225	66-156-ウ⑧エ⑧/66-157-ア⑧イ⑧	現地		●	小ピット 1 基
図 IV-58	F-801	223	66-156-ア⑧イ⑧ウ⑧エ⑧/66-157-イ⑧/67-156-エ⑧/67-157-ア⑧	現地		○	
図 IV-58	F-802	223	66-156-ア⑧イ⑧ウ⑧エ⑧/66-157-イ⑧/67-156-エ⑧/67-157-ア⑧	現地		○	
図 IV-58	F-803	223	66-156-ア⑧イ⑧ウ⑧エ⑧/66-157-イ⑧/67-156-エ⑧/67-157-ア⑧	現地		○	
図 IV-58	F-804	223	66-156-ア⑧イ⑧ウ⑧エ⑧/66-157-イ⑧/67-156-エ⑧/67-157-ア⑧	現地		●	
図 IV-58	F-805	223	66-156-ア⑧イ⑧ウ⑧エ⑧/66-157-イ⑧/67-156-エ⑧/67-157-ア⑧	現地		○	
図 IV-21	F-806	34	66-141-ア②イ①ウ③	現地		○	
図 IV-22	F-807	42	64-142-イ①/65-142-ア③	廃棄?		○	
図 IV-22	F-808	44	65-142-ア④	廃棄		○	
図 IV-58	F-809	223	66-156-ア⑧イ⑧ウ⑧エ⑧/66-157-イ⑧/67-156-エ⑧/67-157-ア⑧	現地		×	
図 IV-21	F-810	34	66-142-ア④	現地		○	
図 IV-23	F-811	63	65-144-ウ①イ①より上	現地		○	
図 IV-58	F-812	225	66-157-イ⑧/67-157-ア⑧	現地		○	炭化物を P-127 に切られる
図 IV-23	F-813	52	66-143-ウ①/66-144-イ①/67-143-エ①/67-144-ア	不明		○	67-143-エ/67-144-ア未調査
図 IV-23	F-814	53	66-143-イ②	現地		○	
図 IV-22	F-815	35	66-141-エ①/66-142-ア⑤	廃棄		●	
図 IV-58	F-816	225	66-156-ウ⑧エ⑧/66-157-ア⑧イ⑧	現地		×	
図 IV-58	F-817	225	66-156-ウ⑧エ⑧/66-157-ア⑧イ⑧	現地	骨片	○	炭化物を P-84 に切られる
図 IV-58	F-818	225	66-156-ウ⑧エ⑧/66-157-ア⑧イ⑧	現地	骨片	●	
図 IV-23	F-819	54	66-143-イ③/67-143-ア	現地		○	67-143-ア未調査
図 IV-22	F-820	44	65-142-イ③ウ①/66-141-エ①②間/66-142-ア⑧イ②	現地	骨片	●	
図 IV-58	F-821	223	68-156-ウ⑧エ⑧/68-157-ア⑧イ⑧/69-156-エ⑧	現地		●	P-114 に切られる
図 IV-22	F-822	46	65-142-イ④/66-142-ア⑦	廃棄		○	
図 IV-32	F-823	130	70-158-ウ③イ①	現地		○	
図 IV-22	F-824	46	66-142-ア⑦イ③	現地		○	
図 IV-22	F-825	47	65-142-ア⑤	現地		○	
図 IV-36	F-826	145	68-152-イ⑧/69-152-ア④	現地		○	
図 IV-22	F-827	47	65-142-イ④⑤間/66-141-エ①②間/66-142-ア⑧	掘削		○	
図 IV-33	F-828	133	70-158-ウ③イ③	廃棄		×	
図 IV-22	F-829	45	65-142-イ⑤/66-142-ア⑨	廃棄		○	
図 IV-59	F-830	226	66-156-エ⑧	現地		×	
図 IV-23	F-831	55	66-142-ウ①/66-143-イ④	現地		○	
図 IV-23	F-832	48	65-142-イ⑥/66-142-ア⑩	現地		○	
図 IV-23	F-833	48	66-142-ア⑦イ⑩	現地		○	
図 IV-23	F-834	48	66-142-イ⑩	現地	骨片	○	
図 IV-22	F-835	35	66-141-イ②	廃棄		○	
図 IV-58	F-836	223	68-156-ウ⑧エ⑧/68-157-ア⑧イ⑧/69-156-エ⑧	現地	骨片	○	
図 IV-58	F-837	223	68-156-ウ⑧エ⑧/68-157-ア⑧イ⑧/69-156-エ⑧	現地	骨片	○	
図 IV-57	F-838	223	70-156-ウ⑧/70-157-イ①	現地	骨片	●	小ピット 1 基
図 IV-60	F-839	233	66-156-ウ⑧/66-157-イ⑧/67-156-エ⑧/67-157-ア⑧	現地		●	
図 IV-60	F-840	233	66-156-ア⑧イ⑧ウ⑧エ⑧/66-157-ア⑧	現地	骨片	●	
図 IV-59	F-841	227	70-156-ウ⑧/70-157-イ②	廃棄		×	
図 IV-58	F-842	224	68-157-イ⑧	現地		○	小ピット 2 基
図 IV-25	F-843	171	69-154-イ③ウ③	掘削		×	
図 IV-25	F-844	170	70-154-ア⑦イ⑦ウ⑦	掘削	骨片	●	
図 IV-25	F-845	170	70-154-ア⑦イ⑦	掘削	骨片	●	
図 IV-22	F-846	44	65-141-ウ③イ②	廃棄		○	
図 IV-23	F-847	50	66-142-イ⑩	現地	骨片	○	
図 IV-59	F-848	230	70-156-エ⑧	現地		×	
図 IV-60	F-849	233	66-156-ア⑧イ⑧ウ⑧エ⑧/66-157-ア⑧	現地		○	
図 IV-23	F-850	56	65-142-ウ③イ①/65-143-ア①イ③	現地		○	
図 IV-60	F-851	233	66-156-ウ⑧/66-157-イ⑧/67-156-エ⑧/67-157-ア⑧	現地		○	
図 IV-58	F-852	225	68-156-ウ⑧エ⑧/68-157-ア⑧イ⑧/69-156-ウ⑧エ⑧/69-157-ア⑧イ⑧	現地	骨片	●	炭化物を P-130 に切られる
図 IV-59	F-853	232	70-156-エ⑧	現地		×	
図 IV-60	F-854	234	70-156-ウ⑧/70-157-ア⑧イ⑧	現地		○	小ピット 1 基
図 IV-58	F-855	225	68-156-ウ⑧エ⑧/68-157-ア⑧イ⑧/69-156-ウ⑧エ⑧/69-157-ア⑧イ⑧	現地		○	
図 IV-60	F-856	234	70-156-ウ⑧/70-157-ア⑧イ⑧	現地		○	
図 IV-25	F-857	174	69-154-ウ③/70-154-エ①	現地?		×	
図 IV-36	F-858	211	70-158-ウ③	現地(?)	骨片	●	P-129 に切られる・土器片
図 IV-24	F-859	75	66-145-ウ③	廃棄		○	

IV 遺構

表 IV-2 続き

図番号	遺構名	生活面	位置	分類	現地確認内容物	フロケーション	備考
図 IV-24	F-860	75	66-146-ア③	廃棄		○	
図 IV-24	F-861	80	66-146-ア④	現地		○	
図 IV-60	F-862	234	66-156-ウ⑥/67-156-ウ⑦/工⑧	不明		○	
図 IV-61	F-863	235	66-156-ウ⑧/67-156-工⑨	現地	クルミ	○	
図 IV-23	F-864	57	64-143-イ①	現地		○	
図 IV-60	F-865	234	65-156-ウ⑨/66-156-工⑩	現地		○	
図 IV-25	F-866	171	68-154-イ⑪/ウ⑫/69-154-ア⑬	現地		○	
図 IV-24	F-867	76	66-145-ウ⑭/工⑮	現地		●	
図 IV-24	F-868	75	66-145-ウ⑯/工⑰	現地		●	
図 IV-25	F-869	171	70-154-ア⑱/イ⑲	廃棄		x	
図 IV-61	F-870	235	66-156-ウ⑳/67-156-工㉑	現地	骨片	●	
図 IV-61	F-871	235	65-156-ウ㉒/66-156-工㉓	現地		●	
図 IV-62	F-872	241	70-157-ウ㉔/工㉕	廃棄		○	
図 IV-23	F-873	67	66-145-イ⑳	現地		○	
図 IV-25	F-874	173	68-154-ウ㉖/工㉗	現地	骨片	○	
図 IV-25	F-875	173	68-154-ウ㉘/工㉙	現地	骨片	○	
図 IV-62	F-876	242	66-156-工㉚/66-157-ア㉛	不明		x	
図 IV-23	F-877	72	66-145-イ㉜/ウ㉝/工㉞	現地		○	
図 IV-59	F-878	229	68-156-イ㉞/ウ㉟	廃棄		●	
図 IV-62	F-879	241	70-157-ア㊱	現地	骨片・土器片	●	小ビット1基
図 IV-23	F-880	73	66-145-イ㊲	廃棄		○	
図 IV-62	F-881	241	70-157-ア㊳	現地	骨片	●	小ビット1基
図 IV-26	F-882	185	68-155-ア㊴/イ㊵	廃棄		x	土器片
図 IV-24	F-883	81	66-145-ウ㊶/工㊷/66-146-ア㊸	廃棄		○	
図 IV-38	F-884	158	67-153-イ④	現地		x	
図 IV-24	F-885	82	66-145-ウ㊹/工㊺/66-146-ア㊻/イ㊼	廃棄		○	
図 IV-23	F-886	64	64-144-ウ㊽/65-144-工㊾	現地	骨片	●	14C年代測定 (H14)
図 IV-25	F-887	174	70-154-工㊿	現地		x	
図 IV-24	F-888	82	64-146-ウ①/65-146-工②	廃棄		○	
図 IV-60	F-889	234	67-157-イ③/ウ④/68-157-ア⑤/工⑥	現地		●	
図 IV-25	F-890	90	64-146-ウ⑦	廃棄		○	
図 IV-25	F-891	171	69-155-イ⑧	不明		x	
図 IV-24	F-892	87	66-146-ウ⑨	現地		●	14C年代測定 (H14)
図 IV-26	F-893	183	69-155-ア⑩/68-155-イ⑪/⑫間	現地		○	
図 IV-38	F-894	217	65-156-イ⑬	廃棄		x	
図 IV-25	F-895	89	65-146-イ⑭/ウ⑮/66-146-ア⑯/工⑰	廃棄		○	積砂による段差あり
図 IV-25	F-896	89	66-146-ウ⑱/工⑲	現地		○	
図 IV-25	F-897	91	65-146-ア⑳	廃棄		○	
図 IV-38	F-898	217	65-156-ア㉑/イ㉒	廃棄		x	
図 IV-58	F-899	223	67-156-ウ㉓/工㉔	現地	ベンガラ	●	
図 IV-58	F-900	223	67-156-ウ㉕/工㉖	現地		○	
図 IV-26	F-901	114	68-149-ウ⑳	廃棄		●	土器片
図 IV-25	F-902	90	66-146-ウ㉗	現地		○	
図 IV-34	F-903	206	67-155-ウ㉘/67-156-イ㉙/68-155-工㉚/68-156-ア㉛	廃棄		x	
図 IV-59	F-904	226	67-156-ウ㉜/⑤間/67-157-イ⑥	現地		○	
図 IV-33	F-905	201	69-155-ウ㉝/69-156-イ㉞/70-155-工㉟/70-156-ア㊱	現地		○	
図 IV-61	F-906	235	68-157-ア㊲	現地		○	
図 IV-20	F-907	26	64-139-イ①	廃棄		○	
図 IV-59	F-908	226	64-156-イ②/65-156-ア③/④間	現地		●	
図 IV-26	F-909	115	68-150-イ④	現地		x	
図 IV-25	F-910	92	66-146-工⑤	廃棄		○	
図 IV-25	F-911	90	66-146-イ⑥	廃棄(?)		○	
図 IV-20	F-912	28	66-140-工⑦/66-141-ア⑧	現地		○	
図 IV-21	F-913	30	66-140-ウ⑨/66-141-イ⑩	現地		○	
図 IV-20	F-914	28	64-140-ウ⑪/64-141-イ⑫/65-140-工⑬/より上/65-141-ア⑭	現地	骨片	●	
図 IV-61	F-915	238	68-157-ア⑮	現地	骨片	●	
図 IV-34	F-916	202	70-155-工⑯	廃棄		●	
図 IV-25	F-917	96	65-147-イ⑰	現地		○	
図 IV-24	F-918	107	64-148-ウ⑱	廃棄		●	
図 IV-21	F-919	30	64-140-ウ⑲/64-141-イ⑳/65-140-工㉑/65-141-ア㉒	現地	骨片	●	
図 IV-59	F-920	230	64-156-イ㉓/65-156-ア㉔	廃棄		x	
図 IV-61	F-921	235	66-157-イ㉕/67-156-ウ㉖/工㉗/67-157-ア㉘/イ㉙	現地		●	小ビット1基
図 IV-21	F-922	32	64-140-ウ㉚/64-141-イ㉛/65-140-工㉜/65-141-ア㉝	現地	骨片	●	
図 IV-62	F-923	239	68-156-ウ㉞/68-157-ア㉟/イ㊱	現地		●	P-135に切られる
図 IV-34	F-924	204	69-156-イ㊲	廃棄		○	
図 IV-34	F-925	203	70-155-ウ㊳/工㊴/70-156-ア㊵/イ㊶	廃棄		x	
図 IV-34	F-926	204	70-156-イ㊷	現地		x	
図 IV-61	F-927	237	67-156-ウ㊸/67-157-イ㊹/68-156-工㊺/68-157-ア㊻	現地	骨片	x	
図 IV-24	F-928	108	65-147-工㊼	廃棄		○	
図 IV-25	F-929	91	64-146-ウ㊽/工㊾	廃棄		○	
図 IV-25	F-930	91	65-146-工㊿/65-147-ア①	現地		○	
図 IV-35	F-931	210	67-155-ウ②/工③/67-156-ア④/イ⑤/68-155-工⑥/68-156-ア⑦	廃棄		x	土器片等
図 IV-25	F-932	92	65-147-ア⑧	現地		○	
図 IV-58	F-933	225	68-156-ウ⑨/工⑩/68-157-ア⑪/イ⑫/69-156-ウ⑬/工⑭/69-157-ア⑮/イ⑯	現地		x	
図 IV-27	F-934	119	69-151-ウ⑰/70-151-ア⑱/ウ⑲/工㉑	現地		○	

表 IV-2 続き

図番号	遺構名	生活面	位置	分類	現地確認内容物	フロア・デーション	備考
図 IV-58	F-935	225	68-156-ウ⑤/工⑤/68-157-ア⑦/イ④/69-156-ウ⑥/工⑥/69-157-ア⑧/イ⑤	現地		×	P-144 に切られる
図 IV-20	F-936	25	66-139-エ①	現地		○	
図 IV-59	F-937	230	69-156-工⑥/69-157-ア⑧	現地		○	
図 IV-20	F-938	28	66-140-ア①/イ①より上/ウ①/エ①	現地		○	
図 IV-21	F-939	30	66-140-ウ②	廃棄		○	
図 IV-20	F-940	29	64-140-ウ②/64-141-イ②/65-140-エ①	現地		○	
図 IV-20	F-941	31	66-140-ウ③	現地		○	
図 IV-21	F-942	30	65-140-ウ①/エ②/65-141-イ①	現地	骨片	○	
図 IV-21	F-943	30	64-140-ウ③/64-141-イ③/65-140-エ②/65-141-ア②	廃棄		○	
図 IV-21	F-944	30	64-140-ウ③/64-141-イ③/65-140-エ②/65-141-ア②	現地		○	
図 IV-21	F-945	30	64-140-エ①	現地		○	
図 IV-60	F-946	234	69-157-ア⑧/イ④	現地		○	小ピット1基
図 IV-21	F-947	32	66-140-イ①/ウ④	廃棄		○	
図 IV-21	F-948	32	66-140-ア①/イ④/ウ④/エ①	廃棄		○	
図 IV-60	F-949	234	68-157-イ④/ウ④/69-157-ア⑧/イ④/エ④/間	廃棄	クルミ	○	
図 IV-21	F-950	32	65-140-ウ②/エ③	廃棄	骨片	○	
図 IV-35	F-951	144	70-152-ウ③	現地		×	
図 IV-34	F-952	205	68-155-ウ⑥/間/68-156-イ⑧/69-155-エ⑥/69-156-ア④	廃棄(?)		○	
図 IV-34	F-953	206	69-155-ウ⑥/エ⑥/間/69-156-ア④/イ⑤	現地		○	
図 IV-35	F-954	144	69-152-イ③/ウ③/エ③/間	現地		○	
図 IV-35	F-955	144	70-152-エ③	現地		×	
図 IV-34	F-956	205	70-155-エ②/間/70-156-ア②	現地		×	
図 IV-36	F-957	145	70-152-ウ③	現地		○	
図 IV-20	F-958	33	66-140-ア②/イ②/ウ⑤/エ②	現地		○	
図 IV-36	F-959	145	70-152-エ④	現地		×	
図 IV-35	F-960	210	69-155-ウ⑥/エ⑥/69-156-ア④/イ⑤	現地		×	
図 IV-35	F-961	210	69-155-ウ⑥/69-156-イ⑤/70-156-ア④	現地		○	
図 IV-35	F-962	210	69-155-ウ⑥/69-156-イ⑤/70-156-ア④	現地	骨片	●	
図 IV-62	F-963	239	68-157-イ④/69-156-エ④/間/69-157-ア⑧	廃棄	骨片	×	
図 IV-37	F-964	216	68-156-イ③/69-156-ア④	現地		×	
図 IV-36	F-965	146	70-152-ウ③	現地		×	
図 IV-62	F-966	240	69-156-ウ⑥/69-157-ア④/イ⑤	廃棄	骨片	○	
図 IV-24	F-967	110	64-148-イ①	現地		×	
図 IV-24	F-968	110	65-148-ア②	現地		×	
図 IV-20	F-969	25	65-138-イ①/ウ①/66-138-ア②/エ①	現地		●	
図 IV-62	F-970	241	67-157-ウ④/エ④	廃棄	骨片	×	
図 IV-62	F-971	241	69-157-ア⑧/イ④/ウ④/エ④	廃棄		×	
図 IV-26	F-972	184	69-155-ウ④/エ④	現地		×	

## 集石・剥片集中・細円礫集中

図番号	遺構名	位置	生活面	図版番号	備考
図 IV-63	S-4	69-158-ウ	189		軽石
図 IV-63	S-5	69-158-ア⑦/エ	189		礫
図 IV-34	S-6	67-158-エ	135		黒曜石
図 IV-63	S-7	69-158-ウ	189		軽石
図 IV-33	S-15	67-158-ア⑤	134	図版 IV-16	礫・礫石器
図 IV-63	S-16	70-157-ウ④	131	図版 IV-16	礫・礫石器
図 IV-63	S-17	70-157-エ⑤	134	図版 IV-16	礫・礫石器
図 IV-63	S-18	70-157-エ⑤	134	図版 IV-16	礫・礫石器
図 IV-63	S-19	66-143-ウ①	52	図版 IV-16	礫
図 IV-63	S-20	66-147-イ③	96	図版 IV-16	礫
図 IV-20	剥片集中	66-139-ア①	25		琥珀色玉髄
図 IV-20	剥片集中	65-138-ウ①	25		黒曜石
図 IV-24	剥片集中	64-146-イ①/65-146-ア①	82		黒曜石・頁岩・チャート
図 IV-24	剥片集中	65-145-エ①	84		黒曜石
図 IV-29	剥片集中	67-156-ア①	125		黒曜石
図 IV-29	剥片集中	70-155-ウ②	125		黒曜石
図 IV-32	剥片集中	68-157-ア②	130		黒曜石
図 IV-42	剥片集中	65-153-ウ②	169		黒曜石
図 IV-42	剥片集中	65-153-エ①	169		黒曜石
図 IV-46	剥片集中	68-157-ア⑤	190		メノウ(玉髄)
図 IV-46	細円礫集中 (F-570)	70-154-イ④/間	160		焼けている
図 IV-26	細円礫集中	67-157-ア⑦	207		P-81 付近
図 IV-52	細円礫集中	66-157-イ③	209		
図 IV-52	細円礫集中	69-156-イ④/70-156-ア④	210		
図 IV-58	細円礫集中	66-156-ア⑤	224		

IV 遺構

表IV-3 遺構土壌フローテーション成果一覧

遺構名	処理番号	風乾土壌 重量 kg	2.0mm 炭化 物重量 g	残滓 重量 g	骨重量 g	土器 重量 g	土器 点数	土製品 重量 g	石器類 重量 g	黒曜石 重量 g	石器等 点数	ベンガラ・ 石炭等重量 g	備考
土坑													
P-2	11-471	4.5	なし	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
P-4	11-453・457	15.0	2.1	22	0.3	4.7	1	1.0	0.6	0.6			
P-6	11-455	1.0	0.2	125	なし	なし	なし	なし	0.3	0.3			
P-6	11-435・492・493	29.4	4.8	2,008	0.1	5.2	0	なし	7.4	1.0	石炭 1	石炭 0.4	F-101 の名称で採取
P-26	13-31	1.2	0.1	1	なし	0.2	0	なし	0.0	0.0			覆土 1 層
P-27	13-53	5.2	0.5	10	なし	5.8	0	なし	0.0	0.0			
P-30	13-391	30.2	0.7	13	0.0	0.7	0	0.6	1.4	0.6			
P-36	13-155・426	30.6	3.0	20	なし	0.8	0	なし	0.2	0.2			
P-46	13-344	6.7	119.5	55	なし	1.1	0	0.0	なし	なし			
P-48	13-307	7.4	2.2	12	なし	2.8	0	なし	0.1	0.1			覆土 6 層
P-49	13-275-278	29.8	9.4	118	1.8	15.5	0	0.0	3.5	2.4	石炭 1	ベンガラ 0.0	
P-54	13-392	1.1	2.4	23	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
P-60	13-312	22.0	13.3	47	0.7	3.5	0	なし	5.6	2.0		ベンガラ 0.2	
P-80	13-384・385	9.8	16.8	325	なし	8.9	0	なし	0.1	0.0		石炭 0.1	
P-81	13-408	3.6	21.4	27	なし	8.5	0	なし	0.1	なし			
P-85	13-418	2.0	3.1	6	なし	なし	なし	なし	なし	なし			覆土 2 層
P-85	13-440	9.4	0.3	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			覆土 6 層
P-95	13-499	4.0	3.8	12	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
P-99	13-523	4.7	8.2	11	なし	なし	なし	なし	0.4	0.4	石炭 1		
P-101	13-541	(0.7)	0.4	1	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
P-102	13-552	(3.8)	7.0	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
P-108	13-584	7.1	3.8	10	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
P-129	14-110	1.9	1.2	9	なし	なし	なし	なし	0.8	0.1			覆土 3 層
焼土													
F-12	13-289	2.1	0.0	1	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-23	13-502	(1.0)	0.6	1	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-23 か	13-146	3.1	3.3	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-31	13-572	(1.8)	0.3	1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-34	11-193	4.8	0.0	0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-35	11-184	1.0	0.0	0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-39	11-343	4.2	0.0	204	なし	なし	なし	なし	0.1	0.1			
F-41	11-381・13-185	3.5	0.1	5	0.0	なし	なし	なし	1.3	0.8			
F-42	11-341	3.8	0.0	119	なし	0.8	0	なし	0.8	0.8			
F-43	11-340	5.7	0.8	200	なし	7.4	0	1.7	3.6	3.6			
F-44	11-354・653	9.8	4.5	325	1.2	13.8	1	なし	3.0	3.0			
F-45	11-342	0.8	なし	12	なし	なし	なし	なし	なし	なし		石炭 0.1	
F-46	13-301	3.6	0.9	20	0.4	1.7	0	1.6	0.0	0.0			
F-47	11-378・396・13-203	23.4	1.9	444	9.6	3.9	0	なし	4.8	3.8			
F-48	11-379・13-173	7.7	9.5	7	0.0	1.9	0	なし	0.0	0.0			
F-50	11-345	4.3	なし	156	なし	なし	なし	なし	0.9	0.9			
F-51	11-382	3.2	0.6	10	0.0	5.7	0	なし	0.8	0.8			
F-52	11-383	1.6	0.2	5	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-53	11-384	4.0	0.0	1	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-54	11-377・598・13-196	8.8	1.1	15	0.0	9.3	0	なし	なし	なし			
F-55	11-361	4.8	5.3	13	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-57	13-47	13.0	1.1	98	0.9	0.8	0	0.4	0.0	0.0		石炭 0.0	
F-58	11-415・599	6.1	0.0	74	3.5	6.4	1	なし	0.7	0.6			
F-60	11-408	2.7	0.4	20	0.1	4.4	1	なし	0.0	0.0			
F-62	11-412・644	4.0	0.0	12	0.0	0.4	0	0.0	0.3	0.2			
F-63	11-407	3.8	1.8	126	2.8	14.7	3	なし	0.3	なし			
F-68	11-428	0.7	0.0	1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-69	11-425	4.1	0.0	18	1.7	2.6	0	なし	0.0	0.0			
F-70	11-414・456	4.1	2.0	57	0.0	4.1	1	なし	0.6	0.2			
F-72	11-411・654	3.8	0.0	84	20.7	4.3	0	0.2	0.7	0.2			
F-73	11-404	0.8	0.3	9	なし	6.8	1	なし	なし	なし			
F-74	11-450	7.1	0.0	59	2.3	3.6	0	なし	0.0	0.0			
F-75	11-452	6.6	0.2	162	30.7	3.0	0	0.3	0.5	0.4			
F-76	11-454	1.3	0.0	4	2.3	なし	なし	0.3	0.1	0.0			
F-77	11-491	7.5	2.5	86	1.4	2.9	0	なし	0.3	0.0			
F-78	11-441・13-207・208	15.8	2.5	489	5.9	21.6	0	なし	2.3	2.0			
F-79	11-655	0.1	なし	26	なし	なし	なし	なし	3.3	なし			
F-80	11-446・13-280・281	27.8	7.3	1,058	55.9	164.4	1	27.2	4.6	3.1		ベンガラ 0.0	
F-82	11-409	0.8	0.2	17	0.2	なし	なし	なし	2.3	0.2			
F-83	11-406	4.2	1.3	39	3.6	2.5	0	なし	0.8	0.7			
F-84	11-410	1.8	0.0	21	0.0	なし	なし	なし	6.5	1.0			
F-85	11-488	4.1	0.3	5	0.0	1.8	0	なし	0.1	0.0			
F-86	11-440	0.2	0.2	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-87	11-656	0.0	なし	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-88	11-486	5.1	3.1	655	0.1	9.0	1	なし	1.0	なし			残滓にオニグルミ内果皮多い
F-89	11-416・434	13.5	0.0	105	2.0	1.4	0	なし	0.8	0.4			
F-90	11-479	2.3	0.1	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			

表 IV-3 続き

遺構名	処理番号	風乾土壌 電量 kg	2.0mm 炭化 物重量 g	残渣 重量 g	骨重量 g	土器 重量 g	土器 点数	土製品 重量 g	石器類 重量 g	黒曜石 重量 g	石器等点数	ベンガラ・ 石炭等重量 g	備考
F-91	11-481	7.1	1.5	148	5.2	12.8	4	なし	0.0	0.0			
F-92	11-489	8.2	0.9	258	9.1	8.2	0	なし	2.2	0.0			残渣に不明物質 200g
F-93	11-472	0.8	0.1	4	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-94	11-466	6.5	0.7	20	0.1	5.0	0	なし	なし	なし			
F-95	11-507	2.3	0.4	9	0.2	0.1	0	なし	なし	なし			
F-96	11-510・514・646・13-460	19.3	10.0	216	12.1	49.4	3	1.1	2.3	0.4	石鏃 1		
F-97	11-442	0.4	0.4	2	0.0	1.1	0	なし	なし	なし			
F-98	11-439	3.8	0.4	10	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-99	11-447・647・648	8.8	0.4	135	8.0	27.8	5	なし	1.1	0.8	石鏃 1		
F-100	13-256	8.5	8.4	146	2.8	39.0	0	8.8	0.4	0.4			
F-101 か	11-541	0.5	0.1	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			袋に F-161 とあり
F-102	11-431	4.8	0.0	43	0.4	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-103	11-520	4.8	1.0	7	0.0	なし	なし	なし	0.0	なし			
F-104	11-484	1.1	1.2	10	0.0	0.9	0	なし	0.7	0.7			
F-105	11-485・711・13-267-272・283	33.9	15.6	1,727	57.7	206.7	7	35.5	22.4	10.1		ベンガラ 0.2	
F-106	11-490・717・13-282・511	22.0	8.0	125	28.3	50.1	2	4.4	15.0	1.1			
F-107	11-526	2.4	5.2	65	0.4	15.3	0	なし	0.6	0.1	剥片石器 1		
F-109	11-482	3.2	0.1	3	0.0	1.1	0	なし	なし	なし			
F-110	11-495	4.7	4.9	9	0.8	1.0	0	なし	0.0	0.0			
F-111	11-451	1.1	0.1	3	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-113	11-465・13-163・164・211・220・ 236・284・236・284	134.0	22.9	770	54.1	132.8	7	0.1	44.5	25.5		ベンガラ 0.6	
F-114	13-461	1.2	0.3	1	0.0	0.0	0	なし	なし	なし			
F-115	11-591・13-294	6.7	11.0	96	0.6	20.8	0	なし	0.4	0.0			
F-116	11-555	7.0	0.1	20	0.4	1.9	なし	なし	0.0	0.0			
F-117	11-487・13-472	9.5	1.1	3	0.2	0.0	0	なし	0.0	0.0			
F-118	11-657	0.1	0.2	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-119	11-470	0.7	0.0	0	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-120	11-494	5.1	1.8	40	3.8	12.1	1	1.1	0.0	0.0			
F-121	11-505	1.3	0.0	20	0.3	17.4	1	なし	0.2	なし			
F-122	11-506	4.2	0.0	19	0.0	9.1	1	なし	0.1	0.0			
F-123	11-523	0.3	0.0	7	0.0	0.9	0	なし	なし	なし			
F-124	11-587	0.1	0.0	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-125	11-512	1.7	1.1	44	0.5	31.7	1	なし	なし	なし			
F-126	11-513・650	0.9	0.7	8	0.3	2.8	0	なし	0.0	なし			
F-127	11-511・651	1.6	0.0	2	0.2	1.0	0	なし	0.0	なし			
F-128	11-547	0.7	4.6	9	0.3	3.8	0	なし	0.5	なし			
F-155	11-534・14-62	11.5	9.2	5	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-175	13-621	3.9	2.9	3	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-195	13-504	(2.0)	1.4	2	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-261	13-1	0.6	0.0	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-262	13-492	(2.6)	0.1	0	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			67-155-d 区以外
F-263	13-2	3.7	0.8	16	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-264	13-3-7	23.4	0.8	85	0.5	6.1	0	なし	46.2	46.2	剥片石器 1	石炭 0.0	
F-265	13-524	12.0	0.2	12	なし	0.1	0	なし	0.0	0.0		石炭 0.0	
F-266	13-9	2.0	0.6	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし		石炭 0.0	
F-267	13-10	3.2	10.3	3	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-268	13-11・12	8.4	0.5	62	なし	5.8	2	なし	8.1	8.1	剥片石器 1		
F-269	13-13.52	27.9	24.1	239	2.9	14.9	1	なし	1.0	1.0		石炭 0.0	
F-270	13-14・15	6.0	1.2	8	なし	0.4	0	なし	なし	なし			
F-271	13-16	6.5	0.0	29	0.0	なし	なし	なし	0.4	0.4			
F-272	13-17・505・616	(24.6)	1.8	236	0.5	37.1	1	2.5	88.9	60.6			黒曜石発掘している
F-273	13-21	8.0	1.1	114	1.0	2.5	0	なし	0.4	0.4			
F-274	13-18・512	(4.3)	1.2	1	なし	0.0	0	なし	0.0	0.0			
F-275	13-20	2.2	0.5	11	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-276	13-19・503	10.6	0.5	89	0.2	24.3	1	なし	60.1	47.3		石炭 0.0	
F-277	13-22	25.4	5.5	114	0.0	9.3	0	なし	19.0	17.4		石炭 0.0	
F-278	13-23	7.3	0.9	197	3.8	1.2	0	なし	0.4	0.2			
F-279	13-28	5.6	1.4	7	なし	1.2	0	なし	0.2	0.2			
F-280	13-24	7.6	1.3	12	0.1	なし	なし	なし	0.1	0.1			
F-281	13-95	10.4	0.7	6	0.1	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-282	13-37-39・439	47.8	5.1	1,639	0.6	16.7	2	13	19.3	14.6	石鏃 1	石炭 0.1	
F-283	13-29	12.3	2.3	91	1.2	1.8	0	なし	2.8	2.8		石炭 0.1	
F-284	13-30	0.0	0.0	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-285	13-27	1.5	0.2	7	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-286	13-32	8.7	0.0	212	0.0	なし	なし	なし	1.3	1.3			
F-287	13-33・42	62.4	6.8	1,964	2.3	77.5	4	なし	17.7	16.1	石鏃 1 石核 1	石炭 0.0	
F-288	13-34・50・51	9.8	2.3	258	0.1	なし	なし	なし	5.6	5.1			
F-289	13-35・555	12.1	3.5	78	0.0	11.9	0	なし	1.5	1.5		石炭 0.0	
F-290	13-40	3.6	0.4	2	なし	0.8	0	なし	0.0	0.0			
F-291	13-36・525・617	15.7	0.7	8	なし	2.0	0	0.0	1.5	1.5		ベンガラ 0.1	
F-292	13-54・63	20.8	6.4	189	1.7	2.1	0	なし	2.7	2.0			
F-293	13-43	3.4	0.1	21	なし	0.0	0	なし	0.0	0.0			
F-294	13-44	4.2	1.4	14	なし	0.4	0	なし	0.0	0.0			

IV 遺構

表 IV-3 続き

遺構名	処理番号	風乾土壌 重量 kg	2.0mm 炭化 物平均 g	残渣 重量 g	骨重量 g	土器 重量 g	土器 点数	土製品 重量 g	石器類 重量 g	黒曜石 重量 g	石器等点数	ベンガラ・ 石炭等重量 g	備考
F-295	13-45・69	11.6	1.0	34	0.1	11.0	0	0.1	0.1	0.0			
F-296	13-55	16.3	1.0	26	0.0	25.5	1	なし	0.0	なし			
F-297	13-46	11.5	1.0	271	0.0	なし	なし	なし	0.7	0.7			
F-298	13-114	21.2	4.9	9	0.0	4.8	0	なし	0.0	0.0			
F-299	13-91	15.7	2.8	40	0.2	6.0	0	なし	0.4	0.4			
F-300	13-87	32.0	132.1	782	0.4	99.2	4	なし	10.7	9.1			
F-301	13-58	6.5	0.4	2	なし	0.8	0	なし	0.0	0.0			
F-302	13-48	6.8	1.2	19	なし	11.5	2	なし	3.2	3.2			
F-303	13-49・542	33.1	3.3	228	1.8	53.7	1	なし	121.9	114.1	剥片石器片2石核1	ベンガラ 0.0	
F-304	13-41・57・76・78・79	89.6	6.7	2,173	3.1	25.8	0	0.2	15.7	9.6		ベンガラ 0.0 石炭 0.0	
F-305	13-60・64	16.0	0.4	77	0.1	8.3	0	なし	0.0	0.0			
F-306	13-527	11.9	2.6	50	なし	1.4	0	0.0	0.0	0.0		石炭 0.0	
F-308	13-86	67.6	14.5	941	4.6	41.2	7	なし	6.7	3.3			
F-309	13-62	5.4	0.0	21	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-310	13-56	1.2	0.9	5	なし	4.8	0	なし	0.0	0.0			
F-311	13-68	14.6	3.1	6	0.0	0.0	0	なし	0.0	0.0		石炭 0.0	
F-314	13-82	20.2	13.0	25	なし	15.8	0	0.0	0.1	0.1			
F-315	13-59	4.1	1.8	28	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-316	13-61・553	29.9	6.3	127	2.4	36.7	1	0.3	3.3	3.0		ベンガラ 0.1 石炭 0.0	
F-317	13-67	4.2	1.2	2	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0m			
F-318	13-65・70	8.2	10.0	7	0.0	0.0	0	なし	なし	なし			
F-319	13-71	9.7	0.2	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし		石炭 0.0	
F-320	13-72	0.4	0.0	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-321	13-73・83	19.1	10.7	102	0.1	15.3	0	0.2	0.0	0.0			
F-322	13-74	8.3	80.6	57	0.0	5.6	0	なし	0.1	0.1			
F-323	13-66	6.9	7.8	34	0.0	20.3	2	なし	0.0	0.0		石炭 0.0	
F-324	13-88	6.3	0.0	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-325	13-117・129・147	80.9	12.7	81	0.7	27.3	1	なし	17.7	17.7			
F-326	13-75	0.8	0.4	1	なし	0.1	0	なし	なし	なし			
F-327	13-81・573	(4.4)	0.5	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-328	13-80	5.4	0.4	10	なし	0.0	0	なし	なし	なし			
F-329	13-118	36.9	13.5	92	0.1	33.9	2	なし	7.6	6.1			
F-330	13-96	30.5	5.5	100	0.2	7.7	0	なし	2.4	2.2			
F-331	13-97	39.2	1.5	148	1.0	4.0	0	なし	5.1	5.0			
F-332	13-90	63.5	8.0	169	0.2	44.2	1	なし	1.5	1.4			
F-333	13-178	9.0	11.8	54	1.8	28.1	1	なし	4.9	4.9			
F-334	13-103・120	41.9	2.3	136	0.3	22.3	0	なし	10.8	10.8			
F-335	13-85	4.2	2.6	1	なし	0.2	0	なし	なし	なし			
F-336	13-92	2.3	0.0	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-337	13-104	8.7	1.4	25	0.1	6.3	0	なし	なし	なし			
F-338	13-514	(2.6)	0.2	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-339	13-489	5.9	1.4	1	0.0	なし	なし	なし	0.1	0.1			
F-340	13-93・130	69.8	35.1	764	16.1	60.9	4	9.0	7.8	5.4			
F-341	13-94・131	49.6	18.7	556	6.5	13.4	0	2.1	19.2	13.7			
F-342	13-105	19.9	7.2	37	0.0	10.7	0	なし	なし	なし			
F-343	13-84・543	13.2	2.5	26	0.0	4.8	0	なし	0.0	0.0			
F-344	13-98	1.7	0.2	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-345	13-152	3.1	1.7	2	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-346	13-99・317	10.9	5.9	4	なし	0.0	0	なし	0.0	0.0			
F-347	13-89	3.3	12.2	9	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-348	13-106・111	58.9	4.6	567	0.0	11.9	1	3.1	1.6	0.9			
F-350	13-108	5.5	3.3	17	なし	10.5	0	なし	0.8	0.8	石炭 1		焼土の上の炭化物層
F-350 欠	13-102	2.7	32.8	66	なし	6.2	0	なし	0.4	0.2			
F-352	13-109・557	(7.1)	8.4	6	なし	0.5	0	なし	なし	なし			
F-353	13-148	6.2	2.2	34	0.1	4.3	0	なし	1.6	1.6			
F-354	13-110・121・123・132	50.9	9.5	89	4.5	12.2	0	0.6	3.1	1.9	石炭 1		
F-355	13-119・133	7.0	0.9	2	なし	0.1	0	なし	0.1	0.1			
F-356	13-122・134	14.1	2.5	55	0.0	1.0	0	なし	1.9	1.9			
F-357	13-112	1.9	5.8	8	0.0	1.3	0	なし	0.7	0.6			
F-358	13-113・124	8.2	1.3	16	0.0	1.4	0	なし	0.1	0.1			
F-359	13-125・328	42.1	13.8	91	0.3	41.6	2	5.0	4.2	1.2			
F-360	13-135	1.0	0.2	2	なし	なし	なし	なし	0.2	0.2			
F-361	13-116	7.7	3.3	46	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-362	13-126・322	13.0	5.3	3	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-363	13-142	6.2	4.3	4	なし	1.4	0	なし	なし	なし			
F-364	13-127	7.7	5.0	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-365	13-136	5.5	0.1	67	0.1	なし	なし	2.6	0.0	0.0			
F-366	13-556・574	14.3	4.8	18	0.4	5.7	1	なし	0.5	0.5			
F-367	13-345・558	8.8	1.2	210	0.0	35.2	1	15.5	2.9	2.9			
F-368	13-473	1.3	0.0	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-369	13-128	1.0	0.0	1	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-372	13-143・346	7.0	7.1	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし		石炭 0.0	
F-373	13-212	0.8	0.0	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-374	13-137	3.9	0.3	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			

表 IV-3 続き

遺構名	処理番号	風乾土壌 重量 kg	2.0mm 炭化 物重量 g	残滓 重量 g	骨重量 g	土器 重量 g	土器 点数	土製品 重量 g	石器類 重量 g	黒曜石 重量 g	石器等点数	ベンガラ・ 石炭等重量 g	備考
F-375	13-156	27.3	45.6	250	0.0	5.4	0	なし	1.8	0.0			
F-377	13-149	6.7	1.9	7	なし	6.0	1	なし	0.0	0.0			
F-378	13-340	0.1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-379	13-441・526	(27.2)	19.2	294	10.1	43.3	2	なし	0.2	0.2		石炭 0.0	
F-380	13-144	2.4	0.2	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-381	13-153	5.7	4.3	92	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-382	13-145	0.3	2.0	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-383	13-165	7.1	1.8	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-383	13-329	3.7	0.7	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-384	13-162	81.5	11.8	367	1.9	36.5	2	なし	16.8	9.0		磨製石器片 1	
F-385	13-151	5.0	16.6	1	なし	0.0	0	なし	なし	なし			
F-386	13-154・559	(19.7)	13.0	45	0.0	2.3	0	なし	0.0	0.0		ベンガラ 0.0	
F-387	13-100・115・585	(46.2)	7.6	123	0.0	11.6	0	なし	1.0	0.3			
F-388	13-157	11.9	14.7	150	0.2	29.4	2	なし	0.8	0.5			
F-390	13-158・255	7.3	5.5	296	1.7	2.0	1	4.0	0.0	なし			
F-391	13-159	13.0	2.5	2	なし	0.9	0	なし	なし	なし			
F-392	13-160	4.6	5.8	19	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-392	13-242	2.2	2.8	11	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-394	13-179	2.5	7.8	18	0.9	5.0	1	なし	0.1	0.1			
F-395	13-166・560	17.9	7.9	27	なし	3.4	0	なし	0.0	0.0		ベンガラ 0.0	
F-396	13-161・167・182・202・205	112.1	9.5	99	1.2	25.0	2	0.5	2.1	1.5			
F-397	13-168	4.6	7.9	5	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-398	13-169	3.4	1.5	13	0.0	9.0	0	なし	0.4	なし			
F-399	13-170	8.8	0.6	39	0.3	10.2	0	なし	0.2	なし			
F-400	13-171	3.8	4.6	2	0.1	1.0	0	なし	0.0	0.0			
F-401	13-175・575・629	10.8	7.3	20	0.0	0.3	0	なし	なし	なし			
F-402	13-176	1.0	0.0	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-403	13-186	4.0	5.8	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-404	13-172・187・197・231-235	57.3	59.0	839	142.1	311.5	18	6.0	31.6	21.3		石炭 1 石核 1	ベンガラ 0.1 石炭 12.9
F-405	13-177	4.9	12.7	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-406	13-180	17.6	5.0	73	0.0	18.6	0	なし	0.6	0.0			
F-407	13-188	4.9	20.5	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-408	13-193	11.7	12.0	17	0.3	なし	なし	なし	なし	なし			
F-409	13-189	2.1	5.6	5	なし	0.6	0	なし	なし	なし			
F-410	13-190	3.1	1.1	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-411	13-181	5.5	0.2	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-412	13-192・323・330・331	48.7	34.0	389	0.2	36.2	2	なし	3.7	3.7			
F-413	13-191	1.1	0.0	0	なし	なし	なし	なし	0.2	0.2			
F-414	13-251	8.1	4.3	178	0.8	10.5	0	なし	9.7	8.2		新片石器片 1	
F-415	13-194	1.6	9.9	4	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-416	13-184	13.0	4.2	32	0.7	1.0	0	なし	0.0	0.0			
F-417	13-198	1.4	0.1	1	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-418	13-199・206	22.3	7.1	220	4.6	22.2	1	なし	15.3	3.5		ベンガラ 1.2	
F-418 他	13-195	3.0	14.2	3	なし	0.2	0	なし	なし	なし			遺構外かも知れず
F-419	13-201	9.3	7.5	7	0.2	26.4	0	なし	4.3	2.6		石炭 0.1	
F-420	13-183・213・221・237・250・606	75.7	47.9	1,647	8.5	54.5	2	18.2	18.5	11.4		石炭 5.0	暗掘工により攪乱
F-422	13-204	5.7	6.4	2	なし	なし	なし	なし	0.0	なし			
F-423	13-209・14-39	10.3	14.8	33	0.0	2.8	0	なし	0.8	0.6			
F-424	13-210	28.5	11.8	262	なし	3.0	0	なし	22.4	22.4			
F-425	13-219	6.3	0.9	33	0.2	0.9	0	なし	0.1	0.1			
F-426	13-214	3.3	1.6	2	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-427	13-215・216	5.0	11.6	105	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-428	13-223・238	11.1	0.2	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-429	13-224・239	15.0	1.5	3	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-430	13-240・474	6.6	0.4	2	なし	0.0	0	なし	なし	なし			
F-432	13-227・241・252	19.3	8.9	466	3.0	19.2	1	0.2	2.3	1.4		石炭 0.8	
F-433	13-226・243・253・254	11.2	6.7	138	3.0	0.3	0	なし	8.4	7.7		石炭 1	
F-434	13-217・225・244	6.0	2.0	158	0.7	4.0	0	なし	3.6	1.9		石炭 0.1	
F-435	13-228	23.5	1.2	178	0.0	20.5	1	0.7	0.4	0.4			
F-436	13-229・615	33.9	1.2	121	0.9	9.7	0	0.0	0.4	0.1		石炭 0.0	
F-437	13-218・230・245	16.3	1.2	62	0.1	23.4	1	なし	2.2	2.2			
F-438	13-290	0.9	0.2	2	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-439	13-246	1.6	1.0	1	なし	0.0	0	なし	0.0	0.0			
F-441	13-249	0.3	0.0	28	0.0	25.4	1	なし	0.1	0.1			
F-442	13-262	9.3	3.9	371	15.2	86.8	6	なし	6.5	3.3			
F-444	13-247	4.5	3.5	78	0.1	21.3	0	0.0	なし	なし			
F-446	13-248・518	(3.8)	0.1	4	なし	1.4	0	なし	0.4	0.4			
F-447	13-257	8.5	6.3	4	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-448	13-263・595	14.9	13.2	142	0.0	15.1	0	なし	0.1	0.1		石炭 0.0	
F-449	13-361	7.6	1.8	55	0.6	7.5	0	なし	0.0	0.0			
F-450	13-258	2.2	3.2	21	なし	1.4	0	なし	0.0	0.0			
F-451	13-259・264	4.8	1.9	67	0.4	0.5	0	なし	0.0	0.0			
F-452	13-260・265	0.9	0.5	26	0.2	3.2	0	なし	0.1	0.1			
F-453	13-266	2.9	2.7	82	5.3	0.6	0	なし	0.6	0.3			

## IV 遺構

表 IV-3 続き

遺構名	処理番号	風乾土塊 重量 kg	2.0mm 炭化 物重量 g	残渣 重量 g	骨重量 g	土器 重量 g	土器 点数	土製品 重量 g	石器類 重量 g	黒曜石 重量 g	石器等 点数	ベンガラ・ 石炭等重量 g	備考
F-454	13-299	7.3	5.2	38	1.1	1.8	0	なし	0.3	0.3		ベンガラ 0.0	
F-456	13-273	2.2	0	5	なし	なし	なし	なし	なし	なし		ベンガラ 0.1	
F-457	13-274	27.4	33.6	16	1.5	2.0	0	なし	0.0	0.0		石炭 0.0	残渣に粘土状の不明物
F-458	13-285	4.9	0.9	2	なし	なし	なし	なし	0.6	0.6			
F-459	13-261・287・288・304	86.7	398.6	11,624	0.1	421.5	29	15.7	18.1	1.6	石燧 1	ベンガラ 0.0	オニグルミ内果皮の集積
F-460	か 13-291	4.4	0.6	5	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-462	13-332	1.6	1.2	1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-463	13-347・431	9.8	0.6	27	0.0	8.5	1	なし	0.0	0.0			
F-464	13-279	10.9	3.0	8	なし	2.2	0	なし	なし	なし			
F-466	13-295	6.1	1.7	11	0.8	3.1	1	なし	0.4	0.0			
F-467	13-286	3.7	1.5	4	0.0	なし	なし	なし	0.0	なし		石炭 0.1	
F-468	13-308	4.1	0.0	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-469	13-305	11.5	20.0	30	3.8	0.0	0	なし	0.1	0.1			
F-470	13-293	4.6	1.0	59	0.8	2.4	0	1.6	0.0	0.0			
F-472	13-296	4.9	5.6	79	0.8	5.9	0	なし	2.4	1.0		ベンガラ 0.0	
F-473	13-300	6.7	3.6	146	0.1	5.2	0	なし	0.0	0.0			
F-474	13-297	1.9	6.8	42	1.6	9.5	0	なし	0.0	0.0			
F-475	13-303	4.2	28.1	23	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-476	13-309	12.8	14.8	84	2.0	1.6	0	なし	0.1	0.0			
F-477	13-310	9.7	4.6	14	0.2	0.8	0	なし	0.0	0.0			
F-478	13-306	23.7	11.0	161	0.0	0.0	なし	なし	2.3	2.3			
F-479	13-302・519	(3.4)	0.0	1	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-480	13-313	2.9	0.0	3	なし	なし	なし	なし	0.0	なし			
F-481	13-366	13.3	1.8	6	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-482	13-311	5.5	12.4	51	1.1	0.4	0	なし	0.1	0.0		ベンガラ 0.0	
F-483	13-314	0.4	0.0	0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-484	13-413	7.8	1.5	7	なし	3.3	0	なし	なし	なし			
F-485	13-333	12.2	15.8	40	1.0	1.1	0	なし	0.0	0.0			
F-487	13-316	23.2	135	126	1.3	27.6	1	なし	4.5	1.8		ベンガラ 1.8	
F-488	13-315	8.4	2.2	50	0.4	2.2	0	なし	4.1	4.1			
F-489	13-318	0.8	0.1	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-490	13-321・334	46.2	58.5	1,369	22.2	216.6	21	4.6	10.9	3.9	剥片石器 1	ベンガラ 0.0 石炭 0.0	
F-491	13-335	6.7	0.9	3	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-492	13-324・336	2.5	0.4	1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-493	13-325・397	6.4	14.8	6	なし	0.0	0	なし	0.0	0.0			
F-496	13-319	3.6	1.2	60	0.0	35.8	2	なし	0.3	0.3	石燧 1		
F-497	13-320	2.2	1.1	4	なし	なし	なし	なし	なし	なし		ベンガラ 0.0	
F-498	13-337	6.6	1.3	2	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-499	13-338	8.6	1.4	14	0.4	なし	なし	なし	0.1	0.1		石炭 0.0	
F-500	13-326・387	33.9	16.1	308	21.7	39.6	1	なし	0.0	0.0			
F-501	13-327・465	13.9	2.0	2	なし	なし	なし	なし	0.1	0.1			
F-502	13-623	12.1	4.5	26	5.6	なし	なし	なし	なし	なし		ベンガラ 0.0	
F-503	13-339	3.7	1.2	4	0.1	1.0	0	0.3	0.0	0.0			
F-505	13-341	4.1	1.0	10	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-507	13-342	2.6	1.4	1	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-508	13-348・442	8.3	0.1	4	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-510	13-352	2.5	0.2	8	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-511	13-349	1.4	0.9	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-512	13-350	1.5	なし	4	なし	なし	なし	なし	0.0	なし			
F-514	13-363・448	14.4	1.2	8	なし	6.5	1	なし	0.0	0.0			
F-515	13-353	2.3	0.8	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-516	13-371	6.9	1.5	52	0.4	4.0	0	なし	0.0	0.0		石炭 0.0	
F-517	13-359	3.8	0.1	7	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-518	13-357・362	61.4	3.9	169	9.9	9.0	0	1.4	10.3	10.3			
F-519	13-358	11.9	9.0	30	1.5	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-520	13-354	1.8	3.3	6	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-521	13-351	8.1	2.2	7	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-522	13-355	1.3	0.2	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-523	13-356	1.1	0.7	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-524	13-364	3.1	0.0	10	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-525	13-365・369	21.8	2.0	117	0.4	3.1	0	1.5	0.0	0.0			
F-526	13-372	11.9	3.6	184	13.2	4.8	0	なし	0.0	0.6			
F-527	13-393	12.2	10.6	95	2.0	11.2	0	なし	0.0	0.4			
F-529	13-368・370	15.9	4.2	21	0.2	0.2	0	なし	0.1	0.1			
F-530	13-367	2.8	1.4	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-533	13-388	3.7	1.4	1	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-535	13-373	3.5	3.6	5	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-536	13-378	17.0	42.2	88	0.4	15.5	0	なし	1.3	1.3			
F-537	13-374	4.2	2.2	5	なし	0.5	0	なし	なし	なし			
F-538	13-386・596	14.9	2.8	127	なし	87.3	2	0.7	0.4	0.1			
F-539	13-379・380	11.7	16.3	60	0.0	1.5	0	なし	1.2	1.2	剥片石器 1		
F-540	13-520・586	(18.5)	6.7	54	21.3	7.8	1	9.7	1.4	0.2	石燧 1		
F-541	13-375	1.4	0.3	5	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-542	13-376・410	20.0	2.8	111	0.0	7.8	0	なし	2.1	2.1	石燧 1		



表 IV-3 続き

遺構名	処理番号	風乾土壌 重量 %g	2.0mm 炭化 物重量 g	残渣 重量 g	分重量 g	土器 重量 g	土器 点数	土製品 重量 g	石器類 重量 g	黒曜石 重量 g	石器等点数	ベンガラ・ 石炭等重量 g	備考
F-543	13-443	8.8	0.8	54	11.9	なし	なし	なし	なし	なし			
F-545	13-298・382・587	(12.5)	7.4	81	1.5	4.6	0	なし	0.0	0.0		ベンガラ 0.0	
F-546	13-383	5.0	0.8	10	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-547	13-381	11.3	25.8	75	なし	6.8	1	なし	なし	なし			
F-550	13-395	17.8	5.2	16	0.1	3.0	0	なし	0.0	0.0			
F-551	13-611	(1.9)	1.2	16	なし	11.3	1	なし	なし	なし			
F-552	13-396	7.0	3.5	2	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0		石炭 0.0	
F-553	13-394	3.2	0.4	1	なし	なし	なし	なし	0.1	0.0			
F-557	13-400	2.8	1.7	4	なし	0.0	0	なし	0.0	0.0			
F-558	13-389	11.9	1.7	62	なし	1.8	0	なし	なし	なし			
F-561	13-390	5.0	0.7	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-562	13-398	3.6	9.5	1	なし	0.0	0	なし	0.0	0.0			
F-563	13-399・401・404	9.6	8.4	11	0.0	3.3	0	なし	0.1	0.1			
F-564	13-403	1.2	0.0	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-565	13-419	15.0	2.6	300	15.4	なし	なし	なし	なし	なし			
F-566	13-405	2.8	6.5	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-567	13-402	10.6	4.4	29	0.0	1.8	0	なし	0.4	0.4	剥片石器片 1		
F-568	13-406	7.6	4.6	15	なし	0.3	0	なし	0.2	0.2			
F-570	13-407・427・428	15.7	0.1	338	0.0	なし	なし	なし	0.0	なし		石炭 0.0	残存に搬入砂多い
F-571	13-414	7.6	0.8	2	0.1	なし	なし	なし	0.3	0.3			
F-572	13-411	2.4	0.0	2	なし	なし	なし	なし	0.1	0.1			
F-573	13-415	7.0	2.2	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-574	13-432	14.9	3.4	4	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-575	13-409・561	9.3	1.4	35	0.1	8.9	0	0.1	なし	なし			
F-576	13-444	7.3	0.1	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-577	13-420	2.6	0.7	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-578	13-416	0.8	0.1	1	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-579	13-417	3.1	0.8	11	0.1	なし	なし	なし	1.3	1.3			
F-582	13-421	11.2	1.1	12	0.1	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-585	13-422	7.2	3.8	12	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-586	13-450	3.3	0.2	1	なし	なし	なし	なし	0.8	0.0			
F-587	13-433	13.4	3.2	26	なし	11.6	0	なし	2.6	1.9			
F-588	13-423	0.6	0.9	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-589	13-429	5.1	3.0	5	0.0	なし	なし	なし	0.3	0.3			
F-590	13-424	3.0	1.0	1	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-591	13-554	(0.6)	0.2	1	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-592	13-425	2.0	3.3	3	なし	0.3	0	なし	なし	なし			
F-563	13-528	8.1	14.1	44	0.0	23.9	3	なし	0.0	0.0			
F-594	13-506	(7.8)	1.9	1	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-596	13-430	1.6	0.2	1	なし	なし	なし	なし	1.3	なし			
F-597	13-434	(9.1)	5.6	65	3.4	0.6	0	なし	2.0	2.0			
F-598	13-435・515	10.1	2.1	31	3.3	なし	なし	なし	0.9	0.9			
F-600	13-436・445	43.2	5.1	634	25.0	44.9	1	1.0	36.0	32.9			
F-601	13-438・446	23.5	23.7	289	7.3	116.8	6	0.0	22.0	18.4			
F-602	13-447	4.0	2.6	10	0.1	0.0	0	なし	0.7	0.7			
F-603	13-437	13.4	1.0	8	なし	0.0	0	なし	なし	なし			
F-605	13-449	4.0	4.2	15	なし	2.2	0	なし	なし	なし			
F-606	13-451	2.9	0.5	3	なし	0.2	0	なし	0.0	なし			
F-607	13-452・576	17.4	4.0	13	0.1	なし	なし	なし	なし	なし			
F-608	13-453	2.1	0.6	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-609	13-462・588	12.3	7.1	8	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-610	13-454	6.5	2.0	15	なし	0.0	0	なし	なし	なし			
F-611	13-455・571	33.7	10.0	346	0.0	20.9	1	16.0	0.7	0.0			
F-612	13-456	3.7	0.1	2	なし	0.8	0	なし	なし	なし			
F-613	13-457・577	(1.8)	0.4	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-614	13-458・578	7.4	0.7	14	なし	1.6	0	なし	0.1	なし			
F-615	13-467	20.6	9.8	65	0.0	51.8	5	なし	3.9	3.2			
F-616	13-459	0.8	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-617	13-464	19.2	24.1	60	2.5	4.8	0	0.5	0.2	なし		ベンガラ 0.0	
F-619	13-466	45.6	11.8	168	3.7	6.4	0	1.9	2.5	0.0		ベンガラ 0.0	
F-620	13-463	8.4	1.2	4	なし	1.6	0	なし	なし	なし			
F-621	13-468	13.2	3.4	23	0.1	13.2	0	なし	0.4	0.3			
F-622	13-469	2.8	0.5	17	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-625	13-480	9.3	2.8	7	なし	0.3	0	なし	なし	なし			
F-626	13-470	11.5	2.0	7	なし	2.9	0	なし	0.0	0.0			
F-627	13-471	6.3	0.9	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-628	13-490	5.2	2.5	4	0.0	0.1	0	なし	なし	なし			
F-629	13-481	2.1	0.2	0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-630	13-482・580	(4.8)	9.6	54	なし	0.7	0	なし	なし	なし			
F-631	13-475	10.2	1.0	7	なし	1.5	0	なし	なし	なし			
F-632	13-483・544	9.9	5.1	67	0.0	17.3	0	0.6	2.0	なし			
F-633	13-476	5.4	0.2	1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-634	13-477	1.6	0.6	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-635	13-622	14.3	4.2	4	1.1	4.9	0	なし	0.0	0.0		ベンガラ 0.0	

IV 遺構

表IV-3 続き

遺構名	処理番号	風乾土塊重量 kg	2.0mm 炭化物率 g	残炭重量 g	骨重量 g	土器重量 g	土器点数	土製品重量 g	石器類重量 g	黒曜石重量 g	石器等点数	ベンガラ・石炭等重量 g	備考
F-636	13-625・14-46	13.2	17.6	46	0.0	13.2	1	なし	0.5	0.0			
F-637	13-478・479	5.9	0.1	9	なし	2.4	0	なし	0.2	0.2			
F-639	13-484	5.7	0.6	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-640	13-485	17.7	1.0	12	0.0	0.2	0	なし	なし	なし			
F-641	13-486	10.0	0.8	18	なし	1.6	0	なし	0.3	なし			
F-642	13-487	13.3	3.2	8	なし	1.0	0	0.9	0.1	0.1			
F-644	13-488	2.1	0.3	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-645	13-607	14.0	9.4	24	0.2	1.9	0	なし	3.8	なし		ベンガラ 0.0	
F-646	13-491	6.7	0.7	10	0.0	8.4	0	なし	0.1	0.1			
F-647	13-493	5.5	1.3	0	なし	なし	なし	なし	0.2	0.2			
F-648	13-494	21.2	0.5	815	4.8	なし	なし	なし	0.2	0.2			
F-649	13-501	4.6	0.2	4	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-650	13-495	18.4	3.5	18	0.0	5.3	0	なし	0.0	0.0			
F-651	13-500	8.5	1.9	10	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-652	13-496	3.6	4.1	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-653	13-497・545・612	(38.2)	2.1	228	0.1	34.9	1	なし	15.5	15.4		ベンガラ 0.0	
F-654	13-498	9.5	11.7	172	なし	4.8	0	なし	2.8	0.0			
F-655	13-508	7.0	4.7	6	0.6	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-657	13-507	8.9	11.3	13	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-659	13-513	20.1	6.6	103	1.9	30.4	2	なし	0.4	0.4		ベンガラ 0.1	
F-660	13-509	(0.4)	なし	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-662	13-510	(2.8)	0.0	1	0.0	0.0	0	なし	0.0	0.0			
F-664	13-516・521・529	(55.6)	12.1	223	3.7	39.6	3	5.1	60.3	60.2	剥片石器 1	石炭 0.0	
F-665	13-522	3.2	1.4	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし		石炭 0.0	
F-666	13-530	(2.6)	0.9	15	0.5	7.1	0	なし	0.2	0.2			
F-667	13-531	(4.6)	0.0	1	なし	なし	なし	なし	0.1	0.1			
F-668	13-532	4.4	2.2	4	なし	1.9	0	なし	0.0	0.0		石炭 0.0	
F-669	13-533	3.9	6.5	11	なし	3.2	0	なし	0.0	なし			
F-670	13-534	(0.2)	0.9	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-671	13-535	3.6	4.8	4	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-672	13-536	3.3	3.0	7	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-673	13-537・613	22.7	2.4	140	0.0	3.6	0	なし	9.9	9.6	石炭 1	ベンガラ 0.0	
F-674	13-538・626	27.1	6.9	37	0.0	0.4	0	0.7	0.0	0.0			
F-675	13-562	12.0	9.6	87	なし	35.6	2	なし	1.0	0.7		ベンガラ 0.1	
F-676	13-546	5.0	1.0	23	0.0	2.0	0	なし	0.0	0.0			
F-677	13-539・547	(6.2)	1.7	25	なし	5.0	0	なし	0.0	0.0			
F-678	13-540	(0.4)	0.0	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-679	13-548	9.1	1.2	497	0.0	13.9	0	0.0	0.0	0.0			
F-680	13-549・597	(0.6)	0.4	1	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-681	13-550	(0.6)	0.2	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-682	13-551・563	29.8	3.9	376	1.0	8.9	0	なし	7.2	7.1		ベンガラ 0.1	
F-683	13-564	(2.0)	0.1	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-684	13-565	(3.6)	0.4	3	0.0	0.4	0	なし	なし	なし			
F-685	13-566	6.3	2.0	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし		ベンガラ 0.0	
F-686	13-567	6.1	0.7	2	なし	1.1	0	なし	0.0	0.0			
F-687	13-569	9.1	2.0	287	0.4	12.8	0	なし	0.0	0.0			
F-688	13-568	(2.2)	0.2	0	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-690	13-570	(3.2)	0.8	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-691	13-582	19.5	1.1	41	0.4	1.6	0	なし	1.4	1.4			
F-692	13-581	(3.8)	0.9	5	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-694	13-583	(1.2)	0.2	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-695	13-589	(2.3)	2.1	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-696	13-590	19.0	8.7	29	10.0	1.4	0	なし	0.0	0.0			
F-697	13-592	7.5	1.8	20	なし	0.9	0	なし	なし	なし			
F-698	13-591	20.4	8.7	163	なし	16.5	1	なし	なし	なし			
F-699	13-598	(5.4)	33.4	42	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-700	13-593	1.4	0.3	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-701	13-594	(3.4)	0.4	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-703	13-599	3.6	1.5	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-704	13-600	(0.8)	0.8	10	なし	8.4	1	なし	なし	なし			
F-705	13-601	4.4	6.4	6	0.1	1.0	0	なし	なし	なし			
F-706	13-602	(0.8)	1.8	79	なし	0.9	0	なし	なし	なし			
F-707	13-603	24.8	24.3	387	0.1	2.9	0	なし	1.7	0.4			
F-709	13-604・14-10	8.2	0.8	108	0.0	13.0	1	なし	なし	なし		金属 0.1	地層断面にて接して所在
F-710	13-605・608	7.0	1.6	21	0.2	0.5	0	なし	0.0	0.0			
F-711	13-614	1.5	0.2	2	なし	0.0	0	なし	0.0	0.0			
F-712	13-618	(1.6)	1.0	19	なし	18.2	1	なし	なし	なし			
F-713	13-609	7.3	3.0	24	0.0	10.9	1	なし	0.0	0.0			
F-716	13-610	25.1	67.8	1,334	なし	32.1	0	なし	4.8	4.8			
F-717	13-619	4.0	1.0	6	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0		ベンガラ 0.2	
F-721	13-620	3.6	2.4	1	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-722	13-624	3.5	0.0	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-724	13-627	4.7	1.8	47	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-725	13-628	9.7	9.1	40	0.0	なし	なし	なし	0.2	0.2			

表IV-3 続き

遺構名	処理番号	風乾土壌 重量 kg	2.0mm 炭化 物重量 g	残渣 重量 g	骨重量 g	土器 重量 g	土器 点数	土製品 重量 g	石器類 重量 g	黒曜石 重量 g	石器等点数	ベンガラ・ 石炭等重量 g	備考
F-727	14-1	22.2	2.8	77	なし	なし	なし	なし	1.9	1.9			
F-728	14-2	5.6	0.5	15	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-729	14-3	8.2	5.5	7	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-730	14-4	6.1	1.2	24	0.1	なし	なし	なし	0.3	0.3			
F-731	14-5	4.5	0.4	4	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-732	14-7	15.6	25.0	33	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-733	14-8	12.9	25.5	18	0.0	なし	なし	なし	0.1	0.1			
F-734	14-9	3.0	9.4	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-735	14-11	2.5	0.4	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-736	14-12	5.9	4.8	10	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-737	14-13	1.1	2.2	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-738	14-14	5.0	1.2	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-739	14-48	22.3	17.6	34	0.1	11.7	1	なし	0.0	0.0		ベンガラ 0.0	
F-740	14-15	2.4	0.3	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-741	14-16	3.6	0.6	4	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-742	14-17・156	9.8	4.8	10	なし	2.3	0	なし	なし	なし			
F-743	14-158	9.8	2.4	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-744	14-19・155	4.8	1.2	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-745	14-18・154	4.2	2.4	9	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-746	14-20	20.6	11.6	124	1.2	0.2	0	なし	0.0	0.0			
F-747	14-21	2.2	0.8	11	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-748	14-22	11.2	9.2	10	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-749	14-23	12.9	33.4	64	0.0	15.3	0	なし	0.3	0.0			
F-750	14-24	7.4	1.2	18	0.6	2.0	0	なし	0.1	0.0			
F-753	14-25	20.0	4.6	38	なし	なし	なし	なし	2.9	2.9			
F-754	14-26	4.4	2.2	4	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-755	14-27	42.6	17.1	9	0.6	0.4	0	なし	0.9	0.9			
F-756	14-28	3.5	1.0	7	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-757	14-29	2.1	0.5	6	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-758	14-30	3.5	1.6	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-759	14-31	13.7	14	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-761	14-33	3.5	2.7	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-762	14-32	3.3	2	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-763	14-34	11.7	9.7	10	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-764	14-43	4.7	3.1	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-765	14-35	6.3	1	21	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-766	14-131	0.4	0.1	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-767	14-115	3.1	4.0	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-768	14-116	1.1	0.6	1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-769	14-178	11.9	4.4	3	なし	0.0	0	なし	0.8	0.8	石鏃 1	石炭 0.2	
F-771	14-36	4.2	3.2	7	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-774	14-143	3.8	9.8	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-775	14-37	2.0	0.8	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-776	14-40	1.3	0.5	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-777	14-38	2.3	0.0	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-778	14-41	3.9	0.5	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-779	14-42	1.7	0.0	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-780	14-45	25.9	6.2	7	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-781	14-44	3.5	0.0	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-782	14-49	19.5	9.2	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-783	14-50	15.3	20.6	38	なし	2.3	0	なし	6.5	0.0		ベンガラ 0.0	
F-784	14-51	9.5	4.9	29	0.0	なし	なし	なし	9.6	0.2		ベンガラ 0.0	
F-785	14-54	1.4	0.6	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-786	14-61	46.2	81.4	88	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-787	14-47	7.1	3.6	17	なし	0.8	0	なし	0.0	0.0			
F-788	14-52	22.8	16.6	9	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-789	14-53	15.2	14.1	5	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-790	14-55	10.1	0.6	14	なし	0.2	0	なし	1.0	0.0		ベンガラ 0.0	
F-792	14-56	2.5	0.7	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-793	14-57	5.7	1.9	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-794	14-58	1.5	0.1	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-795	14-63	21.2	14.2	7	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-796	14-59	2.4	0.0	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-797	14-60	1.8	0.6	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-800	14-82	9.7	5.7	45	0.5	3.0	0	なし	0.1	0.1			
F-801	14-64	4.0	6.8	7	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-802	14-65	5.5	0.5	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-803	14-66・150	6.8	1.6	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-804	14-67	9.9	5.7	6	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-805	14-68・224	3.4	4.6	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-806	14-72	13.9	4.7	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-807	14-69	3.8	1.7	5	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-808	14-70	3.3	3.5	6	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-810	14-73	4.0	6.6	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			

IV 遺構

表 IV-3 続き

遺構名	処理番号	風乾土壌 重量 kg	2.0mm 炭化 物重量 g	残滓 重量 g	骨重量 g	土器 重量 g	土器 点数	土製品 重量 g	石器類 重量 g	黒曜石 重量 g	石器等点数	ベンガラ・ 石炭等重量 g	備考
F-811	14-75	4.4	2.2	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-812	14-74・157	1.6	0.4	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-813	14-76	1.1	0.6	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-814	14-77	2.7	1.3	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-815	13-360	4.9	0.3	5	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-815・ 828	14-78・87	12.3	6.1	10	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			2つの遺構の土壌が混 じる
F-817	14-83	9.6	1.2	55	なし	1.3	0	なし	0.5	0.5	石器 1		
F-818	14-84	42.9	11.2	146	0.9	70.6	2	1.9	なし	なし			
F-819	14-79	11.7	6.0	20	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-820	14-85	36.1	32.4	22	0.2	なし	なし	なし	なし	なし			
F-821	14-94	11.8	5.4	9	0.0	0.1	0	なし	0.2	0.2			
F-822	14-86	4.5	0.9	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-823	14-81	4.2	2.9	3	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-824	14-88	8.2	46.7	6	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-825	14-89	4.4	3.8	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-826	14-80	1.9	0.1	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-827	14-91	8.0	1.4	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-829	14-93	6.1	4.2	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-831	14-92	1.3	0.9	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-832	14-97	7.3	4.6	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-833	14-98	13.1	8.5	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-834	14-99	8.7	5.1	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-835	14-100	2.7	1.2	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-836	14-95・192	13.4	7.3	42	2.7	11.4	0	なし	10.7	0.0			
F-837	14-96	10.5	4.9	22	1.2	0.3	0	なし	4.6	0.2	石器 1		
F-838	14-101	7.3	6.2	2	0.0	0.0	0	なし	なし	なし			
F-839	14-106	9.5	7.8	8	なし	なし	なし	なし	なし	なし		ベンガラ 0.0	
F-840	14-114	17.5	8.7	7	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0		ベンガラ 0.0	
F-842	14-103	1.3	9.9	8	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-844	14-105	10.3	13.2	5	0.1	なし	なし	なし	0.0	0.0	剥片石器片 1		
F-845	14-104	12.8	15.2	9	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-846	14-102	2.7	1.1	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-847	14-107	5.0	2.8	2	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-849	14-111	8.2	0.8	4	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-850	14-108	7.1	1.8	5	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-851	14-109・173	5.7	1.1	2	なし	0.6	0	なし	なし	なし		ベンガラ 0.0	
F-852	14-129	21.6	6.6	16	0.2	2.4	0	0.5	0.7	0.7	剥片石器片 1	石炭 0.0	
F-854	14-112	10.4	3.1	6	なし	2.9	0	なし	0.0	なし			
F-855	14-128	15.6	12.9	39	0.0	2.6	0	なし	0.0	なし			
F-856	14-113	1.1	0.4	1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-858	14-117	6.5	6.4	38	0.0	9.0	0	なし	0.4	0.0			
F-859	14-118	0.4	なし	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-860	14-119	0.1	なし	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-861	14-140	0.2	0	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-862	14-179	1.1	0.6	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-863	14-127	8.4	3.7	27	なし	1.4	0	なし	0.0	0.0			
F-864	14-121	2.3	0.6	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-865	14-120	4.2	0.6	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-866	14-122	21.6	8.4	11	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-867	14-124	6.3	2.4	2	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-868	14-123	3.3	1.5	1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-870	14-126・188	10.4	5.3	3	0.0	1.7	0	なし	0.4	0.4			
F-871	14-130	8.0	7.0	4	0.0	なし	なし	なし	0.0	なし			
F-872	14-125	2.7	0.6	3	なし	1.5	0	なし	0.0	0.0			
F-873	14-132	3.2	0.0	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-874	14-133	9.4	12.2	9	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-875	14-136	14.2	6.4	4	なし	なし	なし	なし	0.3	0.3			
F-877	14-134	3.0	0.9	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-878	14-135	4.0	1.5	1	0.0	なし	なし	なし	0.1	0.1	剥片石器片 1		
F-879	14-137	8.6	27.2	15	0.5	1.1	0	なし	0.0	0.0			
F-880	14-138	0.9	0.2	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-881	14-139	8.6	12.2	6	0.0	なし	なし	なし	なし	なし			
F-883	14-141	2.3	0.0	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし		石炭 0.1	
F-885	14-142	5.2	0.9	1	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0		石炭 0.0	
F-886	14-144	13.3	55.4	29	0.7	なし	なし	なし	6.3	なし			
F-888	14-167	8.3	2.5	5	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-889	14-171	7.9	2.6	25	0.0	3.4	0	なし	0.0	0.0		ベンガラ 0.1	
F-890	14-183	1.9	1.5	5	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-892	14-147	7.2	7.9	21	なし	なし	なし	なし	なし	なし		ベンガラ 0.0	
F-893	14-145	1.6	2.6	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-895	14-159	3.2	1.7	6	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-896	14-153	10.7	15.7	6	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-897	14-148	3.1	0.2	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			

表 IV-3 続き

遺構名	処理番号	風乾土塊 重量 kg	2.0mm 炭化 物重量 g	残渣 重量 g	骨重量 g	土器 重量 g	土器 点数	土製品 重量 g	石器類 重量 g	黒曜石 重量 g	石器等点数	ベンガラ・ 石炭等重量 g	備考
F-899	14-152	9.5	3.8	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし		ベンガラ 0.0	
F-900	14-151	1.1	0.1	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-901	14-149	10.9	3.4	23	なし	7.4	1	なし	0.0	0.0		ベンガラ 0.0	
F-902	14-160	0.8	0.2	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-904	14-164	21.8	27.6	17	なし	1.4	0	なし	なし	なし			
F-905	14-163	22.1	36.1	28	なし	2.4	0	なし	0.0	0.0			
F-906	14-161	0.9	0.6	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-907	14-162	1.3	0.1	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-908	14-169	15.4	7.0	3	0.0	0.2	0	なし	なし	なし		石炭 0.0	
F-910	14-165	3.2	0.4	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-911	14-166	3.0	1.9	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-912	14-168・199	8.6	80.3	10	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-913	14-174・202	2.5	1.5	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-914	14-170・197	54.6	18.0	8	0.1	なし	なし	なし	なし	なし			
F-915	14-175	0.6	0.2	1	0.0	0.2	0	なし	なし	なし		ベンガラ 0.0	
F-916	14-176	8.2	1.3	1	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0			
F-917	14-180	8.7	4.7	4	なし	なし	なし	なし	1.0	1.0			
F-918	14-181	2.8	0.3	3	0.0	なし	なし	なし	なし	なし		石炭 0.1	
F-919	14-177・207	26.7	20.1	9	0.0	なし	なし	なし	なし	なし		石炭 0.0	
F-921	14-191	56.4	45	130	0.0	26.8	2	なし	18.8	0.0		ベンガラ 0.0	
F-922	14-182・217	59.9	28.3	14	0.4	なし	なし	なし	なし	なし			
F-923	14-184	22.4	14.1	23	0.2	2.1	0	なし	1.8	0.0			
F-924	14-187	5.4	0.2	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-928	14-185	1.4	0.6	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-929	14-189	4.8	1.8	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-930	14-190	4.8	0.7	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-932	14-194	3.0	1.2	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-934	14-196	7.8	29.9	4	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-936	14-200	27.8	1.6	6	なし	なし	なし	なし	なし	なし		石炭 0.0	
F-937	14-198	2.0	2.1	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-938	14-203	2.8	3.7	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-939	14-204	2.4	2.5	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-940	14-201	32.8	21	13	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-941	14-205	1.4	1.1	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-942	14-209	8.0	9.8	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-943	14-212	17.1	64.3	5	なし	なし	なし	なし	0.1	0.1			
F-944	14-214	35.3	16.0	9	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-945	14-206	3.4	0.1	4	なし	なし	なし	なし	なし	なし		石炭 0.0	
F-946	14-208	10.7	2.1	7	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-947	14-211	2.4	8.1	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-948	14-210	16.0	31.9	4	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-949	14-213	1.2	0.3	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-950	14-218	10.9	2.9	7	なし	なし	なし	なし	0.7	なし			
F-952	14-215・226	4.5	1.4	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-953	14-216	5.4	0.4	4	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-954	14-219	1.6	1.1	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-957	14-220	1.6	0.5	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-958	14-221	9.3	13.6	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
F-961	14-222	9.4	5.0	5	なし	なし	なし	なし	なし	なし		石炭 0.0	
F-962	14-225	35.2	13.8	131	0.0	7.1	0	0.9	0.2	0.2			
F-966	14-223	5.2	2.8	11	なし	4.0	0	なし	なし	なし			
F-969	14-227	11.7	29.9	6	0.0	なし	なし	なし	0.5	0.3		ベンガラ 0.0	琥珀色の割片 0.2g あり
割片集中													
割片集中 13-517		5.4	0.0	23	なし	なし	なし	なし	21.2	21.2	割片石器 2		67-156-a①生活面 125
割片集中 13-141		0.5	0.2	6	なし	0.1	0	なし	4.2	4.2			67-157-a②生活面 130
割片集中 13-343		(4.1)	なし	95	なし	なし	なし	なし	89.4	なし			68-157-a③生活面 190
割片集中 13-101		10.2	0.0	57	なし	なし	なし	なし	55.7	55.7			70-155-c②生活面 125
遺構合計		(7,412.1)	4,625.3	60,444	823.8	4,801.2	226	233.7	1,337.2	912.7			

## V 遺物

### 1 土器

#### (1) 報告対象と記載の方法

##### a 報告の対象

今回の報告範囲では、平成 11 年度の発掘で 10,686 点、13・14 年度の発掘で 22,662 点の土器が出土している。合計 33,348 点となるが、II 章 4 節でも述べたとおり 13 年度以降一定以上の大きさの土器片のみ出土点数に数えているので、この総数には一定の留保が必要である。これらに隣接区域である 71 線トレンチの 149~161 線間（平成 11 年度発掘）および 65~71・159~161 線間の各方格（平成 12 年度発掘）出土の土器片を加えて整理をおこなった。

土器片の個体識別、接合を進めながらある程度接合した破片群ごとに整理番号として頭に 13- を付した連番を与えて 13-1 から 13-574 まで設定した。このうち 5 件はその後の接合・個体識別によって他の整理番号ないしその付帯破片に統合し、23 件は隣接区域の破片のみで構成されて今回の報告範囲の遺物を含まなかったため、結局 546 件の接合破片群が残った。このうち接合が進み本来の土器の概ね半分以上に達したと考えられるものは、他の破片群と同一個体である可能性がほぼなくなったとみて整理番号のほかに頭に N を付した個体番号を与え、N1 から N87 まで設定した。

本節では個体番号を与えた 87 件の全てと、整理番号のみ与えた資料のうち後述する分類への当てはめがある程度可能なもの 244 件の合計 331 件を報告の対象とし、整理番号のない破片は記載していない。ただしどの程度接合していれば整理番号を与えるか、また分類への帰属が不確実なものをどの程度掲載するかについて結局明確な基準を設けることができなかった。出土点数と土器片への注記件数を一致させた 13・14 年度の出土品のみで集計すると出土点数 22,662 点のうち 5,786 点を報告対象としていることになり、結果として約 26% の報告率である。

##### b 土器の分類

当財団で土器の分類のために通常採用している体系は、かつて北海道教育委員会の発掘調査（道教委編 1977 の 8~10 頁）で用いられたものを基礎に修正を加えたものである。当遺跡の報告書でも 3 次にわたってこの体系を踏襲してきたが（財団道埋文編 2000 の 45 頁ほか）、この体系にいう「相当する」という言葉の意味するところは曖昧である。

この言葉が「年代上平行する」の意味で理解されている（財団道埋文編 2002 の 58 頁）場合が少なくないが、そうであるとすればこの分類は年代学上の体系であることになり、それを土器の分類に用いるのは倒錯であると思われる。例えばこれまで当遺跡の報告書で V 群 c 類に分類されたものの中には通常 V 群 b 類土器とされるような資料が含まれている。報告者がそれらを年代上平行するものと考えていればそれを誤りとは言えないが、分類上の混乱を生じる傾向があることを否定できない。

## V 遺物

またもし「相当する」が「類似する」の意味であるとした場合、さらにどのような点がどのように類似しているかの説明が必要である。体系登場後の早い時期にはそのような説明を体系に盛り込む努力がある程度払われたことがあるが（例えば道教委編 1978 の 9・10 頁）、その後この方向の整備は進んでおらず、実際の運用には当惑を覚える。

今次の報告ではこの体系を用いず、主に土器口部の形態・装飾にしたがって即物的な分類をおこなうことにした。このため整理番号つき資料でも口部破片を含まないものはほとんど報告していない。この分類は今のところ記載上の便宜であって他の資料に通用させる意図はないので、分類の具体的な内容も遺物の記述に合わせて後述する。

### c 記述の要領・図の表現等

本文ではまず分類ごとに形態・装飾上の特徴と出土状況を述べ、その後各分類を通じた土の調合・成形等製作上の傾向について簡単に触れる。個別の資料に関する記述は一覧表とし、使用上の痕跡等についてはこの表で触れるのみとした。

すでに前項で用いたが、土器の部位を指示するために口部・体部・底部という表現を用いる。これは土器を高さ方向に機械的に三等分したときの上・中・下部を意味するもので、器形に配慮したものではない。昨年度の報告書で示された区分（財団道埋文編 2002 の 59 頁）を踏襲し、概ね単純に上方へ向かって開く器形を深鉢（高さが口径の 5 分の 4 より大）・鉢（高さが口径の 5 分の 4 から 3 分の 2 まで）・浅鉢（高さが口径の 3 分の 2 より小）に区分する。体部から口部にかけてくびれる器形を壺と称する。上から見て楕円形・方形等を呈する土器が少なくないのでこれを不等径と表現する。

土器の装飾には縄の側面圧痕が多く用いられる。当遺跡の報告ではこれまで縄線文（財団道埋文編 2000・2001）、縄痕・縄圧痕（同前編 2002）と呼んできたものであるが、本書では記述の簡便化のため山内清男（1979 の 13 頁）に従って原体符号の前に-（マイナス）を付すことで縄の側面圧痕を表すことにする。回転圧痕は同じく山内案に従い、原体符号の前に∞（無限符号）を付して表現する。なお縄の撚数は確認できたものがほとんどない。便宜的に L・R・LR・RL 等の符号を用いて前段の条数が不明の原体を表すことにした。-L は条数不明の r を L 方向に寄った 1 段縄の側面圧痕、∞LR は条数不明の R を L 方向に撚った 2 段縄の回転圧痕である。

土器を成形する際の土の継ぎ目を高橋 護に従い（高橋 1993 の 414~415 頁）接合面と呼ぶ。接合面は内傾したものと外傾したもの（佐原 1967 の 738 頁）とに分けることができ、実測図では土器の外面に露呈している内傾接合面を○、外傾接合面を●の記号で示した。接合面は凹凸の反転した一對の面として露呈するので、必要な場合には口部へと続く側の破片に現れたのを「下向きの接合面」、それと反対側に露呈したのを「上向きの接合面」と呼んで区別する。

図の縮尺は当遺跡の既刊報告書を踏襲し実測図・拓本とも 3 分の 1 とした。実測図の縦断面は側面図右端の位置で描き、欠損等の理由でそれ以外の位置の断面を代用した場合には▽の記号によって図化位置を示した。拓本に添えた断面の位置も▽の記号によって示した。部位により縦断面に変化の多い土器では複数の断面を添え、▼○●等の記号でその作図位置を示した。なお拓本は整理番号に属する全ての接合破片を掲載することを原則とし、破片が多ければ全破片を 6 分の 1 で図示した。

図化資料にはすでに整理番号または個体番号があるのでさらに本書のための図番号をつけることはやめた。ただし整理番号つきの接合資料に付帯する破片を参考のため図示した場合があり、この場合接合資料本体には整理番号の後に a、付帯破片には整理番号の後に bc 等を加えて表示した。以下の文中で図化資料を引用する際は混乱を避けるためすべて整理番号による。

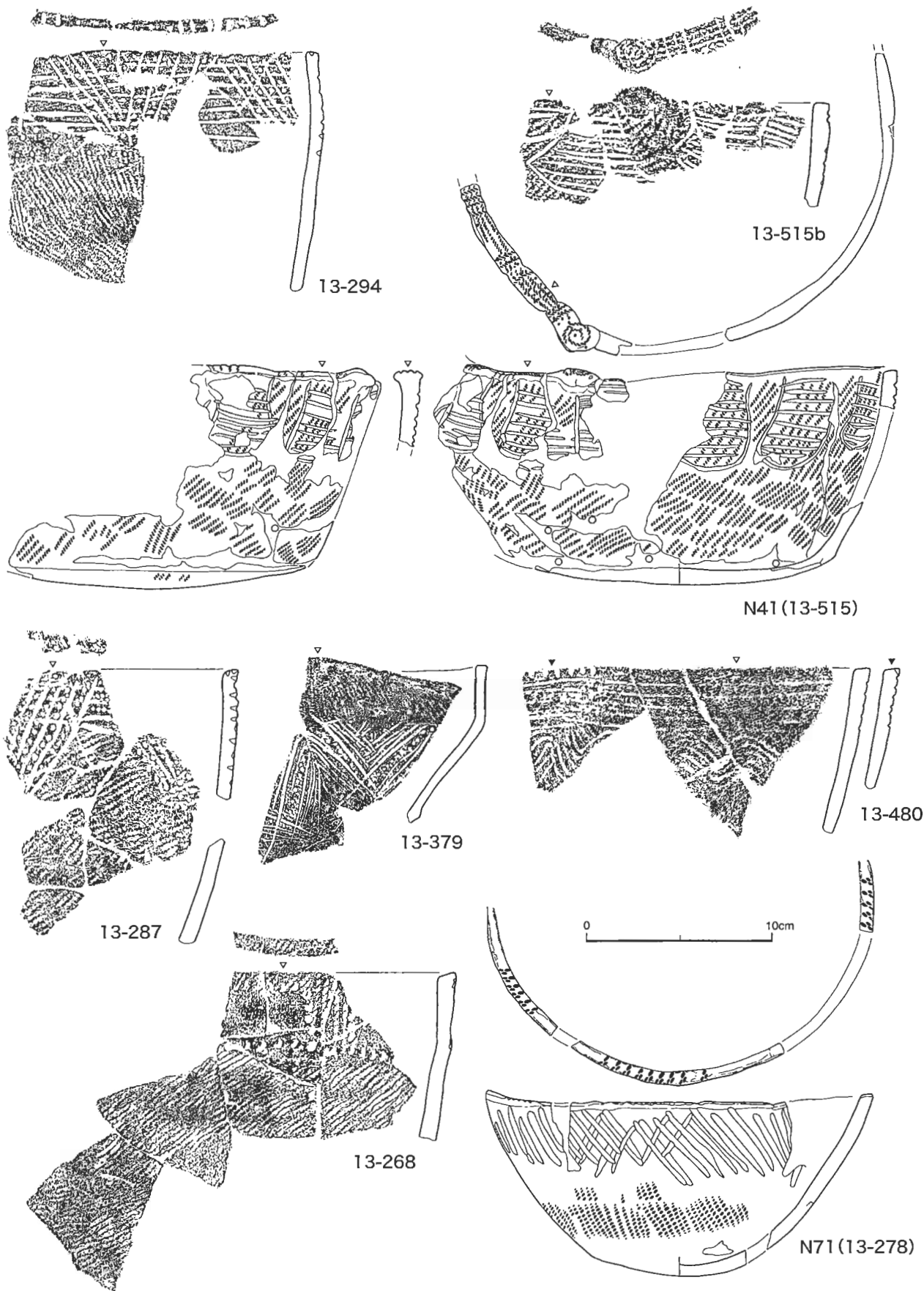


图 V-1 绳文土器 (I)



V 遺物

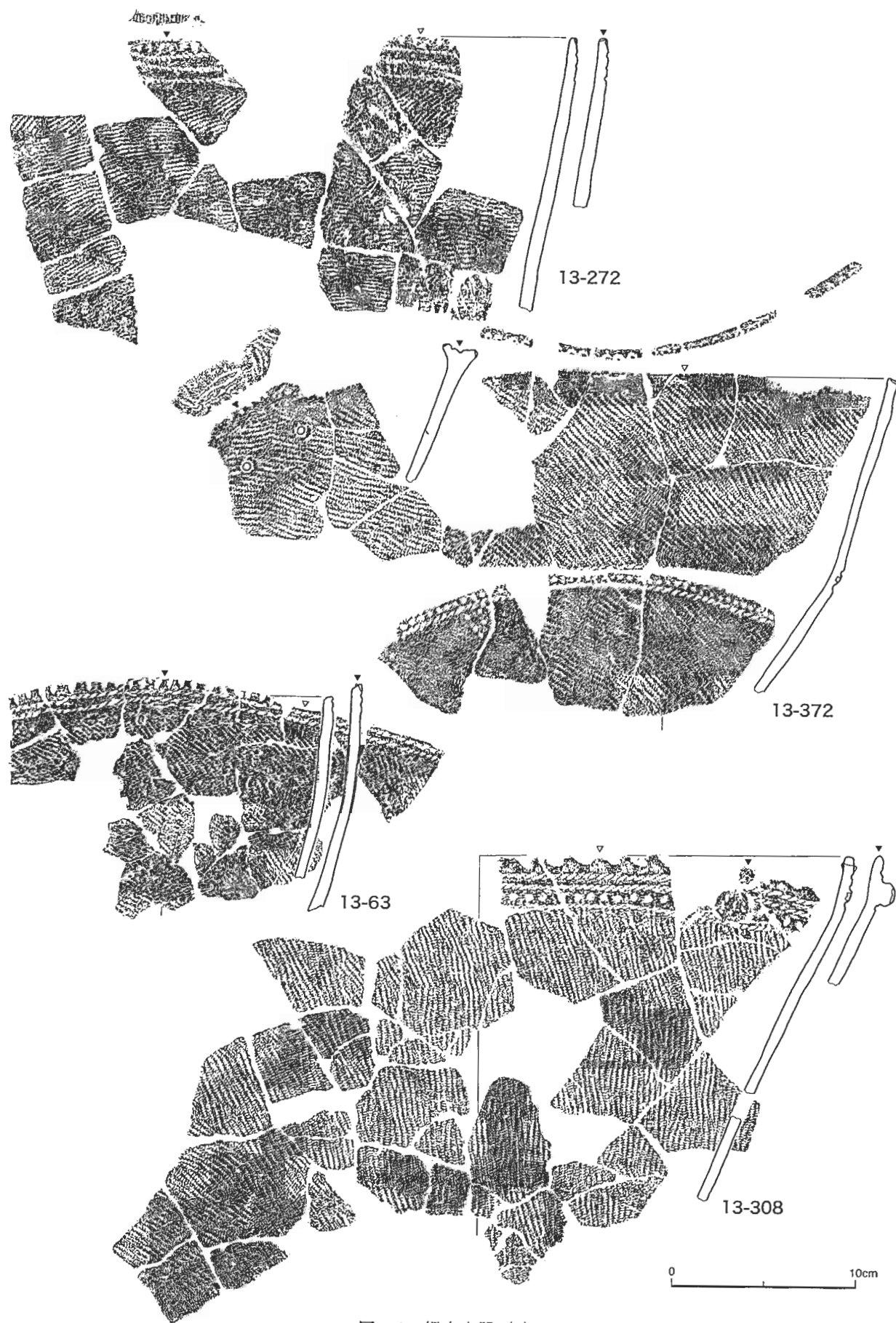
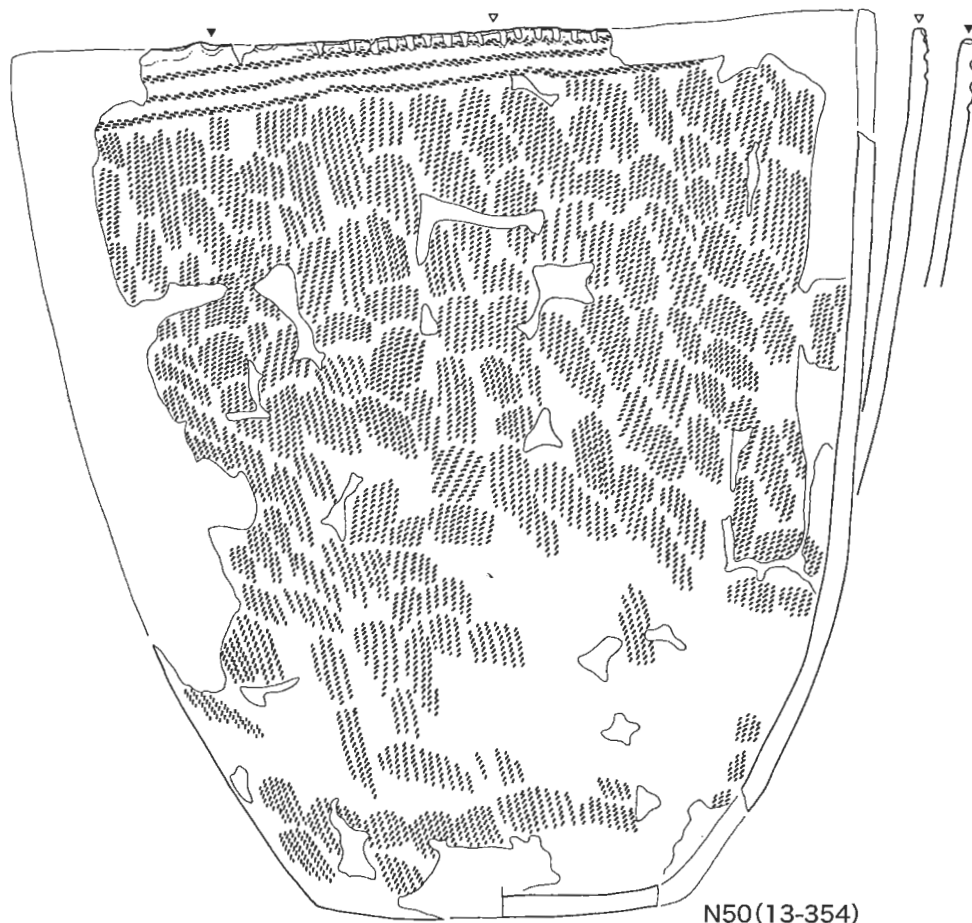
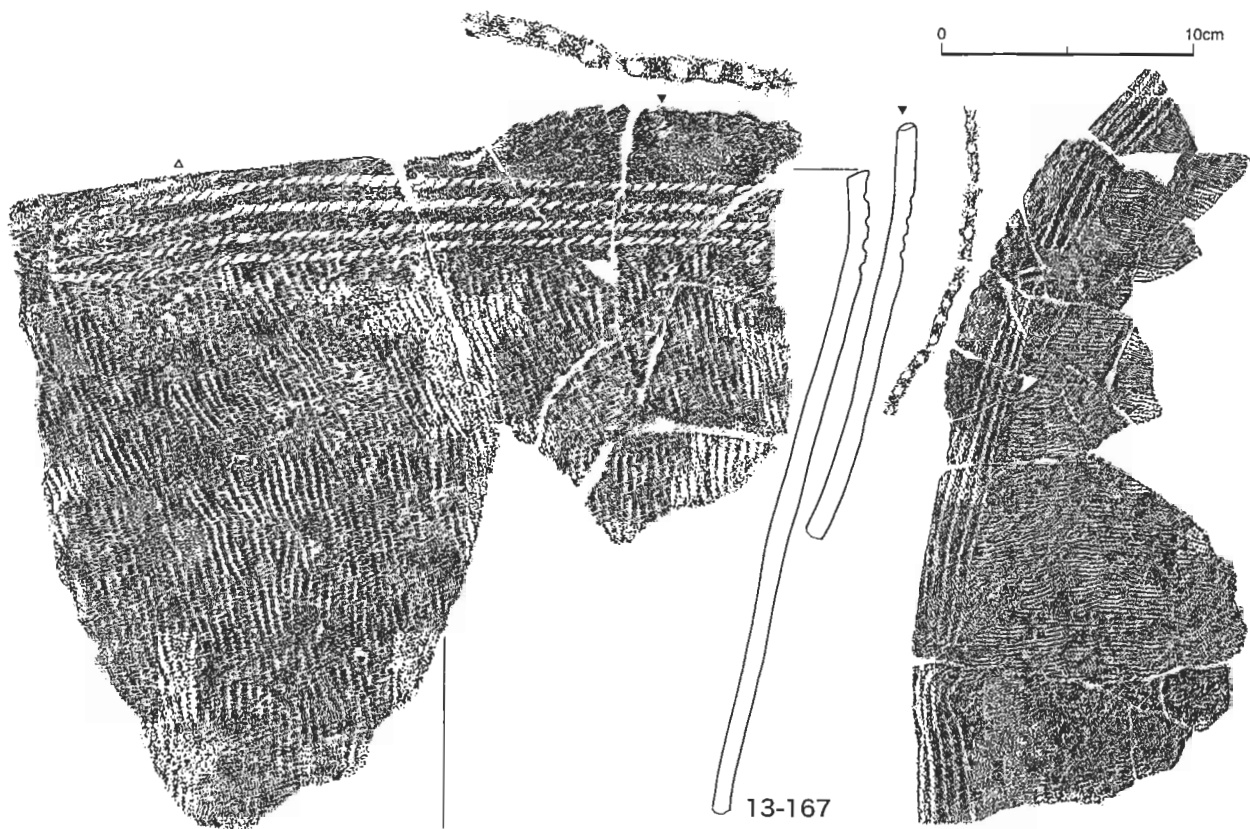


図 V-2 縄文土器 (2)



N50(13-354)



13-167

13-167 の全破片 (S=1/6)

図 V-3 縄文土器 (3)

図V-4 縄文土器 (4)





図V-5 縄文土器 (5)

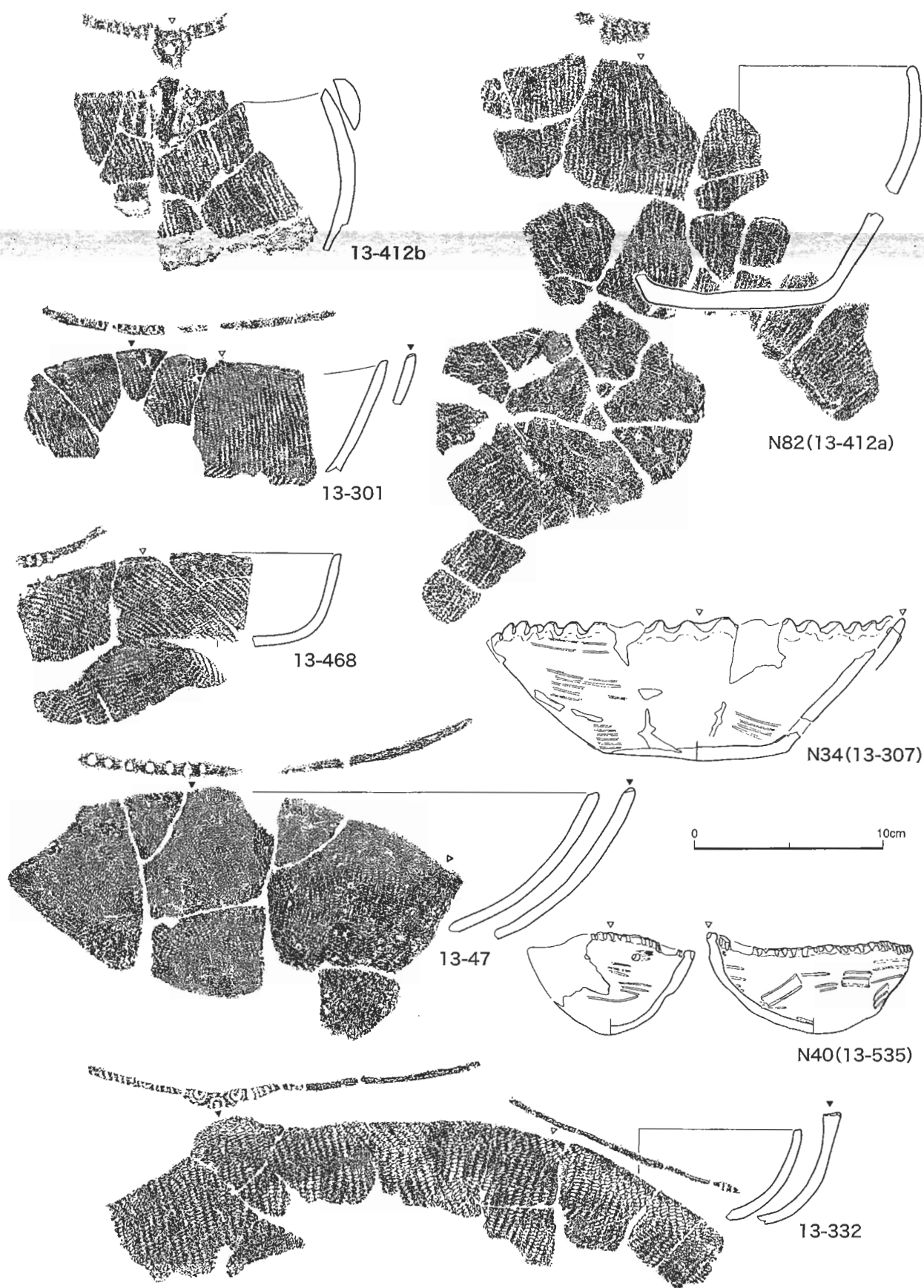


圖 V-6 繩文土器 (6)



図 V-7 縄文土器 (7)

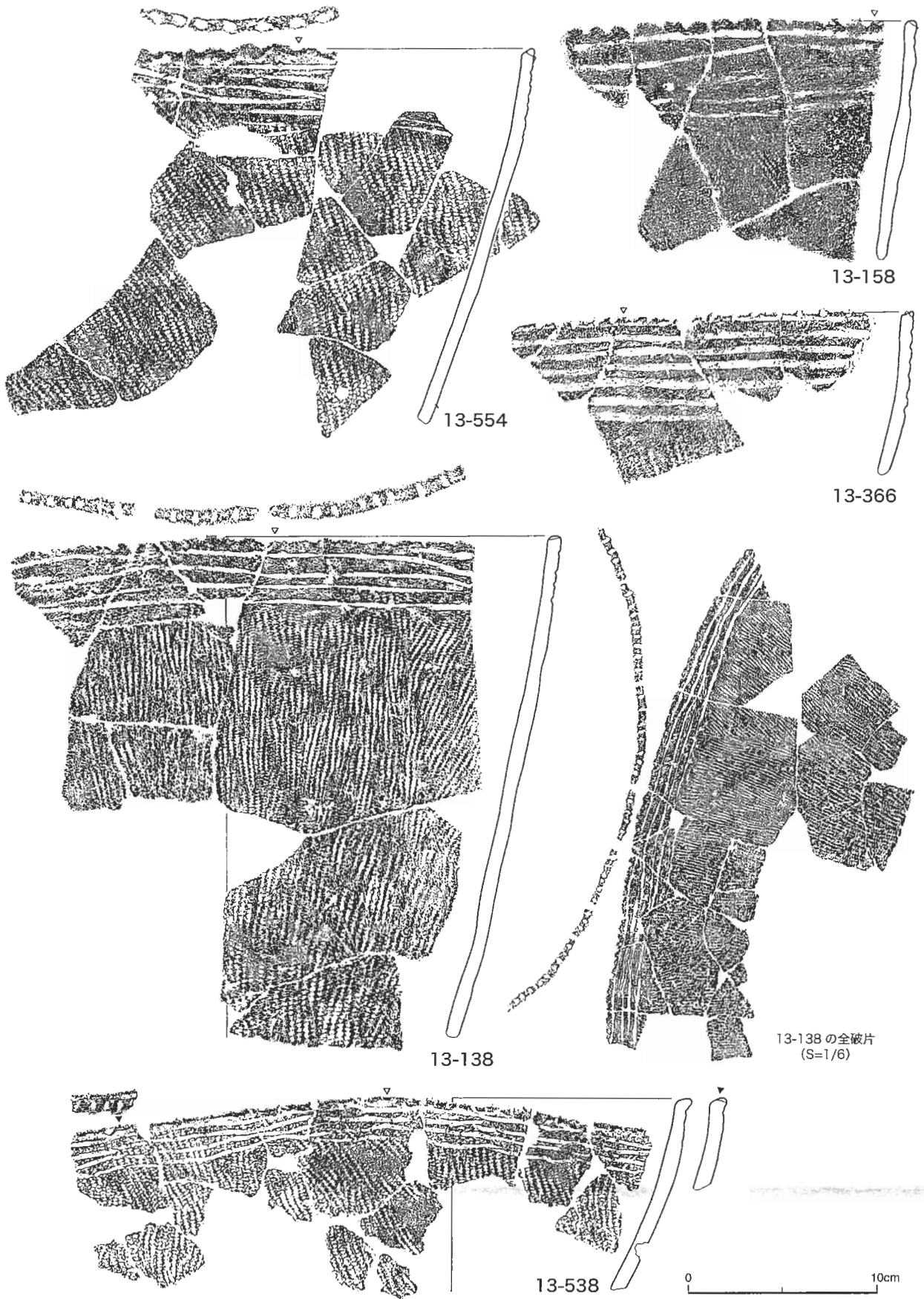
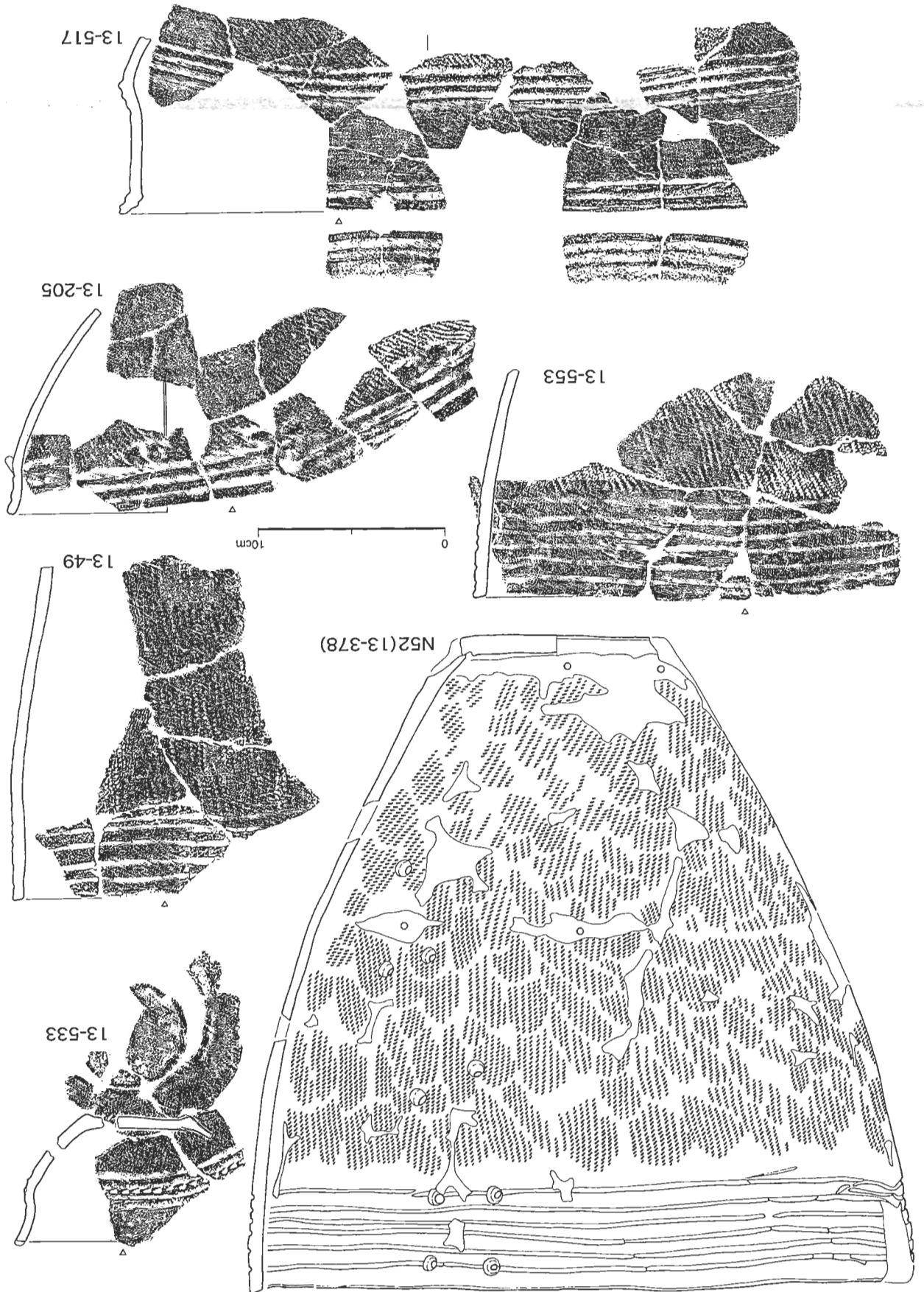


図 V-8 縄文土器 (8)

図V-9 縄文土器 (9)





V 遺物

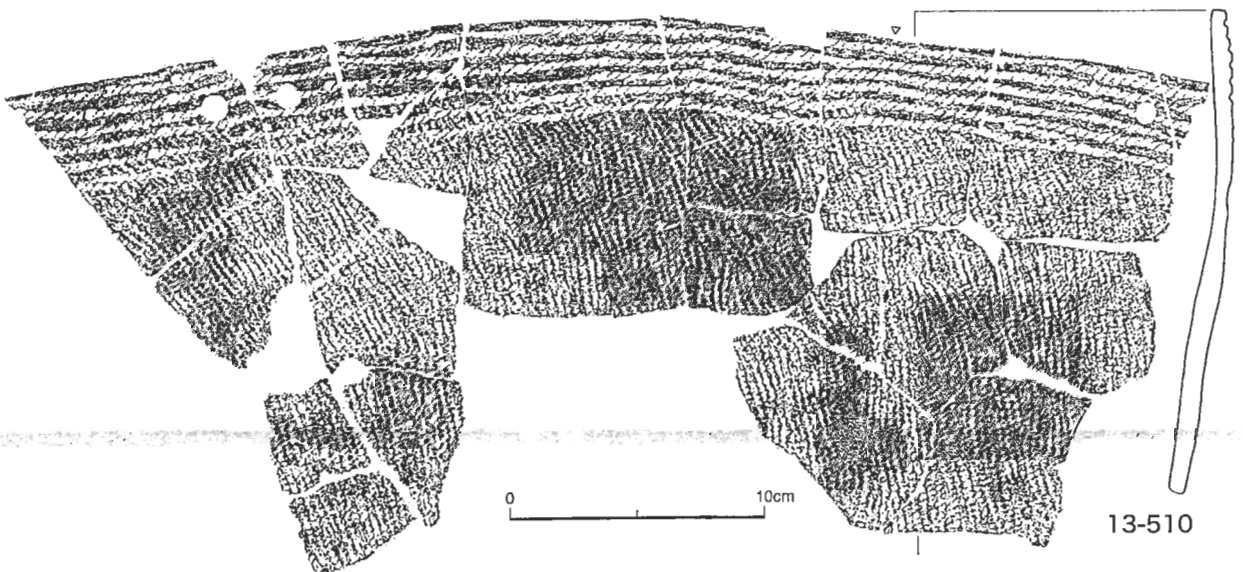
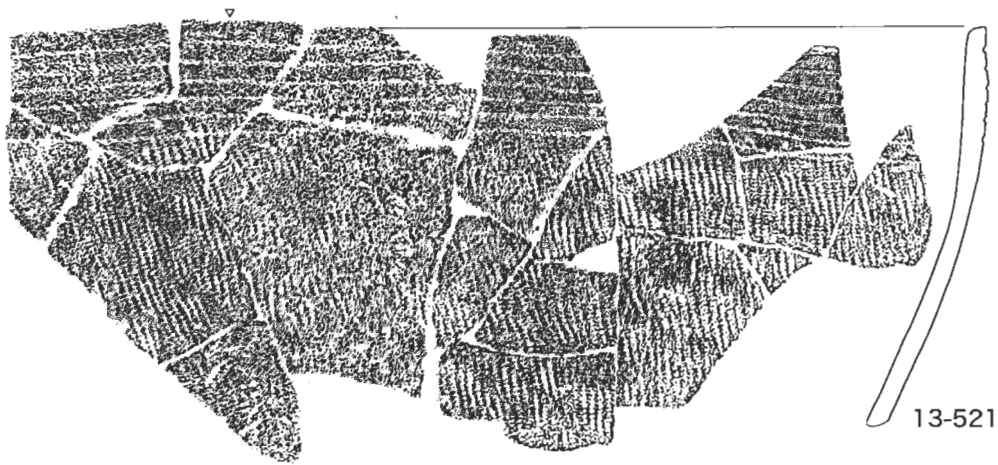
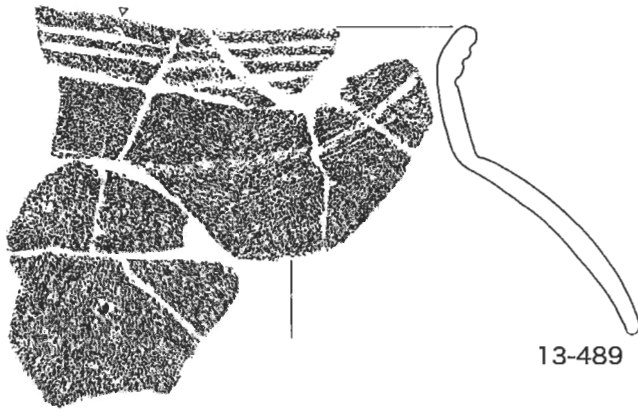


図 V-10 縄文土器 (10)



図 V-11 縄文土器 (11)

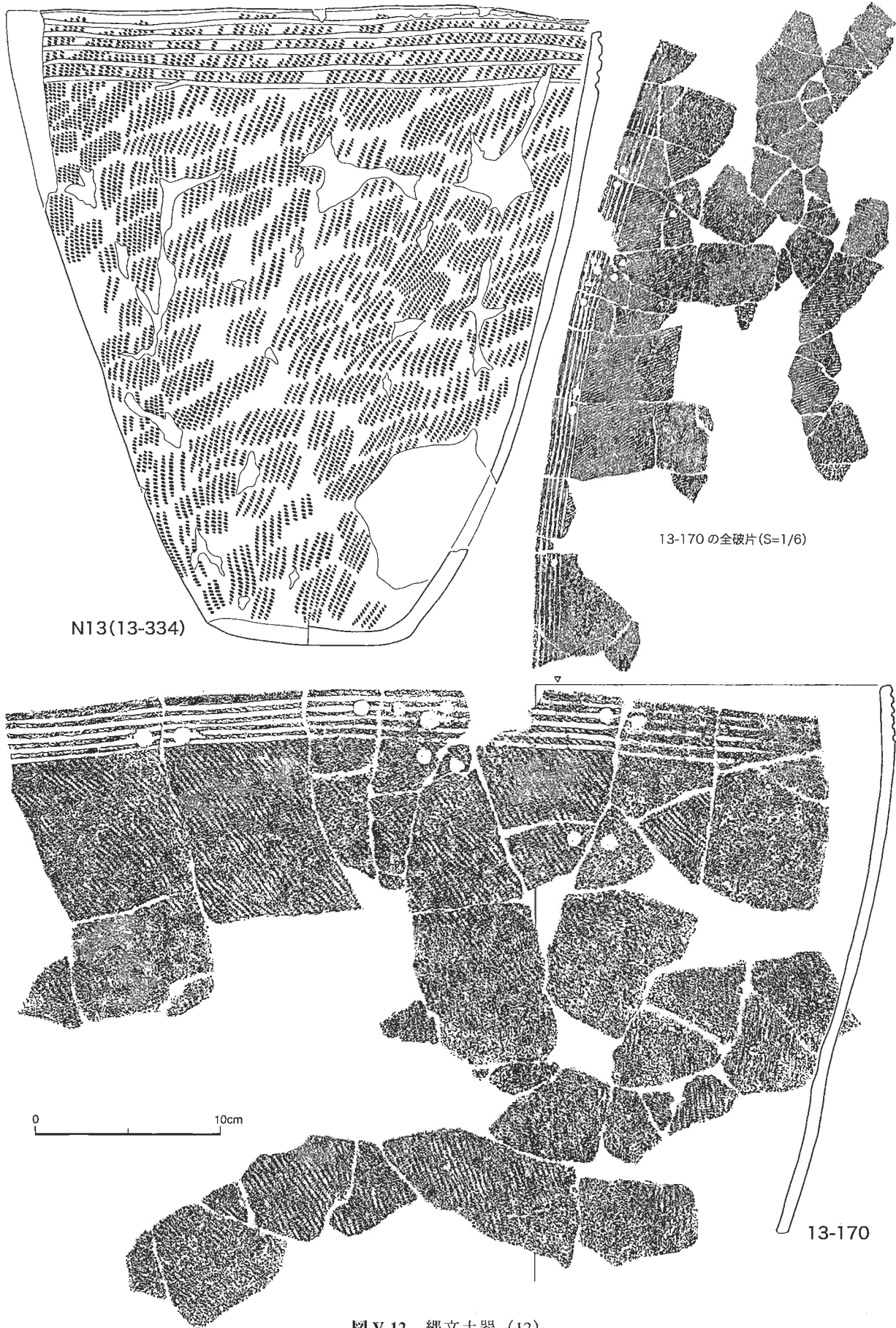


図 V-12 縄文土器 (12)



図 V-13 縄文土器 (13)



図 V-14 縄文土器 (14)

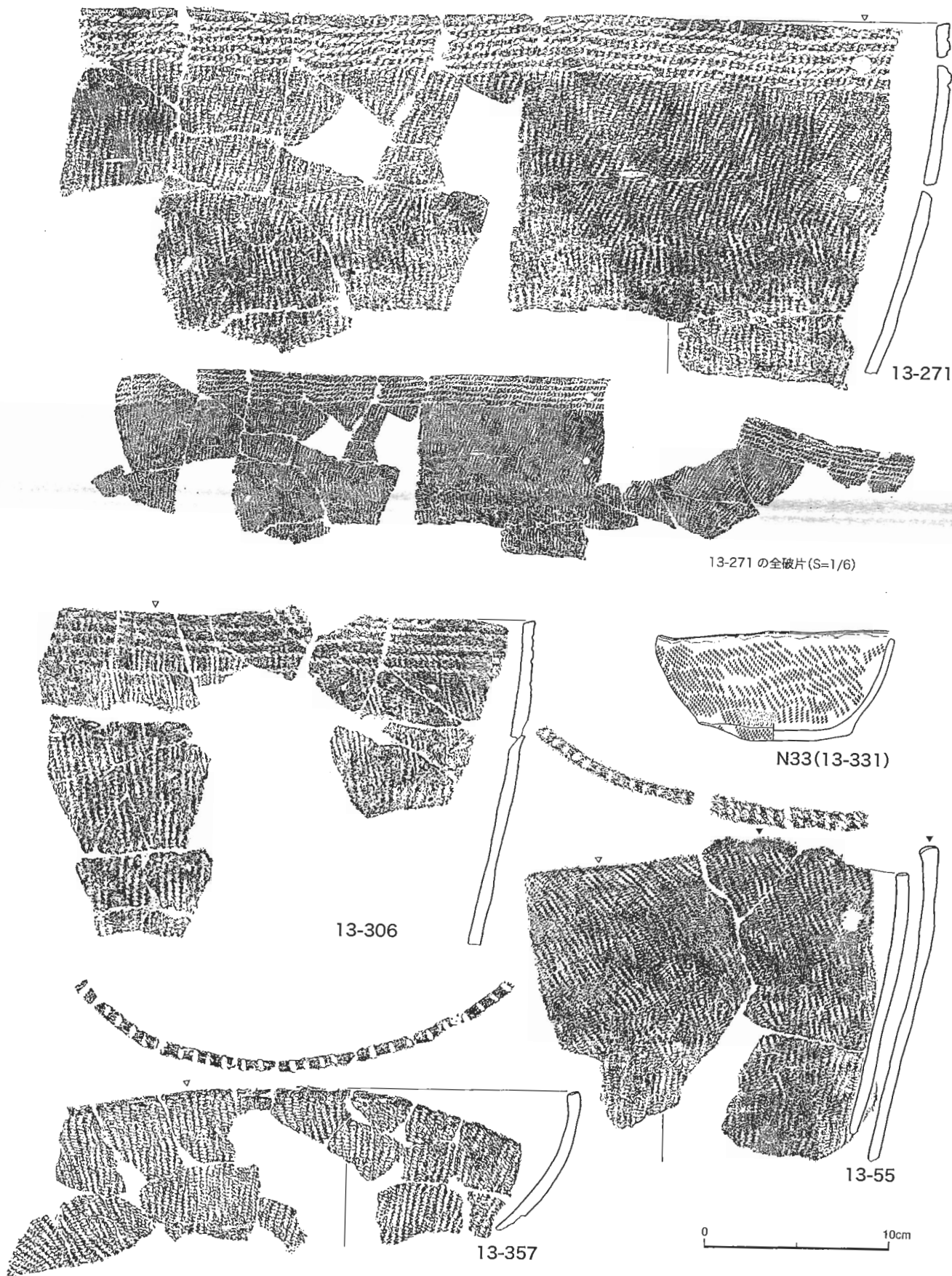
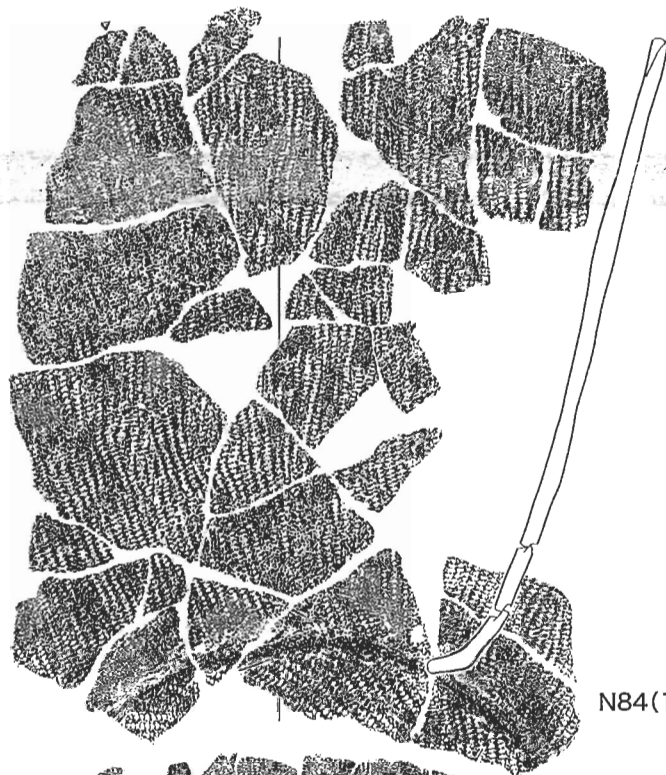


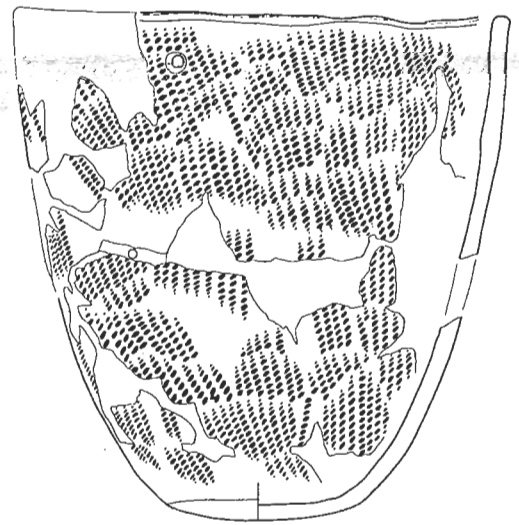
図 V-15 縄文土器 (15)



13-130



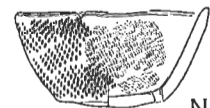
N84(13-531)



N64(13-539)



N84の全破片(S=1/6)



N17(13-523)

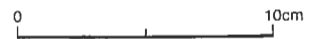


図 V-16 縄文土器 (16)



图 V-17 绳文土器 (17)





図 V-18 縄文土器 (18)

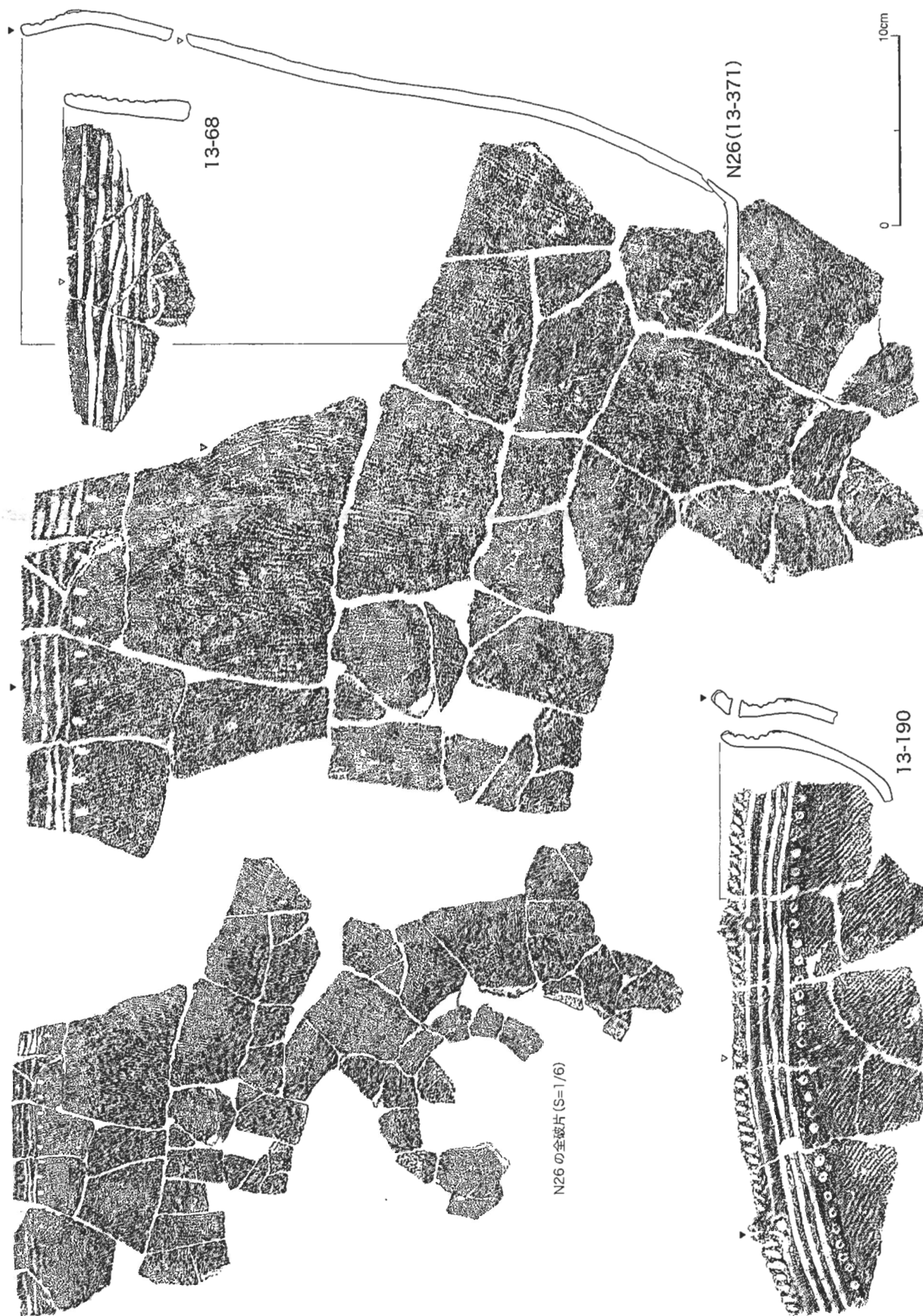


図 V-19 縄文土器 (19)



図 V-20 縄文土器 (20)

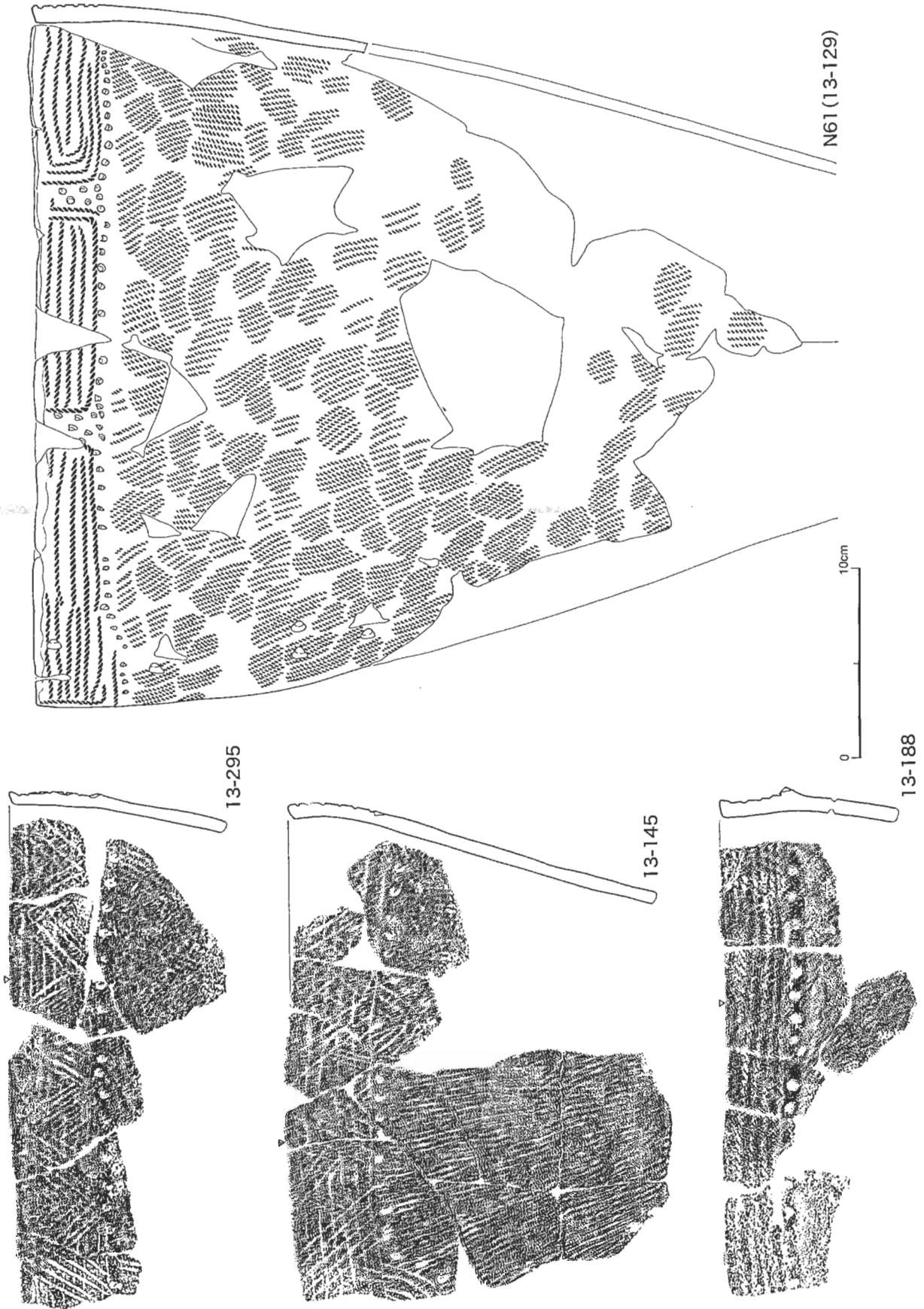


図 V-21 縄文土器 (21)



図 V-22 縄文土器 (22)

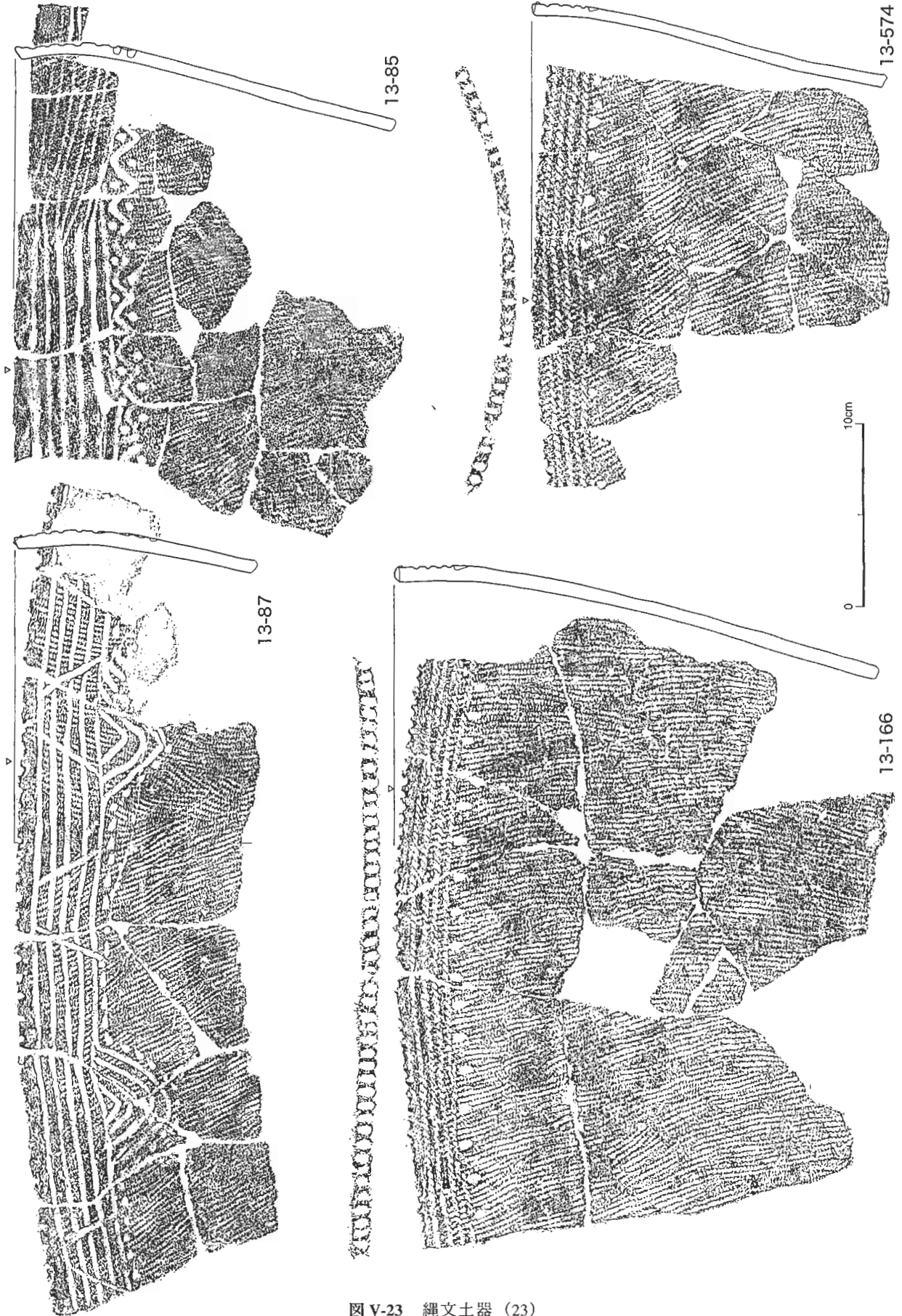
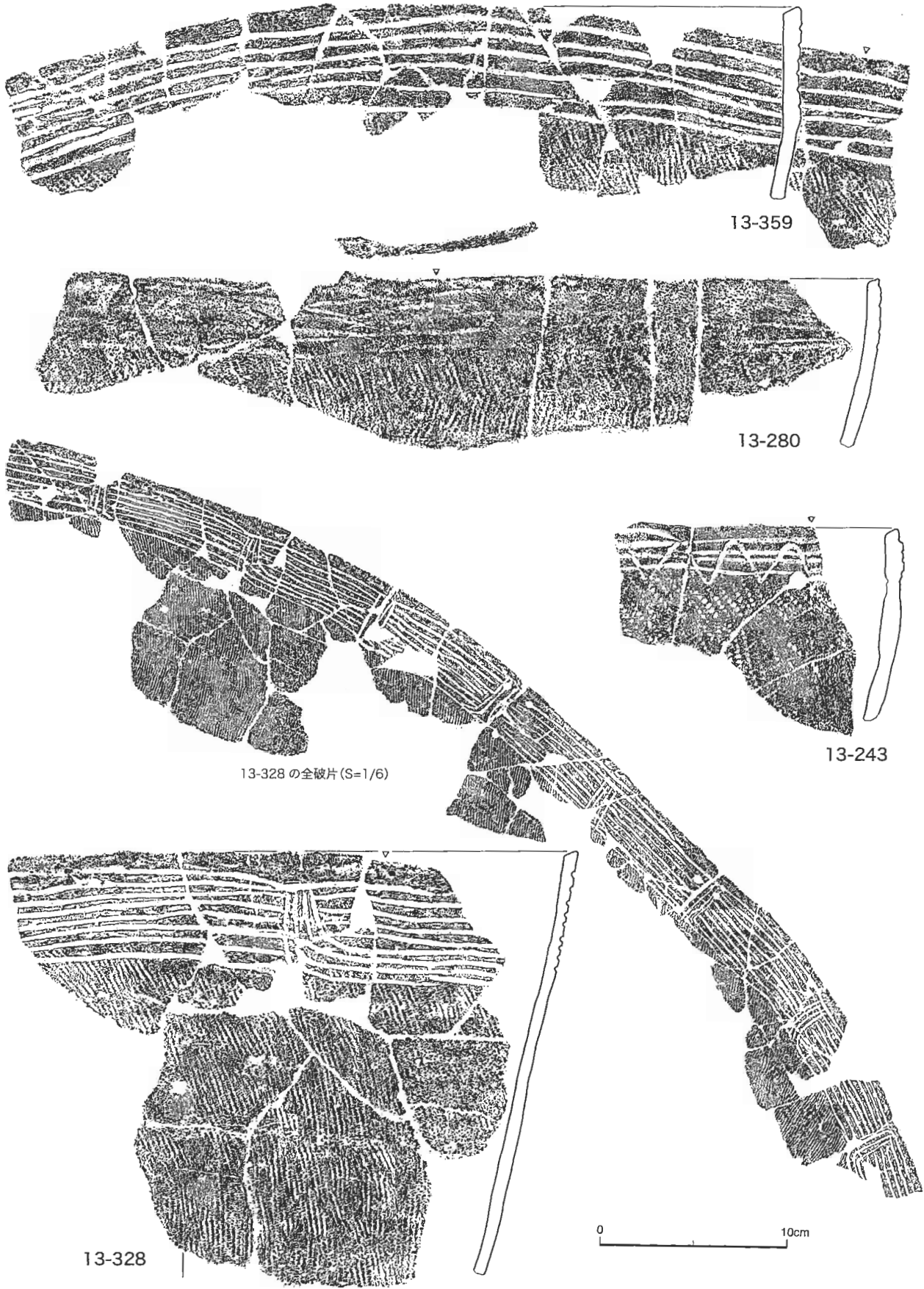


图 V-23 縄文土器 (23)



図 V-24 縄文土器 (24)



13-328の全破片(S=1/6)

図 V-25 縄文土器 (25)



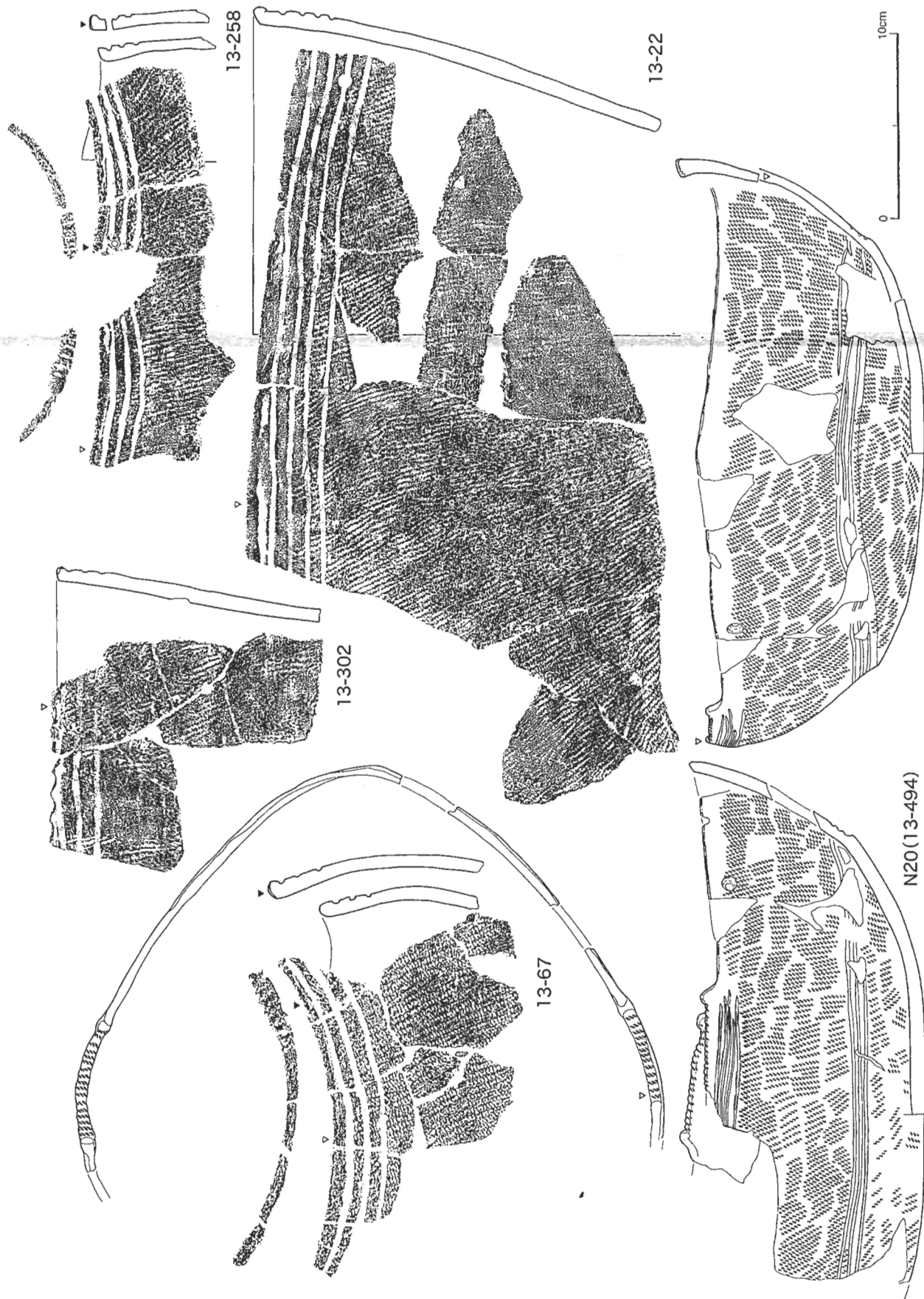


図 V-26 繩文土器 (26)

13-153

13-61

0 10cm

N39(13-115a)

13-115b



13-123

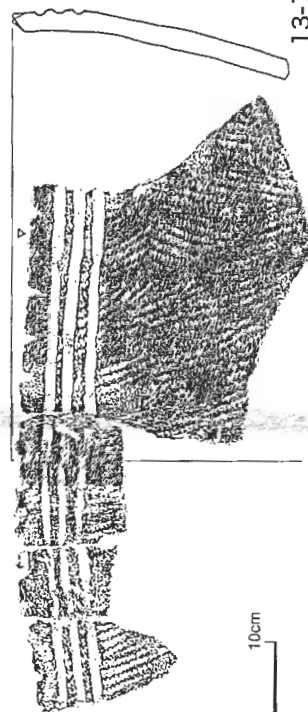
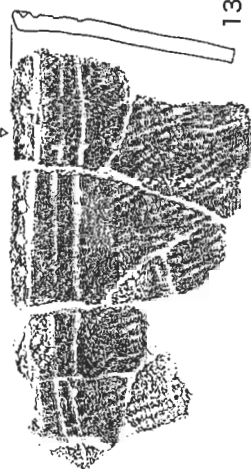


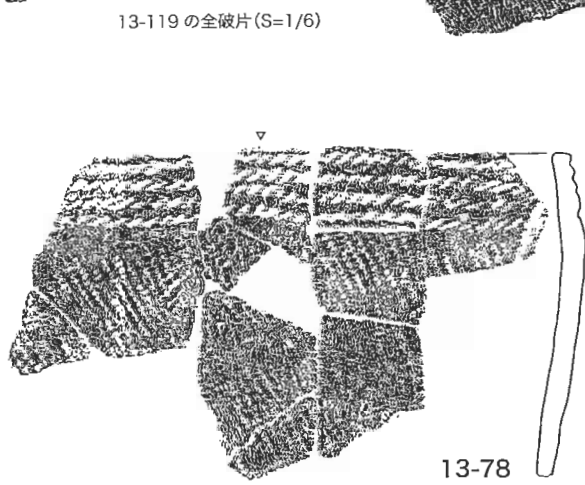
图 V-27 縄文土器 (27)



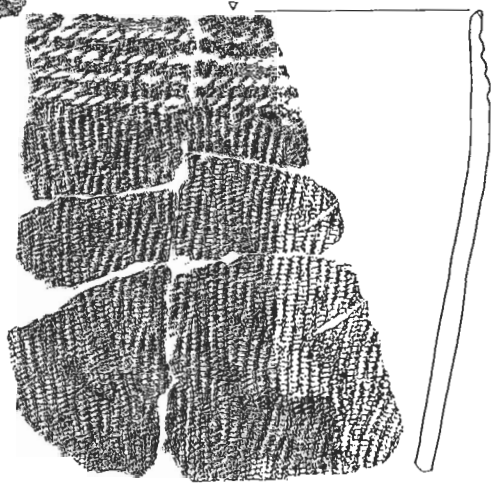
図 V-28 縄文土器 (28)



13-119 の全破片(S=1/6)



13-78



13-74

図 V-29 縄文土器 (29)

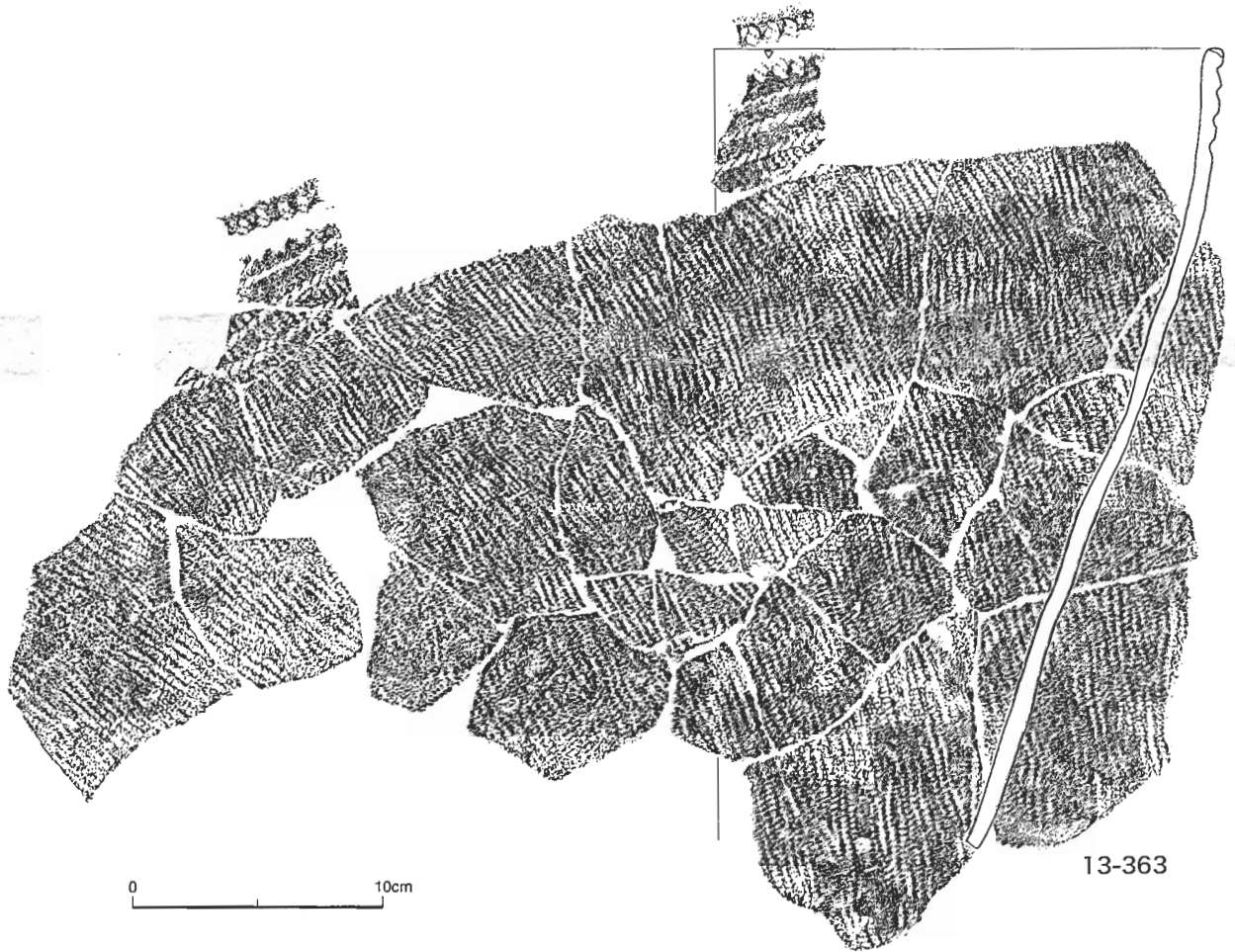


図 V-30 縄文土器 (30)

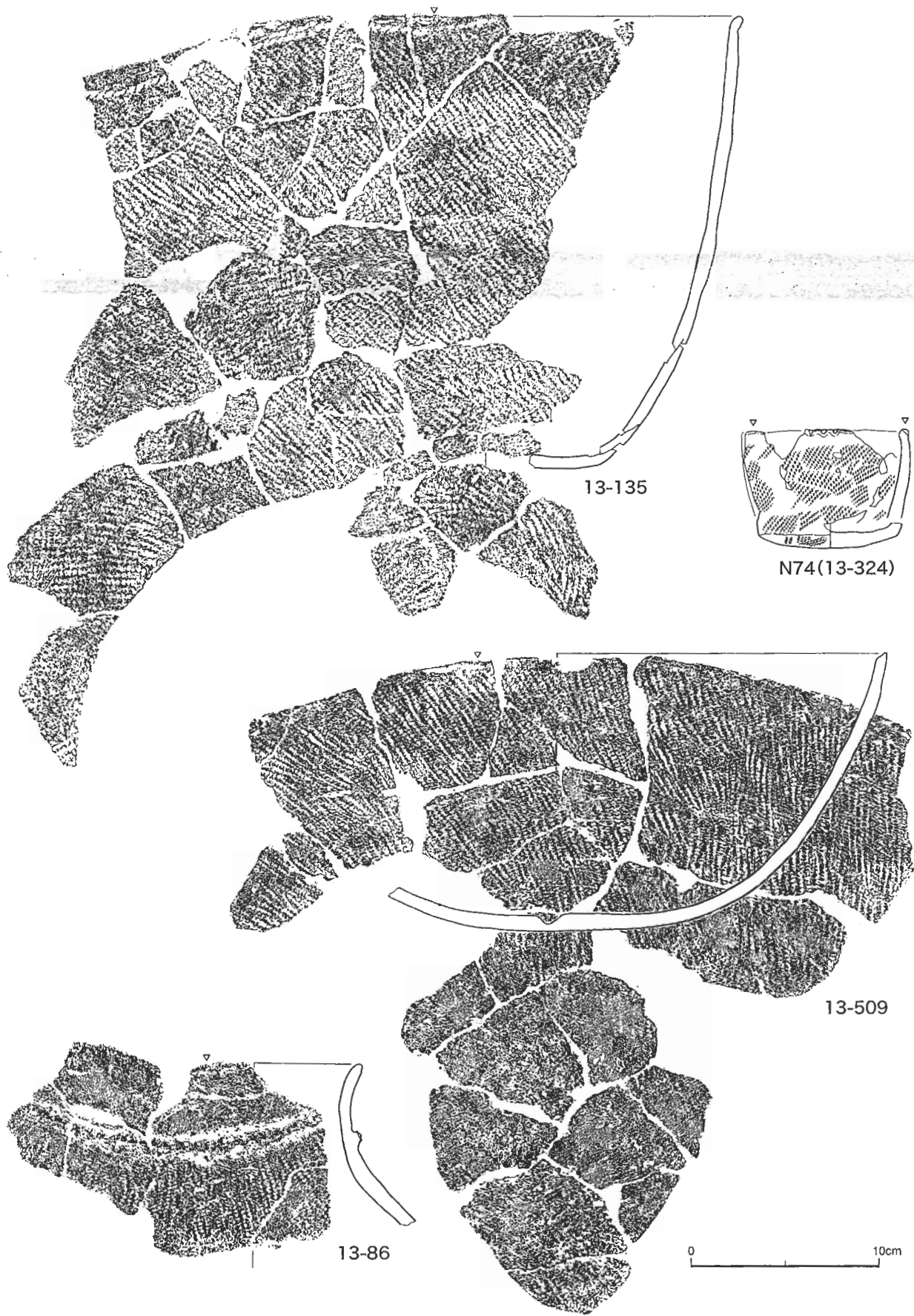


図 V-31 縄文土器 (31)



図 V-32 縄文土器 (32)

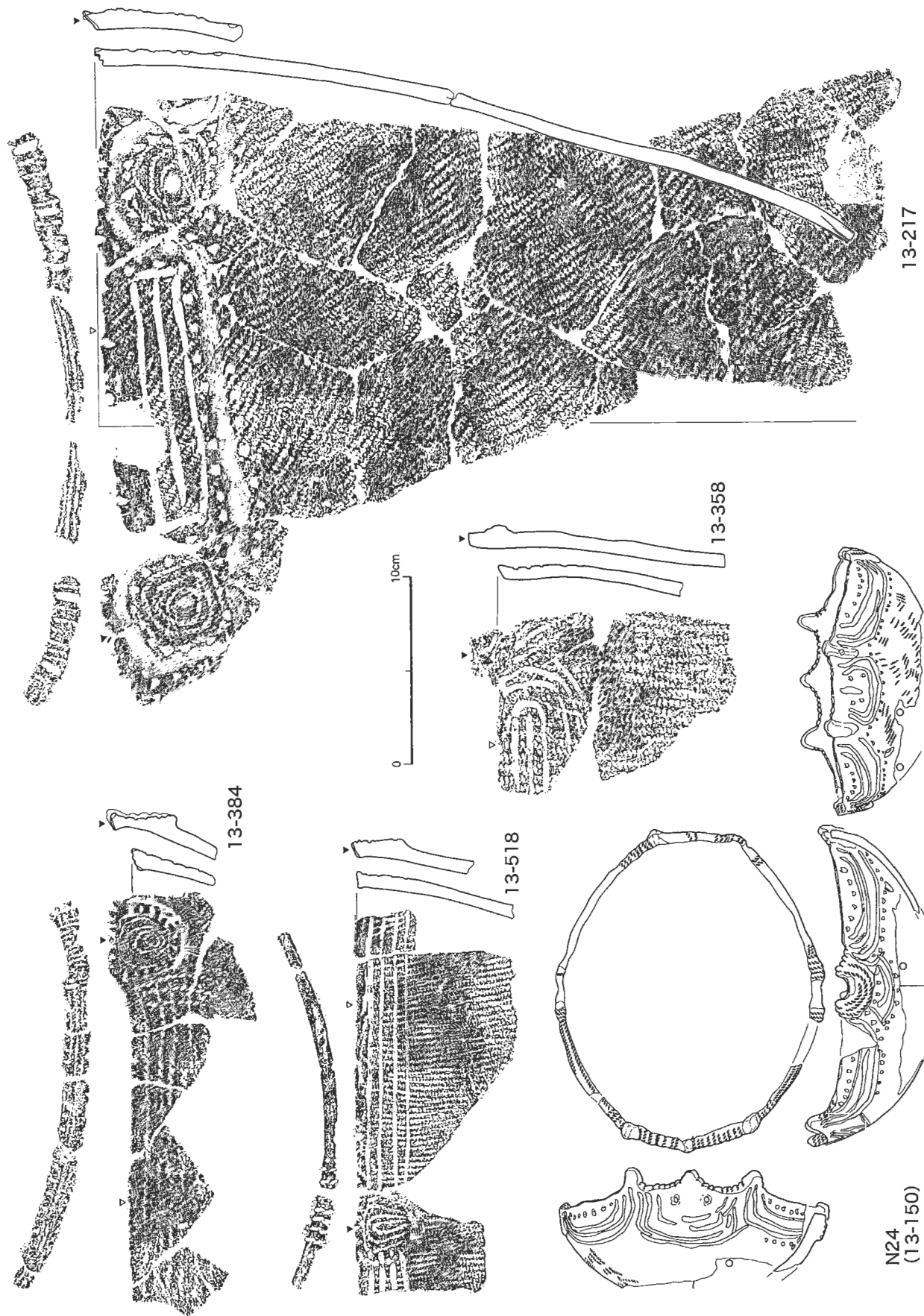


図 V-33 縄文土器 (33)



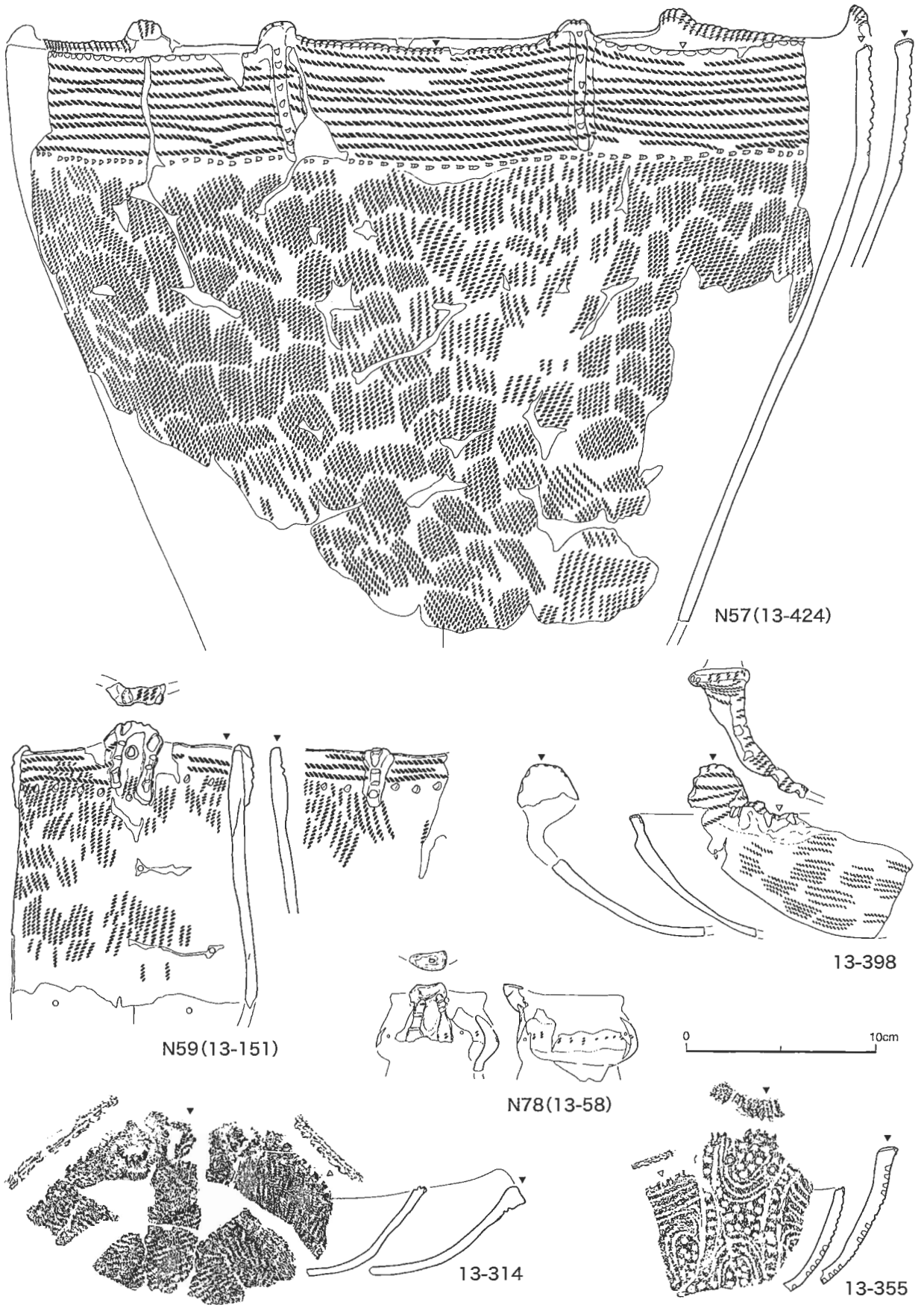


图 V-34 繩文土器 (34)



図 V-35 縄文土器 (35)

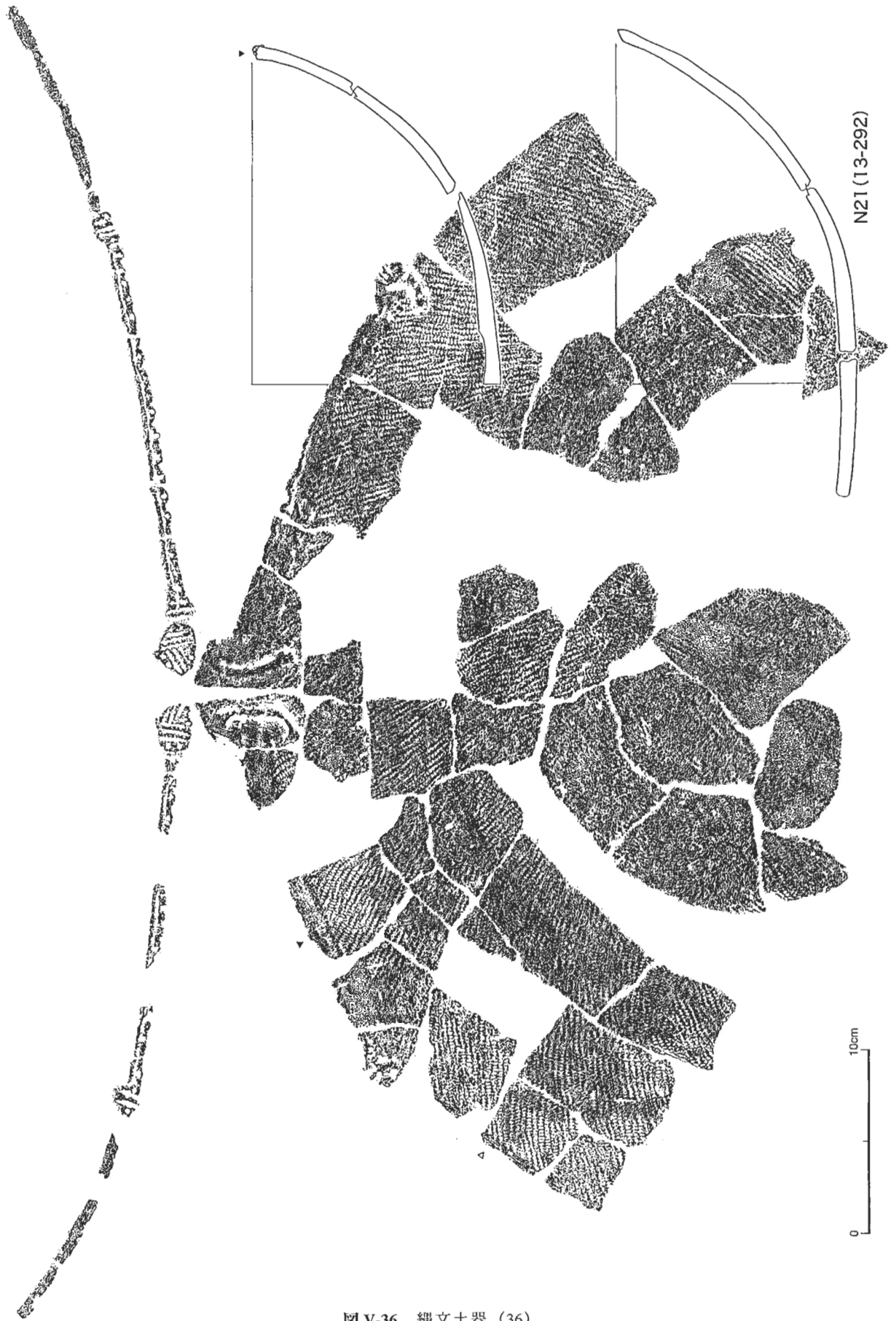


図 V-36 縄文土器 (36)

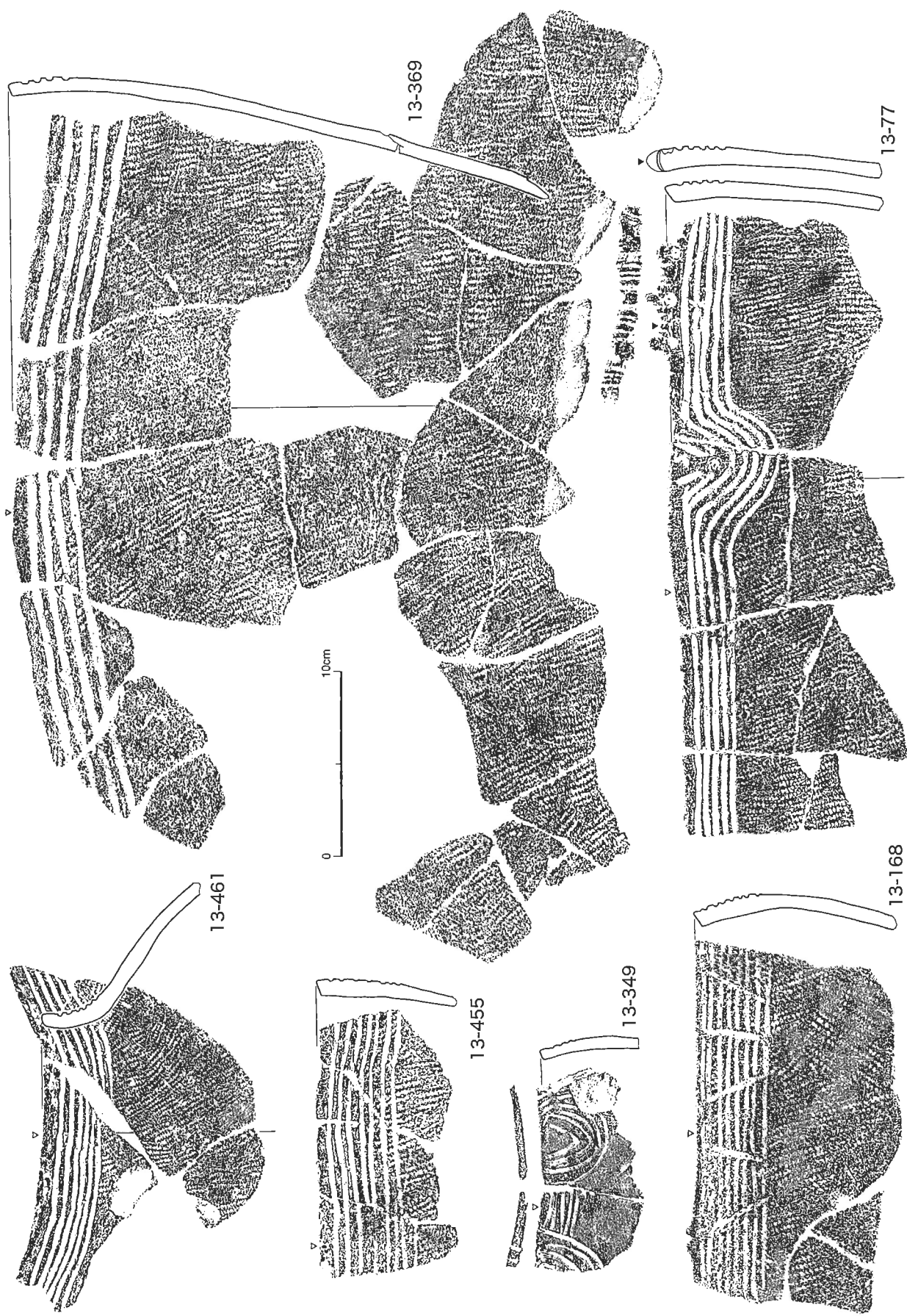


图 V-37 縄文土器 (37)

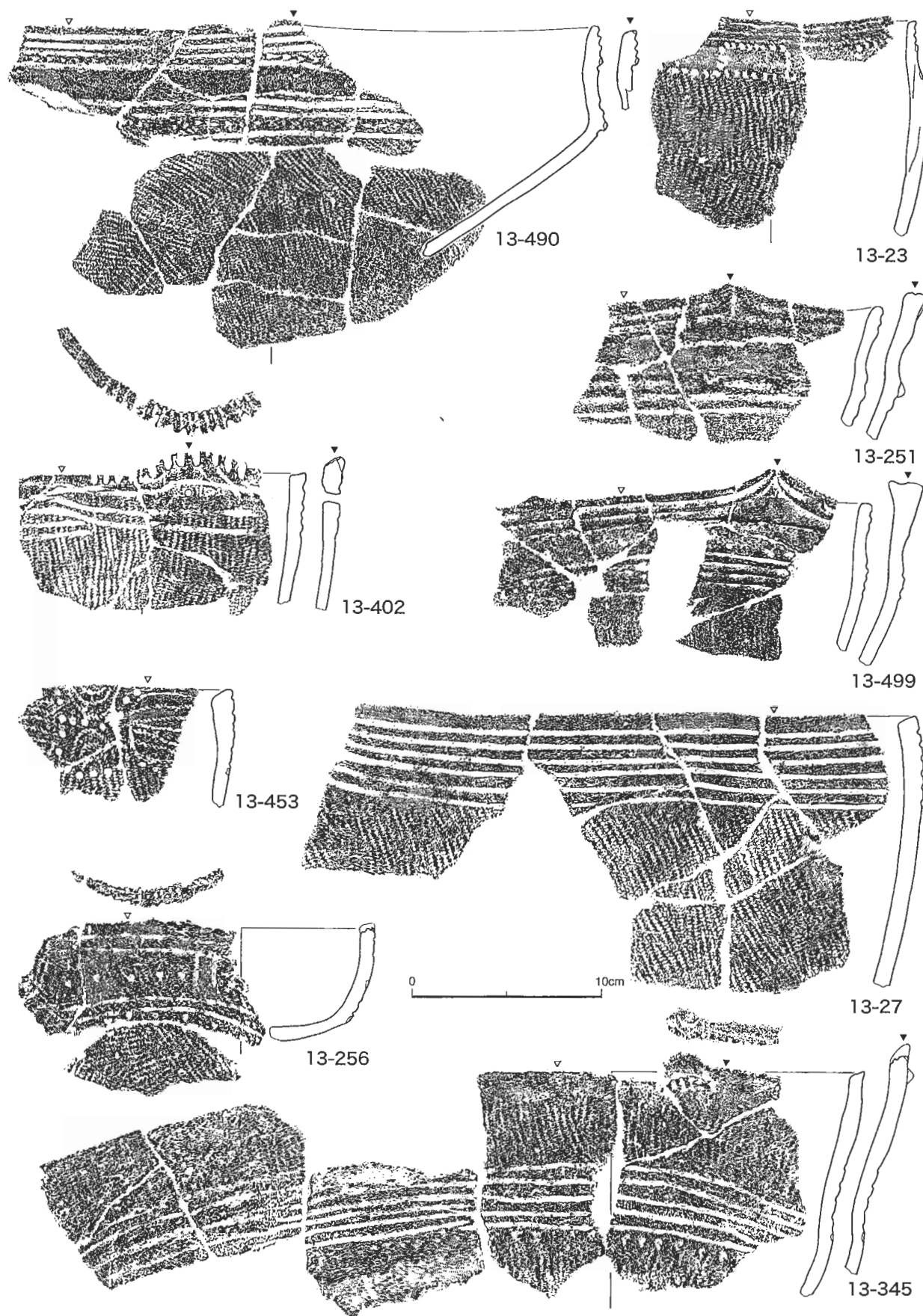


図 V-38 縄文土器 (38)



図 V-39 縄文土器 (39)

图 V-40 彩文土器 (40)

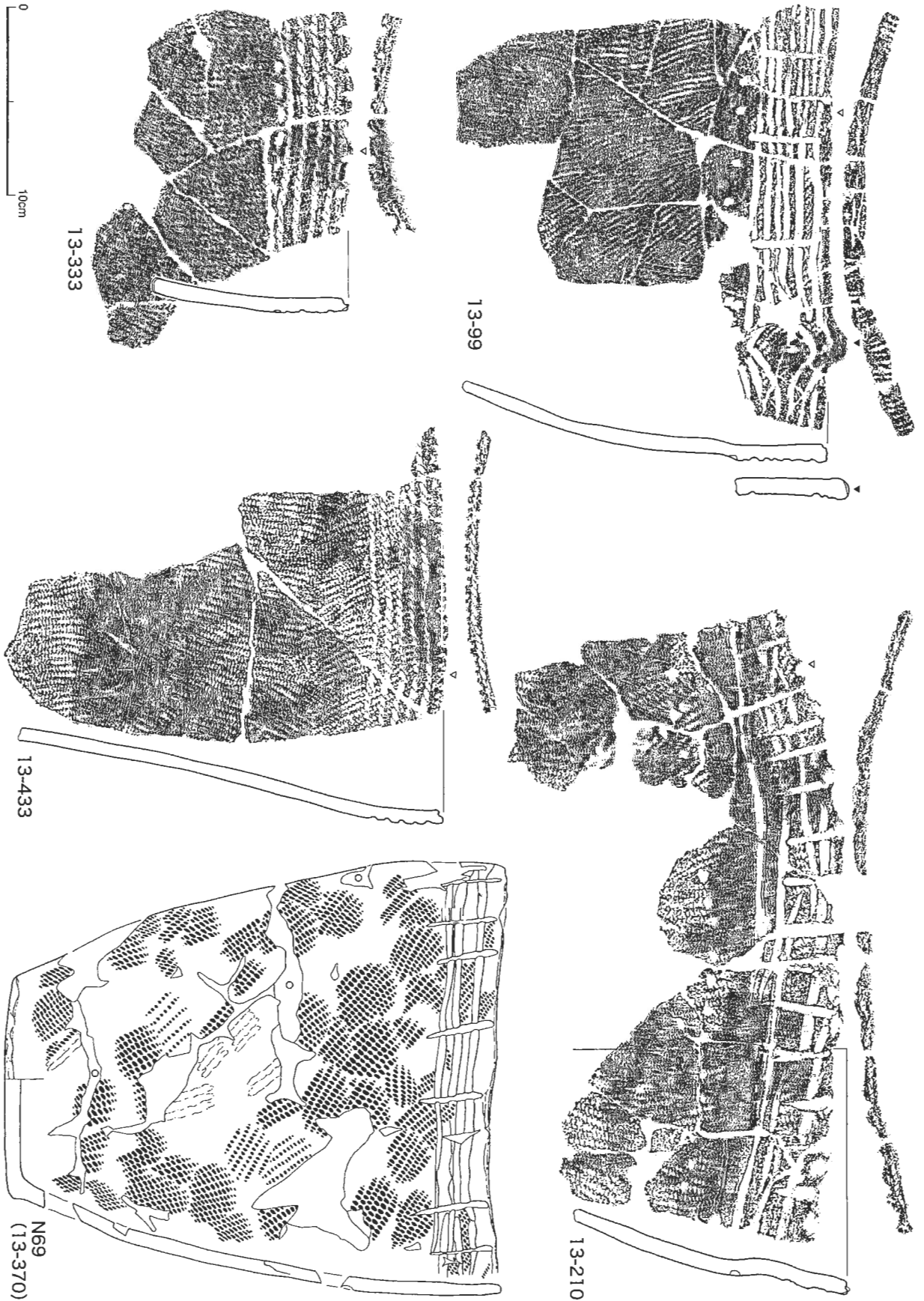




図 V-41 縄文土器 (41)



V 遺物

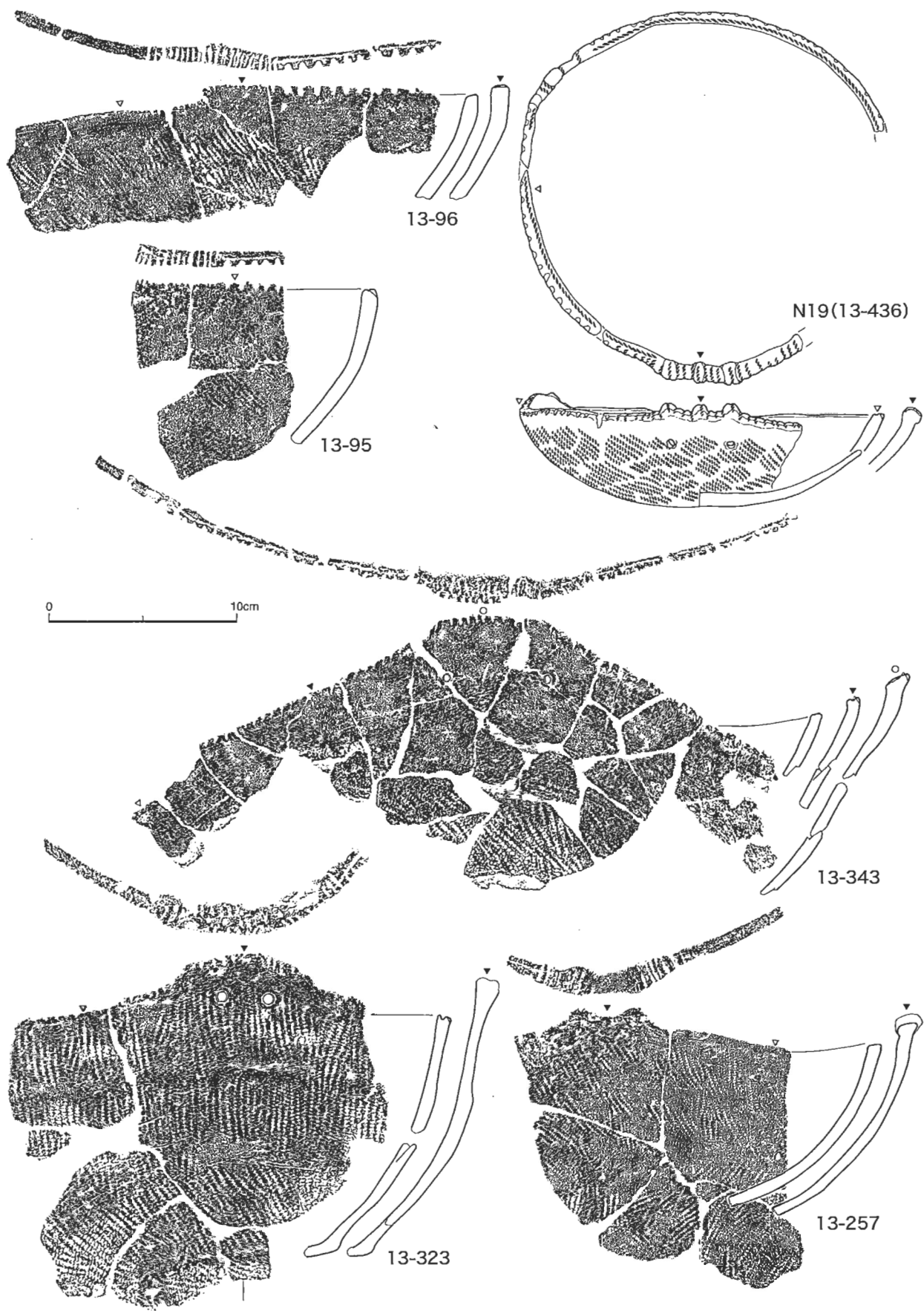


図 V-42 縄文土器 (42)

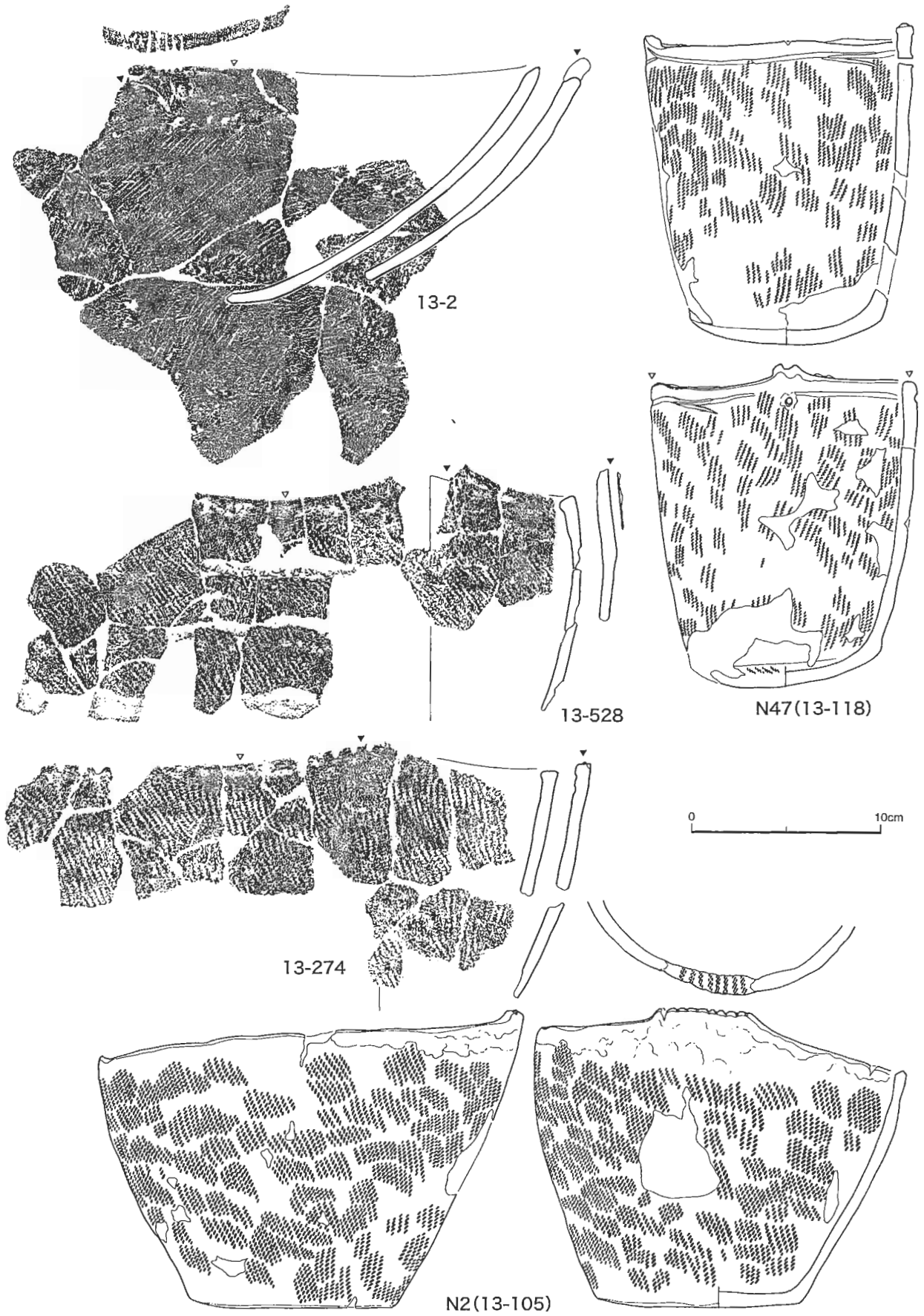


図 V-43 繩文土器 (43)

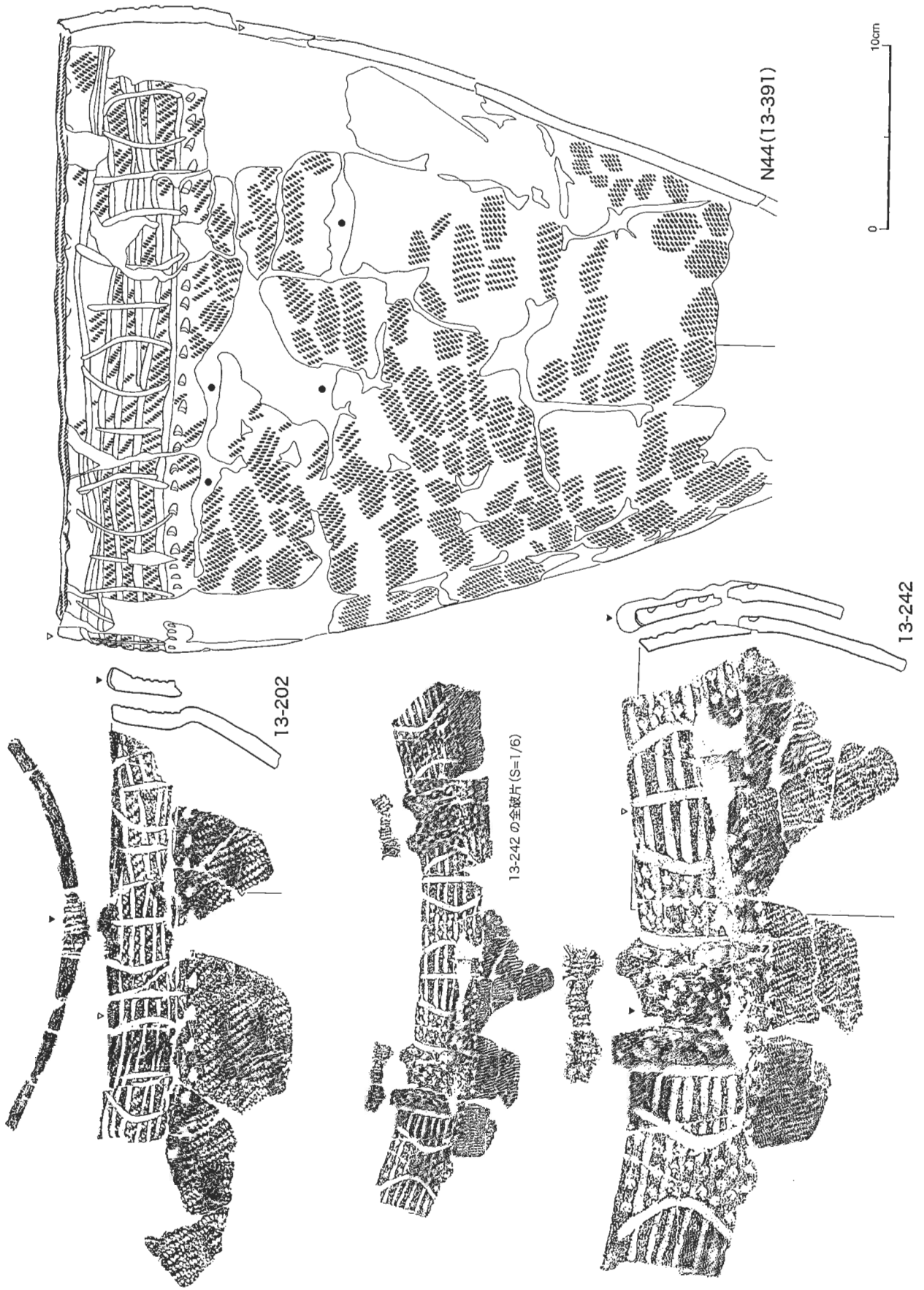


図 V-44 縄文土器 (44)



図 V-45 縄文土器 (45)

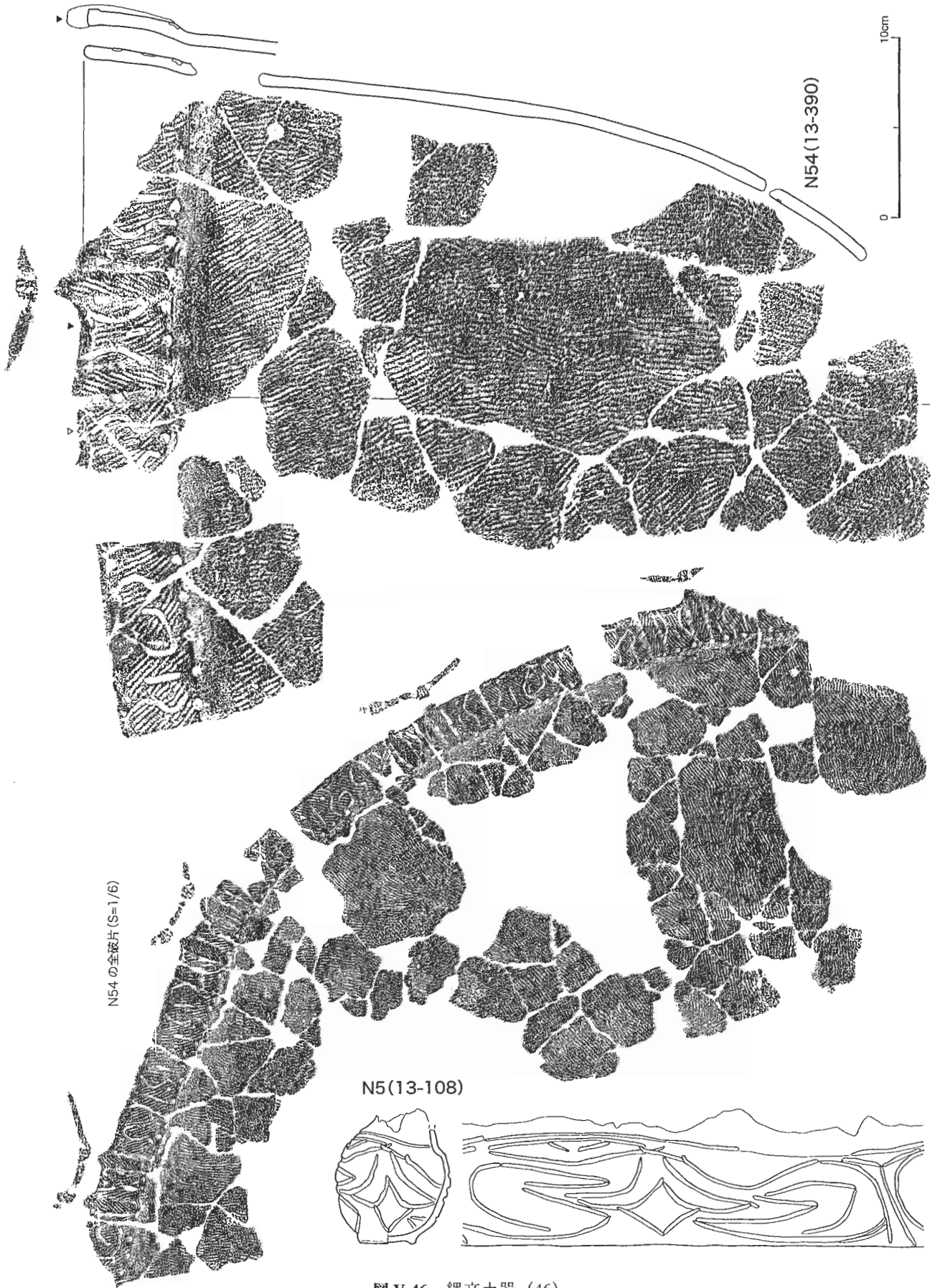


図 V-46 縄文土器 (46)

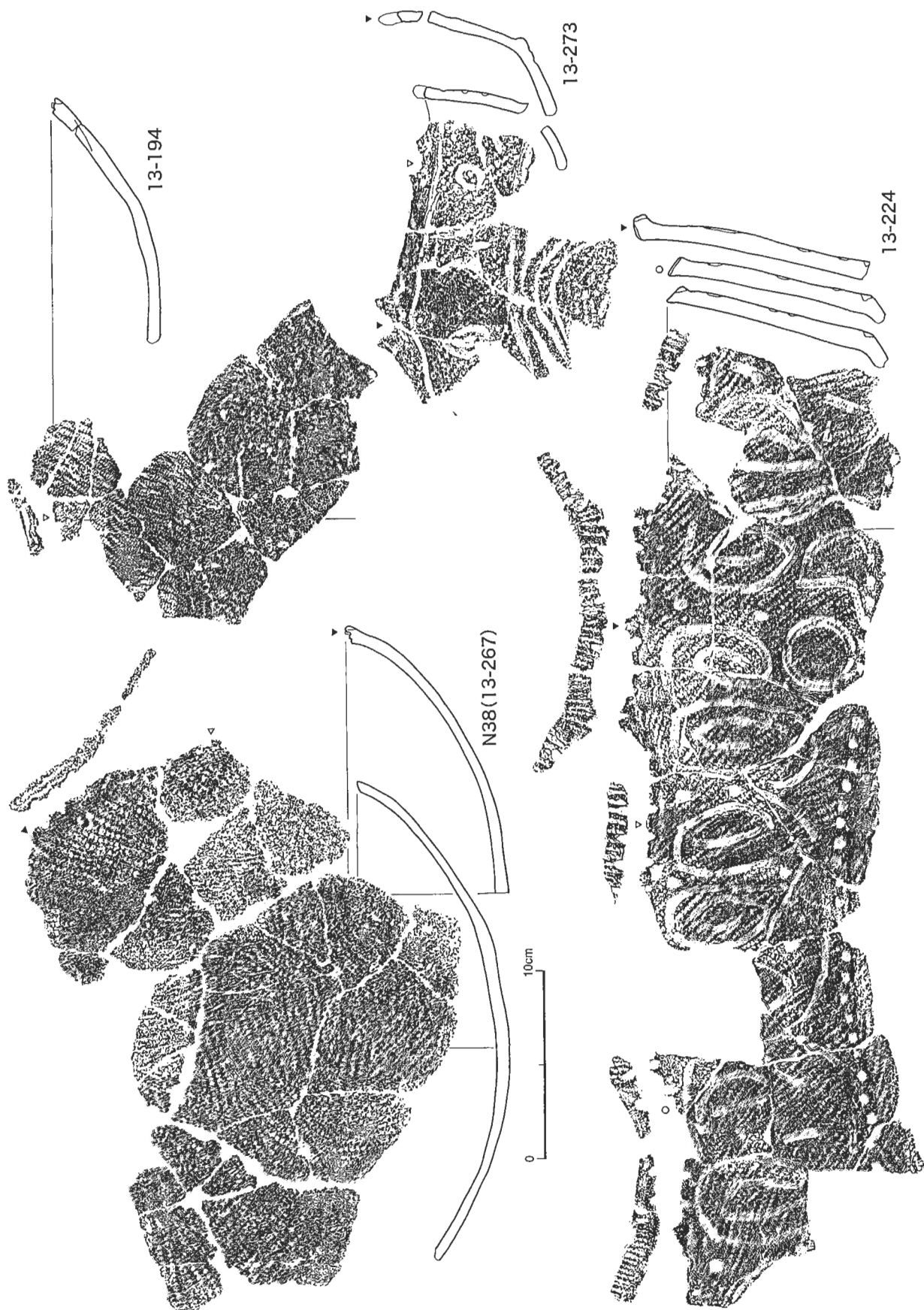


図 V-47 縄文土器 (47)

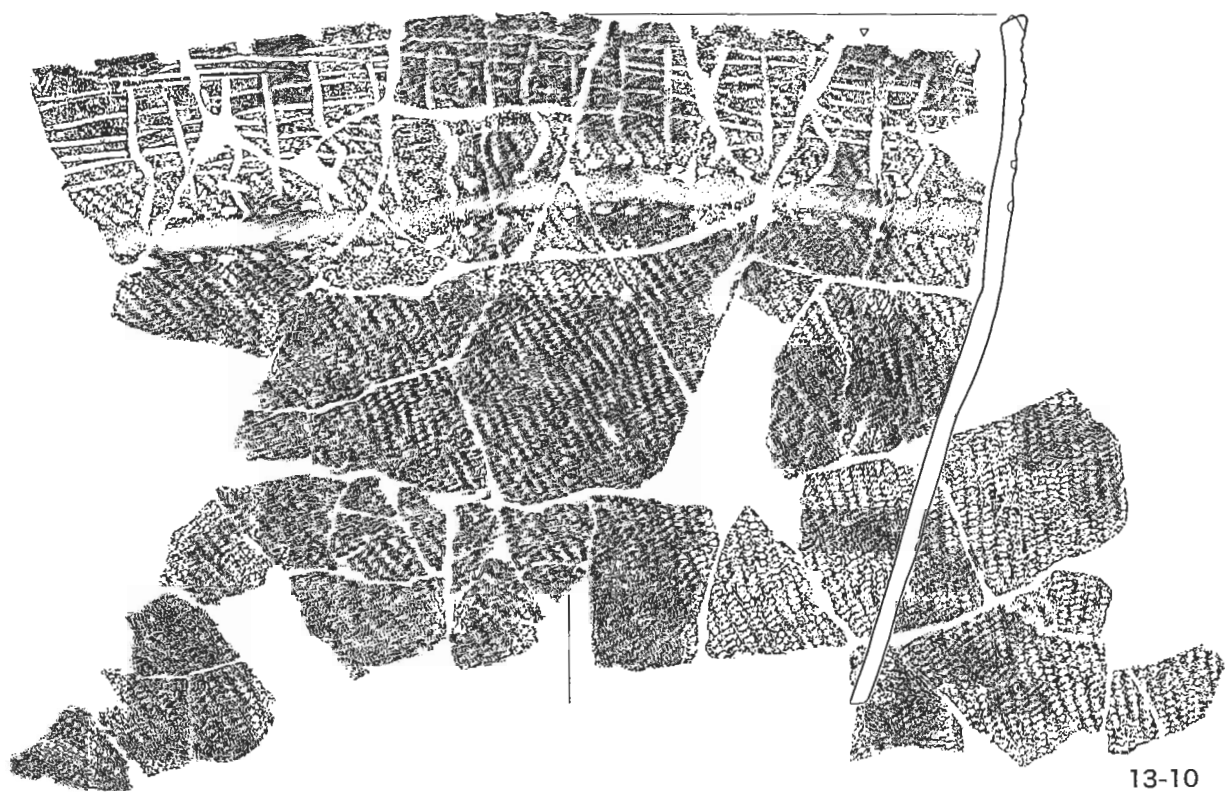
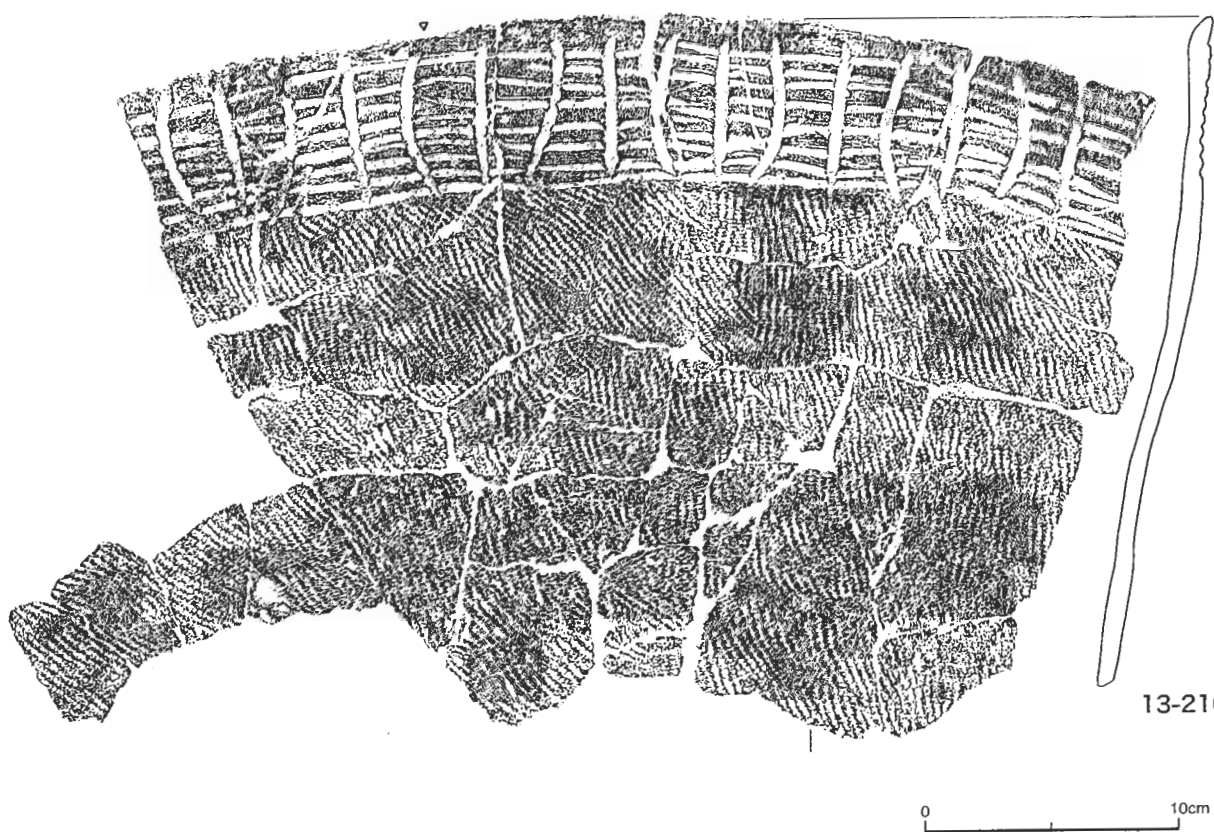


図 V-48 縄文土器 (48)

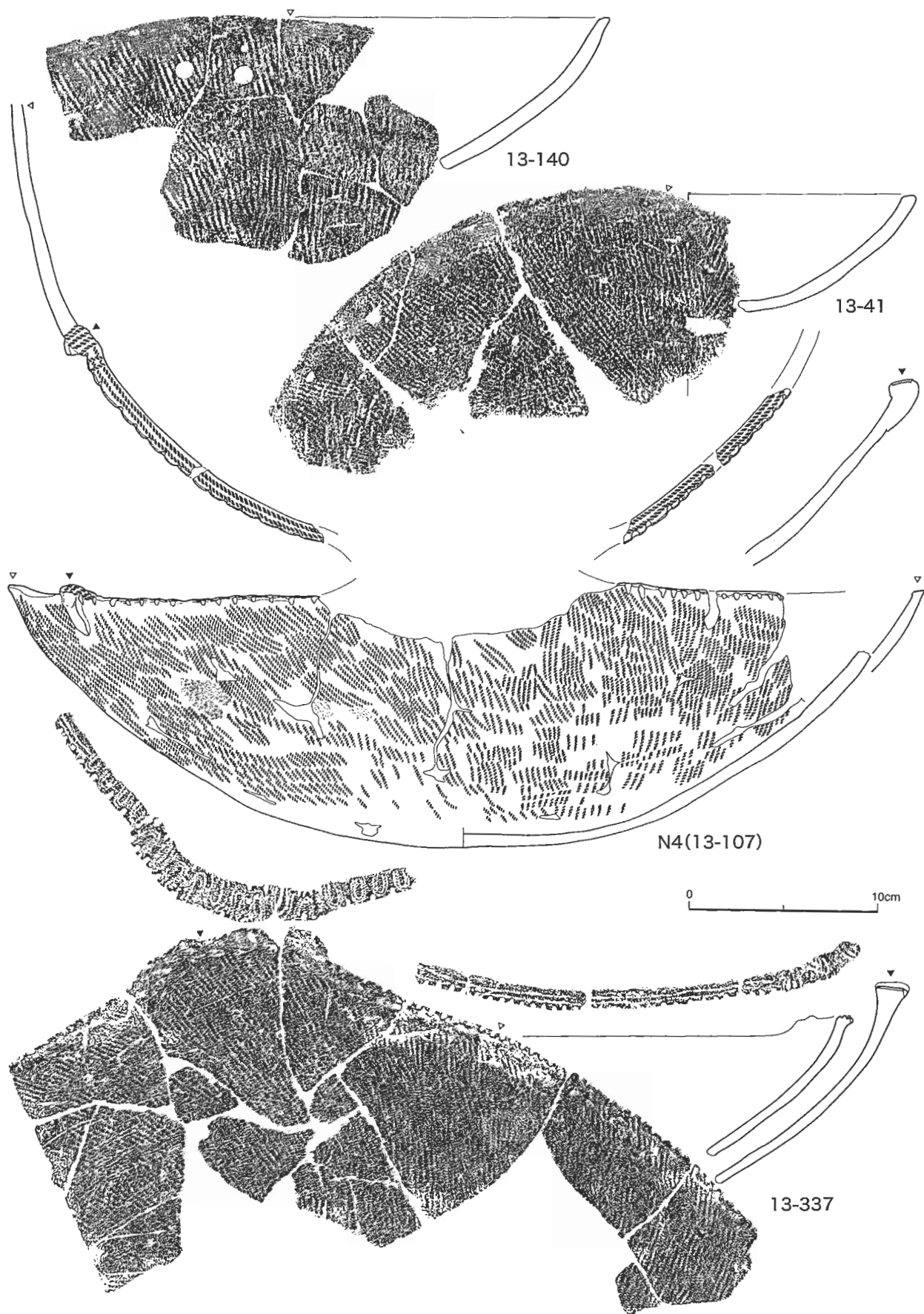


図 V-49 縄文土器 (49)



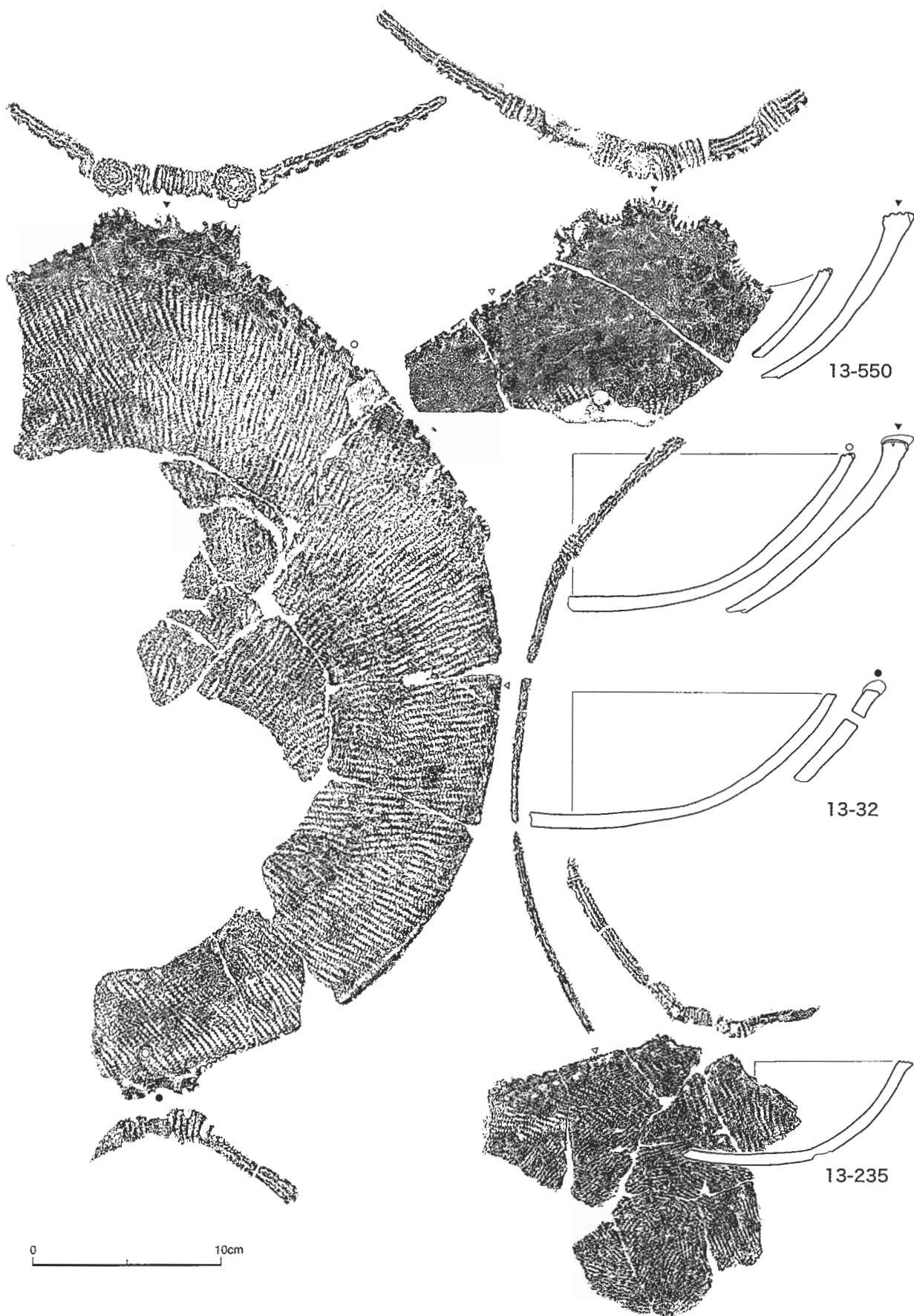


図 V-50 繩文土器 (50)

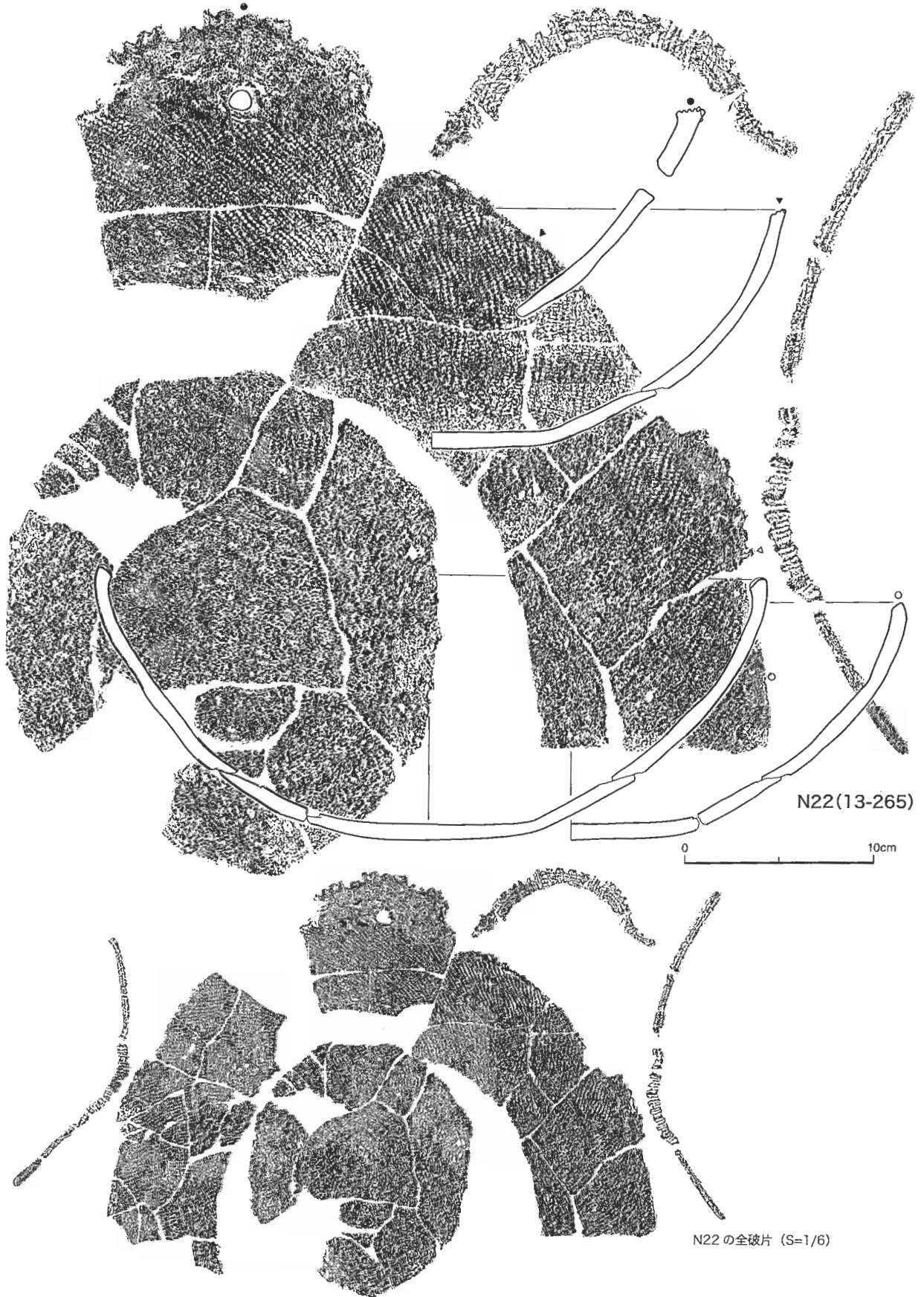


図 V-51 縄文土器 (51)

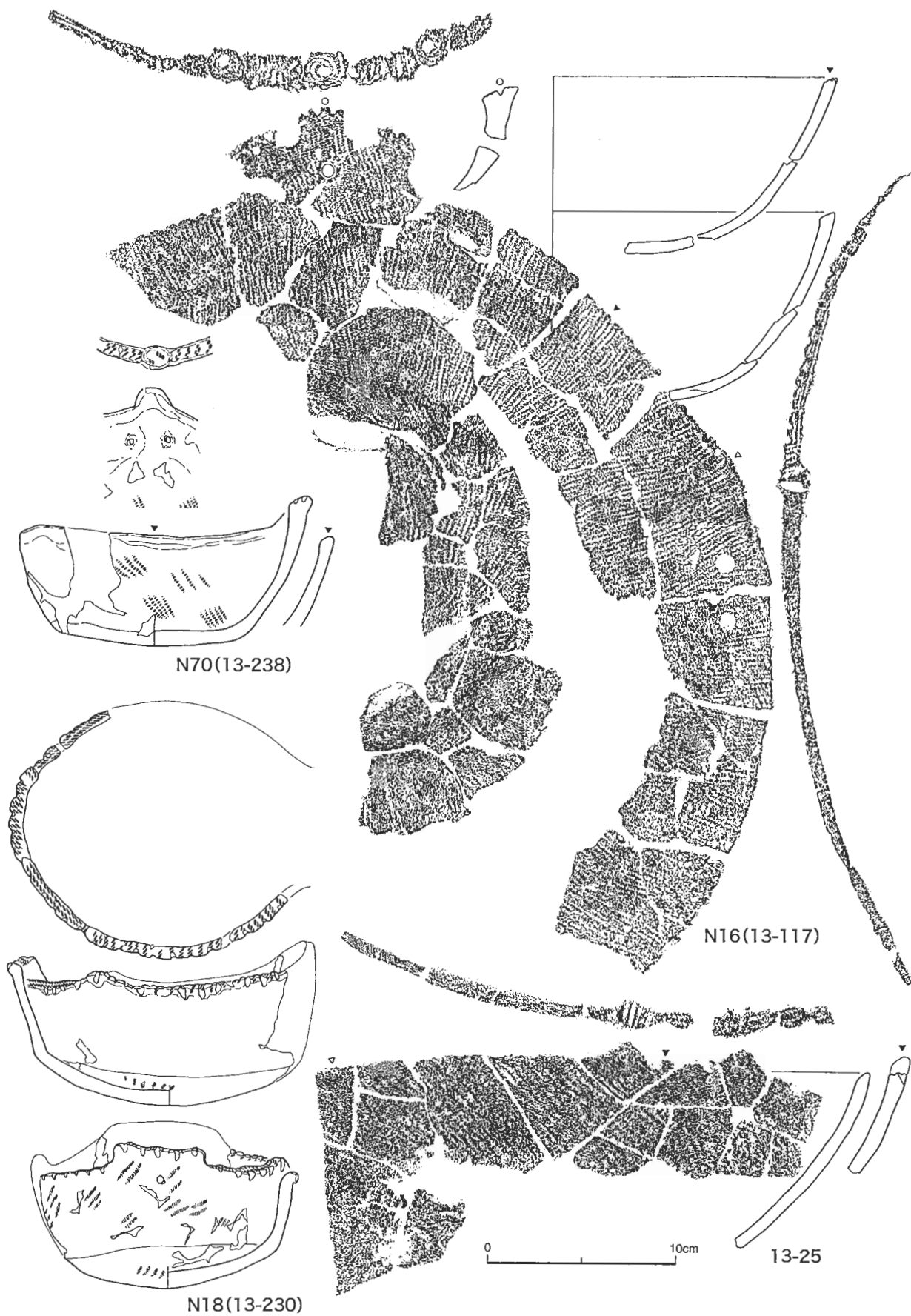


圖 V-52 繩文土器 (52)



図 V-53 縄文土器 (53)



図 V-54 縄文土器 (54)

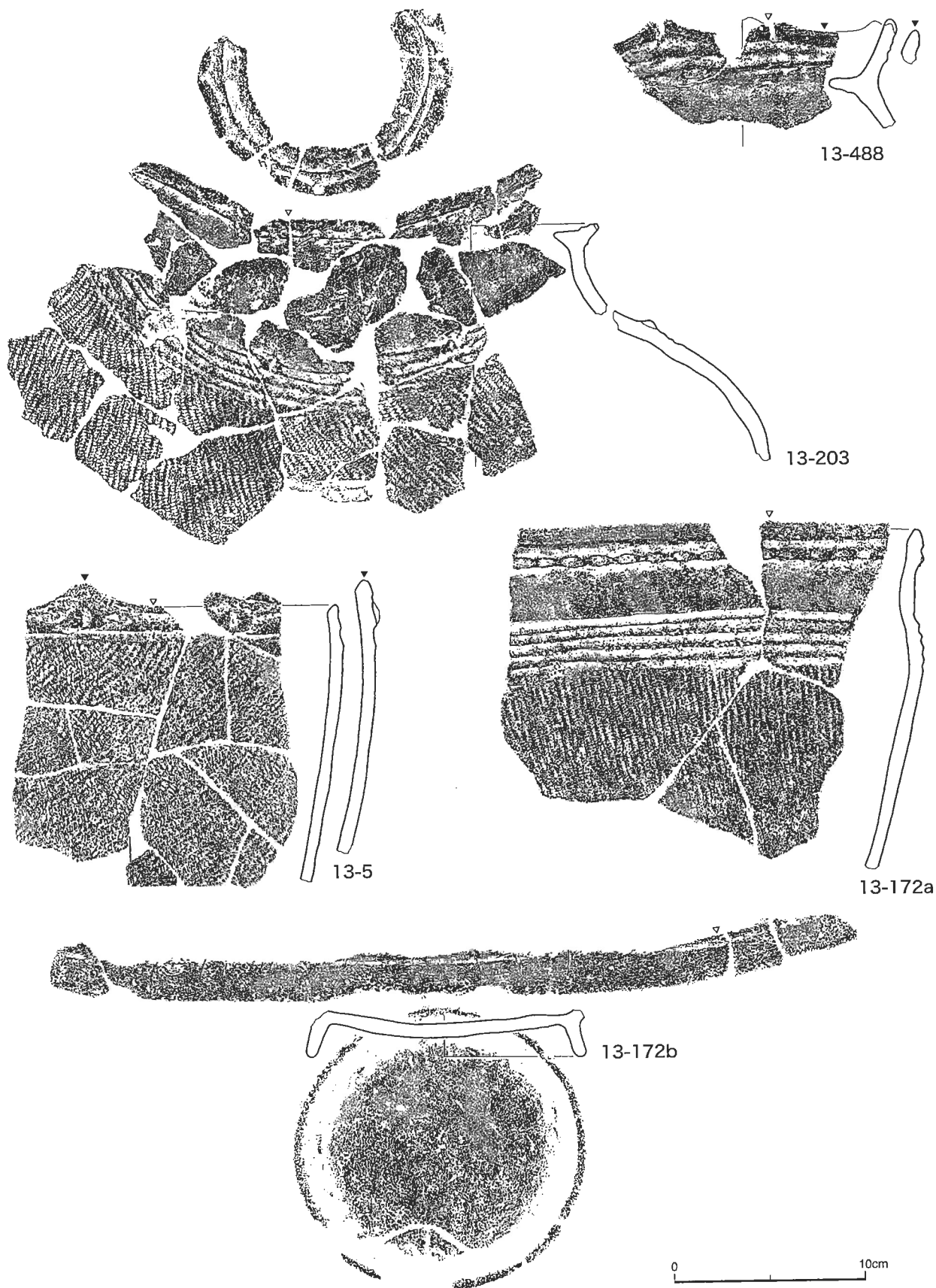


图 V-55 绳文土器 (55)

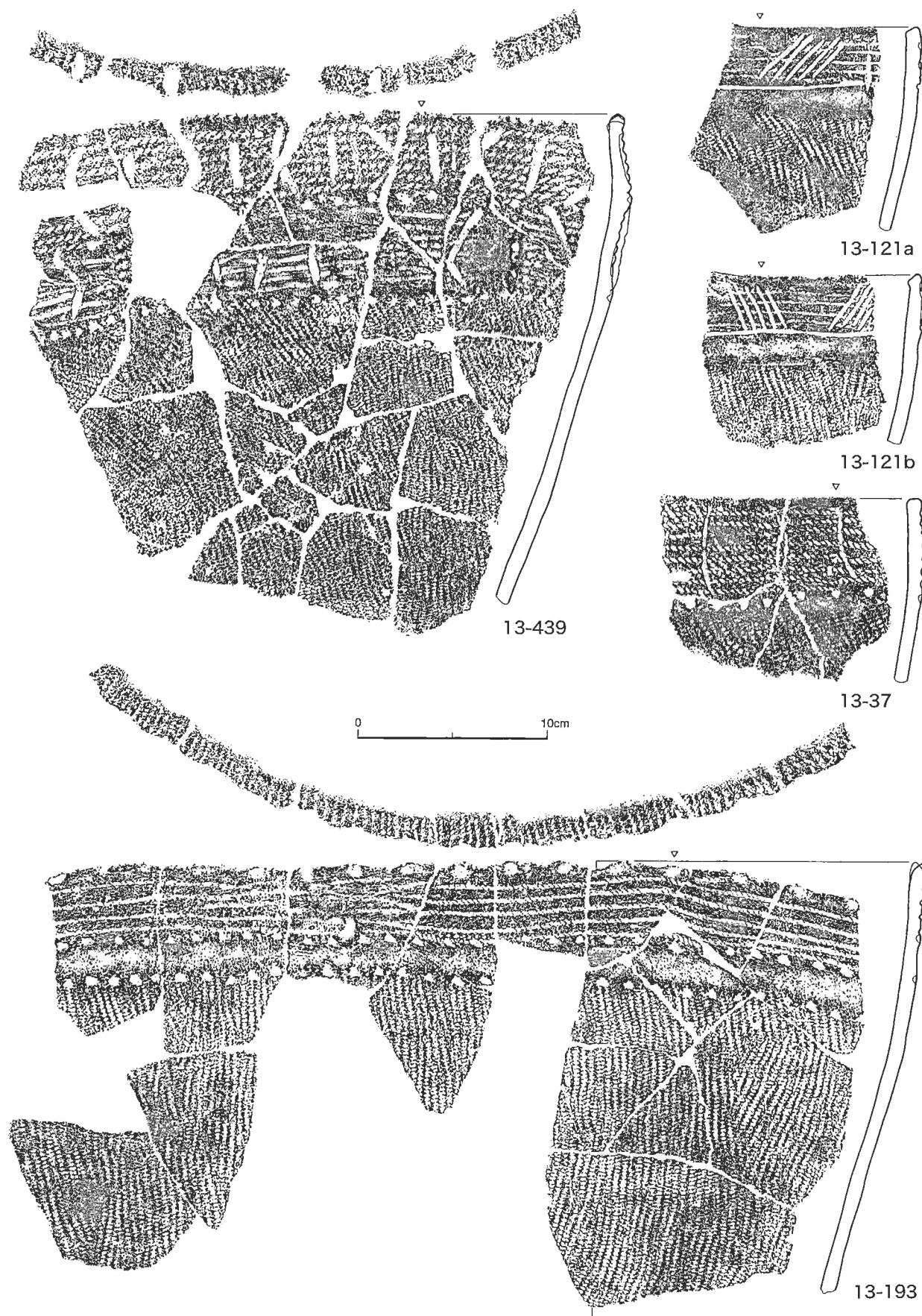


図 V-56 縄文土器 (56)

図 V-57 羅文土器 (57)





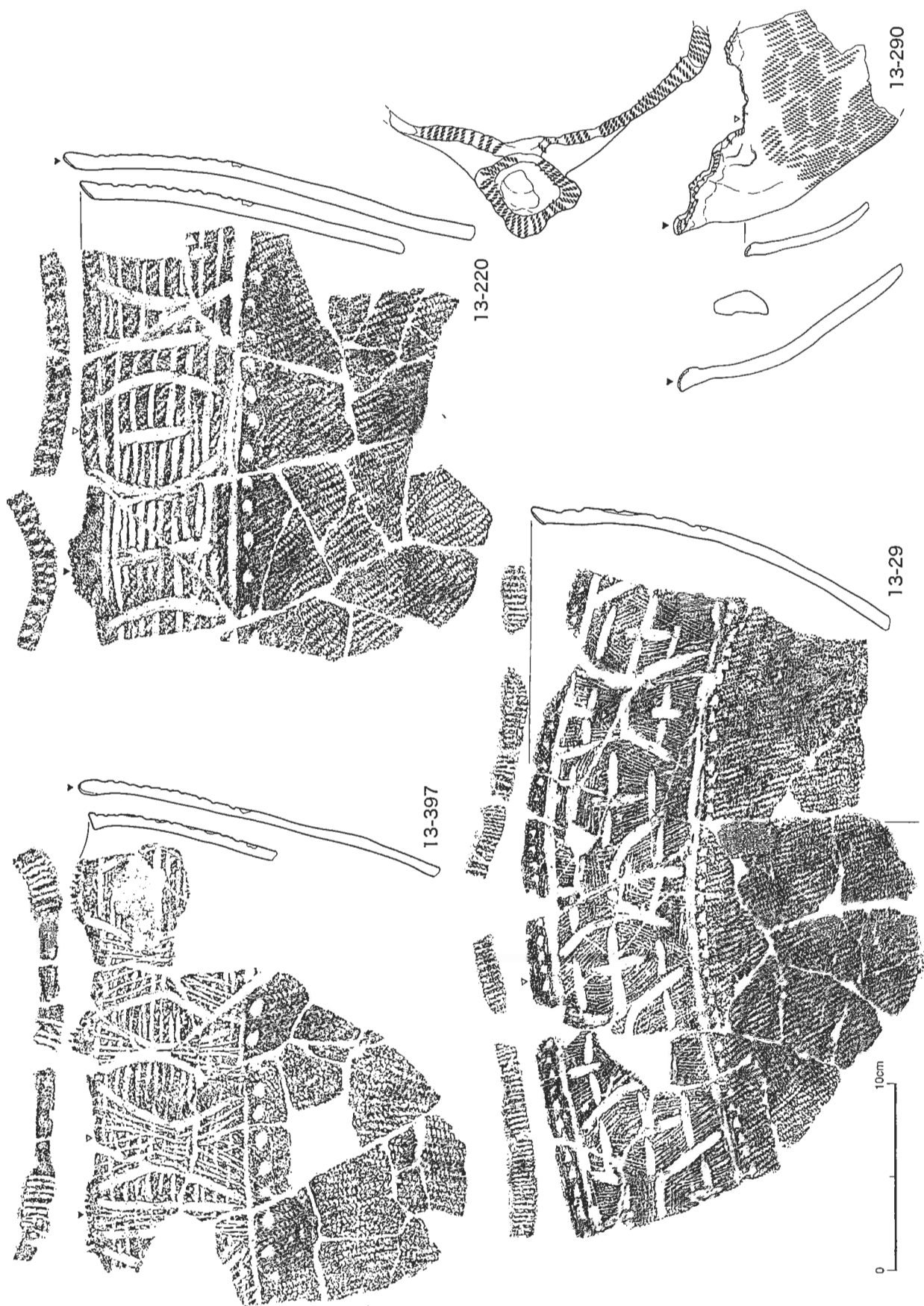


圖 V-58 繩文土器 (58)

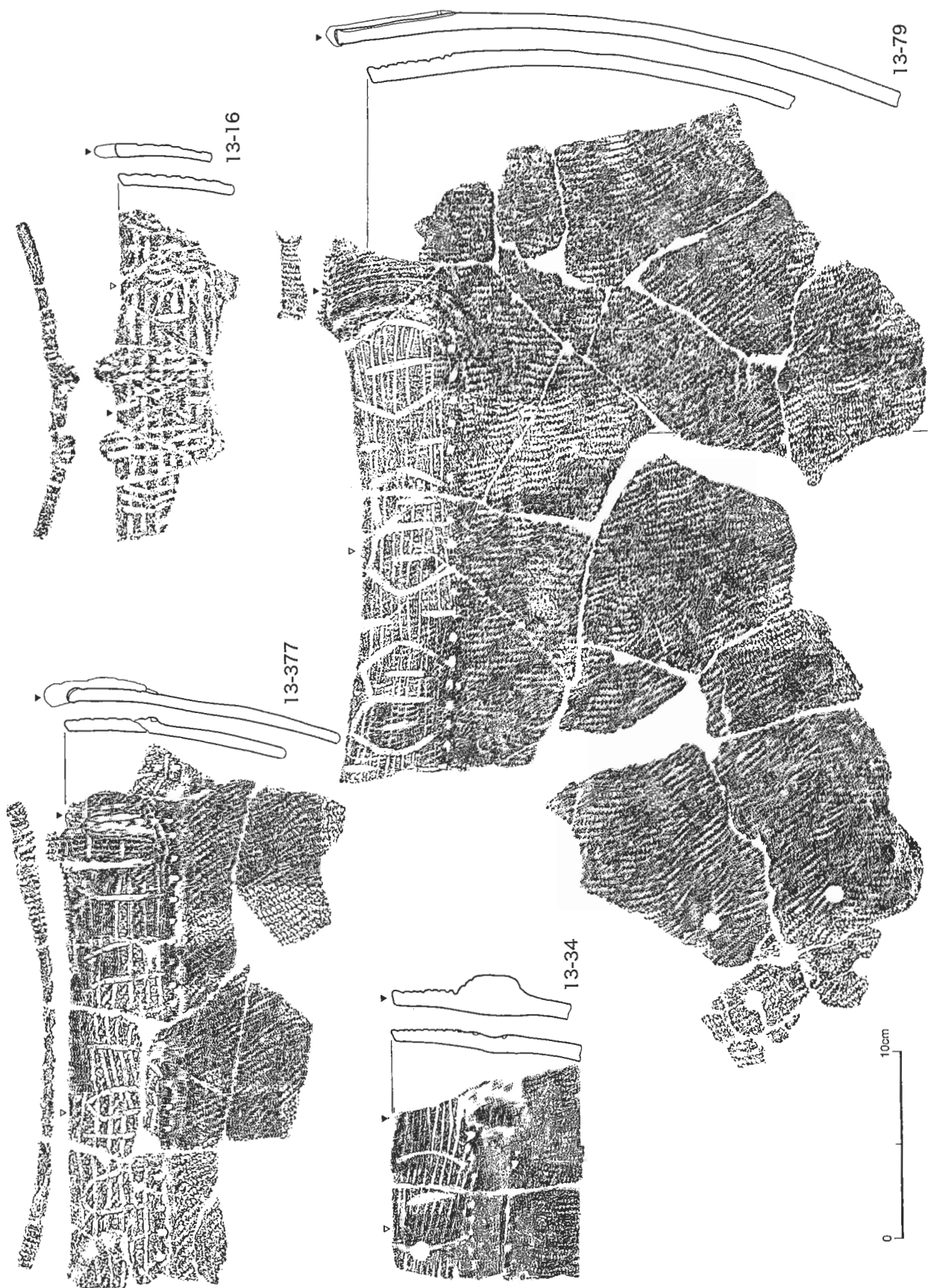


図 V-59 縄文土器 (59)



図 V-60 縄文土器 (60)

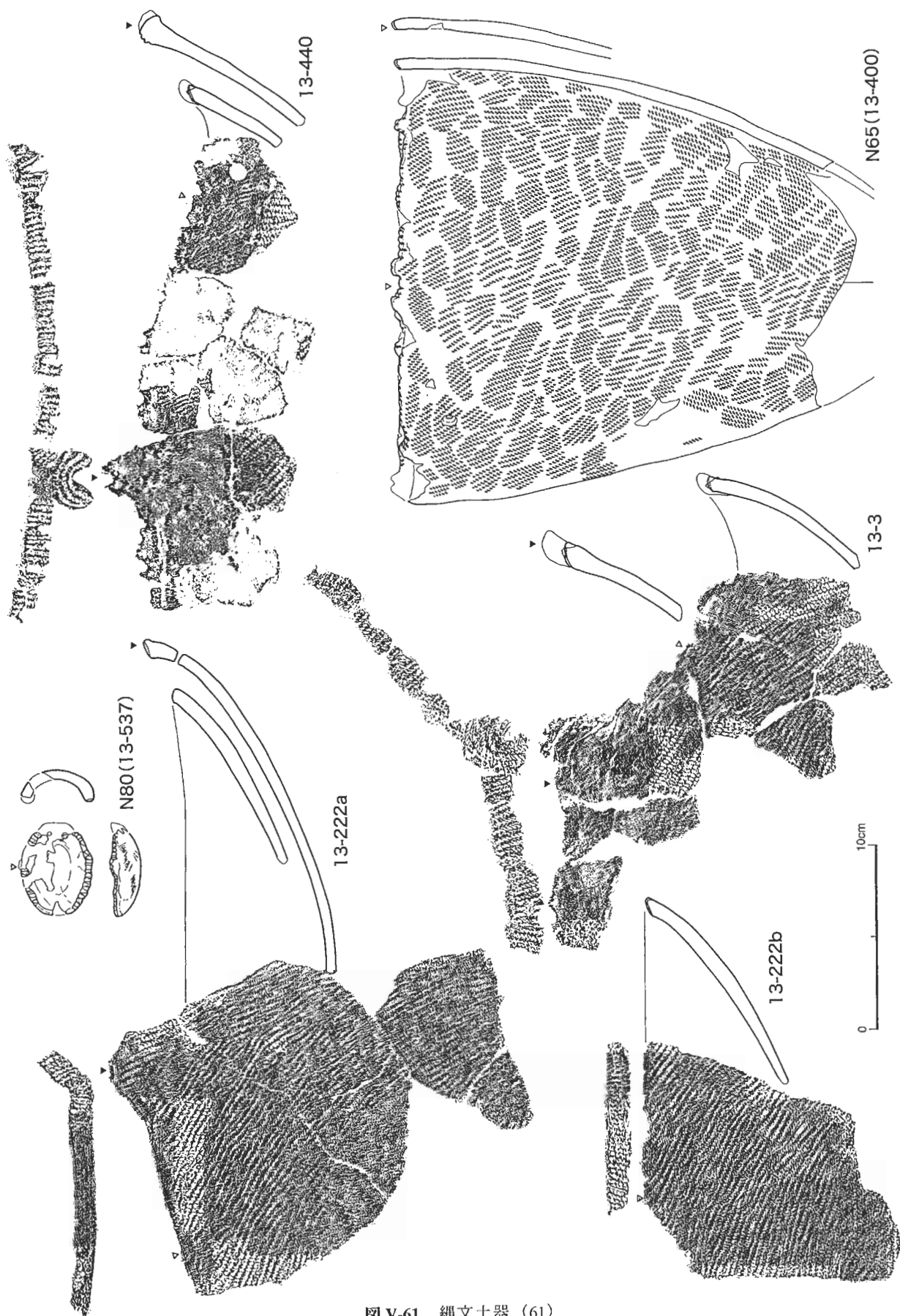


圖 V-61 繩文土器 (61)

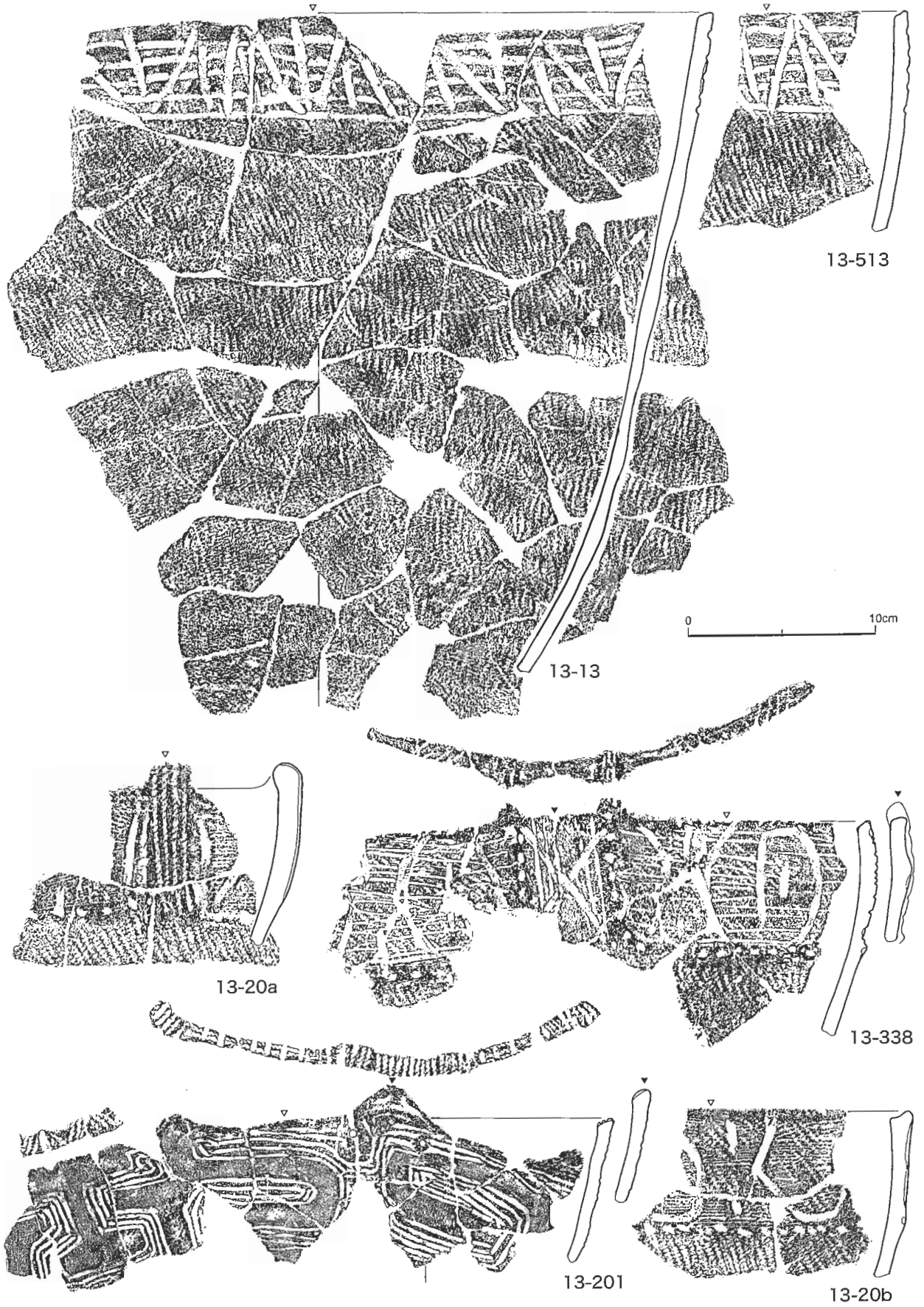


図 V-62 縄文土器 (62)

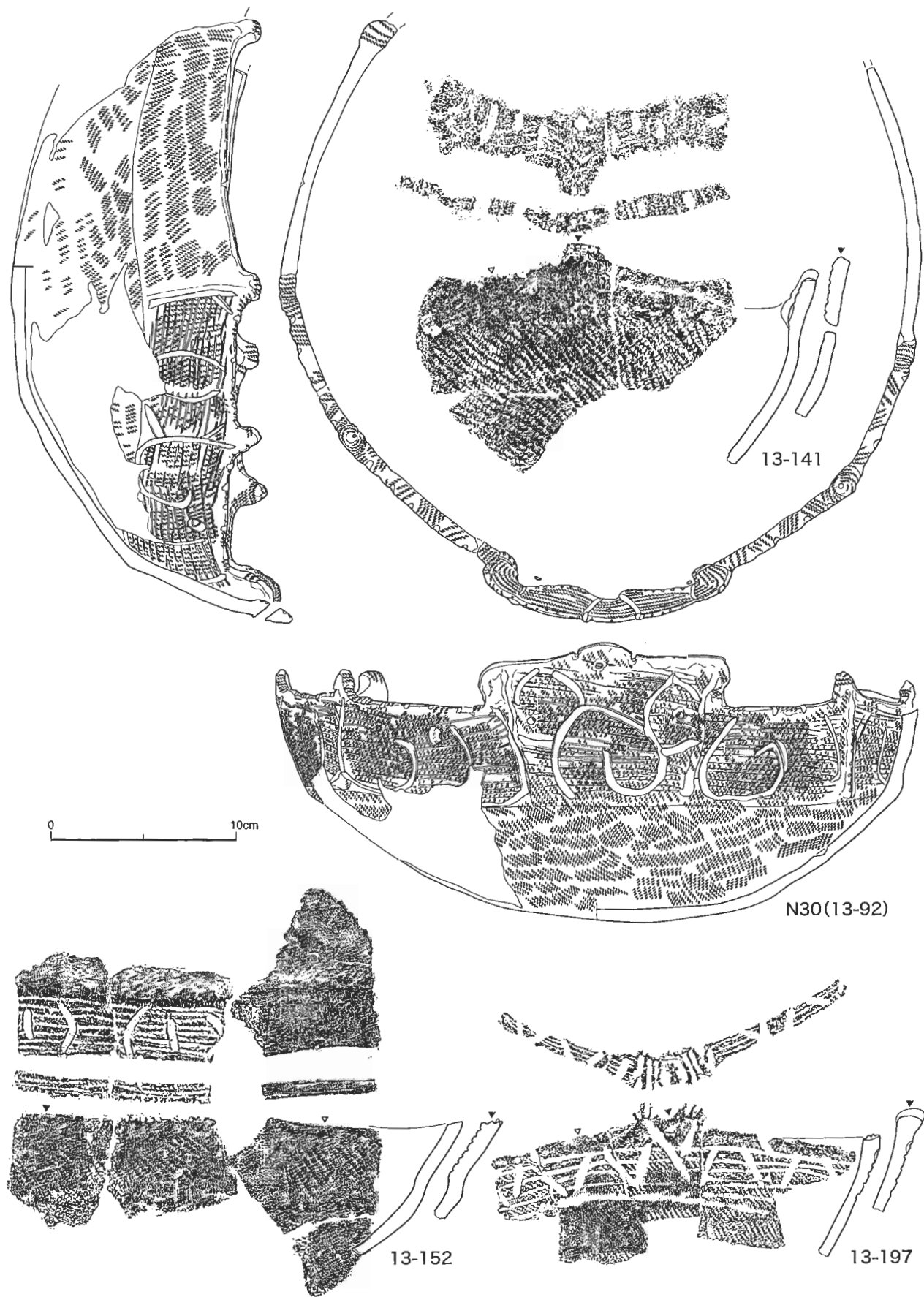


図 V-63 繩文土器 (63)

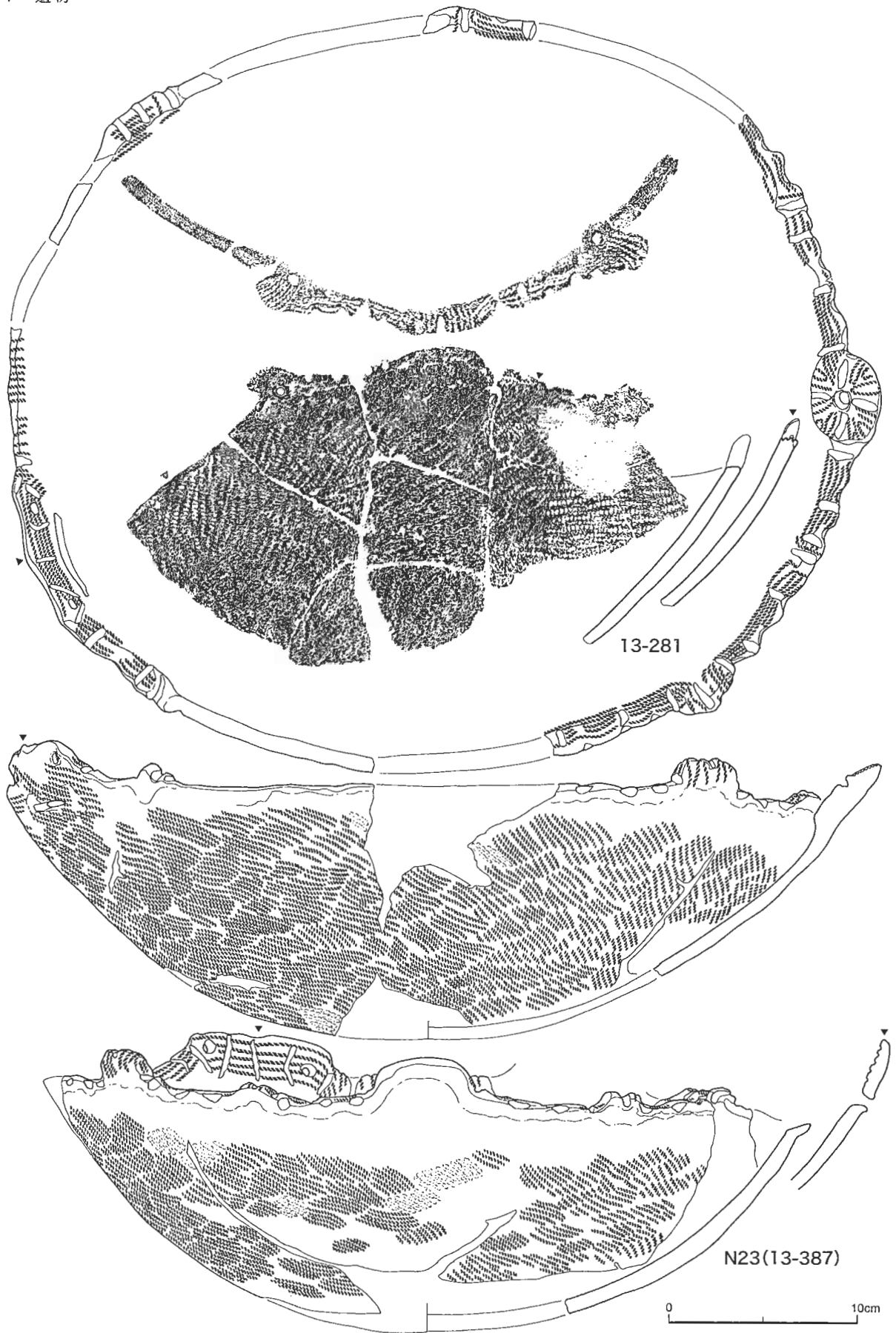


図 V-64 繩文土器 (64)

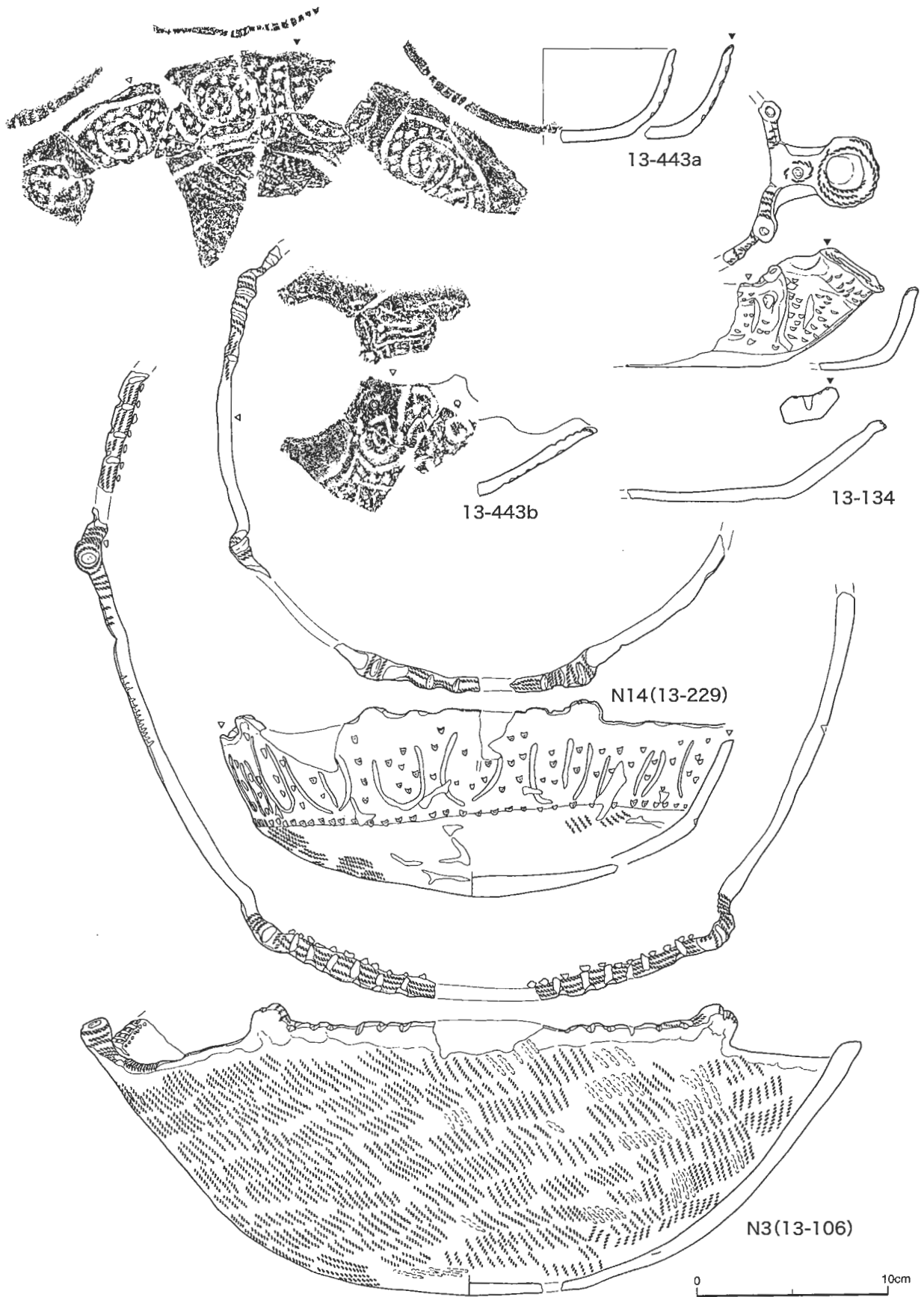


圖 V-65 繩文土器 (65)



V 遺物

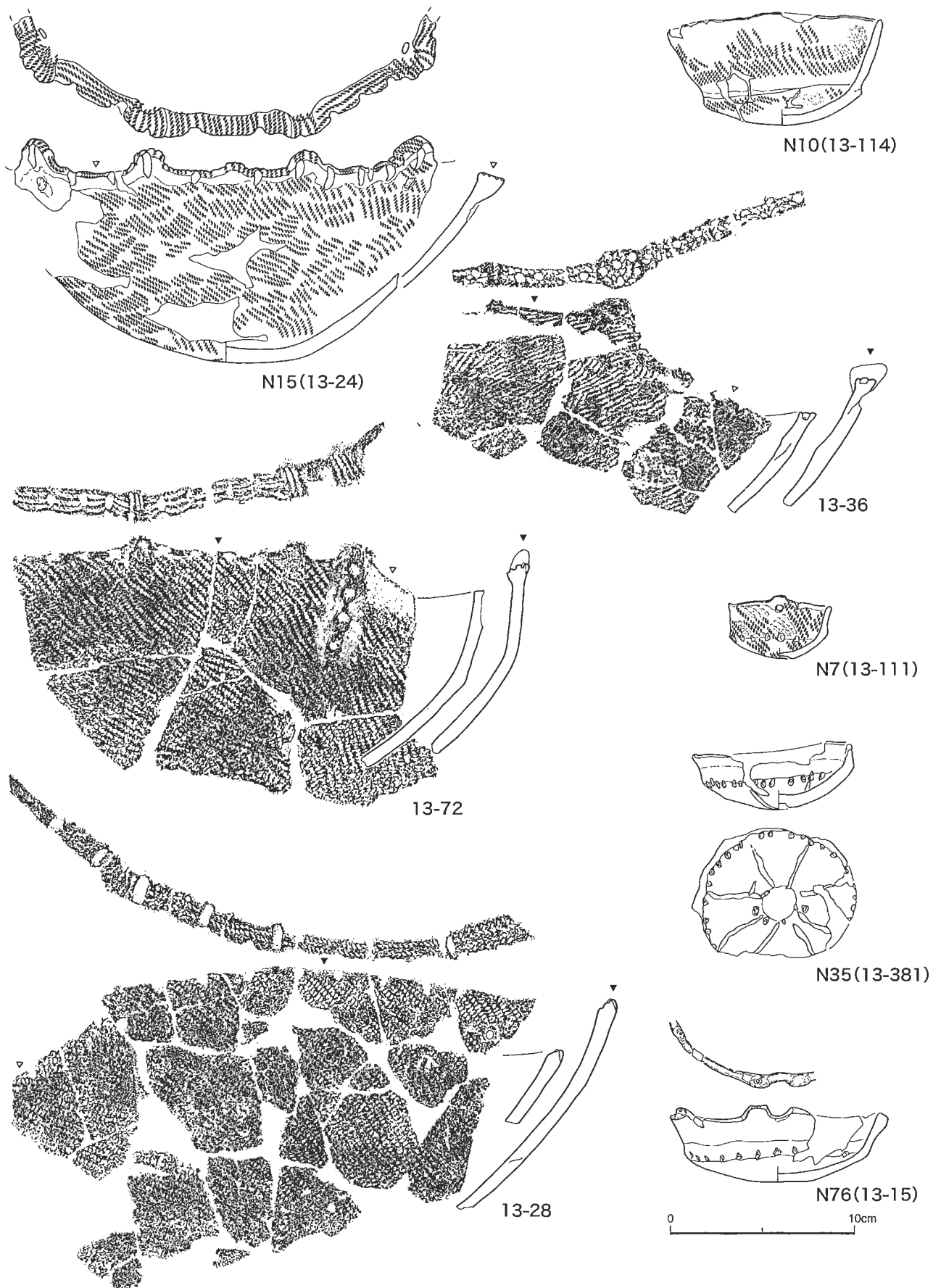


図 V-66 繩文土器 (66)

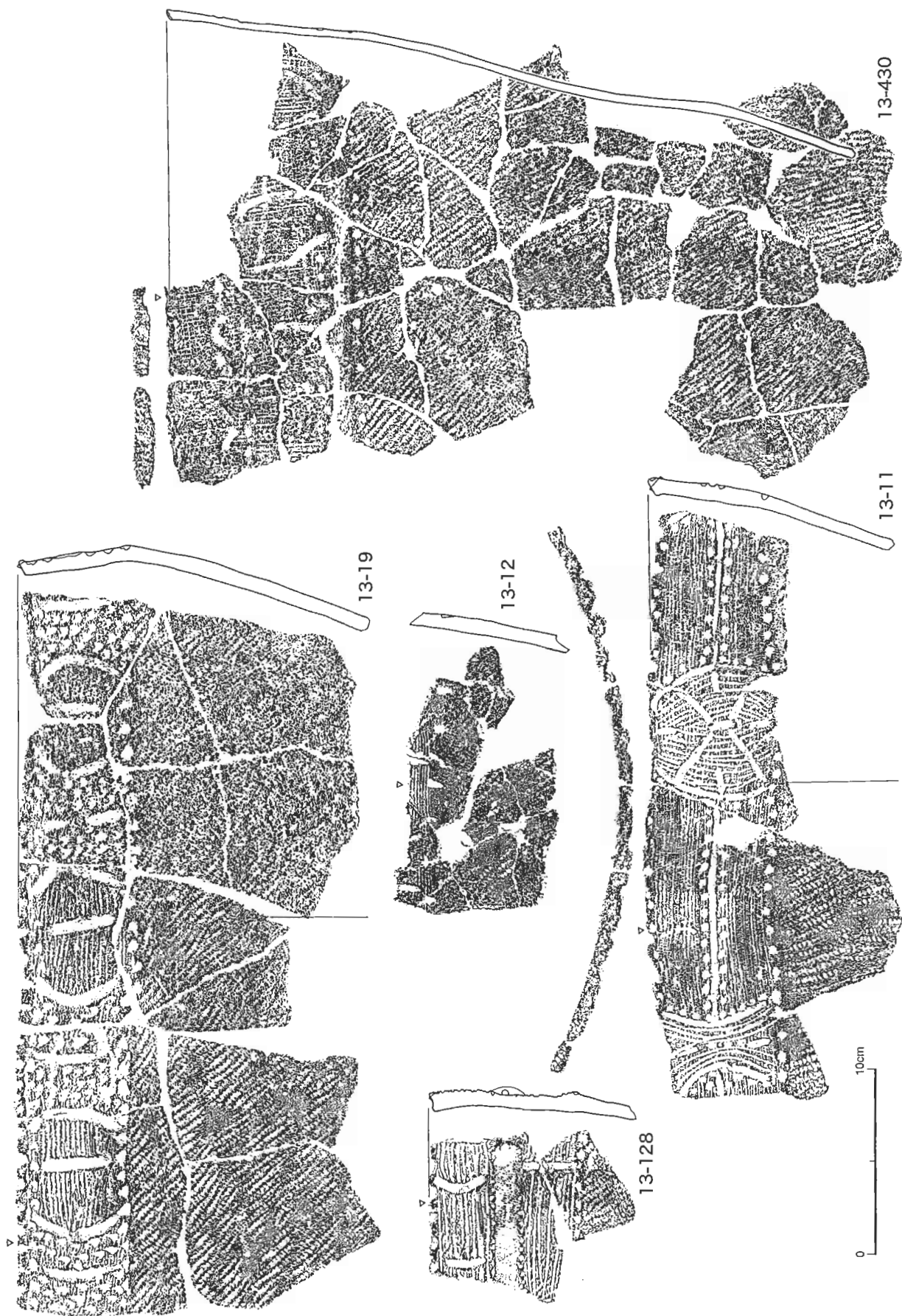


図 V-67 縄文土器 (67)



圖 V-68 繩文土器 (68)

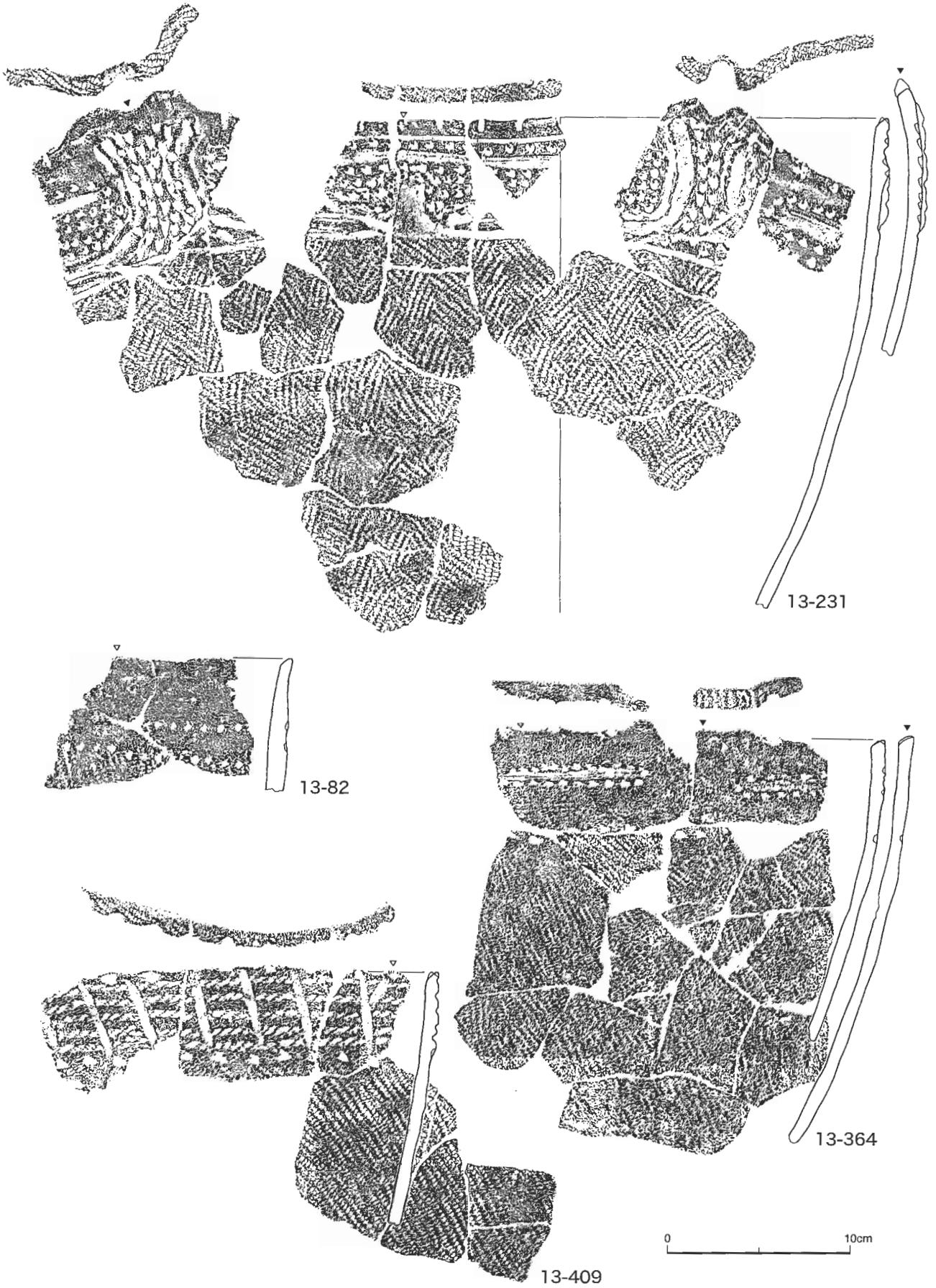


圖 V-69 繩文土器 (69)

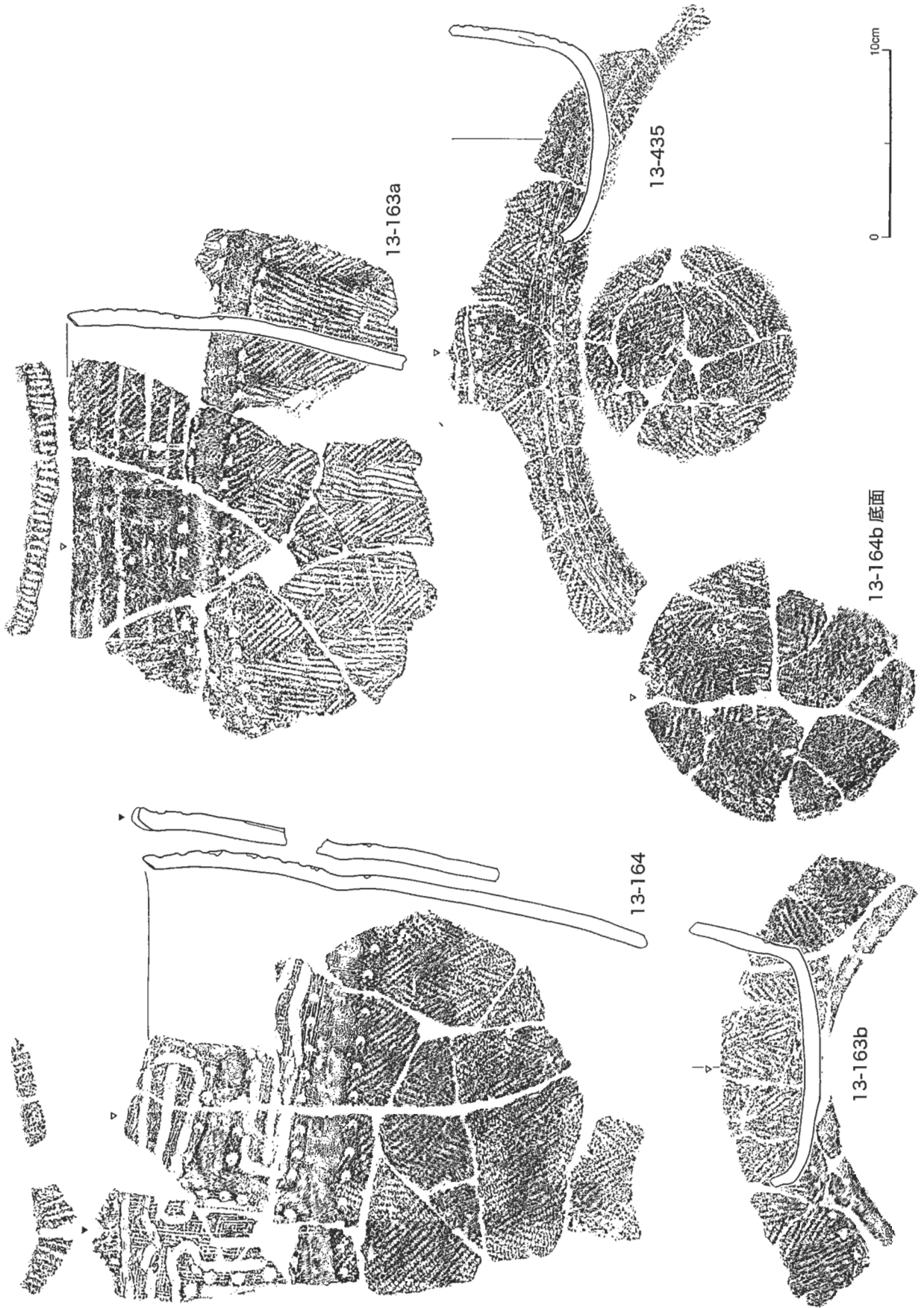


図 V-70 縄文土器 (70)

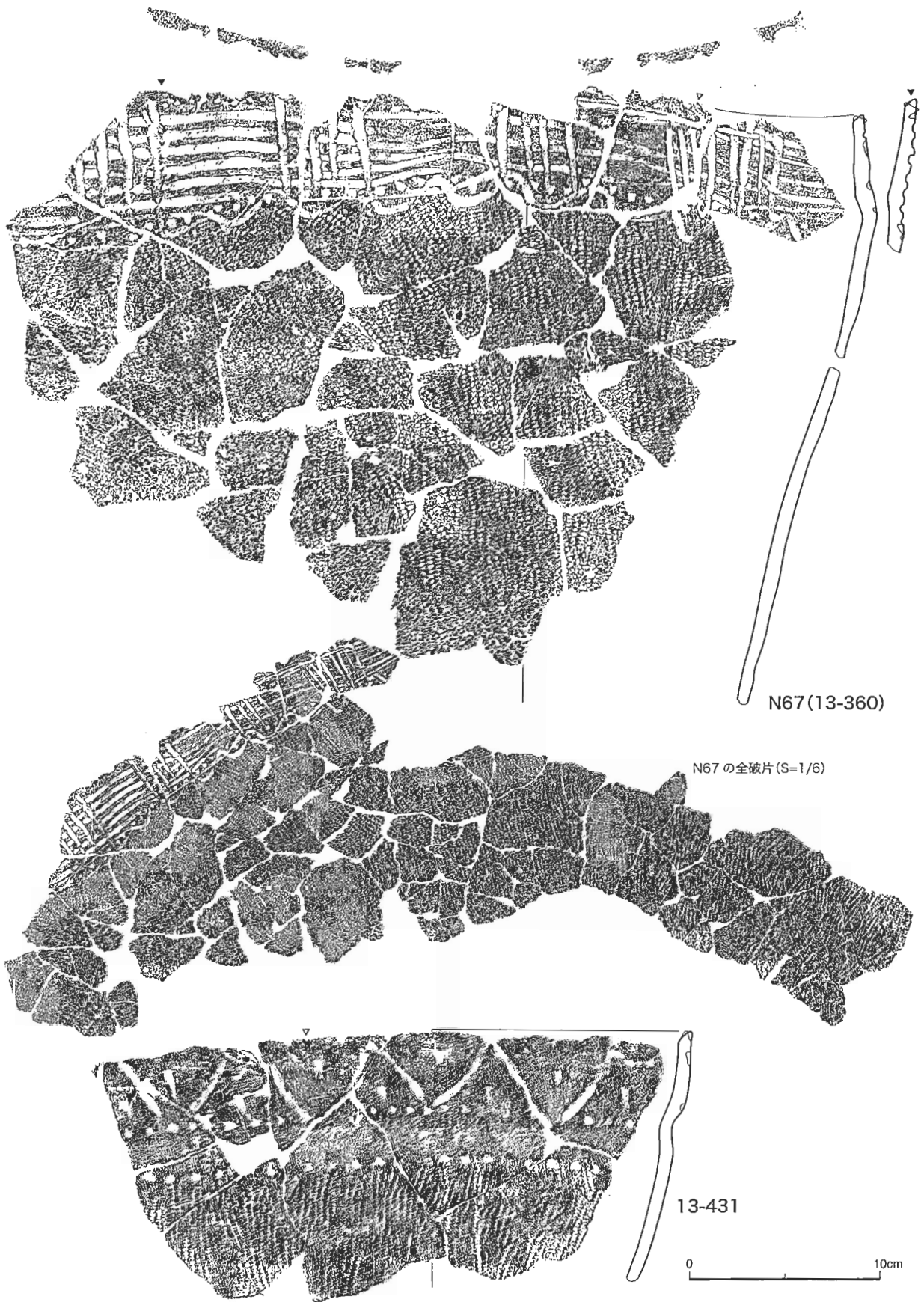


図 V-71 縄文土器 (71)

V 遺物



図 V-72 縄文土器 (72)

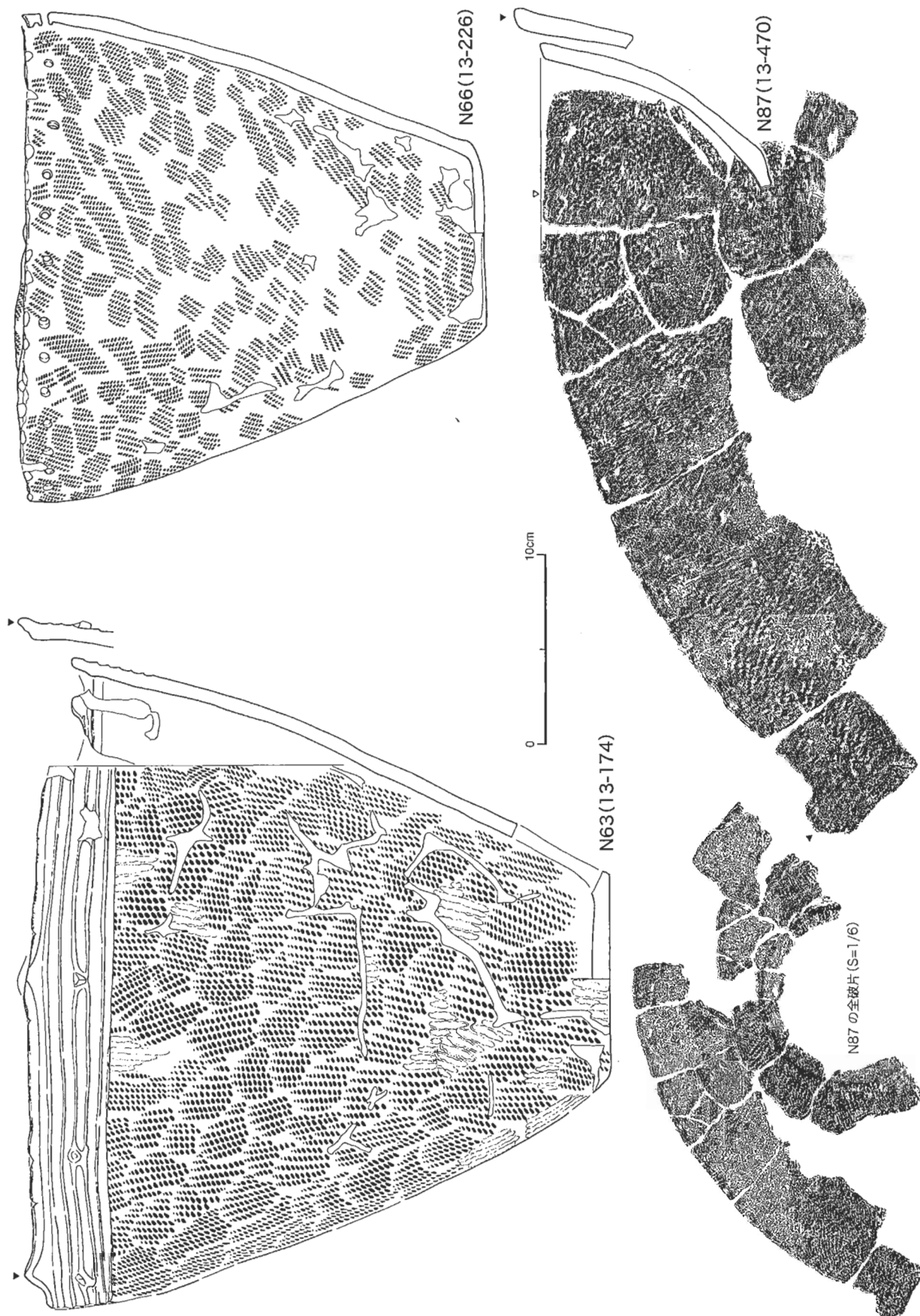


図 V-73 縄文土器 (73)





図 V-74 縄文土器 (74)



図 V-75 繩文土器 (75)

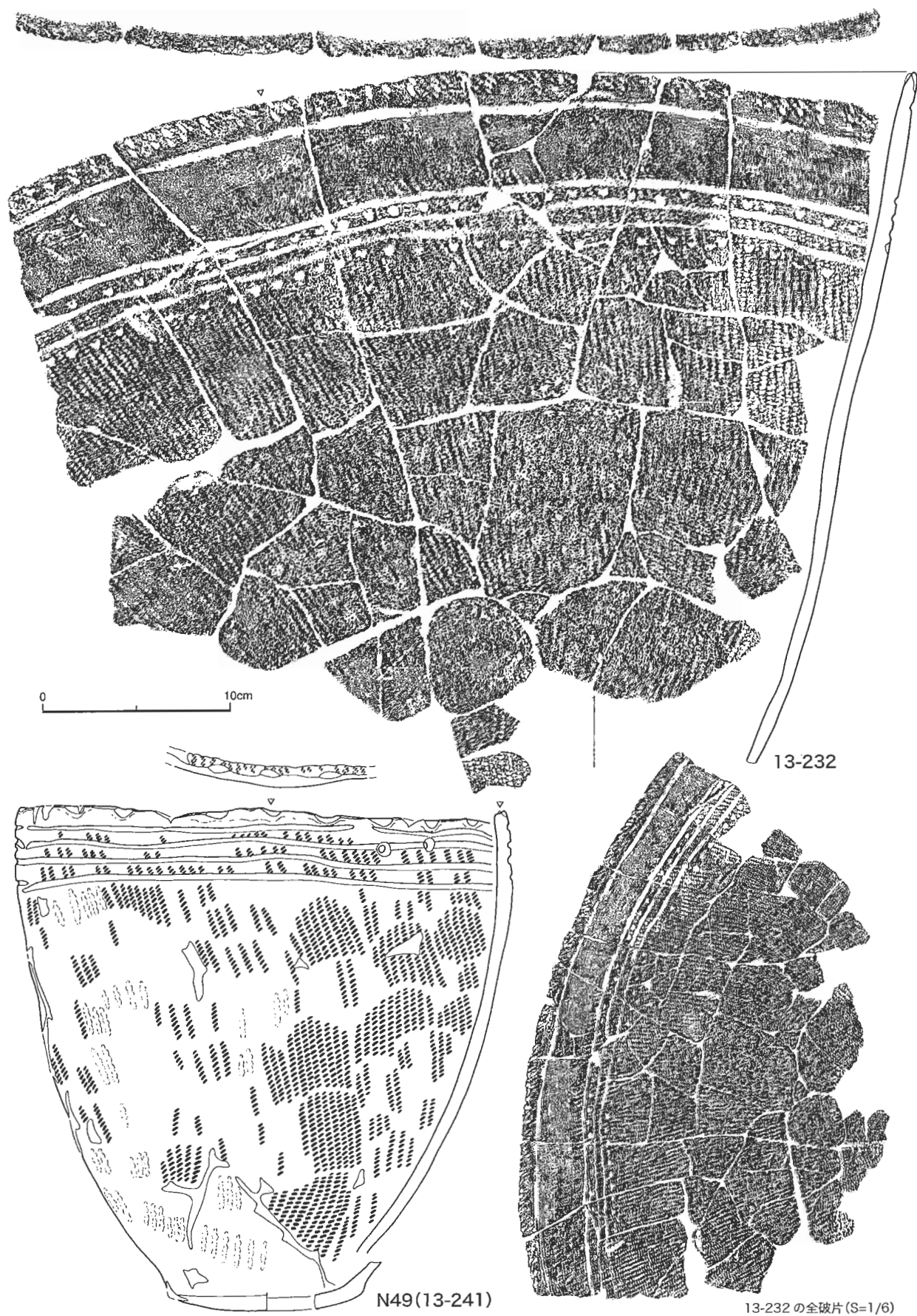


図 V-76 縄文土器 (76)

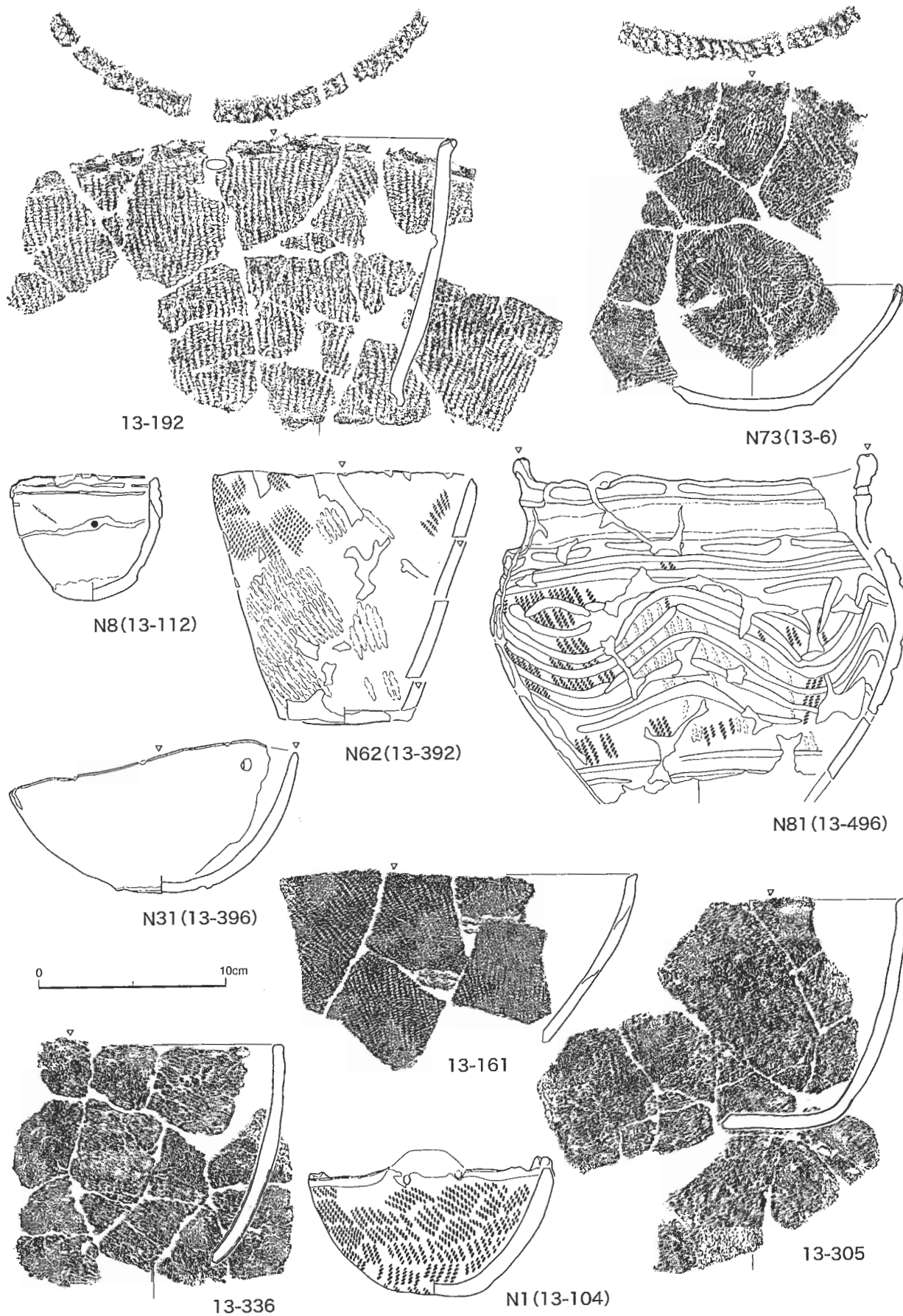


図 V-77 縄文土器 (77)

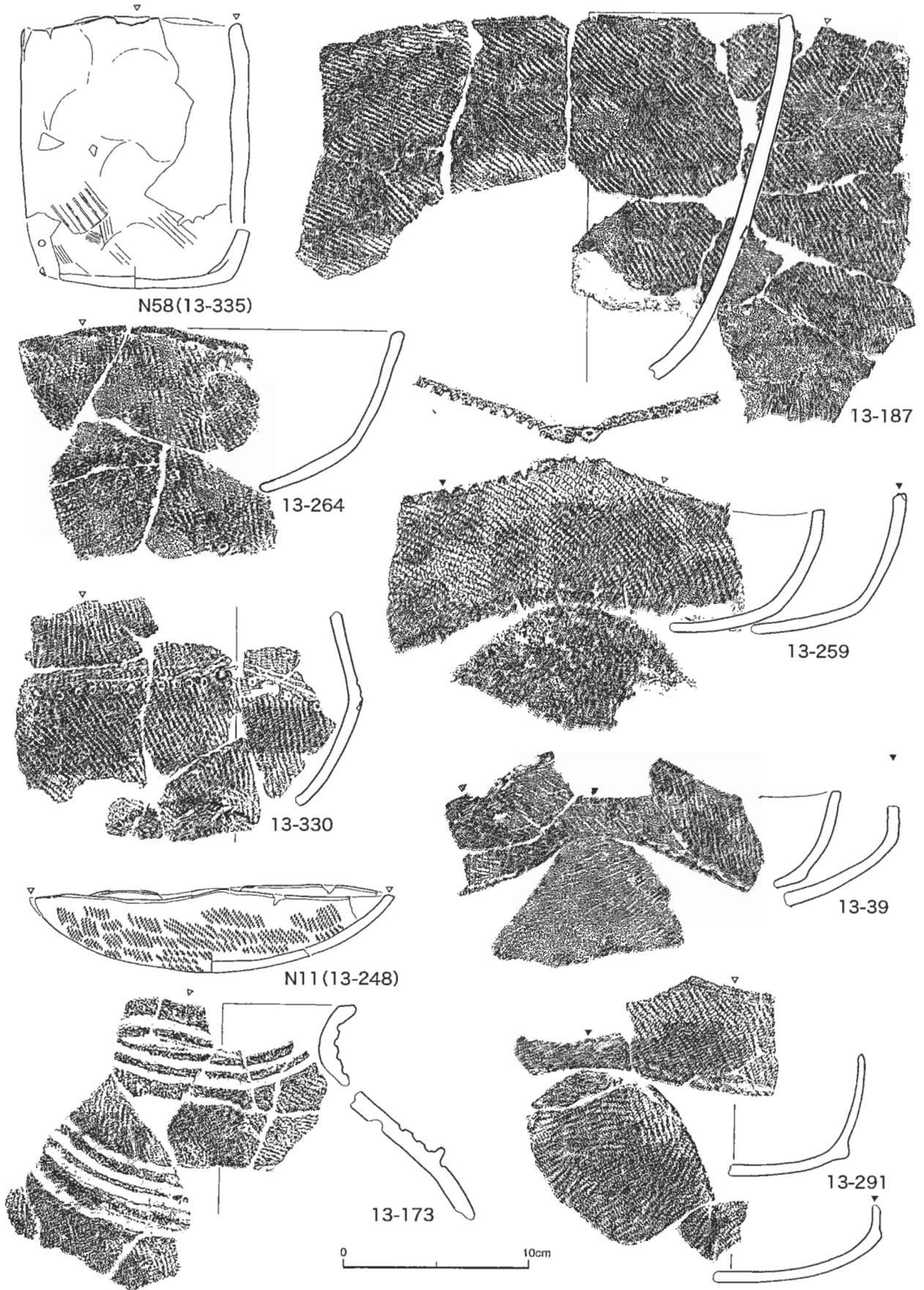


図 V-78 縄文土器 (78)

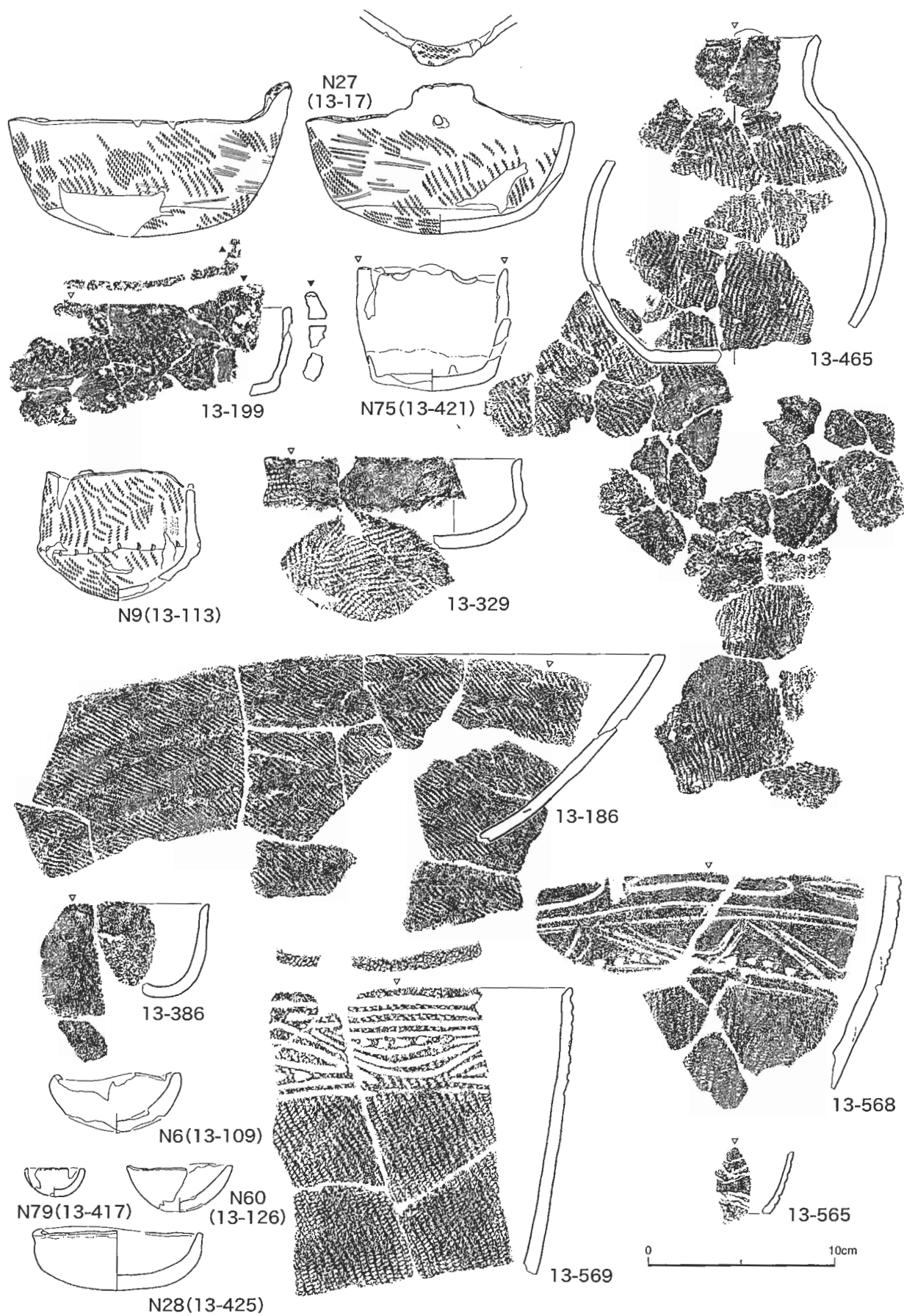


図 V-79 縄文土器 (79)・続縄文土器 (1)

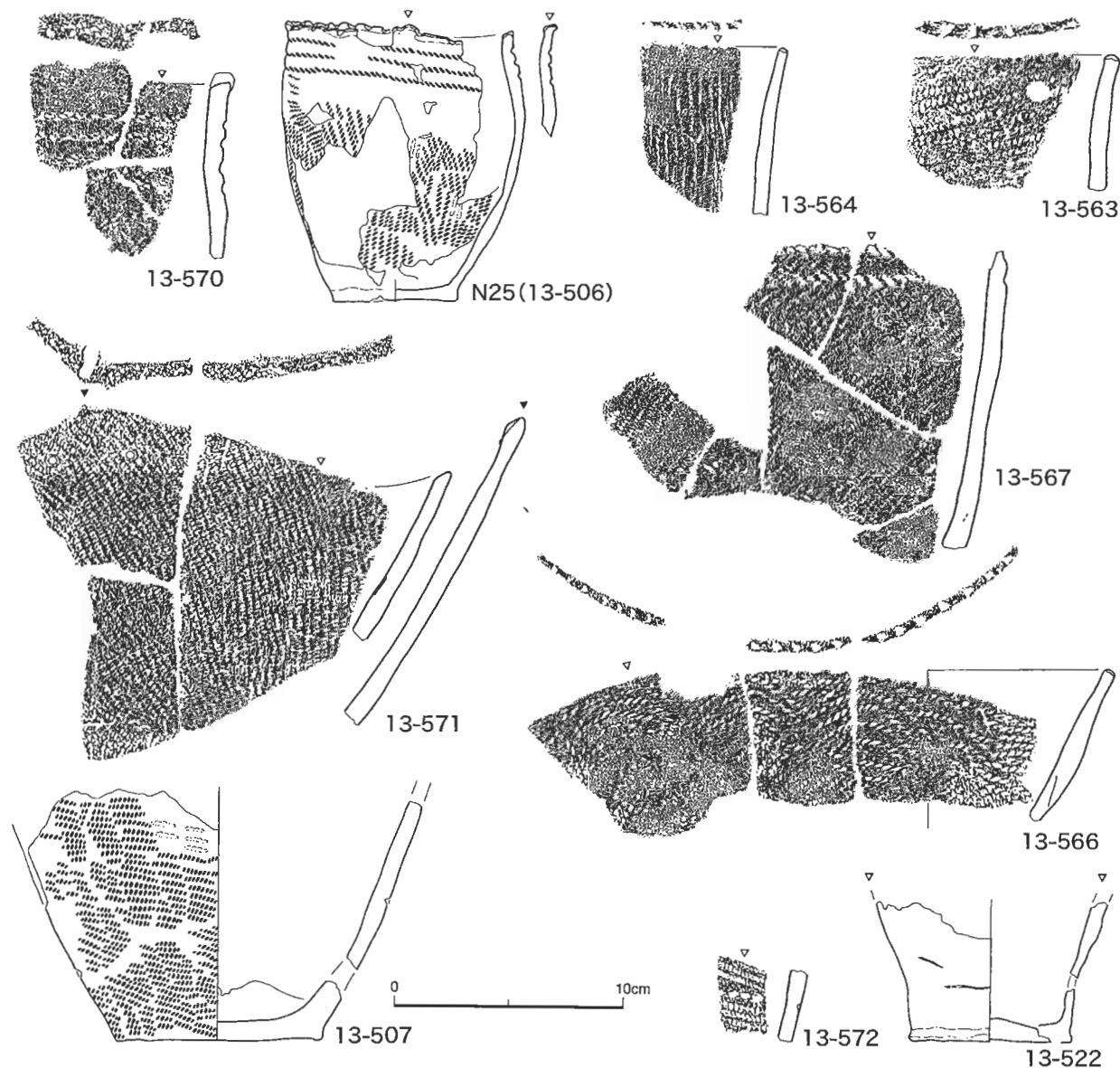


図 V-80 縄文土器 (2)

(2) 分類と出土状況

13-1 類 図 V-1~6 に示した。厚さの変化の少ない単純な口部をもち、外面には4ないし多数条が平行する比較的細い沈線で水平線 (13-162) や交差する斜線 (278・379)、あるいはそれらの組み合わせ (287・294・480) が描かれ、稀には曲線が加わる (515) 類型と、類似の文様を-R (63・162・167・208・308・354・368・520) -L (268・272・321) -R (322) など縄の側面圧痕で描く類型とがあり、ともに細い尖端の工具による刺痕が伴う場合がある (287・294・379・515)。縄による水平線は概ね4条以下である。沈線と縄の側面圧痕は同居する場合があり (162・515)、また-L・LRによる文様はときに拡張した口端に現れる (90・272・332・515)。稀に瘤状 (308) あるいは縦に孔の貫通する管状 (412) の浮文が見られる。

口辺には比較的低い突起 (13-63・167・332・372・535) が見られ、弱い波状縁らしいもの (301・379・412・468) もある。372・535 では突起下に装飾的な孔の対がある。558 は口部を片口状に外へ引き出した箇所が複数あるらしい。口端にはしばしば浅い刻み (47・208・294) や口辺を波打たせる

ような大ぶりの刻み (167・307・308・322・354・368・526)、放射方向の-RL (278・412・468) または-L (321)、2 段縄の閉端ともみなしうる馬蹄形の-L (272・372) または-R (13-301) があり、稀に極めて細かい刻み (272) や∞L (268) も見られる。また口端外角に垂直な短線 (63・354・480・535) または-RL (162・372) を並べる例も特徴的である。これら口端の簡易な装飾はしばしば土器の全周に連続せず間歇的である (63・167・278・294・301・468・480)。簡易な装飾は屈折部の外面にも現れ、-RL に挟まれた円管による点列 (308・372)、縦長の点列 (321) や-RL 閉端 (162) の列が見られる。

口辺の狭い範囲を除いて∞LR・∞RL で外面を覆う土器が多く、口辺に達する例もある。∞LR の比率が小さくない。縦走条・斜行条がともに見られ、前者は大半が∞RL であるが 13-301 は∞LR による珍しい例。横走部分の多い∞LR (272) も見られる。底面の縄文は有 (278・354・468・558) 無 (412) の両者があり、縄文のない土器も少数ある (13-30・535)。

器形は深鉢 (13-354・368 ほか)、鉢 (412)、浅鉢 (278・307・515・535) が確認される。不等径の土器はあるが (535) 多くないらしい。底部は丸底 (278・535) と丸みのある平底 (307・354・515) がある。N41 は口縁に装飾のある部分の体側が突出しており、注口土器であった可能性がある。

平成 13・14 年度発掘では生活面 181 から 240 にかけて出土しており、同 211~215 で出土量が最も多い (表 V-3)。11 年度の 158 線半トレンチでは II-2-中 (2) 層から II-2-下層にわたってある程度まとまった出土があり、中 (3)・(4) 層に出土量のピークがある。13-2 類とともに今回の報告資料の範囲では最も下層部分から出土する。

本類は縄の側面圧痕を口部に水平にめぐらす資料を含む点など、千歳市美々 3 遺跡の平成 3 年度発掘品を標識とする美々 3 式 (財団道埋文編 1992 の第 1 分冊 66・67 頁) にかなり共通する部分があるものの、口端に縄の回転押捺がほとんどなく、沈線文の内容も同一ではない。むしろ幕別町札内 N 遺跡の土壙 25 出土品 (大矢編 2000) などに類似の装飾の構成を見ることができる。これら水平にめぐる沈線を装飾の主体としない段階の資料が本遺跡にも存在するであろうとの見通しに立って 13-1 類を編成したが、後述するように 13-2 類と層位的な差を確認することができず、なお分類の再考を要するようである。

13-2 類 図 V-7~15 に示した。やはり厚さの変化の少ない単純な口部であるが、口端がやや顕著に内傾するもの (13-93・206・270・418・554)、口端がやや厚いもの (356・524) が含まれ、外方に屈折する口部 (489・517・532) も見られる。

口部外面に水平な沈線を 3~7 条めぐらせた装飾が中心で、特に比較的浅く太い沈線によるもの (13-49・138・158・246・270・309・366・524・538・553) がめだつ。この特徴は線を引いた後で線の内外に調整を加える手法 (205・517・533) と近縁なものと思われる。同じく水平にめぐる線を-L (521・536) -R (306) -RL (93・271・356・510・526) で表現する類型もある。縄による水平線は 4~7 条である。口部文様の下に浮文を施す場合がある (205・526)。

波状縁は未確認、口辺の突起 (13-55・306532・533) も顕著でなく、突起下に装飾的な孔をもつ例もない。ただし沈線に加工する類では口端に複雑な装飾がある場合があり (469)、これは口端外角に大ぶりの凹点を並べ土のはみ出しが浮線様に連なるもの (246・270・554) と関係するように思われる。これ以外にも口端には外角 (158・206・366・418・524) または上面 (55・138・356・357・526) に刻みを加える場合があり、概して疎らに施される。538 は全周に連続しない刻み、55 は突起部分に放射方向の-RL を施す例である。

外面の大部分に∞RL を施すものが多く、∞L (13-246) ∞LR (334・533) の例は少ない。回転押



## V 遺物

捺が概ね文様を避ける場合(図 V-7~10)と文様の下地となる場合(図 V-11~15)とがある。体部から口部にかけてくびれのある土器ではくびれから上に押捺が及ばない(489・517・532・533)。縦走条が優勢で、口部付近で条が斜行しても体部以下は縦走条となることが多い(55・170・206)。底面の縄文はやはり有(378・524)無(334・532・533)の両者が見られる。

深鉢(13-93・246・334・378・524ほか)と壺(532)が確認され、鉢と思われるもの(205・533)もあるが浅鉢は多くないらしい。不等径の土器は確認されない。底部は平底、稀には形骸化した揚底(532・533)で前者には丸みのあるもの(334)とないもの(378・524)が見られる。確実な丸底の例はないが丸底に浮線をめぐらしたようなもの(309)がある。

生活面 186 から 245 にかけて連続的な出土が見られ、生活面 211~225 で多い。13-1 類よりむしろ下位に出土の重心があるようでもある。11 年度トレンチでは主に II-2-上層から中(4)層で出土し、中(2)層で最多となるので 13-1 類より幾分上位にあるようにも見受けられるが、全体としては 13-1 類と 2 類の間にほとんど出土層位の差がないと言うべきであろう。一方 13-4 類以降とはほぼ完全に出土層位が異なる(表 V-3)。

本類に近いものは早来町遠浅 1 遺跡(苫小牧市埋文編 1987)などで知られてはいたが、従来あまりまとまった類例のない資料である。水平な沈線を主な装飾とする本類のような資料が既知の晩期後葉土器の前に位置することが知られたのは本遺跡の調査成果の一つと言えよう。年代上美々 3 式等と平行する可能性がないとは言い切れないが、本類に含まれる亀ヶ岡式類似の土器の特徴から判断して概ね晩期後葉の範囲に入るものと考えられ、これまで水平な側面圧痕等を指標に晩期中葉のもののみなされていた資料から本類に相当する段階のものを分離する作業が今後必要となるように思われる。

13-3 類 3~数条の水平な沈線または縄の側面圧痕を含む文様の下辺に点列があるもの(図 V-17~23)を主体に、これらと近縁らしいものを本類とし、図 V-17~31 に示した。

口端外角が外上方に突出(13-22・38・61・85・119・120・147・188・295・352・385・514・530)、または口端が顕著に内傾する(25・74・83・148・153・243・328・359・413・509・552)ものも多く、内方に屈折あるいは弱くくびれる口部(66・78・133・190・371・530)が稀でない。

口部の装飾は水平な沈線(13-22・62・67・68・83・120・123・127・147・148・153・165・169・190・258・302・352・359・371・413・415・494・514・530)または-RL(74・78・135・166・188・363・451・574)のほか、上下の水平線をつなぐ描線を含んだ文様が特徴的で、沈線(38・66・119・133・328・552)または-L(38・129)・-RL(116)で描かれる。これらの線描の間にはときに円形(62・123)・腎形(169・552)の点列や、斜めに突いた点列(129)が現れる。また水平線と鋸歯状の斜線が重なる沈線文(61・87・115・145・243・295)が見られ、その下にとところどころ複線で描く谷形の文様が見られる場合がある(87・145)。

口辺にはしばしば突起(165・190・280・352・494)があり、一周 4 単位のもの(165・352)が確認される。突起下の装飾的な孔は単独のもの(165・190)と対をなすらしいもの(258)がある。波状縁と呼べそうなものは稀で(67・258・494)、少なくとも同じ大きさの波頂部が周 3 箇所以上あるものは確認できない。口端外角にはしばしば短線状の刻み(13-74・87・115・119・120・127・133・147・153・165・190・302・324・413・530)または縦に押捺した-RL(52・363・514)の列がある。同様の簡単な装飾は口端上面に現れる(短線 62・166・574、-RL38・67)場合もあるが突起・波頂部に限られる(67・258・494)か全周に連続しない(62・451)例が少なくない模様である。

口部文様の下辺にも口端のものに似た単純な装飾が現れるのは本類の特徴である。-RL 閉端(13-66・145・295・352・371・514)、下から(129・133・166・415・574)または横から(87)斜めに突い

た点列、円形の点列（85・120・147・188・190）のほか、鋸歯状の沈線（62・68・85・147・165）が特徴的で馬蹄形の-RLを並べる例（530）もこれと近縁のものと考えられる。これらの装飾は屈折（66・133・190・295・371・530）または浮線（188・514）の上に位置することが少なくない。文様下ではないが86の浮線上の点列（-RLか）も同様のものである。

大多数の土器が外面の大部分に∞RLを有する。稀に∞LRの個体（13-83・147・324）があるが、2段縄の回転押捺を欠く例は確認できない。口部文様と回転押捺は重複する場合としない場合の両者が見られる。底面にも不明瞭ながら縄文を施す例が多く（115・135・165・324・352・415・494・530）これを全く欠く例（371・509）は少ない。

深鉢（13-129・165・371・413・415・514・530ほか）・鉢（324・352）・浅鉢（494・509）・壺（86・115・119）が見られる。不等径の浅鉢（494）は屈折の上の弱いくびれに細く連続性の良くない沈線で描く体部文様が本類の口部文様の一部に似るのでここに分類したのであるが多少問題を残す。いずれにせよ等径の土器が多い。底部は平底で丸みのあるもの（115・135・165・324・352・494・509）とほぼ平坦なもの（371・415・530）が見られる。深鉢・鉢・壺では底面と体側との境に稜線が現れるが、浅鉢の一部では認められず（509）、丸底に接近する。

生活面181から225にかけて連続的な出土が見られ、同186~205付近で最も多い（表V-3）。13-1・2類より上位に出土の重心があるとみてよいが、生活面211~215や131~135でややまとまった出土があるのは分類が不十分であることを示すかもしれない。11年度トレンチではII-2-中（1）層で最も出土点数が多い。

本類の一部に類するものは遠浅1遺跡、美々3遺跡遺跡の平成元年度発掘（財団道埋文編1991）や苫小牧市柏原5遺跡A区（同市埋文編1997）の出土品などに散見されたが、本遺跡の発掘で初めて注意されたと言ってよいものが中心となる。層位的にも型式学的にも水平な沈線文を特徴とする13-2類と立体的な装飾をもつ13-4類との間をつなぐ一群とみることができる。

13-4類 口部外面に水平方向以外の浮文をもつもの（図V-32~36）を主体に、これと関連が強いと思われるものを本類とし、図V-32~43に示した。

13-3類同様、口端外角が外上方に伸張する（13-45・122・149・191・210・217・384・406・424・433）、あるいは口端が顕著に内傾する（2・43・77・168・292・314・333・345・355・358）ものが多いほか、目立って厚い口端（26・402・453・455・528）や襟状に段を作る口部（180・251・490・499）が見られるが、比較的単純で特徴に乏しい形態の口部も少なくない。口部から体上部に弱いくびれ（23・46・122・191・210・251・398・490・499）ないし太い凹溝（99・217）をもつものが出現する。13-3類と異なりこのくびれには文様が位置しない。

口部には水平な沈線（13-26・30・191・251・402・406・499・518）または-RL（333・433）・-L（23・46・151・424）、それらを上下に連絡した文様（沈線217、-RL149）、水平線と鋸歯状斜線の重複（43）、文様中の点群（355・453）など13-2・3類と区別しがたい装飾も見られるが、沈線が比較的深くて連続性が良く（27・369）水平線相互が密接する傾向（77・99・168・239・249・455・461・490）、縦横の描線が曲線的に移行する特徴ないし円弧の多用（沈線例77・99・150・349・358、-RLの例384、-L例45・355・453）、水平線と垂線列の重複（99・210・370）、文様が単純に並列・重畳せず魚鱗状の入り組みを見せる傾向（45・150・217・349・355・453）などは新しい様相と思われる。また口部外面に文様らしい文様を持たない土器の多さ（図V-41~43）が3類との差となる可能性があり、その多くが口部に無文帯を有する（2・95・96・105・122・257・274・343・436・528）。本類の特徴である浮文は原則として回転縄文を欠く代わり、多くは刻み（13-58・151・249・292・314・345

## V 遺物

・355・384・398・518) 点列 (217・424) または短線列 (30) を有し、また-L (30・46・150・217・384・398・424・518) -LR (149) で装飾するものが多い。46 では凹溝を跨ぐ橋状把手となり、528 の浮文は縦に孔が貫く。これら浮文上の口辺は例外なく突起ないし波頂を形成する。

突起は多いが、周に2箇所の高まりを持つもの (150・528、およびおそらく 239・274) を除けば波状縁と形容できそうなものはない。突起下の装飾的な孔は珍しくなくやはり単独のもの (118・151・239・402) と対をなすもの (146・323・335・343・398・436) が見られる。浮文上のものを含め突起口端には主に-L (13-30・45・46・77・95・96・99・122・146・150・217・239・256・257・292・323・343・345・384・355・398・402・436) 稀に-RL (105・149・518) -R (2) や深い点 (58・249)、沈線 (26・118・168・217) が施される。また突起以外の口端に縄の側面圧痕を円周方向に 1 (35・36・95・96・257・343・323・406・433・436) 2 (43・45・46・99・122・150・210・314・333・345・355) ないし 3 条 (191・217・384) 施すものが現れるのは本類の特徴であって多く-L による。稀に-LR (149) -RL (433) がある。この円周方向の側面圧痕を施した後、多くの場合口端外角に刻み (46・95・96・149・217・256・257・292・314・323・333・343・384・436) あるいはより大ぶりで浅い押え (43・191・210) -L (45・406・436) -RL (433) の列が加わる。292 ではさらに外角の刻みと-L の間に点列、384 は口端内角にも刻みがある。円周方向の側面圧痕をもたない例もときに口端外角に刻みないし押えを有するが (26・249・424) 多くはない。刻みの範囲が突起付近に限定される事例がある (239・402・528)。

口部文様下に右または下から突いた点列 (13-30・43・150・151・180・256・333・424・453・490) や沈線による簡単な装飾 (249) のある例を見ることは 13-3 類と同様で、さらに文様下というより前述のくびれ・凹溝に沿って点列が施される例 (23・99・191・210・217) が出現する。従って点列は弱い稜上に位置することが多く、ときに強い稜ないし浮線上 (180・490) に現れる。口端外角のそれに似た浅い押えの列 (180) が見られ、また体部文様下に点列 (256・490) や-RL 閉端列 (345) が見られることがある。

回転縄文は圧倒的に $\infty$ RLが多く、 $\infty$ Lらしいものがごく稀にある (13-2)。口部文様を完全に避けて押捺するものは少ないかわり前述のように口辺下に押捺しないものがかなりある。縦走条の比率は 13-3 類より落ちるように思われる。やはり底面に押捺するもの (2・30・118・122・146・149・256・257・292・323・436) が少ないもの (105・370) より多いらしい。回転縄文を欠く資料 (58・349・499) はかなり少なく、499 には体部に工具で描いた縦方向の浅い条がある。

深鉢 (30・118・149・151・217・370・424 ほか) ・鉢 (105・146・323) ・浅鉢 (150・256・292・436 ほか) があり、壺とみられるもの (180・461)、体側の一方が突出して注口がつく可能性のあるもの (398) もある。比較的小型で浅い土器に明らかな不等径の作例 (105・150・314・355) がある。径の大きい浅鉢は概ね等径であるらしい。底面はほぼ平坦なもの (105・370) から丸みのあるもの (30・292)、丸底 (118・146・256) まで変化がある。浅鉢の一部は体側との境界のない顕著な丸底となる (122・257・436)。

生活面 121 から 200 にかけて概ね連続して出土し、その上限に近い生活面 126~135 付近に出土量の重心がある。13-3 類より上位で出土する傾向があることは問題ないが、生活面 176 以下の出土例は分類を再考すべきであるかもしれない。11 年度トレンチでも II-2-上層から II-2-中 (3) 層まで分散した出土状況を示す (表 V-3)。

型式学的には 13-3・5 類の間に位置すると考えられる。概ね対応しそうなものが千歳市キウス 5 遺跡 A 地区 (財団道埋文編 1997・1998) や苫小牧市柏原 5 遺跡 C・D 区 (同市教委・同市埋文編 1997)

などで少量出土しているが、なお断片的である。江別市大麻3遺跡平成9年度発掘の土壙131出土品(同市教委編1999)は、やや特殊な組成であるが本類に相当する段階の一括資料であろう。

13-5類 図V-44~55に示した。口部に括弧状の沈線文様のある土器(図V-44・48)、およびそれに近縁と思われるものを本類としている。

口端外角が外上方に伸張する(13-267・325・391)、あるいは口端が内傾する(5・10・41・76・107・117・140・157・216・242・254・265・267・300・330・550)ものが多いことは13-3・4類と同様であるが、鋭角ではあるものの口端は外傾気味であったり(32・230・235・337・388)、外角を尖らせる傾向のないもの(64・139・172・202・224・236・238・262・269・273・390・488)が増える。突起部を除けば口部の厚さの変化は少なく、襟状の口部(172・203・488)は段が顕著でない。やはり体上部から口部にかけてくびれ(172・236・390)や凹溝(10・269・325)を有する例がある。

口部には水平な沈線を背景に弧線と垂線を描くものが典型的で(13-202・216・242・391)、同じく水平線地に屈曲のある縦線を描くもの(10)、水平線がなく弧線と垂線を「の」字状に続けて描いたもの(224・236・269・325)、おそらくこれらをもとにさらに変容の加わった曲線文様(273・390)などの変異がある。文様中に点(224・325・390)や-RL閉端(242)が入り込む例が見られる。単純な水平線の口部文様(5・172・488)は少ないと考えられる。108は体・底部に曲線の描かれるもので、疑問もあるが上下幅の広い曲線文様に共通するところがあるとみて本類に含めておく。

13-4類と同じく刻み・押え・沈線・-L等の加わる浮文(13-139・242・236・325)があるがその頻度は下がる模様で、円形の浮文は確認されない。回転縄文のある浮文(390)は4類に見られないものである。口部外面にほとんど文様のない土器(図V-47の一部と図V-49~54)は4類以上に多く、浅く口部の開いた土器の大半がそうであると考えられる。口辺直下が無文となる例(41・76・107・140・157・262・388・550)があるが概して13-4類ほど顕著でなく、突起下のみ無文となるもの(32・262・265)が見られる。

口部は突起に富むが、浅い器形で2箇所が反り上がる(32・230・388)のを除いて波状縁と呼ぶべきものはないらしい。突起下の焼成前穿孔は単独のもの(32・117・230・265・273・300・388)が対をなすもの(238)より多い。突起とその付近の口端に放射方向、その他の部分では円周方向の縄の側面圧痕があるもの(13-25・32・107・117・139・157・230・235・236・254・265・300・325・337・550)または突起付近のみ放射方向の側面圧痕を施すもの(76・202・224・238・242・262・269・388・390)が多く、側面圧痕はほとんど-Lで稀に-R(157・194)-RL(238)が用いられること、突起上に沈線(117・262・269・325・388・488)や深い点(32・117・139・235・300)が現れることも13-4類と共通するが、突起口端に渦状(32・117・139・300)・馬蹄形ないしU字状(337・550)の側面圧痕が見られる点は新しい傾向と考えられる。これらは13-4類の口部外面、特にその浮文に見られた(30・45・46・150・217・355・384・518等)のち本類では前述のとおり口部外面から失われた装飾であり、施文位置の変化が生じたことを意味するとみられる。4類の一部の口部文様(251・499)に似たものが拡張した口端に出現する事例(203)も同様に解釈できよう。

口端外角に刻み(13-107・139・194・235・267・300・325・388)や疎らな押え(10・25・391)があるのも4類の特徴を引き継ぐが、それが円周方向圧痕のない突起部分にも一様に及ぶ(50・76・117・157・224・254・262・265・337)事例が4類より多いようである。口部文様下(172・224・236・390)と凹溝沿い(10・269・325)の点列・押え列は13-4類と大差ない。

回転縄文皆無の土器は13-108以外にはない。やはり∞RLが卓越し、0段多条原体とおぼしき∞LR(5・194)が少数見られる。口部文様に及ばない例(216・242)、その半ばまで押捺する例(10・269

## V 遺物

・325)、完全に文様の地をなす例(202・224・236・273・390・391)がいずれも見られ、文様のない例でも前述のとおり無文部の現れ方が多様である。235は上部に粗、下部に精の2種の原体を用いる。底面にも押捺する例が多いがしないものもあり(107・172・194)やはり一定しない。

深鉢(13-325・390・391ほか)より浅鉢(32・107・194・230・238・262・265・267・388ほか)が多いという印象を受けるが、13-2・3・4類と次第に浅鉢が顕著になる傾向からみて分類の失敗とばかりも言えないように思われる。鉢と思われるもの(224・157)、壺(108・203)もある。小型の土器に不等径のもの(230・273・388)がめだつほか比較的大きい浅鉢にも明らかに不等径のものがある(265)。底部は依然として丸底(32・107・230・235・267・388)と平底に近いもの(64・238・262・265)が並存し上げ底(108・172)も知られる。体側との境界の有無も一様でない。

出土生活面は121から195までと範囲が広く、出土量のピークもはっきりしない。13-1~3類よりは上層に分布するが13-4類との層位差は顕著でなく、分類の不成功を示唆するようでもある(表V-3)。11年度トレンチでも13-4類と大差ない地層で出土している。13-4類までに多く見られた口部外面に平行な沈線のみをもつ土器はほとんど本類に残留しないとの前提で編成しているが、この点なども再検討を要するかもしれない。

本類に比較できる資料はやはりキウス5遺跡A地区の出土品中に見られるほか、苫小牧市美沢東6遺跡(同市埋文編1998)でややまとまって出土している。同市柏原5遺跡C・D区(同前編1997)、由仁町川端遺跡(同町教委編1996)などにも散見され、13-4類よりは普遍的な存在と言えそうである。今のところ13-4類と層位的によく分離できないがあえて別類としたのはそのような事情にもよる。13-6類 図V-56~61とV-62の一部に示した。口部に縄の側面圧痕を背景に括弧状の沈線を描く土器(37・439)と、これに類似の資料と思われるものを本類とした。

口端は単純に内傾するもの(13-3・13・16・34・79・94・121・212・377・440・513)のほか、むしろ内角に厚みがつく印象のもの(29・214・220・222・397・400・420・439)、内角が不明瞭で丸く内面へ移行するもの(193・240・290)がめだつ。あまり複雑な形状の口部はなく、口部・体上部に凹溝のあるもの(34・94・121・193・420)のほか襟状に段のつくもの(377)、文様の上下限に弱い稜のあるもの(79・439)等が注意される。

口部には水平な-L(37・121・420)-RL(439)を背景に弧線と垂線(439)弧線(37)斜線と垂線(420)斜線(121)を描くもの、水平な-L(193・214・223)-RL(240)のみのもものほか、13-5類と同様な水平沈線の背景に弧線を含む文様(16・34・79・94・212・220・377・397)または斜線と垂線(13・94・513)を描くものがある。背景の水平線は数が増えるとともに弧線等より細くなることが多く(34・94・220・377・397・439)、また水平線以外に弧線の間を細い沈線で埋めたもの(29・397)が現れる。異なる文様が凹溝・点列を挟んで上下に重畳する例(94・212・439)が注意され、212では体部にかけて3段の文様がある。口部の浮文(377・420・439)も5類と大差なく、凹溝を跨ぐ浮文(34・94)があるが、橋状把手と呼ぶにはいかにも小さい。口部外面に文様のない土器(290、および図V-61)があり、その突起・注口下は無文となる(3・290・440)場合がある。

口辺に突起はあるが波状縁と確認できるものはない。浮文に伴うものを含めて台状の突起(13-79・94・212・220・397・420)や対をなすもの(16・223・400)のほかに小さく高い突起があつて13-5類に現れた馬蹄形の-Lがここに見られる(3・440)。突起下の装飾的な孔は単独のもの(94・212・420)と対をなすもの(537)がある。222のそれはどちらとも断定しかねるがごく小さい孔。212には口辺を半円形に切り欠いた箇所がある。口端には放射方向の-L(3・16・29・79・94・212・214・222・290・377・400・420・440)または-RL(220・439)、時にその両者(193)や-R(397)があ

り、それらと並んで太い沈線(94・214・439)も見られるが、13-4・5類に特徴的な円周方向の側面圧痕は失われる。口端外角に刻み(3・440)押え(193)または-L(222)が並ぶ例はかなり少ない。口部文様下・凹溝沿いの右または下から突いた点列はあるもの(29・34・37・79・94・193・212・214・220・377・397・439)とないもの(121・223・240・420)があり、文様の上限(29)や重畳する文様の境界(439)にも施される場合がある。34は文様の弧線沿いにも凹溝沿いのそれより細かい点列がある例。420には文様下に13-3類に見られたのと同様な鋸歯状の沈線がある。

13-16を除く全ての図化資料に回転縄文があり、214が∞LRであるのを除いて∞RLである。やはり口部文様を避ける場合(34・121・193・214・223・240・420・439)と文様の背景となる場合(29・37・79・94・212・220・377・397)があり、後者には口辺直下の押捺を避ける例(29・212)が含まれる。440は精粗2種の原体を口部とそれ以下に使い分けている。212は底部体側の押捺を避けている。確認できる事例の範囲では底面にも縄文がある(212・222・537)。

深鉢(13-13・94・193・212・400・420ほか)と浅鉢(222・537)が確認され注口のつく土器(290)もある。雛形風のものではあるが不等径の土器が見られる(537)。丸底の土器(212・222)があることは確かである。

平成13・14年度発掘では生活面121から170にかけて概ね連続的に出土した。出土量のピークが生活面121~125と146~150に分かれており、分類、もしくは生活面の編成に問題があることを示すようでもある。13-1~4類とは中心的な出土層位が異なるとみて可であろう。11年度158線半トレンチで全く出土していない点も13-1~4類と異なる(表V-3)。しかし13-5類とは出土層位に差が認められない。

13-1~4類の場合とは異なり、13-5・6類は類似の口部文様をもつ土器を縄の側面圧痕の有無によって区別した。この試みは今のところ層位的に正当化できないが、両者の間には上述のとおり細部の特徴にかなりの差が認められ、個々の資料の按分によっては出土層位の差が見出される可能性をなお否定できない。13-1~4類についても、沈線文をもつ類と縄の側面圧痕で装飾する類の間に年代差が存在する可能性を検討する作業が今後必要とされるように思われる。

主に本類と13-7類に相当するものからなる良好な資料が由仁町川端遺跡(同町教委編1996)で知られている。ママチ遺跡の昭和52年度発掘(財団道埋文編1983)でⅡ群、同60・61年度発掘で2類土器とされた資料(同前編1987)も多少13-5類相当の資料を交えるが大半が本類と13-7類に相当するであろう。

13-7類 図V-63~73の全て、及びV-62・74の一部が本類で、口部内面・口端に13-6類のそれに似た文様のあるもの(図V-62~66)、およびこれらと近縁とみられるものを集めた。

口端の形状は13-6類と同様、内角に厚みのあるもの(13-11・20・128)内角の不明瞭なもの(134・443)があるほか、外角が鋭く(164・431・444)あるいは外上方へ張り出して(19・144・227・228)むしろ13-4・5類に似たものも含まれる。依然として口・体上部に凹溝(82・163・430・444・447)またはくびれ(164・431)があるほか、口部から体部にかけて比較的顕著な稜のある例(19・72・92・152・229・360)が目につく。また内面に襟状の段差をもつ口部(36・92・141・152・360)は本類に特徴的なものである。

口部外面には細く、一部は櫛状の工具による沈線を背景に弧線と垂線(13-11・19・128・338)弧線(430)曲線(20・92・164・444)鋸歯状(197)などの沈線を描くものが代表的で、細線の上に文様が加わらない例(201)、逆に背景の細線のないもの(229・376・431・443)もある。またこれらと別に水平な沈線または-RLを背景として同様の太さの弧線と垂線(447)垂線・斜線(163・227・360・409)等を描く例があると思われ、さらに顕著な沈線文様のないもの(82・231・364)も見られる。

## V 遺物

文様が上下に重畳していることの明瞭なもの(128)は少ないが、13-6類で重畳する文様を隔てていた凹溝または太目の沈線とそれに沿う点列が口部装飾の中に認められる(11・164・201・231・364・444)のが注意される。430では通常文様下に見られる鋸歯状の沈線が口部文様中にある。口部に点列または点群が多い(11・19・134・164・231・360・443・444)のはある程度こうした文様の重畳に由来するように思われる。外面の浮文(20・72・92・128・134・144・231・338・447)の内容は13-5・6類と大差がなく、浮文上の口辺が突起となることも同じである。浅い器形を中心に目立った文様のない土器(図V-66・74および13-106・141・226・152・387・470)があり、その口辺下に無文帯を生じる場合(13-15・38・106・144・152・387・470)がある。

突起には対をなすもの(13-76・197・231・338・444・470)二分されるもの(36・106・164・229・387・447)三尊式(92・141・201・281)深く突いた点のある小さく高い突起(36・92・106・134)その他ほぼ13-6類同様の変異がある。弱い波状縁らしいもの(152・360・444)が認められるのは新しい傾向かもしれない。突起下の装飾的な穿孔は単独の例(24・111・141)対(134・201・281・387)またはその両者(92)が見られる。387には対をなす穿孔の下に横長の隙間が開いており、土器の長軸に対称の位置にも同様の突起があったことが隙間の下辺の残存によって知られる。

突起の口端には多くの場合放射方向、小さく高い突起では渦状に-Lを施す。13-6類と異なるのは突起周辺の、口辺の高まりの中心部で口端を拡張し、円周方向に2-4条の-Lを押捺した上に放射方向の沈線・-Lや点を加えるもの(28・36・106・197・201・229・281・387)が多いことで、これは口辺の高まりの中心から外れて位置する傾向のある13-4・5類の円周方向側面圧痕とは一応区別される。突起部以外の口端には放射方向(163・164・430・444・447)や鋸歯状(92・201・338)の-Lが施され、前者ではやや疎らな押捺(164・444・447)が目につくほか、円周方向に回転押捺した∞RL(227・231・228・360・409)または∞LR(226)の出現が特徴的である。口端外角には刻み(11・19・92・152・166・218・281・387)ないし押え(72・128・226-229・360・364・409・431・447)のある場合とない場合があり、短い縦線状の刻みを疎らに施すもの(24・231)が注意される。

本類に特徴的な口部内面の文様は、平行する-L(443)またはそれを背景に弧線・垂線を加えたもの(13-92・141・152・387)で、13-6類の指標となる文様と同一であるが、それが内面に移行している点に13-4・5類間に推定されたのと同様な施文位置の変化を認めうる。亀ヶ岡式類似の作例(174)の口部内面にも簡単な文様が施される。

口部外面の文様下や凹溝沿いにある点列、および同じ位置に現れる鋸歯状の沈線(13-360)は13-6類と変わるところがないが、これを欠くもの(13-92・197・227・228・231・376)が少なくない一方、内面の文様や突起部口端の文様にもその内面側の限界に沿って点列が現れることがある(92・106)。突起のない口辺下に焼成前の穿孔が並ぶ226は、内外面に一度に点列を施そうとする試みとみることができよう。また体・底部の屈折(15・111・163)に点列が伴うのは本類以前には稀だったものであって、底部に文様が出現する(38・435)こととも相関するとみられる。

雛形風のもの(15・38)を除くと回転縄文を欠く土器はない。やはり∞RLが大半を占め、稀に∞LR(226)・∞L(36)を見る。∞RL・∞LRを併用し縦位に回転押捺する(163・231)あるいは∞RLの押捺方向を変える(164・435)ことで羽状縄文としたものが少数あって注意される。口部の押捺の有無に変異があることは従前同様である。底辺直上の押捺を避けるもの(114・168・218・443)が少なくない。底面にも押捺するもの(15・92・106・114・144・163・218・226・229・281・435・443)が多数を占め、しないもの(174)は稀である。

深鉢(144・174・226・360ほか)鉢(470)浅鉢(15・24・38・92・106・114・229・281ほか)が

あり、注口のつく浅い器形(134)も確認される。浅鉢は比較的数量が多い印象で、不等径のものを含む(106・387)。底部は多数の丸底と少数の平底(174・226)を見る。丸底の底面中央に凹みのあるもの(11・38)が見られる。

生活面121から155にかけて連続的な出土がある。同156以下に僅かしか見られない点で13-1~3類よりほぼ完全に上層にあり、13-4~6類の一部より上位に偏る傾向も認めてよいと思われる(表V-3)。13-4・5類間では検証できなかった年代による装飾位置の変化は、13-6類と本類との間ではある程度層位的に立証される可能性があると言えよう。

先に述べたとおり本類に相当する良好な資料が川端遺跡やママチ遺跡で知られている。千歳市美々2遺跡(財団道埋文編1986)では本類に似た資料は少量見られるが13-6類に相当するものが欠落しており、両者を区別した根拠の一つとなっている。

13-8類 図V-75・76の全て、およびV-74・77の一部は本類土器である。弧線や垂線中心の文様はなく、水平な沈線と点列で装飾する土器が主体となる。

口端に内傾した面を作るもの(13-112・192・225・232・241・438・445)が依然多いと同時に、口端外角に外傾面があるもの(225・428)あるいは口端が薄くなるもの(6・232・392・396)が特徴的である。13-7類までに見られた口・体上部のくびれ・凹溝は壺の頸部(89・496)を除いて失われる。

口部の文様は初めにも述べたとおり水平な沈線と点列による比較的単純なもので(112・232・241・438・445・496)、むしろ口部に顕著な文様のない土器(6・89・192・225・392・396)のほうが多いようにも思われる。縄の側面圧痕による水平線は姿を消す。浮文・突起(496)も壺以外の器形の口部には認められず、従前ほどには振るわない。確実な波状縁も認めたいが、口辺が不整に上下する例(396・438)がある模様。高く小さい突起の口端には点があり(496)、突起下に単独の穿孔がある(496)。突起に伴わないやや横長の単独穿孔(192)も見られる。壺の体上部には水平線と浮文による簡単な文様があり(89・496)、その下の体部に回転縄文を背景として三角形・波状の沈線文を描く場合がある(496)。

口端ないし口辺内面には13-7類にも見られた∞RL(13-232・438)のほか放射方向の-RL(6・192・241)または短線(445)を並べたものがある。口端外角には押え(6・192・241・445)の列があるほか、鋸歯状に斜線が並ぶもの(225・438)が特徴的である。232では-RLの列が見られ、これは周囲の∞RLの部分とともに半置半転の手法で押捺される。口端外角の装飾と口部外面の境に稜を生じ、ここに点列が位置する事例が注意される(225)。一方口部文様の下に現れる点列(232・438)や鋸歯状の沈線(445)にはこのような稜を伴わない。

大半の土器に∞RLの押捺がある。13-6は口部に∞RL、体部以下に∞LRを用いる。口端外角(438)あるいは無文帯上の口辺に(232)回転押捺が見られるのは13-7類以前にほとんどない現象である。回転縄文のない土器もある程度存在するらしい(112・396)。

深鉢(13-241・392ほか)・浅鉢(6・396)・壺(89・496)が確認され、錐形ふうの小さいもの(112)もある。丸底(89・241)があるほか、弱く突出した底面の周囲に低い隆起がつく特徴的な底部(6・392・396)を見る。

平成13・14年度発掘では生活面101から150にかけて出土し、13-4~7類が同120から上に全く出土しないのと異なる一方、続縄文土器とは完全に上下関係にある。11年度トレンチでも数は少ないながら13-4・5・7類より上位に出土量の重心をもつ(表V-3)。

千歳市美々2遺跡では住居跡H-5・7・9・23・29などで本類の一部に相当する良好な資料が出土しており(財団道埋文編1986)、また同市ママチ遺跡昭和52年度発掘のIV群土器(同前編1983)



## V 遺物

および同 60・61 年度発掘の 3 類土器（同前編 1987）の中に類例がある。いずれも樽前 c 降下軽石層（曾谷・佐藤 1980）より上位のものとしてされている。なお本類にはママチ遺跡の V 群または 4 類土器に相当するものをも含み、本遺跡でも今後さらに細別が必要となるとみられる。

不明縄文土器 図 V-16・78 の全て、及び図 V-15・77・79 の一部は以上の分類に比定することのできなかった土器である。以下概ね図示の順に分類の可能性について簡単に触れておく。

図 V-15・16。13-130・331・523・539 は単純な口部の形態から 13-1 または 2 類に属する可能性がある。531 も体・底部を見る限り 1・2 類に似ているが口部が欠損して不明である。

図 V-77。13-161、内傾した口端、単純な口部形状は 13-1~3 類に近い。305・336、特徴のない口部で 13-1・2 類に似ているかも知れない。104、口端外角に狭い傾斜面がある点は 13-8 類に似る。

図 V-78。13-335、弱い丸みのある底部から急角度で立ち上がる体側は 13-3・4 類に近い。187、口端が内傾し上部が内湾する口部は 13-3・4 類の一部に似る。264、丸みのある口端で 13-1 類に似るようにも思われる。259、 $\infty$ RL のある口端は 13-7 または 8 類か。330、円管で垂直に突いた点列と浮文から 13-3・4 類に近い可能性がある。248、外角の尖る口端がやや外を向く状況は 13-5 類あたりか。39 と 291、ともに顕著な不等径の土器で 13-4 類以降であろう。173、沈線の感じは 13-4 または 3 類に似たものがある。

図 V-79。13-17、突起口端に円周方向の RL があり 13-4~7 類か。199、底辺直上に凹溝状の無文帯があるので 13-4~7 類であろう。421、口端が薄くなる点は 13-6~8 類の一部に似るか。13-465、見当がつかない。113、体下部の稜に点列があって口端薄く 13-7 類に近い。329 と 386、外角が尖り内角の曖昧な口端は 13-6・7 類に似る。186、口部の開きが大きい 13-4~7 類の浅鉢と思われ、厚さの変化なく無文帯を欠く口部は 13-5 類前後か。109・126・417・425、浅鉢を模した雛形とみられる小さな土器で分類困難である。

続縄文土器 図 V-79 の一部と V-80 の全ては続縄文土器と思われる。今のところ出土量少なく、本遺跡でどのような分類が可能かは今後の課題である。変形工字文に類似の沈線文(13-565・568・569) や水平な縄の側面圧痕(506・567・566・570)をもつ例は続縄文土器の最も古い部分に位置し、口端に $\infty$ RLのあるもの(569・570・571)、 $\infty$ LRを用いるもの(563・566・507)と R 条による撚糸文をもつもの(564)もこれらに近いと思われる。572 は新しい続縄文土器である後北 C<sub>2</sub>・D 式(大沼 1982)と考えられ、底部に装飾のない 522 はさらに年代が降る可能性がある。

平成 14 年度に発掘した生活面 6 から 90 にかけて出土し、縄文土器より確実に上層にある(表 V-3)。11・13 年度に発掘した 149 線以東での分布は確認されない。

### (3) 製作技術

#### a 土

砂礫の混和 土器を構成する土には例外なく砂が含まれ、時には細礫を含んでいる。これらの多くは所要の土質を得るため意図的に混和したものと考えられるので表 V-2 に観察の結果を記載した。兵庫県小森岡遺跡出土土器の整理で採用された方法(千葉・大下編 1990 の 62 頁)に倣い、発掘現場近傍の石狩川岸で砂を採取し、これを篩い分けて用意した極粗粒砂と粗粒砂を体積比で 10・30% 配合した粘土版 4 個を作り、これと遺物を比較して最も目立つ粒径の別、及び配合の多少を記述した。「中」は中粒砂、「粗」は粗粒砂、「極」は極粗粒砂の略で、「少」は 10% 前後、「極多」は 30% 前後、「多」はその中間を意味する。またこれと別に細礫が観察されればその旨を記入した。図示した資料の範囲では中~粗粒砂を中心に 10~20% 前後混和するのが普通の配合と考えられる。

注意を引いたのは細礫を含む土が 13-1・2 類土器にかなり普遍的にあり、13-5~7 類にもしばしば見られる（図版 V-12）こと、整齊な沈線で装飾する亀ヶ岡式類似の土器には人為的に破砕した可能性の高い角礫を含む土が往々用いられ、砂礫全体の配合も多いことなどである。砂礫を多く含む土器では必然的に土の固結が弱くなり、整理に際してアクリル樹脂で硬化処理したものが多くなった。処理したものは表 V-2 に記入している。

**土塊の混和** 土の塊を砕いて配合したと思われる例（図版 V-15 下段）が相当多いことが注目され、例えば個体番号を与えた 87 個体中の 31 個体に土塊を、さらに 4 個体にそれらしいものを観察した。13-1 類から 8 類まで各級の縄文土器にあり、13-4 類以降増加して特に 13-5~8 類では土器の半数からそれ以上になるとみられるが、今のところ縄文土器には確認されず、また上述した角礫混和の土とは重複しない。単なる乾燥土塊であるのか焼成したものか、また土でなく軟質の堆積岩ではないかといった問題に答える用意がないが、ときに平坦な人為面を含み土器片と考えてよさそうなもの（図版 V-15 右上）が観察される。道内の晩期土器に土器片を配合した例があることについては千歳市イヨマイ 6 遺跡 IIIH-18 堅穴（同市教委編 1990 の 68 頁）の報告で指摘され、本遺跡でも昨年度報告した「土器集中 3」（財団道埋文編 2002）の資料で注意されている。

**海綿骨針等** 概ね長さ 2mm からそれ以下の白色の細長い棒状の粒子が土中に観察される場合がある。これは海綿骨針と考えられ、海成層の露出する地域での土の採取を示すものとみられている（花岡・長沼 1990）ので、肉眼で注意された範囲で表 V-2 に記載した。概ね亀ヶ岡式類似の土器に限って少数認められる。また土の中に腐り礫と思われる赤褐色の粒が見られる場合がある。13-2~5・7 類、縄文土器に少数見られ、これも土の採取地の地質を示す可能性があるともみて表 V-2 に記載したが、特定の出現傾向を認めることができなかった。なお腐り礫は粒子の質の表現であって、粒径の点では砂と呼ぶべきものを含む。

このほか主に土器の内面で土中の繊維が消失した痕跡を観察する場合がある。これは主に土の採取地の植生を反映したものとみてほとんど記述していないが、特に顕著と思われる例のみ表 V-2 に記載してある。13-6・8 類にこれが見られた。

## b 成形

**接合面の有無** 土器の表面に似て砂粒が沈んでいるが、土器が破損するまで器壁の内部にあったと考えられる面を土器の成形に際して土を継ぎ合わせた面、つまり接合面とみなして表 V-2 に記載した。珍しいものではなく、例えば個体番号を与えた 87 個体のうち 46 個体にこれを認めた。個体番号のある土器のうち土を継ぎ合わせる必要の少ないであろう錐形状のものを母数から除いて考えれば、接合面を露呈する個体の比率はさらに上昇するとみられる。

長く連続する事例で観察する限り、接合面は器を横にめぐって概ね水平に続いており、螺旋状に上昇・下降するものは確認できない。そこで直接上下関係になくとも出現する高さの異なる接合面を全て別件、横に並ぶ接合面を連続の有無に関わらず全て 1 件として数えた場合、上記と同じ 46 個体中に延べ 127 件、1 個体に最大 12 件の接合面を観察した。こうした事情から表 V-2 では接合面の数を段数として記載している。その出現位置は口部 30 段、体部 48 段、底部 49 段となり、口部にやや少ない傾向がある。接合面の露呈は成形の休止を反映し、休止は土器の変形を防ぐためにおこなわれる（佐原 1967 の 737 頁）という一般的な理解に立てば、これは口部よりも体部・底部に土の荷重による変形への配慮がみられることを意味する可能性があり、従って土器を成立させた状態で底部から口部へ向かって成形を進めるのが普通であったと想定してよいかもしれない。

## V 遺物

内傾・外傾 佐原 真（1967の738頁）に倣って、土器を正立させたときに土器の内面側が高く外面側が低くなる接合面（図版V-17上段）を外傾、その逆に傾く接合面（図版V-16ほか）を内傾と表現すると、上記の延べ127段の接合面のうち外傾接合面が4段、どちらとも断定しかねるものが1段ある以外は全て内傾接合面である。個体番号のない資料も内傾接合面が圧倒的に多いことは変わらない。ただしこれは晩期縄文土器各類を通じての傾向であり、続縄文土器の古い部分では外傾接合面のほうが多い（表V-2）ことに注意すべきであろう。13-391（N42、図版V-17）と13-112（N8）は連続性のよい外傾接合面を観察できる晩期土器としては稀な例である。

接合面の加工 露呈した接合面に規則的な凹凸が見られる場合があり、上向きの接合面では概ね浅い凹み、特に明瞭なものでは僅かに左に傾いた縦長の凹みが横に並んだものとして観察される（図版V-17中段、V-18左上）。これはおそらく土器製作者の指痕と思われ、これが接合面に直接遺されたものであれば上向きの接合面が擬口縁（佐原1967の737頁）、下向きの接合面はその逆形（同前738頁）であり、土器は底部から口部に向かって成形されていることが確実となる。今のところ指紋を確認できた例は上記46個体のうち1個体（13-530、N42）に過ぎず、土の接合後に土器内面から力を加えても接合面に同様の凹凸が生じるのではないかという疑問もあるので確信が持てない。しかしこうした凹凸に伴ってときに出現する接合面上端の規則的な波うち（図版V-17下段、V-18右上）は上向き接合面の形成される時点でその上端が自由に圧延できたことを示すように思われ、少なくともこうした例では底部側が口部側より先に成形されているとみてよいであろう。

このほか注意を引くものとして、接合面に小さな圧痕を横に並べて弱い段を作る例が見られる。概して上向きの接合面に残る圧痕がそれに対応する下向き接合面にある反転像より鮮明（図版V-18左右下）であるので、これは上向きの接合面に直接印象されたものであり、土の接合後に内面から突いた結果ではないと考えられる。しかしその目的は理解しかねる。あるいは接合面に積み上げた上段の粘土がずり落ちるのを防ぐ意図に出たものであろうか。例外なく略円形の圧痕で、管で突いた輪・弧状のものと中実の工具によるものとがある。図示した331件の資料のうち13-1~5類と分類不明縄文土器に計9件見られ、接合面の露呈した46個体中では4個体、延べ127段の接合面のうち7段に観察された。

### c 内面の調整

表V-2には一応土器表面における砂粒の現れ方、調整の方向性および工具の移動の向き、調整を免れた成形段階の凹みの有無等について記載したが、調整技術の理解が不十分で体系性を欠いたものになっている。晩期縄文土器各類を通じて概ね無難に指摘できそうな点を列挙しておく以下のようなものとなる。

調整で砂粒が沈んでいる例が大半で、砂の動きが見られる場合でも器面に浮き出す傾向はない。顕著な光沢は生じていない。調整は水平方向に行われる場合が多く、砂の動きから確認される例では多くが反時計回りに工具を動かしている。調整の始点とみられるものがしばしば観察され、直線状を呈する場合と弧線状とがあって前者が多い。口部には成形時の規則的な凹みと思われるものが十分消えずに残ることが多い。顕著に条を残す調整は稀であるが皆無でなく、調整の過程で消されている可能性が残る。

## 2 石器等・石製品・土製品

### (1) 出土状況等

石器等・石製品・土製品（焼成粘土塊を除く）は平成11年度に1,968点、平成13年度に7,924点、平成14年度に9,278点、合計19,170点が出土している。分類は石鎌・石錐・スクレイパー・つまみ付きナイフ・石斧・たたき石・台石・すり石・砥石・石核・加工痕のある礫・Rフレイク・Uフレイク・剥片・礫・礫片・石製品・土製品が出土している。その遺物の半分以上、もしくは機能部が欠損していると考えられるものは破片として扱っている。

出土分布の傾向は153線付近以東から増え始め、156線付近以東では急激に増加する。また、145~148線からも多く出土する。これを生活面から見ると121~135面・146~155面・186~200面において出土点数が多くなる。この傾向は焼土の分布状況ともほぼ共通するものである。器種別の傾向は、スクレイパーが552点、たたき石が284点、石鎌が291点と多く、すり石・石皿はほとんど出土していない。これは平成12年度の報告とほぼ同様の傾向だが、この他に石製品・土製品の出土があり、カンラン岩製の玉・土製の玉・勾玉・クマと見られる土製品などが出土している。

石材は、剥片石器などではそのほとんどを黒曜石が占め、その他には頁岩・玉髓（メノウ・メノウ質頁岩含む）・安山岩などが少量見られる。礫石器などでは砂岩・安山岩が多数を占め、他には片岩・泥岩・珪岩などが見られる。小さな泥岩礫を除くと遺跡内の包含層から自然に出土するものではないため、目的を持って遺跡に運び込まれたものであると考えられる。

遺物の図は土坑・集石出土の遺物（図V-81~83）は遺構番号別に、焼土・包含層出土の遺物（図V-84~88）は1~61が平成11・13年度着手部分（149~158線）で出土したもの、62~69が平成14年度着手部分（110~148線）で出土したもので並べた。また、周囲の状況から判断して1~61は縄文晩期後葉頃、62~69は続縄文初頭頃にあたるものと考えられる。

なお、表内における出土小発掘区は平成14年度から表記の変更を行ったため2つの表記が混在する。小発掘区表記はa=ア、b=イ、c=ウ、d=エ、である。計測値の括弧内は欠損部分からの数値である。点数は破片を含むものである。図の縮尺は剥片石器・石斧・石製品・土製品は2分の1、礫石器3分の1で掲載している。また、17のアスファルト付着部分、P-49-1・P-56-1・P-107-1・S-15-1・S-17-2の被熱部分は網掛けでその範囲を示した。

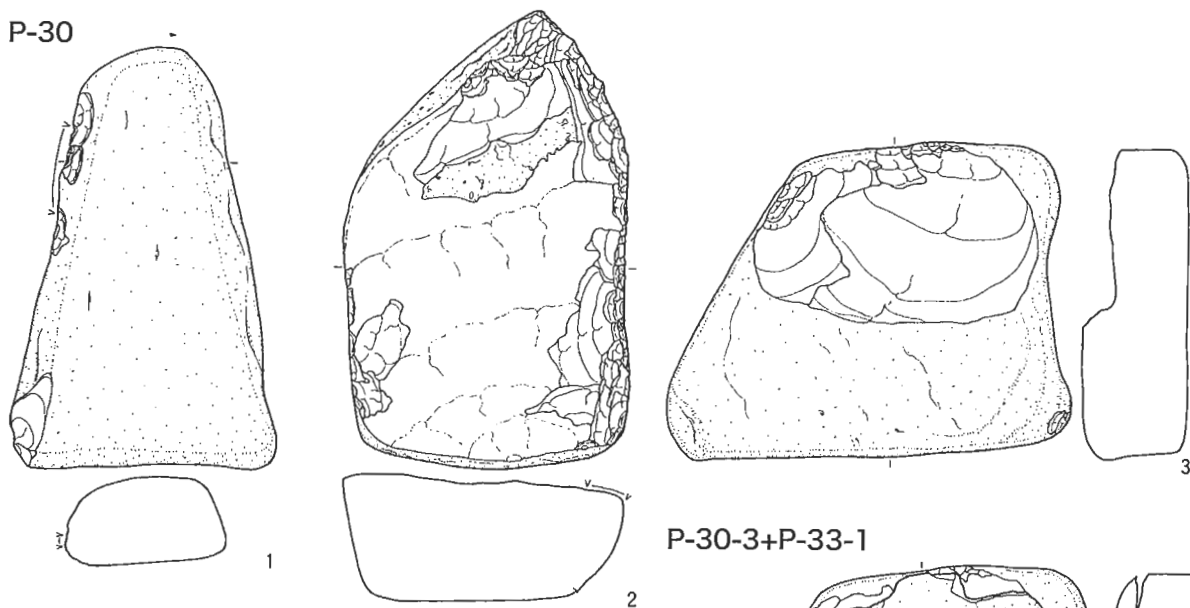
### (2) 石器

石 鎌 平成11年度67点・13年度198点・14年度26点、合計291点が出土している。有茎鎌が277点とほとんどを占め、三角形鎌5点、菱形鎌3点、破片6点である。大きさは平均すると長さ2.07cm・幅1.21cm・厚さ0.33cm・重さ0.65gとなる。各最大値は長さ4.0cm・幅1.7cm・厚さ0.7cm・重さ2.5g、各最小値は長さ1.2cm・幅0.8cm・厚さ0.2cm・重さ0.3gである。平均値付近に数量が集まる。分布の傾向としては154線以東から多く出土している。使用される石材は黒曜石が284点でほとんどを占め、頁岩・チャート・玉髓が7点である。

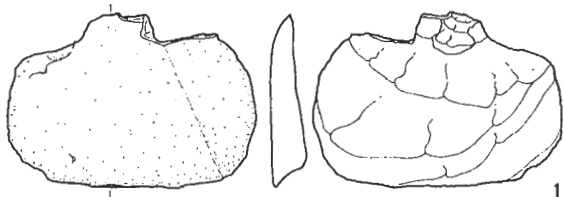
P-48-1・P-53-1・P-63-1・P-98-1/1~17・63・64は有茎鎌である。1~9・63は基部の返しが明瞭なもの。1・2・63は刃部側縁がやや内弯する。3~9は刃部側縁が直線的である。9は両側縁下部に袈が入る。10~17は基部の返しが不明瞭なもの。17は基部にアスファルトによる接着痕が残存する。64は基部が太く石銛に分類されるものかもしれない。18は菱形のもの。62は三角形で平基のもの。石材は16が白色のチャート、17は頁岩、その他は黒曜石である。

V 遺物

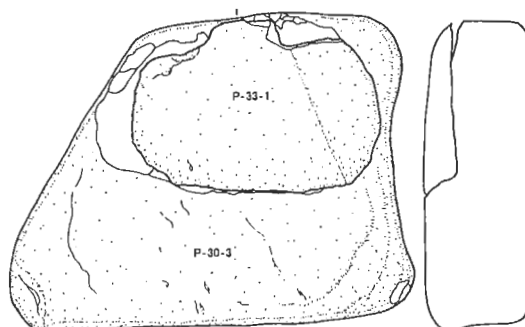
P-30



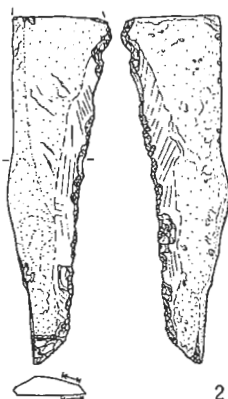
P-33



P-30-3+P-33-1



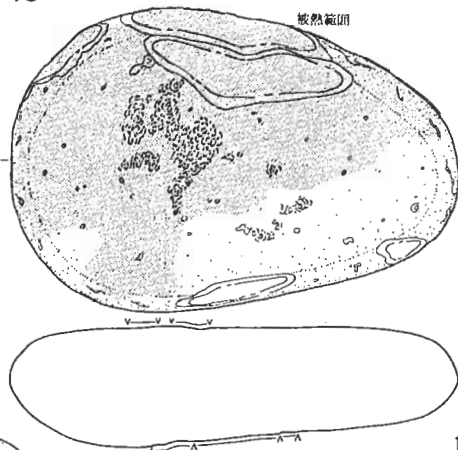
P-37



P-41



P-49



P-48



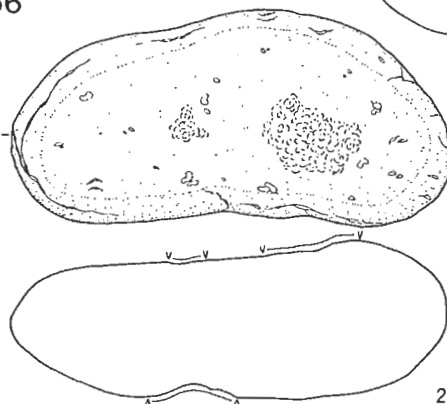
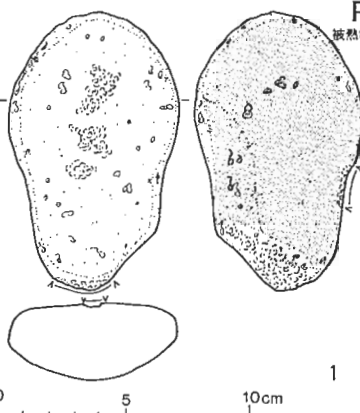
P-53



0 5cm

P-56

被熱範囲



0 5 10cm

P-63

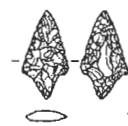


図 V-81 土坑の石器等 (1)

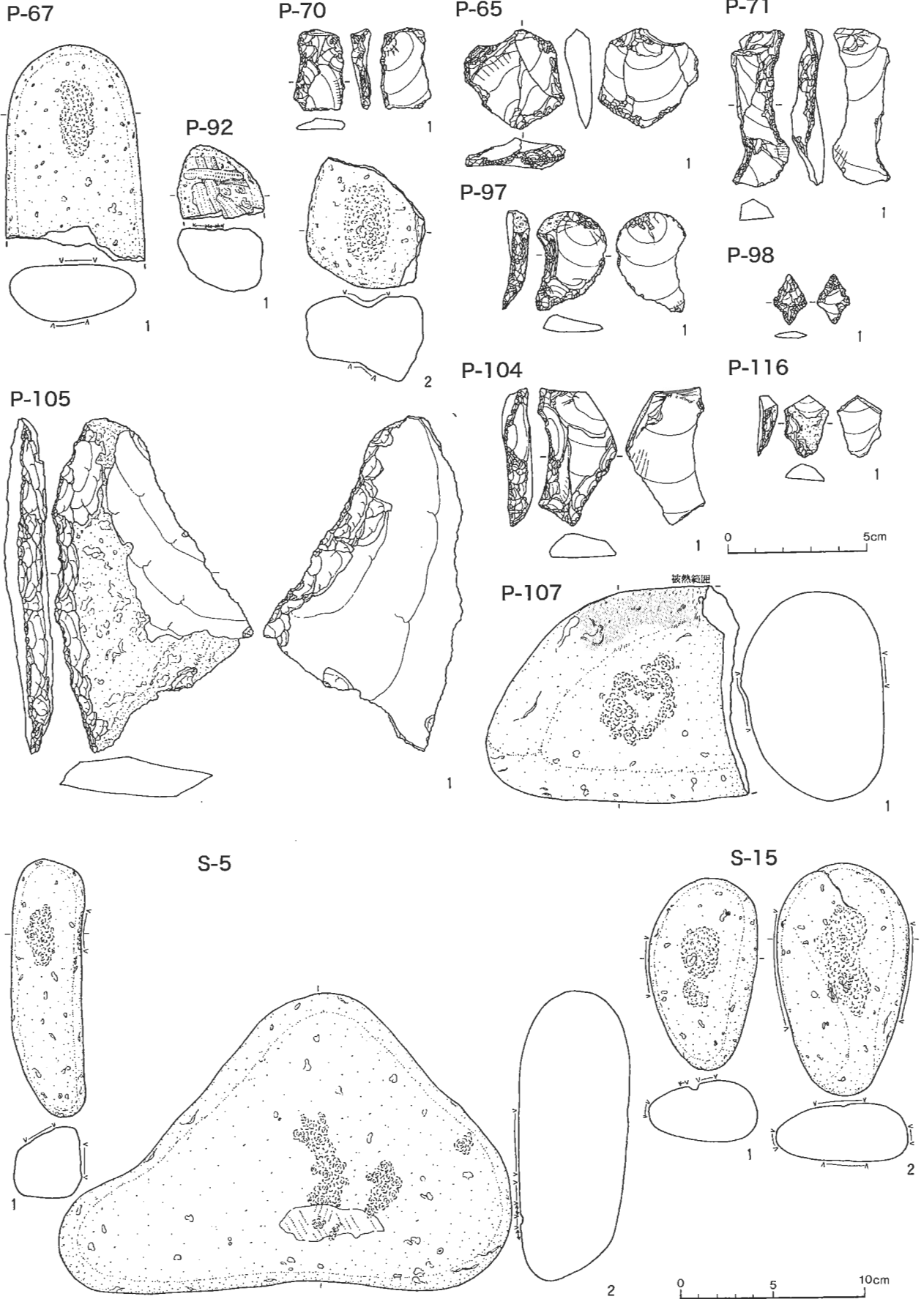
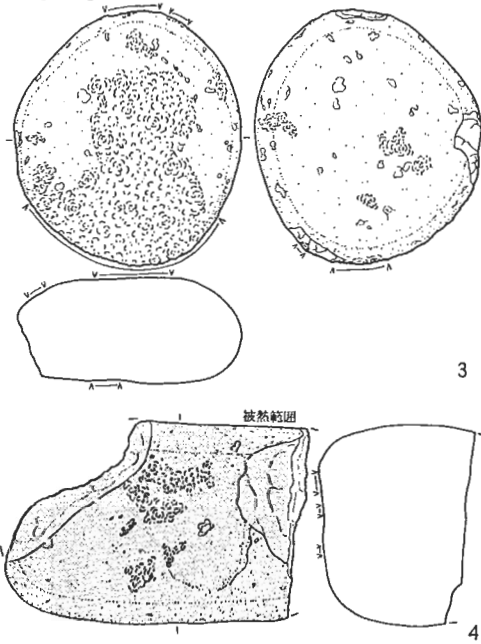


図 V-82 土坑の石器等 (2)・集石の石器等 (1)

V 遺物

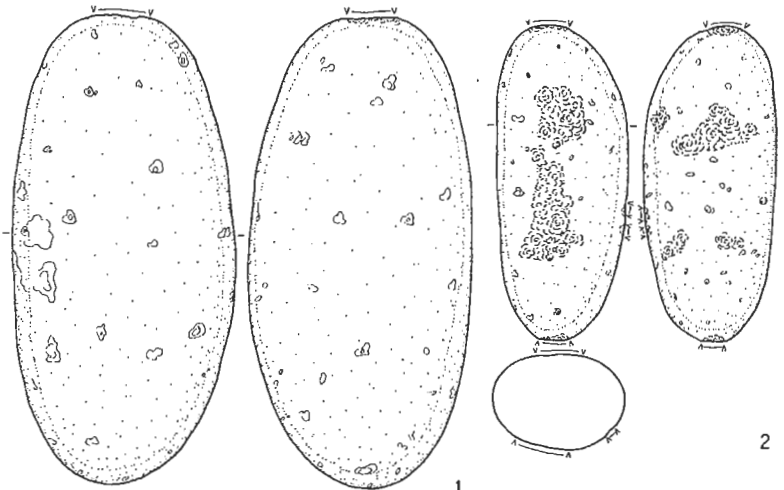
S-15



3

4

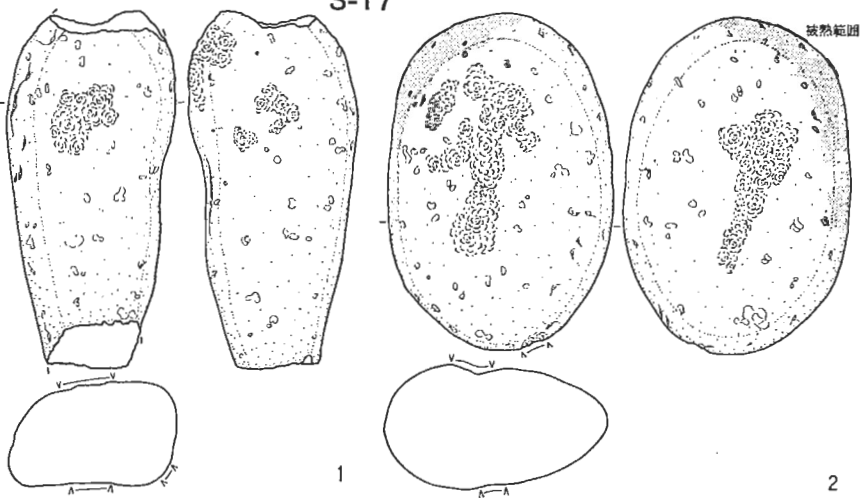
S-16



2

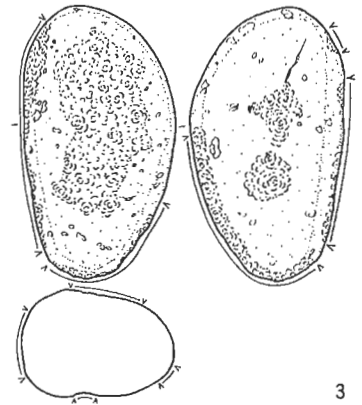
1

S-17



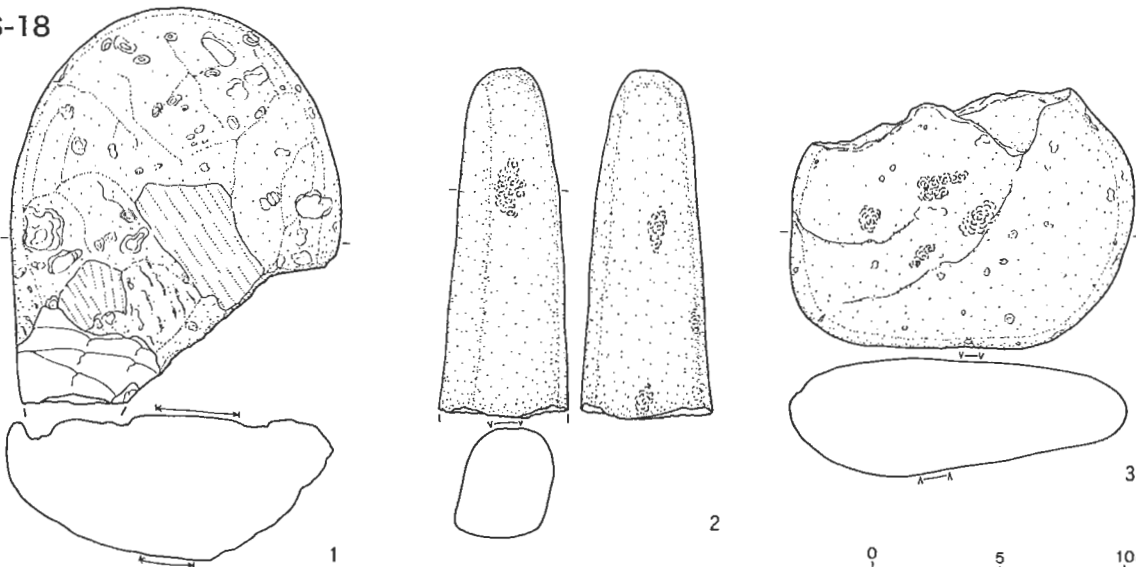
1

2



3

S-18



1

2

3

0 5 10cm

図 V-83 集石の石器等 (2)

149~158 線

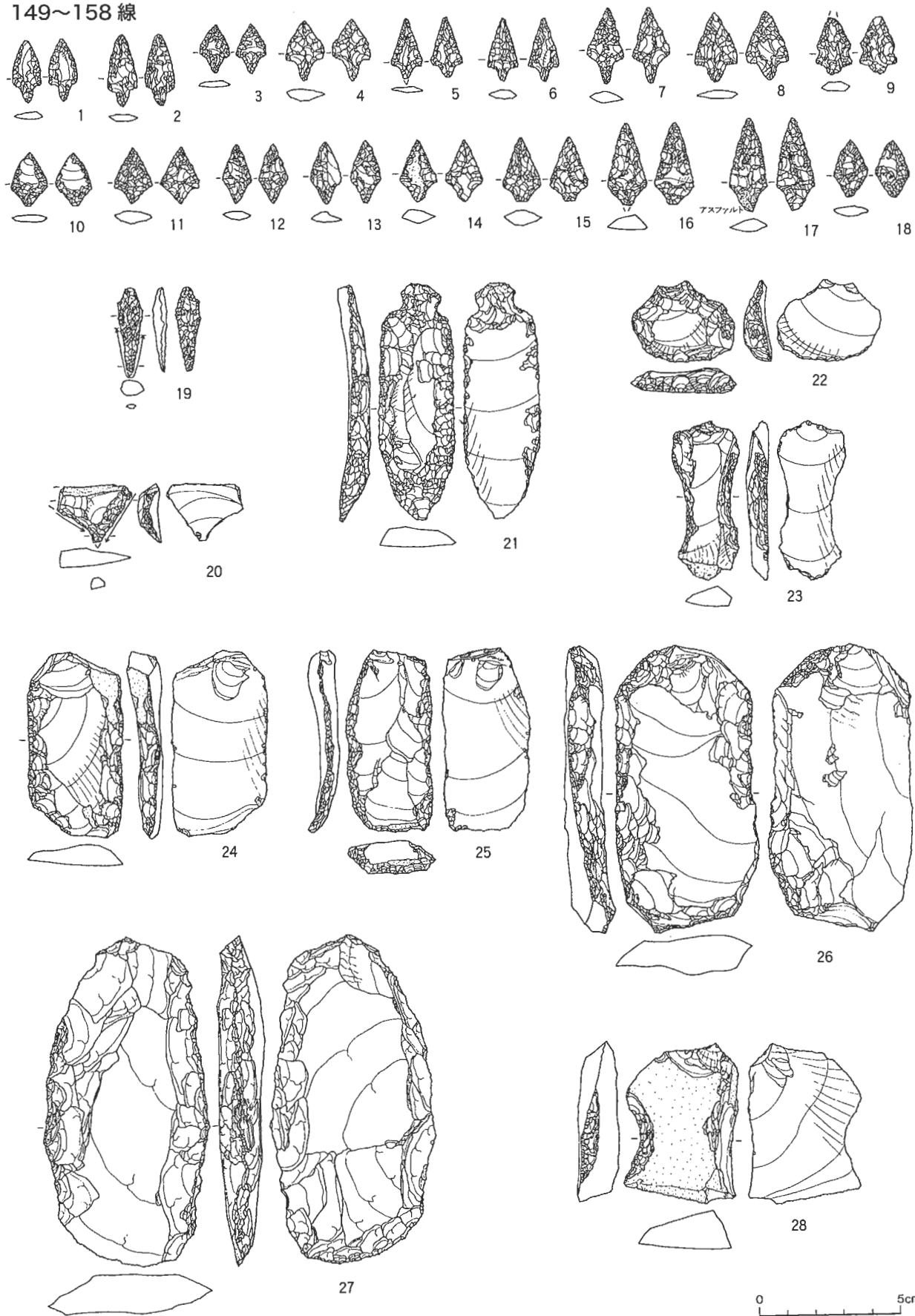


図 V-84 焼土・包含層の石器等 (1)



## V 遺物

石 錐 平成13年度に2点出土している。19は棒状のもの。刃部中央付近以下に使用痕と見られる磨耗が見られる。20は刺突部を作り出したもの。先端部を欠損している。石材は黒曜石。

ナイフ類 平成11年度1点・13年度5点・14年度2点、合計8点出土している。両面調整によって刃部を作出したものである。全て破片であったため掲載はしていない。

つまみ付きナイフ 平成11年度1点・13年度4点・14年度1点、合計6点出土している。縦形の片面調整のもの5点、縦形の両面調整のもの1点である。石材は黒曜石5点、玉髓1点である。

21は縦形の片面調整によるもの。65は縦型の両面調整によるもの。太いつまみ部がある。石材は21が黒曜石、65が玉髓。

スクレイパー 平成11年度72点・13年度447点・14年度35点、合計552点出土している。剥片の形状を生かしてその縁辺部の一部分に刃部を作出しているものが298点と最も多く、縦長の剥片の側縁部に直線的な刃部を作出しているものが98点で続く。その他にも円形剥片の円弧状縁辺部を用いて刃部を作出しているもの50点、三角形の形状をしたもの24点、抉りの入っているもの21点、縦長の剥片の下端部に刃部のあるもの5点、破片55点を確認されている。石材は黒曜石がほとんどを占め、その他には安山岩・頁岩などがある。安山岩の剥片を利用したものが42点出土している。剥片の形状を生かして刃部を作出しているものが多い。黒曜石の棒状原石の側縁を利用して刃部を作出しているものが2点出土している。

22は円形剥片の周縁部分に刃部を作出したもの。P-70-1・P-71-1・P-104-1/23~28・66は縦長の剥片の側縁に直線的な刃部を作出したもの。P-97-1/29~31は逆三角形の剥片の側縁に刃部を作出したもの。P-37-1・P-65-1・P-105-1・P-116-1/32・67は剥片の形状を生かして刃部を作出したもの。P-53-2は黒曜石の棒状原石の側縁に刃部を作出したもの。石材はP-105-1/27・29が安山岩、その他は黒曜石。

石 斧 平成11年度に7点・13年度に41点・14年度に1点、合計49点出土している。途中から折れたり欠けたりしているものが多い。未製品と考えられる刃部を作出していないものがある。短冊形のもの15点・撥形のもの3点・乳棒状のもの3点、破片13点、未製品と思われるもの15点である。整形の方法としては全面を研磨によるもの3点、刃部のみを研磨によるもの2点、敲打によるもの10点、打ち欠きによるもの7点が見られる。刃部は全て両刃で、直刃3点・円刃21点である。石材は泥岩・片岩が多い。

33は短冊形のもの。全面を研磨により整形し、刃部は両刃の直刃である。鑄が明瞭に見られる。34は撥形のもの。研磨によって刃部を作出している。両刃の円刃である。刃部には使用痕と見られる細かい縦方向の痕跡が見られる。35・36は乳棒状のもの。全面を敲打により整形し、刃部を研磨により作出している。両刃の円刃である。石材は33が片岩、34・35が緑色泥岩、36がカンラン岩である。

たたき石 平成11年度に62点・13年度に196点・14年度に26点、合計284点出土している。礫の腹背部・端部・周縁部、もしくは複数部所に敲打痕のあるものである。扁平礫で腹背部が使用されているもの63点・周縁部が使用されているもの5点・複数部所5点、棒状礫の腹背部が使用されているもの60点・端部が使用されているもの13点・複数部所24点、円礫を使用しているもの16点、破片98点である。使用される石材は砂岩・安山岩が多い。使用痕付近から折れたり欠けたりしているものが多く見られた。たたき石と台石については礫の形状・使用部所・重さを基準に分類した。重さは500g位を目安に軽いものをたたき石、重いものを台石とした。しかし、扁平礫の腹背部のみ使用しているものに関しては軽いものでも台石として使用された可能性を否定できない。

40は礫の上半を敲打により整形し腹背部を使用したもの。P-56-1・S-15-1~3・S-17-1は扁平礫

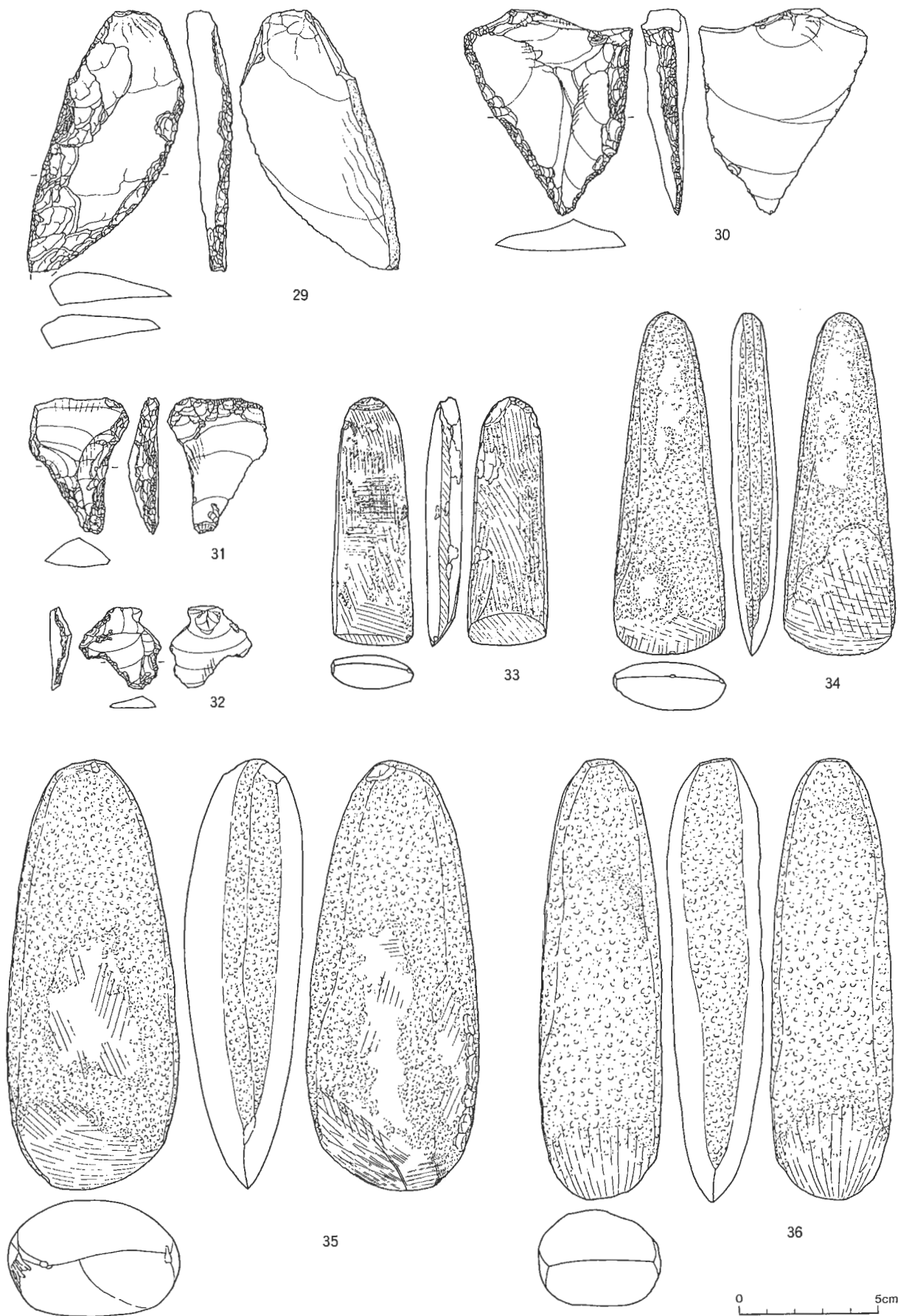


図 V-85 焼土・包含屑の石器等 (2)

V 遺物

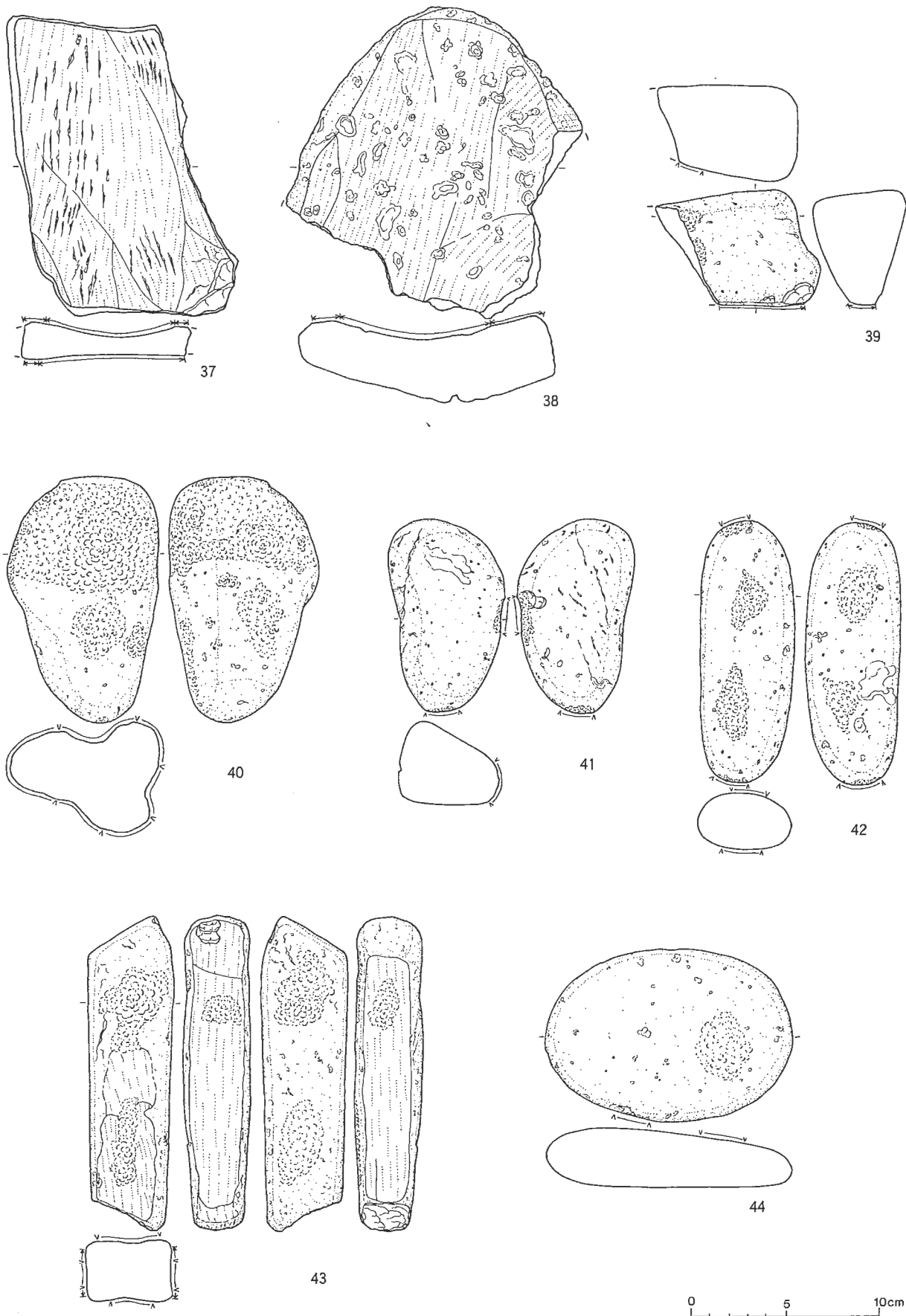


図 V-86 焼土・包含層の石器等 (3)

の腹背部と周縁を使用したもの。P-30-1/41は扁平礫の周縁を使用したもの。S-16-1は棒状礫の端部を使用したもの。S-16-2・3/42は棒状礫の腹背部・端部の両方を使用したもの。P-41-1・S-5-1/43・68・69は棒状礫の腹背部を使用したもの。P-63-2・P-67-1・S-18-2は破片。P-56-1には被熱した痕が見られる。石材はP-63-1/40・43・69が砂岩、41が珪岩、P-56-1・P-67-1・S-15-1~3・S-17-1・S-16-2・3/42が安山岩、P-30-1・P-41-1/68が泥岩である。

台石 平成11年度6点・13年度28点・14年度20点、合計54点が出土している。礫の平坦面に敲打による使用痕が見られるもの23点、破片31点である。石材は砂岩・安山岩である。

P-49-1・P-56-2・P-107-1・S-5-2・S-18-3/44・45は扁平礫の平坦面に敲打痕のあるもの。45は礫の4ヶ所に打ち欠きが見られる。打ち欠かれた部分は磨耗が激しいため、以前に打ち欠かれた礫を搬入して台石として使用した可能性がある。一部にすり面に見える研磨痕がある。P-70-2・S-15-4は破片。P-49-1・P-107-1・S-15-4は被熱した痕が見られる。石材はP-49-1・P-56-2・P-70-2・S-18-3/44が安山岩、P-107-1・S-15-4/45が砂岩である。

すり石 平成13年度1点出土している。対雁2遺跡では初めての出土である。

39は断面三角形の礫の稜にすり痕があるもの。礫の腹背部に敲打痕が見られることから、たたき石として使われていた可能性が考えられる。礫として遺跡に持ち込まれたものかもしれない。石材は砂岩である。

砥石 平成11年度7点・13年度25点・14年度1点、合計33点が出土している。破損して破片として扱っているものが多いが、細い溝状の研磨痕のあるもの4点・広い研磨面のあるもの29点が見られる。石材は軽石・泥岩・凝灰岩である。細い溝状の研磨痕のあるものは軽石製のものに見られる。

P-92-1は細い溝状の研磨痕のあるもの。S-18-1/37・38は広い研磨面のあるもの。石材はP-92-1が軽石、37が泥岩、S-18-1/38が凝灰岩である。

石核 平成13年度116点・14年度5点、合計121点が出土している。特に図示は行わなかった。ピエス・エスキーユが13年度72点・14年度3点、合計75点出土している。石材は黒曜石が多く、他に頁岩・チャート等が少量見られる。

Rフレイク 平成11年度48点・13年度2点・14年度3点、合計53点が出土している。特に図示は行わなかった。剥片に加工痕の見られる剥離のあるものをこれとした。

Uフレイク 平成11年度59点・14年度3点、合計62点が出土している。特に図示は行わなかった。剥片に使用痕と見られる微細な剥離が見られるものをこれとした。

加工痕のある礫 平成11年度5点・13年度11点・14年度1点、合計17点が出土している。特に使用された痕跡が見られず、打ち欠き等が見られるものをこれとした。P-30-2は礫に打ち欠きが見られるもの。P-30-3は頂部から打ち欠かれている。この際の剥片がP-33-1であり、この2点が接合する。石材はP-30-2が片岩、P-30-3が泥岩である。

### (3) 石製品

平成13年度8点出土している。玉が7点・その他1点である。石製の玉の出土は初めてである。

46~48は玉である。全て研磨により成形が行われ、両面からの穿孔により孔部を作出している。46は両面の一部に刻線により放射状の模様が施されている。48は平玉状の形状をしている。風化が激しく脆くなっている。46・47はカンラン岩製、48は滑石製である。

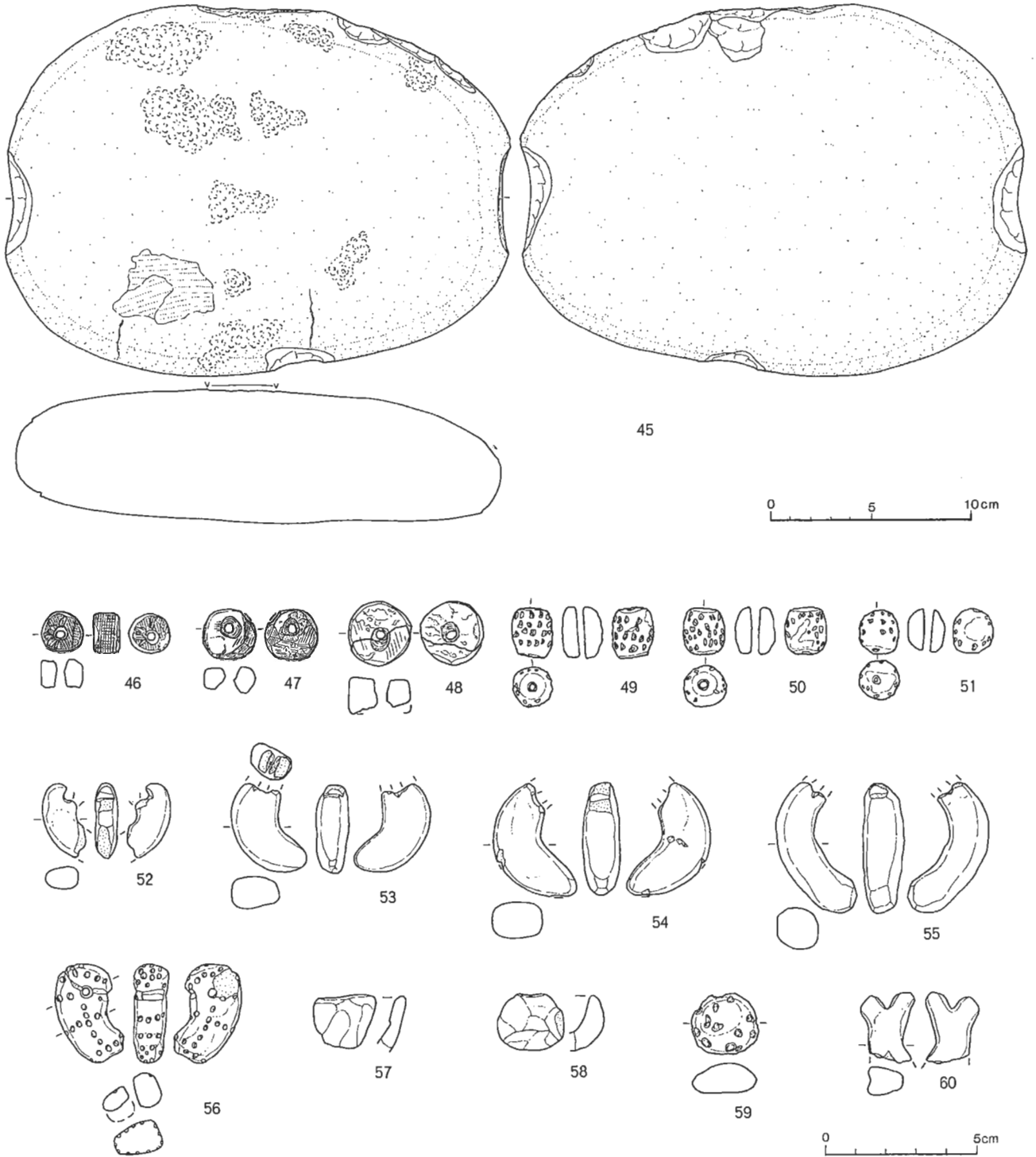


図 V-87 焼土・包含層の石器等 (4)

(4) 土製品

焼成粘土塊以外の土製品は 11 年度 1 点・13 年度 12 点、合計 13 点出土している。玉 3 点・勾玉 5 点・クマと見られる土製品 1 点・その他 4 点である。勾玉は平成 12 年度調査においてカンラン岩製のものが 1 点出土している（財団道埋文編 2001 の図 V-2-3-48）が、土製のものは玉とともに初めての出土である。なお、クマと見られる土製品については平成 11 年度の報告書（財団道埋文編 2000 の

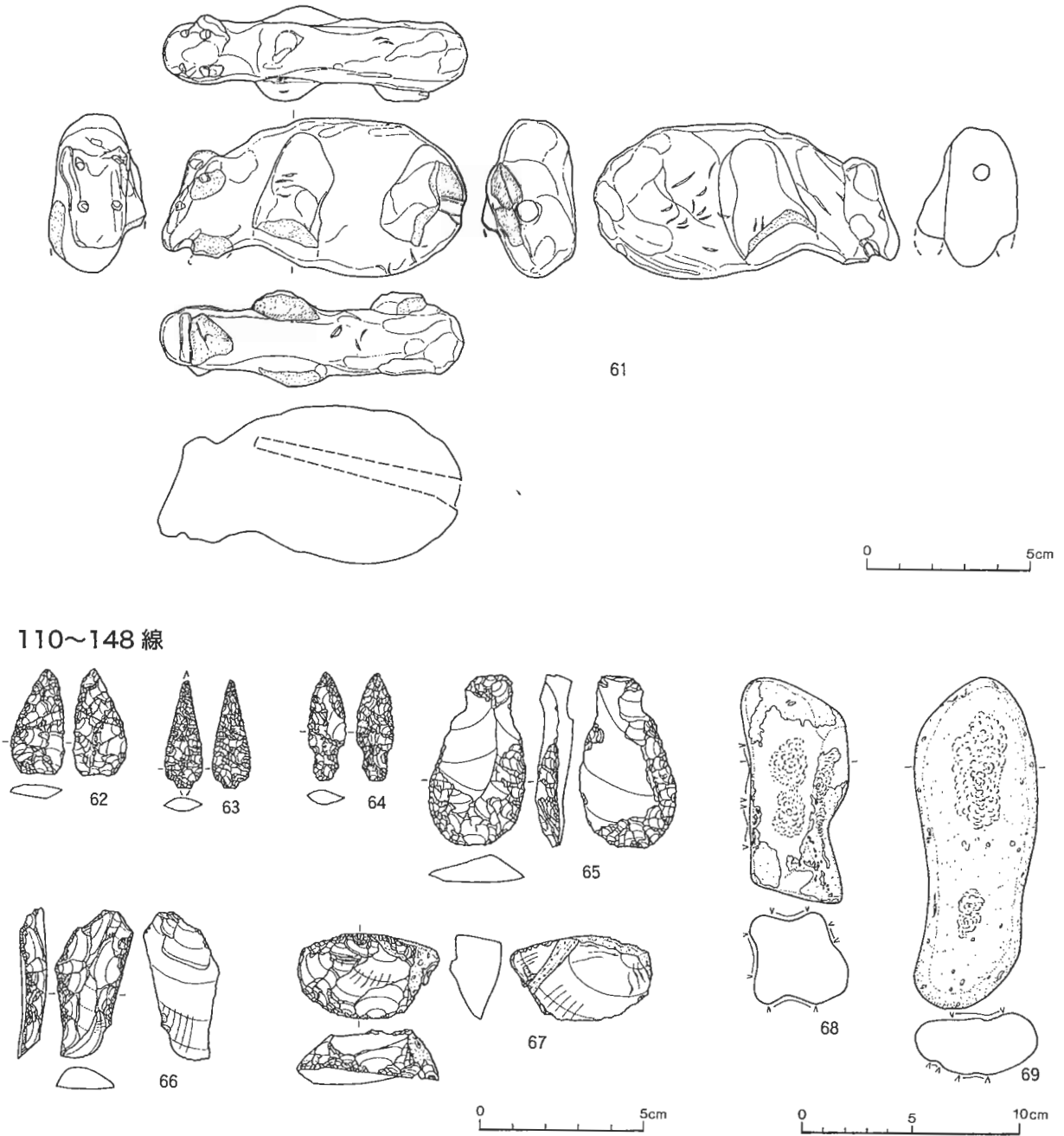


図 V-88 焼土・包含層の石器等 (5)

図 V-9) において報告済みのものであるが再掲載する。

49~51 は玉である。貫通孔があり、側面に断面山形の器具を用いた刺突による模様が施されている。52~56 は勾玉である。52~55 は頂部付近に貫通孔があったと見られるが、孔の上部を欠損している。無紋である。52 は下端部も欠損する。56 は上部に貫通孔が1ヶ所、表面には円形の刺突による模様が施されている。57・58 はミニチュア土器の一部とも考えられる。施文等はされていない。59 は半円球状のもので上面に円形の刺突による模様が施されている。60 は下部が欠損し頂部が二股になっている。土器の装飾部分の可能性はある。61 はクマと見られる土製品である。長さ 9.3cm・高さ 4.8cm・厚さ 3.0cm・重さ 91.0g を測る。四肢・下顎部・左耳を欠損している。円形の刺突に

## V 遺物

よって目・耳の穴が表現されている。臀部から首の付け根付近まで直径 0.8~0.4cm・長さ 6.4cm の穴が開いている。

### 3 焼成粘土塊

不定形の土塊が焼けて固化したいわゆる焼成粘土塊は、発掘中に掘り出されたものが平成 11 年度に 32 点、13・14 年度に 238 点の合計 270 点ある。またフローテーション処理した遺構土壌から選別された洗い出し遺物の分量は表 IV-3 で示した。主に平滑に調整された表面をもたないこと、成形の意図が明瞭でないことによって土器および定形的な土製品と区別されるが、断片での区別は困難で、上記は概ね当初の形状・表情と思われるものを保っている事例の数量である。

掘り出し遺物（図版 V-32 上）は最も大きな径をもつもの（図版右端下から 3 番目）で長径 55mm、最も重いもの（図版最下段中央）で 33g。表面の大半が比較的滑らかで砂粒も沈んでおり、人間の手で形をなしたらしいものと、細かい凹凸に富み土や草の中で圧迫されて塊状となったかと思われるものがあり、前者が多いが確実な判別はできない。扁平な板状に圧延されたもの（図版左端付近）・棒状に伸びるもの（図版右端）・球状に近い塊（図版最下段）などは人為を反映した形状とみてよいのであろう。オニグルミの殻の内面の圧痕をもつものが 1 点ある（図版中央右寄り）。

洗い出し遺物（図版 V-32 下）は比較的多くの焼成粘土塊が選別された遺構を選んで単一処理番号から選別されたものの全てを写真で示した。F-80 は処理番号 13-280 で最大の遺物の長径 31mm。以下同様に F-96 は 13-460 で 12mm、F-304 は 13-79 で 10mm、F-367 は 13-558 で 28mm、F-420 は 13-606 で 23mm、F-540 は 13-520 で 22mm、F-611 は 13-571 で 21mm。細かい遺物の存在、特に微細な紡錘形のそれは土で汚れた手をこすり合わせた結果かと思われ、遺跡現地で土を加工する行為が行われたことを示唆しているが、確実には土器や遺構内外でしばしば発見された白色の粘土、遺跡の自然堆積物等との間で粒度や鉱物組成を比較したうえで再検討する必要があると思われる。





V 遺物

表V-1 続き

分類	土器等			石器等																	合計							
	土器	土製品	土器等小計	石鏃	石鏃	ナイフ類	つまみ付きナイフ	スクレイパー	石斧	たたき石	台石	すり石	砥石	石核	Rフレイク	Uフレイク	磨製石器片	加工痕ある礫	割片 黒曜石	その他 (白石・玉髄等)		原石 黒曜石	その他	軽石	礫・礫片	石製品	石器等小計	
P-138																									1	1	1	
P-139																				1							1	1
P-140	1		1																								1	1
P-142	1		1																								1	1
P-144	1		1																								1	1
P-145	5		5																								5	5
P-146																				1	1						2	2
P-148	1		1																								1	1
P-152	2		2																								2	2
土坑計	577	18	595	8				9	1	6	4		2	2				6	77	37			11	29		192	787	
S-4	1		1																				152			152	153	
S-5								2	1															1		4	4	
S-6				2				1							3				48		2					56	56	
S-7																							124			124	124	
S-15								3	1																	4	4	
S-16								3																		3	3	
S-17								2																1		3	3	
S-18								1	1			1														3	3	
S-19																								2		2	2	
S-20																								3		3	3	
塚石計	1		1	2				1	11	3		1			3			48		2		276	7		354	355		
土坑・塚石計	578	18	596	10				10	1	17	7		3	2		3		6	125	37	2		287	36		546	1142	

2 発掘区別出土遺物集計

発掘区	土器	土製品	土器等小計	石鏃	石鏃	ナイフ類	つまみ付きナイフ	スクレイパー	石斧	たたき石	台石	すり石	砥石	石核	Rフレイク	Uフレイク	磨製石器片	加工痕ある礫	割片 黒曜石	その他 (白石・玉髄等)	原石 黒曜石	その他	軽石	礫・礫片	石製品	石器等小計	合計	
64-129-イ																									3	3	3	
64-137-イ	0		0																									1
64-139-ア	1		1																								1	1
64-139-イ	2		2																								2	2
64-141-イ								1																			1	1
64-143-イ	0		0																					3		3	3	
64-144-ウ																					1					1	1	
64-145-イ	1		1																		1					1	2	
64-145-ウ																							4	1		5	5	
64-146-ア																								1		1	1	
64-146-イ																			567	310				4		881	881	
64-146-ウ																								2		2	2	
64-147-ウ																								1		1	1	
64-147-エ								1																		2	2	
64-149-イ																										4	4	
64-149-エ																										3	3	
64-150-ア								1	1																	3	3	
64-152-ウ	1		1																							1	1	
64-156-イ	4		4																							2	6	
64-156-ウ	3		3																							3	3	
65-129-ア																									1	1	1	
65-131-ウ																								8		8	8	
65-131-エ																								1		1	1	
65-135-イ	1		1																							1	1	
65-136-ウ																										1	1	
65-137-ア																										1	1	
65-137-エ	0		0																							2	2	
65-138-ア								1																		1	1	
65-138-ウ	2		2	4				3																		679	681	
65-139-イ																										6	6	
65-141-ウ				1																						1	1	
65-142-ウ	18		18								1															4	22	
65-143-イ																									8	8		
65-143-ウ								1																		1	1	
65-144-ア	3		3																							3	3	
65-145-イ	5		5																						2	2	7	
65-145-ウ	1		1					1																		2	3	
65-145-エ																										407	414	
65-146-ウ	0		0																							1	0	
65-146-エ																										1465	1510	
65-147-ア																										1	2	
65-147-イ	1		1	1		2		3																		552	571	
65-147-ウ																										2	5	
65-147-エ																										1	1	
65-148-イ	4		4																							3	7	
65-149-イ																										1	1	
65-151-ウ	1		1																							1	1	
65-152-ア																										1	1	
65-152-イ	2		2																							2	2	
65-152-ウ	3		3																							3	3	
65-152-エ	1		1					1																		2	3	
65-153-ア	4		4																							4	4	
65-153-イ	13		13																							1	14	
65-153-ウ	9		9					1																		276	285	
65-153-エ	1		1																							1864	1866	
65-154-イ	28		28					1																		7	36	
65-154-ウ	36		36					1	1																	3	44	
65-154-エ	4		4																							1	8	
65-155-ア	4		4																							3	4	
65-155-イ	13		13																							1	9	
65-155-ウ	28		28																							2	47	
65-155-エ	20		20					1																		3	28	
65-156-ア	50		50					1	1																	3	61	
65-156-イ	46		46					1	1	1				1														







V 遺物

表 V-1 続き

分類	土器等			石器等														合計										
	土器	土製品	土器等小計	石楯	石錐	ナイフ類	つまみ付きナイフ	スクレイパー	石斧	たたき石	台石	すり石	砥石	石核	Rフレイク	Uフレイク	磨製石器片		加工痕ある礫	燧石	片 (頁岩・玉種等)	その他	黒曜石	その他	燧石	礫・礫片	石製品	石器等小計
151-155	600	3	603	8				17		5	1				1				1	77	27					20	158	761
156-160	79		79	3				5	1	3				1						20					1	3	37	116
161-165	109	1	110						1	3									10	1						3	18	128
166-170	293	4	297	2				8		2				1					2188	1					4	12	2218	2515
171-175	35		35					2		1									30				1			7	41	76
176-180	149	4	153	1				5		1									9	1					3	2	22	175
181-185	463	5	468	5				10		6				1				1	51	5				10	18	107	575	
186-190	2569	33	2602	17				35	5	29	4		4	21	1		48	430	134	5				40	90	863	3465	
191-195	2584	23	2607	43			1	42	8	16			4	16			69	1	630	112	1			82	101	1	1127	3734
196-200	753	10	763	9			1	11		3	2			2			6	54	39					25	42	194	957	
201-205	238	3	241							2	1					1		7						5	20	36	277	
206-210	390	2	392	2				2		1	1						1	50	3					1	27	88	480	
211-215	1593	32	1625	7				14		9	2		1	9			21	1	113	82				49	104	1	413	2038
216-220	1003	20	1023	11				16	2	4	3	1	1	7			1	16	100	102				63	95	422	1445	
221-225	780	10	790	4				5		2	1			1			2	22	29					1	132	199	989	
226-230	143	2	145	1				2		3				1				4	10					6	6	33	178	
231-235	393	10	403	4				6		2	4				1		2	16	6					9	20	70	473	
236-240	477	17	494	2				1		4	2				2		1	20	8					1	56	97	591	
241-245	82	2	84	1						1	2				1			14	6						6	32	116	
不明	424		424	5			1	34		6			5	9			20	145	43	7				21	19	1	316	740
生活面計	22118	238	22356	216	2	7	5	471	41	217	44	14	26	119	5	3	278	6	10934	3220	16			363	1297	7	17278	39634
平成11年度トレンチ調査																												
II-1 (128-135)	425		425	3				7	3	3				1		4	9			117	6					15	168	593
II-2-上 (136-188)	3262	1	3263	10		1	1	23		10	2			1		18	19		1	306	28	2		3	42	467	3730	
II-2-中	124		124					4		2						1	2			8				2			19	143
II-2-中1 (189-191)	2207		2207	12				14	2	9				2		7	5		1	159	36	1		292	44	584	2791	
II-2-中2 (192-194)	1584		1584	10				9	1	14	1					9	10			148	44			33	57	336	1920	
II-2-中3 (194-197)	1413		1413	14				5	1	12	1			1		4	7		3	61	27			7	54	1	198	1611
II-2-中4 (198-211)	1087	21	1108	8				8		9	2					2	4			20	46		1	5	24	129	1237	
II-2-中5 (211-219)	325	5	330	1				2								3	1			8	20			4	2	41	371	
II-2-中6 (220-243)	23		23																	1							1	24
II-2-下 (244-245)	197		197	2						2							2			7	4			1	2		20	217
II-3	6		6	7																							7	13
平成11年度計	10653	27	10680	67		1	1	72	7	61	6		5		48	59		5	835	211	3	1	347	240	1	1970	12650	

表 V-2 掲載土器一覧

図	番号	地区	遺物番号	遺構	層位	点数	土	成形	内面の調整	分類	文様	回転模文	使用痕	備考	
V-1	13-294		70-157-a	020		213	2	粗、少。	接合面露呈せず。	砂動かないがやや厚く、稀に凹み残る。	1類	口端底の丸い短線状刻みと点列。口部無文地に沈線と点列。先廻り工具の点。	00RL。文様に及ばず。	口部外面に炭化物。	
			70-157-d	028		213	1								
			70-157-d	035		217	3								
			70-157-d	037		220	2								
V-1	13-515a (N41)		65-157-イ	013		223	24	粗、少、細	内傾接合面2段露呈。	砂沈む。主に水平。	1類	口端拡張部分にLと点群。口部無文地に沈線。	00LR。ほぼ口辺に達する。底面にもあり。	口部内面・体部外面わずかに炭化物。	腹面等底面口部の裏面等に付着炭化物。底面が磁化V-5様。
			65-157-イ	014		224	1								
			65-157-エ	003		223	1								
V-1	13-515b		65-158-b	013		212	2	粗、少、細	接合面露呈せず。	砂沈む。水平。	1類	口部無文地にLと点。口部無文地に沈線。	00LR。		
			67-158-b	090		196	1								
V-1	13-287		68-157-d	026		218	7	粗、少。	接合面露呈せず。	砂動かないがやや厚く、水平主体。	1類	口端・口部とも無文地に沈線と点列。先廻り工具による点。	00LR。		
			68-158-a	040		218	1								
V-1	13-379		69-156-c	021		191	1	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈む。水平、条あり。	1類	体部回転模文地に沈線と点列。	00RL。文様に及ばず。	体部外面炭化物。	
			69-157-a	031		181	1								
V-1	13-480		70-158-ウ	014		196	1	中、多。	接合面露呈せず。	砂沈む。	1類	口端外角に底の丸い短線状の刻み。口部無文地に沈線。	00RL。付着破片体部に00RL層走来。	口部外面炭化物顕著。	
			71-158-d	442		中 5	3								
V-1	13-268		68-157-d	018	暗渠	8	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈む。凹み残る。水平。	1類	口部無文地に内管を挿けた点列とL。			口部外面に炭化物。	
			68-157-b	020		219	1								
V-1	13-278 (N71)		68-158-c	167,171		中 2	11	中、少、細	内傾接合面3段露呈。正確列による段あり。	砂沈むがやや動く。主に緩やかな反時計上り。	1類	口端場所によりRL。口部無文地に沈線。文様下に無文帯。	00RL。文様のやや下から底面に及ぶ。	口部内面・体部外面に炭化物。	図版 V.5。
			68-158-c	230		中 4	1								
			69-158-b	087		217	2								
			70-157-a	020		213	6								
			70-157-d	030		217	2								
			66-158-c	330		中 4	1								
			67-156-ウ	048		237	1								
V-2	13-272		68-157-イ	039		239	1	粗、少。	接合面露呈せず。	砂沈む。主に水平、疎らに条あり。	1類	口端非常に細い刻み。口部無文地に馬蹄形のLと水平なL。	00LR。細い。文様に及ばず。	体部外面炭化物顕著。	
			68-157-c	033		倒未産	3								
			68-158-b	013		崩落土	1								
			68-158-c	201,214		中 3	2								
			68-158-c	241		中 5	2								
			68-158-d	24		上	1								
			68-158-d	188		中 3	2								
			68-158-d	226		中 4	1								
			68-158-c,d	3	F-126	中 5	1								
			V-2	13-372		69-157-c	023,026,028								
69-157-c	024					195	3								
V-2	13-63		66-157-c	011		196	3	中、少。	内傾接合面1段露呈。	砂沈む。水平。	1類	口端外角に底の丸い短線状の刻み。口部無文地にRL。	00RL。文様に及ばず。	口・体部外面に炭化物。	体部との境に弱い段のある平底の付着破片あり。推定口径 18cm。
			66-158-b	010		193	13								
			66-158-b	014		194	1								
			67-156-c	027		199	1								
			67-158-b	098		211	4								
V-2	13-308		68-158-a	039		214	10	粗、少、陶質。硬化処理。	接合面露呈せず。	砂沈む。稀に条あり。水平。	1類	口端に手法不詳の深い刻み。口部無文地にRLと円管の点列。突起上にRL。	00RL。文様に及ばず。	外面に炭化物の付着。	推定口径 40cm。付着破片中に(1)図 V-8-53、(2)図 V-1-11-38を含む。
			68-158-b	017		214	7								
			68-158-d	224		中 4	4								
			68-158-d	163	F-100	中 4	1								
			69-159-b	145		中 3	1								
			69-157-c	024		195	1								
			69-157-c	026,027,028		211	112								
			69-157-c	030		213	1								
V-3	13-354 (N50)		69-157-d	025		189	2	粗、少、土塊あり。	内傾接合面4段露呈。	砂沈む。水平。稀に条。	1類	口端の一部に深い刻み。これと相補的に口端外角に短線状の刻み。口部無文地にRL。	00RL。文様に及ばず。底面にもあり。	体部内外面に炭化物。	図版 V.6。
			70-157-d	026		196	1								
			70-157-d	018		134	1								
			71-158-d	15	F-25	中 1	1								
			67-156-エ	041		237	1								
V-3	13-167		67-156-エ	043		238	1	粗、少。	接合面露呈せず。	砂沈む。主に水平。	1類	突起口端に手法不詳の刻み。口部無文地にRL。	00RL。文様に及ばず。	口部外面に炭化物顕著。	推定口径 33cm。(1)図 V-24-38を含む。
			67-159-b	73		中 2	6								
			67-159-c	124		下	5								
			67-160-b	48,55		中	3								
V-4	13-322		69-158-d	163,164,232		中 3	33	粗、少。	内傾接合面1段露呈。	砂沈む。水平。	1類	口端外角寄りに底の丸い短線状の深い刻み。口部無文地にL。	00RL。口辺に達せず。	口部外面炭化物。	推定口径 31cm。
			65-156-ウ	020		235	11								
V-4	13-520		69-157-c	024		195	1	中、多、陶質。	接合面露呈せず。	砂沈む。ごく平煎。	1類	口部無文地から無文地にかけてRL。	00RL。口辺に達せず。	体上部外面炭化物。	
			69-158-b	029		195	1								
V-4	13-321		69-158-b	039		217	1	中、多。	接合面露呈せず。	砂沈む。凹み残る。	1類	口端にL。口部無文地にLと先廻り工具による短線状の点列。	00RL。文様に及ばず。	口部外面炭化物顕著。	
			70-158-a	034		195	1								
			66-158-c	312,326,323		中 4	7								
V-4	13-162		66-159-b	43		中 1	1	粗、多。	接合面露呈せず。	砂沈む。稀に条。	1類	口端外角にRL。口部無文地に沈線とRL。肩折上RL閉端。	00RL。文様を避けずほぼ口辺に達する。	口部外面炭化物顕著。磨き孔5箇所。	推定口径 34cm。付着破片中に(1)図 V-7-45を含む。
			67-157-c	030		211	4								
			67-158-d	158		中 2	1								
			67-159-d	127		中 3	3								
			69-156-ウ	052		237	1								
			69-157-イ	044		234	7								
			69-157-イ	045		235	5								
			69-157-イ	050		240	4								
			69-157-c	030,031,035		213	26								
			69-157-c	032	P-68	P-68	1								
			69-157-c	034	F-462	218	10								
			69-157-c	036		220	2								
			69-157-c	038,039		222	6								
			69-157-d	035,043		223	4								
			69-158-b	084		213	1								
			69-158-b	087		217	3								
69-158-b	088		220	1											
69-158-b	093	P-73	P-73	1											
69-158-c	263,264		中 4	3											
70-156-エ	026		239	1											
70-157-フ	026		235	1											
70-157-フ	028,029		236	2											
70-157-フ	027		236	1											
70-158-d	207		下 1	2											
V-5	13-368 (N85)		66-156-ウ	034,039		235	2	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈む。水平。	1類	口端外角寄り所による刻み。指紋あり。口部無文地にRL。	00RL。文様を避けず口辺に達する。	外面に炭化物。一部磨き孔あり。内面体部に炭化物。磨き孔1か所。	推定口径 38cm。
			66-157-フ	026	F-739	223	1								
			66-157-フ	038		234	1								
			66-157-フ	032		234	1								
			67-156-エ	038		235	3								
			67-157-フ	027		235	2								
V-5	13-208		67-157-イ	040		238	4	中、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む。水平。	1類	口端に底の丸い短線状の刻み。口部無文地にRL。	00RL。口辺に達しない部分が多い。		
			67-157-c	033		中 6	2								
			67-158-d	256		中 4	3								
			66-157-フ	026		223	1								

V 遺物

表 V-2 続き

図	番号	地区	遺物番号	遺構	層位	点数	土	成形	内面の調整	分類	文様	回転軸文	使用痕	備考
13-208 (織子)		67-158-d	287,288,291		中 5	6								
		67-158-b	098			211	6							
		67-158-b	099			218	2							
		67-158-c	294			中 5	1							
V-6	13-412b	70-158-a	037		196	6	粗、少。	内縁接合面1段露呈。	砂沈み水平。	1類	口縁に-RL。口唇表面に焼成前穿孔のある突起。	∞RL。口辺に達する。		
		70-158-a	050		220	1								
V-6	13-412a (N82)	70-158-a	037,041		196	7	粗、少。	内縁接合面1段露呈。	砂沈みが小さく動く箇所あり。B輪的な胎点。水平主体、反時計、凹み残る。	1類	口縁に-RL。	∞RL。押接いためか糸間開く。突起を避け口辺に達する。底面なし。		推定口径19cm。
		70-158-a	050		220	15								
V-6	13-301	68-158-d	152		中 2	1		内縁接合面1段露呈。	砂沈み、水平。	1類	口縁部の口縁に馬蹄形-R。被皮下に暗味な無文様。	∞RL。細かい、被皮下に避けるか。		
		68-158-d	212		中 3	1	粗、少。							
		68-159-a	132,133		中 5	3								
V-6	13-468	70-158-c	244,246		II-3	2	中、多。	接合面露呈せず。	砂沈みが場所により少し動く。水平、反時計。	1類	口縁の一部に-RL。	∞RL。底面にも。		推定口径11cm。
		70-158-d	245		II-3	2								
V-6	13-307 (N34)	68-158-c	244		中 5	3	粗、少。	内縁接合面3段露呈。上向き接合面に圧痕列による段。	砂沈む。水平。桶に茶。	1類	口縁に手法不明の深い刻み。	なし。	口・底部内外面わずかに炭化物。	図版 V-6。
		68-158-d	228		中 4	8	粗、少。							
		68-158-d	251		下	12								
V-6	13-47	66-158-a	019		193	7	粗、少。	接合面露呈せず。	砂沈むが小さく動く箇所あり。水平、反時計、凹み残る。	1類	口縁の一部に底の丸い短線状の刻み。口部に無文様。	∞RL。押接いためか口辺に達せず。	口部炭化物。	
V-6	13-535 (N40)	69-157-イ	044		234	3	粗、少。土塊。	接合面露呈せず。	砂やややく、水平、凹凸多。	1類	口縁外角に茶の丸い短線状の刻み。突起下に焼成前穿孔1対。	なし。		外面に茶を残す磨盤工具の痕。図版 V-6。
		69-157-イ	046	P-148	P-148	1								
		69-157-ア	058		234	1								
		69-157-イ	045		235	1								
		69-157-イ	034	F-462		218	1							
V-6	13-332	69-157-c	038,039		222	2	粗、多。	接合面露呈せず。	砂沈む。水平。	1類	突起とその付近の口縁に-L。	∞RL。突起下を避けず口辺に達する。		推定口径17cm。
		69-158-b	033		195	1								
		69-158-b	038		213	1								
		69-158-b	048,087		217	3								
		69-158-d	243		中 3	1								
		68-157-a	024		216	2								
		68-157-a	028		219	1								
		68-157-ア	031		219	1								
		68-158-b	016		194	2								
		68-159-d	116		中 3	1								
		69-158-c	194		中 2	1								
		69-157-a	035		213	1								
		69-157-c	024		195	2								
		69-157-c	025,026,028		211	14								
		69-157-c	030		213	17								
		69-157-c-d	1,3 (残補)	F-459	213	4								
		69-157-d	029		213	1								
		69-158-a	020		195	1								
V-7	13-246 (N37)	69-158-a	029		213	2	中、少。土塊露呈。	内縁接合面3段露呈。接合面に規則的凸凹と上辺の段うち。	砂沈む、凹み残る。水平主体。	2類	口縁外角に手法不明の刻み。口部底無文様に沈線。	∞RL。文様に及ばず。体部も押接されない箇所がめだつ。	口部炭化物。	推定口径42cm。(9)口松の土器片と同一個体か。
		69-158-b	024,029		195	2								
		69-158-c	67,80,83		上	3								
		69-158-c	150,151		中 1	5								
		69-158-c	195,196,200,205		中 2	6								
		69-159-a	48		上	4								
		69-159-a	222		II-3	2								
		69-159-a	234		下	2								
		69-159-b	203		中 1	1								
		69-159-c	235		II-3	5								
		69-159-d	209		中 3	2								
		69-159-d	214		中 5	1								
		70-158-d	95,97		中 1	2								
		70-158-c	107		中 1	1								
		70-158-d	150,151,157,160,171		中 2	5								
		70-158-d	195		中 3	3								
V-7	13-526	65-157-ウ	019		228	1	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈み主に水平、ごく平滑。	2類	口縁手法不明の刻み。口部無文様に-RLと丸れた沈線。文様下に突起。	∞RL。文様に及ばず。		
		66-157-エ	026		226	1								
		70-156-ウ	011		227	1								
		70-158-d	173		中 2	2								
V-7	13-469	68-158-a	049		218	2	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈み平滑。水平、光沢は弱い。	2類	口縁と口部外面に沈線。口内面に沈線。1箇文後に調整。突起4単位とみられる。内外面磨光。	なし。		未水産。推定口径13cm。
		66-156-ウ	035		235	1								
		66-157-イ	029		233	1								
		67-157-ウ	054		241	1								
V-7	13-270	67-157-d	045		216	1	粗、多。	内縁接合面1段露呈。	砂沈むがやや動く箇所あり。水平、反時計。	2類	口縁外角に工具を円周方向に動かす刻み。口部無文様に沈線。	∞RL。文様に及ばず。	口部外面に炭化物。	推定口径38cm。
		67-157-エ	045		241	3								
		67-158-a	049	P-63	P-63	1								
		67-158-b	099		218	1								
		67-158-b	103	F-490	218	2								
		68-157-d	041		下	1								
		68-157-イ	032		234	1								
		68-157-イ	039		239	2								
V-8	13-554	68-157-イ	045	P-135	P-135	1	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈む。水平。口部に凹み。	2類	口縁に手法不明の刻み。口部無文様に沈線。	∞RL。口部押接せず。	口・体部外面炭化物。縦帯あり。桶底孔1箇所。	
		68-157-c	032		219	1								
		68-157-c	033	例木痕	214	3								
		68-158-b	011	F-96	214	1								
		68-158-b	017,022		214	5								
		67-157-b	012		195	2								
		67-157-c	027		195	1								
V-8	13-158	67-157-c	032		207	2	中、多。	接合面露呈せず。	砂沈む。凹み残る。	2類	口縁外角に手法不明の刻み。口部無文様に沈線。	∞RL。文様に及ばぬ模様。		
		68-158-a	053		189	1								
V-8	13-366	69-157-c	030		213	2	粗、多。	接合面露呈せず。	砂沈む。水平。	2類	口縁外角に刻み。口部無文様に沈線。	∞RL。口部押接せず。	口部内外面に炭化物。	
		69-158-b	024,029		195	2								
		67-158-d	107,108,113		中 1	5								
		69-159-c	42		II-1	1								
		69-159-c	50		上	1								
V-8	13-138	70-160-a	19	遺物集中1	上	1	粗、少。	接合面露呈せず。	砂沈む。水平。体部に凹み。	2類	口縁に刻み。口部無文様に沈線。	∞RL。文様に及ばず。	口・体部内外面に炭化物。	推定口径35cm。(2)底IV-5-3-57を含む。
		70-160-a	20	遺物集中1	上	1								
		70-160-a	21	遺物集中1	上	1								
		70-160-a	131	遺物集中1	上	8								
		70-159-d	139		中 2	1								
		70-160-a			下	1								
		66-157-イ	032		234	1								
		66-157-イ	033		235	2								
V-8	13-538	67-156-エ	038,040		235	2	粗、少。	接合面露呈せず。	砂沈む。凹み残る。水平。	2類	口縁の一部の外角寄りに手法不明の刻み。口部無文様に沈線。	∞RL。縦帯のある模様。概ね口辺に達せず。	口部炭化物顕著。	推定口径25cm。
		67-157-ア	026		235	2								
		67-157-ア	030	F-921	235	5								
		67-157-エ	042		239	2								

表 V-2 続き

図	番号	地区	遺物番号	遺物	層位	口径上	成形	内面の調整	分類	文様	回転編文	使用痕	備考			
V-9	13-378 (N52)		68-156-エ	045		234	1			2類	口部無文地に沈線。	◎RL。文様のやや下位から下に押捺。底面にもあり。	口・体部内外面に炭化物。補修孔5箇所。	図版 V-5。		
			69-157-d	036		218	46									
			69-158-a	031		218	7									
			69-158-b	048		217	2									
			69-158-b	088		220	2									
			69-158-c	248,250		中3	2	粗、少。	内傾接合面4段。裏足、規則的な凹凸あり。	砂沈む。水平。稀に凹み。						
			69-158-c	256,258,261		中4	8									
			69-158-c	267		下1	1									
			69-158-d	254		中4	1									
			70-160-a	76		中3	1									
70-160-a	74		中2	1												
70-156-ウ	020		237	1												
V-9	13-533		70-158-b	029		218	1		底部に内傾接合面1段。裏足。接合面上部に圧痕あり。	2類	口部に小さい突起。口部に無文帯。体部屈折に沈線と右から突いた点列。	◎LR。押捺浅い。文様に及ばず。		推定口径13cm。		
			70-158-ウ	017	F-858	211	2	粗、少。	砂やや浮く。水平。							
			70-158-ウ	020		213	1									
			70-158-c	232		下2	1									
V-9	13-49		66-158-b	022		212	3	中、少。細粒。一部硬化処理。	接合面露呈せず。	2類	砂やや厚く凹み残る。主に水平。	◎RL。押捺浅い。口辺に達せず。	口部外面炭化物顕著。			
			66-158-b	024		213	3									
V-9	13-553		67-157-イ	036		237	1	粗、多。細粒。一部硬化処理。	接合面露呈せず。	2類	砂やや浮く。水平。稀に条。	◎RL。押捺やや浅い。文様に及ばず。				
			67-157-イ	040		238	8									
V-9	13-205		66-157-イ	030		233	2			2類	口部無文地に沈線。編文様に調整。光沢はない。体上部に編文を覆って突起の粘文を避ける。	◎RL。押捺浅い。体部以下に押捺。粘文を避ける。	口・体部外面炭化物。	推定口径17cm。		
			67-157-c	043		下	1									
			67-157-d	030,032		下	7	中、多。薄粒。	接合面露呈せず。	砂沈むが水平にやや動く箇所あり。足跡部。ごく平滑。光沢はない。						
			67-158-b	095	P-57	P-57	上	1								
			67-160-a	33		中4	1									
			67-160-a	59		中4	1									
V-9	13-517		65-156-ア	004		223	1			2類	口部内外無文地に沈線。体形無文地に沈線。編文様に水平方向の調整。光沢は強くない。	◎RL。押捺浅い。文様に及ばず。	内面炭化物顕著。	推定口径33cm。		
			65-156-ア	007	F-743	223	6									
			65-156-イ	017	F-743	223	1									
			65-156-ウ	016		223	3	中、多。硬化処理。	接合面露呈せず。	砂やや浮く。稀に条あり。水平。						
			65-156-エ	002	F-743	223	2									
			65-156-エ	003		223	2									
V-10	13-489		70-154-a	054		割注記	1		粗、極多。角鋭。硬化せず。	接合面露呈せず。	2類	砂やや浮き。小さく動く箇所あり。水平。反時計。始点直線的。	◎RL。小。摩擦。顆粒より下に押捺。		推定口径14cm。	
			70-157-d	023		195	1									
			70-157-d	031		217	7									
			70-157-d	036		220	2									
			67-156-ウ	047		217	1									
			67-157-イ	040		238	1									
V-10	13-536		67-158-b	095	B-57	P-57	3		中、多。	接合面露呈せず。	2類	砂沈む。水平。	◎RL。文様に及ばず。			
			67-158-b	110	P-75	P-75	1									
			69-156-ウ	044		湧水溝	1	粗、少。角鋭。内傾接合面1段。裏足。外傾接合面の可変性あるものあり。	砂浮く。主に水平。反時計。条顕著。	2類	口辺に低い突起4箇所。口部無文地に沈線。体部に無文帯。体上部無文地に沈線。此辺裏上に浅い沈線。	◎RL。顆粒より厚。縁部まで押捺。底面にはない。	口部外面、口・体部内面に炭化物。	図版 V-14。		
V-10	13-521		67-159-c	41		上	1									
			68-157-d	030		219	2									
			68-157-d	039,040		下	5									
			68-159-a	56		上	1									
			68-159-a	127,131		中4	4	中、多。	接合面露呈せず。	砂沈む。水平。稀に凹み。						
			68-159-d	64,83		上	2									
			70-156-エ	019		230	1									
			70-157-ア	027		227	2									
			65-159-b	25		中1	3									
			66-156-d	019		212	1									
V-10	13-510		66-157-ア	023		217	3									
			66-157-ア	025		217	2									
			66-157-ア	029		223	4	中、多。薄粒。	接合面露呈せず。	砂沈むが動く箇所あり。水平。反時計。	2類	口部無文地に-RL。	◎RL。口辺直下を避ける。	口部外面に炭化物顕著。補修孔4箇所。	推定口径24cm。(図版 V-1-11-39を含む)。	
			66-158-d	190		中1	1									
			66-158-d	239		中2	1									
			66-158-d	278,279		中3	2									
			67-158-d	160		中2	1									
			67-158-d	201		中3	3									
			68-156-ア	028		229	2									
			68-156-ウ	032		225	1									
V-11	13-524 (N43)		68-156-エ	036,037,041,042		湧水溝	11									
			68-156-エ	043		225	22									
			68-156-エ	044		229	9	粗、少。	内傾接合面1段。裏足。	砂沈む。水平。稀に条。	2類	口部外角に底の丸い粗粒状の刻み。口部無文地に沈線。	◎RL。縁部口辺に達し底面にもあり。	口部外面炭化物顕著。底部外面暗色帯。	推定口径33cm。	
			68-157-ア	035,037		225	24									
			68-157-イ	026,027		225	5									
			69-156-イ	023		225	5									
			69-156-イ	024		227	2									
			69-156-イ	027		229	1									
			66-156-ア	029,030		233	22									
			66-156-ア	031		231	1									
V-12	13-334 (N13)		66-156-エ	024		233	24									
			67-157-イ	032		234	1									
			69-157-d	035		223	1									
			69-158-a	031		218	1									
			69-158-b	095	P-74	P-74	1									
			69-158-d	230		中3	1	粗、少。細粒。内傾接合面2段。裏足。	砂沈む。主に水平。反時計箇所あり。裏面状態点。	2類	口部無文地に沈線。	◎RL。縁部口辺に達し底面にもあり。	口・体部内外面に炭化物。補修孔3箇所。うち穿孔中新し形あり。	図版 V-5。(2)図 V-1-13-52を含む。		
			69-159-a	81		中3	1									
			69-159-a	224		中3	2									
			69-159-c	166		中1	1									
			69-159-c	201		中2	2									
69-160-b	39		上	1												
V-12	13-170		69-160-b	81		中1	7									
			70-159-a	91		中3	27									
			67-158-c	149		中2	3									
			67-158-c	220,248		中3	2									
			67-158-c	303		中1	2									
			68-156-d	030		213	9									
			68-156-d	032		216	1									
			68-156-d	033	F-650	216	5	粗、多。細粒。硬化処理。	接合面露呈せず。	砂沈むがやや動く箇所あり。水平。向き不明。	2類	口部無文地に沈線。	◎RL。口辺直下に及ばず。	口部外面に炭化物。補修孔3箇所。穿孔の自断を含む。	平底の付帯破片あり。推定口径38cm。	
			68-157-a	021		213	7									
			68-157-a	022	F-640	213	8									
V-13	13-418		70-157-b	017		211	7	中、多。薄粒か。硬化処理。	接合面露呈せず。	2類	口部無文地から縄文地にかけ沈線。	◎RL。口部直下の押捺定せず。	口・体部内外面に炭化物。補修孔3箇所。	推定口径30cm。		
			70-157-b	018		213	2									
V-13	13-206		67-155-c	022		177	1	粗、少。	接合面露呈せず。	2類	口部外角に底の丸い粗粒状の刻み。口部無文地に沈線。	◎RL。口辺に達する。	口部外面に炭化物の縦帯。			
			67-156-d	013		135	1									



V 遺物

表 V-2 続き

図	番号	地区	遺物番号	遺構	層位	点数	土	成形	内面の調整	分類	文様	回転模文	使用度	備考
13-206 (続々)			67-156-d	016,021		189	3							
			67-157-a	006		189	1							
			67-157-a	011		196	4							
			67-157-c	025		195	1							
			68-156-a	016		201	1							
V-13	13-309		68-158-d	139	中 2	26	中、少、腐	接合面露呈せず。	砂沈むがやや動く箇所あり。水平、反時計。	2 類	口部無文地から縄文地にかけて沈線。	∞RL。口辺直下押接せず。底部摩滅し不詳。	口部外面に炭化物。補修孔1箇所。	推定口径28cm。
			68-158-d	178	中 3	1								
V-13	13-160		67-157-c	030		211	粗、少。	接合面露呈せず。	砂沈むがやや動く箇所あり。主に水平、反時計。	2 類	口部無文地から縄文地にかけて沈線。	∞RL。概ね口辺直下に及ばず。		
			70-157-フ	023		230	1							
V-13	13-356		70-157-フ	024		232	中、少、土塊、凝り残	接合面露呈せず。	砂沈むがやや動く箇所あり。主に水平、反時計。	2 類	口縁に刻み。口部縄文地に-RL。	∞RL。口辺に達する。	口部内外面わずかに炭化物。	推定口径26cm。
			70-157-d	037		230	1							
V-14 (N72)			70-157-d	040		223	6							
			70-157-d	041		221	2							
			65-157-c	012		198	4							
			65-157-c	013		212	2							
			65-157-ウ	020		235	2							
			65-157-ウ	021		234	1							
			65-158-b	012		194	5							
			65-158-b	013		212	3							
			65-158-b	015		218	2							
			65-158-b	016	P-15	P-45	2							
			65-158-c	25		中 1	1							
			66-158-a	018		193	5							
			66-158-a	020,021		194	13							
			66-158-a	026,028	P-46	P-46	6							
			66-158-a	029	P-48	P-48	3							
			66-158-ア	032,033		245	2							
			66-158-ア	034	P-46	P-46	1							
			66-158-b	010		193	1							
			66-158-b	026		218	9							
			66-158-c	1	F-107	中 4	1							
66-158-c-d	1	F-63	中 1	1										
66-158-d	190,198,210		中 1	4										
66-158-d	232,234,236,237		中 2	20										
66-158-d	266,267,270,271		中 3	10										
66-158-d	274,276,282													
66-158-d	322,323		中 4	2										
66-159-a	133		中 2	1										
68-158-a	039		214	1										
V-15	13-271		67-157-c	046		189	1							
			68-157-c	021	P-53	P-53	1							
			68-157-d	005,007		188	3							
			68-157-d	008,011	F-384	189	3							
			68-157-d	015,016,017		189	10							
			68-157-d	019,023		195	2							
			68-157-d	028	F-487	188	4							
			68-157-d	029		188	1							
			68-158-a	053		189	1							
			69-157-d	018		188	1							
V-15	13-306		68-158-d	24,70		18	粗、少。	内縁接合面1段露呈。	砂やや厚く。主に水平。	2 類	口辺に突起があるが欠損。口部無文地から縄文地にかけて-RL。	∞RL。口辺直下押接せず。	口部外面わずかに炭化物。	
			68-158-d	24,70		18								
V-15	13-331 (N33)		69-158-b	025		195	1	極粗、少。	内縁接合面2段露呈。	1 または 2 類	口辺直下無文帯のようにも見えるが不確定。	∞RL。歪面にもあり。概ね口辺直下を避ける。	口・体部内外面に炭化物。	図版 V-5。
			69-158-b	026		218	4	粗、少。	接合面露呈せず。	砂沈む。方向不明。固み残る。	2 類	突尾口縁に-RL。それ以外の口縁に丸底短条状の刻み。	∞RL。口辺に達する。	口・体部内外面に炭化物。補修孔1箇所。
V-15	13-357		69-157-c	035		213	2							
			69-157-c	036		220	8							
			69-157-c	038		222	1							
			69-158-b	088		220	3							
			70-157-d	038		221	1							
V-16	13-130		70-157-ウ	048		241	1							
			66-158-c	157		上	1							
			67-158-c	64		上	1							
			67-158-c	174		中 2	5							
			67-158-d	44,48,58		上	3							
			67-158-d	103,115,116		中 1	7							
V-16 (N84)	13-531		67-158-d	170		中 2	1							
			67-159-a	45		上	1							
			67-156-ウ	047		237	1							
			67-156-ウ	051		238	1							
			67-156-エ	043		238	3							
			67-157-ア	032,033		237	10							
			67-157-ア	035		238	22							
			67-157-ア	036		239	5							
			67-157-ア	040		243	1							
			67-157-イ	036,038,039		237	19							
			67-157-イ	040		238	8							
			67-157-イ	041		239	2							
			67-157-ウ	053		239	1							
			66-157-ア	036		233	3							
66-157-ア	041		238	5										
66-157-ア	042		239	3										
66-157-イ	033		235	1										
66-157-イ	036		239	3										
66-157-ウ	022,024		223	2										
66-157-ウ	026		241	1										
66-157-ウ	027		243	3										
66-157-エ	029		243	1										
66-158-c	019	F-106	211	1										
66-158-c	260		中 2	1										
66-158-c	301		中 1	3										
66-158-c	312		中 4	1										
67-156-ウ	041		230	1										
67-156-ウ	047		237	1										
67-156-エ	043		238	4										
67-157-ア	037		235	1										
67-157-ア	032,033		237	3										
67-157-ア	035		238	6										
67-157-ア	036		239	2										
67-157-イ	036		237	1										
67-157-c	035		249	1										
67-157-エ	042		239	1										

表 V-2 続き

図	番号	地区	遺物番号	遺構	層位	点数	土	成り	内面の状態	分類	文様	転写文	使用度	備考
			67-157-工	044		243	1							
	13-539		67-157-工	045		241	1							
	(続き)		67-158-a	041		211	2							
				021				不明						
V-16	13-523	(N17)	69-158-b	047		232	1	粗、少、	接合面露呈せず。	3期	なし。	00RL。底面にも押かき炭化物。	口・体内外面わずかに炭化物。	図版 V-13。
			70-156-工	020		213	3		砂沈む。方向不明。					
V-17	13-514	(N45)	66-156-ウ	026		212	1	粗、少、	接合面露呈せず。	3期	口縁外角に-RL列、口部無文地に沈線。文様下に浮線、-RL閉端列。	00RL。口部押捺せず。	口部内外面・体部内面に炭化物。	図版 V-7。
			66-157-ウ	018,019		212	2		砂沈む。水平。					
			68-160-d	20				埋。						
V-17	13-352	(N12)	68-158-b	024		195	2							
			69-157-c	021		195	2	粗、少、	接合面露呈せず。	3期	4箇所突起口縁に-RL。口縁外角に-RLまたは-RL。押捺に先行して刻みある模様。口部無文地に沈線、文様下に-RL閉端列。	00RL。口部・蓋縁直上押捺せず。底面にもあり。	口・体内外面に炭化物。	図版 V-7。
			69-158-b	026		195	2							
			70-158-a	033,034		195	8							
			70-158-a	025		194	9							
V-17	13-415	(N51)	70-158-a	028,029		189	29	粗、少、	内縁接合面5段露呈。規則的な凹凸あり。	3期	砂沈む。主に水平。	00RL。文様に及ばず。底面にはあり。	体部外周わずかに炭化物。	図版 V-8・17。
			70-158-a	032		194	2	埋。						
			70-158-a	034		195	1							
			66-157-d	010	F-277	130	2							
			66-157-d	019		213	10							
V-17	13-466		66-158-a	020,021		194	2	粗、多、	内縁接合面1段露呈。	3期	口部無文地に沈線。文様下に-RL閉端。	00RL。口部押捺せず。	体部外周面に炭化物。	推定口径 30cm。
			66-158-a	022		212	1							
			66-158-b	023	P-116	P-116	9							
			66-157-a	003		130	1							
			66-157-d	010	F-277	130	1							
V-18	13-133	(N68)	67-158-a	004		133	28	粗、少、	内縁接合面4段露呈。規則的な凹凸あり。土質の落ちつきあり。	3期	砂沈むがやや動く箇所あり。主に水平。回転不明。	00RL。口部屈折以下に押捺。	口・体内外面に炭化物。補修孔2箇所。	推定口径 25cm。
			67-159-a	9		11	31							
			68-158-a	002		131	2							
			67-158-b	021	P-80	P-80	5							
			67-158-c	77			1							
V-18	13-120		67-158-c	127,131,132,147		中 1	17	粗、少、	接合面露呈せず。	3期	口部無文地に沈線。文様下に下から突いた点列。	00RL。点列より下に押捺。	口・体内外面に炭化物。	推定口径 30cm。
			67-158-c	197		中 2	2	埋、少、						
			68-158-a	029		194	1							
			68-158-a	032,034		195	28							
			69-157-c	019		189	1							
			69-157-c	021		195	3							
			69-158-a	013		189	1							
			69-158-a	020		195	8							
			69-158-b	024,026,030		195	9							
			69-158-b	072	P-60	P-60	1							
			69-158-c	4	F-48	189	1							
			69-158-c	5,7	F-47	194	2							
			69-158-c	73,104,107,108		上 6								
V-19	13-371	(N26)	69-158-c	136,142,143,170		中 1	6	粗、多、	内縁接合面3段露呈。	3期	口部無文地に沈線。文様下屈折に-RL閉端。	00RL。口部屈折以下底辺やや上までに浅い押捺。底面になし。	口部外周・体部内面に炭化物。	推定口径 34cm。
			69-158-c	167		上 1								
			69-158-c	216,222,246		中 3	4							
			69-158-c	255,259		中 4	2							
			69-158-c	272		下 1								
			69-158-d	106		上 1								
			70-157-d	020		186	1							
			70-158-a	020		134	1							
			70-158-a	025,030		194	3							
			70-158-a	034		195	2							
			70-158-d	75		中 1								
			70-158-d	196		中 3	1							
V-19	13-68		66-158-a	018		193	2	粗、多、	接合面露呈せず。	3期	口部外周無文地に沈線。文様下露文地に沈線の沈線。	00RL。口上部押捺せず。	口部外周面に炭化物。	
			66-158-b	008		193	1	埋、少、						
			67-157-d	019		211	1							
V-19	13-190		67-156-c	018,021		189	4							
			67-156-c	022	F-604	190	3	粗、少、	接合面露呈せず。	3期	口部外角に丸底製縁状の刻み。口部無文地に沈線。のち突起下に形成前穿孔が露呈。文様下底辺に下より点列。	00RL。口部・蓋縁以下に押捺せず。	口・体内外面に炭化物。	推定口径 18cm。
			67-156-c	023		190	1							
			67-156-d	021		189	1							
V-20	13-165	(N46)	66-155-工	017,018		187	31	粗、少、	内縁接合面5段露呈。	3期	口部無文地に沈線。文様下に下から突いた点列。	00RL。口部屈折以下底辺やや上までに浅い押捺。底面になし。	口部外周・体部内面に炭化物。補修孔5箇所。	図版 V-6。
			66-156-a	018		182	37	粗、少、						
			67-156-b	014		200	15							
			67-157-c	015,016,019	F-404	195	9							
			67-157-c	028		207	2							
			67-158-a	028,030		195	7							
			67-158-b	024	F-113	194	3							
			67-158-b	028	F-404	195	1							
			67-158-b	064	P-49	P-49	1							
V-20	13-147		67-158-b	086,087		196	3	粗、少、	接合面露呈せず。	3期	口部外角に丸底製縁状の刻み。口部無文地に沈線。文様下に下から突いた点列。	00RL。口部屈折以下に押捺。	口部内外面に炭化物。	推定口径 35cm。
			67-158-b	088,116		195	2	埋、少、						
			67-158-b	112,113	F-404	195	2							
			67-158-c	174,190		中 2	6							
			67-158-c	211		中 3	1							
			68-158-a	046		222	1							
			68-158-c	214		中 3	1							
			68-160-a	63		中 1								
			69-158-d	不明		中 1	1							
			68-157-c	033	例木堀		1							
V-21	13-295		69-159-a	170		中 3	1	粗、少、	接合面露呈せず。	3期	口部無文地に沈線。文様下の後に-RL閉端。	00RL。口部屈折以下に押捺。		
			69-159-a,d	126		中 1	1	埋、少、						
			69-159-d	122,123,127		中 1	3	踏著。						
			70-158-d	213		下 1	1							
			67-157-c	025		195	5							
			67-157-c	028		207	2							
V-21	13-145		67-158-a	024	F-396	194	2	粗、多、	接合面露呈せず。	3期	口部無文地に沈線。文様下に-RL閉端。	00RL。文様を避ける。	体部内外面に炭化物。	
			67-158-a	027		194	3							
			67-158-d	141		中 2	1							
			66-157-a	001		11	1							
V-21	13-188		67-159-a	15		11	2	粗、少、	内縁接合面1段露呈。此向急峻な面には底縁列に止まり。	3期	砂沈む。主に水平。	00RL。口部押捺せず。	外周わずかに炭化物。	
			68-158-b	005		134	4							
			67-158-b	021		189	2							
			67-158-b	024,114	F-113	194	4							
			67-158-b	077,088,107,108		195	10							
V-21	13-129	(N61)	67-158-c	183		中 3	4	粗、多、	接合面露呈せず。	3期	口部無文地に沈線。文様下に下から突いた点列。	00RL。文様に及ばず。	口・体内外面に炭化物。補修孔5箇所。	図版 V-6。
			68-158-a	023	P-35	P-35	2							
			68-158-a	031		194	30							
			68-158-a	032		195	4							
			70-158-d	72		中 5								
			66-156-c	010	P-112	P-112	2							
V-22	13-530	(N42)	67-156-c	021		189	1	粗、少、	内縁接合面1段露呈。此向急峻な面には底縁列に指似。	3期	口部無文地に沈線。文様下の後に-RL閉端。	00RL。底面にもあり。口辺直下押捺せず。	口部外周・体部外周面に炭化物。	推定口径 39cm。
			67-157-c	046		189	1	埋、少、						
			68-155-イ	011		201	1							

V 遺物

表 V-2 続き

№	番号	地区	遺物番号	遺構	層位	点数	主	成形	内面の調整	分類	文様	巨輪編文	使用痕	備考	
13-530 (続き)			68-156-d 018	P-38	P-38	1									
			68-156-d 019	P-50	P-50	1									
			68-156-d 022			195	1								
			68-156-d 026			200	1								
			68-158-a 034			195	1								
			69-155-ウ 029			201	22								
			69-155-ウ 030	F-905		201	22								
			69-155-ウ 031			202	1								
			69-156-a 010			195	1								
			69-156-ア 011			201	1								
			69-156-ア 012			202	2								
			69-156-イ 017			201	77								
			69-156-イ 018	F-905		201	14								
			70-155-エ 028			201	4								
V-23	13-87		66-157-c 005		189	6	粗、少、順	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	3類	口縁外角に斜み、口部無文地に沈線。文様下に右から突いた点列。	〇RL。わずかに口辺に達せず。	口部外面わずかに炭化物。	推定口径 33cm。	
V-23	13-85		66-158-b 008		193	16	粗、少、順	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	3類	口部無文地に沈線。のちし。文様下に沈線と深い点列。	〇RL。概ね口辺直下を避ける。	体部外面に炭化物の縦帯。		
V-23	13-166		69-156-d 037		196	10	粗、多、角	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	3類	口縁に丸底盤状の帯な斜み。口部無文地から縄文地にかけて。RL。文様下に下から突いた点列。	〇RL。口辺直下に及ばず。	口・体部外面に炭化物。縦帯あり。		
V-23	13-574		67-157-c 023		189	1		接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	3類	口縁にやや密な斜み。口部無文地にRL。	〇RL。口辺に達する。	口・体部外面に炭化物。		
V-24	13-62		66-157-a 006	017,018,020,021	F-375	191	25	粗、少、順	接合面露呈せず。	砂やや浮く、主に水平。	3類	口縁の一部に丸底盤状の斜み。口部無文地に沈線と背による深い点列。	〇RL。唇縁直下わずかに押捺せず。	口部外面に炭化物。	推定口径 35cm。
13-413 (N53)			69-157-c 019		189	2									
			69-158-a 020		195	2									
			69-158-b 024,026		195	4									
			69-158-b 059	P-60	P-60	1									
			69-158-c 173		中1	1									
			69-158-c 201		中2	1									
			69-159-b 31		中1	1									
			70-157-d 020		186	1									
			70-158-a 025,030		194	22									
			70-158-a 029		189	3									
			70-158-a 034		195	4									
			70-158-d 303,204		中4	5									
	V-24	13-169		67-157-a 015		208	1	粗、多、角	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	3類	口部無文地に手島状の盛削と沈線。	〇RL。口辺に達せず。	補修孔1箇所。	
			67-157-c 015,016	F-404		195	3	粗、少、順	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	3類	口部無文地に沈線と背による深い点列。	〇RL。口辺に達せず。		
		67-157-c 028			207	6									
		68-158-a 040		218	1										
V-24	13-127		67-158-c 213		中3	13	粗、少、順	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	3類	口縁外角に斜み、口部無文地に沈線。	〇RL。口部に押捺せず。	口部外面に炭化物。	推定口径 29cm。	
V-25	13-359		69-157-b 027		211	15	粗、多、順	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。凹み。	3類	口部無文地に沈線。	〇RL。口部文様に及ばず。	口部外面に炭化物。		
V-25	13-280		68-158-b 005		134	3		接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	3類	口縁の突起部。口部無文地に沈線。	〇RL。口部文様に及ばず。	内外面に炭化物。外面縦帯あり。		
V-25	13-243		68-156-d 022		195	1	粗、少、順	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	3類	口部無文地に沈線。	〇RL。口部文様に及ばず。	外面に炭化物の縦帯。補修孔1箇所。		
V-25	13-328		69-158-d 161,162		中1	8	粗、多、順	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。しばしば凹み。	3類	口部無文地に沈線。文様下に深い点列。	〇RL。比較的細かい。口部文様に及ばず。	口部外面に炭化物。縦帯あり。補修孔5箇所。うち穿孔中断1。	推定口径 42cm。	
V-26	13-67		65-157-c 005,007		189	2	粗、少、順	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	3類	口部無文地に沈線。文様下に深い点列。	〇RL。口部文様に及ばず。	口部外面に炭化物。		
V-26	13-302		68-158-d 147		中2	2	粗、少、順	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。口部に凹み。	3類	口縁外角に斜み、口部無文地または縄文地に沈線。	〇RL。2本通り。押捺の配間多い。	口部外面わずかに炭化物。		
V-26	13-258		68-157-d 020		189	1	粗、少、順	接合面露呈せず。	砂やや浮く、方向不詳。口部に凹み。	3類	口部無文地に沈線。文様下に深い点列。	〇RL。口部文様に及ばず。		推定口径 12cm。	
V-26	13-22		66-157-a 006		186	1	粗、少、順	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	3類	口部無文地から縄文地にかけて沈線。	〇RL。口辺直下に押捺せず。	口・体部外面に炭化物。補修孔1箇所。	推定口径 35cm。	
V-26	13-494 (N20)		68-158-a 029		194	3	粗、多、順	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	3類	突縁凸縁部。突縁部無文地に沈線。口部無文地に沈線。	〇RL。底面にもあり。口辺直下、突起下を避ける。	口・体部外面に炭化物。縦帯あり。補修孔1箇所。	不詳。図版V-11。	
V-27	13-123		68-158-a 050	F-418	194	2	粗、少、順	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	3類	口部無文地に沈線。文様下に深い点列。	〇RL。概ね口辺直下に及ばず。	内外面に炭化物。	付着破片中に(1)図 V-7-44 を含む。	
V-27	13-61		66-159-b 165		上	25	粗、少、順	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	3類	口部無文地に沈線。	〇RL。概ね口部文様を避ける。	口部内外面に炭化物。体部外面に炭化物縦帯。	(2)図 V-11-33 を含む。	
13-115a (N39)			66-157-イ 016		196	2									
			67-157-c 025		195	1									
			67-157-c 028		207	8									
			67-157-c 028		207	8									
			67-157-c 028		207	8									
			67-157-c 028		207	8									
			67-157-c 028		207	8									
			67-157-c 028		207	8									
			67-157-c 028		207	8									
			67-157-c 028		207	8									
			67-157-c 028		207	8									
			67-157-c 028		207	8									
			67-157-c 028		207	8									
			67-157-c 028		207	8									



V 遺物

表 V-2 続き

図	番号	地区	遺物番号	遺物	層位	点数	土	成形	内面の調整	分類	文様	回転線文	使用痕	備考		
			70-158-a	016,020		134	6									
			70-158-a	019	F-353	134	4									
			70-158-b	002		128	2									
			70-158-d	49		上	5									
			70-159-a	18	H-1	上	1									
			70-159-a	37,43		上	6									
			70-159-c	32		上	1									
			70-159-d	6,13,14,21	H-1	上	35									
			70-159-d	73	中	1	2									
			70-159-d	119	中	3	6									
			70-159-d	135	中	2	1									
V-34	13-151 (N59)		67-156-d	010		131	22	粗、多。	内縁接合面3段露呈。庄痕列による段あり。	砂沈む、主に水平。接合面の下端残る。	4類	大突起口端にL。口部縄文地または無文地にL。突起下に刻みある浮文。大突起下に横成前穿孔1。	口部L。概ね口辺に及ばない。	口部外面・体部内外面に炭化物。補修孔1箇所。	図版 V-10・18。	
V-34	13-398	69-153-b	002			137	7	粗、多。	接合面の露呈なし。	砂沈む、水平。	4類	突起と口端L。同外角底の丸い短線状の刻み。突起外面手法不詳の刻み。突起下に横成前穿孔1対。口部に無文。	口部L。押捺浅い。口辺に達せず。	突起下の体測突出。注口土器か。		
V-34	13-58 (N78)	66-158-b	012	P-96	P-96	2	中、少。	粗、少。	内縁接合面1段露呈。	砂沈む、水平。	4類	突起口端に深く突いた点。外面にL(おそらくRL閉端)。浮線上に短線状刻み。	なし。	器形か。図版 V-14。		
V-34	13-314	68-158-b	016			194	11	粗、多。	接合面露呈せず。	砂沈む、方向不詳。	4類	口部L。同外角手法不明の刻み。片口状波状下の口部に浮文。その上に彫みとL。	口部L。底面にもあり。浮文周辺押捺せず。	不尋常。		
V-34	13-355	69-157-d	024			188	3	中、多。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	4類	口部L。同外角底の丸い短線状刻み。突起下横成前穿孔1対。外面とLの間の点。浮線上に底の丸い短線状刻み。	なし。	不尋常。浅鉢か。		
V-35	13-149 (N56)		67-156-d	010		131	4	粗、多。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平主体。	4類	口部L。同外角底の丸い短線状の刻み。口部縄文地(突起除く)にL。	口部L。口辺直下と突起に押捺せず。底面は有無不明。	体部内面炭化物。口部外面炭化物類著。補修孔2箇所。1箇所は穿孔中断。	推定口径 33cm。	
			67-157-a	003		134	68									
V-35	13-46		66-156-c	002		128	4	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。凹み残る。	4類	口部L。同外角手法不明の刻み。口部無文地にL。体部縄文地にL。突起下の把手にL。	口部L。草。減。細かい。くびれから上にはない模様。		推定口径 15cm。	
			66-156-c	005		136	1									
V-35	13-180		66-158-c	175		上	1	粗、極多。角縁顕著。硬化処理。	接合面露呈せず。	砂沈む、方向不詳。凹み残る。	4類	口部縄文地に沈線。文様下から管で突いた点列。柄部浮線上に押入。	口部L。ほぼ口辺に達する模様。			
			67-158-c	76		上	1									
			68-158-d	53		上	1									
			68-158-d	118		中	1									
			68-158-c	107,109		中	1	2								
			68-158-c	170,173		中	2	3								
			69-158-a	020		195	3									
			69-158-b	014		133	1									
			69-158-c	3	F-48	189	1									
			69-158-c	44,77,90,99		上	6									
V-36	13-292 (N21)		69-158-c	143,150,173		中	1	4	粗、少。	内縁接合面1段露呈。	砂沈む、水平。	4類	突起付口端と点列。同外角に手法不明の刻み。突起付口部無文地に刻みのある浮文。	口部L。口辺直下押捺せず。底面縄文の無有不明。	口部外面に炭化物。補修孔1か所。	推定口径 39cm。
			69-158-d	5		H-1	3									
			69-158-d	24,31,34,36,39,40,41,42,43,117,126		上	15									
			70-158-d	95		中	1	2								
			70-158-d	194		中	3	1								
V-37	13-461		70-157-c	028	P-26	P-26	1	粗、少。	外縁接合面1段露呈。	砂沈む、水平。体部に炭化物類著。凹凸残る。	4類	口部無文地に沈線。	口部L。ほぼ文様に達せず。		推定口径 13cm。	
			70-158-a	011		133	1									
			70-158-a	020		134	1									
V-37	13-455		70-158-b	012	F-341	133	2	粗、多。	接合面露呈せず。	砂やや厚く、方向不詳。凹凸残る。	4類	口部無文地から縄文地にかけて沈線。	口部L。口辺に及ばず。	口部外面に炭化物。		
			70-158-c	141,144		上	2									
V-37	13-349		69-158-a	020		195	1	中、少。	内縁接合面1段露呈。	砂沈む、水平。	4類	口端の一部に手法不明の刻み。口部無文地に沈線。	なし。	内面に炭化物。		
			69-158-b	050	P-60	P-60	1									
			69-156-d	017		780	1									
V-37	13-369		69-157-d	022	F-333	188	1	粗、少。角縁顕著。硬化処理。	内縁接合面2段露呈。	砂沈む、水平。	4類	口部縄文地に沈線。	口部L。口辺直下は押捺せず。		推定口径 35cm。	
			69-157-d	025		189	4									
			70-157-a	005		130	1									
			70-157-a	006,008		131	4									
			70-157-a	010		188	9									
V-37	13-168		68-158-d	121		中	1	粗、極多。硬化処理。	接合面露呈せず。	砂沈む、方向不詳。	4類	口部縄文地に沈線。	口部L。一部縦位回転押捺。ほぼ口辺に達する。	口部外面に炭化物類著。	付帯破片中に(2)図 V-1-11-32あり。	
			68-158-d	146		中	2	1								
V-37	13-77		66-158-c	158		上	1	粗、少。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。凹み残る。	4類	突起付口端L。外面縄文地に沈線と円管による点。	口部L。概ね口辺まで押捺。		推定口径 32cm。	
			66-158-d	150,151,152		上	5									
			70-158-c	186		中	2	1								
V-38	13-490	68-158-c	39,41,43			上	14	粗、極多。角縁顕著。硬化処理。	内縁接合面1段露呈。	砂沈む、方向不明。水平。	4類	緩い波状線。口部無文地に沈線。文様下に右から突いた点列。頭部無文。体部沈線。肩折上から深い点列と突起。	口部L。体管文様から上には押捺せず。		推定口径 35cm。	
V-38	13-223	70-158-a	004			128	2	中、少。土	内縁接合面2段露呈。	砂やや厚く。方向性弱い。凹凸残る。	4類	口部無文地にL。文様下のくびれ上下に半数管?による点列。	口部L。口部押捺せず。	推定口径 15cm。口部のくびれを際いで環状把手のつく付帯破片あり。		
V-38	13-251	68-157-a	007			181	7	粗、極多。角縁顕著。硬化処理。	接合面露呈せず。	押捺して不詳。	4類	緩い波状線。口部無文地に沈線。くびれ下部部に短い突起と沈線。沈線を調整。	口部Lか。摩滅。	平底の付帯破片あり。		
			69-155-b	011		160	1									
V-38	13-402		69-155-b	014		156	1	粗、多。	接合面の露呈なし。	砂沈む、水平。	4類	突起口端にL。同外角に丸い短線状の刻み。口部縄文地に沈線。突起下横成前穿孔1。	口部L。口辺直下押捺せず。	内面炭化物類著。	推定口径 17cm。	
			69-155-d	012		154	1									
V-38	13-499		68-157-c	006,018,019,020		194	8	粗、中、多。硬化処理。	接合面露呈せず。	砂沈む、方向不詳。	4類	口部無文地に沈線。くびれを挟んで体上部に無文地沈線。沈線を調整。	なし。体管文様より下に余部。	口部外面に炭化物あり。	付帯破片中に(2)図 V-1-12-49あり。	
			68-157-c	009		189	1									
V-38	13-453	70-158-b	026			196	3	粗、少。	接合面露呈せず。	砂やや厚く。水平。	4類	口部無文地にL。円管による点列。	口部L。文様避ける。			
			66-155-a	008		167	6	中、多。	接合面露呈せず。	砂沈むが少し動く箇所あり。水平。反時計。直線的な輪郭。	4類	口部無文地に沈線。	口部L。口部押捺せず。	内面に炭化物。外面に炭化物類著。		
			66-156-b	010	F-653	124	2									
V-38	13-256	68-157-b	008			134	2	中、少。土	接合面露呈せず。	砂沈むが少し動く箇所あり。水平。反時計。直線的な輪郭。	4類	口部無文地にL。円管による点列。	口部L。底面止。口辺直下押捺せず。		推定口径 14cm。	
			69-158-c	180		中	1	1								
			69-159-a	95,96		中	2	3	粗、少。腐	内縁接合面1段露呈。	砂沈む、水平。反時計。直線状刻み。	4類	突起口端にL。同外角に丸い短線状の刻み。突起外面手法不明の刻み。突起下に横成前穿孔1。口部無文地にL。文様下にL。閉端。	口部L。口辺直下押捺せず。	体部内面・内面に炭化物。	推定口径 27cm。(2) V-1-12-47
			69-159-b	98		中	2	1	1							
			70-158-d	96		中	1	4								
			66-156-b	016		130	1									
V-39	13-26		66-156-c	012		180	15	粗、少。	接合面露呈せず。	砂やや厚く。水平。	4類	突起口端に沈線。口部外角に手法不明の突起刻み。口部無文地に沈線。	口部L。文様に及ばず。		推定口径 40cm。	
			66-156-d	009		181	2									
V-39	13-191a		67-156-c	006		128	8	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	4類	口部L。同外角残らな押入。口部無文地に沈線。無文の凹部上下に右から突いた点列。	口部L。口辺直下押捺せず。	口部内面に炭化物。		
			67-157-b	001		H-1	4	4								
			67-156-b	002		124	1									
V-39	13-191b		67-156-c	005		123	3	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	4類	191aに同じ。	191aに同じ。	口部内面に炭化物。		
			67-156-c	006		125	8									
V-39	13-43		66-156-c	006		128	3	粗、多。腐	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	4類	口部L。同外角残らな押入。口部外面縄文地に沈線。文様下に右から突いた点列。	口部L。ほぼ口辺に達する。			
			66-157-b	002		128	7	1								

表 V-2 続き

図番号	地区	遺物番号	遺構	層位	点数	土	形状	内面の観察	分類	文様	図解	使用箇所	備考		
13-43 (観念)	66-157-b	003			132	5									
	66-157-b	004			130	5									
	66-158-a	002			123	1									
V-40	13-99	65-156-c	001,002		128	15	中、多。	接合面露呈せず。	砂やや厚く、水平。	4類	口端にL。口部無文地に沈線。文様下に下から突いた点列。	00RL。口辺に塗する。	口部外面に炭化物。		
V-40	13-210	68-154-c	004		150	21	粗、少。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	4類	口端L。内外角殊らな挿入。口部無文地に沈線。文様下に無文帯。その下に右から突いた点列。	00RL。くびれを避ける押捺。	口部外面に炭化物。	断面口径 26cm。	
V-40	13-333	69-157-c	006		1	4									
		69-157-d	002		11	2	粗、少。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	4類	口端にL。内外角に底の丸い短線状の刻み。口部無文地にL。文様下に右から突いた点列。	00RL。口辺直下には押捺しない。	内面炭化物露着。		
		69-157-d	003		1	9									
V-40	13-433	70-155-ア	016		183	1									
		70-156-a	009		196	3	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈むが少し動く箇所あり。水平、反時計。	4類	口端RL。内外角RL。口部無文地から横文地にかけRL。	00RL。口辺直下を押捺せず。			
V-40	13-370 (N69)	69-157-d	005,006,007, 008,009,013		130	65	粗、少、土塊露着。	内傾接合面5段露呈。	砂沈む、主に水平。	4類	口部無文地から横文地にかけ沈線。	00RL。概ね口辺直下・底辺直上を避ける。	口部内面に炭化物。	図版 V-10。	
		69-157-d	011		131	1									
V-41	13-45	66-157-a	008	F-375	191	9	粗、少。	接合面露呈せず。	砂やや厚く、水平。	4類	口端L。突起間の口端外角にL。口部無文地にL。	00RL。口辺に塗する。	口部外面に炭化物。		
V-41	13-406	69-156-c	020		191	7	粗、少。	内傾接合面2段露呈。	砂沈む、水平。	4類	口端にL。内外角にL。口部無文地に浅い沈線。焼成前穿孔1あり。突起下か。	00RL。口辺直下を押捺せず。	外周と内面口辺に炭化物。	付帯破片の向き接合面に任意列。	
V-41	13-146 (N29)	68-156-d	002		124	13	粗、少。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平主体。	4類	口端にL。内外角に浅い刻み。波状下に焼成前穿孔1対。底辺直上に無文帯。	00RL。押捺浅い。底面にあるが口辺直下・突起下を避ける模様。		図版 V-9。	
		66-158-b	003		130	4									
V-41	13-122 (N77)	67-158-a	002		130	1									
		67-158-a	003		132	1									
		67-158-a	004		133	16									
		67-158-a	011		134	2									
		67-158-a	014		186	1	粗、少、土塊。	内傾接合面3段露呈。	砂沈む、水平。	4類	口端にL。内外角に短線状の刻み。口部に無文帯。	00RL。体部以下に押捺。	内外面粗粒の分布で面炭化物露着。	概ね等径、推定口径 34cm。	
		67-158-a	016		134	1									
		67-158-b	005		132	1									
		67-158-c	17,24,27		上	3									
		68-157-c	007		186	1									
		68-157-c	018		不明	1									
V-42	13-96	65-158-b	003		186	2									
		65-158-c	16,18		上	3	粗、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	4類	突起周辺の口端にL。内外角の一部に丸底短線状の刻み。口部に明確な無文帯。	00RL。口部無文帯より下。	内外面わずかに炭化物。	13-95と同一個体か。	
		65-158-c	28		中	1	1	り線。							
		66-158-d	185		上	1									
V-42	13-95	65-158-b	003		186	2	粗、少、土塊。	内傾接合面1段露呈。	砂沈む、水平。	4類	口端にL。内外角の一部に丸底短線状の刻み。口部に明確な無文帯。	00RL。口部無文帯より下。		13-96と同一個体か。	
		65-158-c	18		上	1	り線。								
V-42	13-436 (N19)	70-156-b	013		196	3	中、多、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	4類	口端にL。内外角に手法不詳の刻み。突起下に焼成前穿孔1対。口部に無文帯。	00RL。底面にあるが口辺直下を避ける。	口部外面に炭化物。	図版 V-9。	
		71-156-d	204		中	4	塊。								
V-42	13-343	69-158-d	165		中	3	24	粗、少。	内傾接合面3段露呈。	砂沈む、水平主体。	4類	突起周辺の口端にL。内外角にL。突起下に焼成前穿孔1対。口部に顕著な無文帯。	00RL。体部以下に押捺。	口部外面に炭化物。	
		69-159-b	143		中	3	3								
V-42	13-323	69-158-b	039		217	6	粗、少。	内傾接合面1段露呈。	砂沈む、主に水平。	4類	口端にL。突起上は深い点加わり内外角にもL。突起以外の口端外角は手法不明の刻み。突起下無文帯の下限に大径の焼成前穿孔1対。	00RL。口辺直下を避けるが突起下を避ける。	口部外面に炭化物。	推定口径 22cm。	
V-42	13-257	68-157-b	011		134	5	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	4類	口端L。内外角の一部に丸底短線状の刻み。口辺直下に浅い無文帯。	00RL。概か、口辺直下を押捺せず。	外面に炭化物。		
		65-154-b	005		162	1									
		65-154-b	006		167	1									
V-43	13-2	66-154-a	007,008		167	2									
		66-154-d	003		162	1	粗、多。	接合面露呈せず。	砂沈むが動く箇所あり。水平、反時計。	4類	突起口端にL。口部に顕著な無文帯。	00Lか、桑開く。	口部内面に炭化物。		
		66-154-d	004		167	3									
		66-155-b	012	F-707	164	1									
		67-154-d	014		167	1									
V-43	13-528	67-158-b	018	F-348	134	5	中、少、土塊か。	内傾接合面3段露呈。上向き接合面に任意列による段。	砂沈むがやや動く箇所あり。水平主体、反時計。極に凹み。	4類	波状下口部に焼成前穿孔のある突起。口部に顕著な無文帯。	00RL。口辺直下と突起を避ける。		断面口径 15cm。	
		68-153-ウ	006		168	11									
V-43	13-118 (N47)	67-158-b	019	F-348	134	1									
		67-158-b	022		134	26	粗、少。	内傾接合面1段露呈。	砂沈む、水平。	4類	突起口端に丸底短線状の刻み。口部無文帯下に沈線。突起下に焼成前穿孔各1。	00RL。口辺直下を避ける。底面にあり。	体部内外面。底部内面に炭化物。	図版 V-10。(1) 図 V-7-41 を含む。	
		67-158-c	023	F-50	11	1	2								
V-43	13-274	68-158-a	028		189	12	粗、多。	内傾接合面1段露呈。	砂沈む、水平、凹み。	4類	波状付近口端外角に丸底短線状の刻み。口部に無文帯。	00RL。概ね口辺直下には及ばず。	口部内面に炭化物。	断面口径 18cm。	
V-43	13-105 (N2)	70-158-a	014,018	P-28	P-28	31	粗、少、土塊か。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	4類	突起口端にL。口部に無文帯。	00RL。突起下・口辺直下を避ける。底面も押捺せず。	不尋常。体部から上縁丸方に近い。図版 IV-5。		
		67-154-b	007		165	4									
V-44	13-202	67-154-c	028,029,030		166	4	粗、少。	内傾接合面1段露呈。	砂やや厚く、動く。水平、反時計。	5類	突起口端にL。口部無文地に沈線。文様下曲折にRL閉鎖。横位に押捺する珍しい例。	00RL。概ね口辺直下を避ける。		断面口径 20cm。	
		68-154-d	012		160	3									
		68-154-d	014		166	1									
		68-156-b	004		128	5									
V-44	13-242	68-156-b	006		130	5	粗、多、土塊。	内傾接合面1段露呈。	砂沈む、水平。	5類	突起口端にL。口部無文地に沈線とRL閉鎖。突起下には短多ある浮文。文様下にRL閉鎖。RL閉鎖を機軸の薄い工具で押し付けた痕跡が見られる。	00RL。口部押捺せず。	口部外面に炭化物。外面に炭化物の露着。	断面口径 29cm。	
		68-156-c	005		128	4									
		68-157-b	008		134	4									
		71-158-a	538,539		11	1	10								
		69-155-c	002		123	14									
V-45	13-391 (N44)	69-155-c	005		125	5	粗、少、土塊。	外傾接合面2段露呈。	砂沈む、水平。	5類	口端にL。内外角に殊らな挿入。口部無文地に沈線。文様下に右から突いた点列。	00RL。ほぼ口辺に塗する。	口部内面。口部外面に炭化物。	図版 V-8・17。	
		69-156-b	001		124	108	塊。								
		69-156-b	003		125	5									
V-45	13-325	69-157-c	007		11	1									
V-45	13-325	69-157-c	010		131	1	粗、少、土塊露着。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	5類	口端にL。突起状では沈線加味。突起を除く口端外角に殊らな刻み。口部無文地から横文地にかけ沈線と下から突いた点列。突起下は浮文となり丸のち沈線。さらに浮成前穿孔。浮文下には厚く浮き出た点列。文様下口端を接合面から右から突いた点列。	00RL。口辺直下を押捺せず。	口部内面わずかに炭化物。	断面口径 33cm。	
		69-158-a	003,004		124	35									
V-45	13-236a	68-157-c	007		186	11	粗、多。	接合面露呈せず。	砂やや厚く、水平。	5類	体上部に無文帯。無文帯下曲折に点列。	00RL。			
V-45	13-236b	68-157-b	004		128	2	粗、多。	接合面露呈せず。	砂やや厚く、水平、反時計。	5類	口端にL。口部無文地に沈線。文様下曲折に下から突いた点列。点列下に無文帯。	00RL。口辺に塗する。			
		68-157-b	008		134	1									
V-45	13-236c	68-157-b	004		128	5	粗、多。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平主体。極に茶。	5類	突起周辺の口端にL。口部無文地に沈線。突起下に押入れのある浮文。文様下曲折に下から突いた点列。点列下に無文帯。	00RL。浮文を避け口辺に塗する。			
V-45	13-269	67-158-b	002		131	1	中、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	5類	突起口端に沈線。突起以外の口端にL。口部無文地から横文地にかけ沈線。文様下と突起下の両方に沿って右に下から突いた点列。	00RL。口辺直下を押捺せず。	口部外面に炭化物。	断面口径 30cm。	
		68-158-a	053		189	2									
		66-157-b	007		186	1	中、少、土塊露着。	内傾接合面4段露呈。	砂沈む、主に水平。	5類	突起口端にL。内外角に丸い短線状の刻みと下から突いた点列。文様下に下から突いた点列。点列下に下から突いた点列。点列下にL。口部に無文帯。	00RL。底不明。点列下のくびれを避ける。	口部外面に炭化物。補修孔1箇所。	断面口径 30cm。	

V 遺物

表 V-2 続き

図番号	地区	遺物番号	遺場	層位	点数	土	成形	内面の図説	分類	文様	図説欄文	使用痕	備考	
13-300 (晩古)		69-155-c	006,011		128	4								
		69-155-c	012		150	3								
		69-155-c	013		151	12								
		69-155-c	014		152	3								
		69-155-c	017		154	1								
		69-155-d	006		149	1								
		69-155-d	008		153	2								
		70-154-d	010		167	3								
		70-155-a	010		166	1								
		70-155-d	010,012		128	4								
		70-155-d	013,016		153	22								
		70-155-d	017		154	17								
		70-155-d	019		155	8								
V-46	13-108 (NS)	67-154-c	031		166	1	中、多、角	接合面露呈せず。	5類	砂沈む、方向不明。	体部無文地に沈線。	なし。	図版 V-12。	
V-47	13-267 (N38)	66-157-d	002		11-1	3	楕形、多、	内縦接合面1段露呈。	5類	砂沈む。主に水平。平滑、強い光沢。	突起口端に-L、肩外角に刻み、突起下に無文部。	○RL。突起下押捺せず。口辺直下も選ける模様。	体部外面に炭化物。	不平等。口部の推定直径 27cm。
		68-157-d	003		134	2								
		67-156-d	004		124	1								
V-47	13-194	67-156-d	005		125	8	粗、少、土塊。	内縦接合面1段露呈。	5類	砂沈む。水平主体。	口端に-R、肩外角に丸底短線状の刻み、突起下に無文部なし。	○RL。口端付近わずかに炭化物。	推定直径 33cm。	
V-47	13-273	68-158-a	011		133	7	中、少、土塊。	接合面露呈せず。	5類	砂や浮く。方向不明。凹凸多い。	大突起下に横成前穿孔1。口辺直下に無文部。体部と底面外周無文地に沈線。底辺直上に無文の凹溝。	○RL。大突起下と口辺直下押捺せず。		不平等。
V-47	13-224	68-154-b	003		137	3								
		68-154-d	004,006		151	9								
		68-155-a	003		150	1								
		68-155-a	005,006		151	3								
		68-155-b	005		150	2								
		68-155-d	009		149	1								
		69-154-c	001		樹落土	1								
		67-154-a	007		142	1								
V-48	13-216	67-154-b	006		142	1	中、少、土塊。	接合面露呈せず。	5類	砂沈む。水平。硬に凹み。	口部無文地に沈線。	○RL。体部以下。	口・体部外面に炭化物。縦溝あり。	推定口径 32cm。
		68-155-d	007		124	38								
		69-155-b	010		154	1								
		70-155-a	007		155	1								
		66-156-a	004,005		123	9								
		66-156-c	005		125	1								
V-48	13-10	66-156-d	004		124	18	中、少、土塊。	接合面露呈せず。	5類	砂沈む。水平。口部規則的凹み残る。	口端外角に疎らな刻み。口部無文地から縄文地にかけて縄文線のみ太沈線。文様下に凹溝を挟んで右から突いた点列。	○RL。口辺直下押捺せず。	口・体部外面に炭化物。縦溝あり。	推定口径 36cm。
		66-156-d	005		125	11								
		66-156-d	006		128	5								
		66-156-d	007		131	1								
		66-156-d	007		131	1								
		66-156-d	007		131	1								
V-49	13-140	67-158-b	033	F-404	195	7	粗、少。	接合面露呈せず。	5類	砂沈むが鋭く箇所あり。水平。回転不明。口部に凹み。	口辺直下に不明な無文部。	○RL。概ね口辺直下に塗せぬ。	内外面に炭化物。補修孔1箇所。穿孔中断しあり。	
V-49	13-41	66-157-b	010		189	4	中、少。	接合面露呈せず。	5類	砂沈む。水平。	口部に不明な無文部。	○RL。概ね口辺直下を選ける。	口部内外面、体部外面に炭化物。	等径と思われる。推定口径 24cm。
V-49	13-107 (N4)	65-157-b	009		195	55	極、少、粗硬。硬化痕跡。	内縦接合面2段露呈。	5類	砂沈む。主に水平。	突起周辺口端に-L、肩外角に丸底短線状の刻み。突起下に浮文。口辺直下に無文部らしいものがあるが不確実。	○RL。底面、浮文に押捺せず。口辺直下押捺しない部分のみが偶然か。	口部内外面、体部外面に炭化物。	ほぼ等径。図版 V-8。
V-49	13-337	68-159-b	139		上	2	粗、少。	接合面露呈せず。	5類	砂沈む。水平。	口端に-L、肩外角に丸底短線状の刻み。突起口端のみ内角に-L。口辺直下は無文部のようにも見えるが不確実。	○RL。口辺直下に塗する箇所あり。	口部外面に炭化物。	
V-50	13-550	70-156-f	015,016		204	3	中、少、土塊。	内縦接合面1段露呈。	5類	砂沈む。水平。	口端に-L、肩外角に丸底短線状の疎らな刻み。口部に広い無文部。	○RL。底面付近に塗せぬ。	外面に炭化物。穿孔中断した補修孔1箇所。	
V-50	13-32	66-156-d	008		136	2	粗、少、土塊。	内縦接合面1段露呈。	5類	砂沈む。水平主体。	突起周辺の口端に-L、突起中央に点。同口端に丸底短線状の刻み。突起下に焼成前穿孔1。	○RL。突起周辺の口辺直下を選ける。	口部外面に炭化物。	不平等。推定口径 28cm。
V-50	13-235	68-156-a	007	F-303	128	11	粗、少、土塊。	接合面露呈せず。	5類	砂沈む。水平。	口端に-L、突起に点。口端外角の一部に刻み。	○RL。2 体、底面は口部より細かい。	外面わずかに炭化物。	推定口径 17cm。
V-51	13-265 (N22)	68-157-d	029		188	7	粗、少、土塊。	内縦接合面2段露呈。	5類	砂沈む。水平。柄に凹凸残る。	突起周辺口端に-L、肩外角の一部に丸底短線状の刻み。突起下に大径の焼成前穿孔1。	○RL。底面にもあり。突起下口部を選ける。	口部外面に炭化物。	不平等径か。推定直径 35cm。
V-52	13-117 (N16)	67-158-d	94		上	36	粗、少。	内縦接合面4段露呈。上向き接合面に規則的な凹凸と上辺の波うち。	5類	砂沈む。水平。	突起周辺口端に-L、突起は点・沈線加わる。口端外角に刻み。突起下に焼成前穿孔1。	○RL。底面にもあり口辺直下を選ける。	口～底面内外面に炭化物。補修孔1箇所。	概ね等径か。推定口径 30cm。図版 V-16。
V-52	13-238 (N70)	68-156-d	013		131	18	粗、少。	接合面露呈せず。	5類	砂沈む。水平。	突起周辺口端に-R。突起下に焼成前穿孔1対。	○RL。押捺浅い。表面にもあるが口部を選ける。	内面に炭化物。	図版 V-11。
V-52	13-230 (N18)	67-154-c	004		150	2								
V-52	13-230 (N18)	67-154-c	032		152	1	粗、多、土塊。	内縦接合面1段露呈。	5類	砂沈む。水平。	口端に-L、肩外角に丸底短線状の刻み。突起下に焼成前穿孔1。欠損部分にも突起があったとみられる。	○RL。または LR。押捺浅い。底面にあるが体・口部の大半にはない。	体部外面に炭化物。	底面中央に小さな凹み。図版 V-9。
V-52	13-25	66-156-c	003		124	15	粗、少、土塊。	接合面露呈せず。	5類	砂沈む。水平。	突起周辺口端に-L、肩外角に疎らな押え。口辺直下は無文部か。	○RL。口辺直下はほぼ押捺せず。		
V-53	13-139	67-158-b	024	F-113	194	10	中、少。	接合面露呈せず。	5類	砂沈む。水平。	口端に-L、突起に深い点。口端外角に丸底短線状の刻み。突起下部無文地に短線状の刻みある浮文。	○RL。口部に押捺せず。	外面体部・内面に炭化物。	
V-53	13-300	67-158-d	44		上	3	粗、少、土塊。	内縦接合面2段露呈。下向き接合面に炭。	5類	砂沈む。水平。	口端に-L、突起中央に点。口端外角に手法不明の刻み。突起下に大径の焼成前穿孔1。	○RL。ほぼ口辺直下で押捺。	体部外面に炭化物。	
V-53	13-388 (N32)	69-155-c	004,006,011		128	8	粗、少、土塊。	接合面露呈せず。	5類	砂沈む。方向不明。	突起口端に放射方向沈線。口端外角に手法不明の刻み。突起下に焼成前穿孔1。	○RL。押捺浅い。口部に炭化物。		目立つて明色の土器。図版 V-9。
V-53	13-254	68-157-b	008		134	4	粗、多。	接合面露呈せず。	5類	砂沈む。水平。	口端の一部に-L。口端外角に丸底短線状の疎らな刻み。	○RL。口辺直下押捺せず。	外面に炭化物。	
V-53	13-157	67-155-d	010		126	12	粗、少、土塊。土器内か。	接合面露呈せず。	5類	砂沈む。方向不明。	突起周辺の口端に-R、肩外角に丸底短線状の刻み。	○RL。底面にもあり。口辺直下わずかに押捺せず。		推定口径 17cm。
V-54	13-64	66-157-c	010		191	1								
		66-158-b	006		189	1								
		66-158-b	007,008,010		193	14								
		66-158-b	009		192	1								
		66-159-a	32		11-1	1								
		66-159-b	82		11-1	4								
		66-159-b	83		11-1	2								
V-54	13-262 (N16)	68-157-d	019		195	1	粗、多。	内縦接合面1段露呈。上向き接合面に圧痕列による段あり。	5類	砂沈む。水平。茶色や黄褐色。	突起口端に-Lと沈線。肩外角に丸底短線状の刻み。口辺直下に無文部。	○RL。突起下と口辺直下を選ける。	口部内外面、体部内面に炭化物。	概ね等径らしく。推定口径 29 cm。図版 V-18。
V-54	13-76	66-158-d	145		上	2	粗、多。	接合面露呈せず。	5類	砂沈む。水平。	波面付近口端に-L、肩外角刻み。口部に無文部。	○RL。波直下・口辺直下押捺せず。	口部内面炭化物顯著。	不平等径か。

表 V-2 続き

図	番号	地区	遺物番号	遺構	層位	土質	成層	内容の調整	分類	文様	回転継文	使用値	備考		
V-55	13-488	65-155-c	008		177	1	中、少、角礫、面砂類若、硬化地	接合面露呈せず。	砂沈む、水平、反時計針、直線状凹点。	5 類	口辺に横近して 2 突起、口部無文地に沈線、流文後調整。	なし。	口部外面わずかに炭化物。	推定口径 15cm。	
			66-155-c	008		152	1								
			67-155-b	001		1	1	中、少、角礫、面砂類若、硬化地	接合面露呈せず。	砂沈む、水平、調整による凹凸。	5 類	口部・口辺直下無文地に沈線、のち調整、無文帯を隔てて無文地に沈線・浮文、のち調整。	00RL、口部以下に押捺。	口部・体部以下に炭化物。	推定口径 17cm。
V-55	13-203	67-155-b	004,005		149	17	中、少、角礫、面砂類若、硬化地	接合面露呈せず。	砂沈む、水平、調整による凹凸。	5 類	口部・口辺直下無文地に沈線、のち調整、無文帯を隔てて無文地に沈線・浮文、のち調整。	00RL、口部以下に押捺。	口部・体部以下に炭化物。	推定口径 17cm。	
			67-155-b	007		150	1								
V-55	13-5	65-154-c	009		167	6	中、多、角礫、面砂類若、硬化地	接合面露呈せず。	砂沈むがやや動く箇所あり、水平、反時計針。	5 類	口辺の突起下に浮文、口部無文地に沈線、のち調整。	00RL、口部以下に押捺。	口部・体部以下に炭化物。	推定口径 22cm。	
			66-155-a	008		167	3								
V-55	13-172a	67-158-c	303		11-1	4	粗、少、角礫、面砂類若、硬化地	接合面露呈せず。	砂沈む、水平、調整による凹凸。	5 類	口部無文地に沈線と押入、無文帯を隔てて体上部無文地に沈線。	00RL、体部以下に押捺。	体部内面炭化物顯著。		
			67-158-c	303		11-1	6	172a に同じ。	接合面露呈せず。	砂沈む、方向性強い、凹凸。	5 類	体部との境に沈線か。	なし。		
V-56	13-439	70-155-c	001		150	21									
			003		123	1	粗、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平、調整による凹凸。	6 類	口部 RL、丸底短筒状の残らな窪みあり、口部上半無文地に RL のち沈線、下半無文地に沈線と点列のある浮文、文様下の層折に右から突いた点列。	00RL、口部に押捺せず。	体部外面にわずかに炭化物。		
			006		150	1									
			013		196	1									
			003		128	1	中、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平、調整による凹凸。	6 類	口部無文地に L のち沈線、文様下に無文帯。	00RL、口部に押捺せず。	外面に炭化物、口部内面炭化物顯著。		
V-56	13-121b	70-157-c	016		130	1	中、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平、調整による凹凸。	6 類	121a に同じ。	121a に同じ。	内面炭化物顯著。		
			005		149	4	粗、多、角礫、面砂類若、硬化地	接合面露呈せず。	砂沈む、水平、調整による凹凸。	6 類	口部無文地に L のち沈線、文様下になら突いた点列。	00RL、口辺直下を避けるか。	口部外面に炭化物。		
V-56	13-193	66-153-b	005		137	1									
			032		152	1									
			005,009		151	2	粗、多、土塊か。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平、調整による凹凸。	6 類	口部 RL、丸底短筒状の残らな窪みあり、口部上半無文地に L のち沈線、下半無文地に沈線と点列のある浮文、文様下の層折に右から突いた点列。	00RL、口部に押捺せず。	外面に縦帯状の炭化物。	推定口径 34cm。	
			004		142	3									
			004		128	2									
			007		150	1									
			004	F-269	125	1									
			003,004,005,006		128	26									
V-57	13-420 (N55)	70-155-b	007		150	5	粗、少、土塊顯著。	内縁接合面 4 段露呈。	砂沈む、水平、調整による凹凸。	6 類	突起口辺内面に L。口部無文地に L のち沈線、突起下は浮文となり焼成前穿孔 6 箇所、文様下に凹溝。	00RL、凹溝以下に押捺。	口部外面・体部内外面に炭化物、底面に輪状の褐色層。	突起 7 箇所に復元したが 8 箇所、さらに大径となる可能性あり。図版 V-10。	
			005,005		150	46									
			001		150	20									
			003		153	4									
			003		125	7	粗、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平、調整による凹凸。	6 類	口辺内面に L と沈線、口部無文地に L、文様下に右から竹で突いた点列。	00RL、体部以下に押捺。	体部外面に炭化物。		
V-57	13-223a	67-154-a	012		169	1	粗、少、土塊、面砂類。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、調整による凹凸。	6 類	突起おそらく 4 箇所、口辺下に無文帯、口部無文地に L。	なし。		推定口径 11cm。	
			006		166	4									
			008		156	1									
V-57	13-223b	67-154-a	012		169	3	223a に同じ。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、反時計針、直線状凹点、凹凸。	6 類	口部無文地に L。体上部浮文帯に並ぶ。	00RL、体部以下、浮文を避けて押捺。	口部内縁炭化物顯著、外面に炭化物層著。		
			008		166	3									
V-57	13-240	68-156-c	009		180	1	粗、多、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、口部に凹凸。	6 類	口辺直下に無文帯、口部無文地に RL。	00RL、口部に押捺せず。	口部内縁炭化物顯著、外面に炭化物層著。		
			017	P-40	P-40	4									
V-58	13-397	69-155-b	004,006		128	20	中、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、調整による凹凸。	6 類	突起口部から内面にかけて R、口部無文地に沈線、文様下に右から突いた点列。	00RL、口辺直下には及ばぬらしい。			
			002,003		126	22	中、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、調整による凹凸。	6 類	口部 RL、口部外縁無文地に沈線、文様下に右から突いた点列。	00RL、突起下を除き口辺に達する。			
V-58	13-220	68-155-c	002,003		126	22									
			004		149	37	粗、少、土塊顯著。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、口部凹凸顯著。	6 類	口部 RL、口部無文地から口部無文地に L にかけての沈線、文様上下に右から突いた点列。	00RL、口上部には押捺せず。	口部外面に炭化物。	推定口径 33cm。	
V-58	13-290	68-157-c	007		186	4	中、少、土塊、面砂類。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、調整による凹凸。	6 類	口部 RL、口辺直下・注口無文。	00RL、口辺直下は注口を避ける。	口・体部外面に炭化物。		
			001		128	5									
V-59	13-377	69-156-d	005		124	5	粗、多、角礫、面砂類若、硬化地	内縁接合面 1 段露呈。	砂ややや動く箇所あり、水平、調整による凹凸。	6 類	突起口部から内面にかけて R、口部無文地に沈線、文様下に右から突いた点列、浮文に当たって口辺に達する、点列下に無文帯。	00RL、口辺直下と点列直下を避ける。	付帯破片中に對をなす突起あり。		
			009		128	5									
			016		130	2									
			035	F-308	128	2									
V-59	13-16	66-156-d	004		124	6	中、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、方向不明。	6 類	突起付近口部 L しか、口部無文地に沈線。	なし。	外面に炭化物。		
			005		125	1									
V-59	13-34	66-154-d	004		167	3	中、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈むがやや動く箇所あり、水平、反時計針、直線状凹点、凹凸。	6 類	口部無文地に L 沈線、場所により後者の縁に窪みか点列、文様下に L した無文帯、その上下に右から突いた点列、くびれを跨いで R のある横状凹点、凹凸。	00RL、くびれから下位に押捺。	内面わずかに炭化物。		
			016		不明	1									
			010		128	1	粗、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈むがやや動く箇所あり、水平、調整による凹凸。	6 類	突起口部から内面にかけて R、口部無文地に L 沈線、文様下に右から突いた点列、点列は突起下で浮線に達なり口辺に達する、突起下無文地に L。	00RL、口辺直下は突起下を避ける。	口・体部外面に炭化物の縦帯、補修孔 2 箇所。	推定口径 39cm。	
			011	F-292	130	1									
			015		134	16									
			011		133	3									
			004		147	10									
			011		154	1									
V-60	13-94	68-158-a	003		131	28	中、少、土塊顯著。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、底面に凹凸。	6 類	突起口部から内面にかけて R、口部無文地に L 沈線、口部無文地に L、文様下に右から竹で突いた点列、その下に凹溝を跨ぎ L のある横状凹点、凹凸。	00RL、口辺直下と突起下を避ける。	体部外面に炭化物の縦帯。	推定口径 38cm。	
			008		126	1									
			004		124	3									
			005		132	1									
			011		147	10									
			003		131	28									
			005		132	1									
			011		147	10									
			023		11-1	1									
			0123		上	5									
V-60	13-212	68-152-c	002	F-446	125	1	粗、少、土塊、面砂類若、硬化地	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、調整による凹凸。	6 類	口部 RL、口部無文地に L 沈線、口部無文地に L、文様下に右から竹で突いた点列、その下に凹溝を跨ぎ L のある横状凹点、凹凸。	00RL、口辺直下と突起下を避ける。	口部外面に炭化物。	推定口径 19cm。	
			004		126	4									
			005		147	2									
			002		125	40									
			001		125	2									
			002		141	1									
			002		146	1									
			002		141	1									
V-61	13-537 (N80)	67-155-u	026	F-931	210	1	粗、少、土塊。	口辺の突起剥離。	砂沈む、方向不明。	6 類	口部に突起、口辺に突起 1 所、突起開口部に焼成前穿孔 1 所、口部に無文帯。	00RL、底面にあるが口部を避ける。		不平等、図版 V-14。	
			003		139	1									
V-61	13-222a	67-153-b	004		147	4	粗、多、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、調整による凹凸。	6 類	突起口部から内面にかけて R、口部無文地に L 沈線、文様下に右から突いた点列、点列は突起下で浮線に達なり口辺に達する、突起下無文地に L。	00RL、口辺に達する。	口部外面に炭化物。		
			007		147	1	粗、多、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、調整による凹凸。	6 類	口部 RL、口部無文地に L。	222a に同じ。	体部外面わずかに炭化物。		
V-61	13-440	70-155-a	006		151	10	中、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、調整による凹凸。	6 類	口部 RL、口部無文地に L 沈線、口部無文地に L、文様下に右から竹で突いた点列、その下に凹溝を跨ぎ L のある横状凹点、凹凸。	00RL、口辺直下と突起下を避ける。	口部内外面に炭化物、補修孔 1 箇所。		
			004		149	4									
V-61	13-3	66-154-c	009	F-498	150	2	中、少、土塊。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、調整による凹凸。	6 類	口部 RL、口部無文地に L 沈線、口部無文地に L、文様下に右から竹で突いた点列、その下に凹溝を跨ぎ L のある横状凹点、凹凸。	00RL、口辺直下を避けて押捺。	口部内外面わずかに炭化物。		
			011		153	1									
			005		150	2									
			001		123	4	中、少、土塊、面砂類若、硬化地	接合面露呈せず。	砂沈む、水平、調整による凹凸。	6 類	対をなす突起、7 箇所とみられる、口部 RL、口辺に達する。	00RL、口辺に達する。	体部内面に炭化物顯著、表面に褐色層あり。	図版 V-10。	



V 遺物

表 V-2 続き

図	番号	地区	遺物番号	遺構	層位	点数	土	成層	内面の調整	分類	文様	転写文	使用痕	備考		
13-400 (続番)			69-154-c	007		152	3									
			69-154-c	008		154	2									
			69-154-c	009		160	2									
			69-154-d	004		137	62									
			70-154-d	002		151	2									
			69-154-d	009		不明	1									
V-62	13-13		66-156-a	004	123	66	中、少、土	接合面露呈せず。	砂沈む、水平、反時計、直線的な始点。	6類	口部無文地から縄文地にかけて沈線。	◎RL。口辺直下押接せず。	口部内面・体部外面わずかに炭化物。補修孔1箇所。	513と同一個体か。推定口径42cm。		
			66-156-d	016	213	5	中、少、土	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、反時計。直線状始点。	6類	口部無文地から縄文地にかけて沈線。	◎RL。口辺直下押接せず。	口部外面に炭化物。	13と同一個体か。		
V-62	13-513		66-152-z	002	141	2	中、少、土	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、反時計。直線状始点。	6類	口部無文地から縄文地にかけて沈線。	◎RL。口辺直下押接せず。	口部外面に炭化物。	13と同一個体か。		
V-62	13-20a		68-157-d	002	133	4	中、少、土	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	7類	突起口縁にL。口部縄文地に糸織のち沈線。口辺直下はL。突起下は浮文にL。文様下に点列。	◎RL。口辺直下と浮文を避ける。	◎RL。口辺直下と浮文を避ける。			
V-62	13-20b		68-157-d	002	133	4	中、少、土	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	7類	口部縄文地に糸織のち沈線。文様下に右から突いた点列。	◎RL。口部外角に押接せず。				
V-62	13-338		69-157-c	007		11-1	5									
			69-157-c	008		128	1	中、少、土	接合面露呈せず。	砂沈む、水平主体。	7類	口部縄文地に糸織のち沈線。文様下に点列ある浮線。突起下へ連なる。突起下の浮線間は無文地に縄文地のち太沈線。さらに凹溝を加える。	◎RL。浮文と突起下を避ける。		内外面に炭化物。	
			69-158-b	003		128	1	塊。								
			69-158-b	015		134	5									
V-62	13-201		68-154-d	005,006	151	7	中、少、土	内縁接合面1段露呈。	砂沈む、水平。	7類	口部縄文地に糸織のち沈線。文様下に右から突いた点列。			口部付近内面に炭化物。	ほぼ等径。推定口径20cm。	
			68-154-d	007,008,011	F-325	150	5	塊。								
V-63	13-141		67-157-a	004		186	1									
			67-158-a	004		133	1	粗、少。	接合面露呈せず。	砂やややく。方向不詳。	7類	突起付近口部内面無文地に浮文・Lのち沈線。阿口端Lと斜射方向沈線。突起下に焼成前穿孔1。	◎RL。口部に押接せず。	外面に炭化物。	付帯破片中に◎RL。ある丸底の破片あり。	
			67-158-a	024	F-396	194	2									
			66-158-a	005		132	3									
V-63	13-92 (N30)		68-158-a	022,026	P-35	P-35	3									
			69-157-c	008		128	5									
			69-157-c	012		134	1	粗、多、塊	内縁接合面の可能性あるものあり。	砂沈む、水平。	7類	突起周辺の口部・口辺内面にL・沈線・点列。突起下に深い。阿口端外角に確らな突起。大突起口端には細かい点列。口部縄文地に糸織のち太沈線。突起下に浮文の一部は細かい点列を有する。大突起下に焼成前穿孔1。	◎RL。口辺直下と浮文を避ける。	◎RL。口部外角に炭化物。補修孔1箇所。	図版 IV-6。	
			69-158-a	009		132	1									
			69-158-b	011		130	1									
			69-158-c	008		132	1									
			70-158-b	019		133	1									
V-63	13-152		67-158-c	9		上	4	中、少、土	接合面露呈せず。	7類	口部内面無文地にLのち沈線。口部L。同外角に丸底突起の痕跡。丸底は全周に及ばず。	◎RL。口辺直下と及ばず。	外面わずかに炭化物。			
V-63	13-197		67-155-b	012		154	1									
			67-155-c	008		152	1									
			67-155-c	010		153	1	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	7類	口部Lのち沈線。突起口部は太い。口部縄文地に沈線。	◎RL。細かい。口辺直下に押接せず。		産科ではないらしい。	
			67-155-c	013		176	1									
			67-155-c	015,018		177	2									
V-64	13-281		68-158-a	001	130	3	粗、少、土	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	7類	突起内面と突起周辺口部にL。口部には沈線加わり。同外角にL。突起下口部無文。焼成前穿孔1。	◎RL。突起下を避ける。	◎RL。突起下を避ける。	口部内面・体部内面に炭化物。		
			68-158-d	3,4,5,6	11-1	6	塊。									
V-64	13-387 (N23)		69-155-b	003,005		128	26									
			69-155-b	012		154	5	粗、少、土	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	7類	突起周辺口部から口部内面にLのち沈線。突起中央では点列。この後部は糸織。突起周辺外角の一部に確らな浮文。口部に無文。ただし突起下にはなく。無文部のない突起に焼成前穿孔1。その下に横長の透かし。この透かしは土器の長軸について対称の箇所にもう一つある。	◎RL。透かしある突起とその間を避ける。	◎RL。透かしある突起とその間を避ける。	口・体部内面に炭化物。	不等径。図版 V-11。
			70-155-a	003		150	1									
			70-155-a	006		151	1									
V-65	13-443a		70-154-a	003	137	2	中、少	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	7類	口部の一部にL。口・体部無文地から縄文地にかけて沈線と右下方から突いた点列。沈線内には糸織痕跡あり。底辺直上に無文の凹溝。	◎RL。底面にあるが口部を避ける。		内外面に炭化物。	ほぼ等径に見え。推定口径14cm。	
			70-154-b	005	137	8										
V-65	13-443b		70-154-b	005	137	3	中、少、土	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	7類	突起内面・阿口端内角にL。小突起口部にL。突起下L。口部に無文。突起下には焼成前穿孔1。443aと同様の文様。	◎RL。口部に押接せず。			文様ある突起部分がか口状となるか。	
V-65	13-134		67-158-d	94		上	7	粗、少	接合面露呈せず。	7類	口部Lと深く突いた点。口部端角の一部にL。口・体部無文地に沈線。浮文。下から突いた点。注口と突起下の浮文を挟んで焼成前穿孔1。	◎RL。押接狭く底面のみ。		底面外面に炭化物。		
V-65	13-229 (N14)		67-154-c	004		150	2									
			68-154-c	002		137	1									
			68-154-c	004		150	1									
			68-155-b	001,002		126	3	粗、少。	内縁接合面1段露呈。	砂沈む、主に水平。	7類	突起周辺口部にLと沈線。口部無文地に沈線と下から突いた点。文様下の凹溝に下から突いた点列。	◎RL。文様と底面に及ばず。体部も押接不連続。			
			69-154-c	002		150	2									
			69-154-d	002		150	1									
			69-155-a	002		150	15									
V-65	13-106 (N3)		69-155-c	007	125	20	粗、少、土	内縁接合面2段露呈。	砂沈む、主に水平。	7類	突起周辺口部にLと沈線。突起上に尖る深い。突起端口部内角に点列。同外角にL。突起端外角も口部端角の一部に細かい。口部に環状無文帯。突起下でやや膨らむ。	◎RL。底面にも押接する前口部直下・突起下は避ける傾向。	◎RL。底面にも押接する前口部直下・突起下は避ける傾向。	口・体部内外面。底面外面に炭化物。補修孔1箇所。	不等径。図版 V-9。	
			70-155-d	009	125	5										
V-66	13-114 (N10)		67-158-b	014	134	12	中、少、土	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	7類	口辺直下に確らな無文帯。底辺直上に無文の凹溝。	◎RL。概ね口辺直下を避ける。		図版 V-13。		
V-66	13-24 (N15)		66-156-d	004		124	12									
			66-156-d	005		125	1	中、少、土	内縁接合面1段露呈。	砂沈む、水平。	7類	口部L。口部端角にL。短線列。口辺直下無文。突起下に焼成前穿孔2。	◎RL。底面にもあつて口辺直下を避ける。		目・体部に炭化物。内縁接合面。図版 V-9。	
			66-156-d	007		131	9	塊。								
			67-156-b	005		134	1									
V-66	13-36		66-156-d	003	123	8	粗、少。	内縁接合面2段露呈。	砂沈む、水平。	7類	口部内面にL。口部Lと点。	◎L。ほぼ口辺に達する。		口部内外面わずかに炭化物。		
V-66	13-72		66-158-c	107		上	7	粗、少。	接合面露呈せず。	7類	突起周辺口部にLのち沈線。同外角に斜射方向浮入。口部突起下にLのある浮線。	◎RL。口辺に達するが浮文を避ける。		口部内面・体部外面に炭化物。		
V-66	13-111 (N7)		69-157-d	014	130	1	中、多、土	接合面露呈せず。	砂沈む、方向不詳。	7類	突起L。その下に焼成前穿孔。体部斜射方向点列。	◎RL。底面の凹みにはない。		図版 V-12。		
V-66	13-381 (N35)		69-157-a	013	F-332	130	1	中、少、土	接合面露呈せず。	7類	体部底面と底面両側に下から管で突いた点列。点列に沈線。				図版 V-11。	
			69-157-a	018		130	1	塊。顕著。								
V-66	13-28		66-155-d	004	125	21	粗、少、土	内縁接合面1段露呈。	砂沈む、水平。	7類	突起周辺口部にLと沈線。同外角に確らな突起。口部端角にL。口部端角にL。口部端角にL。	◎RL。口辺に達する。		口部外面に炭化物。		
V-66	13-15 (N76)		66-156-d	006	128	6	中、少、土	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	7類	突起口部にLと沈線。体部斜射方向から突いた点列。	◎RL。底面の一部に凹溝される。		図版 V-9。		
V-66	13-19		66-156-d	005	125	9	粗、少、土	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	7類	口部内面・阿口端外角にL。口部に糸織のち太沈線。文様の上下に右下方から突いた点列。	◎RL。文様を避ける。		推定口径18cm。砂沈む。N11-28を参考。		
			68-159-a	7	11-1	6	塊。									
V-67	13-128		67-158-a	004	133	1	中、少、土	内縁接合面1段露呈。	砂沈む、水平、凹み。	7類	口部外角にL。口部縄文地に糸織のち太沈線。文様中央の凹溝等に沿って細かい点列。凹溝を跨いで横線。文様下の浮線にLと突いた点列。	◎RL。口辺直下押接しない模様。				
V-67	13-12		66-156-c	003	124	9	粗、少、土	内縁接合面3段露呈。顕著。	砂沈む。	7類	口部無文地に糸織のち沈線。文様下に下から突いた点列。	◎RL。口部に押接せず。		内外面に炭化物。図版 V-15。		

表 V-2 続き

図番	地区	遺物番号	遺構	層位	点数	土	成形	内面の状態	分類	文様	回転文	使用痕	備考	
V-67 13-430		70-155-d	008		125	1	粗、少	土 接合面露呈せず、極めて薄す。	7類	砂沈む、水平、平	口端に上か、口部条線のみ沈線、文様下凹溝の上下に右下から突いた点列。	00RL、文様の地には押捺しないらしい。	口部外面に炭化物顕著。	
		65-153-i	003		159	1								
		67-156-d	005		125	3	粗、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、主に水平、口部に凹み。	口端外角に押入れ、口部条線地に沈線のみ太沈線。2段に分かれた文様の上下と太沈線に近い点列。	00RL、口端にもあり。文様の地には押捺しないらしい。	口部外面炭化物顕著、体部外面炭化物の痕跡。	推定口径33cm。
V-68 13-376a		70-155-c	013		203	4								
		70-155-工	029		203	1	粗、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、水平、平	口辺直下無文帯らしい、口部縄文地に沈線。	00RL、紐かい、時に口辺に及ぶ。	体部外面に炭化物。	
		70-156-d	008	F-543	196	1								
		70-157-a	013		196	1								
V-68 13-376b		69-157-b	020		134	1								
		69-157-b	023	F-526	207	3	粗、少	土 接合面露呈せず。	7類	376aと同じ。	376aと同じ。	376aと同じ。	口部外面に炭化物。	
		70-157-a	012		207	1								
		70-157-c	001,002		125	2								
V-68 13-444a		70-154-a	003,005		137	7	粗、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、主に水平。	口端に上。口部縄文地に条線の沈線と点列、凹溝は条線に先行。	00RL、口辺直下と突起は押捺しないらしい。	縁部孔ノ箇所、	推定口径37cm。
		70-154-b	003,005		137	7								
		70-154-c	002		151	1								
		70-154-c	004		165	1								
V-68 13-444b		70-153-c	001,002		125	18	粗、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、水平。	444aと同じ。	444aと同じ。	口部外面に炭化物。	
		66-154-d	001		142	1								
		67-153-c	002		123	1								
		67-154-d	005		150	1								
V-69 13-231		68-152-b	003		141	11	中、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、水平。	突起を除く口端外角に丸気線状の線ならぬ。口部無文帯に沈線と右下から突いた点列。文様下に厚層2条、その下に沈線。厚層は突起下で口辺まで上昇し厚層間に下から突いた点列。上昇した厚層上には場所により取みまたは点列がある。	00RL・00LRを併用、自身の厚層の別離部は構造が異なる。口端に00LR。	口部外面に炭化物、年部外面に炭化物の痕跡。	推定口径36cm。
		68-152-i	007		144	1								
		68-152-c	004		141	5								
		69-153-d	003		137	1								
		70-154-d	006		153	2								
		69-154-c	004		142	3	中、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、水平、平	口部の凹溝上下に右下から突いた点列。	00RL、口部に押捺せず。	口部外面に炭化物。	
V-69 13-364		69-154-b	004		142	2								
		69-154-b	006		147	1								
		69-154-c	007		152	2	粗、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、主に水平。	口端外角に線ならぬ押入れ、口部無文帯に00LRの沈線、文様下に右下から突いた点列。	00RL、口端にあり、口部文様を避ける。	口部外面に炭化物顕著。	
		70-157	001		1	1								
V-70 13-164		70-153-c	001,002		125	9	中、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、水平。	口端に上。突起状では沈線加わる。口部凹溝のち条線地に沈線と点列。文様下凹溝上下に右下から突いた点列。	00RLによる羽状縄文、口部には押捺しないらしい。	口部外面に炭化物。	(1)図 V-7-27 を含む。
		71-153-a	1,2,3,6,7,8	F-10	上	6								
		71-155-a	135		上	1								
		67-154-c	004		150	3								
V-70 13-163a		67-154-c	013	P-29	P-29	1	中、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、水平。	口端に上。口部縄文地に沈線、文様下の凹溝上下に右下から突いた点列。	00RLと00LRを併用、口部には00RLで口辺に達する。	口部外面に炭化物顕著。	
		67-154-c	032		152	2								
		67-154-c	033		153	2								
		71-153-a	421		H-3	1								
V-70 13-163b		66-155-d	002		123	1	中、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、主に水平。	口辺直上の凹溝上に左から突いた点列。	00RLと00LRを併用、底面にも両者。	内面に炭化物。	
		69-155-c	001,002		123	14								
		69-155-c	005		125	2								
		70-156-a	002		124	11	中、少	土 内傾接合面1段露呈。	7類	砂沈む、主に水平。	口部内面を縁、縁多様な沈線か。口端に線ならぬ押入れ。口部無文帯に沈線、文様下に条状の沈線と下から突いた点列。	00RLによる羽状縄文。	口部・体部外面に炭化物。	推定口径35cm、図版 V-15。
V-71 13-360 (N67)		68-158-a	001		130	1								
		68-160-b	36		上	1								
		68-160-c	3		上	2	粗、少	土 内傾接合面1段露呈。	7類	砂や砂浮く、主に水平、鋭に凹み。	口部内面を縁、縁多様な沈線か。口端に線ならぬ押入れ。口部無文帯に沈線、文様下に条状の沈線と下から突いた点列。	00RL、縁部にもあり、口部には押捺せず。	口部・体部外面に炭化物。	推定口径35cm、図版 V-15。
		69-157-d	012		124	67								
		69-157-d	020		131	3								
		69-158-a	003,004		124	23								
V-71 13-431		70-157-a	001		H-1	5								
		70-157-a	002		129	4	粗、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、主に水平。	口端外角に線ならぬ押入れ、口部無文帯に沈線、文様下くびれ上下に右から突いた点列。	00RL、口部に押捺せず。	体上部内面に炭化物。	推定口径27cm。
		70-157-a	004		128	2								
		68-155-b	001,002		126	46								
V-72 13-227		68-155-d	006		124	1	中、少	土 外傾接合面らしいもの1段露呈。	7類	砂沈む、水平。	口端外角に線ならぬ押入れ、口部無文帯に沈線。	00RL、口部押捺せず、口端にあり。	口部外面に炭化物。	228とよく似る。推定口径35cm。
		69-154-a	002		123	5								
		69-154-c	003		150	1								
		69-155-a	002		150	3								
		67-154-d	004		125	1								
		68-155-b	001		126	2								
V-72 13-228		69-154-c	003		150	4	中、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、水平。	口端外角にまばらな押入れ、口辺直下に無文帯、口部縄文地に沈線。	00RL、口辺直下押捺せず、口端にあり。		227とよく似る。
		69-155-a	002		150	10								
		69-155-b	008		150	4								
		70-153-a	004		125	9	中、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、水平、口部に凹み残る。	口辺内面を縁、口端に丸み、口部縄文地に沈線、突起下にはある浮文、文様下に凹溝、その下辺に右下から突いた点列。	00RL、口辺直下と浮文を避ける。	口部外面に炭化物。	推定口径29cm。
V-73 13-174 (N63)		68-156-a	003		124	23	中、多	土 断面滑、接合面露呈せず。	7類	砂沈む、水平、しばしば条。	口辺内面に沈線、口辺突起部箇所を占める。口部無文帯に沈線と、点条浮文。	00RL、文様に及ばず、厚層で不連続だが底面には押捺しない模様。	口部内面に炭化物、内面を縁、縁多様な沈線、縁部外面に炭化物。	図版 V-12。
		68-156-c	002		124	51								
		68-156-d	002		124	25								
		68-157-b	002		128	11								
		67-154-c	033		153	1								
		67-155-a	009		153	1								
		68-154-c	004		150	2								
V-73 13-226 (N66)		68-154-d	003		151	1								
		68-155-c	002		126	1	粗、多	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、水平、反時計、直線状の点、口部を条顕著。	口端外角に線ならぬ押入れ、口部縄文地に縁部穿孔列。	00RL、口辺から底面まで押捺、口端にもあり。	口部内外面、体部内面に炭化物。	図版 V-8。
		68-155-d	002		不明	1								
		68-155-d	004,006		124	50								
		68-155-d	008		126	4								
		69-155-c	002		123	5								
		69-156-a	002		124	5								
V-73 13-470 (N87)		70-155-b	006		164	1								
		70-155-c	005,007		155	5	中、少	土 内傾接合面1段露呈。	7類	砂沈む、水平。	口辺に突起、おそらく対をなす、口部に無文帯。	00RL、押捺しない、口辺直下を避ける。底面に凹溝跡がない。	口部外面・縁部内面に炭化物、前部顕著。	推定口径24cm。
		70-156-c	002		124	2								
		71-155-a	476		中	14								
V-74 13-144 (N86)		67-158-a	004		133	28								
		67-158-a	011,016		134	2	中、少	土 接合面露呈せず。	7類	砂沈む、主に水平。	口辺に突起1個、突起下に浮文、口部に無文帯。	00RL、口辺直下を避ける、縁部直下は中心。	口部外面に炭化物。	推定口径27cm。
		67-158-a	014		186	1								
V-74 13-218		68-155-b	001,002		126	23	粗、少	土 内傾接合面1段露呈。	7類	砂沈む、主に水平。	口端外角を縁、凹溝小さく上下するが偶然か、底辺直下不明な無文帯。	00RL、口辺直上を避ける。	口・体部内外面に炭化物。	推定口径20cm。
		70-153-d	001		125	5								
		70-154-b	002		125	4	中、少	土 接合面露呈せず。	8類	砂沈む、水平、口部に凹み。	口辺内面に沈線、口端外角に丸気線状の沈線、口辺直下無文帯、口部縄文地に沈線。	00RL、口辺直下押捺せず。	口部外面に炭化物。	
V-75 13-225		68-155-c	002,003		126	28	中、少	土 接合面露呈せず。	8類	砂沈む、主に水平。	口辺直下無文帯に沈線、文様下の縁に右から突いた点列。	00RL、口辺直下押捺せず。	口・体部外面に炭化物。	推定口径30cm。
		69-156-b	001		124	1								

V 遺物

表 V-2 続き

図 番号	地区	遺物番号	遺構	層位	点数	土	形状	内面の調整	分類	文様	回転軸文	使用法	備考	
V-75	13-89	66-138-c	76,88,90,116	上	6	中、少	土 接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平、体上部凹凸多い。	8類	口部に無文帯。体上部縄文地に沈線。底辺直上に無文帯。	∞RL。口辺・底辺の無文帯を除く。		推定口径9、体径16cm。	
		66-138-d	38,40,41,42,55	II-1	14	塊								
		70-139-b	23	II-1	1									
V-75	13-438	69-133-c	002		125	7								
		70-133-d	001		125	33	中、少	土 接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	8類	題やかな袋状縁か、口部縄文地に沈線と右から突いた点列。	∞RL。口辺内面にもあり。	口・体部外面に炭化物。補修孔2箇所。	推定口径28cm。
		70-155-a	003		150	2	塊	陳腐せず。						
		70-156-a	003		124	1	や鋭者。							
V-76	13-232	68-149-c	001		111	4	中、少	土 接合面露呈せず。	砂沈むがやや動く箇所あり。水平、回転不明。	8類	口辺縄文地にRL。半周平転らしい。無文帯を挟んで縄文地に沈線と右下から管で突いた点列。	∞RL。口辺内面にも押捺。口部に押捺を避ける機構。	口部外面に炭化物。	推定口径35cm。
		69-149-c	003		111	12	塊							
		70-151-a	001		116	48								
		68-156-d	001		124	54	粗、少	土 接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	8類	口部にRL列、内外角に線らな押え。口部縄文地に沈線。	∞RL。口辺直下・底辺直上押捺せず。底面厚減して不明。	体部内外面わずかに炭化物。補修孔1箇所。	
V-76	13-241 (N49)	69-155-c	002		123	1	塊	陳腐せず。						
		69-155-c	005		125	1	器。							
		65-154-d	001		中	1								
		66-155-c	003		126	1	中、少	土 接合面露呈せず。	砂沈む、水平主体。稀に凹み残る。	8類	口端内角にRL。内外角に線らな押え。口部に楕円形の焼成前穿孔1。	∞RL。0段多か。口辺直下押捺せず。		推定口径14cm。
V-77	13-6 (N73)	66-155-d	005,009		125	5	中、少	土 内傾接合面1段露呈。	砂沈む、主に水平。	8類	口端内面にRL。口端に爪によるらしい刻み。	細かい∞LRが主体だが口部の一部に∞RLもある。口辺直下押捺せず。	口・体部外面に炭化物。	推定口径18cm。図版
		66-155-d	007	F-272	125	1								
		66-155-c	002		123	5								
		66-155-d	007		125	1								
V-77	13-112 (N8)	66-154-c	003		149	6	中、少	土 外傾接合面1段露呈。	砂やや厚く、方向不詳。	8類	口部無文地に沈線。	なし。		図版 V-10。
		66-154-c	003		149	6	中、少	土 外傾接合面1段露呈。	砂やや厚く、方向不詳。	8類	口部無文地に沈線。	なし。		図版 V-10。
		69-150-b	001		105	28	粗、少	土 接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	8類	文様なし。	∞RL。ほぼ口辺に達する。真直にはない。	口・体部内面わずかに炭化物。	図版 V-12。
		69-153-a	001		123	5								
V-77	13-496 (N81)	69-153-a	002		137	1								
		69-153-b	001		123	3								
		69-153-b	002		137	27								
		69-153-d	002	F-461	125	7	粗、多	角 接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	8類	突起口端に点。口部無文地に沈線と押文。のうち調整。突起下に焼成前穿孔1。体上部無文地に沈線と押文。のうち調整。体下部縄文地に沈線。底辺直上無文帯か。	∞RL。体下部に押捺。底辺直上にはない。	体部内面炭化物顯著。	全周に口部押文6、体部押文11。図版 V-14。
V-77	13-392 (N62)	69-153-a	001		123	5								
		69-153-a	002		137	1								
		69-153-b	001		123	3								
		69-153-b	002		137	27								
V-77	13-396 (N31)	69-153-d	002		123	5								
		69-153-d	002		123	5								
		69-153-d	002		123	5								
		69-153-d	002		123	5								
V-77	13-161	69-150-b	001		105	18	中、少	土 接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	8類	口部に焼成前穿孔1。対を成すらしい。	なし。	内面口部に炭化物。	図版 V-12。
		69-157-c	030		211	5	中、多	内傾接合面2段露呈。下向き接合面に段。	砂沈む、水平。	不明縄文	なし。	∞RL。口辺直下の押捺は不連続。	口部外面に炭化物。	
		68-159-b	61		II-1	1								
		69-158-c	152,177,181		中1	8								
V-77	13-336	69-158-c	266		中4	2	中、少	接合面露呈せず。	砂沈むが動く箇所あり。水平、反時計針。	不明縄文	口部に突起らしい箇所があるが不連続。	なし。	体部内外面に炭化物。	推定口径14cm。
		69-159-a	81		中2	1								
		69-159-b	283		器注記	2								
V-77	13-104 (N1)	67-156-c	014		135	2	粗、多	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。軽微な条痕。	不明縄文	口部に突起3箇所。うち1箇所が大型で突起下に焼成前穿孔1対。	∞RL。底面にもあるが口辺直下と突起下を避ける。	口・体部内外面に炭化物。	図版 V-11。
		67-156-c	016		134	9								
V-77	13-305	68-158-d	60		上	17	粗、多	内傾接合面1段露呈。	磨滅して不詳。	不明縄文	なし。	なし。		推定口径17cm。
		68-159-d	64		上	1								
		69-157-c	021		195	6								
		69-158-b	026		195	3	粗、少	内傾接合面1段露呈。	砂沈む箇所と動く箇所あり。水平、緩やかな反時計針上り。急な時計上りなど。	不明縄文	口辺に低い突起複数あると見るべきか。	なし。	口・体部外面に炭化物。	口辺やや不平等で短径10cm。図版 V-13。
V-78	13-187	69-158-c	14		器注記	1								
		69-158-c	146,147,176,177		中1	13								
		67-156-c	014		135	2								
		67-156-c	015	P-37	P-37	7								
V-78	13-254	67-157-b	007		186	2	粗、少	内傾接合面1段露呈。	砂沈む、水平。	不明縄文	口辺直下に低い無文帯。	∞RL。口辺直下押捺せず。	口部外面に炭化物。	推定口径22cm。
		67-157-c	015	F-404	195	1								
		68-156-d	012	P-37	P-37	4								
		68-158-a	053		189	6	中、少	内傾接合面1段露呈。	砂沈む、水平。	不明縄文	なし。	∞RL。口辺直下押捺せず。	内外面に炭化物。補修孔1か所。	内外面に炭化物。補修孔1か所。
V-78	13-259	68-157-b	012		208	1	粗、多	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	不明縄文	口端にRL。内外角の一部に丸底短縁状の刻み。突起口端無文地に管による点。	∞RL。底面にもあり。口辺に達する。	口・体部外面に炭化物。	不平等。
		69-158-a	020		195	1	粗、少	接合面露呈せず。	砂沈む、水平主体。稀に凹み。	不明縄文	体部縄文地に沈線。文様下の屈折に点のある押文と円管による点列。	∞RL。底面にもあり。		推定口径14cm。
V-78	13-330	66-156-c	009		135	1								
		66-156-c	013		181	1	中、少	接合面露呈せず。	砂沈む、水平主体。	不明縄文	口辺直下に不明な無文帯。	∞RL。細かいたく開く。口辺直下に及ばず。	不平等。方形に近いと思われる。	
		66-156-d	009		181	1								
		68-157-a	001		130	9	粗、少	内傾接合面1段露呈。	砂沈む、水平主体。	不明縄文	突起複数あるものらしいが不明。口辺直下に無文帯。	∞RL。細かい。口辺直下押捺せず。		図版 V-11。
V-78	13-248 (N11)	68-157-a	005		134	12	り機。							
		68-157-a	028		219	1								
		68-157-d	019		195	2								
		68-157-d	020		189	1	粗、多	角 接合面露呈せず。	砂沈む、水平。調整による凹凸。	不明縄文	口部無文地に沈線。体上部無文地に沈線と高い浮彫。	∞RL。やや細かい。		推定口径14cm。
V-78	13-173	68-157-d	024	P-52	P-52	1								
		68-158-a	015,028,053		189	5								
		68-158-a	029		194	1								
		68-157-b	009		181	3	中、少	接合面露呈せず。	砂沈む、水平主体。	不明縄文	なし。	∞RL。口辺直下押捺せず。	体・体部内外面に炭化物。	不平等。推定口径16cm。
V-79	13-17	66-156-d	008		136	2								
		66-156-d	009		181	6	粗、少	内傾接合面1段露呈。	砂沈む、水平。	不明縄文	突起口端にRL。突起下に焼成前穿孔1。口辺直下に無文帯。	∞RL。2本あり。底面にも押捺。口辺直下に炭化物。	口・体部内外面に炭化物。	図版 V-13。
V-79	13-199	67-155-d	012		149	1	中、少	土 内傾接合面1段露呈。	砂沈む、主に水平。凹み残る。	不明縄文	中央を刻んだ突起。突起下に焼成前穿孔1と刻みのある押文。口辺直下と底辺直上に無文帯。	∞RL。押捺浅い。押文を避ける。		顕著な不平等。いわゆる角形。
		70-157-d	017		129	8	粗、少	土 接合面露呈せず。	砂沈む、水平主体。	不明縄文	口端に半円形のおぐり込み1箇所。	なし。		図版 V-14。
V-79	13-465	70-158-b	002,003,004		128	29	中、少	土 内傾接合面1段露呈。	砂沈む、水平主体。条痕顯著な箇所あり。	不明縄文	口部無文。口辺突起または袋状縁。	∞RL。口部と底辺直上。底面には押捺せず。		推定口径9、体径16cm。
		71-157-a	57		上	1	塊	陳腐化処理。						
		71-158-a	537		II-1	1								
		68-155-d	005		124	10	中、少	土 接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	不明縄文	口辺に突起複数あるようだが不明。体部屈折に右から突いた点列。	∞RL。口辺直下に達する。		図版 V-13。
V-79	13-329	69-156-a	001	F-648	124	3	粗、少	接合面露呈せず。	砂沈む、方向不明。	不明縄文	口辺に突起か。口部から体部に無文帯。	∞RL。部分的に口部に反ぶ。	内外面に炭化物。	推定口径7cm。
		67-156-b	007		135	3								
		68-156-b	018		189	3								
		68-156-c	010		188	1								
V-79	13-186	68-156-c	013		191	1	粗、少	内傾接合面4段露呈。	砂沈む、水平。	不明縄文	なし。	∞RL。細かい。ほぼ口辺直下まで押捺。	口部外面に炭化物。	
		69-155-c	022		177	1	塊	陳腐化処理。						
		69-156-a	009		128	1								
		69-156-b	009		128	1								
V-79	13-386	69-156-d	039		216	1	中、多	接合面露呈せず。	磨滅して不詳。	不明縄文	なし。	なし。		
		69-156-d	045		206	2								

表 V-2 続き

区	番号	地区	遺物番号	遺構	層位	点数	土	成形	内面の調整	分装	文様	回転開文	使用痕	備考
V-79	13-109 (N6)	69-155-c	008		128	4	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈む、方向不明。	不明 土文	なし。	なし。		全等不等径。図版 V-12。
V-79	13-417 (N79)	70-158-d	不明	不明	不明	0	粗、少。	接合面露呈せず。	砂やや浮く。水平主体。	不明 土文	なし。	なし。		図版 V-14。
V-79	13-126 (N60)	67-158-d	287		中 5	1	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈む、方向不明。	不明 土文	なし。	なし。		全等不等径。図版 V-13。
V-79	13-423 (N28)	67-158-c-d	1	F-115	中 5	3	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈む、方向不明。	不明 土文	なし。	なし。		図版 V-13。
V-79	13-569	66-146-ウ	005		89	5	中、多。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	琉璃 文	口部無文地に沈線と右から突いた点列。	∞RL。口辺内面にもあり。	外面わずかに炭化物。	
V-79	13-568	65-145-イ	001		71	5	粗、少。	外積接合面1段露呈。	砂沈む、主に水平。	琉璃 文	各部無文地に沈線。文様下部に右から突いた点列。	∞RL。文様に及ばず。	体部内外面に炭化物。内面で露呈。	
V-79	13-565	65-145-ウ	001		68	0	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平・垂直。	琉璃 文	体・各部無文地に沈線。沈線内に赤影痕らしいものあり。	なし。		袖縁に近い変ないし跡とみられる。
V-80	13-570	65-147-イ	001		1	4	中、多。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	琉璃 文	突起間口端に RL。口部無文地に RL。	∞RL。突起を避けて口端にもあるが口部押接せず。		
V-80	13-506 (N25)	65-146-ウ	001		1	3	粗、少。	外形接合面1段露呈。	砂沈む、主に水平。体上部系露呈。	琉璃 文	口端に丸底短線状の刻み。口部無文地に L。	∞RL。文様に及ばず。底辺直上・底面にもなし。	口・体部外面に炭化物。	図版 V-14。
V-80	13-564	65-144-ア	001		60	1	中、少。露り強。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。	琉璃 文	口端に丸底短線状の刻み。口辺直下に無文帯か。	R 条による単純結束体。口辺直下を避ける。	内面炭化物露呈。	
V-80	13-563	65-144-ア	001		60	1	粗、多。	接合面露呈せず。	砂沈む、水平。	琉璃 文	口端に円筒方向に加工した刻み。	∞RL。	内面炭化物露呈。補修孔1箇所。	
V-80	13-567	66-145-ウ	001		66	6	粗、少。	内積接合面1段露呈。	砂沈む、主に水平。	琉璃 文	口部無文地に L、R。	∞RL。	口部外面に炭化物。	
V-80	13-571	66-146-エ	002		87	3	中、少。	接合面露呈せず。	砂沈むがやや動く箇所あり。水平、反時計主体。	琉璃 文	口端外角に無文帯。波頂下に焼成前穿孔1対。	∞RL。口辺内面にもあるが口端外角押接せず。	内外面わずかに炭化物。	
V-80	13-566	66-139-イ	001		25	3	中、多。硬化処理。	外形接合面1段露呈。	砂沈む、主に水平。底部に凹み。	琉璃 文	口端に円筒方向に加工した刻み。口部無文地に R。	∞RL。体部以下に押接。	内面に炭化物。	推定口径 16cm。
V-80	13-507	65-142-ウ	001,002		46	18	粗、多。角状。硬化処理。	接合面露呈せず。	砂沈む、主に水平。底部に凹み。	琉璃 文	不明。	∞RL。底面中央にも押接。	底部内面に炭化物。	図版 V-14。
V-80	13-572	65-134-ア	001		攪乱	1	粗、多。	接合面露呈せず。	砂沈む。水平か。	琉璃 文	体部無文面に右下から突いた点列。	∞RL。	外面に炭化物。	
V-80	13-522	66-118-ア	001		3	7	粗、少。	接合面露呈せず。	砂沈むが小さく動く。水平、反時計か。	琉璃 文	なし。	なし。		図版 V-14。

V 遺物

表 V-3 各類型土器の出土層位

分類	13-1類	13-2類	13-3類	13-4類	13-5類	13-6類	13-7類	13-8類	不明縄文	統縄文
生活面										
1-5										7
6-10										
11-15										
16-20										
21-25										3
26-30										
31-35										
36-40										
41-45										
46-50										18
51-55										
56-60										2
61-65										
66-70										6
71-75										6
76-80										
81-85										
86-90										8
91-95										
96-100										
101-105								46		
106-110										
111-115								16		
116-120								48		
121-125				89	268	137	414	151	13	
126-130			11	145	56	93	159	30	53	
131-135			51	204	47	48	112		29	
136-140			2	8	5	67	29	28	2	
141-145					2	6	23			
146-150				46	43	161	56	8	1	
151-155				1	81	26	33			
156-160				2	3	3	1			
161-165				3	4		2			
166-170				24	19	14				
171-175										
176-180		1		27	1	1	3		1	
181-185	1		69	12					11	
186-190	2	29	164	48	103	4	3		20	
191-195	30	40	369	33	95		2		22	
196-200	20	8	61	9		1	2			
201-205		1	144		3		5			
206-210		7	44			1	4		3	
211-215	196	107	102			5			15	
216-220	60	121	28	6					3	
221-225	39	136	25						1	
226-230		21							1	
231-235	38	73							6	
236-240	20	16							101	
241-245		7							8	

平成11年度トレンチ 158-c,d区(生活面の判明するものを除く)

II-1		2	11	5	27		6	14		
II-2-上	1	21	46	59	43		18	6	22	
II-2-中		1	6							
II-2-中(1)	1	19	104	18	5				28	
II-2-中(2)	13	66	19	5	1				7	
II-2-中(3)	42	24	21	25					3	
II-2-中(4)	32	12	7						3	
II-2-中(5)	16								4	
II-2-中(6)										
II-2-下	14	2	2							
II-3										4

生活面・地層不明(土坑・攪乱・1層など)

不明	40	141	127	146	27	19	51	20	22	28
合計	570	857	1,414	915	833	586	923	367	379	78

表 V-4 掲載石器等一覧

1 土坑・集石の遺物												
図番号	名称	遺構名	発掘区	遺物番号	生活面	長さ (cm)	幅・径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	図版番号	備考
図 V-81-1	たたき石	P-30	69-156-d	025		16.8	10.5	3.5	922.7	泥岩	図版 IV-5	
図 V-81-2	加工痕のある礫	P-30	69-156-d	024		18.2	11.2	6.4	1925.5	片岩	図版 IV-5	
図 V-81-3	加工痕のある礫	P-30	69-156-d	026		12.7	15.9	4.2	1352.6	泥岩	図版 IV-5	P-33-1 と接合
図 V-81-1	礫片	P-33	69-156-c	013		6.9	9.8	1.4	107.3	泥岩	図版 IV-5	P-30-3 と接合
図 V-81	接合図	P-30-3 P-33-1				12.7	15.9	4.2	1459.9	泥岩	図版 IV-5	
図 V-81-1	スクレイパー	P-37	68-156-d	066		2.2	1.8	0.6	2.5	黒曜石	図版 IV-7	
図 V-81-1	たたき石	P-41	66-155-d	011		(8.3)	(4.6)	(4.4)	(85.0)	泥岩	図版 IV-6	
図 V-81-1	石鏃	P-48	66-158-ア	059		1.4	1.2	0.3	0.5	黒曜石	図版 IV-6	
図 V-81-1	台石	P-49	67-158-b	105		(12.0)	17.6	4.6	(1443.0)	安山岩	図版 IV-6	被熱
図 V-81-1	石鏃	P-53	68-157-c	028		1.9	(1.2)	0.2	(0.4)	黒曜石	図版 IV-7	
図 V-81-2	スクレイパー	P-53	68-157-c	024		(9.2)	2.7	0.7	(13.1)	黒曜石	図版 IV-7	
図 V-81-1	たたき石	P-56	67-157-d	037		11.0	6.7	3.8	319.2	安山岩	図版 IV-7	被熱
図 V-81-2	台石	P-56	67-157-d	036		8.6	17.2	6.1	1359.9	安山岩	図版 IV-7	
図 V-81-1	石鏃	P-63	67-158-a	084		2.3	1.2	0.3	0.7	黒曜石	図版 IV-7	
図 V-81-2	たたき石片	P-63	67-158-a	083		(8.2)	(5.6)	(3.9)	(298.3)	砂岩	図版 IV-7	
図 V-82-1	スクレイパー	P-65	67-157-a	032		3.6	3.6	1.0	9.6	黒曜石	図版 IV-7	
図 V-82-1	たたき石片	P-67	67-158-b	147		(11.8)	(7.5)	(3.2)	(455.9)	安山岩	図版 IV-7	
図 V-82-1	スクレイパー	P-70	69-157-b	057		2.9	1.7	0.8	3.0	黒曜石	図版 IV-8	
図 V-82-2	台石片	P-70	69-157-b	054		(6.4)	(6.3)	(4.5)	(235.0)	砂岩	図版 IV-8	
図 V-82-1	スクレイパー	P-71	67-158-b	159		5.7	2.0	1.1	7.7	黒曜石	図版 IV-8	
図 V-82-1	砥石	P-92	68-158-b	037		(4.0)	(4.7)	(3.4)	(13.3)	礫石	図版 IV-8	
図 V-82-1	スクレイパー	P-97	66-158-b	047		3.6	2.5	0.7	5.2	黒曜石	図版 IV-8	
図 V-82-1	石鏃	P-98	66-158-b	044		1.8	1.2	0.3	0.4	黒曜石	図版 IV-8	
図 V-82-1	スクレイパー	P-104	68-156-b	022		5.0	2.8	1.0	12.5	黒曜石	図版 IV-8	
図 V-82-1	スクレイパー	P-105	68-156-a	059		12.1	7.2	1.4	100.5	安山岩	図版 IV-8	
図 V-82-1	台石	P-107	67-156-a	016		(14.1)	(11.7)	(7.8)	(1660.6)	砂岩	図版 IV-8	被熱
図 V-82-1	スクレイパー	P-116	66-158-b	060		2.2	1.6	0.6	1.9	黒曜石	図版 IV-8	
図 V-82-1	たたき石	S-5	69-158-a	068	189	13.9	4.0	3.8	342.8	安山岩	図版 IV-17	
図 V-82-2	台石	S-5	69-158-d	001	189	16.2	24.4	5.7	2974.1	安山岩	図版 IV-17	
図 V-82-1	たたき石	S-15	67-158-a	016	134	10.3	5.8	3.5	280.8	安山岩	図版 IV-17	
図 V-82-2	たたき石	S-15	67-158-a	017	134	10.1	(8.9)	4.1	(548.3)	安山岩	図版 IV-17	
図 V-83-3	たたき石	S-15	67-158-a	018	134	12.6	7.2	3.7	430.8	安山岩	図版 IV-17	
図 V-83-4	台石片	S-15	67-158-a	019	134	(8.0)	(11.3)	(6.1)	(926.7)	砂岩	図版 IV-17	被熱
図 V-83-1	たたき石	S-16	70-157-c	017	131	12.5	5.2	4.1	412.8	安山岩	図版 IV-17	
図 V-83-2	たたき石	S-16	70-157-c	018	131	18.7	8.8	5.3	1336.7	安山岩	図版 IV-17	
図 V-83-3	たたき石	S-16	70-157-c	019	131	10.8	6.1	4.3	386.8	安山岩	図版 IV-17	
図 V-83-1	たたき石	S-17	70-157-d	030	134	(14.1)	6.7	4.2	(582.8)	安山岩	図版 IV-18	被熱
図 V-83-2	たたき石	S-17	70-157-d	032	134	13.3	8.9	5.1	786.8	安山岩	図版 IV-18	
図 V-83-1	砥石	S-18	70-157-d	033	134	(15.8)	(13.0)	(5.7)	(796.9)	凝灰岩	図版 IV-18	
図 V-83-2	たたき石片	S-18	70-157-d	034	134	(13.8)	(5.2)	(4.5)	(443.5)	安山岩	図版 IV-18	
図 V-83-3	台石	S-18	70-157-d	035	134	(10.3)	13.5	4.9	(1009.1)	安山岩	図版 IV-18	

2 焼土・包含屑の遺物												
図番号	名称	発掘区	遺物番号	生活面	長さ (cm)	幅・径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	図版番号	備考	
図 V-84-1	石鏃	69-155-b②	004	150	2.2	1.0	0.2	0.4	黒曜石	図版 V-19		
図 V-84-2	石鏃	68-154-d①	002	150	2.5	1.1	0.3	0.7	黒曜石	図版 V-19		
図 V-84-3	石鏃	68-156-ウ④	047	223	1.2	1.0	0.2	0.3	黒曜石	図版 V-19		
図 V-84-4	石鏃	69-158-b③	010	128	2.2	1.3	0.4	0.7	黒曜石	図版 V-19		
図 V-84-5	石鏃	70-155-a③	001	150	(2.2)	1.1	0.2	(0.4)	黒曜石	図版 V-19		
図 V-84-6	石鏃	68-158-a③	003	131	2.3	1.1	0.3	0.5	黒曜石	図版 V-19		
図 V-84-7	石鏃	69-157-c②	010	128	2.7	1.3	0.4	0.9	黒曜石	図版 V-19		
図 V-84-8	石鏃	65-156-c①	007	128	2.5	1.5	0.3	0.9	黒曜石	図版 V-19		
図 V-84-9	石鏃	68-158-a⑦	042	189	(2.0)	1.3	0.4	(0.8)	黒曜石	図版 V-19	両側縁に抉り	
図 V-84-10	石鏃	66-156-ウ②	039	237	1.9	1.3	0.2	0.5	黒曜石	図版 V-19		
図 V-84-11	石鏃	67-158-b⑨	119	195	2.0	1.9	0.4	0.8	黒曜石	図版 V-19		

V 遺物

表 V-4 続き

図番号	名称	発掘区	遺物番号	生活面	長さ (cm)	幅・径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	図版番号	備 考
図 V-84-12	石鏃	69-158-b⑩	079	195	2.1	1.0	0.3	0.5	黒曜石	図版 V-19	
図 V-84-13	石鏃	67-156-c③	015	128	2.2	1.1	0.4	0.7	黒曜石	図版 V-19	被熱
図 V-84-14	石鏃	66-157-c①	009	181	2.2	1.3	0.5	0.6	泥岩	図版 V-19	
図 V-84-15	石鏃	67-157-a①	004	134	(2.3)	1.3	0.5	(1.2)	黒曜石	図版 V-19	
図 V-84-16	石鏃	67-157-a④	013	189	2.9	1.9	0.5	1.8	黒曜石	図版 V-19	
図 V-84-17	石鏃	70-158-b④	059	133	3.3	1.3	0.5	1.9	頁岩	図版 V-19	F-341・アスファルト接着痕
図 V-84-18	石鏃	69-156-エ⑮	049	225	2.1	1.2	0.4	0.7	黒曜石	図版 V-19	菱形
図 V-84-19	石鏃	68-156-c①	002	124	(3.0)	0.9	0.5	(1.0)	黒曜石	図版 V-19	
図 V-84-20	石鏃	66-154-c②	011	149	(2.0)	(2.7)	0.7	(3.3)	黒曜石	図版 V-19	
図 V-84-21	つまみ付きナイフ	69-155-b②	002	150	8.4	2.7	0.7	21.4	黒曜石	図版 V-19	
図 V-84-22	スクレイパー	66-155-c①	003	123	2.9	3.6	0.8	8.2	黒曜石	図版 V-19	
図 V-84-23	スクレイパー	67-156-c④	025	131	5.7	2.4	0.7	8.8	黒曜石	図版 V-19	
図 V-84-24	スクレイパー	70-157-d③	016	130	6.6	3.4	0.8	25.3	黒曜石	図版 V-19	被熱
図 V-84-25	スクレイパー	65-155-エ④	006	187	6.4	3.0	1.0	18.2	黒曜石	図版 V-19	
図 V-84-26	スクレイパー	69-154-a①	002	123	10.2	5.1	1.4	92.8	黒曜石	図版 V-19	
図 V-84-27	スクレイパー	66-158-a⑤	019	189	11.8	5.9	1.4	123.3	安山岩	図版 V-19	
図 V-84-28	スクレイパー	69-158-b②	004	124	5.8	4.0	1.4	31.1	黒曜石	図版 V-19	
図 V-85-29	スクレイパー	66-152-d①	001	139	9.4	5.6	1.1	52.6	輝石安山岩	図版 V-19	
図 V-85-30	スクレイパー	70-157-d②	003	129	7.4	6.0	1.1	49.1	頁岩	図版 V-19	
図 V-85-31	スクレイパー	67-156-c④	020	131	4.9	3.6	1.0	12.6	黒曜石	図版 V-19	
図 V-85-32	スクレイパー	66-156-ウ⑳	031	235	2.9	3.0	0.8	4.0	黒曜石	図版 V-19	
図 V-85-33	石斧	69-156-d①	001	124	8.9	2.9	1.3	62.6	片岩	図版 V-19	
図 V-85-34	石斧	68-157-c③	053	134	12.3	4.0	1.6	124.4	緑色泥岩	図版 V-19	
図 V-85-35	石斧	68-157-d⑥	055	195	15.4	6.2	4.3	647.5	緑色泥岩	図版 V-19	
図 V-85-36	石斧	67-158-ア⑦	045	194	15.8	4.4	3.2	417.3	カンラン岩	図版 V-19	F-396
図 V-86-37	砥石片	69-157-b⑩	041	213	16.0	(10.7)	2.1	(432.3)	砂岩	図版 V-19	
図 V-86-38	砥石片	66-156-a③	006	124	16.6	(15.7)	4.3	(530.0)	凝灰岩	図版 V-19	
図 V-86-39	すり石片	68-157-d⑧	057	218	(8.7)	6.2	4.7	(318.0)	砂岩	図版 V-20	
図 V-86-40	たたき石	66-158-a②	011	132	13.1	8.0	6.4	659.1	砂岩	図版 V-20	
図 V-86-41	たたき石	69-158-b③	014	128	10.4	6.2	4.3	353.2	珪岩	図版 V-20	
図 V-86-42	たたき石	69-155-a②	003	150	14.0	5.0	3.0	366.0	安山岩	図版 V-20	
図 V-86-43	たたき石	70-157-ア⑭	043	227	16.6	4.6	3.3	441.5	砂岩	図版 V-20	
図 V-86-44	台石	70-158-ウ④	007	131	9.1	12.9	3.1	543.2	安山岩	図版 V-20	
図 V-87-45	台石	69-157-b③	028	130	18.5	24.9	6.6	3420.0	砂岩	図版 V-20	いかり石
図 V-87-46	石製品	68-154-d①	008	150	1.3	1.4	0.9	2.9	滑石	図版 V-21	玉
図 V-87-47	石製品	70-157-a⑨	028	196	1.6	1.7	0.9	(3.0)	カンラン岩	図版 V-21	玉
図 V-87-48	石製品	67-154-a②	001	125	2.1	2.1	1.2	2.9	カンラン岩	図版 V-21	玉・風化する
図 V-87-49	土製品	70-157-d②	010	129	1.7	1.4	1.3	2.9		図版 V-21	玉
図 V-87-50	土製品	67-156-c⑤	011	134	1.6	1.4	1.4	2.8		図版 V-21	玉
図 V-87-51	土製品	69-156-d①	018	124	1.4	1.3	1.2	1.9		図版 V-21	玉
図 V-87-52	土製品	70-158-b⑩	033	196	(2.5)	(1.2)	0.7	(1.9)		図版 V-21	勾玉
図 V-87-53	土製品	69-156-a①	003	124	3.3	1.5	1.1	(5.7)		図版 V-21	勾玉
図 V-87-54	土製品	66-158-a①	031	123	(4.0)	1.6	1.2	(5.7)		図版 V-21	勾玉
図 V-87-55	土製品	67-158-b④	007	132	4.5	1.3	1.4	(9.1)		図版 V-21	勾玉
図 V-87-56	土製品	65-158-ア②	003	245	3.3	2.1	1.1	6.2		図版 V-21	勾玉
図 V-87-57	土製品	66-156-ア⑩	023	217	(1.8)	(2.1)	(0.5)	(2.0)		図版 V-21	
図 V-87-58	土製品	66-156-ア⑪	023	217	(1.9)	(2.2)	(0.7)	(3.5)		図版 V-21	
図 V-87-59	土製品	67-155-c⑨	017	177	2.0	2.2	1.1	3.3		図版 V-21	
図 V-87-60	土製品	70-157(1)解	003		(2.3)	(1.8)	0.9	(2.6)		図版 V-21	
図 V-88-61	土製品	68-158-d	F-120-2	211	9.3	4.8	3.0	91.0		図版 V-21	クマと見られる土製品
図 V-88-62	石鏃	66-138-エ①	001	25	3.2	1.6	0.4	2.0	黒曜石	図版 V-20	三角鏃平基
図 V-88-63	石鏃	65-138-ウ①	001	25	3.3	1.1	0.4	1.2	黒曜石	図版 V-20	
図 V-88-64	石鏃	65-141-ウ②	001	43	3.3	1.1	0.4	1.5	黒曜石	図版 V-20	太い茎部がある
図 V-88-65	つまみ付きナイフ	66-135-ウ①	001	16	5.2	2.9	0.9	12.8	玉髄	図版 V-20	
図 V-88-66	スクレイパー	66-148-エ①	001	106	4.7	2.0	0.8	6.3	黒曜石	図版 V-20	
図 V-88-67	スクレイパー	66-148-ウ①	001	105	4.2	2.6	1.5	18.8	黒曜石	図版 V-20	
図 V-88-68	たたき石	66-118-ア①	001	1	9.5	4.4	4.1	138.3	泥岩	図版 V-20	
図 V-88-69	たたき石	65-138-ウ①	009	25	14.7	5.5	2.6	376.7	砂岩	図版 V-20	

## VI 自然科学的分析

### 1 年代測定結果

本節では平成 14 年度に当財団が株式会社地球科学研究所に委託した年代測定の成果として提出された「放射性炭素年代測定結果報告書」（平成 15 年 2 月 17 日付け）の中から対雁 2 遺跡関係部分を掲載する。測定の対象となった試料 TK2-41・42 の採取位置・内容などは表 VI-1 のとおりである。

2 試料とも付近に土器を伴わない焼土から採取しており考古学上の相対年代を確定しがたいが、TK2-41 は縄文時代前葉の土器が出土した 67-62~63 面より確実に上位、また TK2-41 は従来発掘した範囲でもっとも上位の地層に形成された焼土からの採取であり、当遺跡の年代の新しい部分を代表するものである。  
(酒井)

表 VI-1 年代測定試料一覧（地球科学研究所実施分）

試料名	地区	層面	生活面	遺構名	試料採取方法	試料内容	備考
TK2-41	65-137-ア	67-59b と 59.1 の間	生活面 21	F-736	比較的大型の炭化木材を現場で固定、取り上げ。	炭化木片 0.07g (乾)	実体顕微鏡を用いて 2 年輪位を切り取り
TK2-42	66-113-ア・イ	67-3.2/4.2 より上	生活面 1	F-756	比較的大型の炭化木材を現場で固定、取り上げ。	炭化木片 0.08g (乾)	実体顕微鏡を用いて 2 年輪位を切り取り

放射性炭素年代測定結果報告書

株式会社地球科学研究所

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

#### 報告内容の説明

- $^{14}\text{C}$  age (y BP) :  $^{14}\text{C}$  年代 “measured radiocarbon age”  
試料の  $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$  比から、単純に現在 (1950 年 AD) から何年前 (BP) かを計算した年代。半減期はリビーの 5568 年を用いた。
- 補正  $^{14}\text{C}$  age (y BP) : 補正  $^{14}\text{C}$  年代 “conventional radiocarbon age”  
試料の炭素安定同位体比 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定して試料の炭素の同位体分別を知り  $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$  の測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。  
試料の  $^{13}\text{C}$  値を -25 (‰) に標準化することによって得られる年代値である。  
暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。
- $\delta^{13}\text{C}$  (permil) : 試料の測定  $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$  比を補正するための  $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$  比。  
この安定同位体比は、下式のように標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表現する。



VI 自然科学的分析

$$\delta^{13}\text{C} (\text{‰}) = \frac{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C}) [\text{試料}] - (^{13}\text{C}/^{12}\text{C}) [\text{標準}]}{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C}) [\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、 $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$  [標準] = 0.0112372 である。

暦年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の測定、サンゴのU-Th年代と $^{14}\text{C}$ 年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース (“INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration” Stuiver et al., 1998, Radiocarbon 40 (3)) により約19000yBPまでの換算が可能となった。\*

\*但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

“The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pg. 317-322, 1993 : A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP.

Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a “best fit” compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that the future refinements can be applied to your results.”

測定方法などに関するデータ

測定方法	AMS	: 加速器質量分析
	Radiometric	: 液体シンチレーションカウンタによるβ線計数法
処理・調整・その他		: 試料の前処理、調整などの情報
前処理	acid-alkali-acid	: 酸-アルカリ-酸洗浄
	acid washes	: 酸洗浄
	acid etch	: 酸によるエッチング
	none	: 未処理
調整、その他		
	Bulk-Low Carbon Material	: 低濃度有機物処理
	Bone Collagen Extraction	: 骨、歯などのコラーゲン抽出
	Cellulose Extraction	: 木材のセルローズ抽出
	Extended Counting	: Radiometric による測定の際、測定時間を延長する
分析機関	BETA ANALYTIC INC.	
	4985 SW 74 Court, Miami, FL, U.S.A. 33155	

別表 C14年代測定結果

試料データ	C14年代 (y BP) (Measured C14 age)	δ13C (permil)	補正 C14年代 (y BP) (Conventional C14 age)
Beta-174540	2290±40	-26.0	2270±40
試料名 (21746) TK2-41	測定方法、期間	AMS-Standard	
試料種、前処理など	charred material, acid/alkali/acid		
Beta-174541	1760±40	-26.1	1740±40
試料名 (21747) TK2-42	測定方法、期間	AMS-Standard	
試料種、前処理など	charred material, acid/alkali/acid		

年代値はRCYBP (1950A.D.を0年とする) で表記。モダンリファレンススタンダードは国際的な慣例としてNBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリピーの5568年を使用した。エラーは1シグマ (68%確率) である。

## CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26;lab\_mult=1)

Laboratory number: **Beta-174540**

Conventional radiocarbon age: **2270 ± 40 BP**

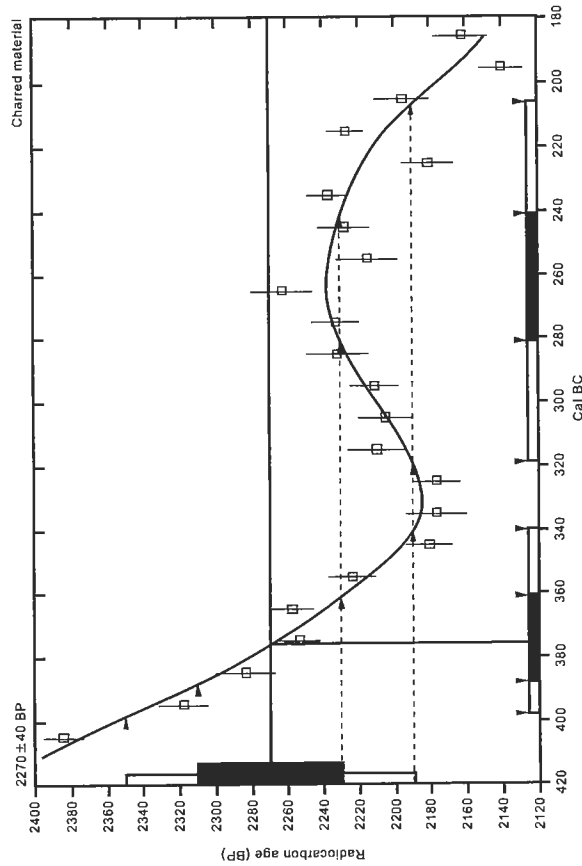
2 Sigma calibrated result: Cal BC 400 to 340 (Cal BP 2350 to 2290) and  
(95% probability)  
Cal BC 320 to 210 (Cal BP 2270 to 2160)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age  
with calibration curve:

Cal BC 380 (Cal BP 2330)

1 Sigma calibrated result: Cal BC 390 to 360 (Cal BP 2340 to 2310) and  
(68% probability)  
Cal BC 280 to 240 (Cal BP 2230 to 2190)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., *van der Plicht, H.*, 1998, *Radiocarbon* 40 (3), p.iii-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., *et al.*, 1998, *Radiocarbon* 40 (3), p.1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., *Vogel, J. C.*, 1993, *Radiocarbon* 35(2), p.317-322

**Beta Analytic Inc.**

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: [beta@radiocarbon.com](mailto:beta@radiocarbon.com)

## CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26;lab\_mult=1)

Laboratory number: **Beta-174541**

Conventional radiocarbon age: **1740 ± 40 BP**

2 Sigma calibrated result: Cal AD 220 to 400 (Cal BP 1730 to 1550)  
(95% probability)

Intercept data

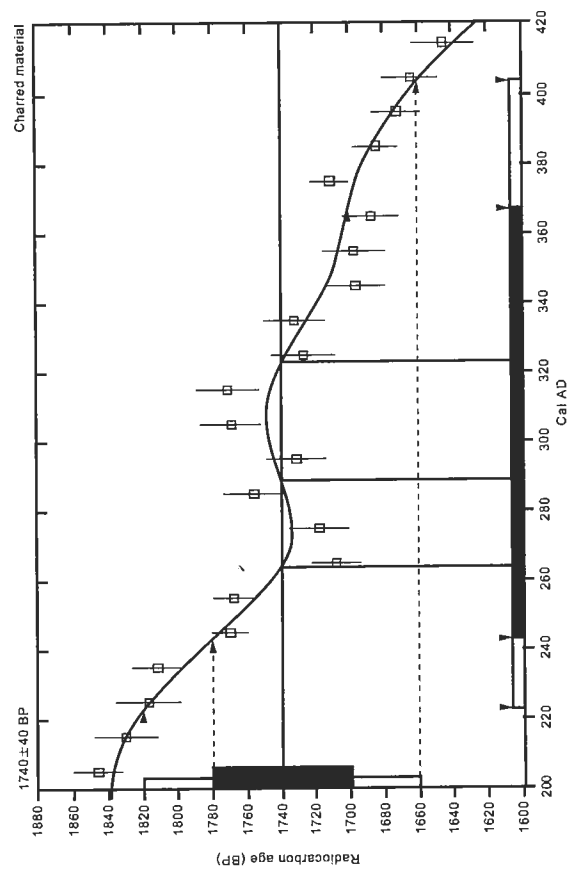
Intercepts of radiocarbon age  
with calibration curve:

Cal AD 260 (Cal BP 1690) and

Cal AD 290 (Cal BP 1660) and

Cal AD 320 (Cal BP 1630)

1 Sigma calibrated result: Cal AD 240 to 370 (Cal BP 1710 to 15 80)  
(68% probability)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., *van der Plicht, H.*, 1998, *Radiocarbon* 40 (3), p.iii-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., *et al.*, 1998, *Radiocarbon* 40 (3), p.1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., *Vogel, J. C.*, 1993, *Radiocarbon* 35(2), p.317-322

**Beta Analytic Inc.**

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: [beta@radiocarbon.com](mailto:beta@radiocarbon.com)

## 2 対雁2遺跡の自然科学分析

平成13年度に対雁2遺跡の古環境調査の目的でおこなった自然科学分析の報告を本節に掲載する。調査は当財団の委託によりパリノ・サーヴェイ株式会社が実施したものであり、分析試料は同社職員が現地調査にともなって採取したが、年代測定用試料の一部のみ当財団が採取し、同社に送付した。その内容を表VI-2に示す。

この報告により縄文晩期の古環境については一定の自然科学的知見が得られ、遺跡が河成層中に形成されているとの判断がある程度裏付けられたものと考えている。なお平成14年度には調査方格149線以西を対象に同社に委託して同様の調査をおこなっており、縄文時代の古環境についても来年度以降自然科学的知見を報告できる見込みである。 (西脇)

表VI-2 年代測定試料一覧 (パリノ・サーヴェイ実施分)

遺構名	地区	層面	生活面	採取方法	試料内容
F-598	69-149-a,d	69-1.4	生活面 111	フローテーション試料 13-435 の浮遊物から肉眼で抽出。	ヤマブドウ種子、5 個体以上、0.10g
F-463	68-153-c	69-21.3 より上	生活面 137	フローテーション試料 13-431 の残渣から肉眼で抽出。	オニグルミ種子、単一個体、0.11g
F-622	69-156-d	69-36.1 より上	生活面 191	パリノ・サーヴェイ報文参照	同左
F-425	69-158-a	69-34.3 と 36.1 の間	生活面 195	フローテーション試料 13-219 の残渣から肉眼で抽出。	オニグルミ種子、単一個体、0.18g
F-527	69-157-a	69-43b と 45b の間	生活面 213	フローテーション試料 13-393 の残渣から肉眼で抽出。	オニグルミ種子、単一個体、0.25g

### 対雁2遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

対雁2遺跡は、石狩川左岸の河川敷内にあり、旧豊平川との合流点よりも上流側で、標高8mほどの微高地に立地する。これまでの発掘調査によって、縄文時代晩期末の遺構、遺物が検出されているが、特に焼土が多く確認されている。本遺跡内の堆積物は、基本的には石狩川ならびにその支流の豊平川よってもたらされた河川性の氾濫堆積物であるとみられ、遺跡形成当時は微高地であったと推定されている。今回は、焼土が作られた時期を確認する目的で、放射性炭素年代測定を行う。また、本遺跡が展開されていた当時の古環境を推定する目的で、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析を行う。さらに、検出された焼土について、微細遺物分析と植物珪酸体分析を行うことにより、燃料材や植物質食糧など当時の生業に関する情報を得る。

#### (1) 試料

放射性炭素年代測定は、調査区の5遺構 (F-598・F-463・F-622・F-425・F-527) から採取された炭化したオニグルミやヤマブドウの種実を用いる (図1)。遺構・試料の詳細については、結果とあわせて表1に示す。

古環境推定に用いる試料は、69ラインメインセクションから採取されたもので、2つの地点 (第1地点、第2地点) を設定し試料を採取した (図1・2)。この中から目的を考慮して各分析資料の選択

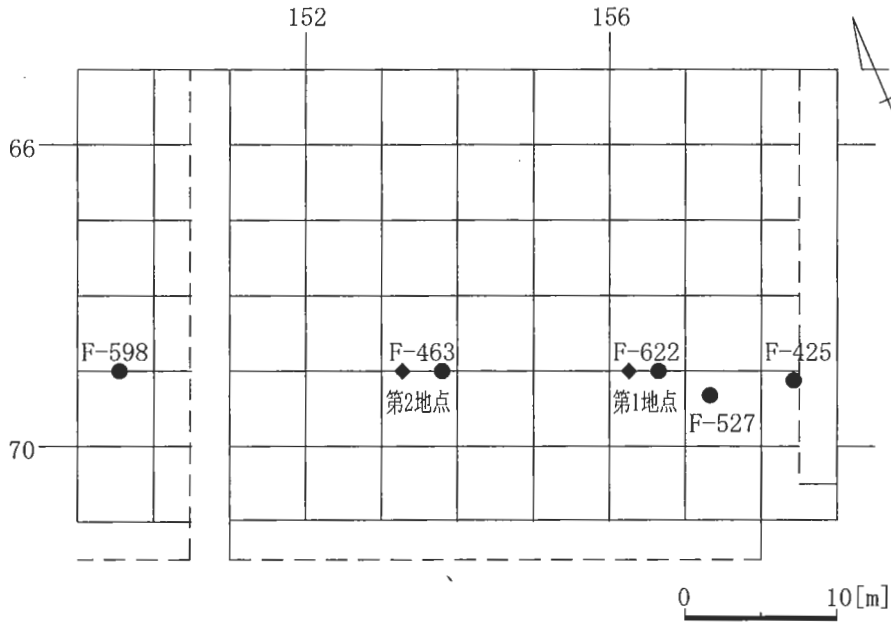


図1 年代測定用試料採取位置

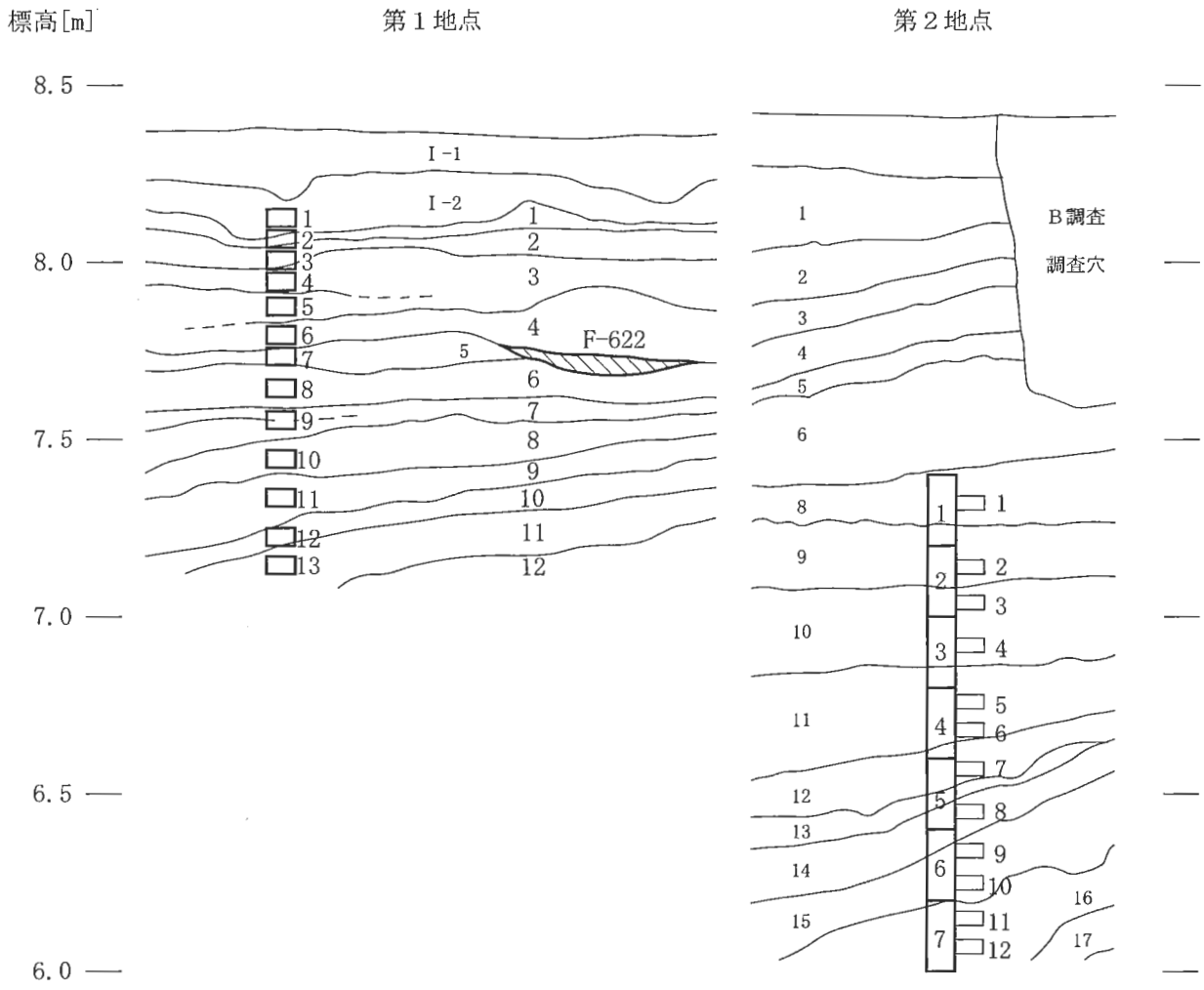


図2 各地点の断面図および試料採取位置

## VI 自然科学的分析

を行った。第1地点より採取した試料は、試料番号1~13の13点である。珪藻分析は全点(13点)、花粉分析は試料番号2・10・13の3点、植物珪酸体分析は試料番号2・4・7・10~13の7点の分析を行った。第2地点からは、長さ20cmのブロック状に試料を7点採取した。これを室内にて層位を考慮しながら12点(1~12)の試料を採取し、これを分析に用いる。珪藻分析は全点(12点)、花粉分析は試料番号2、3、5、7、10の計5点、植物珪酸体分析は、1、2、3、5、7~11の計9点について分析を実施する。また1地点脇の焼土遺構(F-622)から検出された焼土混じりの土壌は、植物珪酸体分析・微細遺物分析を実施する。

### (2) 分析方法

#### a 放射性炭素年代測定

測定は、株式会社加速器分析研究所の協力を得た。

#### b 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料はこの限りではない)。種の同定は、原口ほか(1998)、Krammer(1992)、Krammer and Lange-Bertalot(1986,1988,1991a,1991b)などを参照する。

同定結果は、海水生種、汽水生種、淡水~汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析は、海水~汽水生種については小杉(1988)、淡水生種については安藤(1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内(1991)、汚濁耐性については、Asai and Watanabe(1995)の環境指標種を参考とする。

#### c 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛:比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉍物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

#### d 植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理(70W、250KHz、1分間)、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、

表 1 放射性炭素年代測定結果

遺構名	遺構標高 m	試料内容	重量 g	測定年代 BP	$\delta^{13}\text{C}\%$	補正年代 BP	Code.No.
F-598	7.58~62	ヤマブドウ種子 (複数個体)	0.10	2420±30	-23.75±0.90	2450±30	IAAA-10387
F-463	8.02~10	オニグルミ殻 (単一個体)	0.11	2460±30	-24.15±1.04	2480±30	IAAA-10388
F-622	7.70~76	オニグルミ殻	0.10	2550±30	-28.25±0.94	2500±30	IAAA-10389
F-425	7.64~71	オニグルミ殻 (単一個体)	0.18	2580±30	-26.17±0.90	2560±30	IAAA-10390
F-527	7.33~37	オニグルミ殻 (単一個体)	0.25	2520±30	-28.02±1.12	2470±30	IAAA-10391

(1) 測定年代および補正年代は、1950 年を基点に何年前であることを示した値。

(2) 誤差は、標準偏差 (ONE SIGMA) に相当する年代。

ブリュラックスで封入してプレパラートを作製する。

400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部 (葉身と葉鞘) の葉部短細胞に由来した植物珪酸体 (以下、短細胞珪酸体と呼ぶ) および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体 (以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ) を、近藤・佐瀬 (1986) の分類に基づいて同定・計数する。

なお、F-622 試料では珪化組織片の産出に注目した。植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈している。植物体が土壤中に取り込まれた後は、ほとんどが土壌化や攪乱などの影響によって分離し単体となるが、植物が燃えた後の灰には組織構造が珪化組織片などの形で残されている場合が多い (例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社 1993)。そのため、珪化組織片の産状により当時の燃料材などの種類が明らかになると考えられる。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。

#### e 微細遺物分析

試料を湿重量で約 1kg 採取し、数%の水酸化ナトリウム水溶液に浸して放置、試料を泥化させる。0.5mm の篩を通して水洗し、残渣を集める。残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、その形態的特徴から種類を同定する。

### (3) 結果

#### a 放射性炭素年代測定

測定結果を表 1 に示す。F-598 遺構から採取された炭化物は約 2450 年前、F-463 遺構から採取された炭化物は約 2480 年前、F-622 遺構から採取された炭化物は約 2500 年前、F-425 遺構から採取された炭化物は約 2560 年前、F-527 遺構から採取された炭化物は約 2470 年前の測定年代値を示す。なお、 $\delta^{13}\text{C}$  の値は、加速器を用いて試料炭素の  $^{13}\text{C}$  濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定し、標準試料 PDB (白亜紀のベレムナイト類の化石) の測定値を基準として、それからのずれを計算し、千分偏差 (‰; パーミル) で表したものである。今回の試料の補正年代は、この値に基づいて補正をした年代である。

#### b 珪藻分析

結果を表 2、図 3 に示す。1 地点の 13 試料全てと 2 地点の試料番号 1 は珪藻化石が少なかったが、それ以外の 2 地点の 11 試料 (試料番号 2~12) は産出する。化石が産出した試料の完形殻の出現率は、70% 前後である。産出分類群数は、合計で 43 属 142 種類である。地点別に珪藻化石群集の特徴を述べる。

1 地点 1 地点は、珪藻化石の産出が極めて少なく、産出種のほとんどは壊れたり溶解していた。主な産出種は、*Achnanthes lanceolata*、*Cymbella sinuata*、*Cocconeis placentula* var. *lineata* などの流









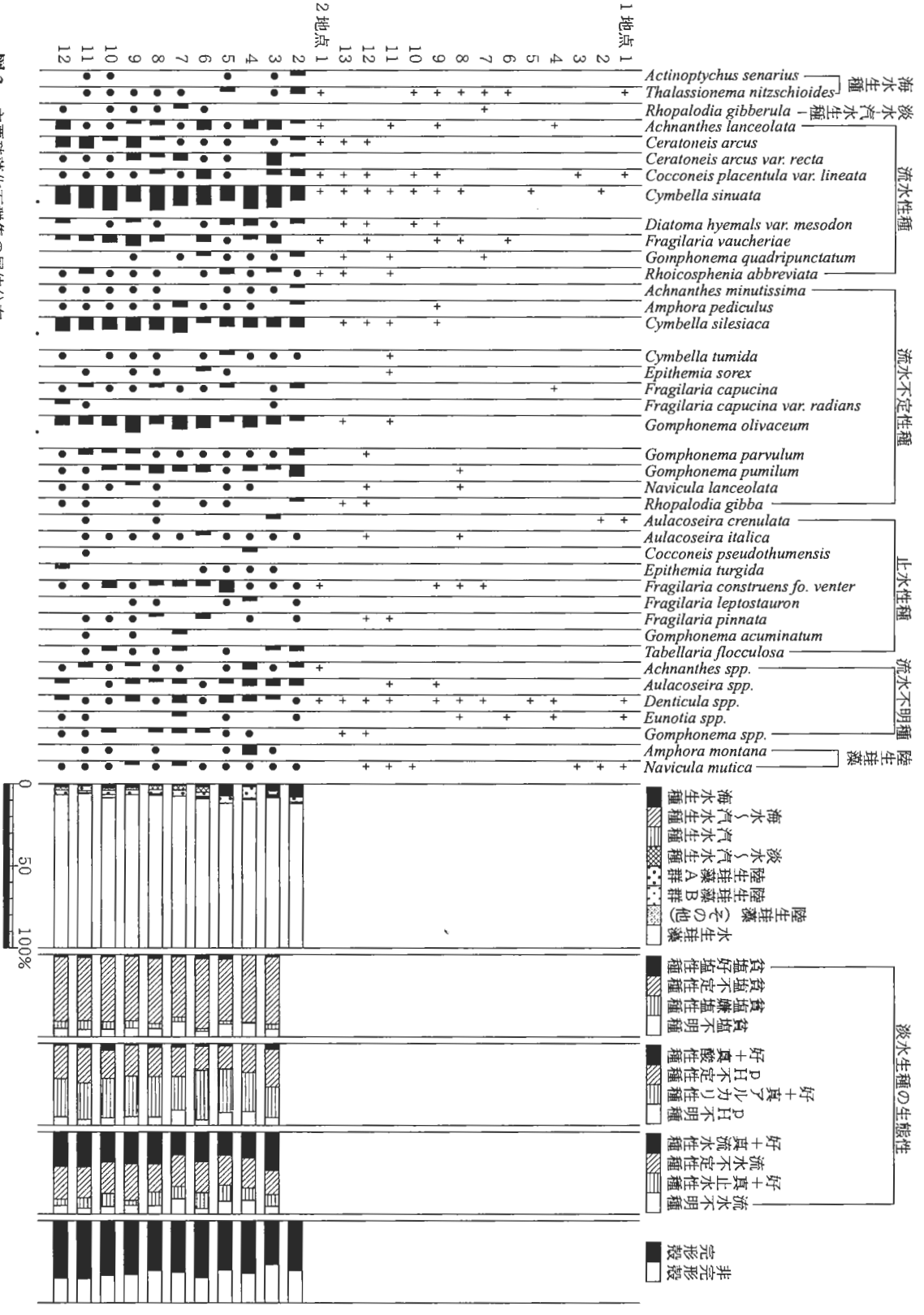
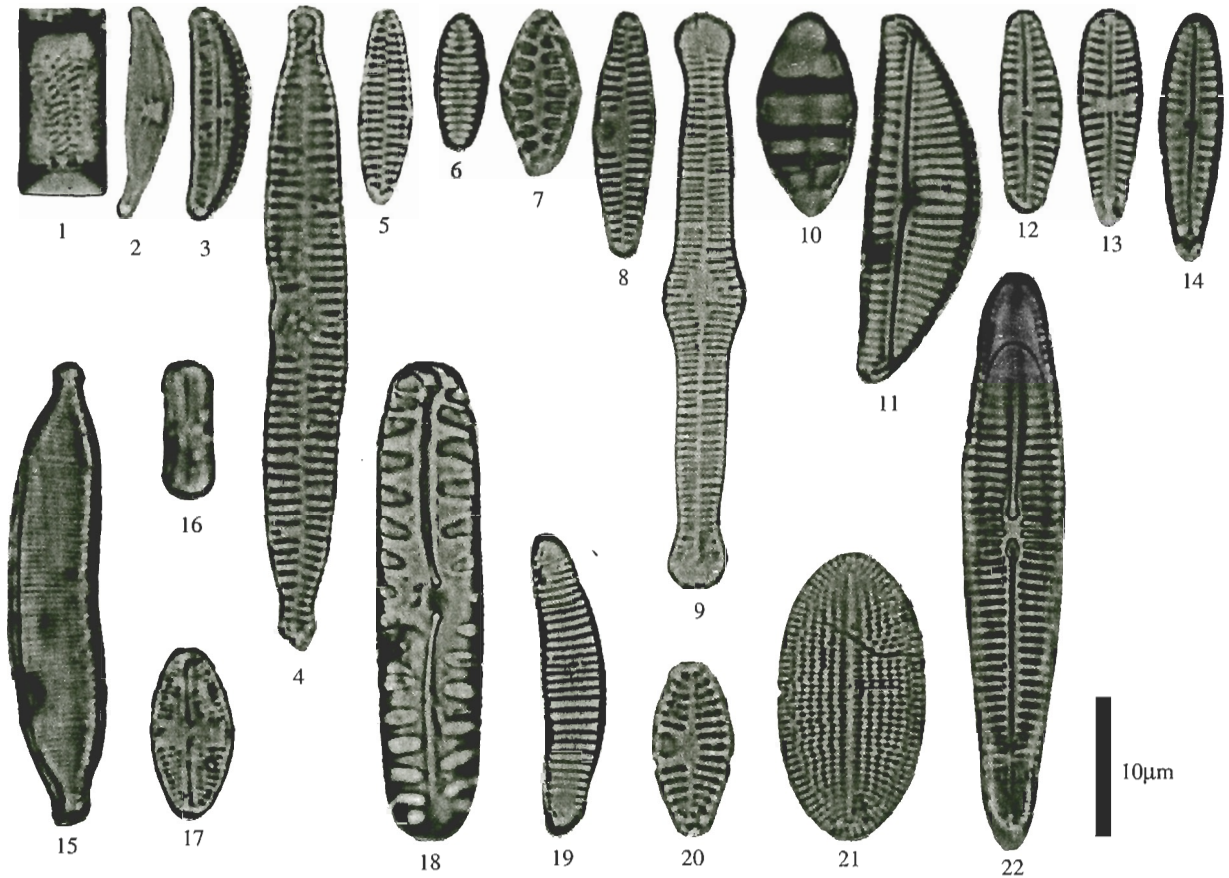


図3 主要珪藻化石群集の属位分布  
海水-汽水-淡水生種産出率・各種産出率・完形産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。  
いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は2%未満、+は100個体未満の試料について検出した種類を示す。



- |   |  |
|---|--|
| 1. <i>Aulacoseira crenulata</i> (Ehr.) Krammer (2地点; 3)                   | 12. <i>Cymbella sinuata</i> Gregory (1地点; 10)                                  |
| 2. <i>Amphora montana</i> Krasske (2地点; 4)                                | 13. <i>Gomphonema olivaceum</i> (Lyngb.) Kuetzing (2地点; 3)                     |
| 3. <i>Amphora pediculus</i> (Kuetz.) Grunow (2地点; 5)                      | 14. <i>Gomphonema pumilum</i> (Grun.) Reichardt & Lange-Bertalot (2地点; 2)      |
| 4. <i>Ceratoneis arcus</i> var. <i>recta</i> (Cl.) Krasske (2地点; 3)       | 15. <i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow (1地点; 2)                         |
| 5. <i>Fragilaria construens</i> fo. <i>venter</i> (Ehr.) Hustedt (1地点; 7) | 16. <i>Navicula contenta</i> Grunow (1地点; 1)                                   |
| 6. <i>Fragilaria exigua</i> Grunow (1地点; 7)                               | 17. <i>Navicula mutica</i> Kuetzing (1地点; 1)                                   |
| 7. <i>Fragilaria pinnata</i> Ehrenberg (1地点; 12)                          | 18. <i>Pinnularia borealis</i> var. <i>scalaris</i> (Ehr.) Rabenhorst (1地点; 7) |
| 8. <i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.) Petersen (1地点; 12)               | 19. <i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst (1地点; 8)   |
| 9. <i>Tabellaria flocculosa</i> (Roth) Kuetzing (2地点; 2)                  | 20. <i>Achnanthes lanceolata</i> (Breb.) Grunow (1地点; 9)                       |
| 10. <i>Diatoma hyemale</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.) Kirchner (2地点; 2)   | 21. <i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve (1地点; 10)     |
| 11. <i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch (1地点; 12)                           | 22. <i>Rhoicosphenia abbreviata</i> (Ag.) Lange-B. (2地点; 2)                    |

図版1 珪藻化石

水域に生育する種類や *Cymbella silesiaca* 等の流水域にも止水域にも生育する流水不定性種、それに *Thalassionema nitzschioides* 等の海水生種などがみられる (図版1)。

2 地点 試料番号2~12から淡水生種が多く産出する。淡水性種の生態性(塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応能)の特徴はいずれの試料とも近似しており、貧塩不定性種(少量の塩分には耐えられる種)、真+好アルカリ性種(pH7.0以上のアルカリ性水域に最もよく生育する種)とpH不定性種(pH7.0付近の中性水域に最も良く生育する種)、流水不定性種(流水域にも止水域にも普通に生育する種)と真+好流水性種(流水域に最もよく生育する種)が多産する。産出種の特徴は近似しており、好流水性で中~下流性河川指標種群の *Cymbella sinuata*、*Achnanthes lanceolata*、*Ceratoneis arcus*、*Diatoma hyemale* var. *mesodon*、*Fragilaria vaucheriae*、流水不定性の *Cymbella silesiaca*、*Gomphonema olivaceum*、*G. pumilum* 等が産出する(図版1)。なお中~下流性河川指標種群とは、河川中~下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現することから、その環境を指標することができる種群である(安藤1990)。

表3 花粉分析結果

種 類	1地点			2地点				
	試料番号2	10	13	試料番号2	3	5	7	10
木本花粉								
マツ属複雑管束亜属	-	1	-	-	-	-	1	-
カバノキ属	-	-	-	-	-	1	-	-
ハンノキ属	1	-	-	-	-	1	1	-
ブナ属	1	-	-	1	-	-	-	-
コナラ属コナラ亜属	-	-	-	-	-	-	1	-
クロウメモドキ科	-	1	-	-	-	-	-	-
ツツジ科	-	-	-	-	-	-	1	-
草本花粉								
オミナエシ属	-	-	-	-	1	-	-	-
オナモミ属	-	-	-	-	-	-	1	-
不明花粉	-	1	-	-	-	-	-	-
シダ類孢子								
シダ植物孢子	3	-	-	-	2	38	6	4
合 計								
木本花粉	2	2	0	1	0	2	4	0
草本花粉	0	0	0	0	1	0	1	0
不明花粉	0	1	0	0	0	0	0	0
シダ類孢子	3	0	0	0	2	38	6	4
総計 (不明を除く)	5	2	0	1	3	40	11	4

表4 植物珪酸体分析結果

種 類	1地点							2地点										F-622 覆土
	試料番号2	4	7	10	11	12	13	試料番号1	2	3	5	7	8	9	10	11		
イネ科葉部短細胞珪酸体																		
タケ亜科	4	1	-	-	1	1	2	2	1	-	1	1	-	-	-	1	2	
ヨシ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
イチゴツナギ亜科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
不明ヒゲシバ型	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
不明ダンチク型	3	-	1	-	1	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	
イネ科葉身機動細胞珪酸体																		
タケ亜科	9	2	-	1	1	-	8	4	1	1	3	3	2	1	6	5	2	
不明	1	1	1	-	2	-	3	3	-	1	-	-	1	1	-	1	1	
合 計																		
イネ科葉部短細胞珪酸体	11	1	1	0	3	2	3	3	1	1	2	1	0	0	0	2	2	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	10	3	1	1	3	0	11	7	1	2	3	3	3	2	6	6	3	
総 計	21	4	2	1	6	2	14	10	2	3	5	4	3	2	6	8	5	

## c 花粉分析

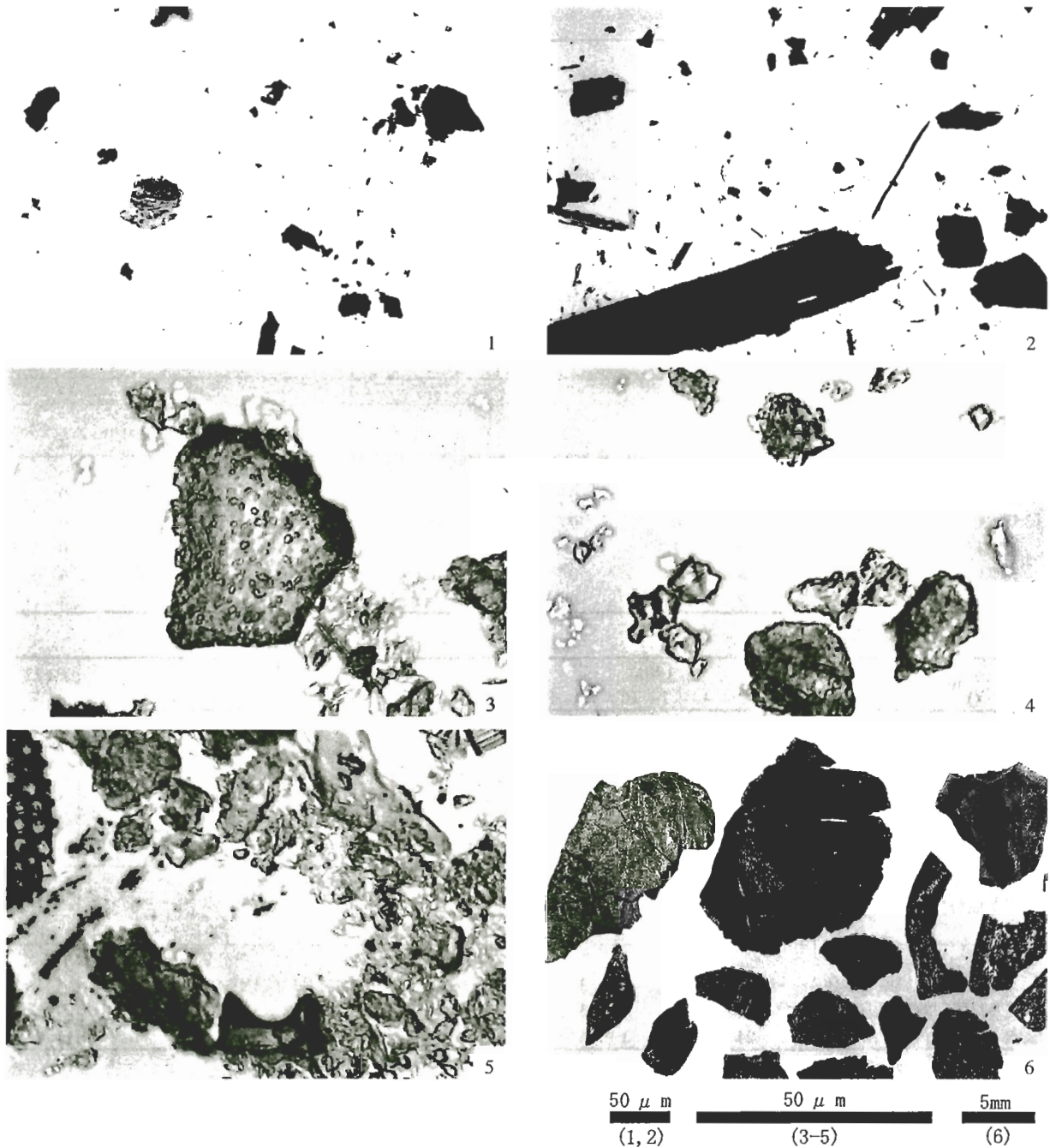
結果を表3に示す。いずれの試料においても検出される花粉化石数は少なく、定量分析を行うだけの個体数は得られなかった。また、わずかに検出された花粉化石の保存状態は悪く、そのほとんどが、花粉外膜が壊れている状態で産出していた。プレパラート内の状況写真を図版2に示す。

## d 植物珪酸体分析

結果を表4に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、いずれの試料もタケ亜科をはじめ、ヨシ属やイチゴツナギ亜科がわずかに認められるにすぎない。また、検出された植物珪酸体には表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる（図版2）。

## e 微細遺物分析

炭化したオニグルミの破片、微細な炭化材、種類、部位ともに不明な炭化物片が微量検出されたの



- 1.花粉分析プレパラート内の状況写真 (1 地点; 13)
- 2.花粉分析プレパラート内の状況写真 (2 地点; 2)
- 3.タケ亜科機動細胞珪酸体 (2 地点; 10)
- 4.植物珪酸体分析プレパラート内の状況写真 (F-622; 覆土)
- 5.植物珪酸体分析プレパラート内の状況写真 (1 地点; 13)
- 6.オニグルミ (F-622; 覆土)

図版 2 花粉・植物珪酸体分析プレパラート内の状況写真および種実遺体

みである。オニグルミの破片は数 mm 以下と小さく、木質で堅い。表面にみられるしわ状模様や、内側の複雑な窪みによってかろうじてオニグルミと判別できる程度である (図版 2)。

## (4) 考察

## a 堆積環境

平成12年度の調査報告書（西田ほか2001）によれば、遺跡の土層は水平に堆積するⅠ・Ⅱ層と、西方向に向けて傾斜するⅢ層があり、これらの層界は不整合面となっている。今回の調査地点に当てはめると、1地点がⅠ・Ⅱ層の、2地点がⅢ層の試料を採取し分析対象としていることになる。

珪藻化石群集をみると、1地点と2地点では群集組成が異なり、堆積環境の違いを反映しているものとみられる。

2地点では、Ⅲ層が分布する。平成12年度の調査報告書（西田ほか2001）や今回の断面図をみると、石狩川の流路方向（西側）に向かってトラフ構造を示すが、このような構造は河川敷内の洪水堆積物にはよくみられる構造である（鈴木2001）。このことから、2地点で分析を行った堆積層は石狩川の影響を強く受けている堆積物であるといえる。珪藻化石群集をみても、ほとんどの試料で中~下流性河川指標種群を含む流水性種が多産することで特徴付けられている。このことから、流水域で堆積した河川堆積物と考えられるが、これは堆積構造からみても調和的な結果である。

一方、1地点はⅠ・Ⅱ層にあたる部分の分析を行っている。細粒の堆積物が平行に堆積し、遺構・遺物など生活の痕跡が認められるようになる。河川で小規模な氾濫が起これば、流路の中心ではトラフ構造を示す斜交葉理が発達するが、奥に向かって薄く細粒となり、さらに奥では植生が破壊されないほどの薄い泥層へと変化する（鈴木1994）。このことから、遺跡周辺では流路変更などに伴って河川の中心部から外れ、本流（石狩川）の影響を受けにくくなったため微高地化し、地表面が安定したと思われる。このように洪水によって冠水する期間が短くなると、地表面が好气的状況下になる。1地点の分析結果をみると、珪藻化石が極めて少なく、また産出種の多くは壊れたり溶解している。この傾向は花粉化石や植物珪酸体でも同様である。好气的状況下では、花粉化石は風化し分解されやすいといわれている（中村、1967など）。また、植物珪酸体などの珪酸分は、土壌化の比較的早い段階で、粘土化のサイクルに組み入れられるなどして消失する可能性が指摘されている（近藤1988）。これらのことから、当時の環境を示す微化石は、土壌化等の作用によって大部分が失われたものと考えられる。なお、微量産出する珪藻化石の中には、流水環境を指標する中~下流性河川指標種群が産出することから、縄文時代晩期の遺構・遺物が認められるⅠ・Ⅱ層になっても、洪水の影響を受けていたと考えられる。しかし冠水後の乾燥化等により、微化石の保存が悪くなったと考えられる。

なお、花粉化石や植物珪酸体は2地点においても保存状態が悪い。堆積する際に花粉や植物珪酸体の量が少なかったり、好气的状況下に置かれたときの影響が下位の層にも及んだ可能性などが推測されるが、はっきりしたことは不明である。

## b 古植生変遷

今回の結果をみると、花粉分析・植物珪酸体分析双方ともに化石の保存が悪いため、当時の古植生に関する情報を得ることは難しかった。現在の石狩川氾濫源にみられる植生調査の結果によれば、下流部にはミゾソバ、ガマ、セリ、ヨシ、マコモなどの草本類や、エゾノカワヤナギ林、タチヤナギ林、ハンノキ林などが分布している（菊池2001）。また、宮脇（1988）によると、現在の石狩川流域で残存する植物群落は、ヤナギ、ハンノキ、ヤチダモ、ハルニレなどを中心とする河畔林や湿地林とされる。おそらくⅢ層が堆積する河川堆積の中心にあったところは、植生が貧弱であったと思われるが、生活の痕跡が認められるⅠ・Ⅱ層堆積時になると、付近には上記のような河畔林や草地が作られるようになったと思われる。

c 焼土の年代と燃料材

焼土から出土した炭化物の年代測定結果をみると、ほぼ 2500 年前前後に値が収束しており、縄文時代晩期に焼土遺構が作られたと考えられるが、発掘所見とも矛盾しない結果である。また、平成 12 年度の調査成果において行われた、当時の生活面から検出された炭化物の年代測定結果でもほぼ同様な値が得られており（西田ほか 2001）、調和的である。

焼土の微細物同定を行った結果、少量の炭化材とともにオニグルミの破片が検出された。オニグルミは、生食可能で保存が利き、収量も比較的多いことから、古くから植物質食糧として利用されてきた種類である。おそらく、利用後の残渣を燃料材の一部として利用したと考えられる。オニグルミは、氾濫の影響を受けるような河畔にも生育可能であることから、本遺跡の立地からすれば、比較的得やすい種類であったといえる。また、植物珪酸体分析も合わせて実施したが、若干の植物珪酸体が見られた程度で、燃料材として利用された可能性が高い珪化組織片（組織内に植物珪酸体が配列するもの）が全く認められなかったため、燃料材として利用されたイネ科草本類の種類を明らかにすることは困難であった。

引用文献

- 安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用.東北地理, 42, p.73-88.
- Asai, K. and Watanabe, T.(1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophylic and saproxenous taxa. Diatom, 10, p.35-47.
- 伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.珪藻学会誌, 6, p.23-45.
- 菊池多賀夫（2001）地形植生誌. 220p.,東京大学出版会.
- 小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用.第四紀研究, 27, p.1-20.
- 近藤練三（1988）植物珪酸体（Opal Phytolith）からみた土壌と年代.ペドロジスト, 32, p.189-202.
- 近藤練三・佐瀬 隆（1986）植物珪酸体分析,その特性と応用.第四紀研究, 25, p.31-64.
- Krammer, K.(1992) PINNULARIA, eine Monographie der europaischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA, BAND 26, p.1-353., BERLIN・STUTTGART.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.(1986) Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.(1988) Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.(1991a) Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.(1991b) Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae, Kritsche Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2/4 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.
- 宮脇昭編著（1988）日本植生史 北海道. 563p.,至文堂.
- 中村 純（1967）花粉分析. 232p.,古今書院.
- 西田 茂・三浦正人・鈴木 信・吉田裕吏洋・酒井秀治（2001）北海道埋蔵文化財センター調査報告第 160 集 江別市対雁 2 遺跡（2）一石狩川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書一.財団法人北海道埋蔵文化財センター
- パリオ・サーヴェイ株式会社（1993）自然科学分析からみた人々の生活（1）.慶應義塾藤沢校埋蔵文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡 第 1 巻 総論」, p.347-370,慶應義塾.
- 鈴木一久（1994）1993 年 9 月 9 日野洲川洪水氾濫堆積物の 3 次元形態と堆積構造：1 回の洪水氾濫で形成された複数の逆級化構造ユニット.地質学雑誌, 100, p.867-875.
- 鈴木一久（2001）洪水氾濫の堆積学.地団研専報, 48, 69p.,地学団体研究会.

## 引用文献

- 上屋 真一  
1990 「柏木川 11 遺跡における浮遊選別法（フローテーション）による微細遺物採取方法について」 恵庭市教育委員会編『柏木川 11 遺跡』 同委員会 95~99 頁
- 江別市教育委員会  
編 1979 『江別太遺跡』 同市文化財調査報告書 IX 同委員会  
編 1999 『大麻 3 遺跡（7）』 同市文化財調査報告書 92 同委員会
- 大沼 忠春  
1982 「道央地方の土器」 加藤晋平・小林達雄・藤本 強編『縄文文化の研究』 第 6 巻 続縄文・南島文化 雄山閣出版 75~93 頁
- 大矢 義明  
編 2000 『札幌 N 遺跡』 農地改良に伴う発掘調査報告書 幕別町教育委員会
- 小山 正忠・竹原 秀雄  
編 1967 『新版標準土色帖』 日本色研事業
- 財団法人北海道埋蔵文化財センター  
編 1983 『ママチ遺跡』 北埋調報 9 同センター  
編 1986 『美沢川流域の遺跡群 IX』 北埋調報 24 同センター  
編 1987 『千歳市ママチ遺跡 III』 北埋調報 36 同センター  
編 1990 『余市町栄町 5 遺跡』 北埋調報 66 同センター  
編 1991 『美沢川流域の遺跡群 XIV』 北埋調報 69 同センター  
編 1992 『美沢川流域の遺跡群 XV』 北埋調報 77 同センター  
編 1997 『キウス 5 遺跡（3）』 北埋調報 115 同センター  
編 1998 『キウス 5 遺跡（5）』 北埋調報 125 同センター  
編 2000 『江別市対雁 2 遺跡（1）』 北埋調報 147 同センター  
編 2001 『江別市対雁 2 遺跡（2）』 北埋調報 160 同センター  
編 2002 『江別市対雁 2 遺跡（3）』 北埋調報 177 同センター
- 札幌市埋蔵文化財センター  
編 1995 『H317 遺跡』 同市文化財調査報告書 46 同市教育委員会  
編 1996 『H37 遺跡 丘珠空港内』 同市文化財調査報告書 50 同市教育委員会  
編 1998 『H37 遺跡 栄町地点』 同市文化財調査報告書 57 同市教育委員会  
編 1999 『K499・K500・K501・K502・K503 遺跡』 同市文化財調査報告書 61 同市教育委員会
- 佐原 真  
1967 「山城における弥生式文化の成立—畿内第 I 様式の細別と雲ノ宮遺跡出土土器の占める位置—」 『史林』 第 50 巻第 5 号 733~757 頁
- 曾谷 龍典・佐藤 博之  
1980 『千歳地域の地質』 地質調査所
- 大丸 裕武  
1989 「完新世における豊平川扇状地と下流氾濫原の形成過程」 『地理学評論』 第 62 巻第 8 号 589~603 頁
- 高橋 護  
1993 「器壁中の接合痕跡について」 坪井清足さんの古稀を祝う会編『論苑考古学』 天山舎 415~436 頁
- 千歳市教育委員会  
編 1990 『イヨマイ 6 遺跡における考古学的調査（2）』 同市文化財調査報告書 XIV 同委員会



引用文献

- 千葉 豊・大下 明  
編 1990 『小森岡遺跡』竹野町文化財調査報告書第8集 同町教育委員会
- 椿坂 恭代  
1989a 「フローテーションの方法」『PROJECT SEEDS NEWS』No.1 6~7頁（『PROJECT SEEDS NEWS』No.2の16頁に訂正・追加あり）  
1989b 「浮遊選別装置の紹介」『PROJECT SEEDS NEWS』No.2 14頁
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター  
編 1987 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群II』 同センター  
編 1997 『柏原5遺跡』 同センター  
編 1998 『美沢東遺跡群』 同センター
- 花岡 正光・長沼 孝  
1990 「栄町5遺跡出土土器の胎土分析」財団道埋文編1990の170~173頁
- 伏島祐一郎・平川 一臣  
1996 「北海道大学構内で観察された液状化跡—先史地震と液状化構造形成過程の解説—」『活断層研究』14 9~18頁
- 北海道開発局石狩川開発建設部  
編 1979a 『石狩川治水地形分類図（6-2）千歳川治水地形分類図（4-1）』 同部  
編 1979b 『豊平川治水地形分類図（2-1）』 同部
- 北海道教育委員会  
編 1977 『美沢川流域の遺跡群I』 同委員会  
編 1978 『美沢川流域の遺跡群II』 同委員会
- 山内 清男  
1979 『日本先史土器の縄紋』 先史考古学会
- 山田 悟郎  
1995 「H317遺跡の古植生について」札幌市埋蔵文化財センター編1995 254~264頁  
1998 「H37遺跡栄町地点の古環境について」札幌市埋蔵文化財センター編1998 116~127頁
- 由仁町教育委員会  
編 1996 『川端遺跡・川端2遺跡』 同委員会

財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書第 193 集

江別市 <sup>ついでしかり</sup> 対雁 2 遺跡 (4)

—石狩川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行年月日 平成 15 年 3 月 28 日

編集・発行 財団法人北海道埋蔵文化財センター

〒069-0832 江別市西野幌 685 番地 1

電話 (011) 386-3231

FAX (011) 386-3238

E-mail mail@domaibun.or.jp

印刷 山藤印刷株式会社

〒063-0051 札幌市西区宮の沢 1 条 4 丁目 16 番 1 号

電話 (011) 661-7161

FAX (011) 661-7173

E-mail mail@sando-sapporo.co.jp